

茨城県教育財団文化財調査報告第468集

つくば市

島名本田遺跡 2

島名・福田坪一体型特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書XXVIII

令和5年3月

茨城県
公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第468集

つくば市

しまなほんでん
島名本田遺跡 2

島名・福田坪一体型特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書XXVIII

令和5年3月

茨城県
公益財団法人茨城県教育財団

序

公益財団法人茨城県教育財団は、国や県などの各事業者から委託を受けて埋蔵文化財の調査と整理業務を実施することを主な目的として、昭和52年に調査課が設置されて以来、数多くの遺跡の調査を実施し、その成果として調査報告書を刊行してきました。

この度、茨城県による島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業に伴って実施した、つくば市島名本田遺跡の調査報告書を刊行する運びとなりました。

今回の調査によって、中・近世の溝や段切状遺構によって区画された屋敷地などを確認し、中・近世の集落の一端が明らかになりました。これらは、当時の集落社会構造を知る上で、欠くことのできない貴重な資料になります。

本書は、これらの調査の成果をまとめたものです。本書が、郷土の歴史に対する理解を深め、教育・文化の向上の一助として、かつ学術的な研究資料として、御活用いただければ幸いです。

最後になりますが、調査から本書の刊行に至るまで、多大な御協力を賜りました委託者であります茨城県に対し、厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、つくば市教育委員会をはじめ、御指導、御協力をいただきました関係各位に対し、心から感謝申し上げます。

令和5年3月

公益財団法人茨城県教育財団
理事長 小泉元伸

例 言

1 本書は、茨城県の委託により、公益財団法人茨城県教育財団が平成28・30・31（令和元）年度に調査を実施した、茨城県つくば市島名字薬師台1726-2ほかに所在する島名本田遺跡の調査報告書である。

2 調査期間及び整理期間は以下のとおりである。

調査 平成28年6月1日～平成29年3月31日

平成30年4月1日～平成31年3月31日

平成31年4月1日～令和元年11月30日

整理 令和3年12月1日～令和4年7月31日

3 調査は、副参事兼調査課長白田正子のもと、以下の者が担当した。

平成28年度

首席調査員兼班長 奥沢 哲也

次席調査員 長洲 正博

次席調査員 埜 厚宜

調査員 近江屋成陽

調査員 大久保芳紀

平成30年度

首席調査員兼班長 駒沢 悦郎

次席調査員 江原美奈子 平成30年4月1日～7月31日、平成31年2月1日～2月28日

次席調査員 大武 宣隆 平成30年8月1日～平成31年3月31日

調査員 萩原 宏季

調査員 根本 佑 平成30年10月1日～平成31年3月31日

調査員 笠原 佳真 平成30年4月1日～7月31日

調査員 見越 広幸 平成31年3月1日～3月31日

平成31・令和元年度

首席調査員兼班長 櫻井 完介

次席調査員 野内智一郎

調査員 倉橋 裕真 平成31年4月1日～令和元年7月31日

調査員 近藤 洋 令和元年8月1日～11月30日

4 整理及び本書の執筆・編集は、令和3年度が整理課長小林和彦、令和4年度が整理課長本橋弘巳のもと、以下の者が担当した。

次席調査員 江原美奈子 令和3年12月1日～令和4年3月31日

嘱託調査員 吹野富美夫

5 本書の執筆は、江原が第1章～第3章第3節を、吹野が第3章第3節・第4節を担当した。

6 本書の作成にあたり、中・近世の土師質土器及び陶磁器類について、つくば市教育局文化財活用係広瀬季一郎氏に御指導いただいた。また、木製品の保存処理については株式会社吉田生物研究所に委託した。

7 本遺跡の出土遺物及び実測図・写真等は、茨城県埋蔵文化財センターで保管している。

凡 例

1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第Ⅸ系座標に準拠し、X = + 7,160 m、Y = + 20,080 mの交点を基準点 (A 1 a1) とした。なお、この原点は、日本測地系による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々 40 m 四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に 10 等分し、4 m 四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へ A、B、C…、西から東へ 1、2、3…とし、「A 1 区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へ a、b、c…j、西から東へ 1、2、3、…0 と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1 a1 区」のように呼称した。

2 実測図・一覧表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構 HT - 方形竪穴遺構 P - ピット PG - ピット群 SA - 柱穴列 SB - 掘立柱建物跡 SD - 溝跡
SE - 井戸跡 SF - 道路跡 SI - 竪穴建物跡 SK - 土坑・土坑墓 UP - 地下式坑

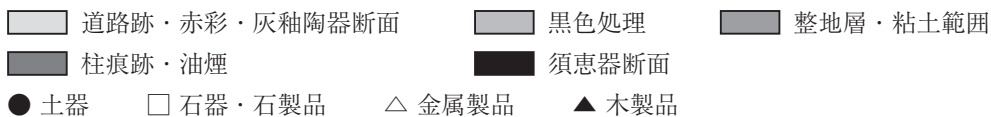
土層 K - 攪乱

3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は 400 分の 1、各遺構の実測図は原則として 60 分の 1 の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(2) 遺物実測図は、原則として 3 分の 1 の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

 道路跡・赤彩・灰釉陶器断面 黒色処理 整地層・粘土範囲
柱痕跡・油煙 須恵器断面
● 土器 □ 石器・石製品 △ 金属製品 ▲ 木製品

4 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用した。また、土層解説中の含有物については、総量を記述した。

5 遺構・出土遺物一覧の表記は、次のとおりである。

(1) 計測値の単位は m、cm、g で示した。なお、現存値は () を、推定値は [] を付して示した。

(2) 遺物番号は遺構ごとの通し番号とし、本文、挿図、一覧表、写真図版に記した番号と同一とした。

(3) 遺物一覧の備考欄は、残存率、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

6 竪穴建物跡の「主軸」は、炉・竈を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸（径）方向と共に、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例 N - 10° - E）。

7 遺物の取り上げについては、遺構を北を基準に、時計回りに 1～4 区に分割し、任意層位 x (= 10 cm) ごとに取り上げた。よって遺物の一覧表の出土位置は、これを表記した。

8 各遺構の遺物出土状況の中で、甕や壺と分類できない破片の器種については、甕類とした。

9 破片資料の掲載については、断面の左側に外面、右側に内面を配置した。

10 整理段階で、遺構名を変更したもの及び欠番にしたものは、以下のとおりである。

平成28年度

変更 SX10 → 第2号段切状遺構、SD51 → SD121、SK665・666 → SD144、SK663 → SE222、SK572 → SE223、
UP8 → SK2930・2931、SK655 → PG10P16、SB18P1 → PG13P65、SB18P2 → PG13P66、SB18P3 → PG13P67、
SB18P4 → PG13P68、SB19P1 → PG13P69、SB19P2 → PG13P70、SB19P3 → PG13P71、SB19P4 → PG13P72、
SK567 → PG13P73、SK568 → PG13P74、SK596 → PG13P75、SK601 → PG13P76、SK611 → PG13P77、SK649 → PG13P82、
SK650 → PG13P83、SK657 → PG13P84、SK537 → PG77P1、SK546 → PG77P2、SK547 → PG77P3、SK550 → PG77P4、
SK549 → PG77P5、SK540 → PG78P1、SK539 → PG78P2、SK541 → PG78P3、SK542 → PG78P4、SK538 → PG78P5
欠番 SD138、SK533・610・634・658・667

平成30年度

変更 SB28 → SB41・42、SK1190 → SD133、SK1195 → SD150、PG27P31 → HT6P2、SK1117 → HT7、SK1146・1166 → HT8、
SK1116 → SE93、SK1181 → SE116、SK1111 → SE219、SK1211 → SE220、SK1212 → SE221、SK1123 → 第2号土坑墓
欠番 SD122P42、SK1127、PG27P34、PG28P22・206

平成31年度

変更 SX8 → SK2927、SX9 → SK2928、SX10 → SK2929

目 次

序	
例 言	
凡 例	
目 次	
第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査経過	1
第2章 位置と環境	3
第1節 位置と地形	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 調査の成果	7
第1節 調査の概要	7
第2節 基本層序	7
第3節 遺構と遺物	27
1 古墳時代の遺構と遺物	27
(1) 土 坑	27
(2) 遺構外出土遺物	28
2 奈良・平安時代の遺構と遺物	28
(1) 竪穴建物跡	28
(2) 井戸跡	32
(3) 土 坑	33
(4) 遺構外出土遺物	34
3 中・近世の遺構と遺物	39
(1) 第1号区画とその周辺の遺構と遺物	39
ア 段切状遺構	39
イ 溝跡	42
ウ 掘立柱建物跡	55
エ 方形竪穴遺構	60
オ 井戸跡	61
カ 土坑	72
キ 柱穴列	92
ク ピット群	93
(2) 第2号区画（北）とその周辺の遺構と遺物	99
ア 溝跡	99
イ 掘立柱建物跡	114
ウ 方形竪穴遺構	119
エ 井戸跡	120
オ 土坑	132
カ 柱穴列	136
キ ピット群	139
(3) 第2号区画（南）とその周辺の遺構と遺物	142
ア 溝跡	142
イ 掘立柱建物跡	150
ウ 井戸跡	152

エ	土坑	156
オ	柱穴列	161
カ	ピット群	164
(4)	第3号区画とその周辺の遺構と遺物	168
ア	溝跡	168
イ	掘立柱建物跡	170
ウ	方形竪穴遺構	174
エ	井戸跡	175
オ	土坑墓	179
カ	土坑	179
キ	柱穴列	186
ク	ピット群	190
(5)	第1・3号区画西側の遺構と遺物	194
ア	方形竪穴遺構	194
イ	井戸跡	194
ウ	地下式坑	194
エ	土坑	198
オ	ピット群	199
(6)	第1号区画北側の遺構と遺物	201
ア	溝跡	201
イ	井戸跡	202
ウ	土坑	202
エ	柱穴列	204
オ	ピット群	205
(7)	第2・3号区画南側の遺構と遺物	206
ア	溝跡、道路跡	206
イ	方形竪穴遺構	209
ウ	土坑	210
エ	ピット群	211
(8)	遺構外出土遺物	212
4	その他の遺構外出土遺物	215
第4節	総括	217
写真図版		PL 1～PL44
抄録		
付図		

挿 図 目 次

第 1 図	鳥名本田遺跡調査区割図	2	第 59 図	第 95 号井戸跡・出土遺物実測図	64
第 2 図	鳥名本田遺跡周辺遺跡分布図 (国土地理院 25,000 分の 1「谷田部」)	4	第 60 図	第 97 号井戸跡・出土遺物実測図	65
第 3 図	鳥名本田遺跡調査区設定図 (つくば市都市計画図 2,500 分の 1 から作成)	6	第 61 図	第 104 号井戸跡・出土遺物実測図	67
第 4 図	基本土層図 (遺構全体図参照)	7	第 62 図	第 116 号井戸跡・出土遺物実測図	68
第 5 図	鳥名本田遺跡遺構平面区割図	8	第 63 図	第 222 号井戸跡・出土遺物実測図	70
第 6 図	鳥名本田遺跡遺構平面図(1)	9	第 64 図	第 98・101・220・221 号井戸跡・出土遺物実測図	71
第 7 図	鳥名本田遺跡遺構平面図(2)	10	第 65 図	第 18・223 号井戸跡実測図	72
第 8 図	鳥名本田遺跡遺構平面図(3)	11	第 66 図	第 594 号土坑・出土遺物実測図	73
第 9 図	鳥名本田遺跡遺構平面図(4)	12	第 67 図	第 604 号土坑・出土遺物実測図	74
第 10 図	鳥名本田遺跡遺構平面図(5)	13	第 68 図	第 629 号土坑・出土遺物実測図	75
第 11 図	鳥名本田遺跡遺構平面図(6)	14	第 69 図	第 632 号土坑・出土遺物実測図	76
第 12 図	鳥名本田遺跡遺構平面図(7)	15	第 70 図	第 646 号土坑・出土遺物実測図	76
第 13 図	鳥名本田遺跡遺構平面図(8)	16	第 71 図	第 664 号土坑・出土遺物実測図	77
第 14 図	鳥名本田遺跡遺構平面図(9)	17	第 72 図	第 1385 号土坑実測図	78
第 15 図	鳥名本田遺跡遺構平面図(10)	18	第 73 図	第 1385 号土坑出土遺物実測図	79
第 16 図	鳥名本田遺跡遺構平面図(11)	19	第 74 図	第 1 号区画とその周辺の土坑実測図(1)	80
第 17 図	鳥名本田遺跡遺構平面図(12)	20	第 75 図	第 1 号区画とその周辺の土坑実測図(2)	81
第 18 図	鳥名本田遺跡遺構平面図(13)	21	第 76 図	第 1 号区画とその周辺の土坑実測図(3)	82
第 19 図	鳥名本田遺跡遺構平面図(14)	22	第 77 図	第 1 号区画とその周辺の土坑実測図(4)	83
第 20 図	鳥名本田遺跡遺構平面図(15)	23	第 78 図	第 1 号区画とその周辺の土坑実測図(5)	84
第 21 図	鳥名本田遺跡遺構平面図(16)	24	第 79 図	第 1 号区画とその周辺の土坑実測図(6)	85
第 22 図	鳥名本田遺跡遺構平面図(17)	25	第 80 図	第 1 号区画とその周辺の土坑実測図(7)	86
第 23 図	鳥名本田遺跡遺構平面図(18)	26	第 81 図	第 1 号区画とその周辺の土坑実測図(8)	87
第 24 図	第 551 号土坑・出土遺物実測図	27	第 82 図	第 1 号区画とその周辺の土坑実測図(9)	88
第 25 図	遺構外出土遺物実測図	28	第 83 図	第 1 号区画とその周辺の土坑出土遺物実測図	89
第 26 図	第 109 号竪穴建物跡実測図	28	第 84 図	第 30 号柱穴列実測図	92
第 27 図	第 109 号竪穴建物跡出土遺物実測図	29	第 85 図	第 30 号ピット群実測図	94
第 28 図	第 111 号竪穴建物跡、第 1184・1185・1200・1204・1209・ 1210・1222 号土坑実測図	30	第 86 図	第 31 号ピット群・出土遺物実測図	95
第 29 図	第 111 号竪穴建物跡、第 1184・1185 号土坑出土遺物実測図	31	第 87 図	第 33 号ピット群実測図	96
第 30 図	第 11 号井戸跡・出土遺物実測図	32	第 88 図	第 2 号区画 (北) とその周辺の遺構全体図(1)	97
第 31 図	第 102 号井戸跡・出土遺物実測図	33	第 89 図	第 2 号区画 (北) とその周辺の遺構全体図(2)	98
第 32 図	第 1154・1198 号土坑・出土遺物実測図	34	第 90 図	第 113 号溝跡遺物出土状況実測図	100
第 33 図	遺構外出土遺物実測図(1)	34	第 91 図	第 113・139・150 号溝跡実測図	101
第 34 図	遺構外出土遺物実測図(2)	35	第 92 図	第 113 号溝跡出土遺物実測図(1)	101
第 35 図	鳥名本田遺跡第 1～3 号区画区割図	36	第 93 図	第 113 号溝跡出土遺物実測図(2)	102
第 36 図	鳥名本田遺跡第 1 号区画全体図	37	第 94 図	第 113 号溝跡出土遺物実測図(3)	103
第 37 図	第 2 号段切状遺構実測図	40	第 95 図	第 113 号溝跡出土遺物実測図(4)	104
第 38 図	第 2 号段切状遺構・出土遺物実測図	41	第 96 図	第 118 号溝跡遺物出土状況・出土遺物実測図	106
第 39 図	第 52 号溝跡西部実測図	43	第 97 図	第 139・140・165 号溝跡実測図	107
第 40 図	第 52 号溝跡・出土遺物実測図	44	第 98 図	第 139 号溝跡出土遺物実測図	108
第 41 図	第 52 号溝跡出土遺物実測図(1)	45	第 99 図	第 112・114・115・117・120 号溝跡実測図	109
第 42 図	第 52 号溝跡出土遺物実測図(2)	46	第 100 図	第 120・140・150・165・235・268・271・283・284 号 溝跡実測図	110
第 43 図	第 52 号溝跡出土遺物実測図(3)	47	第 101 図	第 112・120・140 号溝跡出土遺物実測図	111
第 44 図	第 56 号溝跡南部西区実測図	49	第 102 図	第 140・165・235・283 号溝跡出土遺物実測図	112
第 45 図	第 55・56・124・141・146 号溝跡実測図	50	第 103 図	第 28 号掘立柱建物跡実測図(1)	114
第 46 図	第 56 号溝跡出土遺物実測図(1)	50	第 104 図	第 28 号掘立柱建物跡実測図(2)	115
第 47 図	第 56 号溝跡出土遺物実測図(2)	51	第 105 図	第 28 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図	116
第 48 図	第 1 号区画とその周辺の溝跡実測図(1)	52	第 106 図	第 29 号掘立柱建物跡実測図	116
第 49 図	第 1 号区画とその周辺の溝跡実測図(2)	53	第 107 図	第 29 号掘立柱建物跡実測図	117
第 50 図	第 1 号区画とその周辺の溝跡・出土遺物実測図	54	第 108 図	第 30 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図	118
第 51 図	第 41 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図	56	第 109 図	第 7 号方形竪穴遺構、第 93 号井戸跡・出土遺物実測図	119
第 52 図	第 42 号掘立柱建物跡実測図(1)	57	第 110 図	第 84 号井戸跡実測図	120
第 53 図	第 42 号掘立柱建物跡実測図(2)	58	第 111 図	第 84 号井戸跡出土遺物実測図	121
第 54 図	第 43 号掘立柱建物跡実測図	59	第 112 図	第 85 号井戸跡・出土遺物実測図	121
第 55 図	第 8 号方形竪穴遺構実測図	60	第 113 図	第 85 号井戸跡出土遺物実測図	122
第 56 図	第 9 号方形竪穴遺構、第 1180・1182 号土坑実測図	61	第 114 図	第 96 号井戸跡、第 1206 号土坑実測図	123
第 57 図	第 15 号井戸跡・出土遺物実測図	62	第 115 図	第 96 号井戸跡出土遺物実測図(1)	124
第 58 図	第 16 号井戸跡・出土遺物実測図	63	第 116 図	第 96 号井戸跡出土遺物実測図(2)	125
			第 117 図	第 99 号井戸跡・出土遺物実測図	127
			第 118 図	第 109 号井戸跡・出土遺物実測図	128

第119図	第109号井戸跡出土遺物実測図	129	第166図	第13号井戸跡出土遺物実測図	176
第120図	第2号区画(北)とその周辺の井戸跡・出土遺物実測図(1)	130	第167図	第10・12・17号井戸跡実測図	176
第121図	第2号区画(北)とその周辺の井戸跡・出土遺物実測図(2)	131	第168図	第19号井戸跡実測図	177
第122図	第1286号土坑実測図	132	第169図	第87号井戸跡、第1138号土坑・出土遺物実測図	177
第123図	第1286号土坑出土遺物実測図	133	第170図	第87号井戸跡出土遺物実測図	178
第124図	第2号区画(北)とその周辺の土坑実測図(1)	133	第171図	第218号井戸跡、第1147号土坑実測図	179
第125図	第2号区画(北)とその周辺の土坑実測図(2)	134	第172図	第2号土坑墓実測図	179
第126図	第2号区画(北)とその周辺の土坑・出土遺物実測図	135	第173図	第3号区画とその周辺の土坑実測図(1)	180
第127図	第6号柱穴列(杭列)・出土遺物実測図	136	第174図	第3号区画とその周辺の土坑実測図(2)	181
第128図	第29号柱穴列実測図	138	第175図	第3号区画とその周辺の土坑実測図(3)	182
第129図	第26号ピット群実測図	139	第176図	第3号区画とその周辺の土坑実測図(4)	183
第130図	第2号区画(南)とその周辺の遺構全体図	141	第177図	第3号区画とその周辺の土坑実測図(5)	184
第131図	第122号溝跡実測図(1)	142	第178図	第5号柱穴列・出土遺物実測図	186
第132図	第122号溝跡実測図(2)	143	第179図	第5・26号柱穴列実測図	187
第133図	第122号溝跡・出土遺物実測図	144	第180図	第26号柱穴列実測図	188
第134図	第122号溝跡出土遺物実測図	145	第181図	第27号柱穴列実測図	188
第135図	第123号溝跡実測図	147	第182図	第27号柱穴列・出土遺物実測図	189
第136図	第123号溝跡・出土遺物実測図	148	第183図	第27号ピット群実測図	191
第137図	第123号溝跡出土遺物実測図	149	第184図	第27号ピット群・出土遺物実測図	192
第138図	第130・133号溝跡実測図	150	第185図	第1号方形竪穴遺構実測図	194
第139図	第44号掘立柱建物跡実測図	151	第186図	第14号井戸跡実測図	194
第140図	第44号掘立柱建物跡・出土遺物実測図	152	第187図	第3号地下式坑・出土遺物実測図	195
第141図	第86号井戸跡実測図	152	第188図	第4号地下式坑実測図	196
第142図	第86号井戸跡出土遺物実測図	153	第189図	第5号地下式坑実測図	196
第143図	第89号井戸跡、第1120号土坑実測図	153	第190図	第6号地下式坑・出土遺物実測図	197
第144図	第89号井戸跡、第1120号土坑・出土遺物実測図	154	第191図	第7号地下式坑実測図	198
第145図	第91号井戸跡・出土遺物実測図	155	第192図	第488号土坑・出土遺物実測図	198
第146図	第90・92号井戸跡・出土遺物実測図	155	第193図	第1・3号区画西側の土坑実測図	199
第147図	第1150号土坑・出土遺物実測図	156	第194図	第1号区画北側の遺構実測図	200
第148図	第1161号土坑・出土遺物実測図	157	第195図	第121・279～282号溝跡実測図	201
第149図	第1143・1193・1216・1217号土坑・出土遺物実測図	158	第196図	第121号溝跡出土遺物実測図	201
第150図	第2号区画(南)の土坑実測図	159	第197図	第207号井戸跡実測図	202
第151図	第2号区画(南)の土坑・出土遺物実測図	160	第198図	第1号区画北側の土坑実測図	202
第152図	第28号柱穴列実測図(1)	162	第199図	第1号区画北側の土坑・出土遺物実測図	203
第153図	第28号柱穴列実測図(2)	163	第200図	第15号柱穴列実測図	204
第154図	第28号ピット群実測図	164	第201図	第16・17号柱穴列実測図	205
第155図	第28号ピット群・出土遺物実測図	165	第202図	第60・61号ピット群実測図	205
第156図	第3号区画とその周辺の遺構全体図	167	第203図	第244号溝跡、第11～13号道路跡実測図	207
第157図	第3号区画とその周辺の溝跡実測図	168	第204図	第244号溝跡、第11～13号道路跡出土遺物実測図	208
第158図	第3号区画とその周辺の溝跡・出土遺物実測図	169	第205図	第14号方形竪穴遺構実測図	210
第159図	第45号掘立柱建物跡実測図	171	第206図	第2・3号区画南側の土坑実測図	210
第160図	第46号掘立柱建物跡実測図(1)	172	第207図	第51号ピット群実測図	211
第161図	第46号掘立柱建物跡実測図(2)	173	第208図	遺構外出土遺物実測図(1)	212
第162図	第47号掘立柱建物跡実測図(1)	173	第209図	遺構外出土遺物実測図(2)	213
第163図	第47号掘立柱建物跡実測図(2)	174	第210図	その他の遺構外出土遺物実測図(1)	215
第164図	第6号方形竪穴遺構、第88号井戸跡・出土遺物実測図	175	第211図	その他の遺構外出土遺物実測図(2)	216
第165図	第13号井戸跡実測図	175	第212図	土師質土器の変遷図	220
			第213図	中世の鳥名本田遺跡変遷図(1)	221
			第214図	中世の鳥名本田遺跡変遷図(2)	222

挿表目次

第1表	鳥名本田遺跡周辺遺跡一覧表	5	第12表	奈良時代土坑一覧	34
第2表	第551号土坑出土遺物一覧(第24図)	27	第13表	遺構外出土遺物一覧(第33・34図)	35
第3表	遺構外出土遺物一覧(第25図)	28	第14表	第2号段切状遺構出土遺物一覧(第38図)	42
第4表	第109号竪穴建物跡出土遺物一覧(第27図)	29	第15表	第52号溝跡出土遺物一覧(第40～43図)	48
第5表	第111号竪穴建物跡出土遺物一覧(第29図)	31	第16表	第56号溝跡出土遺物一覧(第46・47図)	52
第6表	第1184・1185号土坑出土遺物一覧(第29図)	31	第17表	第1号区画とその周辺の溝跡出土遺物一覧(第50図)	54
第7表	奈良・平安時代竪穴建物跡一覧	31	第18表	第1号区画とその周辺の溝跡一覧	55
第8表	第11号井戸跡出土遺物一覧(第30図)	32	第19表	第41号掘立柱建物跡出土遺物一覧(第51図)	55
第9表	第102号井戸跡出土遺物一覧(第31図)	33	第20表	第1号区画とその周辺の掘立柱建物跡一覧	60
第10表	奈良・平安時代井戸跡一覧	33	第21表	第1号区画とその周辺の方形竪穴遺構一覧	61
第11表	第1198号土坑出土遺物一覧(第32図)	34	第22表	第15号井戸跡出土遺物一覧(第57図)	62

第23表	第16号井戸跡出土遺物一覧(第58図)	64	第78表	第1120号土坑出土遺物一覧(第144図)	154
第24表	第95号井戸跡出土遺物一覧(第59図)	64	第79表	第91号井戸跡出土遺物一覧(第145図)	155
第25表	第97号井戸跡出土遺物一覧(第60図)	66	第80表	第90号井戸跡出土遺物一覧(第146図)	155
第26表	第104号井戸跡出土遺物一覧(第61図)	67	第81表	第2号区画(南)の井戸跡一覧	156
第27表	第116号井戸跡出土遺物一覧(第62図)	69	第82表	第1150号土坑出土遺物一覧(第147図)	157
第28表	第222号井戸跡出土遺物一覧(第63図)	70	第83表	第1161号土坑出土遺物一覧(第148図)	157
第29表	第98号井戸跡出土遺物一覧(第64図)	71	第84表	第1193・1217号土坑出土遺物一覧(第149図)	159
第30表	第1号区画とその周辺の井戸跡一覧	72	第85表	第2号区画(南)の土坑出土遺物一覧(第151図)	161
第31表	第594号土坑出土遺物一覧(第66図)	73	第86表	第2号区画(南)の土坑一覧	161
第32表	第604号土坑出土遺物一覧(第67図)	74	第87表	第122号溝ピット一覧	164
第33表	第629号土坑出土遺物一覧(第68図)	75	第88表	第28号ピット群出土遺物一覧(第155図)	165
第34表	第632号土坑出土遺物一覧(第69図)	76	第89表	第28号ピット群ピット一覧	166
第35表	第646号土坑出土遺物一覧(第70図)	77	第90表	第3号区画とその周辺の溝跡出土遺物一覧(第158図)	170
第36表	第664号土坑出土遺物一覧(第71図)	77	第91表	第3号区画とその周辺の溝跡一覧	170
第37表	第1385号土坑出土遺物一覧(第73図)	78	第92表	第3号区画の掘立柱建物跡一覧	174
第38表	第1号区画とその周辺の土坑出土遺物一覧(第83図)	89	第93表	第6号方形竪穴遺構出土遺物一覧(第164図)	175
第39表	第1号区画とその周辺の土坑一覧	89	第94表	第13号井戸跡出土遺物一覧(第166図)	176
第40表	第30号柱穴列ピット一覧	92	第95表	第87号井戸跡出土遺物一覧(第169・170図)	178
第41表	第10号ピット群ピット一覧	93	第96表	第3号区画とその周辺の井戸跡一覧	179
第42表	第13号ピット群ピット一覧	93	第97表	第3号区画とその周辺の土坑一覧	184
第43表	第29号ピット群ピット一覧	94	第98表	第5号柱穴列出土遺物一覧(第178図)	186
第44表	第30号ピット群ピット一覧	95	第99表	第5号柱穴列ピット一覧	186
第45表	第31号ピット群出土遺物一覧(第86図)	95	第100表	第26号柱穴列ピット一覧	188
第46表	第31号ピット群ピット一覧	96	第101表	第27号柱穴列出土遺物一覧(第182図)	189
第47表	第33号ピット群ピット一覧	96	第102表	第27号柱穴列ピット一覧	190
第48表	第1号区画のピット群一覧	96	第103表	第3号区画の柱穴列一覧	190
第49表	第113号溝跡出土遺物一覧(第92～95図)	104	第104表	第12号ピット群ピット一覧	190
第50表	第118号溝跡出土遺物一覧(第96図)	107	第105表	第77号ピット群ピット一覧	190
第51表	第139号溝跡出土遺物一覧(第98図)	109	第106表	第78号ピット群ピット一覧	190
第52表	第2号区画(北)とその周辺の溝跡出土遺物一覧(第101・102図)	113	第107表	第27号ピット群出土遺物一覧(第184図)	192
第53表	第2号区画(北)とその周辺の溝跡一覧	113	第108表	第27号ピット群ピット一覧	192
第54表	第28号掘立柱建物跡出土遺物一覧(第105図)	116	第109表	第3号区画のピット群一覧	193
第55表	第30号掘立柱建物跡出土遺物一覧(第108図)	119	第110表	第3号地下式坑出土遺物一覧(第187図)	195
第56表	第2号区画(北)の掘立柱建物跡一覧	119	第111表	第6号地下式坑出土遺物一覧(第190図)	197
第57表	第7号方形竪穴遺構出土遺物一覧(第109図)	120	第112表	第1・3号区画西側の地下式坑一覧	198
第58表	第84号井戸跡出土遺物一覧(第111図)	121	第113表	第488号土坑出土遺物一覧(第192図)	198
第59表	第85号井戸跡出土遺物一覧(第112・113図)	122	第114表	第1・3号区画西側の土坑一覧	199
第60表	第96号井戸跡出土遺物一覧(第115・116図)	126	第115表	第11号ピット群ピット一覧	199
第61表	第99号井戸跡出土遺物一覧(第117図)	127	第116表	第121号溝跡出土遺物一覧(第196図)	201
第62表	第109号井戸跡出土遺物一覧(第118・119図)	129	第117表	第1号区画北側の溝跡一覧	201
第63表	第2号区画(北)とその周辺の井戸跡出土遺物一覧(第120・121図)	131	第118表	第1号区画北側の土坑出土遺物一覧(第199図)	204
第64表	第2号区画(北)とその周辺の井戸跡一覧	132	第119表	第1号区画北側の土坑一覧	204
第65表	第1286号土坑出土遺物一覧(第123図)	133	第120表	第15～17号柱穴列ピット一覧	205
第66表	第2号区画(北)とその周辺の土坑出土遺物一覧(第126図)	135	第121表	第1号区画北側の柱穴列一覧	205
第67表	第2号区画(北)とその周辺の土坑一覧	135	第122表	第60・61号ピット群ピット一覧	205
第68表	第6号柱穴列出土遺物一覧(第127図)	137	第123表	第1号区画北側のピット群一覧	206
第69表	第29号柱穴列ピット一覧	138	第124表	第244号溝跡出土遺物一覧(第204図)	208
第70表	第2号区画の柱穴列一覧	138	第125表	第11号道路跡出土遺物一覧(第204図)	209
第71表	第26号ピット群ピット一覧	140	第126表	第13号道路跡出土遺物一覧(第204図)	209
第72表	第122号溝跡出土遺物一覧(第133・134図)	146	第127表	第244号溝跡ピット一覧	209
第73表	第123号溝跡出土遺物一覧(第136・137図)	150	第128表	第2・3号区画南側の溝跡一覧	209
第74表	第2号区画(南)の溝跡一覧	150	第129表	第2・3号区画南側の道路跡一覧	209
第75表	第44号掘立柱建物跡出土遺物一覧(第140図)	152	第130表	第2・3号区画南側の土坑一覧	210
第76表	第86号井戸跡出土遺物一覧(第142図)	153	第131表	第51号ピット群ピット一覧	211
第77表	第89号井戸跡出土遺物一覧(第144図)	154	第132表	遺構外出土遺物一覧(第208・209図)	214
			第133表	その他の遺構外出土遺物一覧(第210・211図)	216
			第134表	皿の分類別出土状況一覧	218

写真図版目次

- PL1 平成28年度調査区全景(南西から)
平成28年度調査区北部全景(東から)
- PL2 平成30年度調査区全景(北から)
平成30年度調査区南部全景(南から)
- PL3 第551号土坑遺物出土状況 第551号土坑
第109号竪穴建物跡 第111号竪穴建物跡遺物出土状況(1)
第111号竪穴建物跡遺物出土状況(2) 第111号竪穴建物跡
第11号井戸跡遺物出土状況 第102号井戸跡
- PL4 第1号区画(1) 第1号区画(2) 第2号段切状遺構土層断面
第49号溝跡 第49・58号溝跡 第52号溝跡遺物出土状況(1)
第52号溝跡遺物出土状況(2) 第52号溝跡(1)
- PL5 第52号溝跡(2) 第52号溝跡(3) 第52号溝跡(4)
第52号溝跡、第1385号土坑 第52・56号溝跡土層断面
第52・56号溝跡 第52・125号溝跡 第53・54号溝跡
- PL6 第55号溝跡 第56号溝跡(1) 第56号溝跡(2) 第56号溝跡(3)
第57号溝跡(1) 第57号溝跡(2) 第59号溝跡(1) 第59号溝跡(2)
- PL7 第59号溝跡(3) 第60号溝跡 第113号溝跡土層断面
第113号溝跡遺物出土状況(1) 第113号溝跡遺物出土状況(2)
第113号溝跡遺物出土状況(3) 第113号溝跡(1) 第113号溝跡(2)
- PL8 第119・134号溝跡 第120号溝跡遺物出土状況 第120号溝跡(1)
第120号溝跡(2) 第121号溝跡 第122号溝跡遺物出土状況
第122号溝跡(1) 第122号溝跡(2)
- PL9 第122号溝跡(3) 第123号溝跡遺物出土状況 第123号溝跡(1)
第123号溝跡(2) 第126号溝跡 第127・128号溝跡(1)
第127・128号溝跡(2) 第128号溝跡
- PL10 第132号溝跡遺物出土状況 第132号溝跡 第55・141号溝跡
第141号溝跡 第235・283・284号溝跡(1)
第235・283・284号溝跡(2) 第244号溝跡土層断面
第244号溝跡(1)
- PL11 第244号溝跡(2) 第244号溝跡、第11～13号道路跡土層断面(1)
第244号溝跡、第11～13号道路跡土層断面(2)
第244号溝跡、第11～13号道路跡 第11～13号道路跡
第271号溝跡 第280～282号溝跡
第44号掘立柱建物跡遺物出土状況
- PL12 第5号柱穴列遺物出土状況 第6号柱穴列(1) 第6号柱穴列(2)
第15号柱穴列 第26号ピット群(1) 第26号ピット群(2)
第28号掘立柱建物跡、第26号ピット群 P106 第29号ピット群
- PL13 第51号ピット群 第1号方形竪穴遺構
第6号方形竪穴遺構、第88号井戸跡
第7号方形竪穴遺構、第93号井戸跡
第8号方形竪穴遺構 第9号方形竪穴遺構
第9号方形竪穴遺構、第1178～1180号土坑
第14号方形竪穴遺構
- PL14 第10号井戸跡 第12号井戸跡 第13号井戸跡 第14号井戸跡
第15号井戸跡遺物出土状況 第16号井戸跡 第17号井戸跡
第18号井戸跡
- PL15 第19号井戸跡 第84号井戸跡 第85号井戸跡 第86号井戸跡
第87号井戸跡遺物出土状況 第87・88号井戸跡 第89号井戸跡
第92号井戸跡
- PL16 第95号井戸跡 第96号井戸跡土層断面 第96号井戸跡
第97号井戸跡遺物出土状況 第98号井戸跡 第99号井戸跡
第100号井戸跡遺物出土状況 第100号井戸跡
- PL17 第104号井戸跡 第108号井戸跡
第109号井戸跡、第6号柱穴列遺物出土状況 第109号井戸跡
第116号井戸跡遺物出土状況 第208号井戸跡 第209号井戸跡
第218号井戸跡
- PL18 第222号井戸跡遺物出土状況(1) 第222号井戸跡遺物出土状況(2)
第491号土坑 第503号土坑 第505・531・532・534～536号土坑
第517号土坑 第558・565号土坑 第559・566号土坑
- PL19 第570号土坑 第579号土坑 第594号土坑 第602号土坑
第604号土坑 第612～614号土坑 第617号土坑
第618～620号土坑
- PL20 第629号土坑遺物出土状況 第636号土坑 第638号土坑
第664号土坑遺物出土状況 第1110号土坑 第1115号土坑
第1120号土坑 第1128・1129号土坑
- PL21 第1135号土坑 第1150号土坑遺物出土状況(1)
第1150号土坑遺物出土状況(2) 第1152号土坑 第1153号土坑
第1159号土坑 第1160号土坑、第28号ピット群 P 20
第1161号土坑遺物出土状況
- PL22 第1161号土坑 第1171号土坑 第1176・1177号土坑
第1194号土坑 第1205号土坑 第1207・1208号土坑
第1216・1217号土坑(1) 第1216・1217号土坑(2)
- PL23 第1217号土坑土層断面 第1385号土坑 第2929号土坑
第3号地下式坑 第4号地下式坑 第5号地下式坑
第6号地下式坑 第7号地下式坑
- PL24 第551号土坑、第109・111号竪穴建物跡、第102号井戸跡、
遺構外出土土器、石器
- PL25 第2号段切状遺構、第52号溝跡出土土器、石器
- PL26 第52号溝跡出土土器
- PL27 第52号溝跡出土土器、石器
- PL28 第52・53・56号溝跡出土土器、石器
- PL29 第56・59号溝跡出土土器、石器
- PL30 第112・113号溝跡出土土器、石製品
- PL31 第113号溝跡出土土器
- PL32 第113・118・120号溝跡出土土器、石器、銭貨
- PL33 第122号溝跡出土土器
- PL34 第123号溝跡出土土器、石器
- PL35 第139・140・165・235号溝跡出土土器、石器
- PL36 第244・283号溝跡、第11・13号道路跡出土土器、石器・石製品
- PL37 第41・44号掘立柱建物跡、第5・6号柱穴列、第7号方形竪穴遺構、
第13・15・16号井戸跡出土土器、石器・石製品、木製品
- PL38 第85～87号井戸跡出土土器、木製品
- PL39 第89・91・96号井戸跡出土土器、石器
- PL40 第96～100号井戸跡出土土器、木製品
- PL41 第104・108・109・116・208号井戸跡出土土器、石器、木器・木製品
- PL42 第222号井戸跡、第488・629・632・646・664号土坑出土土器、石
器、銭貨
- PL43 第1150・1161・1217・1385・2747・2928号土坑出土土器、石器
- PL44 第3号地下式坑、中・近世の遺構外出土土器、石器、金属製品

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

平成6年8月18日、茨城県知事は、茨城県教育委員会教育長あてに鳥名・福田坪一体型特定土地地区画整理事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は、平成6年9月19日から27日にかけて現地踏査を、平成27年11月10・11日、12月25日、及び平成30年2月20日に試掘調査を実施して、鳥名本田遺跡の所在を確認した。平成28年1月29日、及び平成30年2月23日に茨城県教育委員会教育長は、茨城県土浦土木事務所長あてに、事業地内に鳥名本田遺跡が存在すること及びその取扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

平成28年1月29日及び平成30年2月27日、茨城県土浦土木事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに文化財保護法第94条に基づく土木工事の通知を提出した。平成28年2月3日及び平成30年2月27日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県土浦土木事務所長あてに、現状保存が困難であることから、記録保存のための調査が必要であると決定し、工事着手前に調査を実施するように通知した。

平成28年2月15日、平成30年2月28日、及び平成31年2月22日、茨城県土浦土木事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに、鳥名・福田坪一体型特定土地地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施についての協議書を提出した。平成28年2月17日、平成30年2月28日、及び平成31年2月25日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県土浦土木事務所長あてに、鳥名本田遺跡の調査の範囲及び面積等について回答し、併せて調査機関として公益財団法人茨城県教育財団を紹介した。

公益財団法人茨城県教育財団は、茨城県土浦土木事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成28年6月1日から平成29年3月31日、平成30年4月1日から平成31年3月31日、及び平成31年4月1日から令和元年11月30日まで、それぞれ調査を実施した。

第2節 調査経過

鳥名本田遺跡の調査は、平成28年6月1日から平成29年3月31日までの10か月間、平成30年4月1日から平成31年3月31日までの12か月間、及び平成31年4月1日から令和元年11月30日までの8か月間にわたって実施した。いずれの調査年度も、複数の調査区を一部並行しながら調査を進めており、今回報告するのはそれぞれの一部である。各年度全体の調査経過については以下の表で示し、そのうち今回報告する部分の調査経過について概述する。

調査では、各年度とも地割や旧道等を目安に便宜的な区割りをして調査を行っている（第3図）。平成28年度のⅡ区北エリアは、10月中旬から重機による表土除去を開始し、その後、人力による遺構確認作業を行った。11月中旬に基準点測量を業者に委託し、基準点を設置した。遺構確認の結果、西部の台地端部に段切状の遺構が確認できたため、1月中旬に土層確認用のベルトを残して、重機による掘り下げを行った。2月上旬から遺構調査を開始し、3月中旬に全ての遺構調査・記録作業を終了し、空中写真撮影を行った。

平成30年度のA区は、5月上旬から重機による表土除去を開始し、その後、人力による遺構確認、遺構調査を実施した。5月下旬に基準点測量を業者に委託し、基準点を設置した。7月中旬にA区の調査をほぼ終了し、空中写真撮影を行った。9月中旬に重機による井戸の断ち割り調査を実施し、覆土中から漆器などの木製品が出土したことから、必要に応じて保存処理を実施した。

平成31（令和元）年度のA区は、5月上旬から重機による表土除去を開始し、その後、人力による遺構確認及び遺構調査を実施した。5月下旬に基準点測量を業者に委託し、基準点を設置した。6月中旬に調査及び記録作業をほぼ終了した。B区道路部分は、迂回道路敷設後の9月下旬に表土除去を開始した。その後、人力による遺構確認を行い、11月上旬から遺構調査を実施した。11月下旬に調査をほぼ終了し、空中写真撮影を行った。

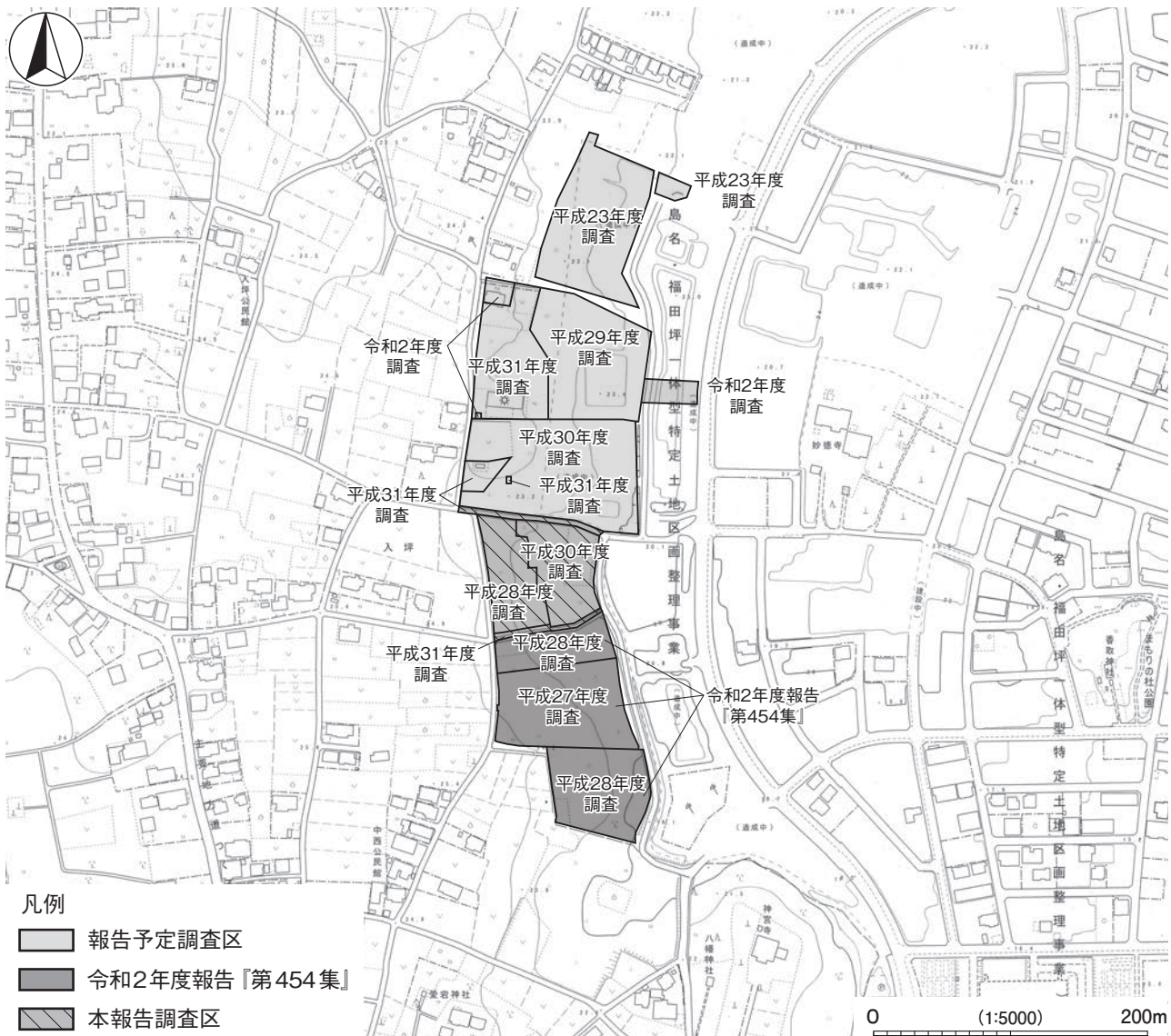
平成 28 年度

平成 31 (令和元) 年度

工程	期間			平成 28 年度											平成 31 (令和元) 年度										
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月							
調査 遺表 遺構 遺物 補撤	準備 土構 洗真 足調	確認 去認																							
調査																									
調査																									
調査																									

平成 30 年度

工程	期間			平成 30 年度										
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
調査 遺表 遺構 遺物 補撤	準備 土構 洗真 足調	確認 去認												
調査														
調査														
調査														



第1図 島名本田遺跡調査区割図

第2章 位置と環境

第1節 位置と地形

島名本田遺跡は、茨城県つくば市島名字薬師台 1726 - 2 番地ほかに所在している。

つくば市は、筑波山を北端として、その南東へ延びる標高 20.0 ~ 25.0 m の平坦な台地上に位置している。この台地は筑波・稲敷台地と呼ばれ、東を霞ヶ浦へ流入する桜川、西は利根川に合流する小貝川によって区切られている。両河川の間には、東から花室川、蓮沼川、小野川、谷田川、西谷田川などの中小河川が北から南に向かって流れているため、台地は複雑に開析され、谷津や低地が細長く入り込んでいる。

筑波・稲敷台地は、貝化石を含む海成層の成田層を基盤として、さらにその上に黄褐色砂や黄褐色荒砂層である竜ヶ崎層、さらに灰白色の粘土層である常総粘土層、そして表土下を厚く覆う褐色の関東ローム層が堆積し、最上部は腐食土層となっている¹⁾。

つくば市南西部の島名地区は、谷田川と西谷田川によって開析された、狭長な台地上の中央部に位置している。当遺跡は、谷田川から延びた谷津に面した標高 13.0 ~ 24.0 m の台地上に立地し、遺跡の範囲は南北約 500 m、東西約 250 m である。

第2節 歴史的環境

島名本田遺跡周辺の台地には、縄文時代から近世にかけての遺跡が数多く存在している²⁾。特に谷田川・西谷田川流域の遺跡のうち、旧石器時代から古代の遺跡については、『島名本田遺跡』（茨城県教育財団文化財調査報告第 454 集）の中で触れているので、ここでは中世から近世の遺跡について概観してみたい。

島名地区周辺は、平安時代末期に八条院領として立荘された田中荘に組み込まれ、鎌倉時代以降は小田氏の支配下となる。鎌倉時代から戦国時代まで小田氏の居城となった小田城跡は、筑波山地南端の宝鏡山南裾、桜川左岸低地内より 1.5 m ほど高い段丘上に位置している³⁾。3重の堀と曲輪が良好に残る平城で、昭和 10 年に国の史跡に指定されている。室町時代には小田氏支配下の平井出氏が面野井城（092）を構えて、当地域を治めたと言われている。島名本田遺跡（387）は、5 世紀中葉から集落が営まれはじめ、8 世紀前葉にピークを迎える。その後は集落規模を縮小しながら 10 世紀中葉まで継続するが、それ以降は土器焼成遺構などのわずかな遺構が確認できるのみで、集落的には一度衰退する⁴⁾。

この流れは谷を挟んで東に対峙し、嶋名郷で公的な役割を果たしたと考えられる島名熊の山遺跡（214）でも概ね同様で、集落域を縮めながら 11 世紀代まで集落が営まれる。永仁五年（1297 年）には、当遺跡の谷を挟んだ東方に妙徳寺が開山する。島名熊の山遺跡では、妙徳寺のある台地西側を中心に、中・近世の遺構が多く確認されている。当遺跡と同様に溝や堀によって小区画がなされているが、特筆されるのは 13 世紀末から 14 世紀初頭の梵鐘鑄造遺構や、15 世紀後半の土壘を伴う方形区画である。方形区画は幅 3.5 m の薬研堀で囲まれた方半町（一辺約 60 m）の区画で、内部に建物跡等は確認できなかったが、中世の中心的な「屋敷地」である可能性がある。また、妙徳寺正面から延びる、16 世紀代の参道と推定される側溝跡があり、この周辺では墓域が形成されている⁵⁾。当遺跡と島名熊の山遺跡は、古墳時代以降から近世に至るまで、谷を挟んで関連し合う遺跡として捉えられる。

関東地方では、13 世紀から 14 世紀にかけて、複数の居住区画が集合する集落が見られるようになり、つくば市域でも多くの集落が確認されている。当遺跡から南東約 1 km に位置する島名前野東遺跡（389）では、方一町に巡る方形区画堀と、区画内の掘立柱建物群による、2 つの「方形居館」が確認されている。時期は 13 世紀後半から 15 世紀で、掘立柱建物の中には中門廊の施設を有するものや礎盤石を持つ建物跡もみられる。「方形居館」が廃絶したあとは、地下式坑や火葬土坑などが分布し、墓域として利用されたようである⁶⁾。古墳時代のいわゆる「豪族居館」が確認されている梶内山遺跡でも、13 世紀から 14 世紀には、区画溝と礎石建物を含む掘立柱建物群が数期にわたって変遷している。16 世紀後半以降は区画溝を伴う墓域となっている⁷⁾。桜川右岸低地の小泉館跡では 15 世紀に堀に囲まれ

た3か所の曲輪があり、曲輪Iからは礎石を持つ大型の掘立柱建物跡が確認されている⁸⁾。関東地方の中世集落について研究されている永越信吾氏によると、14世紀後半までに成立する集落では、多くが15世紀前半に廃絶し、15世紀後半に新たに成立する集落が目立ち、この時期に集落の再編があったことを指摘されている⁹⁾。つくば市域でも



第2図 島名本田遺跡周辺遺跡分布図（国土地理院 25,000分の1「谷田部」）

15世紀後半から16世紀にかけて方形或いはL字型の区画溝と掘立柱建物跡、井戸跡、土坑などで構成される「屋敷地」を伴う集落跡が確認できる。つくば市東部の金田西坪B遺跡は、道路幅の調査ではあるが、複数の区画溝を伴う「屋敷地」が15世紀中葉から16世紀代に4期にわたる変遷が捉えられている¹⁰⁾。同じく桜川右岸の上野古屋敷遺跡は、複数次にわたる調査で、舌状台地上の集落の大部分を調査した例と言える。一辺30～40mの小区画による複数の「屋敷地」からなる集落であるが、掘立柱建物跡では桁行2間、梁間1間から桁行5間、梁間1間の小規模なものが多く、前段階にあるような礎石を有する建物や「居館」を思わせる区画は確認されていない¹¹⁾。また出土する陶

第1表 島名本田遺跡周辺遺跡一覧表

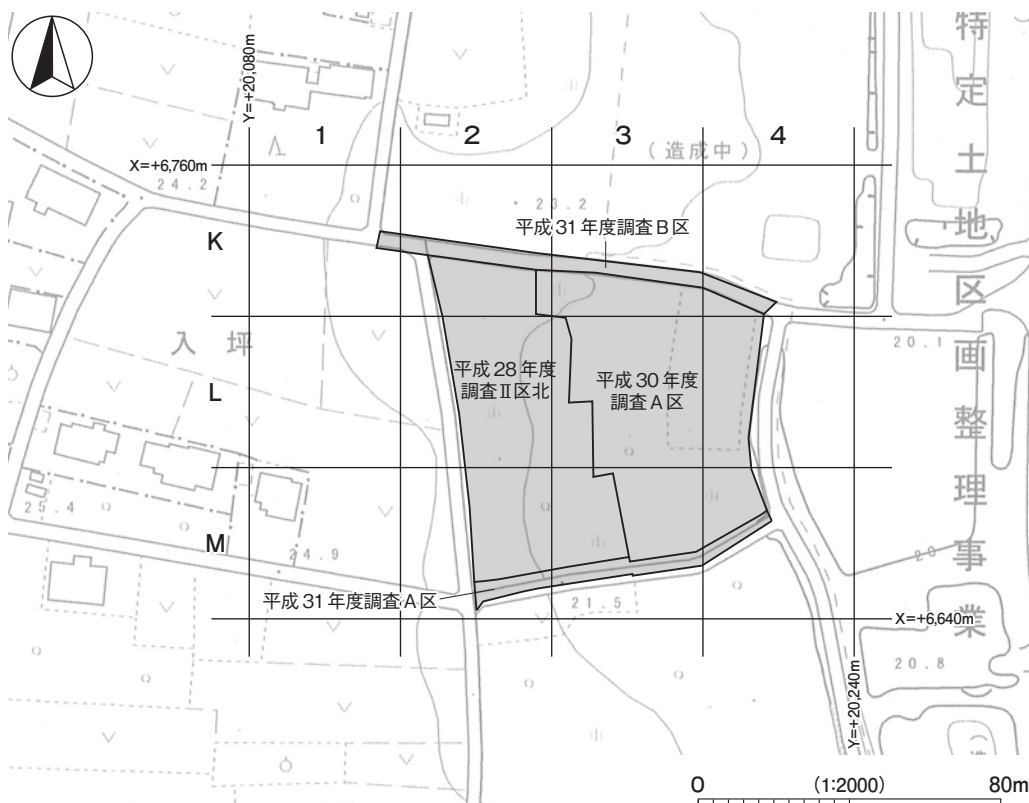
市町村番号	遺跡番号	遺跡名	時代						
			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・桃山	江戸
220	007	若森西遺跡		○				○	○
	008	若森池西遺跡		○					
	021	田倉遺跡		○					
	022	上郷北遺跡					○		
	023	上郷赤ぼっけ遺跡		○					
	040	谷田部福田遺跡		○		○			
	041	島名前野遺跡		○		○	○	○	○
	042	真瀬山田遺跡		○		○	○		
	044	下河原崎高山遺跡			○				
	045	高田和田台遺跡				○			
	046	島名薬師遺跡				○			
	047	島名榎内遺跡				○			
	052	島名関ノ台古墳群				○			
	053	面野井古墳群				○			
	054	下河原崎高山古墳群				○			
	055	下河原崎古墳群				○			
	058	島名榎内古墳群				○			
	059	島名熊の山古墳群				○			
	068	島名ツバタ遺跡	○	○		○		○	○
	072	谷田部福田前遺跡		○		○	○		
	073	谷田部漆遺跡		○		○	○		
	075	島名タカドロ遺跡		○		○			
	076	島名一町田遺跡	○	○		○		○	○
	079	島名関ノ台遺跡				○			
	080	高田遺跡					○		○
	082	水堀遺跡				○			
	083	柳橋遺跡				○			○
	084	真瀬新田古墳群				○			
	092	面野井城跡						○	
	214	島名熊の山遺跡	○	○	○	○	○	○	○
	218	真瀬三度山遺跡		○		○			○
219	上萱丸古屋敷遺跡				○		○	○	
224	下河原崎高山窯跡				○				
227	真瀬新田谷津遺跡		○						
365	鍋沼新田長峰遺跡		○		○				
366	真瀬山田北遺跡		○		○				
367	真瀬堀附北遺跡				○				
368	真瀬堀附南遺跡		○		○				
370	真瀬中畑遺跡		○		○			○	
371	真瀬西原塚						○	○	
220	372	真瀬戸崎遺跡					○		○
	373	中別府宮前遺跡					○		○
	376	上河原崎八幡脇遺跡					○		
	377	上河原崎小山台古墳					○		
	378	上河原崎本田遺跡					○	○	○
	379	上河原崎前山遺跡					○		
	380	元中北鹿島明神古墳					○		
	381	元中北東藤四郎遺跡					○		
	382	下河原崎谷中台遺跡	○	○			○	○	
	383	島名榎内西古墳群					○		
	384	島名榎内南遺跡	○				○	○	
	385	島名関ノ台塚							○
	386	島名関ノ台南A遺跡					○	○	
	387	島名本田遺跡		○			○	○	○
	388	島名八幡前遺跡					○	○	○
	389	島名前野東遺跡	○	○			○	○	○
	390	島名前野古墳					○		
	391	島名境松遺跡	○	○			○		
	392	谷田部漆出口遺跡		○			○		○
	395	谷田部陣馬遺跡		○			○		
	396	谷田部山合遺跡		○					○
	397	谷田部大堀遺跡							○
	414	高田原山遺跡						○	○
	415	面野井西ノ台塚							○
	416	面野井南遺跡					○	○	○
	417	水堀下道遺跡					○	○	
	418	水堀屋敷添遺跡		○			○		
419	水堀道後前遺跡						○		
420	平北田遺跡	○	○			○	○	○	
421	平後遺跡					○		○	
422	大和田氏屋敷跡							○	
423	大白裕西ノ裏遺跡					○			
424	大白裕桜下遺跡					○			
425	大白裕民部山遺跡					○			
426	小白裕水表遺跡					○			
427	小白裕民部山遺跡					○			
428	小白裕海道端遺跡		○					○	
559	元宮本前山遺跡	○	○			○			
561	島名関ノ台B遺跡	○	○				○	○	
623	島名中代遺跡		○			○	○	○	

磁器類、土器類のうち、嗜好品的なものは僅かで、日用品が多いことなどから、永越氏は「土豪クラスの居住していない集落」とみている¹²⁾。金田西坪B遺跡や当遺跡も、遺構・遺物の在り方は上野古屋敷遺跡に類似している部分があり、参考となる。

萱丸地区にある古屋敷遺跡は、17世紀後葉を中心とした溝で区画された「屋敷地」で、区画内には掘立柱建物跡や井戸跡などがみられる。遺物は15世紀末に比定できる陶磁器類も出土しており、15世紀後半に再編された中世集落からそれ以降の近世村落への連続的な移行を示している¹³⁾。小野川左岸の新牧田遺跡では、15世紀後半から19世紀前半の区画溝を伴う大規模な墓域が確認されている¹⁴⁾。つくば地区におけるこれらの中世集落は、近世以前に断絶する集落と近世まで継続する集落があり、その背景にある社会情勢を視野に入れながら消長を検討していく必要がある。

註

- 1) 大山年次監修『茨城県 地質のガイド』コロナ社 1977年8月
『日本の地質3 関東地方』共立出版 2007年5月
- 2) 茨城県教育庁文化課編『茨城県遺跡地図』茨城県教育委員会 2001年3月
- 3) 石橋充『史跡小田城跡-第29・31次調査(本丸跡確認調査I)概要報告-』つくば市教育委員会 1999年3月
- 4) 江原美奈子ほか『鳥名本田遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第454集 2021年1月
- 5) 酒井雄一ほか『鳥名熊の山遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第280集 2007年3月
早川麗司『鳥名熊の山遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第322集 2009年3月
仲村浩一郎ほか『鳥名熊の山遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第360集 2012年3月
- 6) 寺門千勝ほか『鳥名前野東遺跡 鳥名境松遺跡 谷田部漆遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第191集 2000年3月
- 7) 川村満博ほか『梶内向山遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第199集 2003年3月
- 8) 山本賢一郎ほか『小泉館跡-発掘調査概報-』つくば市教育委員会 1989年3月
矢ノ倉正男『小泉館跡』茨城県教育財団文化財調査報告第97集 1995年3月
- 9) 永越信吾「関東における中世集落の再編-15世紀代を中心として-」『総研大学文化科学研究』第10号 2014年3月
- 10) 野田良直『金田西坪B遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第443集 2020年3月
- 11) 三谷正ほか『上野古屋敷遺跡1』茨城県教育財団文化財調査報告第285集 2007年3月
- 12) 9)と同じ
- 13) 白田正子ほか『三度山遺跡 古屋敷遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第132集 1998年3月
- 14) 小川和博ほか『新牧田遺跡』エム・ケー株式会社 (有)日考研茨城 つくば市教育委員会 2014年3月



第3図 鳥名本田遺跡調査区設定図 (つくば市都市計画図2,500分の1から作成)

第3章 調査の成果

第1節 調査の概要

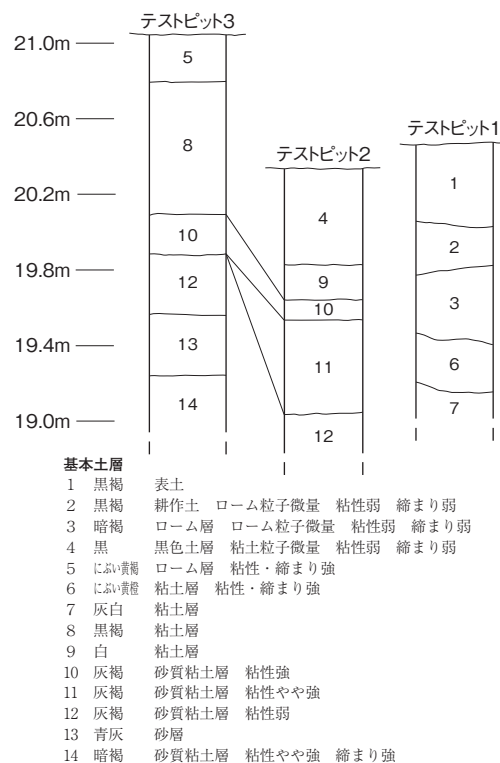
島名本田遺跡は、つくば市の南西部に位置し、谷田川右岸の標高 20.0～24.0 mの台地上に立地している。当遺跡は平成 23 年度から令和 2 年度までに、断続的に 7 回の調査が行われており、今回報告する調査区は、遺跡の南部で谷に東面する台地上の平成 28 年に調査したⅡ区北エリアと、その東側に位置する平成 30 年度調査 A 区、それらの南北に位置する平成 31 年度調査 A・B 区である。調査面積は平成 28 年度Ⅱ区北エリアが 4,946㎡、平成 30 年度調査 A 区が 3,224㎡、平成 31 年度調査 A 区が 253㎡、同 B 区が 370㎡で、調査前の現況は畑地、宅地、道路である。

調査の結果、竪穴建物跡 2 棟（奈良・平安時代）、掘立柱建物跡 10 棟（中世）、段切状遺構 1 か所（中世）、溝跡 55 条（中・近世）、道路跡 3 条（中・近世）、方形竪穴遺構 6 棟（中世）、井戸跡 41 基（奈良・平安時代 2、中・近世 39）、土坑 289 基（古墳時代 1、奈良・平安時代 5、中・近世 283）、土坑墓 1 基（中・近世）、地下式坑 5 基（中世）、柱穴列 10 条（中・近世）、ピット群 16 か所（中・近世）を確認した。古代の遺構は、今回の報告地点の南部、既報告の平成 27・28 年度調査Ⅰ～Ⅲ区が分布の中心であるが、今回のエリアでも谷に面した台地上に奈良・平安時代の竪穴建物跡や土坑、井戸跡が確認されている。確認した遺構の主体は 15 世紀後半から 17 世紀前半で、段切状遺構と溝により方形に区画し、その区画内に掘立柱建物跡や井戸跡、土坑などが配置される遺構群を確認した。今回の報告にあたり、この区画とその内部の構成遺構を一つの単位として「区画」とし、区画毎にそれぞれを報告した。ピットは、整理時に形状・深さ・覆土の状況などから検討し、掘立柱建物跡として判断した。井戸跡は断ち割り調査の結果、深さが 4 m に及ぶものもあり、覆土中から漆器や白などの木製品が出土している。地下式坑は、西部の台地端部で確認されている。段切状遺構で削平され、部分的である。平成 30 年度 A 区の東側は谷地形となっている。調査区東端から 25 m × 25 m の範囲で攪乱されている。

遺物は、遺物収納コンテナ（60 × 40 × 20cm）に 86 箱出土している。主な遺物は、土師器（坏・高坏・甕）、須恵器（坏・高台付坏・蓋・盤・鉢・瓶・甕）、土師質土器（皿・播鉢・香炉・壺・内耳鍋・甕）、瓦質土器（香炉）、陶器（碗・皿類・播鉢・鉢類・甕）、磁器（碗・皿類）、土製品（支脚カ）、石器・石製品（石臼・茶臼・石鍋・砥石・五輪塔）、金属製品（釘・鉄滓）、木器・木製品（鋏・椀・臼・曲物・杭）、自然遺物（種子類、馬歯）などである。古代の遺物は少なく、中・近世の土師質土器が主体である。陶磁器類は全体的に少ない。

第2節 基本層序

平成 31 年度 A 区の台地部（M3h9 区）にテストピット 1 を、また平成 30 年 A 区台地部の第 220 号井戸跡断ち割りからテストピット 2 を、同第 102 号井戸跡断ち割りからテストピット 3 を設定した。1・3 は台地端部で、約 75 m の距離がある。テストピット 2 は、遺跡内に入り込む谷地形の中に位置しており、ここではローム層は確認できなかった。テストピット 1 の第 3 層とテストピット 3 の第 5 層が対応する層で、上面で約 1.2 m の高低差がある。遺構は、第 3～5 層の上面で確認した。



第4図 基本土層図（遺構全体図参照）



0 (1:600) 10m

第5図 島名本田遺跡遺構平面区割図



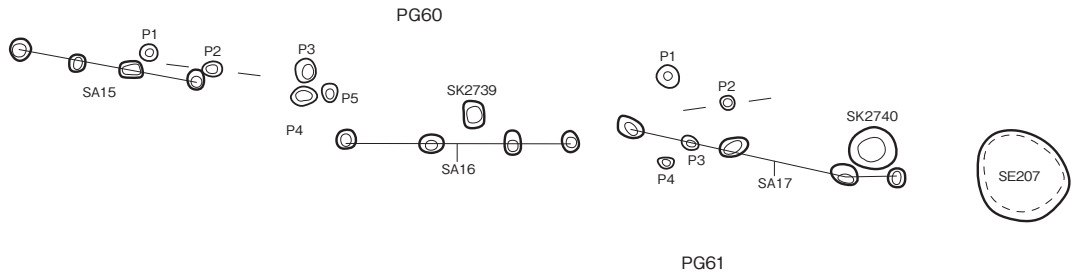
K2f5

SK2746

SK2



SD279

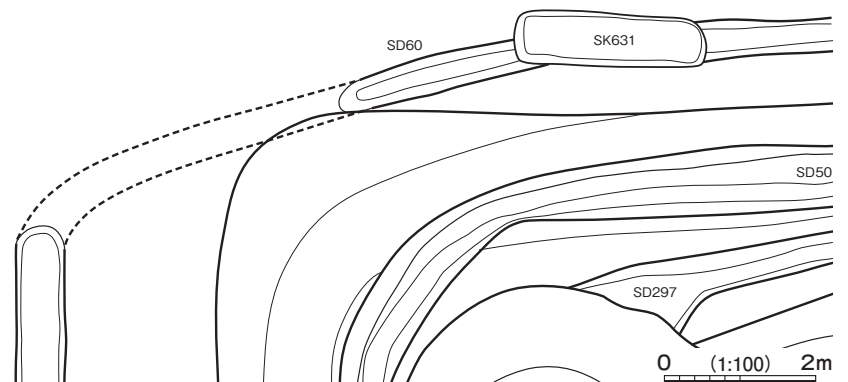


K2i8

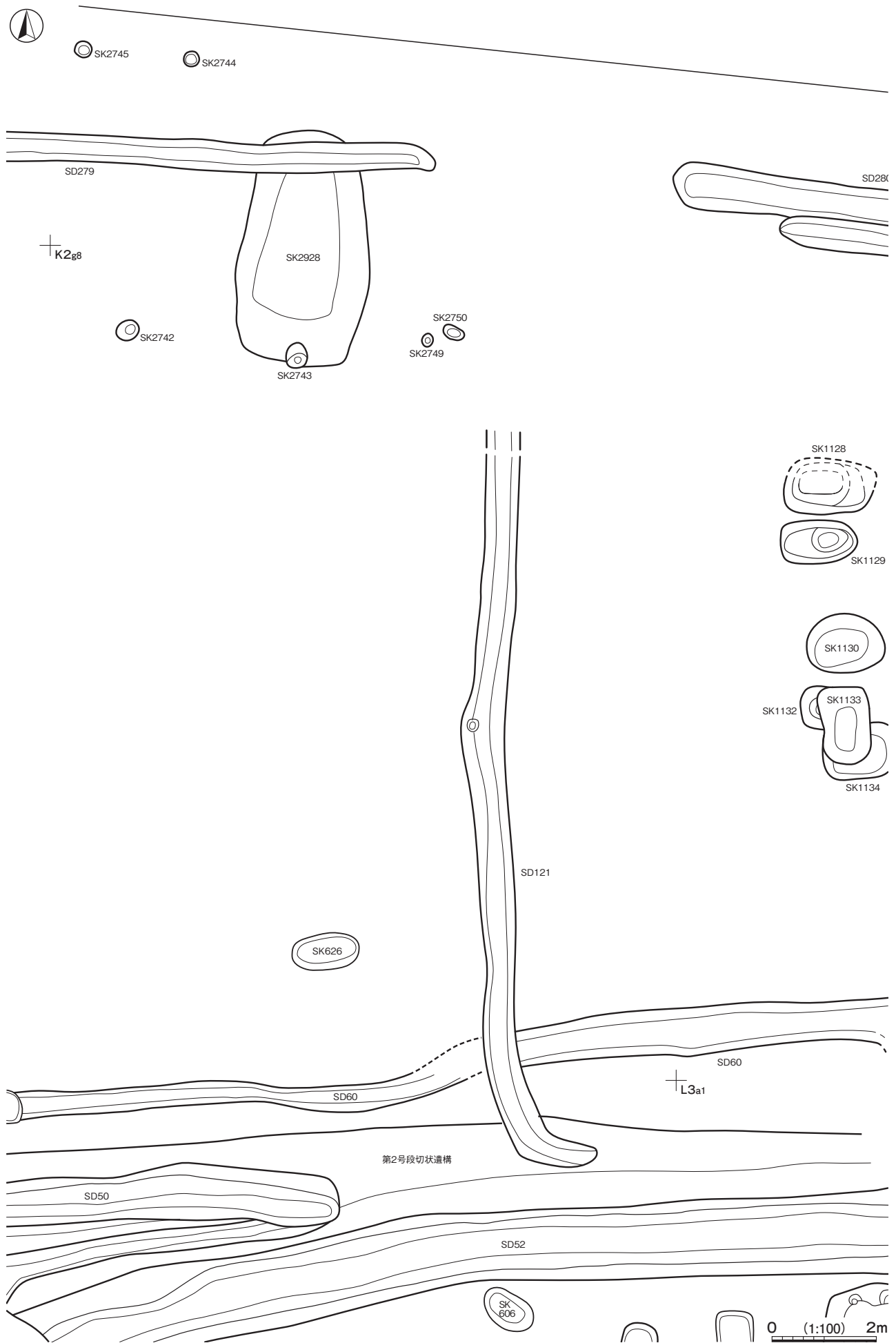
L2a5



SK635



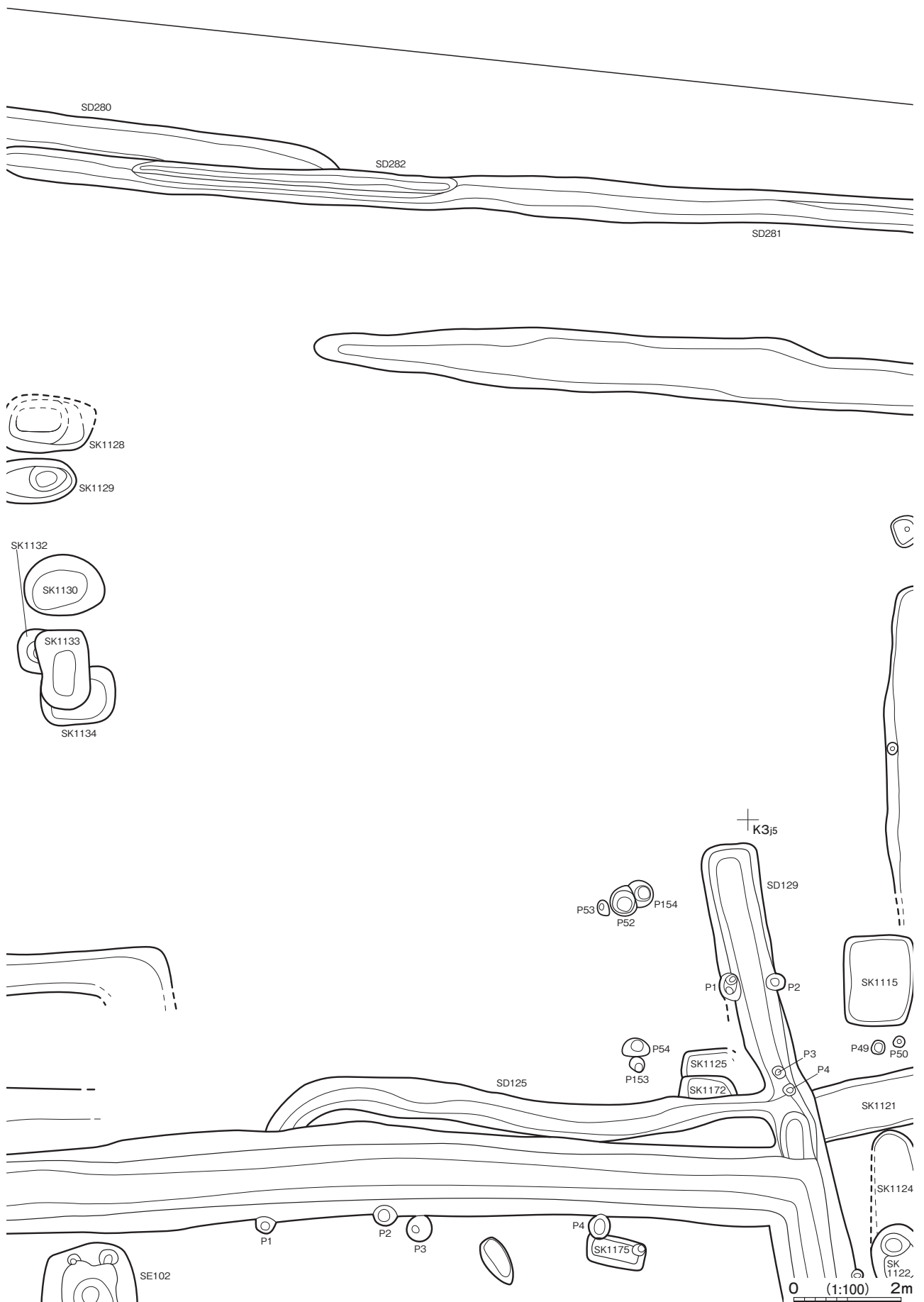
第6図 島名本田遺跡遺構平面図(1)



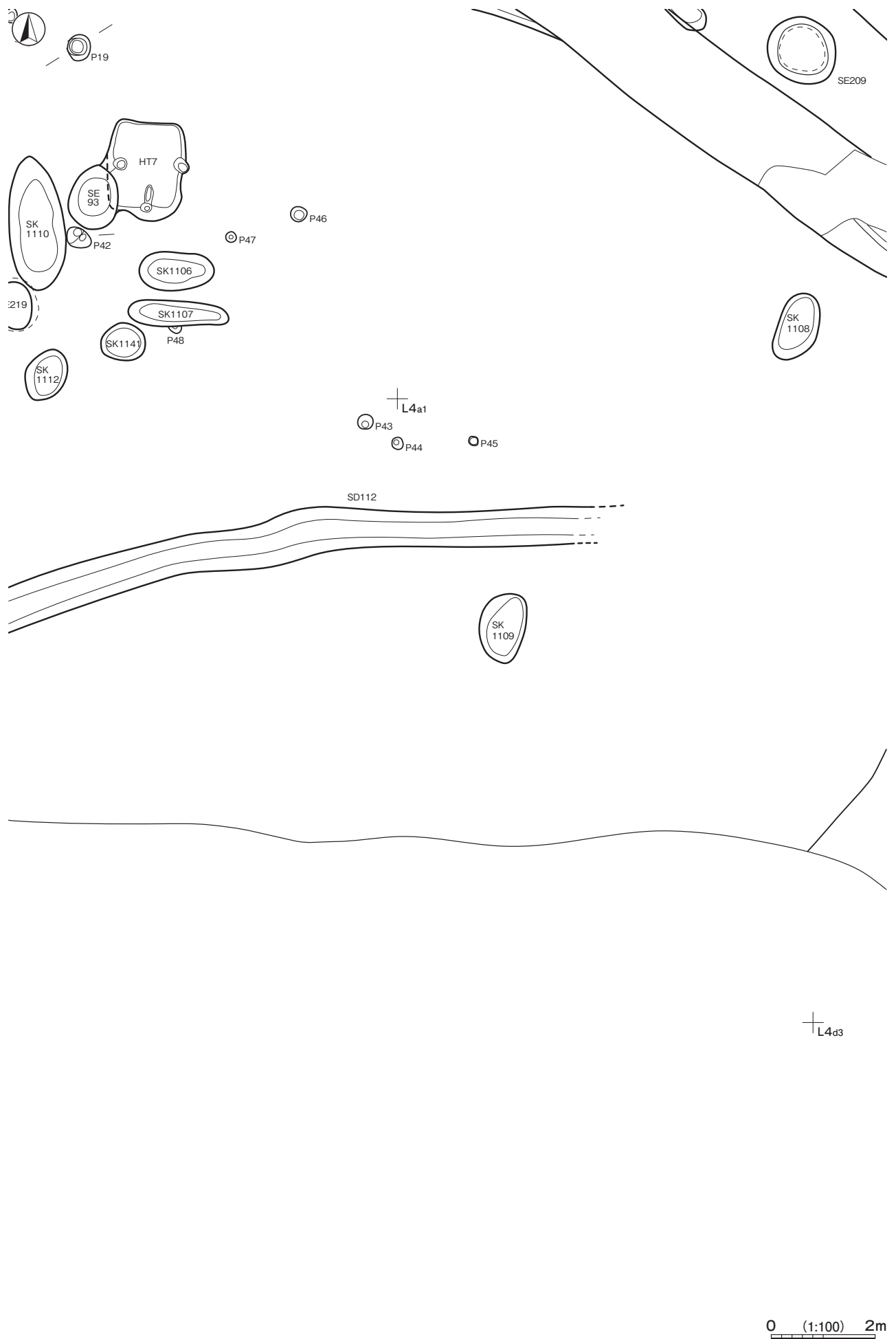
第7図 島名本田遺跡遺構平面図(2)



K3f2



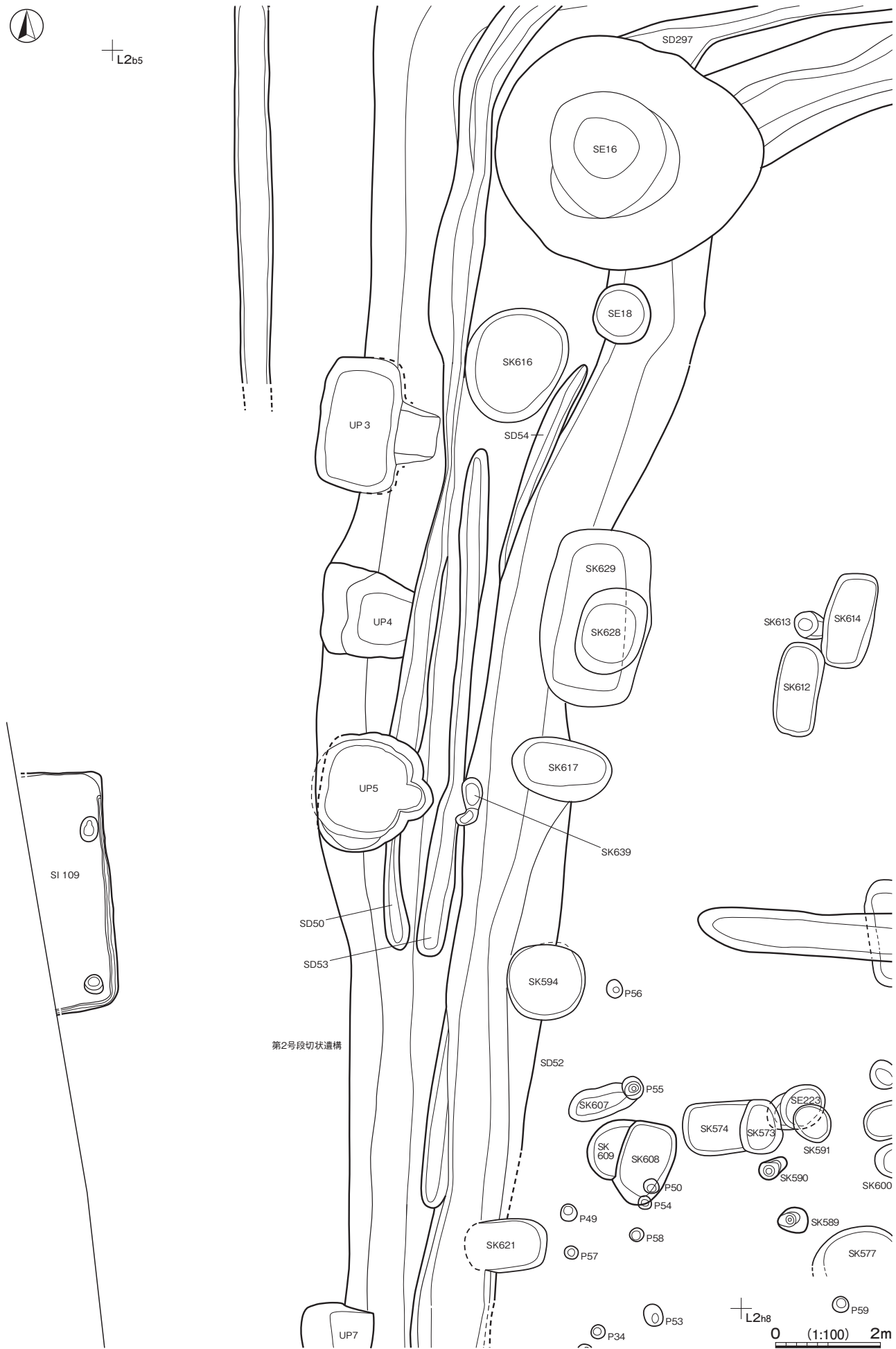
第8図 島名本田遺跡遺構平面図(3)



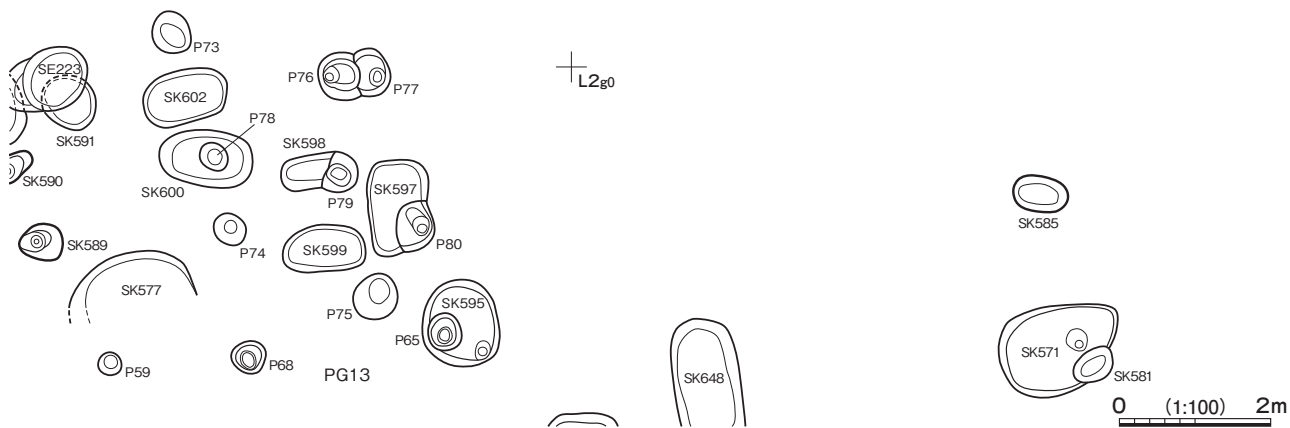
第 10 図 島名本田遺跡遺構平面図(5)



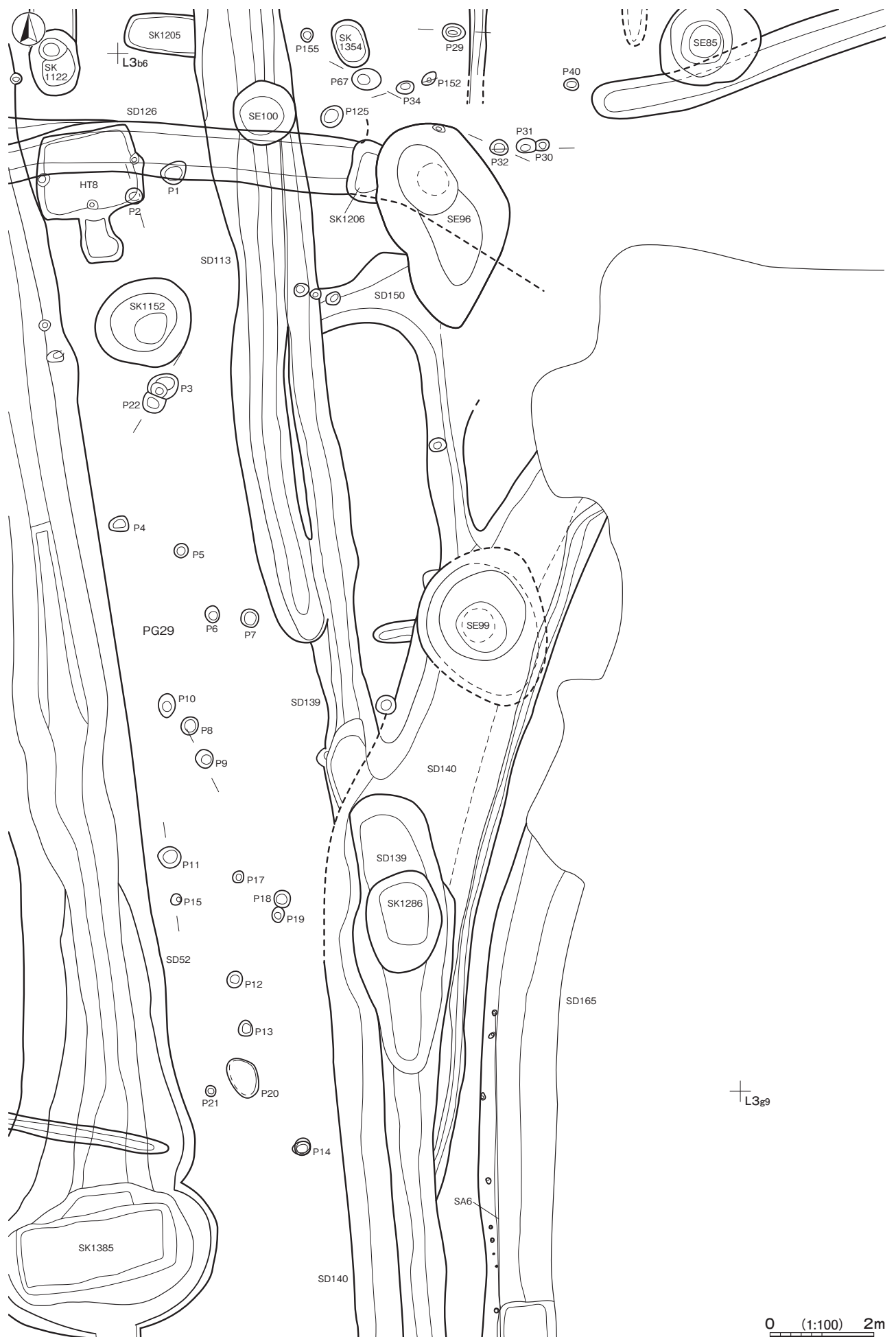
L2b5



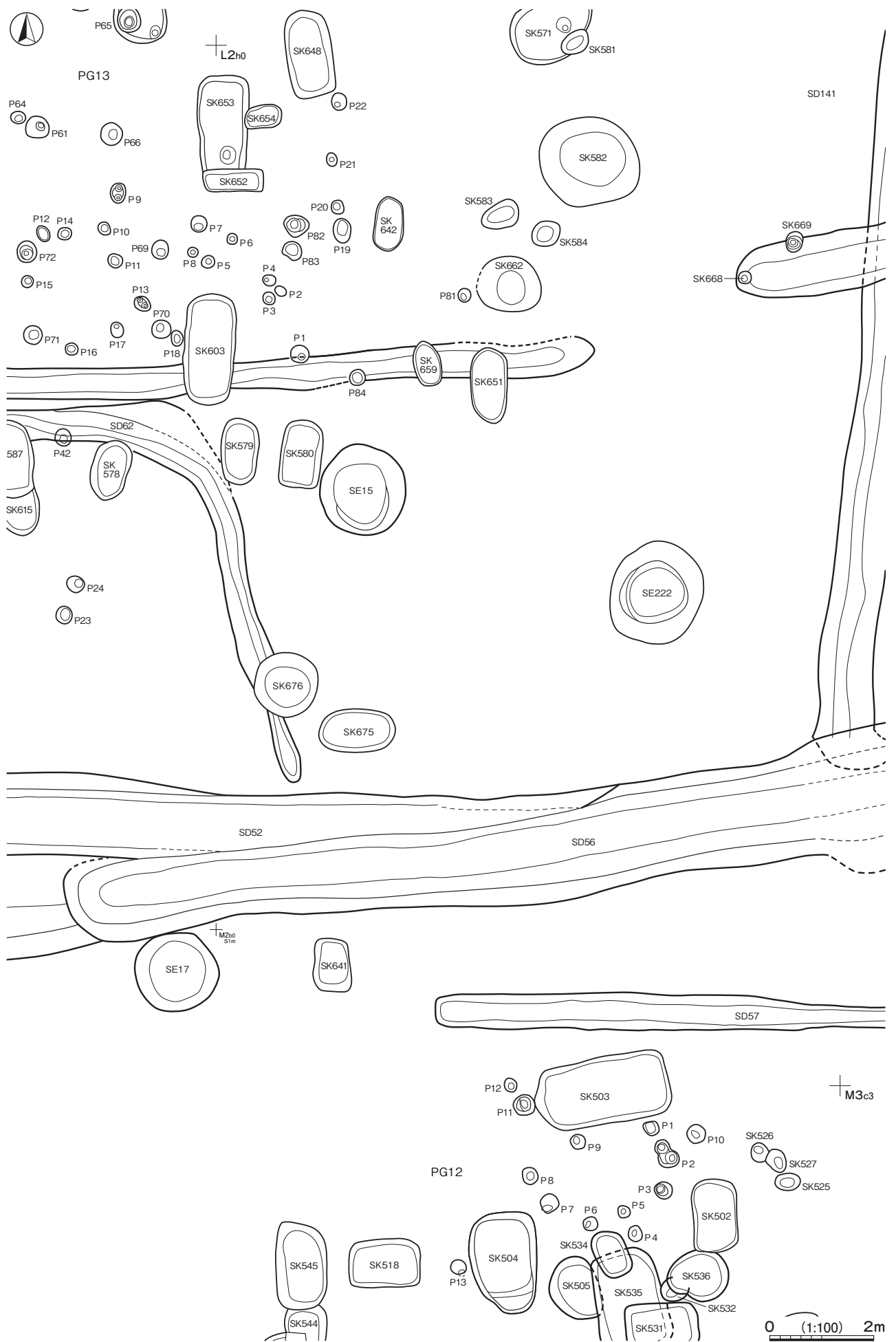
第 11 図 島名本田遺跡遺構平面図(6)



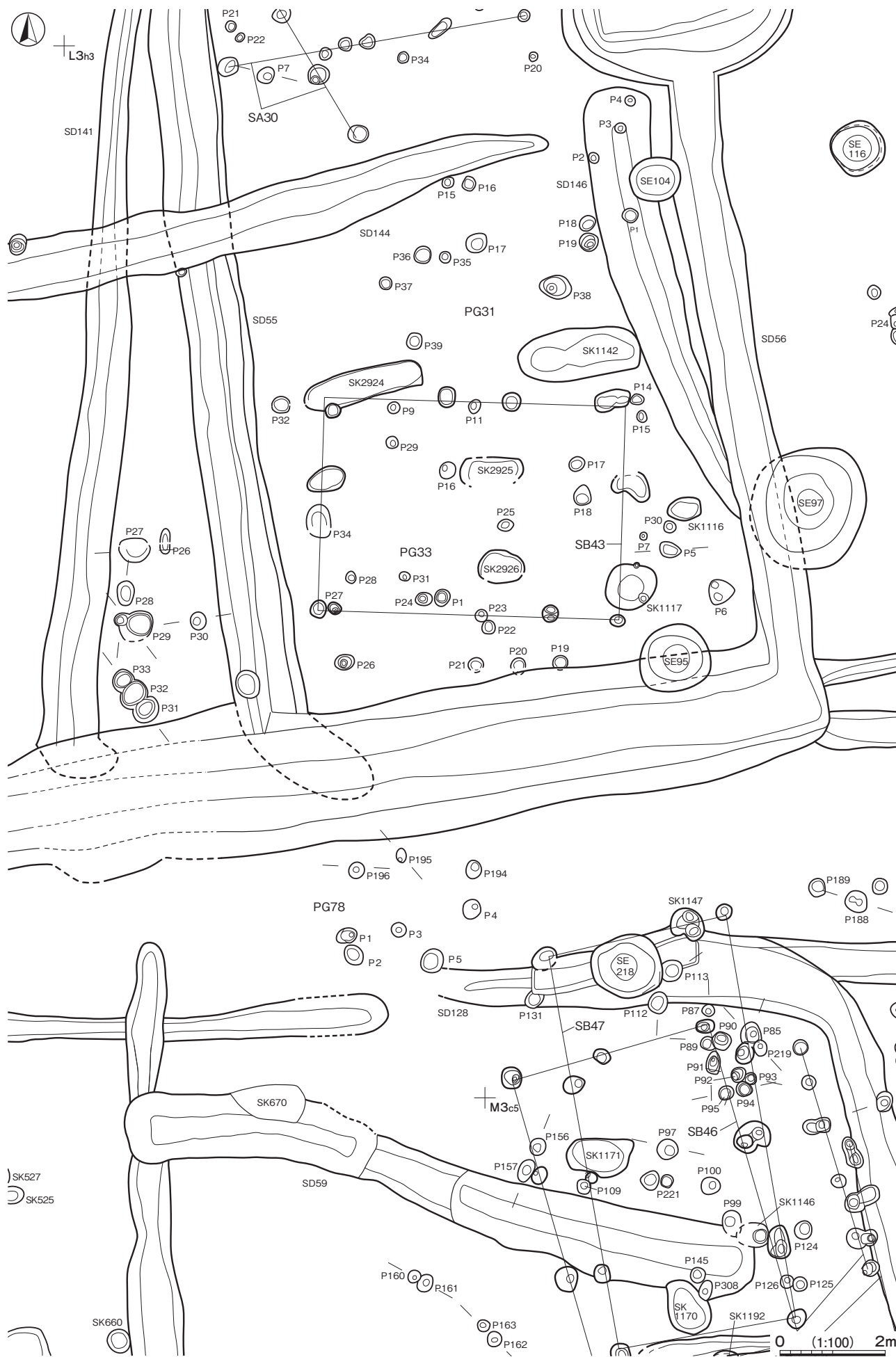
第 12 図 島名本田遺跡遺構平面図(7)



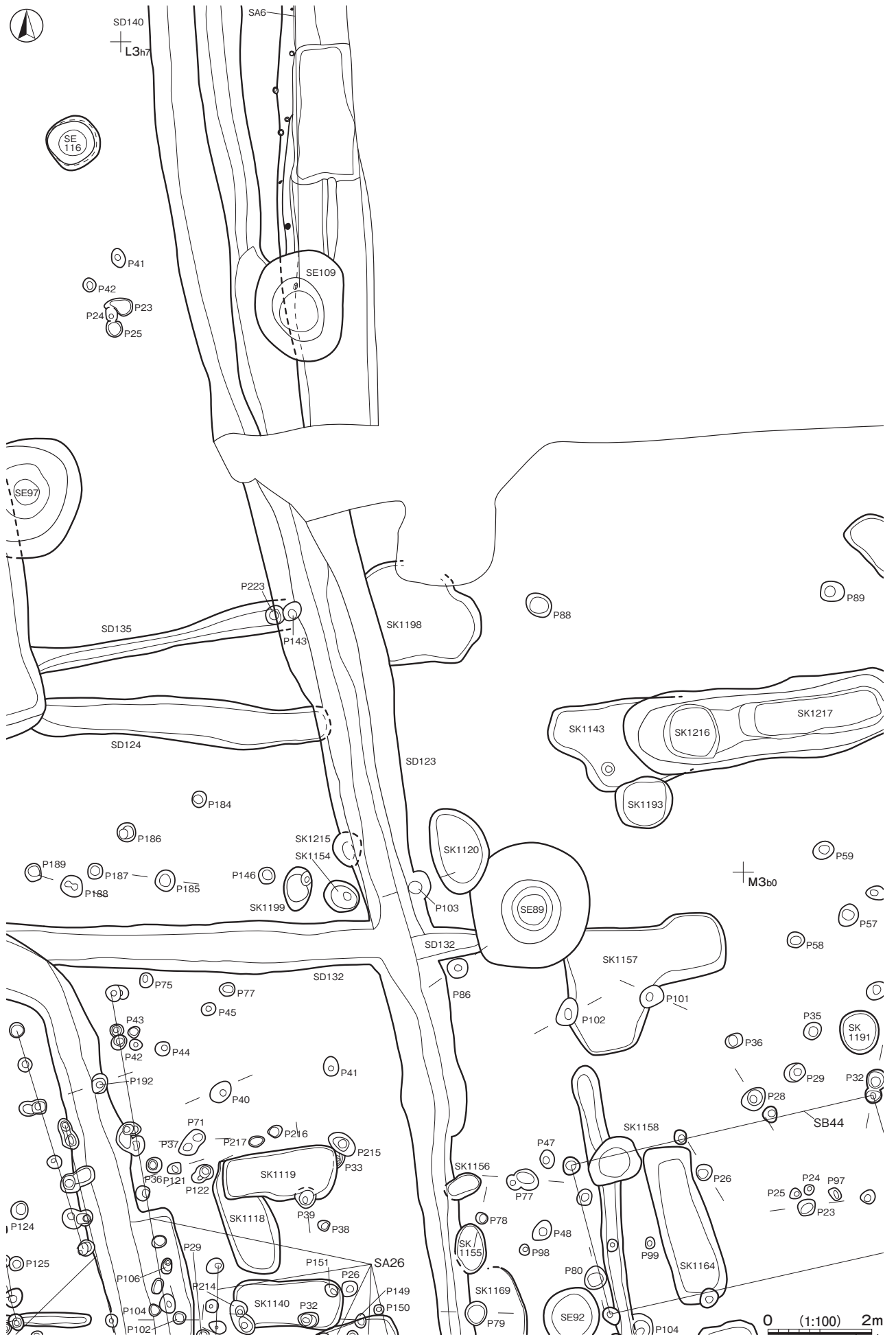
第 14 図 島名本田遺跡遺構平面図(9)



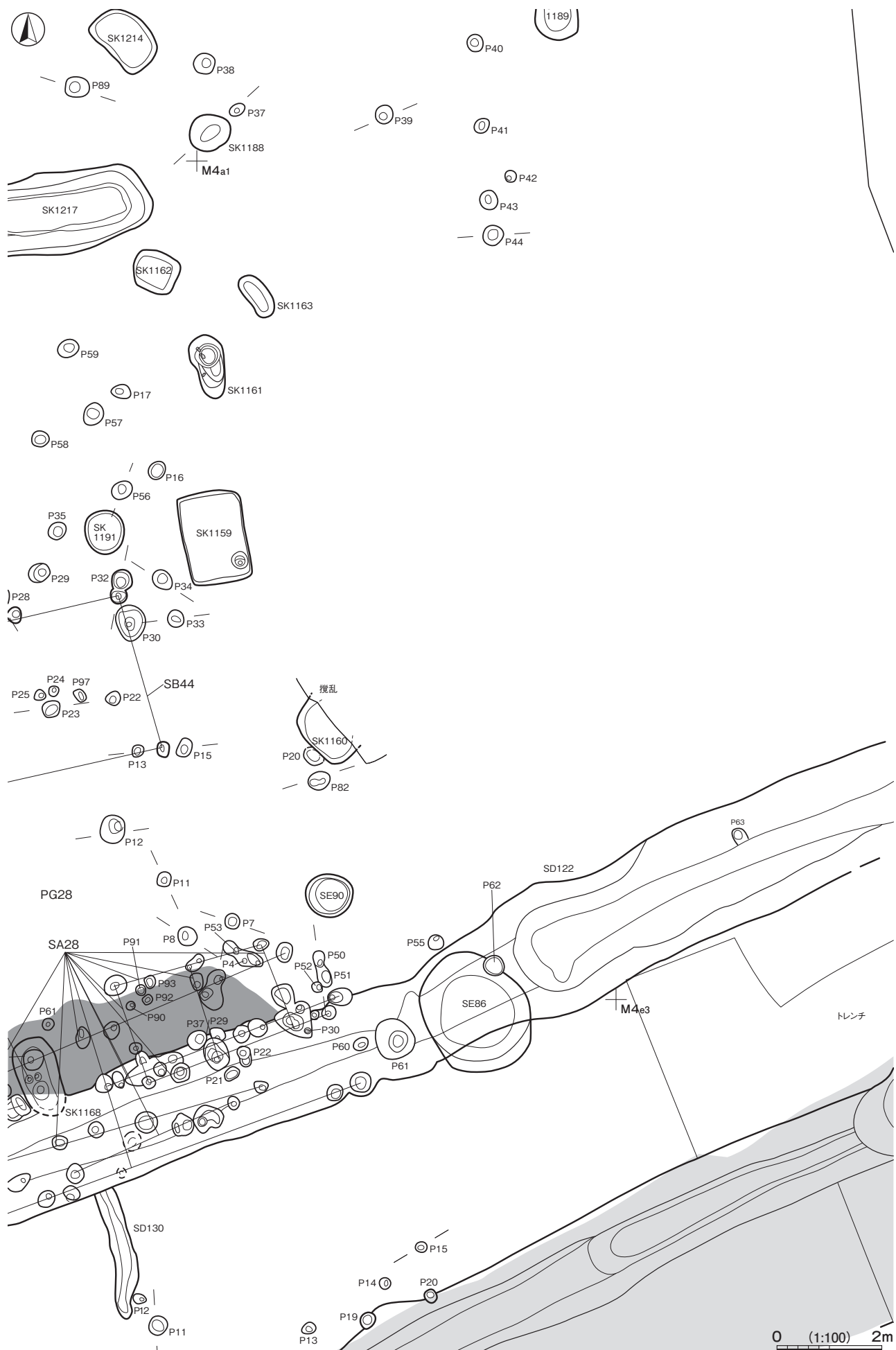
第 16 図 鳥名本田遺跡遺構平面図(11)



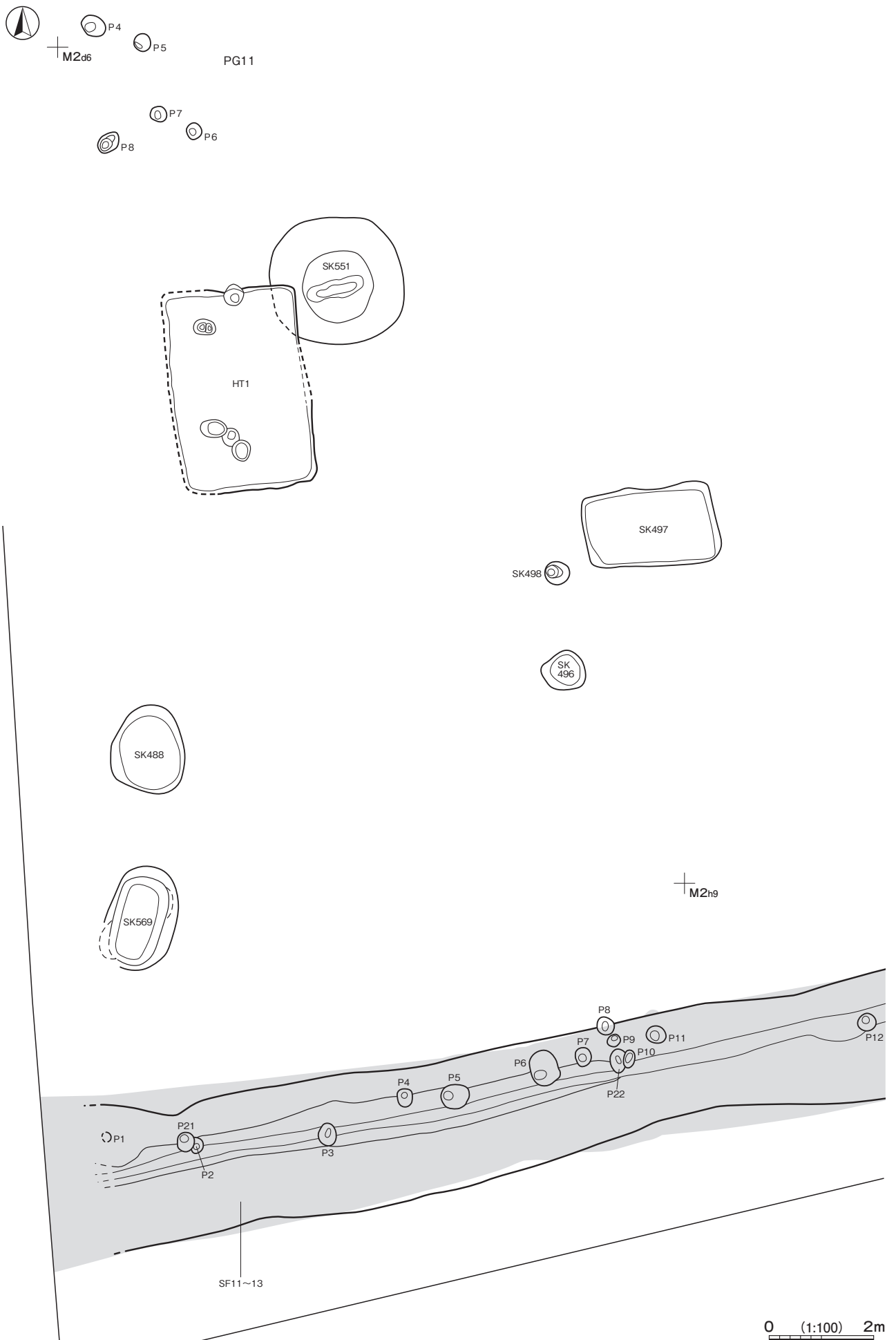
第 17 図 高名本田遺跡遺構平面図(12)



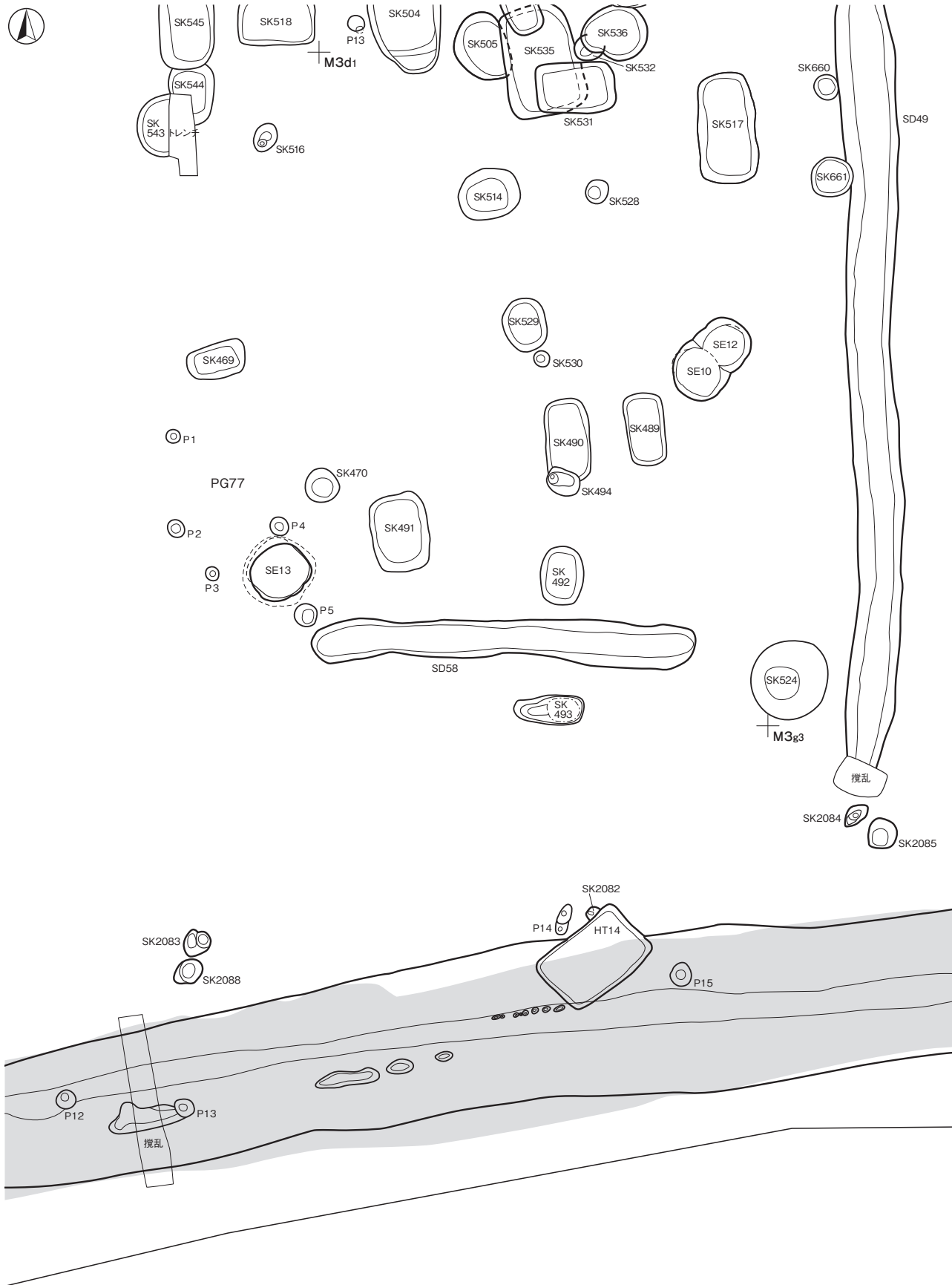
第 18 図 島名本田遺跡遺構平面図(13)



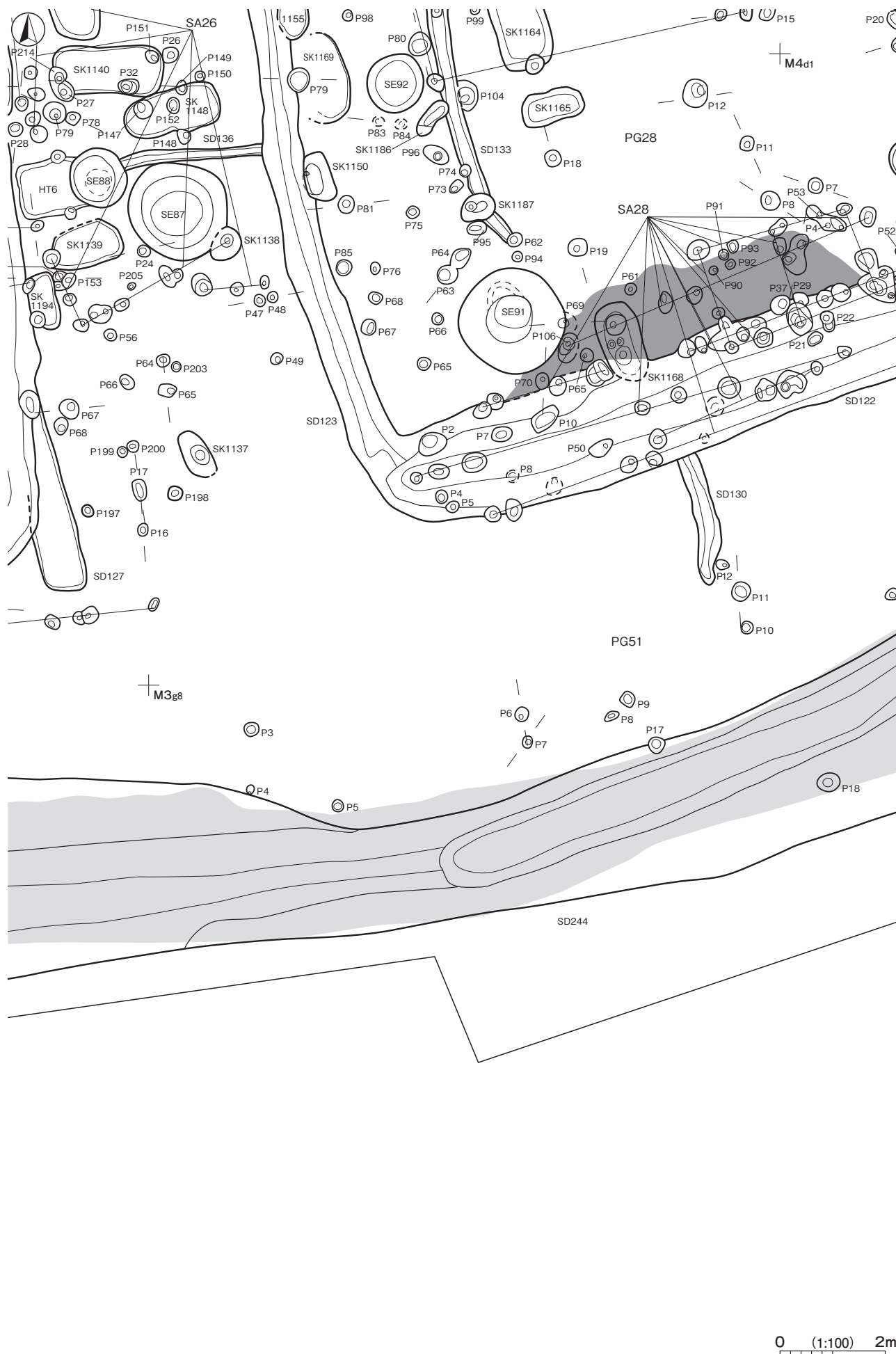
第 19 図 島名本田遺跡遺構平面図(14)



第 20 図 島名本田遺跡遺構平面図(15)



第 21 図 島名本田遺跡遺構平面図(16)



第 23 図 島名本田遺跡遺構平面図(18)

第3節 遺構と遺物

1 古墳時代の遺構と遺物

土坑1基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 土坑

第551号土坑（第24図 PL3・24）

位置 調査区南西部のM2e7区、標高22.5mほどの台地平坦部に位置している。

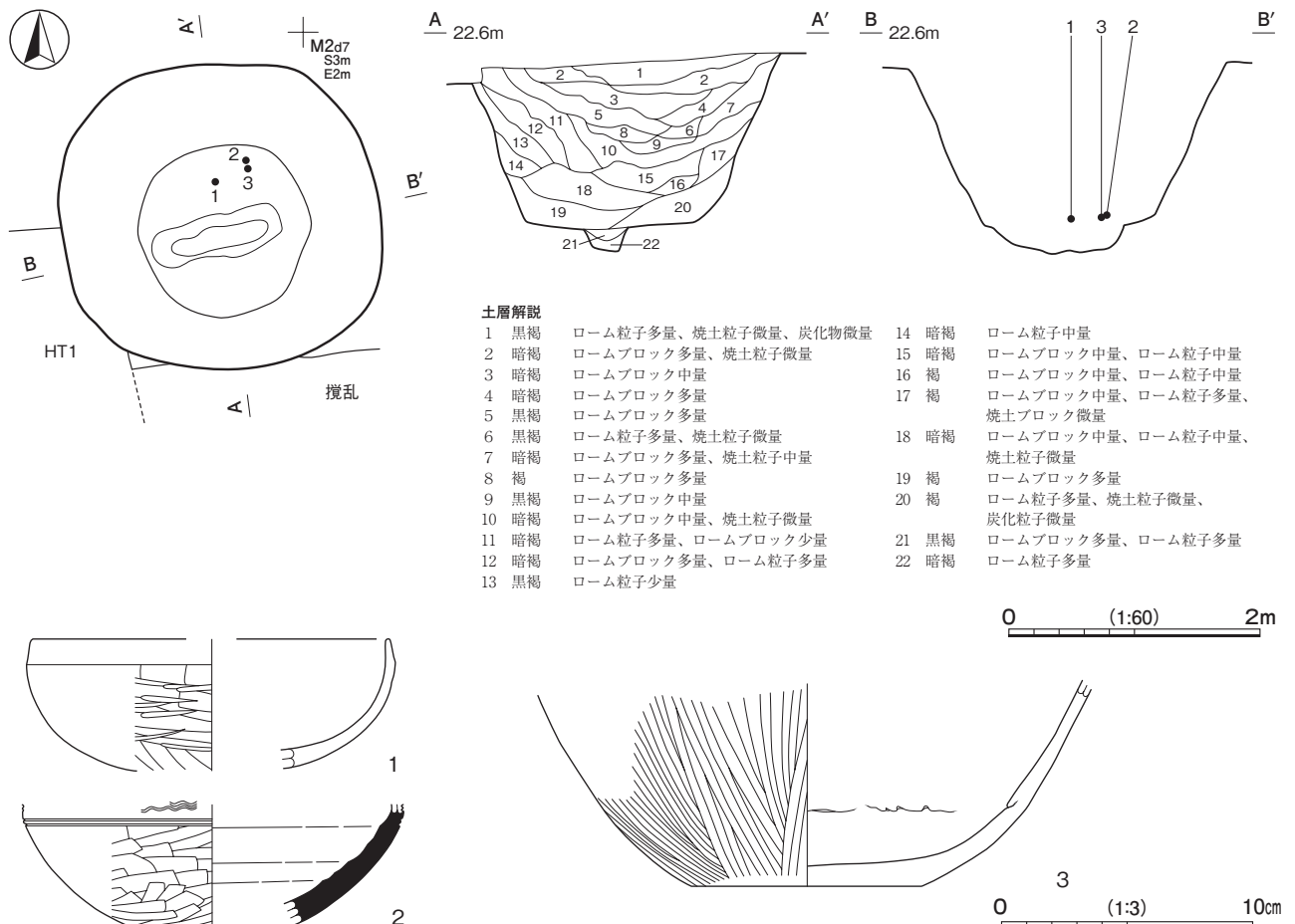
重複関係 第1号方形竪穴遺構に掘り込まれている。

規模と形状 長径2.53m、短径2.45mの円形である。壁高は152cmで、外傾して立ち上がっている。底面は平坦で、中央部に長さ110cm、上幅28～36cm、下幅14～19cmで、深さ16cmの溝状のピットを有している。

覆土 22層に分層できる。中層の第6・7層が焼土粒子を多く含むとともに、各層にわたりロームブロックが多く含み、不規則な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片23点（坏5、甕類18）、須恵器片1点（長頸瓶）が出土している。1～3は覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀後葉と考えられる。



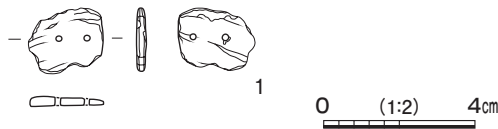
第24図 第551号土坑・出土遺物実測図

第2表 第551号土坑出土遺物一覧（第24図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[14.2]	(5.2)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部外面横位のナデ 体部ヘラ削り後磨き 内面ナデ	覆土下層	10% PL24
2	須恵器	長頸瓶	-	(4.8)	-	長石・石英	灰白	良好	体部上位にクシによる波状文 体部中位に平行沈線 体部下半ヘラナデ	覆土下層	10% PL24
3	土師器	甕	-	(8.2)	9.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部下半ヘラ磨き	覆土下層	15% PL24

(2) 遺構外出土遺物

遺構に伴わない主な遺物について、遺物実測図及び遺物一覧で記載する。



第 25 図 遺構外出土遺物実測図

第 3 表 遺構外出土遺物一覧 (第 25 図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1	石製模造品	(1.7)	(2.0)	0.3	(1.49)	滑石	有孔円板 孔径0.15cm	SF11	

2 奈良・平安時代の遺構と遺物

竪穴建物跡 2 棟、井戸跡 2 基、土坑 5 基を確認した。台地西部の平坦部 L 2 e4 区付近、台地北部で東側の谷にかかる L 3 c2 区付近、及び南東部の谷部分の M 3 a7 区付近から、ややまとまって確認されている。以下、遺構及び遺物について記述する。

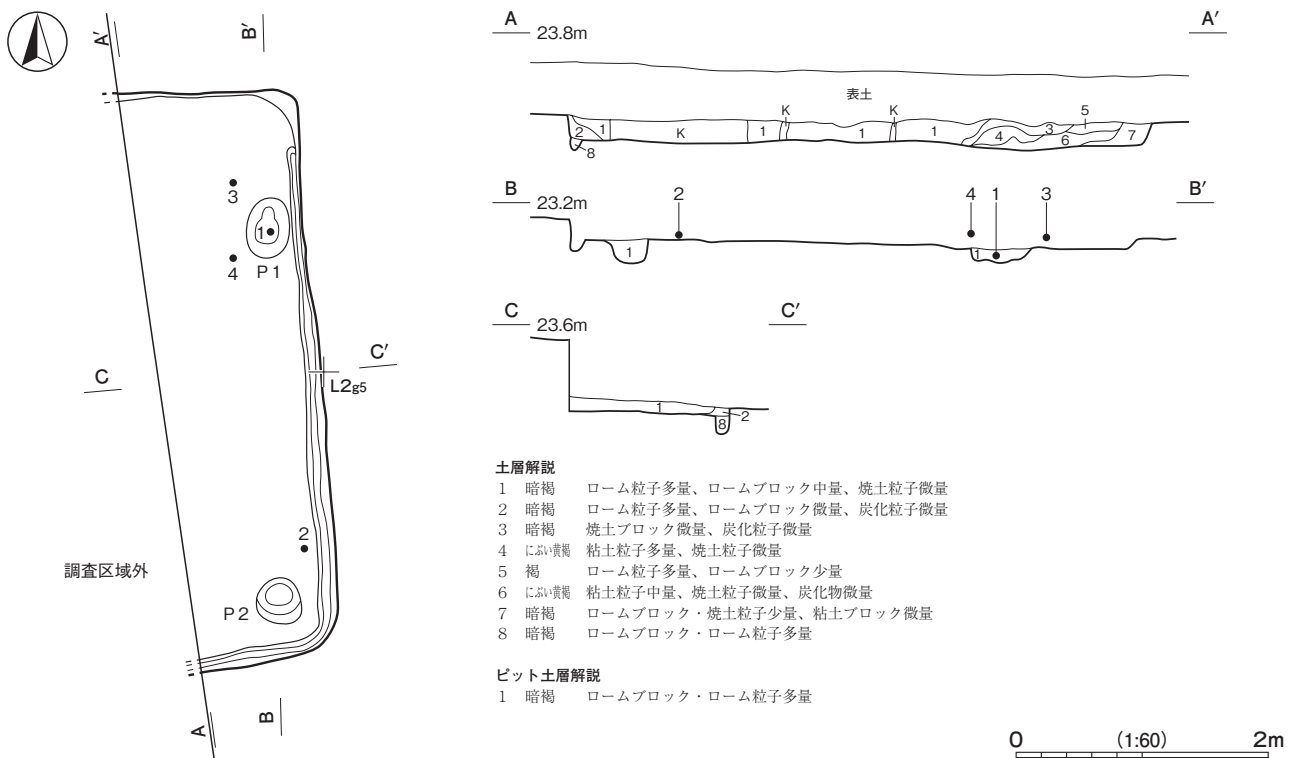
(1) 竪穴建物跡

第 109 号竪穴建物跡 (第 26・27 図 PL 3・24)

位置 調査区西部の L 2 e4 区、標高 23.0 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 大半が調査区外のため、確認できた南北軸は 4.55 m、東西軸が 1.30 m である。隅丸長方形と推定され、主軸方向は N - 4° - W である。壁は高さ 8 ~ 16 cm で、直立している。

床 平坦である。東壁際及び確認できた南壁際に壁溝が巡っている。



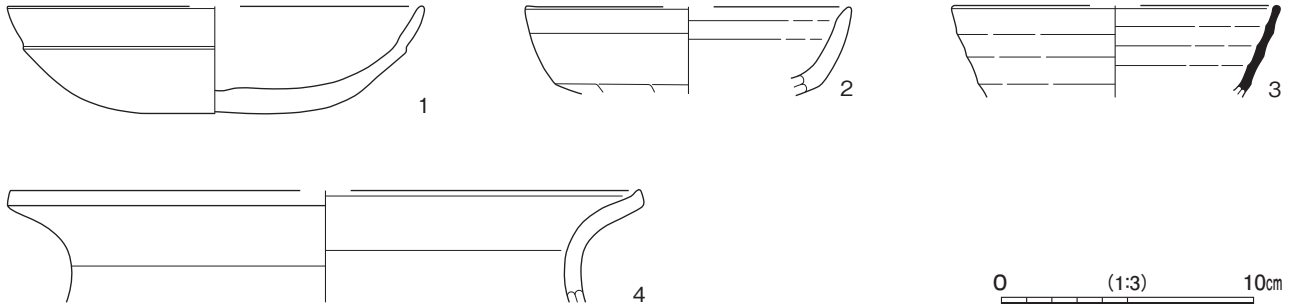
第 26 図 第 109 号竪穴建物跡実測図

ピット 2か所。P 1・P 2は深さ10・18cmである。

覆土 8層に分層できる。第3～7層は粘土粒子・焼土粒子・炭化粒子を多く含む覆土で、北壁から流れ込むように堆積していることから、調査区外に想定される本跡の北壁に竈が存在している可能性がある。第1層はローム粒子を多く含む暗褐色土で、レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片29点(坏6、甕類23)、須恵器片7点(坏6、蓋1)が出土し、小破片が多い。1はP 1の覆土中から、2～4は覆土下層から、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から、7世紀末から8世紀前葉と考えられる。



第27図 第109号竪穴建物跡出土遺物実測図

第4表 第109号竪穴建物跡出土遺物一覧(第27図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[16.4]	4.3	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外面横位のナデ 体部外面磨滅によりヘラ削りの有無不明 内面ナデ	P 1覆土	70% PL24
2	土師器	坏	[12.8]	(3.5)	-	長石・石英	赤褐	普通	口縁部外面横位のナデ 体部下半ヘラ削り	覆土下層	5%
3	須恵器	坏	[12.8]	(3.6)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	良好	ロクロ成形	覆土下層	10%
4	土師器	甕	[25.0]	(4.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部上端が突出する 口縁部外内面横位のナデ	覆土下層	5%

第111号竪穴建物跡(第28・29図 PL 3・24)

位置 調査区北部のL 3c2区、標高21.0mほどの台地斜面部から谷部にかけて位置している。

重複関係 第1184号土坑を掘り込み、第141号溝、第1185・1222号土坑に掘り込まれている。重複している第1209号土坑との関係は不明である。

規模と形状 重複のため、北壁が不明瞭ではあるが、長軸3.72m、短軸3.35mの隅丸長方形で、主軸方向はN-7°-Wである。壁は高さ15～40cmで、外傾している。

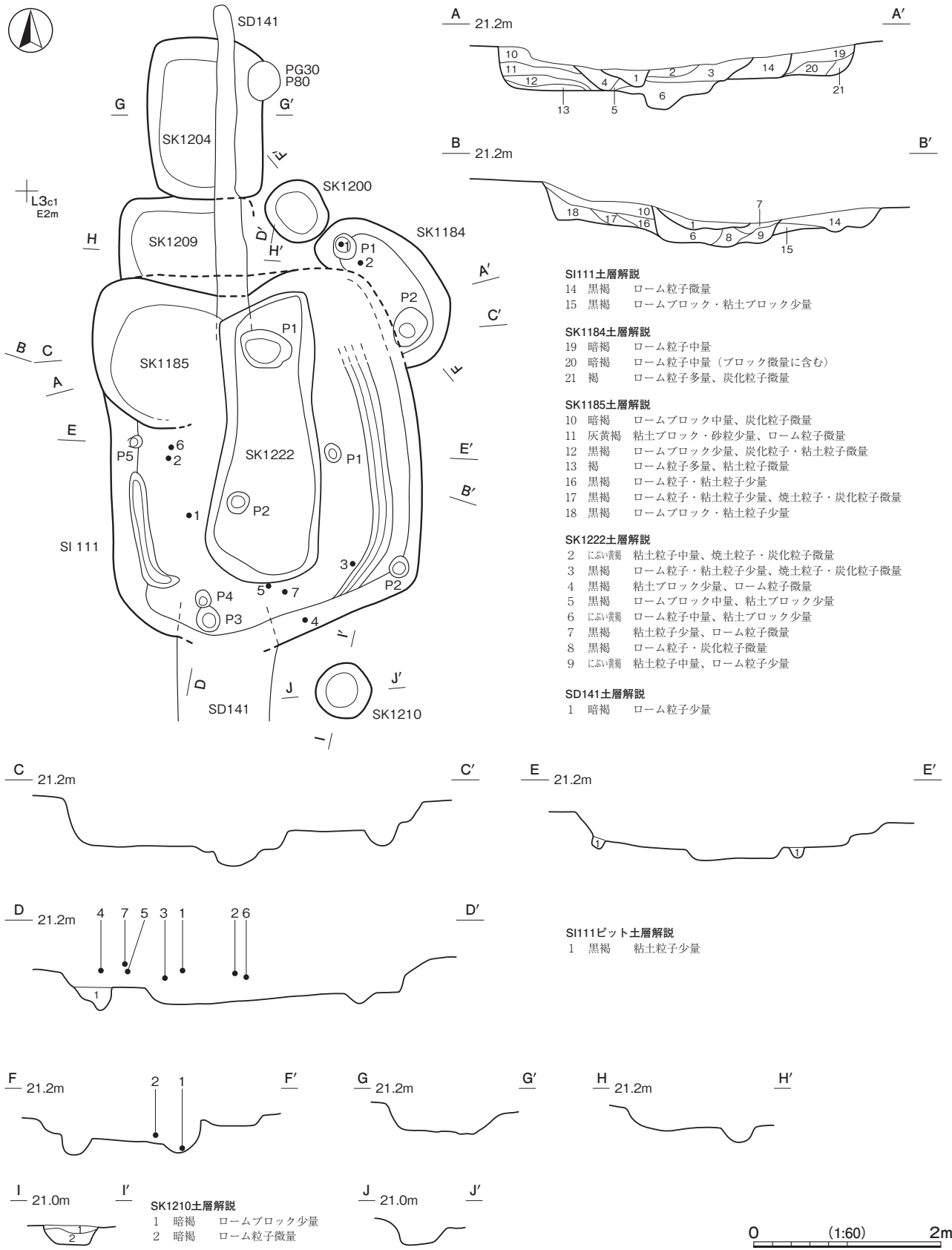
床 平坦で、中央部に向かって傾斜している。西壁南側の際に壁溝が巡っている。東壁側は、壁から約40cm内側に浅い溝が巡っている。硬化面は確認できなかった。

ピット 5か所。各ピットは径が15～30cm、深さはP 1が13cm、P 2が16cm、P 3が18cm、P 4が27cm、P 5が16cmで、P 1を除いて壁際に位置している。性格は不明である。

覆土 第14・15層の2層が該当する。第10～13・16～18層は、第1185号土坑に帰属する可能性が高い。

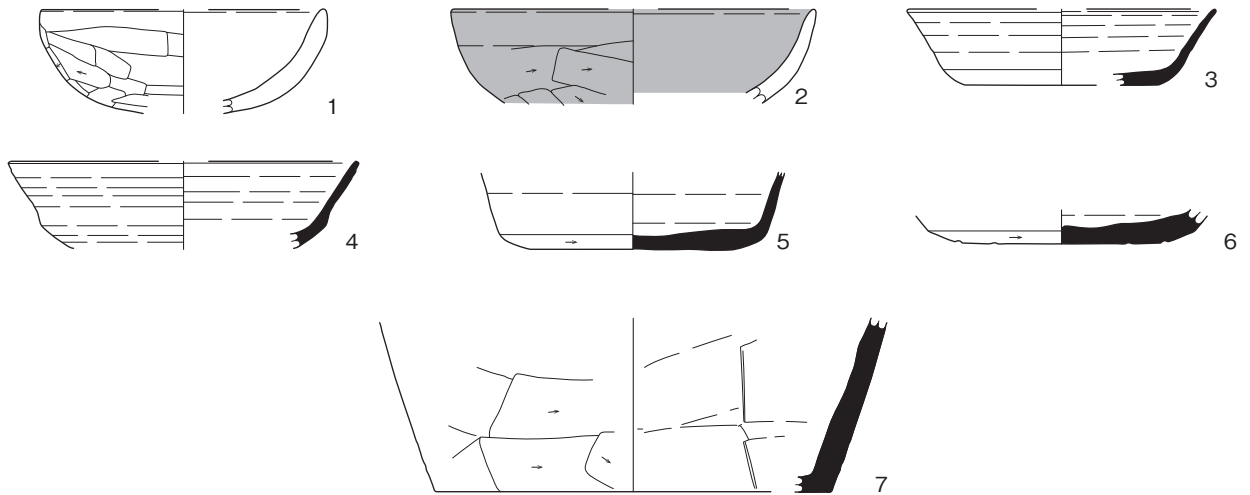
遺物出土状況 土師器片33点(坏5、甕類28)、須恵器片10点(坏9、鉢1)が出土し、小破片が多い。南部の覆土上層から多く出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀前葉と考えられる。重複が著しいことなどから、不明瞭な部分が多い。規模が4m弱と小型で、床も高低差があり、竈などの内部施設が明確でないことなどから、竪穴建物ではなく、竪穴遺構や大型の土坑の可能性もある。

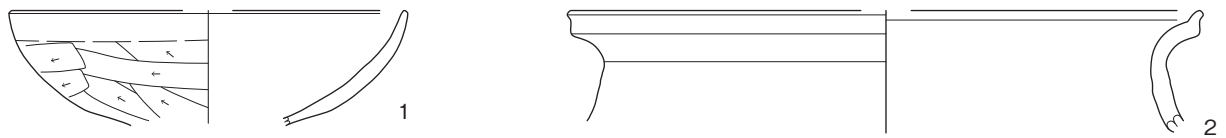


第 28 図 第 111 号竪穴建物跡、第 1184・1185・1200・1204・1209・1210・1222 号土坑実測図

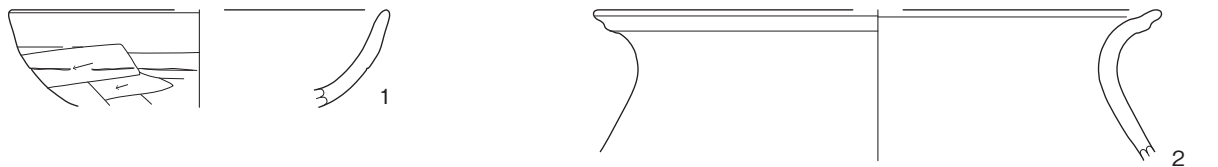
SI 111



SK1184



SK1185



0 (1:3) 10cm

第 29 図 第 111 号竪穴建物跡、第 1184・1185 号土坑出土遺物実測図

第 5 表 第 111 号竪穴建物跡出土遺物一覧 (第 29 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[11.2]	(4.1)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面口縁部横位のナデ 体部ヘラ削り 内面ナデ	西部覆土上層	20% PL24
2	土師器	坏	[14.5]	(3.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	外面口縁部横位のナデ 体部ヘラ削り 内面横位のナデ 黒色処理	西部覆土上層	10%
3	須恵器	坏	[12.2]	3.0	[7.4]	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	南東部覆土上層	10% 新治窯
4	須恵器	坏	[13.8]	(3.4)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	外・内面ロクロナデ	南壁際覆土上層	20% 新治窯
5	須恵器	坏	-	(3.0)	[7.8]	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端・底部回転ヘラ削り	南部覆土上層	20% PL24 新治窯
6	須恵器	坏	-	(1.3)	[8.0]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端・底部回転ヘラ削り	西部覆土上層	20% 新治窯 SK1185 と接合
7	須恵器	鉢	-	(6.8)	[15.7]	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部ヘラ削り 内面ヘラナデ	南部覆土上層	10% 新治窯

第 6 表 第 1184・1185 号土坑出土遺物一覧 (第 29 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1184-1	土師器	坏	[15.6]	(4.4)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面口縁部横位のナデ 体部ヘラ削り 内面ナデ	P 1 底面	10%
1184-2	土師器	甕	[25.0]	(4.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ	北部覆土下層	5%
1185-1	土師器	坏	[14.8]	(3.9)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面口縁部横位のナデ 体部ヘラ削り 内面ナデ	覆土	10%
1185-2	土師器	甕	[22.2]	(6.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ	覆土	5%

第 7 表 奈良・平安時代竪穴建物跡一覧

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設				覆土	主な出土遺物	時期	備考	
				長軸×短軸 (m)					主柱穴	出入口	ピット	炬・竈					貯蔵穴
109	L 2e4	N - 4° - W	隅丸長方形	4.55×(1.30)		8 ~ 16	平坦	一部	-	-	2	-	-	自然	坏 蓋 甕類	7 C 末 ~ 8 C 前葉	
111	L 3c2	N - 7° - W	隅丸長方形	(3.72)×3.35		15 ~ 40	平坦	一部	-	-	5	-	-	自然	坏 鉢 甕類	8 C 前葉	東壁が有段

(2) 井戸跡

第 11 号井戸跡 (第 30 図 PL 3)

位置 調査区南部のM3f4区、標高 21.0 mほどの台地平坦部に位置している。

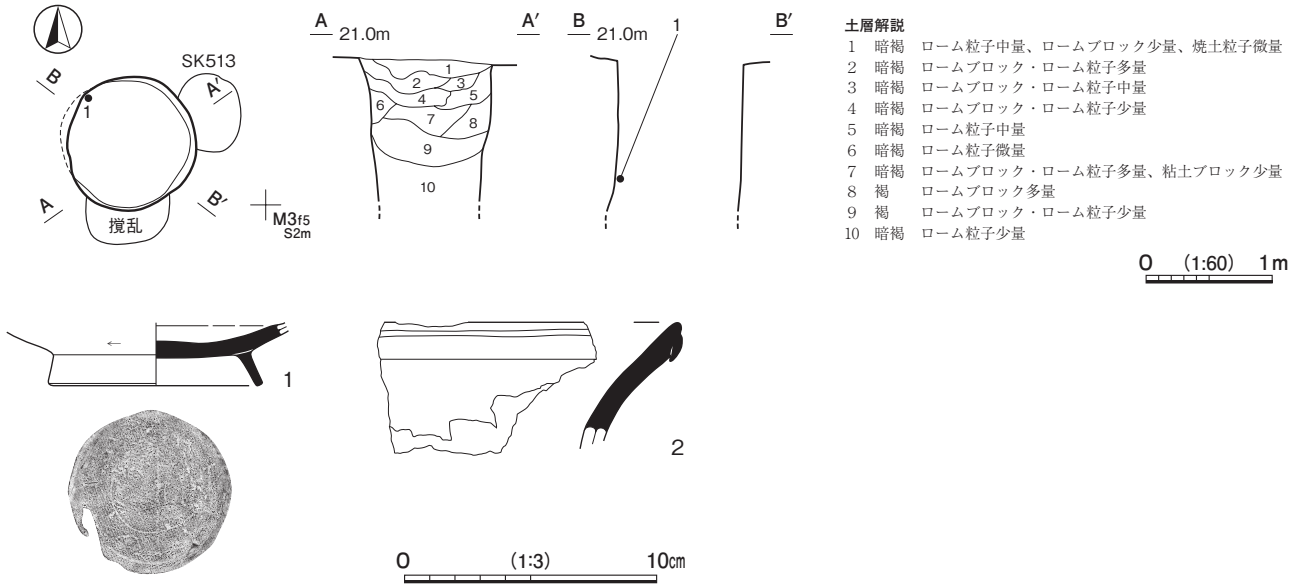
重複関係 第 513 号土坑との関係は不明である。

規模と形状 長軸 1.05 m、短軸 1.01 mの円形で、円筒状に掘り込んでいる。崩落の恐れがあったため、確認面から深さ 124cmまでの調査とした。

覆土 10層を確認した。各層にわたりロームブロックを多く含み、不規則な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片 2 点 (坏、甕類)、須恵器片 2 点 (盤、甕) が出土している。1 は覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から 9 世紀後葉と考えられる。



第 30 図 第 11 号井戸跡・出土遺物実測図

第 8 表 第 11 号井戸跡出土遺物一覧 (第 30 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	須恵器	盤	-	(2.5)	8.1	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部下端・底部回転ヘラ削り	覆土下層	40%
2	須恵器	甕	-	(5.5)	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	口縁部ロクロナデ	覆土	5%

第 102 号井戸跡 (第 31 図 PL 3・24)

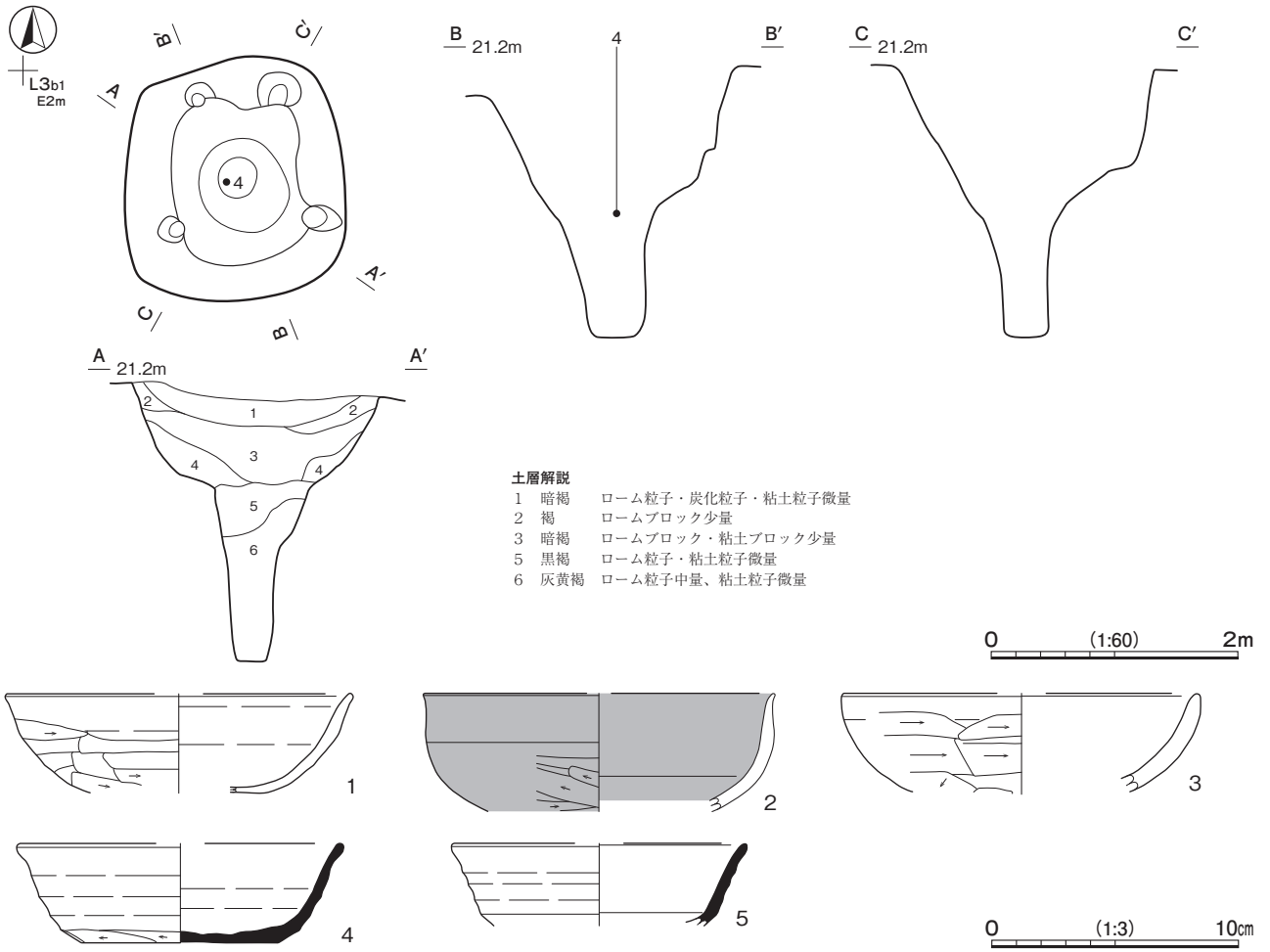
位置 調査区北部のL3b1区、標高 22.0 mほどの台地斜面部に位置している。

規模と形状 長軸 2.0 m、短軸 1.8 mの隅丸方形で、長軸方向はN-0°である。確認面から 120cmまでは漏斗状に掘り込み、中段の四隅に径 20~40cmのピットを有する。それ以下は長径 0.8 m、短径 0.7 m、深さ 100cmの円筒状に掘り込んでいる。

覆土 6層に分層できる。下部の第6層は、土質から埋め戻された可能性がある。第1~5層は暗褐色土などがレンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 土師器片 36 点 (坏 8、甕類 27、甗 1)、須恵器片 6 点 (坏 1、高台付坏 1、鉢・甕類 3、甗 1) が出土している。ほかに混入した土師器 1 点 (高坏) が出土している。覆土上層からの出土が多く、4 は覆土中層下部から出土している。

所見 時期は、遺構の形状や出土土器から 8 世紀前葉と考えられる。



第31図 第102号井戸跡・出土遺物実測図

第9表 第102号井戸跡出土遺物一覧 (第31図)

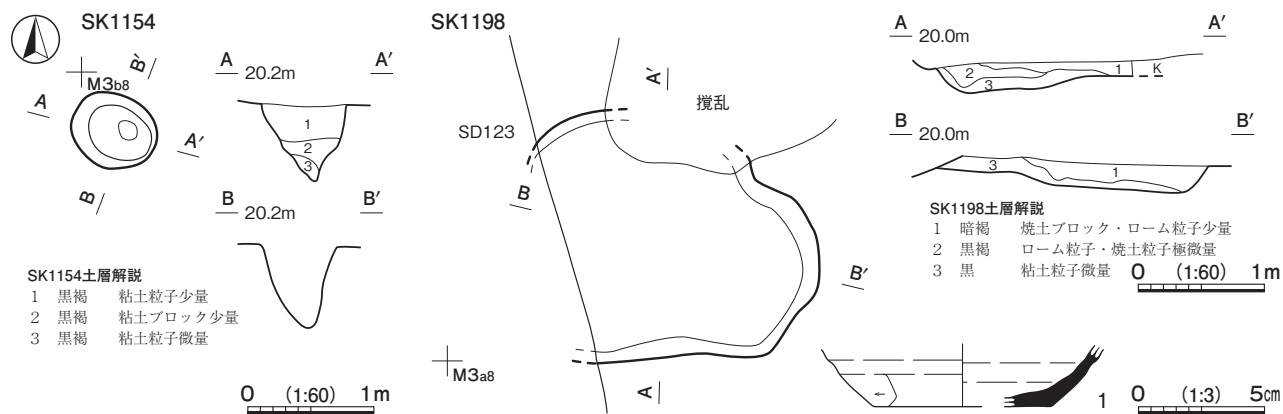
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[14.2]	(4.1)	[3.6]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	外面口縁部横位のナデ 体部ヘラ削り 内面ナデ	覆土上層	10%
2	土師器	坏	[14.2]	(4.8)	-	石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面口縁部横位のナデ 体部ヘラ削り 内面横位のナデ 黒色処理	覆土上層	10%
3	土師器	坏	[14.4]	(4.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	外面口縁部横位のナデ 体部ヘラ削り 内面ナデ	覆土中層	10%
4	須恵器	坏	[13.0]	4.0	[8.0]	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	覆土中層	40% PL24 新治窯
5	須恵器	高台付坏	[12.0]	(3.4)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	ロクロナデ	覆土上層	10% 新治窯 内面煤付着

第10表 奈良・平安時代井戸跡一覧

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
11	M 3 f4	-	円形	1.05 × 1.01	(124)	円筒状	-	人為	坏 盤 甕類	SK513と重複
102	L 3 b1	N - 0°	隅丸方形	2.00 × 1.80	220	漏斗状・円筒状	平坦	自然・人為	坏 鉢類 甕類 甌	ビット4基

(3) 土坑

5基を確認した。第1184・1185・1209号土坑は、いずれも第111号竪穴建物跡と重複するもので、第1209号土坑は重複関係が不明である。第1154・1198号土坑は、南東部の谷部で確認した。第1198号土坑は、形状、底面とも不整である。時期は、いずれも出土土器から8世紀前葉と考えられる。なお、第1198号土坑から5m南東に位置する第1217号土坑からも、比較的まとまった量の土師器や須恵器が出土しているが、遺構の形状から後代のものと判断した。以下、遺物実測図及び遺物一覧で記載する。



第32図 第1154・1198号土坑・出土遺物実測図

第11表 第1198号土坑出土遺物一覧（第32図）

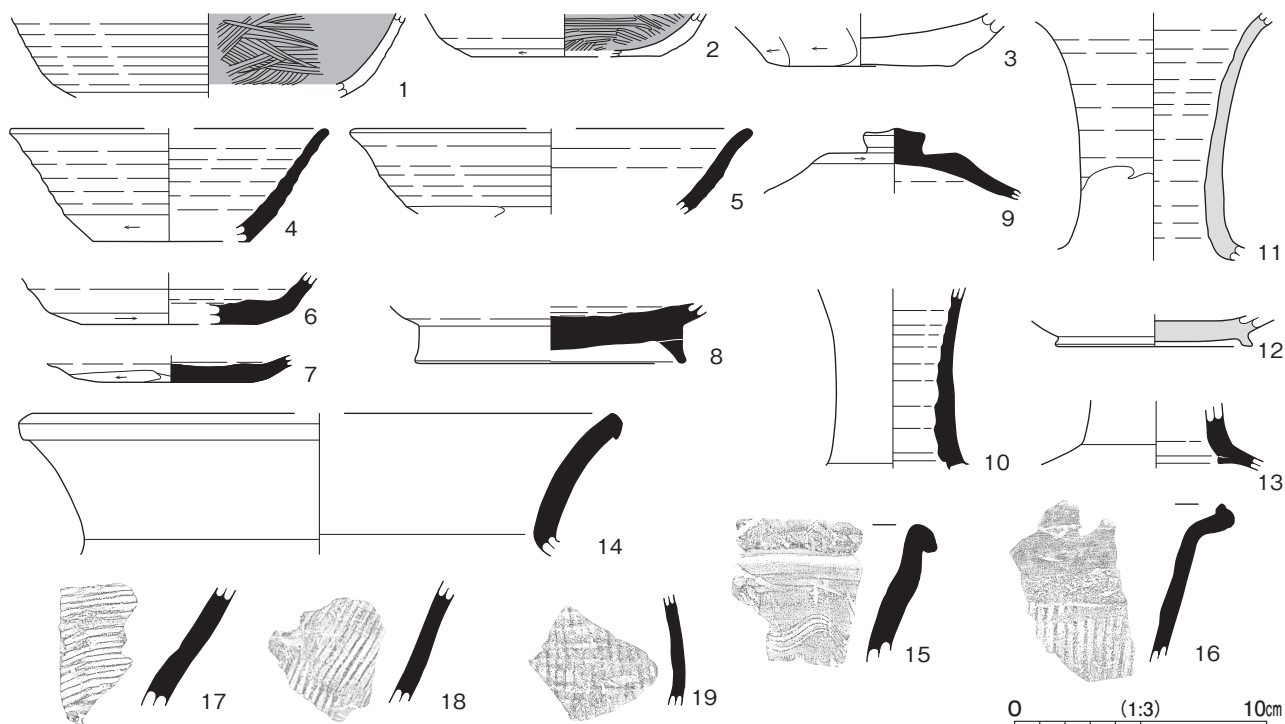
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1198-1	須恵器	坏	-	(2.5)	[7.0]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	覆土	5% 新治窯

第12表 奈良時代土坑一覧

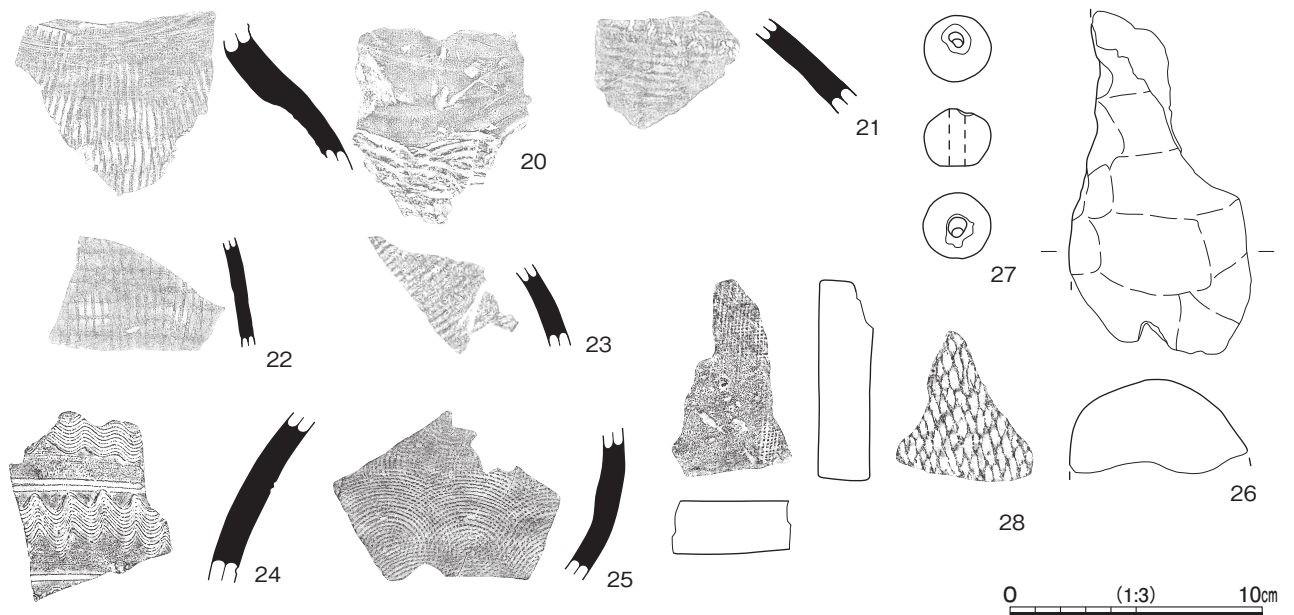
番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
1154	M3b8	N-74°-W	楕円形	0.69×0.59	65	外傾	皿状	自然	坏 甕類	
1184	L3c2	N-40°-W	楕円形	1.76×[0.90]	30	外傾	皿状	自然	坏 甕類	第28図 本跡→SI111 ビット2基
1185	L3c1	N-41°-W	楕円形	[1.75]×1.55	50	外傾	平坦	自然	坏 甕	第28図 SI111→本跡 →SD141、SK1222
1198	L3j8	N-43°-W	不整楕円形	2.45×2.02	23	外傾	凹凸	自然	坏 甕類	本跡→SD123
1209	L3c1	N-0°	[方形]	(1.00)×(1.00)	26	外傾	平坦	-	甕類 砥石	第28図 本跡→SD141

(4) 遺構外出土遺物

遺構に伴わない主な遺物について、遺物実測図及び遺物一覧で記載する。



第33図 遺構外出土遺物実測図(1)



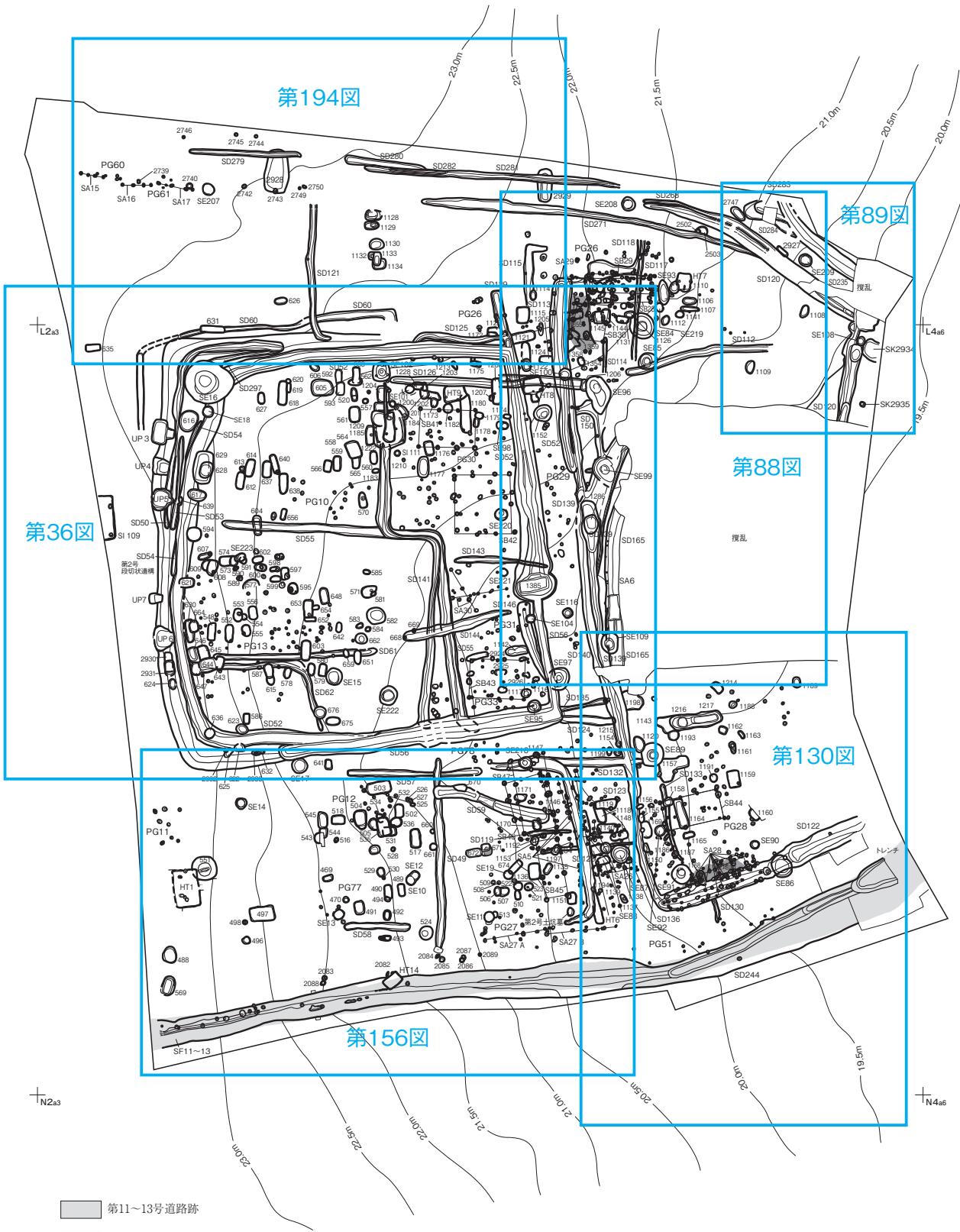
第 34 図 遺構外出土遺物実測図(2)

第 13 表 遺構外出土遺物一覧 (第 33・34 図 PL24)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	-	(3.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	ロクロ成形 内面ヘラ磨き 黒色処理	SD132	5%
2	土師器	坏	-	(1.7)	(7.5)	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部下端～底面回転ヘラ削り 内面磨き 黒色処理	SK1217	5%
3	土師器	甕	-	(2.1)	[7.3]	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	外面下端部・底面ヘラ削り 内面ヘラナデ	SD132	10%
4	須恵器	坏	[12.3]	4.5	[6.3]	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端回転ヘラ削り	SK1217	10% 新治窯
5	須恵器	坏	[15.7]	(3.4)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り	SD132	10% 新治窯
6	須恵器	坏	-	(2.1)	[7.0]	長石・石英	灰	普通	体部下端～底面回転ヘラ削り	SD118	10% 新治窯
7	須恵器	坏	-	(1.2)	[6.0]	石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り	PG27 P 174	15% 新治窯
8	須恵器	盤	-	(2.4)	10.7	長石・石英	黄灰	普通	ロクロナデ	SK1217	40% 新治窯
9	須恵器	蓋	摘み 径 2.4	(2.6)	-	長石・石英	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	SD122	20% 新治窯
10	須恵器	長頸瓶	-	(7.4)	-	黒色粒子	灰	良好	ロクロナデ	SF11	5%
11	灰釉陶器	長頸瓶	-	(9.7)	-	長石・石英	明オリープ 灰	普通	ロクロナデ 釉は掛け流しカ	SE90	10% PL24 猿投窯カ
12	灰釉陶器	皿	-	(1.2)	7.8	精良	灰白	良好	底部回転ヘラ削り 高台は断面形状が角高台で、短く外に開いて外端で接地 内面施釉	SD52	15% 黒笹 14号窯式
13	須恵器	長頸瓶	-	(2.7)	-	長石	灰黄	良好	ロクロナデ 頸部二段構成	SD52	5%
14	須恵器	甕	[23.0]	(5.6)	-	長石	黒褐	良好	ロクロナデ 内面自然釉	SD52	5% PL24
15	須恵器	甕	-	(5.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	頸部に櫛歯状工具による波状文	SD122	5% 新治窯
16	須恵器	鉢	-	(6.3)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	外面縦位の平行叩き	SD122	5% 新治窯
17	須恵器	甕	-	(4.7)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	外面横位の平行叩き	SK1217	5% 新治窯
18	須恵器	甕	-	(4.9)	-	長石・石英	褐灰	普通	外面横位の平行叩き	SK1217	5% 新治窯
19	須恵器	甕	-	(4.4)	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外面縦位の平行叩き	SK1217	5% 新治窯
20	須恵器	甕	-	(5.8)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	外面縦位の平行叩き 内面同心円当て具痕	SD122	5% 新治窯
21	須恵器	甕	-	(3.7)	-	長石・石英	灰	普通	外面斜位の平行叩き	SK1217	5% 新治窯
22	須恵器	甕	-	(4.4)	-	長石・雲母	黄灰	普通	外面縦位の平行叩き	SK1217	5% 新治窯
23	須恵器	甕	-	(3.2)	-	長石・石英・雲母	灰白	普通	外面縦位の平行叩き	SK1193	5% 新治窯
24	須恵器	甕	-	(6.8)	-	長石・石英	灰	良好	平行沈線 12 状 1 単位のカシによる波状文 内面自然釉	SD56	5% PL24
25	須恵器	甕	-	(6.1)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	良好	外面同心円文の叩き	HD	5% PL24

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
26	支脚	(13.7)	(7.2)	(4.3)	(249.66)	長石・石英	明黄褐	ナデ成形	SE96	
27	土玉	2.6	2.7	2.3	16.31	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい橙	ナデ成形	HT 7	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
28	転用砥石	(8.1)	(5.5)	(2.1)	(87.04)	長石・石英・雲母	にぶい褐	平瓦片の短軸二側縁を砥面 凹面布目痕 凸面縄叩き	第 2 号 段切状遺構	



第 35 図 島名本田遺跡第 1～3 号区画区割図



第36图 鳥名本田遺跡第1号区画全体图

3 中・近世の遺構と遺物

段切状遺構1か所、溝跡55条、道路跡3条、掘立柱建物跡10棟、方形竪穴遺構6棟、井戸跡39基、土坑283基、土坑墓1基、地下式坑5基、柱穴列10条、ピット群16か所などを確認した。遺構の分布状況から、溝で方形に区画し、それに付随するように各遺構が存在している様子が看守されるため、溝で囲まれた区画を一つの単位と想定し、区画ごとに各遺構を報告する。

第1号区画は、調査区中央部に位置している第52号溝、第56号溝などで区画した東西約41m、南北約45mの方形区画である。西部は第2号段切状遺構により、台地斜面部を段切りして平坦面を造り出し、東部は調査区のほぼ中央部を溝により圍繞している。第1号区画の北側は、東西に伸びる第271・279～282号溝までの約15mほどが遺構の空白域となっており、幾つかの土坑や柵列が確認できる程度である。

第2号区画は、調査区東部の第113号溝、第118・120号溝、第122・123号溝、第139・140・169号溝などで区画した範囲で、東部が調査区外のため、確認できた範囲は南北約65m、東西は約25mである。ただし、この区画は中央部の東西25m、南北25mの範囲が攪乱されていたため、内部の状況は不明である。よって、便宜的に攪乱までの南北約40mを第2号区画（北）、攪乱から第122号溝までの南北約20mを第2号区画（南）として報告する。なお、第2号区画（南）の南東部は遺構が少ない。これは湧水と黒色土中の遺構確認であったことも影響しているが、詳細は不明である。

第3号区画は、調査区南西部に位置し、北側は第57号溝、東側は第128号溝、南側は第58号溝で区画している。規模は、西側に溝が確認されていないが、東西約30m、南北約18mと捉えられる。

第2・3号区画の南側には、第244号溝（第11～13号道路跡）が区画と並行するように東西に位置しており、その間の4mほどには遺構がほとんどなく、通路状になっている。第1～3号区画も、それぞれ3～5mの間隔で配置されており、しかも通路状である。この通路状部分にも、方形竪穴遺構や井戸跡、土坑、多数のピットなどが確認されており、特に第2号区画（南）と第3号区画の間の部分では、別の区割りも視野に入れるべきであるが、現況では区画の存在を把握できないため、区画周辺の遺構として報告する。

各区画内からは、掘立柱建物跡や方形竪穴遺構、井戸跡、土坑、多数のピットが確認されている。また区画内には、主軸方向を同じくする溝や直交する溝などが確認されている。重複関係や出土遺物などから、各遺構は中世後半から近世初期までの変遷過程が認められるが、ここでは区画内及びその周辺として列記し、時間的変遷等については総括で示す。

多数確認されたピットについては、規模や形状、覆土、柱筋などを検討して、いくつかを掘立柱建物跡や柱穴列として整理した。この際、変更による図面・遺物・写真類の煩雑を避けるため、遺構番号の振り替えは行わず旧番号（PG〇P〇など）のまま整理した。

(1) 第1号区画とその周辺の遺構と遺物

ア 段切状遺構

第2号段切状遺構（第37・38図 PL4・25）

位置 第1号区画の西部を区画している段切状遺構で、L3a1区～M2b9、標高21.0～23.0mの台地斜面部に位置している。

重複関係 第52号溝跡、第3～7号地下式坑を掘り込んでいる。重複している第624・2930・2931号土坑との関係は不明である。

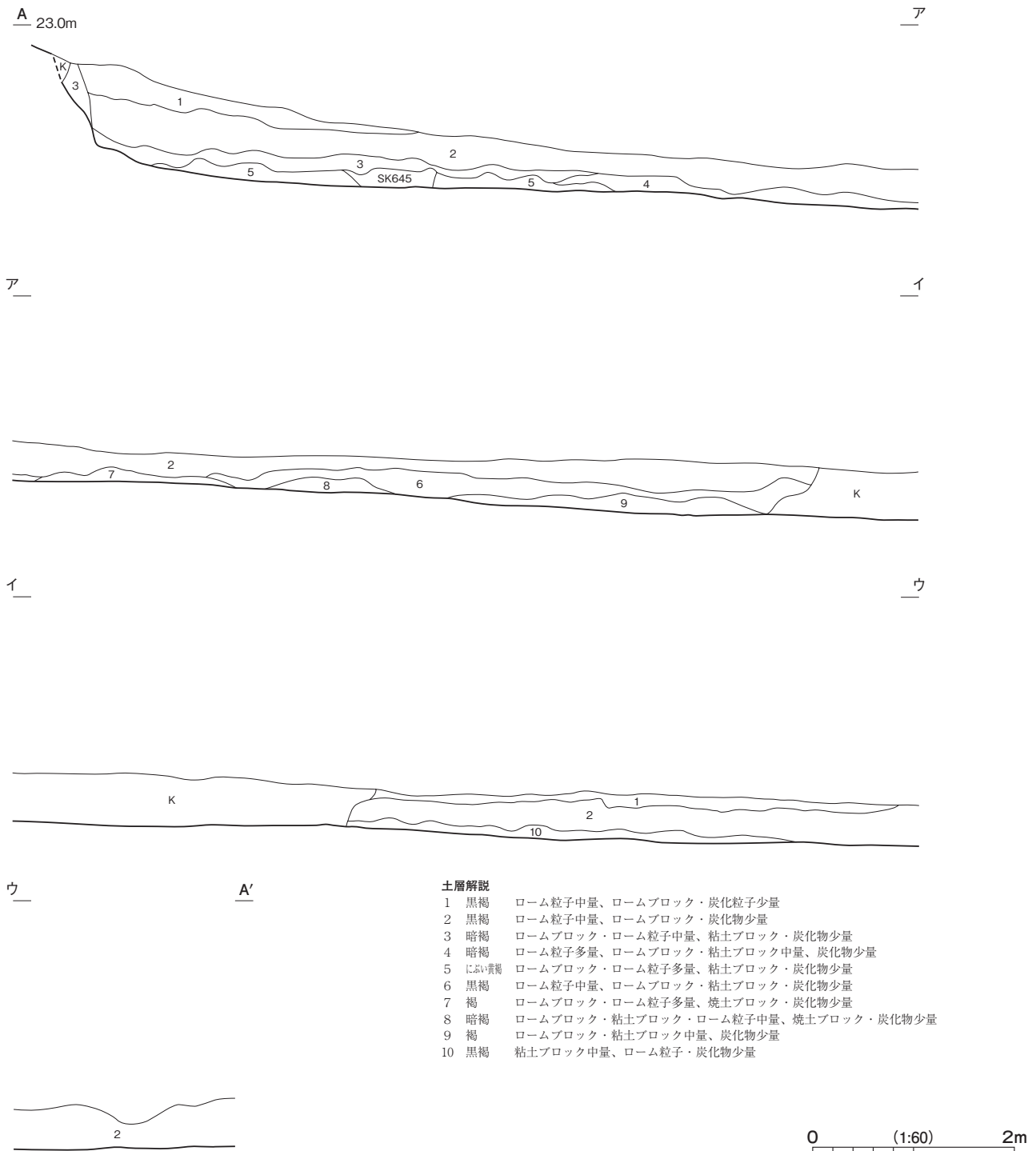
規模と形状 調査区東側へ向かって緩やかに傾斜している斜面地を掘削して、平坦地を造成している。平面形は東に開くコの字形を呈し、最も高さのある西部の南北方向（N-4°-E）に伸びる段の長さは44.0mを測り、両端でそれぞれ東へ屈曲している。南部と北部の段は東へ行くほど高さがなくなり、南部が東西方向（N-84°-E）へ10m、北部が東西方向（N-82°-E）へ22mで、それぞれほぼ平坦になる。南部の段の方向は、第56号溝の南部の主軸方向とはほぼ一致している。壁は外傾して立ち上がり、最も高低差のある西部の高さは70～102cmである。

覆土 段が明瞭に確認できる第1号区画の西半部に堆積し、10層に分層できる。第1・2層は緩斜面に沿って緩や

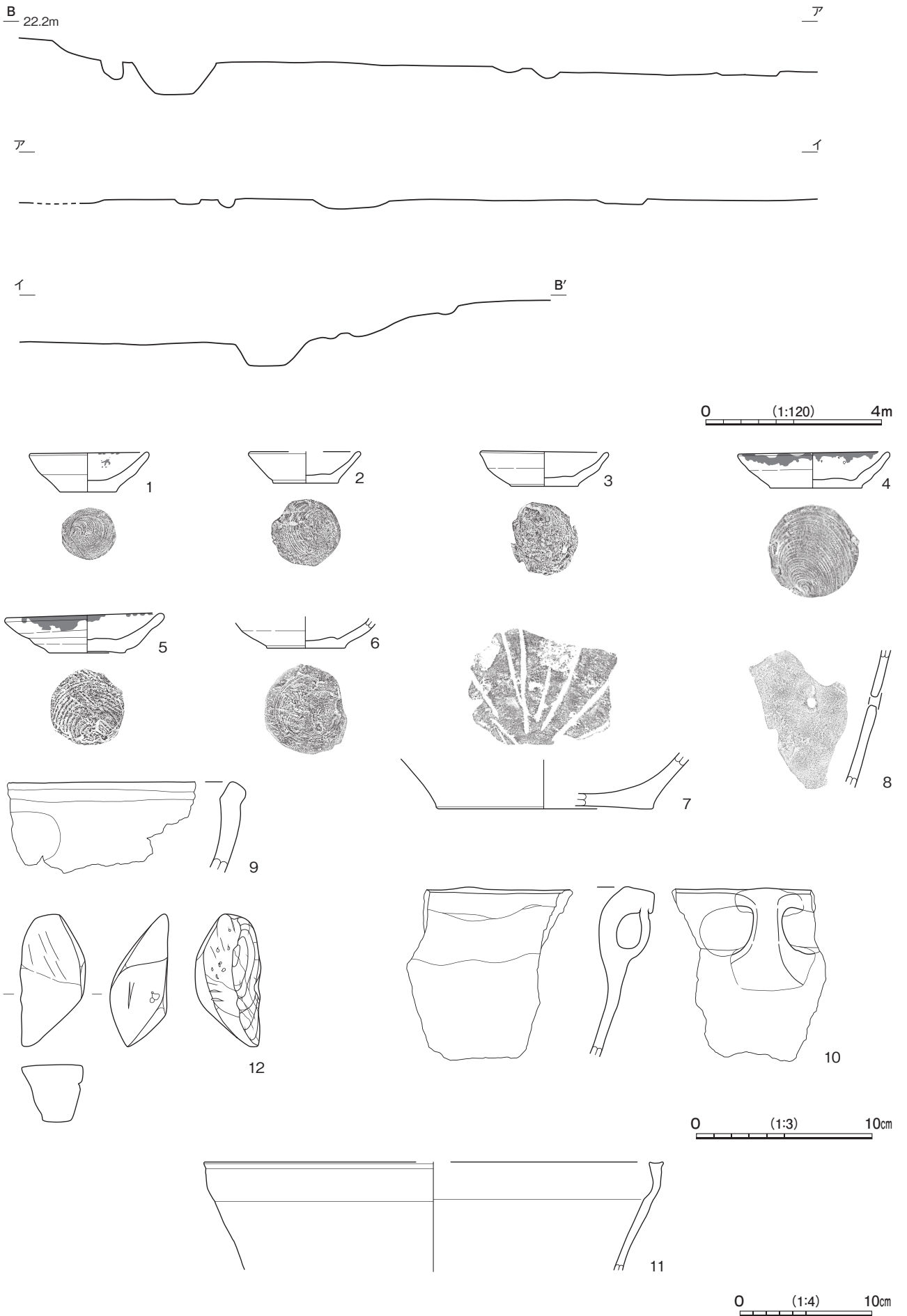
かに堆積していることから、自然堆積と考えられる。第3～10層はロームブロックと炭化物を多く含むため、人為堆積の可能性はある。

遺物出土状況 土師質土器 148 点（皿 10、播鉢 3、内耳鍋 135）、陶器 7 点（碗 3、皿 2、甕 2）、石器 1 点（砥石）、鉄製品 2 点（刀子）が出土している。ほかに混入した土師器片 58 点（坏 6、高台付坏 1、高坏 1、甕類 50）、須恵器片 11 点（坏 2、甕 9）、磁器 3 点（碗）が出土している。出土遺物は、1・3が16世紀前半の土師質土器皿、4が15世紀前半の土師質土器皿で、いずれも覆土中から出土している。

所見 本跡南部の段の主軸方向と第56号溝跡南部の主軸方向がほぼ一致することから、両跡は関連性が強く、第1号区画は、両跡で区画していた一定の時期があったと想定できる。時期は、本跡が第52号溝跡より新しいことや、出土土器から16世紀前半と考えられる。



第37図 第2号段切状遺構実測図



第38図 第2号段切状遺構・出土遺物実測図

第14表 第2号段切状遺構出土遺物一覧（第38図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	6.7	2.3	3.0	長石・石英	明赤褐	普通	小型 口縁部直線的な立ち上がり 底部回転糸切り	覆土	100% PL25 外面煤付着
2	土師質土器	皿	[6.0]	1.8	3.7	長石・石英	にぶい橙	普通	小型 口縁部直線的な立ち上がり 底部回転糸切り	覆土	70%
3	土師質土器	皿	7.1	2.0	3.7	長石・石英	にぶい黄橙	普通	小型 口縁部緩やかな立ち上がり 底部回転糸切り	覆土	90%
4	土師質土器	皿	8.5	2.1	5.1	長石・石英・ 赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部直線的な立ち上がり 底部回転糸切り	覆土	100% PL25 口縁部油煙付着
5	土師質土器	皿	8.7	2.2	4.2	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部直線的な立ち上がり 底部回転糸切り	覆土	100% PL25 口縁部油煙付着
6	土師質土器	皿	-	(1.8)	4.3	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部緩やかな立ち上がり 底部回転糸切り	覆土	40%
7	土師質土器	播鉢	-	(2.8)	[6.0]	長石・石英・雲母	赤褐	普通	単沈線による播目	覆土	5%
8	土師質土器	内耳鍋	-	(7.9)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部直線的な立ち上がり 補修孔	覆土	5% 外面煤付着
9	土師質土器	内耳鍋	-	(5.3)	-	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	暗褐	普通	体部緩やかな立ち上がり	覆土	5% 外面煤付着
10	土師質土器	内耳鍋	-	(10.0)	-	長石・石英・雲母	褐	普通	口縁部緩やかな立ち上がり 耳断面紐状	覆土	5% PL25 外面煤付着
11	土師質土器	内耳鍋	[34.8]	(8.3)	-	長石・石英・雲母	赤褐	普通	口縁部内湾して立ち上がり	覆土	10% 外面煤付着

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
12	砥石	7.6	3.8	3.4	91.37	凝灰岩	砥面3面 左側面荒割りの剥離痕	覆土	PL25

イ 溝跡

第1号区画には、第52・56号溝のほか、第52号溝の北東隅部から北に延びる第129号溝、第52号溝の北辺部に一部並行して東西に延びる第125号溝、区画南東部の第56号溝と一部並行している第146号溝、区画内を南北に縦断している第141号溝、区画内を東西に横断している第55・61・62・126・143・144号溝、区画の南東隅部で第56号溝の延長線上に位置している124・135号溝がある。このうち、南北に縦断している第141号溝は、現在の地割と一致することから、近世以降のものである可能性が高い。区画外を含めると、第141号溝と軸方向が一致する第49・121号溝、これらと直交方向に延びる第125・126・143号溝も同時期の可能性がある。以下、第1号区画の第52・56号溝を中心に記述し、それ以外については実測図と一覧で記載する。

第52号溝跡（第39～43図 PL4・5・25～28）

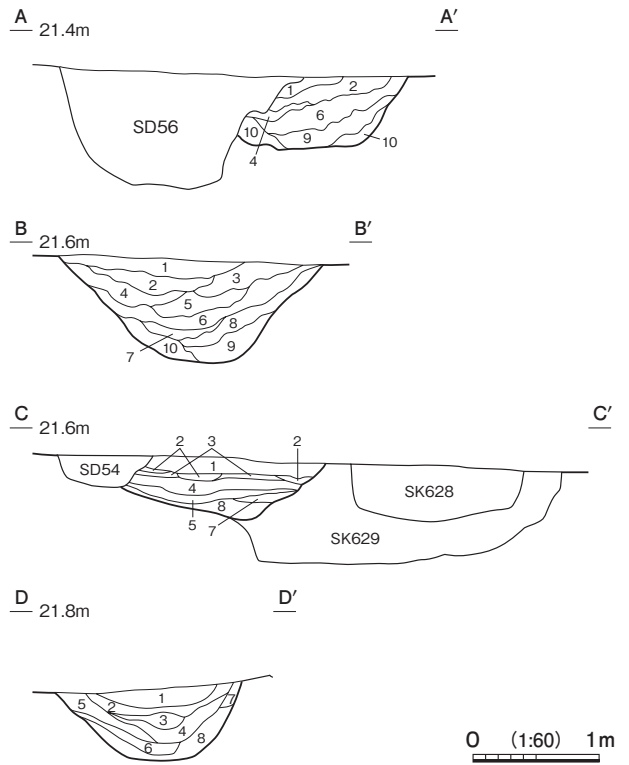
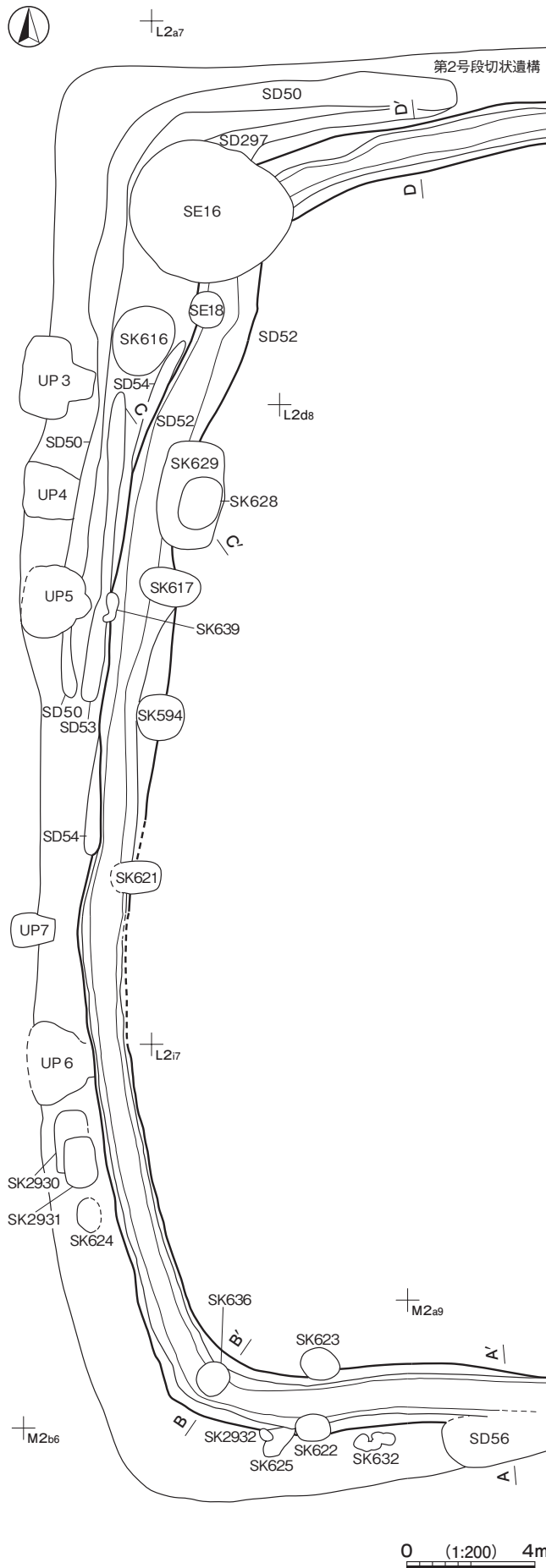
位置 第1号区画東部の南半部付近から、南部の東半部付近までを除いた範囲をほぼ方形に区画している溝である。南部がM2a7区～M3a1区、西部がL2b7～M2a7区、北部がL2b7～L3a5区、東部がL3a5～L3h6区で、標高20.5～21.5mの台地斜面部に位置している。

重複関係 第125号溝跡、第18号井戸跡、第621・625・629・636・1174号土坑を掘り込み、第2号段切状遺構、第54・56・126・143号溝、第16号井戸、第594・617・622・623・639・1385号土坑に掘り込まれている。重複している第135号溝跡、第6号地下式坑、第646・1175・2932号土坑との関係は不明である。

規模と形状 南部で第56号溝に掘り込まれている地点から、西（N-96°-W）へ直線的に15.2mほど延びてから、ほぼ直角に屈折し、北へ内湾しながら38.8m延びている。さらに、そこから屈折して東（N-87°-E）へ29mほど延びてから、屈曲して南（N-172°-E）へ23m延びて、本跡の主軸方向と直交して重複する第1385号土坑に至る。上幅132～300cm、下幅28～100cm、深さ55～80cmである。東部の上幅は、北東部コーナーから南に向かうほど拡く、第1385号土坑付近で最大となる。断面形状は逆台形で、外傾して立ち上がる。東部の壁は一部に段を有し、H-H'ラインで確認した2か所の杭が壁と底面の境に打たれた状態で出土している。東部の壁の段は、覆土の堆積状況から掘り返しの痕跡と考えられる。

覆土 南東部コーナー付近のA-A'・B-B'ラインで10層、北西部コーナー付近のC-C'・D-D'ラインで8層、北西部コーナー付近のE-E'・F-F'・G-G'ラインで17層、東部のH-H'ラインで7層に分層できる。ロームブロック及び粘土ブロックを多く含む層が主体であることから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器265点（皿45、播鉢16、内耳鍋198、香炉1、甕類5）、陶器7点（碗4、皿1、甕2）、



土層解説 (A-A'・B-B')

- 1 暗褐 ロームブロック・ローム粒子多量
- 2 暗褐 ロームブロック中量、ローム粒子多量
- 3 褐 ロームブロック・ローム粒子多量、焼土粒子微量
- 4 黒褐 ロームブロック中量、ローム粒子少量
- 5 黒褐 ロームブロック多量、ローム粒子中量
- 6 黒褐 ロームブロック・ローム粒子多量、粘土ブロック微量
- 7 褐 ロームブロック・ローム粒子中量
- 8 褐 ローム粒子多量、焼土粒子微量
- 9 におい調 ローム粒子多量、ロームブロック中量、粘土ブロック少量
- 10 暗褐 ロームブロック・ローム粒子中量、炭化粒子微量

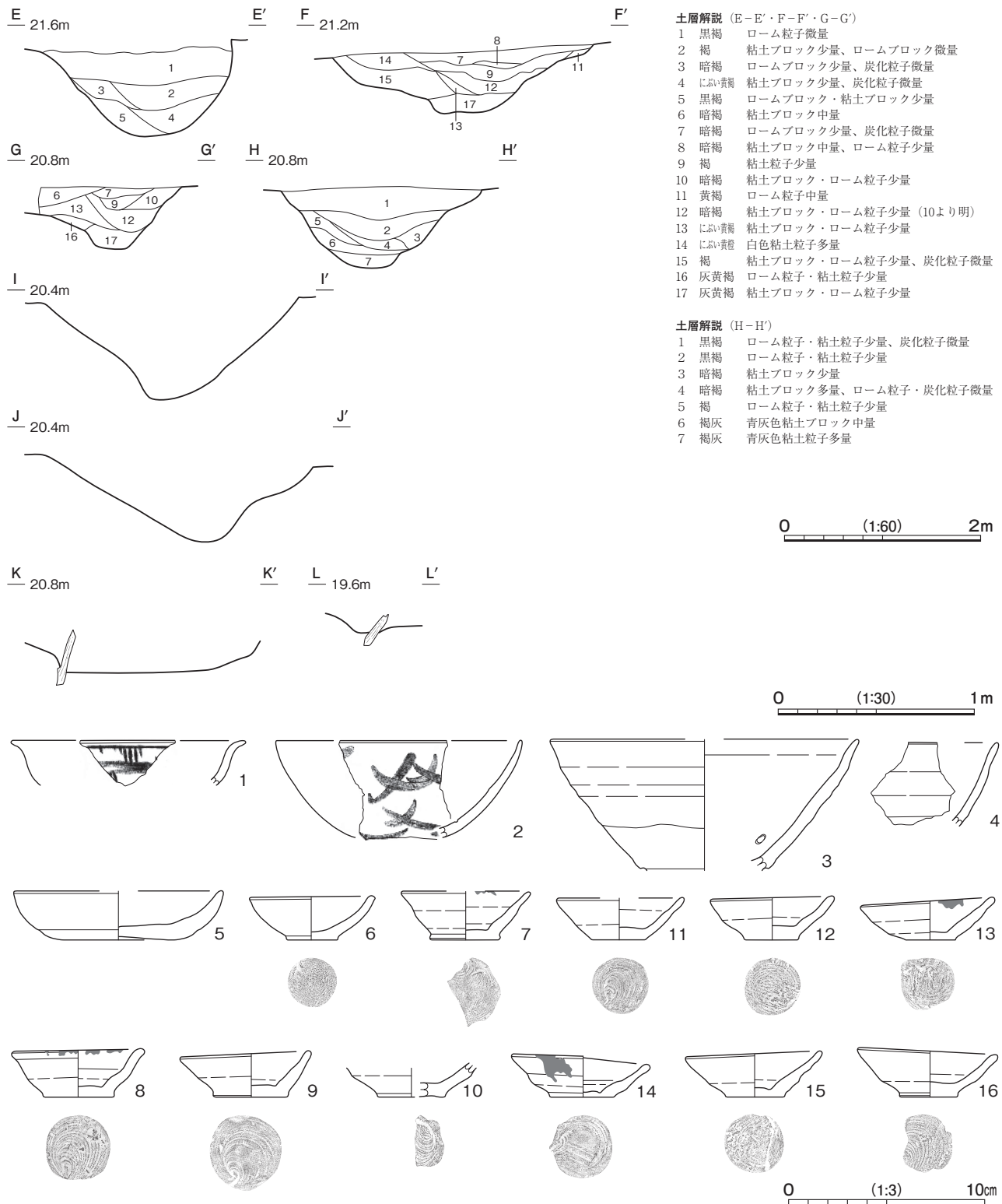
土層解説 (C-C'・D-D')

- 1 暗褐 ローム粒子多量、ロームブロック中量、粘土ブロック微量
- 2 暗褐 ローム粒子中量
- 3 黒褐 粘土ブロック・ロームブロック・ローム粒子微量、炭化粒子微量
- 4 黒褐 ロームブロック・ローム粒子少量
- 5 黒褐 ロームブロック中量、ローム粒子微量
- 6 褐 ロームブロック多量、粘土ブロック微量
- 7 暗褐 ロームブロック・ローム粒子多量、焼土粒子微量
- 8 暗褐 ロームブロック中量、ローム粒子少量

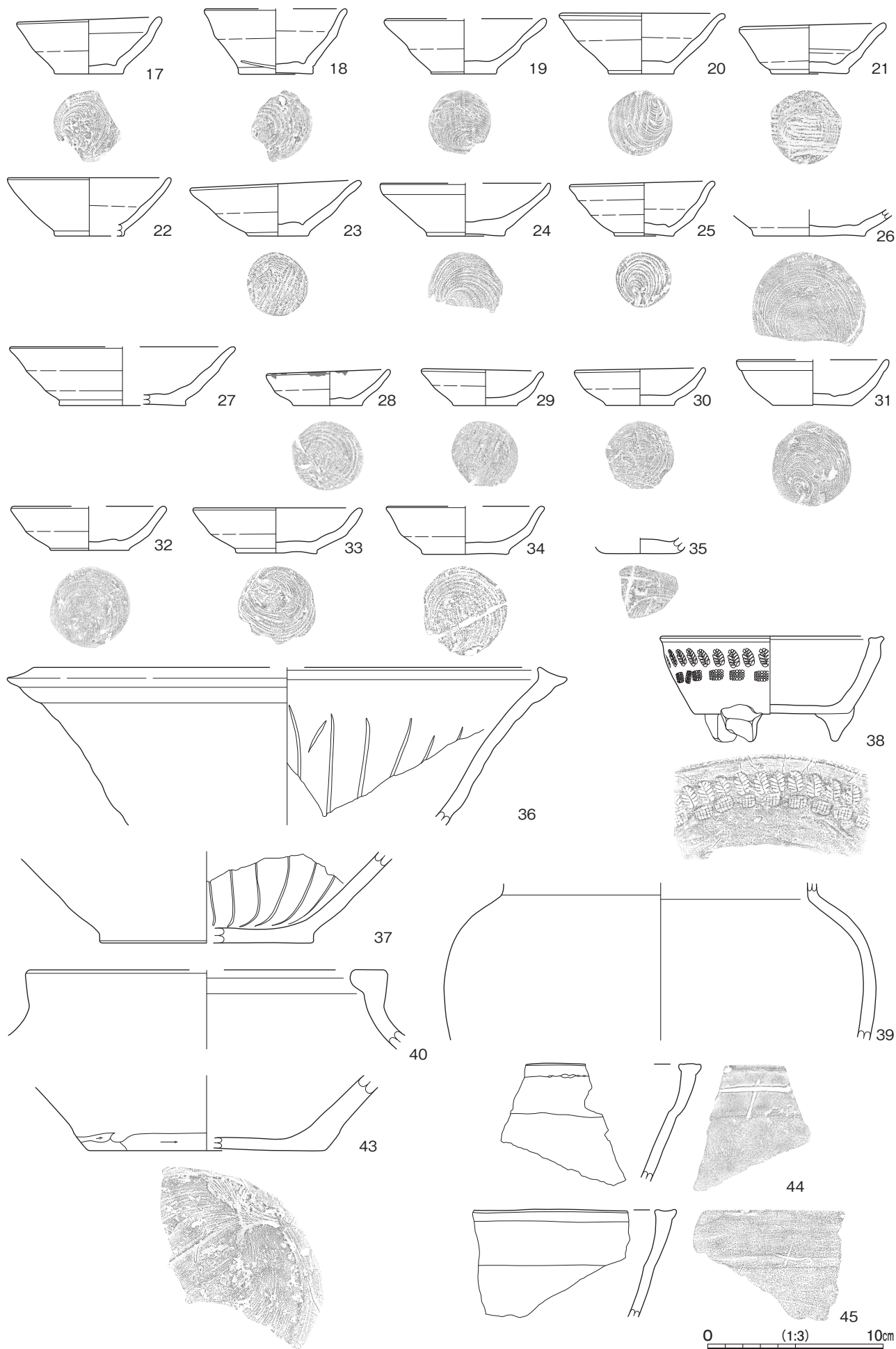
第 39 図 第 52 号溝跡西部実測図

磁器 1 点(中国産皿)、石器 7 点(石臼 5、砥石 2)、石製品 1 点(硯) が出土している。ほかに混入した土師器片 19 点(坏 5、甕類 14)、須恵器片 5 点(坏 1、高坏 1、甕類 3) が出土している。1 は中国産皿、3・4 は古瀬戸碗、54 は 10 型式の常滑産甕で、土師質土器皿は 15 世紀後半と 16 世紀前半のものが出土している。6・8・13・17・37・50 は西部の覆土下層から、29・41・54・55 は北部の覆土下層から、7・9・12・15・16・19・23・28・30～33・36・39・46～48・52・57 は東部の覆土下層から、それぞれ出土しており、東部からの出土量が多い。

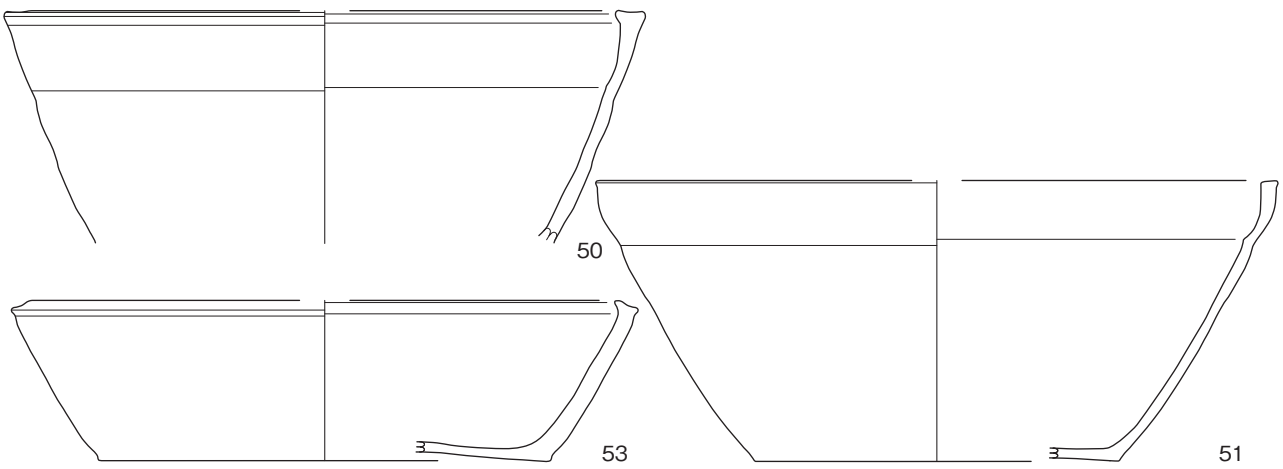
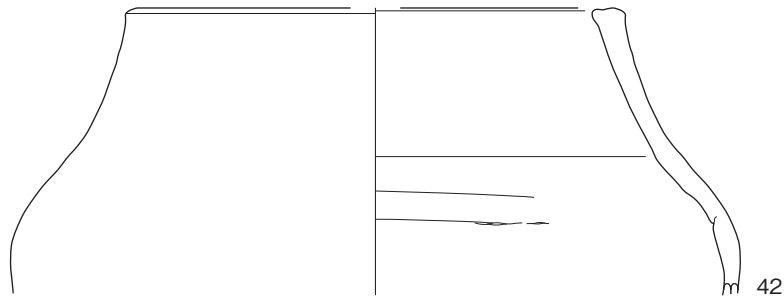
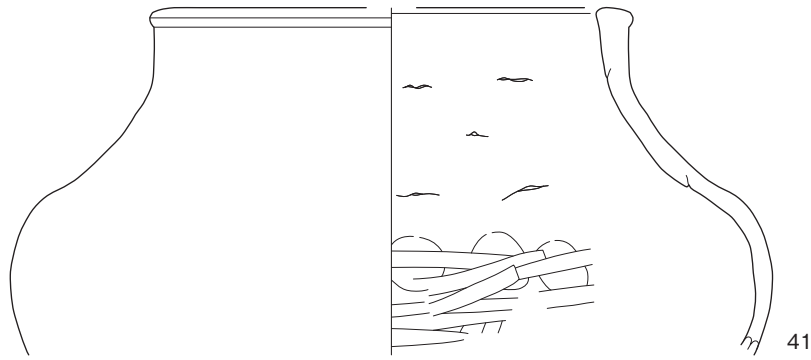
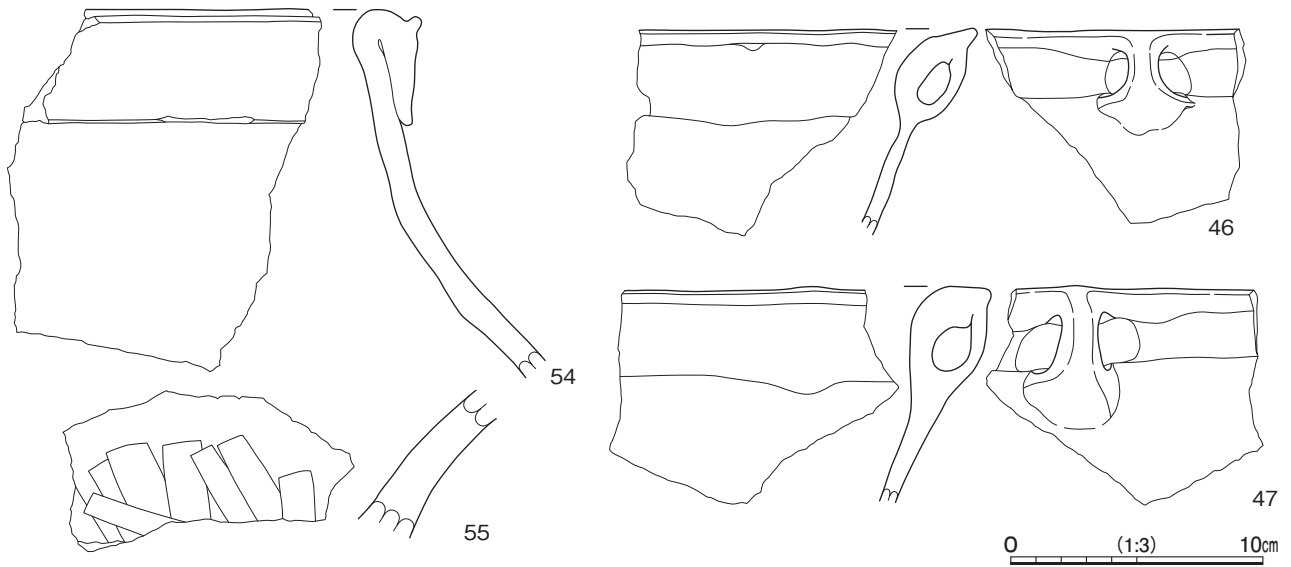
所見 本跡は、第 2 号段切状遺構と第 56 号溝が構築される以前に、第 1 号区画を圍繞している溝と考えられる。本跡東部の南北軸の範囲は、第 2 号区画の第 113 号溝と同一の軸方向になることから、第 56 号溝が圍繞する段階まで存続していた可能性がある。時期は、出土土器から、15 世紀後半から 16 世紀前半と考えられる。



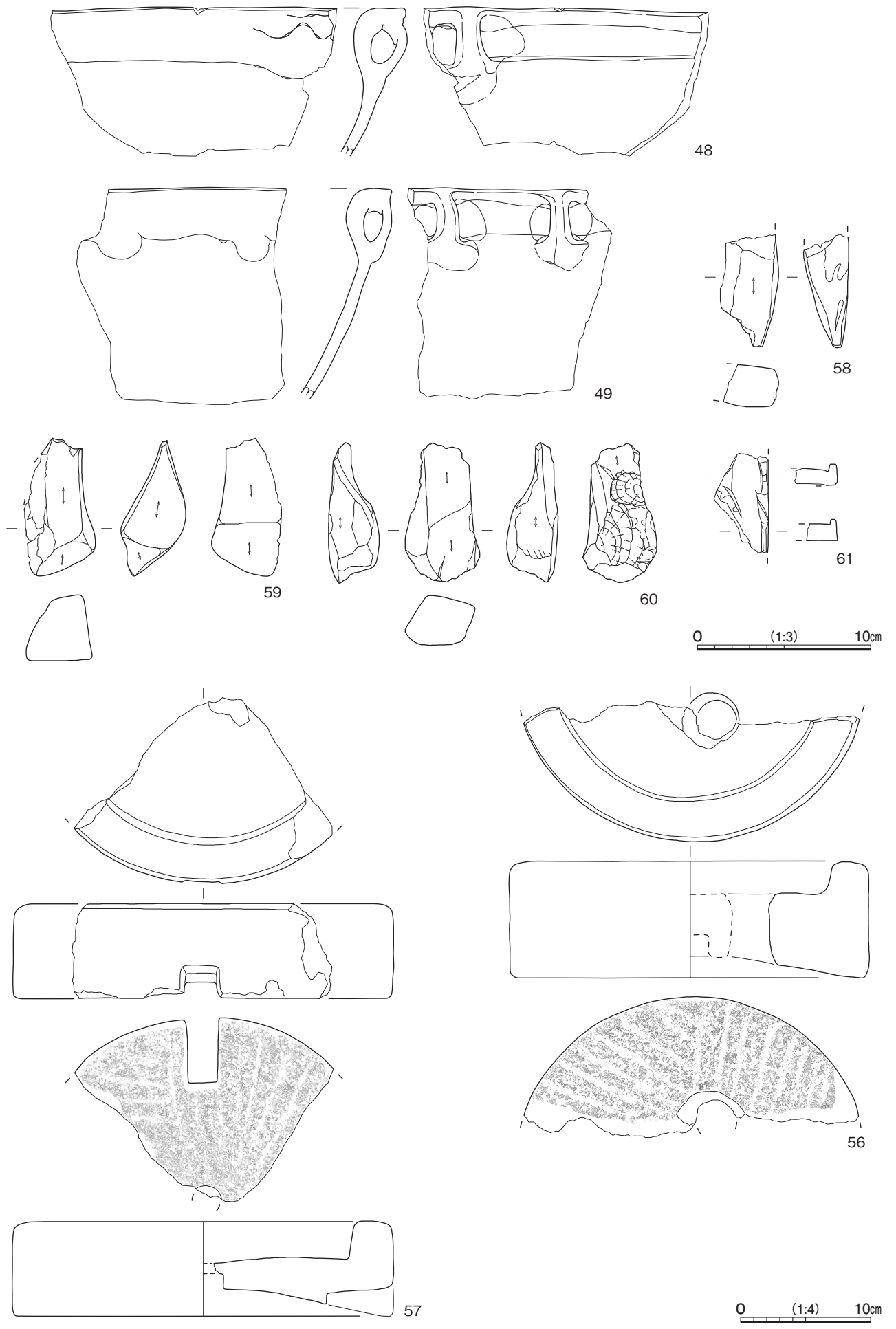
第 40 図 第 52 号溝跡・出土遺物実測図



第 41 图 第 52 号溝跡出土遺物実測図(1)



第 42 図 第 52 号溝跡出土遺物実測図(2)



第 43 图 第 52 号溝跡出土遺物実測図(3)

第15表 第52号溝跡出土遺物一覧(第40～43図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
1	磁器	皿	[11.0]	(2.3)	-	緻密	明緑灰色	雨垂文 小野編年染付皿B1群	染付	中国	覆土	5% PL25
2	陶器	碗	[12.5]	(5.0)	-	長石・石英	灰白	メ字状文	染付	不明	覆土	10% PL25
3	陶器	平碗	[15.6]	(6.8)	-	長石・石英	にぶい黄橙	ロク口整形 体部下半露胎 内面トチン痕跡 古瀬戸後期	灰釉	瀬戸	覆土	20% PL25
4	陶器	平碗	-	(4.3)	-	長石・石英	浅黄橙	ロク口整形 古瀬戸後期	灰釉	瀬戸	覆土	5% PL25
54	陶器	甕	-	(14.4)	-	長石・石英	褐灰	赤羽・中野編年10型式	無釉	常滑	北部覆土下層	5% PL27
55	陶器	甕	-	(5.9)	-	長石・石英	にぶい黄橙	体部下端ヘラ削り	自然釉	常滑	北部覆土下層	5% PL27

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
5	土師質土器	皿	[10.6]	2.5	6.0	長石・石英	橙	普通	口縁部内湾して立ち上がり 非ロク口整形	覆土	40%
6	土師質土器	皿	6.3	2.2	2.5	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	小型 口縁部内湾して立ち上がり 底部回転糸切り	西部覆土下層	100% PL25
7	土師質土器	皿	[6.4]	2.5	[3.4]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	小型 口縁部直線のな立ち上がり 底部回転糸切り	東部覆土下層	40% 口縁部油煙付着
8	土師質土器	皿	6.5	2.5	3.4	長石・石英	橙	普通	小型 体部に弱い稜 口縁部わずかに外反 底部回転糸切り	西部覆土下層	95% PL25 口縁部油煙付着
9	土師質土器	皿	6.6	2.4	3.7	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	小型 口縁部直線のな立ち上がり 底部回転糸切り	東部覆土下層	100% PL25
10	土師質土器	皿	-	(1.7)	[3.3]	長石・石英	にぶい橙	普通	小型 体部に弱い稜 底部回転糸切り	覆土	30%
11	土師質土器	皿	[6.4]	2.2	2.7	長石・石英	にぶい黄橙	普通	小型 口縁部直線のな立ち上がり 底部回転糸切り	覆土	60%
12	土師質土器	皿	6.1	2.3	2.7	長石・石英	浅黄橙	普通	小型 口縁部直線のな立ち上がり 底部回転糸切り	東部覆土下層	95% PL25
13	土師質土器	皿	6.5	2.2	2.4	長石・石英	橙	普通	小型 口縁部緩やかな立ち上がり 底部回転糸切り	西部覆土下層	90% PL25 口縁部油煙付着
14	土師質土器	皿	6.9	2.2	3.1	長石・石英	橙	普通	小型 体部に弱い稜 口縁部わずかに外反 底部回転糸切り	覆土	90% PL25 口縁部油煙付着
15	土師質土器	皿	6.9	2.4	2.9	長石・石英	橙	普通	小型 体部に弱い稜 口縁部わずかに外反 底部回転糸切り	東部覆土下層	70% PL26
16	土師質土器	皿	7.0	2.6	2.9	長石・石英	黒	普通	小型 体部に弱い稜 口縁部わずかに外反 底部回転糸切り	東部覆土下層	90% PL26 全面被熱
17	土師質土器	皿	8.0	3.3	3.7	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部に弱い稜 口縁部わずかに外反 底部回転糸切り	西部覆土下層	90% PL26
18	土師質土器	皿	[8.0]	3.7	[4.1]	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部に弱い稜 口縁部わずかに外反 底部回転糸切り	覆土	30%
19	土師質土器	皿	[8.9]	2.7	3.6	長石・石英	橙	普通	体部に弱い稜 口縁部わずかに外反 底部回転糸切り	東部覆土下層	50%
20	土師質土器	皿	9.1	3.5	3.7	長石・石英	にぶい橙	普通	体部に弱い稜 口縁部わずかに外反 底部回転糸切り	覆土	70% PL26
21	土師質土器	皿	8.2	2.9	4.3	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部に弱い稜 口縁部わずかに外反 底部回転糸切り 板目圧痕	覆土	100% PL26
22	土師質土器	皿	9.1	3.3	[3.9]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部直線のな立ち上がり 底部回転糸切り	覆土	80% PL26
23	土師質土器	皿	9.6	3.2	3.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部に弱い稜 口縁部わずかに外反 底部回転糸切り	東部覆土下層	100% PL26
24	土師質土器	皿	[9.6]	3.0	4.4	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部直線のな立ち上がり 口唇部外割ぎ状 底部回転糸切り	覆土	30%
25	土師質土器	皿	8.1	3.1	3.2	長石・石英	にぶい橙	普通	体部に弱い稜 口縁部わずかに外反 底部回転糸切り	覆土	90% PL26
26	土師質土器	皿	-	(1.5)	6.3	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部直線のな立ち上がり 底部回転糸切り	覆土	50%
27	土師質土器	皿	[12.6]	3.4	[7.2]	長石・石英	橙	普通	体部直線のな立ち上がり 底部回転糸切り	覆土	30%
28	土師質土器	皿	6.9	2.1	3.9	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	小型 体部に弱い稜 口縁部わずかに外反 底部回転糸切り	東部覆土下層	90% PL26 口縁部油煙付着
29	土師質土器	皿	6.9	2.1	3.7	長石・石英	浅黄橙	普通	小型 体部に弱い稜 口縁部わずかに外反 底部回転糸切り 板目圧痕	北部覆土下層	95% PL26
30	土師質土器	皿	7.3	2.2	3.9	長石・石英	浅黄橙	普通	小型 体部に弱い稜 口縁部わずかに外反 底部回転糸切り	東部覆土下層	100% PL26 被熱
31	土師質土器	皿	[8.5]	2.6	4.5	長石・石英	灰褐	普通	口縁部わずかに外反 底部回転糸切り	東部覆土下層	60%
32	土師質土器	皿	[8.6]	2.6	4.4	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部に弱い稜 口縁部わずかに外反 底部回転糸切り	東部覆土下層	80% PL26
33	土師質土器	皿	9.5	2.7	4.4	長石・石英	にぶい褐	普通	体部に弱い稜 口縁部わずかに外反 底部回転糸切り	東部覆土下層	70%
34	土師質土器	皿	[8.8]	2.7	[4.8]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部に弱い稜 口縁部わずかに外反 底部回転糸切り	覆土	70%
35	土師質土器	皿	-	(0.9)	[4.6]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り 底部ヘラ記号「十」	覆土	10%
36	土師質土器	播鉢	[32.0]	(9.0)	-	長石・石英・雲母	赤褐	普通	体部緩やかな立ち上がり 口縁部わずかに外反 単沈線による播目	東部覆土下層	10% PL26
37	土師質土器	播鉢	-	(5.2)	[12.2]	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部緩やかな立ち上がり 単沈線による播目	西部覆土下層	20% 外面煤付着
38	土師質土器	香炉	12.5	6.0	8.9	長石・石英	にぶい橙	普通	体部緩やかな立ち上がり 口縁部わずかに外反 底部に三脚 体部に木葉状・格子状のスタンプ文	覆土	95% PL26
39	土師質土器	茶釜	-	(9.1)	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	体部内湾する立ち上がり 口縁部直立	東部覆土下層	30% PL26 内外面被熱剥離
40	土師質土器	甕	[20.0]	(4.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部内傾する立ち上がり 口唇部内面肥厚	覆土	5%
41	土師質土器	甕	[24.3]	(18.4)	-	長石・石英・雲母	赤褐	普通	体部内湾 口縁部内傾する立ち上がり 口唇部内面肥厚 体部内面当て具痕後にヘラ削り	北部覆土下層	20% PL27
42	土師質土器	甕	[26.4]	(15.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内湾 口縁部内傾する立ち上がり 口唇部内面肥厚 体部内面ヘラ削り	覆土	10% PL27 SE16出土土片接合
43	土師質土器	甕	-	(4.2)	[13.5]	長石・石英	にぶい黄橙	普通	外面下端ヘラ削り 底部回転糸切り	覆土	5%
44	土師質土器	内耳鍋	-	(7.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部直線のな立ち上がり 口縁部わずかに内湾 口縁部内面ヘラ記号「十」	覆土	5% 外面煤付着
45	土師質土器	内耳鍋	-	(6.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部直線のな立ち上がり 口縁部わずかに内湾 口縁部内面ヘラ記号「十」	覆土	5% 外面煤付着
46	土師質土器	内耳鍋	-	(8.1)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部直線のな立ち上がり 口縁部わずかに内湾 耳断面紐状	東部覆土下層	5% 外面煤付着

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考	
47	土師質土器	内耳鍋	-	(8.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部直線的な立ち上がり 耳断面紐状	口縁部わずかに内湾	東部 覆土下層	5% 外面煤付着
48	土師質土器	内耳鍋	-	(8.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部直線的な立ち上がり 耳断面紐状	口縁部わずかに内湾	東部 覆土下層	5% 外面煤付着
49	土師質土器	内耳鍋	-	(12.4)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部緩やかな立ち上がり 耳断面紐状	口縁部わずかに内湾	覆土	5% PL27 外面煤付着
50	土師質土器	内耳鍋	[33.8]	(12.4)	-	長石・石英・雲母	暗赤褐	普通	体部緩やかな立ち上がり	口縁部わずかに内湾	西部 覆土下層	10% 外面煤付着
51	土師質土器	内耳鍋	[36.0]	14.9	[19.4]	長石・石英・雲母	黒褐	普通	体部緩やかな立ち上がり	口縁部わずかに内湾	覆土	20% PL27 外面煤付着
52	土師質土器	内耳鍋	[38.0]	8.4	[29.1]	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部緩やかな立ち上がり		東部 覆土下層	20% PL27 外面煤付着
53	土師質土器	内耳鍋	[33.0]	8.5	[23.8]	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部緩やかな立ち上がり		覆土	20% PL27 外面煤付着

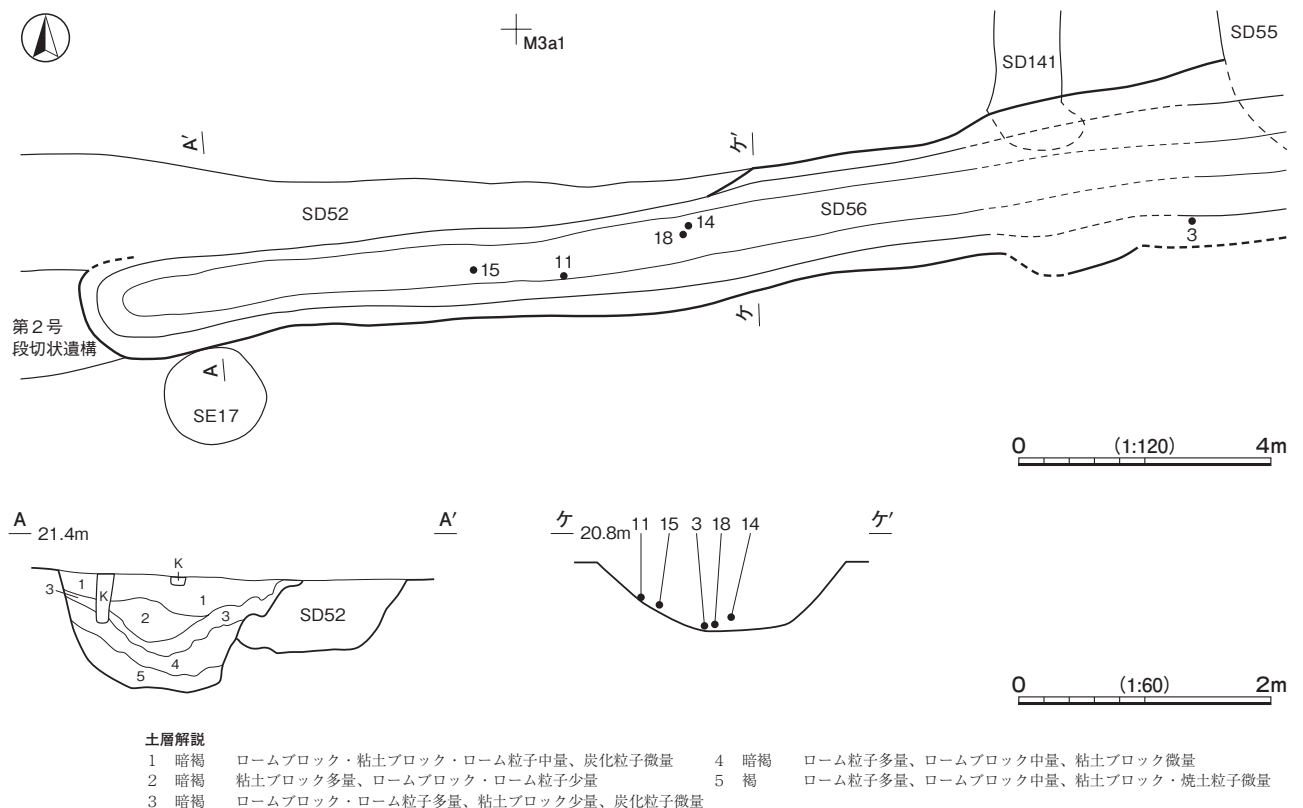
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
56	石臼	[27.8]	(25.8)	9.0	(2810)	安山岩	上白	覆土	PL27
57	石臼	[29.4]	(20.0)	7.3	(1340)	安山岩	上白	東部 覆土下層	PL27
58	砥石	(6.6)	(3.2)	2.9	(64.9)	凝灰岩	砥面2面	覆土	PL28
59	砥石	7.9	4.1	3.9	(97.0)	凝灰岩	砥面6面	覆土	PL28
60	砥石	8.0	4.3	3.0	(88.9)	凝灰岩	砥面5面 裏面荒削りの剥離痕	覆土	PL28
61	硯	(5.7)	(3.2)	1.3	(21.9)	粘板岩	右側縁部片 断面角頭状の縁帯	覆土	PL28

第56号溝跡 (第44～47図 PL5・6・28・29)

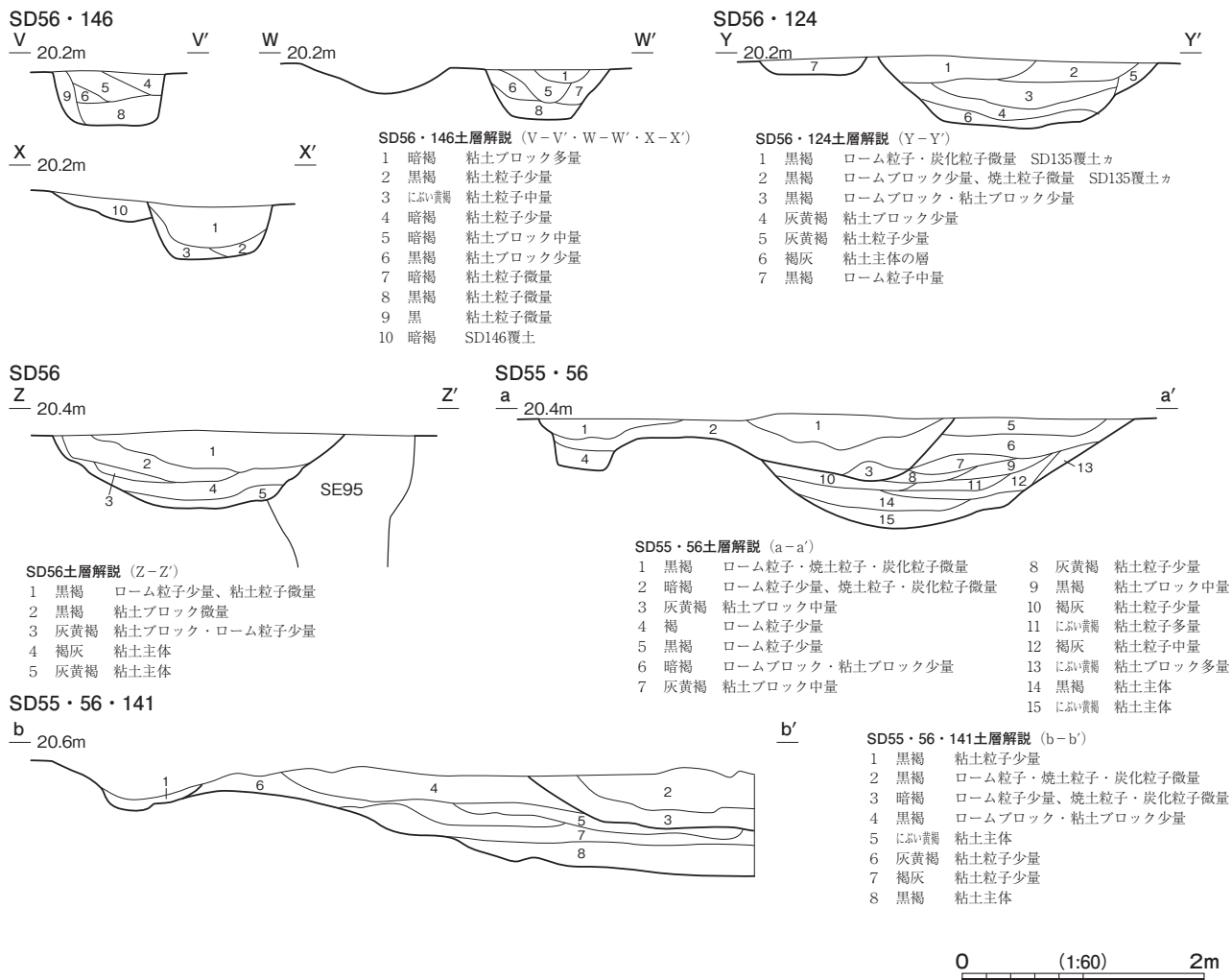
位置 第1号区画東部の南半部付近から、南部の東半部付近までをL字状に区画している溝で、南部がM2a9～M3a6区、東部がL3h5～M3a6区で、標高20.0～21.5mの台地斜面部に位置している。

重複関係 第52・146号溝跡、第95・97号井戸跡を掘り込み、第55・124・141号溝、第104号井戸に掘り込まれている。重複している第135号溝跡、第1385号土坑との関係は不明である。

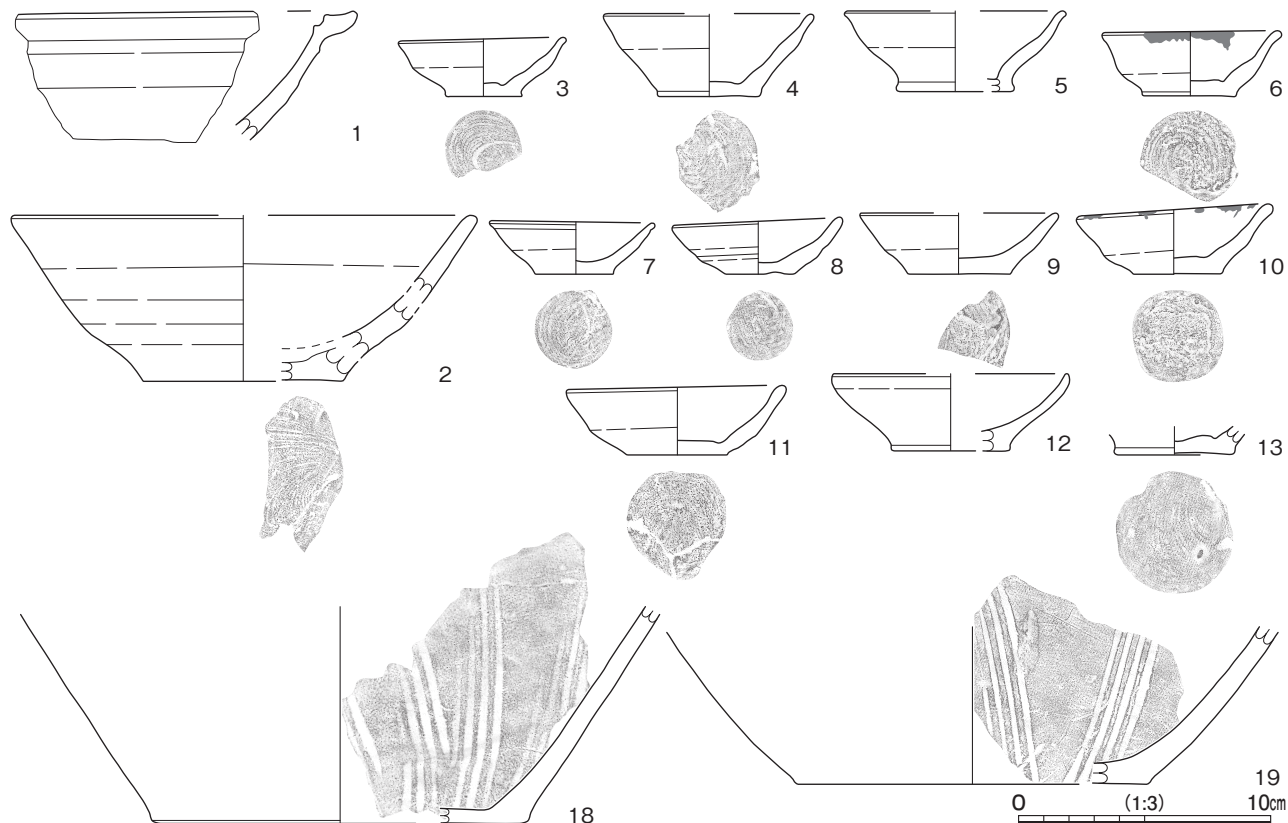
規模と形状 第52号溝跡を掘り込んでいる地点から、東(N-84°-E)へ直線的に29.4mほど延びてから、ほぼ直角に屈折して北(N-9°-W)へ11.7m延びて、本跡の主軸方向と直交して重複する第1385号土坑に至る。本跡南部の主軸方向は、第2号段切状遺構の南部の主軸方向とほぼ一致している。上幅50～260cm、下幅44～92cm、深さ14～90cmで、上幅は南部が広く、東部で狭くなる。断面形状は逆台形で、壁は外傾して立ち上がる。



第44図 第56号溝跡南部西区実測図



第45図 第55・56・124・141・146号溝跡実測図

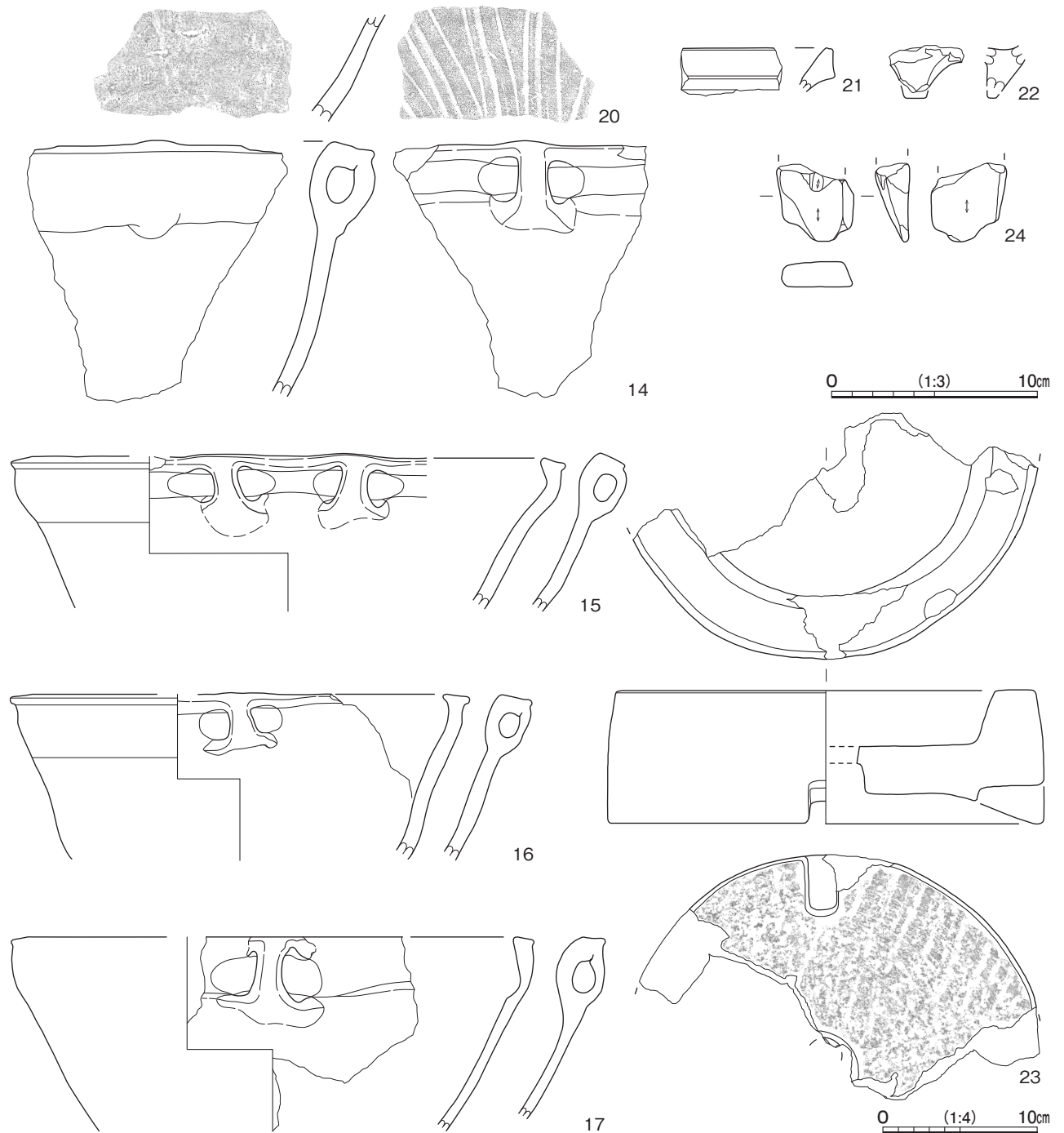


第46図 第56号溝跡出土遺物実測図(1)

覆土 南部のA-A'ラインで5層、南東コーナー部付近のY-Y'ラインで6層、a-a'ラインで11層、V-V'ラインで5層に分層できる。ロームブロック及び粘土ブロックを多く含む層が主体であることから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器 168点（皿17、播鉢13、内耳鍋123、甕類14、香炉1）、陶器7点（碗2、皿1、播鉢2、甕類2）、磁器2点（碗）、石器2点（石臼、砥石）が出土している。ほかに混入した土師器片2点（坏）、須恵器片19点（坏1、甕類18）が出土している。1は古瀬戸折縁深皿で、土師質土器皿は、15世紀後半と16世紀前半のものが出土している。1・3・6・10・11・14～16・18・19・23は南部の覆土下層から、7・17は東部の覆土下層から、それぞれ出土している。

所見 本跡南部の主軸方向と第2号段切状遺構南部の主軸方向がほぼ一致していることから、両跡の関連性は強く、第1号区画は両跡によって区画されていた一定の時期があることが想定できる。時期は、重複関係で第52号溝跡より新しいこと、出土土器は15世紀後半のものが客体で、16世紀前半のものが主体であることから、16世紀前半と考えられる。



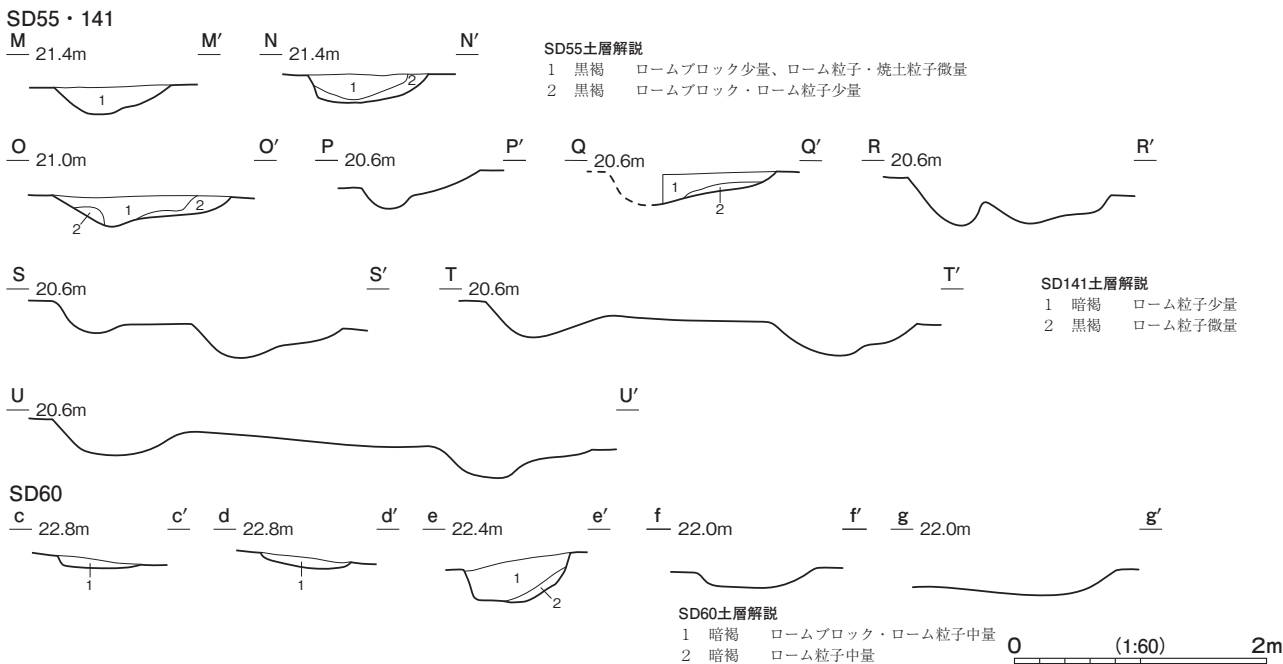
第47図 第56号溝跡出土遺物実測図(2)

第16表 第56号溝跡出土遺物一覧 (第46・47図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
1	陶器	折縁深皿	-	(5.2)	-	長石・石英	灰	体部緩やかな立ち上がり 口縁端部で屈曲 古瀬戸後期	灰釉	瀬戸	南部 覆土下層	5% PL28
21	陶器	播鉢	-	(2.4)	-	長石・石英	にぶい橙	口唇部外削ぎ状 大窯期	無釉	瀬戸	覆土	5%

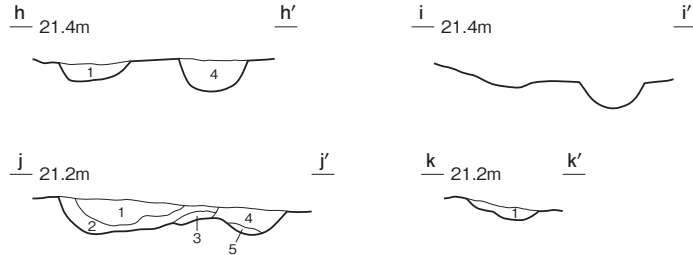
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
2	土師質土器	皿	[18.2]	[6.6]	[8.0]	長石・石英・ 赤色粒子	浅黄橙	普通	体部緩やかな立ち上がり 口縁部わずかに外反	覆土	40% PL28
3	土師質土器	皿	6.5	2.3	3.0	長石・石英	橙	普通	小型 体部に弱い稜 口縁部わずかに外反 底部回転糸切り	南部 覆土下層	60%
4	土師質土器	皿	[8.2]	3.3	[4.0]	長石・石英	褐灰	普通	体部に弱い稜 口縁部わずかに外反 底部回転糸切り	覆土	70% PL28 被熱により変色
5	土師質土器	皿	[8.5]	3.3	[4.5]	長石・石英	橙	普通	体部に弱い稜 口縁部わずかに外反	覆土	30%
6	土師質土器	皿	6.9	2.6	3.7	長石・石英	橙	普通	小型 体部に弱い稜 口縁部わずかに外反 底部回転糸切り	南部 覆土下層	70% PL28 口縁部油煙付着
7	土師質土器	皿	6.4	2.1	3.0	長石・石英	浅黄橙	普通	小型 体部に弱い稜 口縁部わずかに外反 底部回転糸切り	東部 覆土下層	80% PL28
8	土師質土器	皿	6.5	2.2	2.2	長石・石英	明赤褐	普通	小型 体部に弱い稜 口縁部直線的な立ち上がり 底部回転糸切り	覆土	60%
9	土師質土器	皿	[7.7]	2.4	[4.0]	長石・石英	橙	普通	体部に弱い稜 口縁部直線的な立ち上がり 底部回転糸切り	覆土	20%
10	土師質土器	皿	7.6	2.8	3.5	長石・石英	橙	普通	体部に弱い稜 口縁部わずかに外反 底部回転糸切り	南部 覆土下層	90% PL29 口縁部油煙付着
11	土師質土器	皿	8.6	2.8	3.8	長石・石英	にぶい橙	普通	体部に弱い稜 口縁部わずかに外反 底部回転糸切り	南部 覆土下層	100% PL29
12	土師質土器	皿	[9.3]	3.1	[4.5]	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部内湾して立ち上がり	覆土	30%
13	土師質土器	皿	-	(1.2)	4.7	長石・石英	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	覆土	30%
14	土師質土器	内耳鍋	-	(13.0)	-	長石・石英・雲母	赤褐	普通	体部緩やかな立ち上がり 口縁部わずかに内湾 耳断面紐状	南部 覆土下層	5% 外面煤付着
15	土師質土器	内耳鍋	[36.0]	(10.2)	-	長石・石英・雲母	赤褐	普通	体部緩やかな立ち上がり 口縁部わずかに内湾 耳断面紐状	南部 覆土下層	10% PL29 外面煤付着
16	土師質土器	内耳鍋	[29.7]	(11.8)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部緩やかな立ち上がり 口縁部わずかに内湾 耳断面紐状	南部 覆土下層	10% PL29 外面煤付着
17	土師質土器	内耳鍋	[34.0]	(12.6)	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	体部緩やかな立ち上がり 口縁部わずかに内湾 耳断面紐状	東部 覆土下層	15% PL29 外面煤付着
18	土師質土器	播鉢	-	(8.6)	[15.0]	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部緩やかな立ち上がり 4条1単位の櫛歯状工具による播目	南部 覆土下層	10% 外面煤付着
19	土師質土器	播鉢	-	(6.2)	[14.0]	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部緩やかな立ち上がり 4条1単位の櫛歯状工具による播目	南部 覆土下層	10%
20	土師質土器	播鉢	-	(5.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部緩やかな立ち上がり 3条1単位の櫛歯状工具による播目	覆土	5%
22	土師質土器	香炉カ	-	(2.4)	-	長石・石英・雲母	赤褐	普通	三足の脚	覆土	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考	
23	石臼	[28.4]	(26.0)	8.6	(1970)	安山岩	上白		南部 覆土下層	PL28
24	砥石	(3.8)	3.7	1.8	(20.0)	凝灰岩	砥面2面		覆土	



第48図 第1号区画とその周辺の溝跡実測図(1)

SD61・62



SD62土層解説

- 1 暗褐 ロームブロック中量、ローム粒子多量
- 2 暗褐 ローム粒子・焼土粒子少量
- 3 暗褐 ローム粒子少量

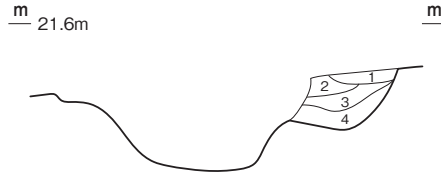
SD61土層解説

- 4 褐 ローム粒子多量、ロームブロック中量
- 5 暗褐 ローム粒子多量、ロームブロック中量

SD124



SD52・125



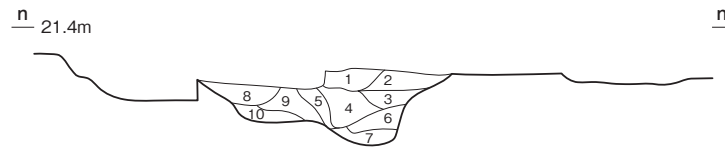
SD125土層解説 (m-m')

- 1 褐 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐 ローム粒子中量
- 3 暗褐 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 4 黒褐 ローム粒子少量

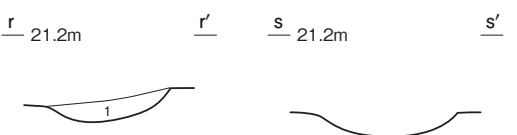
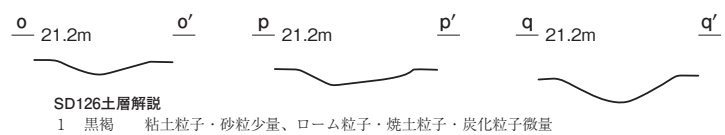
SD125土層解説 (n-n')

- 1 褐 ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量
- 2 褐 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒褐 ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量
- 5 暗褐 粘土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量
- 6 暗褐 粘土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 7 暗褐 ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量
- 8 黒褐 粘土ブロック中量、ローム粒子少量
- 9 褐 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 10 暗褐 ロームブロック・粘土ブロック少量

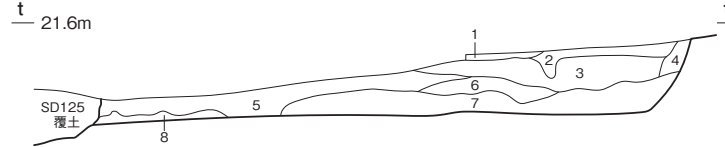
SD125



SD126

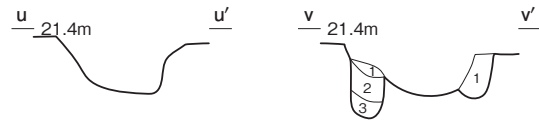


SD129



SD129土層解説

- 1 黒褐 ローム粒子少量 (2より暗)
- 2 黒褐 ローム粒子少量
- 3 暗褐 ロームブロック少量
- 4 褐 ローム粒子中量
- 5 褐 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 6 暗褐 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 7 褐 ローム粒子少量
- 8 褐 ロームブロック少量



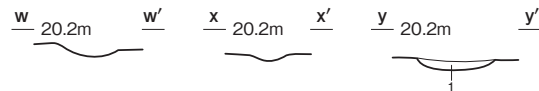
SD129 P1土層解説

- 1 黒褐 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 褐 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐 粘土ブロック少量

SD129 P2土層解説

- 1 褐 ローム粒子中量

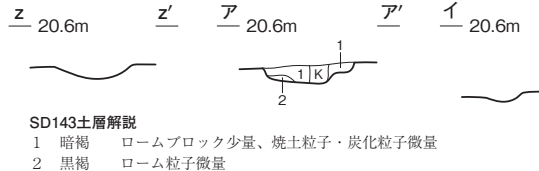
SD135



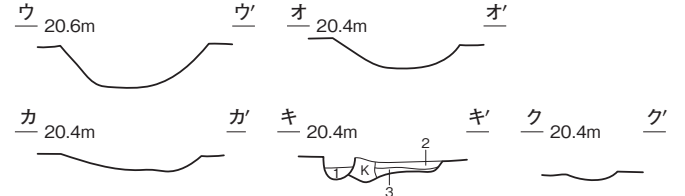
SD135土層解説 (y-y')

- 1 暗褐 ロームブロック少量

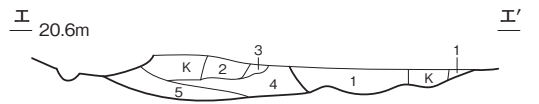
SD143



SD144



SD55・144



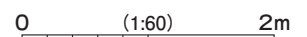
エ-エ'

SD55・144土層解説 (エ-エ')

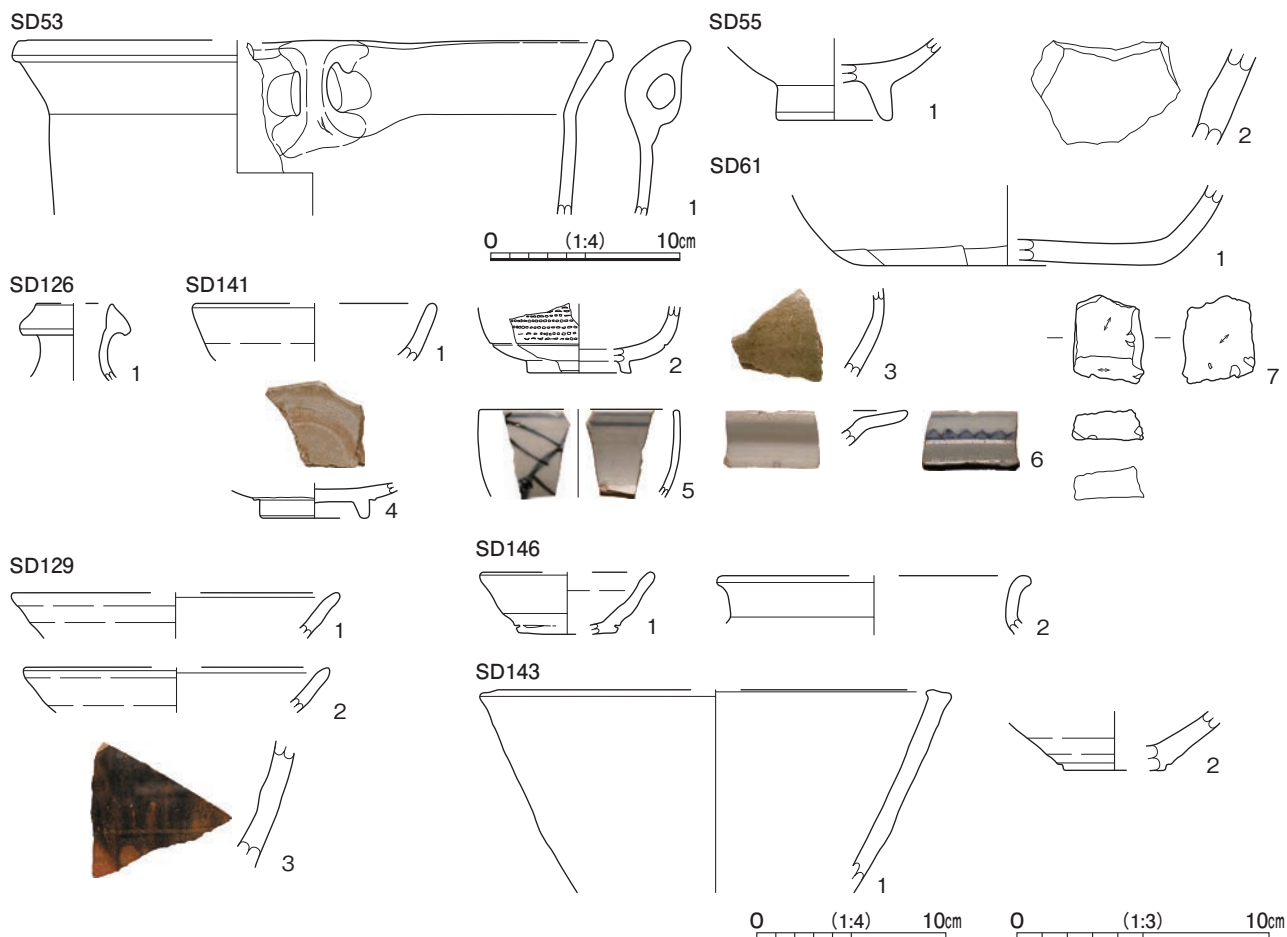
- 1 暗褐 粘土粒子少量
- 2 黒褐 ローム粒子少量
- 3 灰黄褐 ローム粒子少量
- 4 灰黄褐 粘土ブロック・ローム粒子少量
- 5 褐灰 ローム粒子・粘土粒子少量

SD144土層解説 (キ-キ')

- 1 PG31-P15覆土
- 2 暗褐 ローム粒子少量
- 3 暗褐 ローム粒子微量



第 49 図 第 1 号区画とその周辺の溝跡実測図(2)



第50図 第1号区画とその周辺の溝跡・出土遺物実測図

第17表 第1号区画とその周辺の溝跡出土遺物一覧（第50図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
53-1	土師質土器	内耳鍋	[31.0]	(7.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部緩やかな立ち上がり 口縁部屈折して外傾	覆土	20% PL28 外面煤付着
61-1	土師質土器	甕	-	(3.2)	[12.0]	長石・石英・雲母	黒褐	普通	体部下端ヘラ削り	覆土	5%
129-1	土師質土器	皿	[13.0]	(1.8)	-	長石・雲母	橙	普通	体部中位に弱い段	覆土	5%
129-2	土師質土器	皿	[12.0]	(1.8)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部直線的な立ち上がり	覆土	5%
141-1	土師質土器	皿	[9.4]	(2.3)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部緩やかな立ち上がり	覆土上層	5%
143-1	土師質土器	内耳鍋	[23.0]	(10.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部直線的な立ち上がり	覆土下層	10%
146-1	土師質土器	皿	[6.7]	2.5	[3.9]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部・体部下端やや強いナデ 底部回転糸切り	覆土	20%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
55-1	陶器	碗	-	(3.3)	[4.4]	緻密	にぶい黄橙	呉器手碗	灰釉	肥前	覆土	20% 近世
55-2	陶器	甕	-	(4.1)	-	長石・石英	にぶい黄橙	体部直線的な立ち上がり	灰釉	不明	覆土	5% 近世
126-1	陶器	德利	3.9	(3.1)	-	長石・石英・雲母	暗赤褐	玉縁口縁	柿釉	瀬戸・美濃	覆土下層	10% 近世
129-3	陶器	瓶類	-	(5.0)	-	長石・石英	にぶい黄橙	流し掛けカ	鉄釉	瀬戸・美濃	覆土	5% 16 C代カ
141-2	陶器	碗	-	(2.6)	[4.0]	長石・石英・雲母	灰黄	外面灰釉 細かい刺突文 内面鉄釉	灰釉・鉄釉	瀬戸・美濃	覆土上層	5% 近世
141-3	陶器	碗	-	(3.5)	-	長石・石英	灰黄褐	外・内面施釉	灰釉	瀬戸・美濃	覆土上層	5% 近世
141-4	陶器	碗	-	(1.4)	[4.2]	長石・石英	灰黄褐	内底面に重ね焼き痕	灰釉	瀬戸・美濃	覆土	10% 近世
141-5	磁器	碗	[7.8]	(3.5)	-	長石	灰白	染付	透明釉	肥前	覆土上層	5% 近世
141-6	磁器	皿	-	(1.4)	-	長石	灰白	染付	透明釉	肥前	覆土	5% 近世
143-2	陶器	平碗	-	(2.3)	[4.0]	長石・石英	灰黄	削り出し高台 古瀬戸	灰釉	瀬戸	覆土	5%
146-2	陶器	香炉	[12.2]	(2.4)	-	長石・石英	黄灰	袴腰形 古瀬戸	灰釉	瀬戸	覆土	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
141-7	砥石	(3.5)	(2.9)	1.2	(14.30)	凝灰岩	砥面3面	覆土上層	

第18表 第1号区画とその周辺の溝跡一覧

番号	位置	方向	平面形	規模				断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	上幅(cm)	下幅(cm)	深さ(cm)					
50	L 2 f6~L 2 a9	N-7°-E N-85°-E	L字状	28.40	16~112	8~32	5~15	皿状	外傾	人為	-	UP 5→本跡 UP 4と重複
52	M 3 a1 M 2 a7 M 2 a7 L 2 b7 L 2 b7~L 3 a5 L 3 a5 L 3 h6	N-90°-W N-5°-E N-90°-W N-174°-E	方形	(106.08)	132~300	28~100	55~100	逆台形	外傾	人為	碗 皿 高坏 播鉢 内耳鍋 甕 茶釜 香炉 石臼 砥石 硯	SD125、SE18、SK621・ 625・629・636・1174→ 本跡→第2号段切状遺構、 SD54・56・126・143、 SE16、SK594・617・ 622・623・639・1385 SD135、UP 6、 SK646・1175・2932 と重複 ビット8基
53	L 2 c6~L 2 f6	N-6°-E	直線状	9.67	30~60	18~40	5~20	皿状	外傾	人為	内耳鍋	SK639と重複 PL 5・28
54	L 2 c7~L 2 g6	N-8°-E	直線状	16.40	24~52	12~20	14~25	皿状	外傾	人為	-	SD52→本跡 →SK639 PL 5
55	L 2 f7~M 3 a4	N-87°-W N-173°-E	L字状	(41.80)	79~145	20~76	52	皿状	有段	自然	碗 皿 内耳鍋 甕	SD56・144、SK604→本跡 SD141と重複 PL 6・10
56	L 3 h6~M 2 b9	N-84°-E N-98°-W	L字状	(41.10)	50~260	44~92	14~90	逆台形	外傾	人為	坏 碗 皿 播鉢 内耳鍋 甕 香炉 石臼 砥石	SD52・146、SE95・97→本跡 →SD55・124・141、SE104 SD135、SK1385と重複
60	L 2 c5~K 3 j2	N-85°-E	屈曲	(30.80)	30~70	12~56	8	皿状	外傾	人為	-	SK631→本跡 PL 7
61	L 2 i7~L 3 i1	N-87°-E	直線状	16.90	49~60	20~43	24	U字状	外傾	人為	甕	本跡→SK603・643・651・659 PG13 P 1・84と重複
62	L 2 i7~M 2 a0	N-87°-E N-160°-W	L字状	(15.40)	48~112	12~30	28	U字状	外傾	人為	-	本跡→SK578・579・ 587・643・676 PG13 P 41~44と重複
124	M 3 a6~M 3 a7	N-92°-E	直線状	(5.50)	68~90	30~68	12~20	皿状	外傾	自然	-	SD56→本跡 →SD123
125	L 3 a2~L 3 a5	N-90°-E	屈曲	(10.50)	22~45	10~15	44~60	U字状	外傾	自然	内耳鍋	SD129、SK1121→本跡→SD52 SK1172と重複 PL 5
126	L 3 b2~L 3 b7	N-90°-E	直線状	(19.97)	70~114	25~65	20	皿状	外傾	自然	碗 皿 内耳鍋 甕 德利 瓦	SD52・113・139、 HT 8・9、SK1203・ 1206・1228→本跡 SE100、SK1206、PG29 P 1と重複 PL 9
129	K 3 j4~L 3 a5	N-173°-E	直線状	(5.15)	70~100	30~50	20~50	逆台形	外傾	自然	碗 皿 内耳鍋 甕 瓶類	SK1121→本跡→SD125 ビット4基
135	L 3 j6~L 3 j7	N-78°-E	直線状	(4.72)	30~62	10~34	10	皿状	外傾	自然	-	SD123→本跡 SD56、PG27 P 143・ 223と重複
141	L 3 b2~M 3 a3	N-0° N-90°-E N-185°-E	屈曲	(39.50)	47~153	12~33	38	皿状	外傾	自然	坏 碗 皿 内耳鍋 甕 茶臼 砥石	SI 111、SD56・144、 SK1185・1204、 1209・1222→本跡 SD55と重複 PL 10
143	L 3 g3~L 3 g6	N-93°-E	直線状	9.72	30~75	10~40	14	皿状	外傾	自然	碗 内耳鍋	SD52→本跡
144	L 3 i2~L 3 h5	N-78°-W	直線状	11.52	43~118	10~52	8~37	逆台形	外傾	自然	内耳鍋	SK668・669→本跡 →SD55・141
146	L 3 h5~L 3 j6	N-156°-E	直線状	(8.50)	76~125	15~26	15~26	皿状	外傾	自然	碗カ 皿 香炉	本跡→SD56、SE104 ビット4基
297	L 2 a7~L 2 a9	N-82°-E	直線状	(7.80)	42~100	10~72	5~10	皿状	外傾	人為	-	本跡→SE16

ウ 掘立柱建物跡

第41号掘立柱建物跡 (第51図 PL37)

位置 第1号区画北部のL 3 c3区、標高21.0mほどの台地斜面部に位置している。

重複関係 柱穴との直接的な重複はないが、建物範囲内に第1176・1178~1180・1182号土坑が位置している。

規模と形状 第30号ピット群として調査したが、柱穴の配置や深さ、覆土などの検討から、整理段階で掘立柱建物跡と判断した。桁行3間、梁行1間の側柱建物跡で、N-87°-Wの東西棟である。規模は桁行5.8m、梁行3.8mで、柱間寸法は桁行が1.9m、梁行が3.8mで、柱間・柱筋とも揃っている。

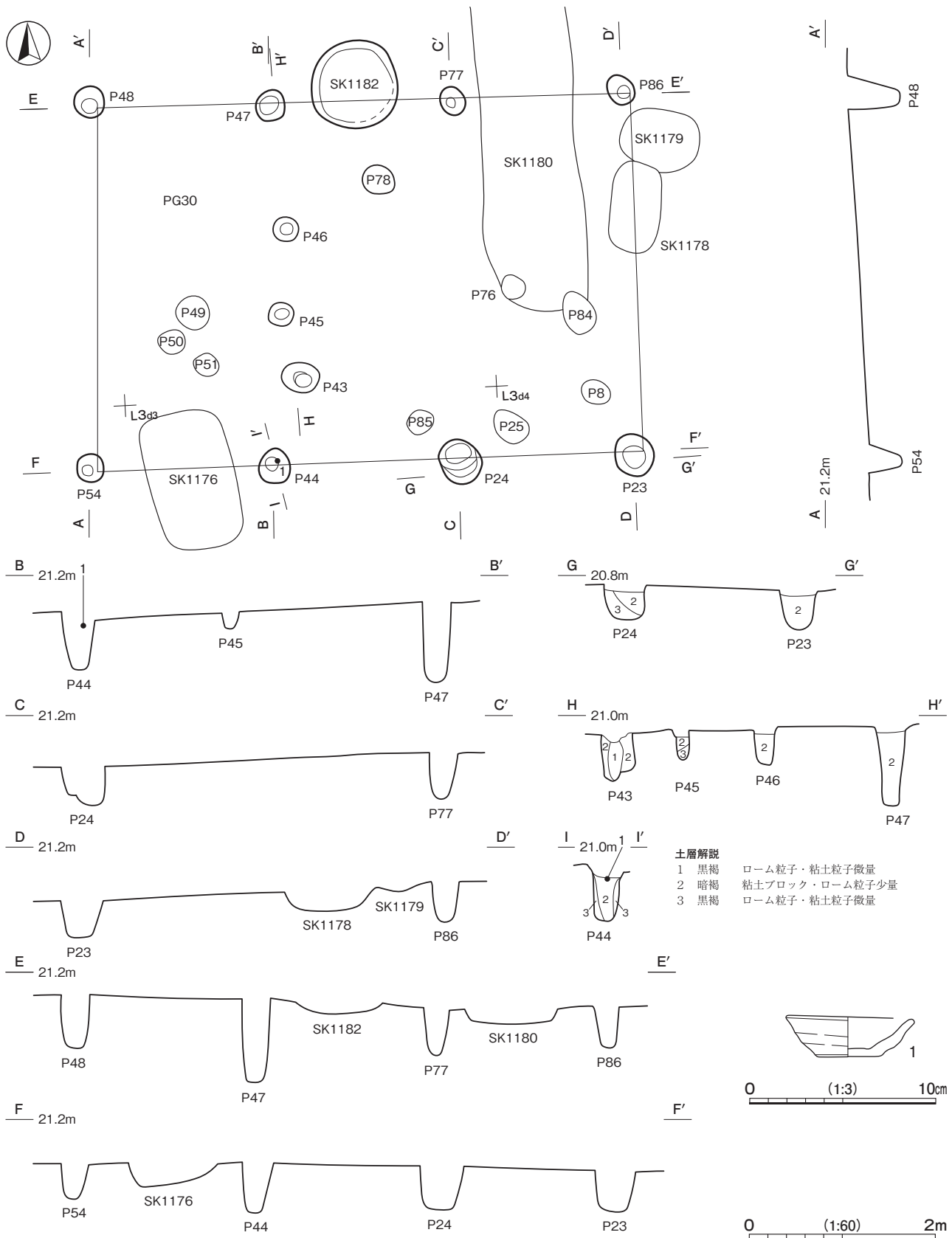
柱穴 8か所。平面形は楕円形と円形で、長径30~50cm、短径25~45cmである。深さは35~90cmとややばらつきがある。覆土は、柱の抜き取り後に粘土ブロックやローム粒子を含む暗褐色土の第2層が流入している。

遺物出土状況 1はP 44の覆土上層から、土師質土器内耳鍋の口縁部片1点がP 23の覆土中から、土師質土器皿の体部片1点がP 44の覆土中から、それぞれ出土している。

所見 時期は、位置と形状、出土土器から15世紀後半と考えられる。

第19表 第41号掘立柱建物跡出土遺物一覧 (第51図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	6.7	2.0	3.5	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部及び体部下端強いナデ 底部回転糸切り	P 44 覆土上層	100% PL37



第51図 第41号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第42号掘立柱建物跡 (第52・53図)

位置 第1号区画北部のL3e4区、標高21.0mほどの低地部に位置している。

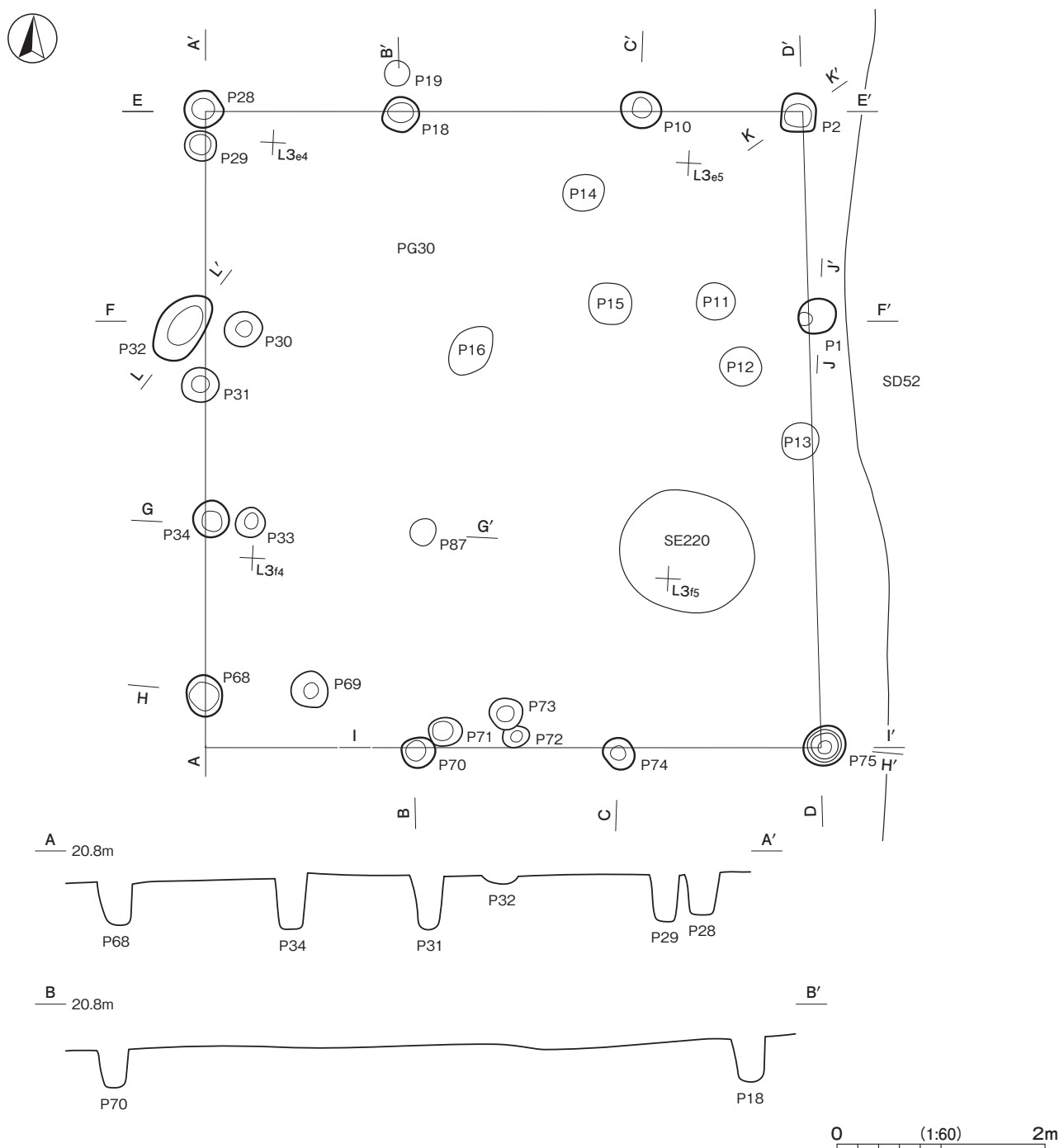
重複関係 柱穴との直接的な重複はないが、建物範囲内に第220号井戸跡が位置している。

規模と形状 第30号ピット群として調査したが、柱穴の配置や深さ、覆土などの検討から、整理段階で掘立柱建物跡と判断した。桁行3間、梁行3間の側柱建物跡と想定される。規模は南北6.2m、東西5.8mで、仮に南北軸を主軸とすると、主軸方向はN-3°-Wで、隣接する第52号溝跡の主軸方向とほぼ一致する。柱間寸法は桁行が1.6~2.1m、梁行が1.6~2.3mとばらつきがある。

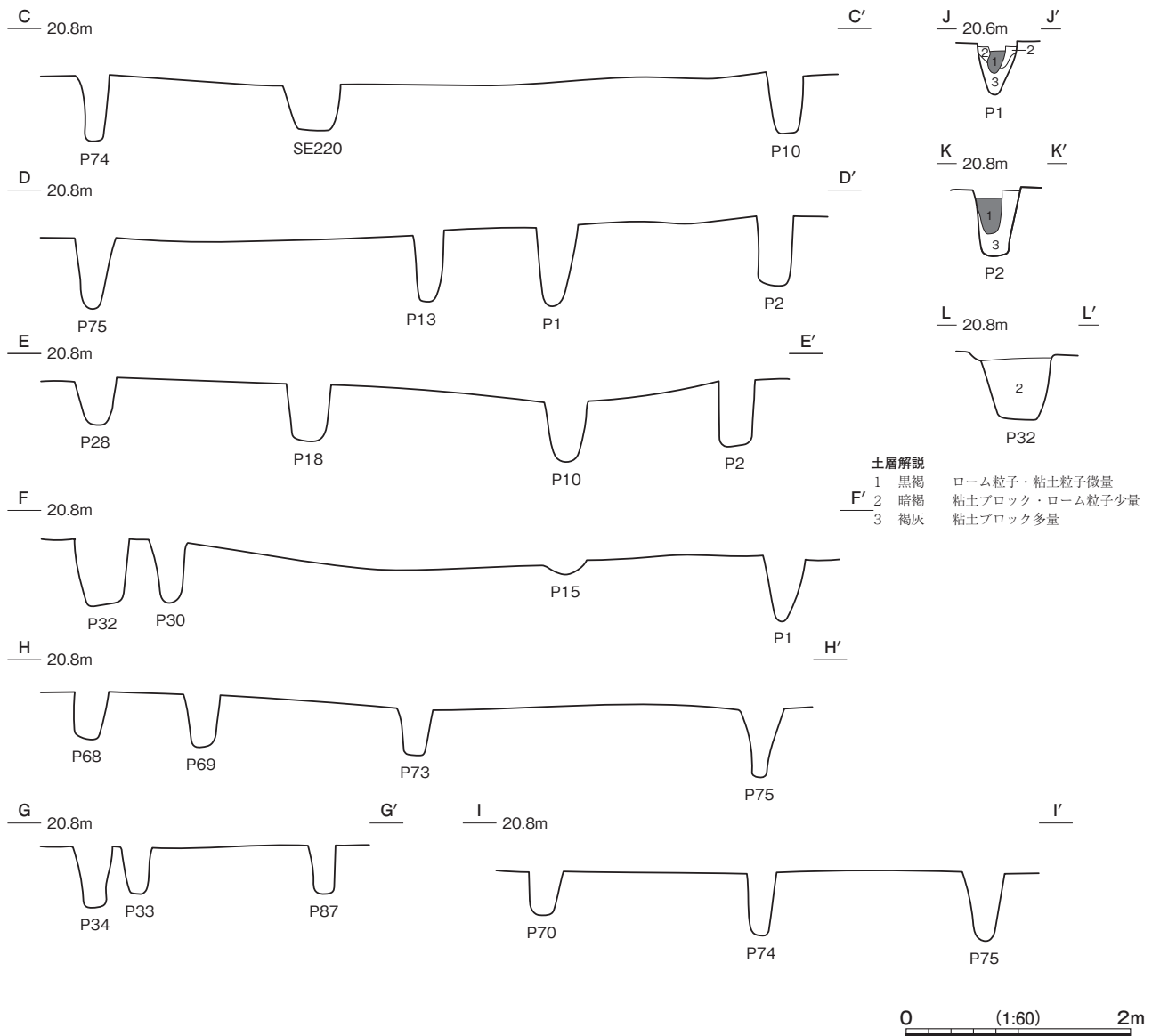
柱穴 11か所。平面形は楕円形と円形で、長径30~70cm、短径30~50cmである。深さは40~75cmとばらつきがある。覆土はP1・P2で柱痕跡が確認でき、P10・P18・P28・P74・P75でも、柱痕跡の第1層と埋土の第2層を確認している。また、P29~P31・P33・P69・P71~P73など、規模や形状の似ている柱穴が、柱筋上や周辺で確認されていることから、建て替えや間仕切りなどが考えられる。

遺物出土状況 土師質土器内耳鍋の体部片1点がP70の覆土中から、土師質土器皿の底部1点がP29の覆土中から、それぞれ出土している。

所見 時期は、主軸方向と出土土器から、15世紀後半から16世紀前半と考えられる。



第52図 第42号掘立柱建物跡実測図(1)



第 53 図 第 42 号掘立柱建物跡実測図(2)

第 43 号掘立柱建物跡 (第 54 図)

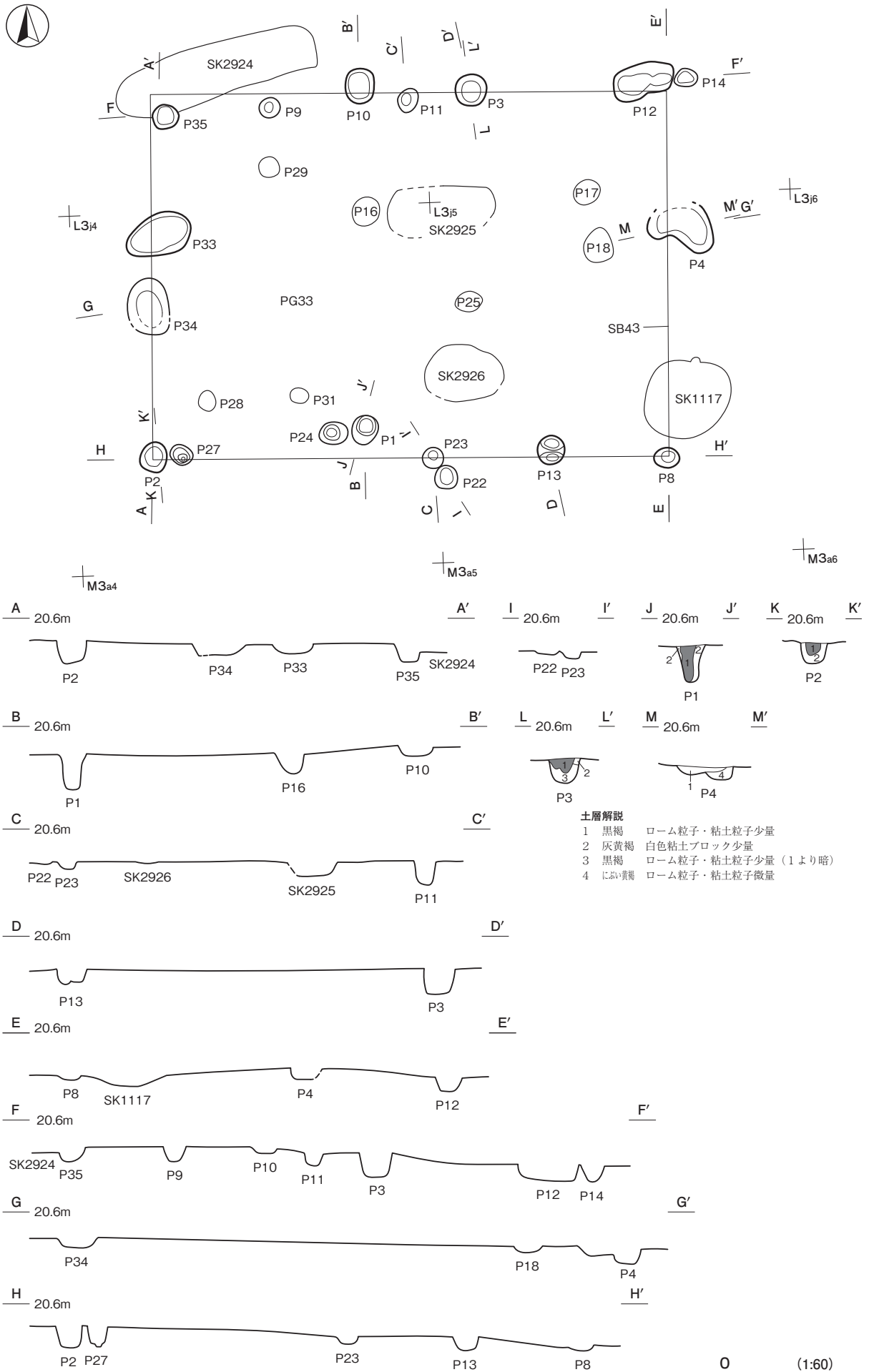
位置 第 1 号区画南東部の L 3 j4 区、標高 21.0 m ほどの台地斜面部に位置している。

重複関係 重複している P 35 と第 2924 号土坑との関係は不明である。柱穴との直接的な重複はないが、建物範囲内に第 1117・2925・2926 号土坑が位置している。

規模と形状 第 33 号ピット群として調査したが、柱穴の配置や深さ、覆土などの検討から、整理段階で掘立柱建物跡と判断した。桁行 3 間、梁行 2 間の側柱建物跡で、主軸方向が N - 87° - W の東西棟である。規模は長軸 5.8 m、東西 4.0 m で、柱間寸法は桁行が 1.3 ~ 2.4 m、梁行が 1.4 ~ 2.6 m とばらつきがある。

柱穴 9 か所。平面形は楕円形と円形で、長径 30 ~ 80cm、短径 20 ~ 50cm である。深さは 10 ~ 30cm で、全体的に径が小さく、深さの浅いものが多い。P 1 ~ P 3 で柱痕跡を確認している。また、P 9・P 11・P 14・P 22 ~ P 24・P 27・P 34 など、規模・形状が似る柱穴が柱筋上や周辺で確認されていることから、建て替えや間仕切りなどが考えられる。

所見 遺物は出土していないが、主軸方向が第 41 号掘立柱建物跡とほぼ一致することから、時期は、15 世紀後半と推定される。



第 54 図 第 43 号掘立柱建物跡実測図

第20表 第1号区画とその周辺の掘立柱建物跡一覧

番号	位置	桁行方向	柱間数 桁×梁(間)	規模 桁×梁(m)	面積 (㎡)	柱間寸法		柱 穴			主な出土遺物	時期	備考	
						桁間(m)	梁間(m)	構造	柱穴数	平面形				深さ(cm)
41	L3c3	N-87°-W	3×1	5.80×3.80	22.04	1.9	3.8	側柱	8	凹形・楕円形	35~90	皿 内耳鍋	15C後半	
42	L3e4	N-3°-W	3×3	6.20×5.80	35.96	1.6~2.1	1.6~2.3	側柱	11	凹形・楕円形	40~75	皿 内耳鍋	15C後半 ~16C前半	
43	L3j4	N-87°-W	3×2	5.80×4.00	23.20	1.3~2.4	1.4~2.6	側柱	9	凹形・楕円形	10~30	-	15C後半	SK2924と重複

エ 方形竪穴遺構

第8号方形竪穴遺構 (第55図 PL13)

位置 第1号区画周辺で、第2号区画(北)との間のL3b5区、標高21.0mほどの台地斜面部に位置している。

重複関係 第126号溝に掘り込まれている。重複している第29号ピット群P2との関係は不明である。

規模と形状 隅丸長方形の主室部と、隅丸長方形の出入口部からなる。北側が第126号溝に掘り込まれているため、確認できた主室部は長軸2.14m、短軸1.75m、出入口部は長軸0.82m、短軸0.80mで、壁はそれぞれ高さ28cm、17cmで外傾している。主軸方向はN-11°-Wである。

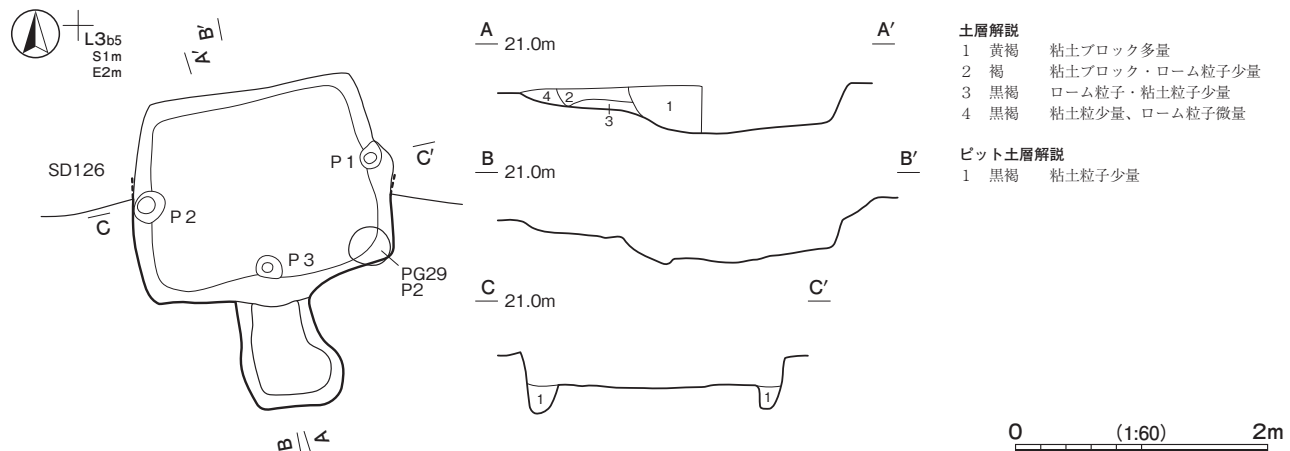
床 主室部は平坦である。出入口部は主室方向に向かって緩やかに下がっている。

ピット 3か所。各ピットは径が15~30cmで、短軸壁際のピットは深さ20~25cmとやや深く、出入口部下のピットは深さ10cmで、浅く窪む程度である。

覆土 4層に分層できる。第1層に粘土ブロックを多量に含み、不規則な堆積状況から人為堆積である。

遺物出土状況 混入した須恵器甕片1点が出土している。

所見 位置と形状から、中・近世の遺構と判断した。詳細な時期は不明である。



第55図 第8号方形竪穴遺構実測図

第9号方形竪穴遺構 (第56図 PL13)

位置 第1号区画北部のL3b3区、標高21.0mほどの台地斜面部に位置している。

重複関係 第126号溝、第1180号土坑に掘り込まれている。

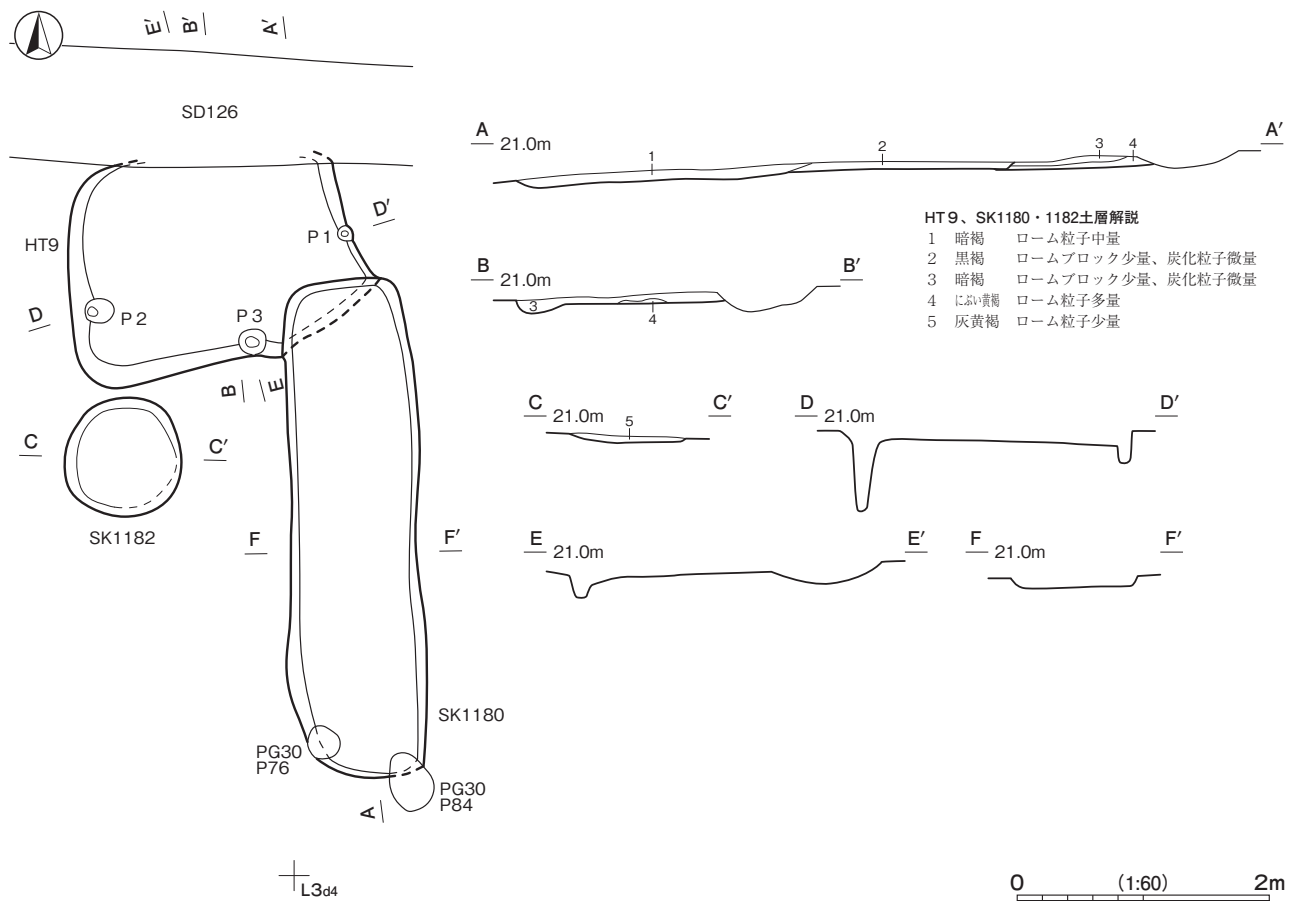
規模と形状 北側が第126号溝に掘り込まれているため、確認できた長軸(東西軸)は2.44mで、短軸(南北軸)は1.72mである。隅丸長方形で、ピット位置から推測できる主軸方向はN-14°-Wである。壁は高さ10cmで、外傾している。

床 ほほぼ平坦で、硬化面などは確認できなかった。

ピット 3か所。各ピットは径が10~25cmで、短軸壁際のピットは西から深さ55cm、15cmと深さにばらつきがある。南壁際中央のピットは深さ15cmで、位置から出入口施設に伴うものと考えられる。

覆土 2層に分層できる。第4層はローム粒子が多量に含まれているが、レンズ状の堆積状況から、自然堆積である。

所見 位置と形状から、中・近世の遺構と判断した。詳細な時期は不明である。



第 56 図 第 9 号方形竪穴遺構、第 1180・1182 号土坑実測図

第 21 表 第 1 号区画とその周辺の方形竪穴遺構一覧

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 長軸×短軸 (m)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考
								主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
8	L 3 b5	N - 11° - W	方形	(2.53) × 2.14	10 ~ 28	平坦	-	2	1	-	-	-	人為	-	15 ~ 16 C	本跡→SD126 PG29 P 2と重複
9	L 3 b3	N - 14° - W	方形	2.44 × (1.72)	10	平坦	-	2	1	-	-	-	自然	-	15 ~ 16 C	本跡→SD126、 SK1180

オ 井戸跡

第 1 号区画及びその周辺では、第 15・16・18・95・97・98・101・104・116・220 ~ 223 号井戸跡の 13 基を確認した。このうち、第 95・98・101・220・221 号井戸の時期は、詳細な時期を判断できる遺物がないため、位置や形状から中・近世と判断した。大型の円形で漏斗状の掘方を有している第 97 号井戸、小型の円形で漏斗状の掘方を有している第 95 号井戸のほかは、小型の円形で円筒状の掘方を有している。また、第 101 号井戸や第 116・220 号井戸では、中でオーバーハングしている。以下、特徴的なものについて記述し、それ以外については実測図と一覧で記載する。

第 15 号井戸跡 (第 57 図 PL14・37)

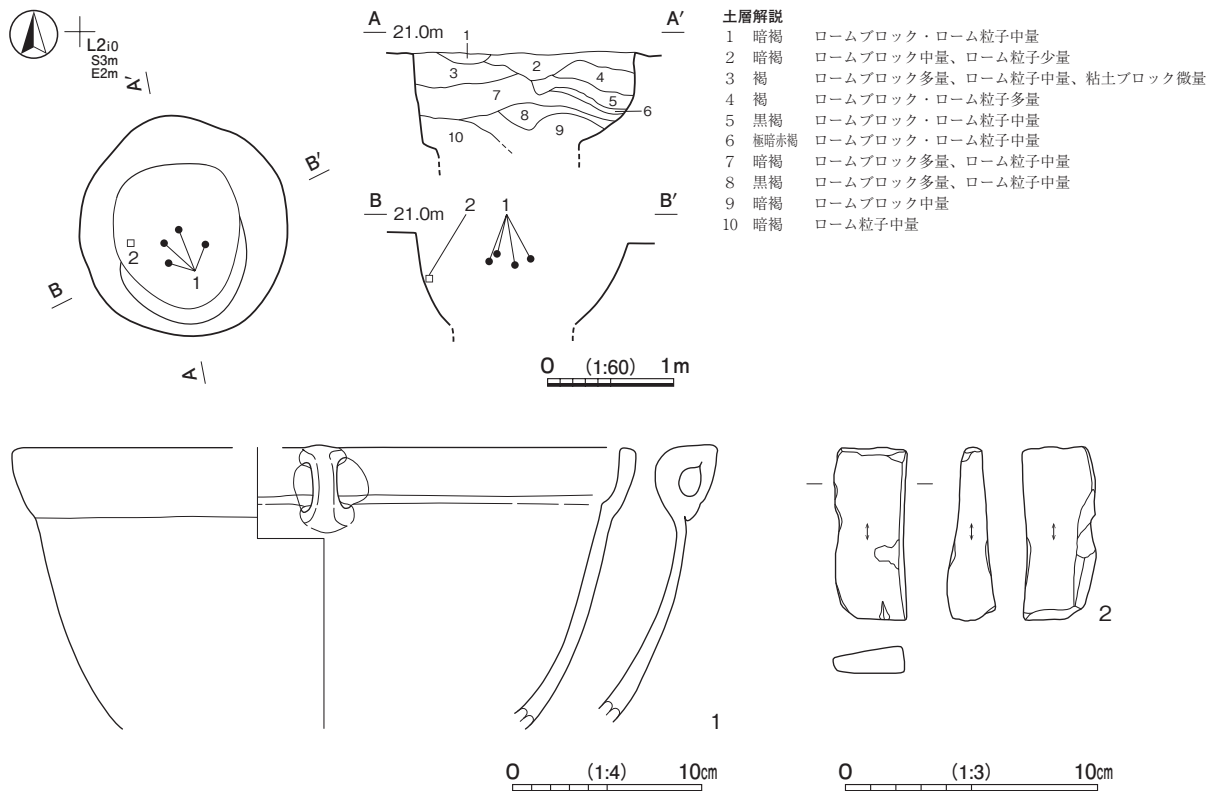
位置 第 1 号区画南部の L 2 j0 区、標高 21.0 m ほどの台地斜面部に位置している。

規模と形状 長軸 1.75 m、短軸 1.66 m のほぼ円形で、漏斗状に掘り込んでいる。崩落の恐れがあったため、確認面から深さ 76cm までの調査とした。

覆土 10 層を確認した。各層にわたりロームブロックを多く含み、不規則な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器 9 点 (内耳鍋)、石器 1 点 (砥石) が出土している。1 は確認した覆土の上層から中層にかけて、2 は覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から 15 世紀後半と考えられる。



第57図 第15号井戸跡・出土遺物実測図

第22表 第15号井戸跡出土遺物一覧（第57図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	内耳鍋	[34.0]	(14.9)	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	体部は緩やかな立ち上がり 口縁部屈曲して内湾	覆土上層 ～中層	20% PL37 外面煤付着

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
2	砥石	6.9	2.9	2.1	45.63	凝灰岩	砥面3面	覆土中層	PL37

第16号井戸跡（第58図 PL14・37）

位置 第1号区画の北西コーナー部に当たるL2b7区、標高21.5mほどの台地斜面部に位置している。

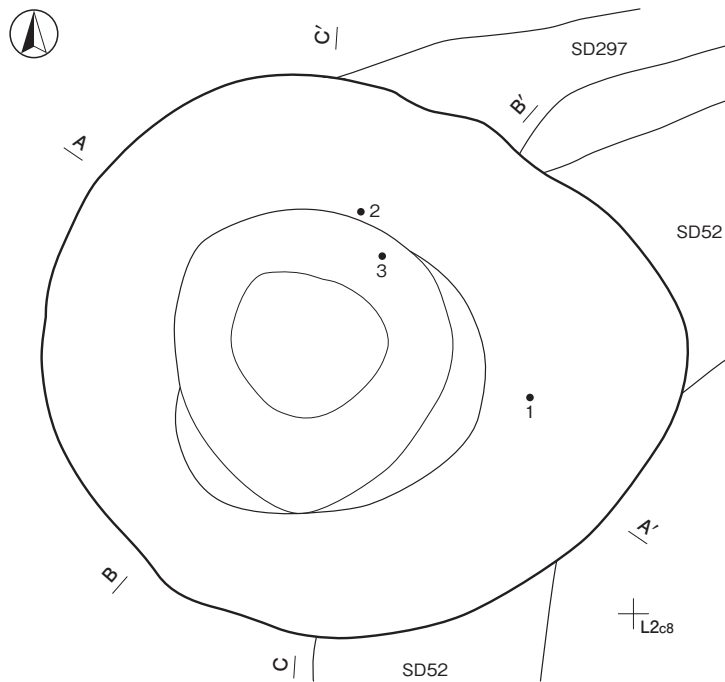
重複関係 第52・297号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径5.12m、短径4.44mの楕円形で、長径方向はN-85°-Wである。確認面から140cmまでは漏斗状に掘り込み、平坦な段を有している。さらに、ほぼ中央部を長径1.20m、短径1.12mの円筒状に掘り込んでいる。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から深さ160cmまでの調査とした。

覆土 11層を確認した。第1～5層はレンズ状に堆積しているが、各層にわたりロームブロックを多く含むことから、人為堆積である。

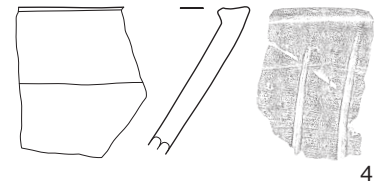
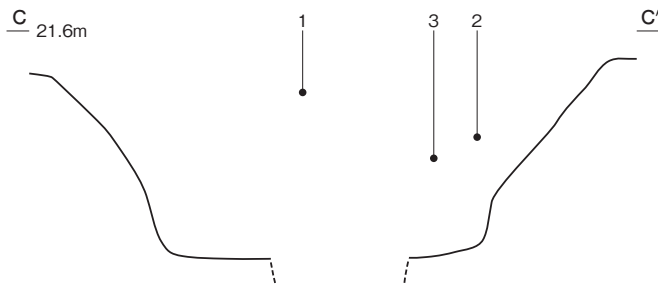
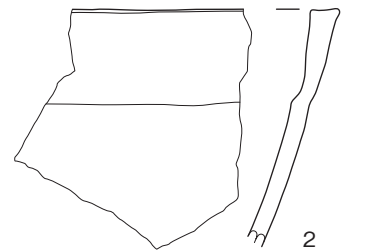
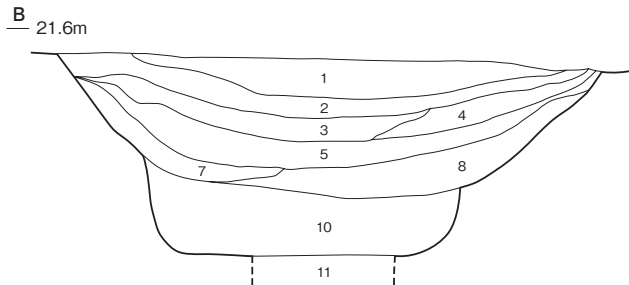
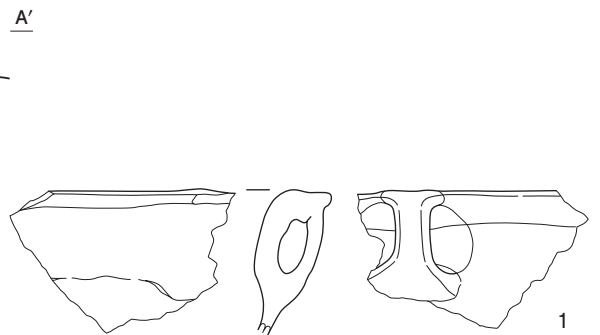
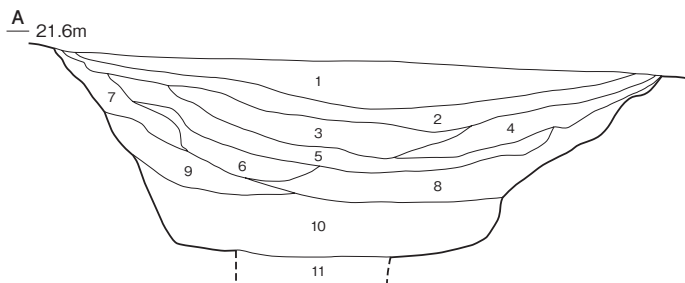
遺物出土状況 土師質土器61点（皿1、播鉢3、内耳鍋49、甕類8）、石器1点（砥石）が出土している。1～3は確認した覆土の上層からそれぞれ出土している。

所見 第1号区画の北西コーナー部に位置し、第1号区画内の井戸の中で最大規模である。主要な井戸として機能していたと推定される。時期は、出土土器と第52号溝跡を掘り込んで構築されていることから、16世紀前半と考えられる。

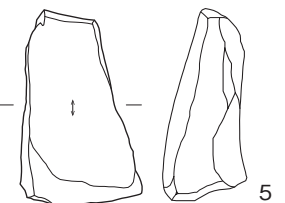
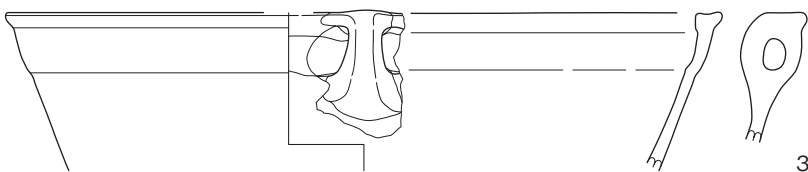


土層解説

- | | |
|-------|-----------------------|
| 1 暗褐 | ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子微量 |
| 2 黒褐 | ローム粒子多量、ロームブロック中量 |
| 3 暗褐 | ロームブロック・ローム粒子微量 |
| 4 暗褐 | ローム粒子多量、ロームブロック中量 |
| 5 黒褐 | ローム粒子微量 |
| 6 暗褐 | ローム粒子少量 |
| 7 黒褐 | ローム粒子多量、ロームブロック少量 |
| 8 暗褐 | ロームブロック中量、ローム粒子少量 |
| 9 黒褐 | ローム粒子多量 |
| 10 暗褐 | ローム粒子少量、粘土ブロック微量 |
| 11 黒褐 | 砂粒子中量、ローム粒子少量 |



0 (1:60) 2m



0 (1:4) 10cm

0 (1:3) 10cm

第 58 図 第 16 号井戸跡・出土遺物実測図

第23表 第16号井戸跡出土遺物一覧（第58図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	内耳鍋	-	(5.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部わずかに内湾 耳断面紐状	覆土上層	5% 外面煤付着
2	土師質土器	内耳鍋	-	(9.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部直線的な立ち上がり 口縁部わずかに内湾	覆土上層	5% 外面煤付着
3	土師質土器	内耳鍋	[37.7]	(8.4)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部直線的な立ち上がり 口縁部わずかに内湾 耳断面紐状	覆土上層	15% 外面煤付着
4	土師質土器	播鉢	-	(6.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部直線的な立ち上がり	覆土	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
5	砥石	7.7	4.9	3.8	122.39	凝灰岩	砥面2面（表面・表面上側縁）	覆土	PL37

第95号井戸跡（第59図 PL16）

位置 第1号区画南東コーナー部付近で、第43号掘立柱建物跡の南東3mのL3j5区、標高20.5mほどの台地斜面部に位置している。

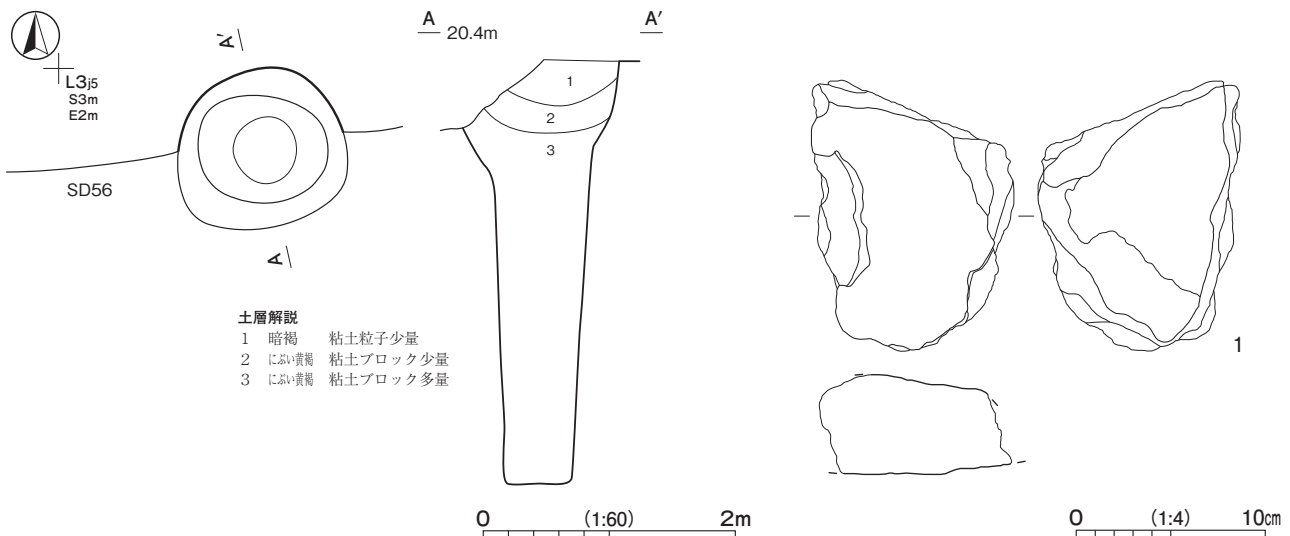
重複関係 第56号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.4m、短径1.3mの円形である。確認面から70cmまでは漏斗状に掘り込み、それ以下は長径1.0m、短径0.8mの円筒状に掘り込んでいる。確認面からの深さは335cmである。

覆土 3層を確認した。第1・2層は、少量の粘土粒子や粘土ブロックを含む褐色土がレンズ状に堆積している。第3層は粘土ブロックが主体となることから、人為堆積である。

遺物出土状況 確認した覆土の上層から、雲母片岩製の加工礫1点が出土している。

所見 位置と形状から、中・近世の遺構と判断した。詳細な時期は不明である。



第59図 第95号井戸跡・出土遺物実測図

第24表 第95号井戸跡出土遺物一覧（第59図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1	加工礫	(14.3)	(10.7)	5.3	(1159.7)	雲母片岩	正・裏面取り 裏面に煤付着 礎石カ	覆土上層	

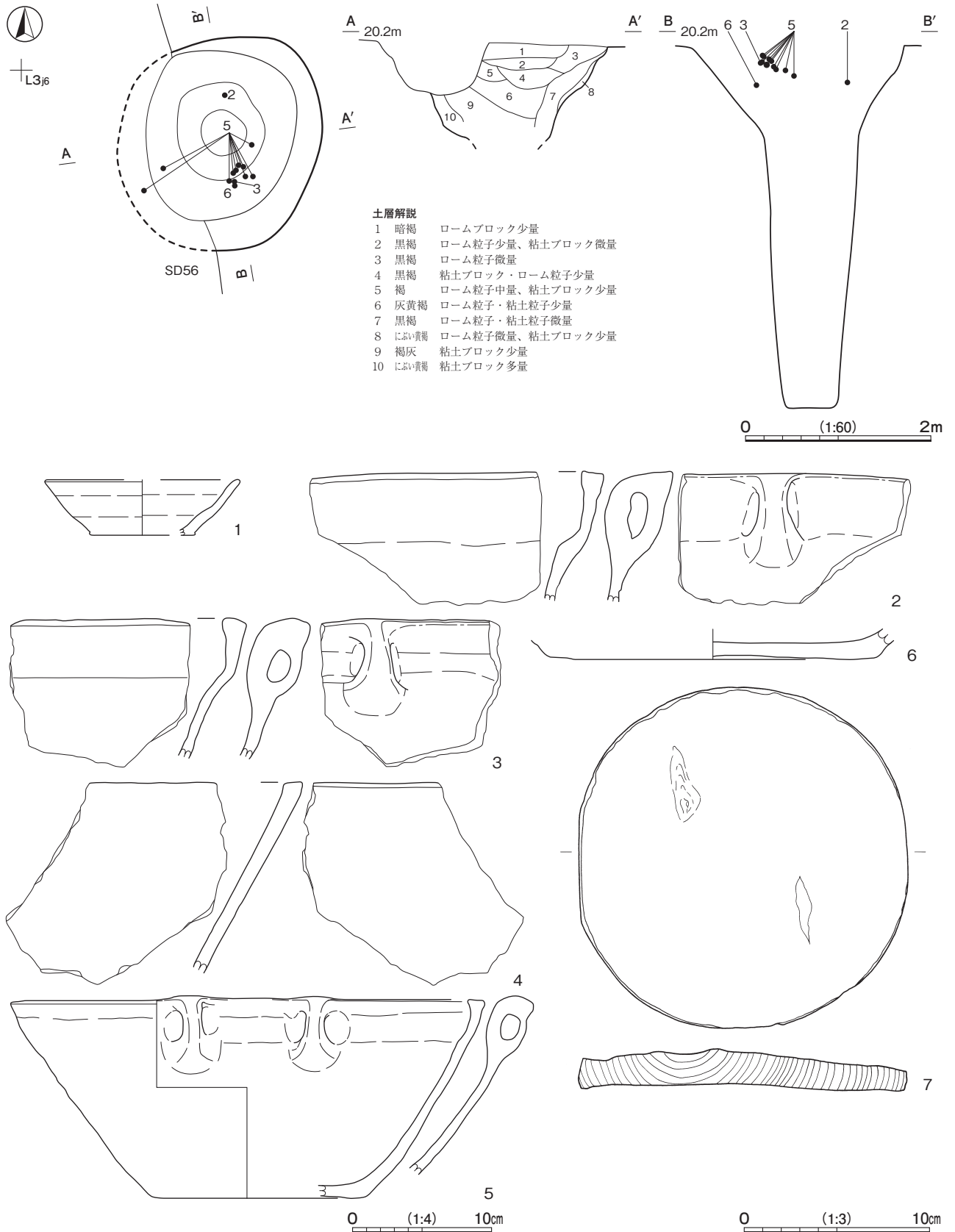
第97号井戸跡（第60図 PL16・40）

位置 第1号区画南東コーナー部付近で、第43号掘立柱建物跡の東約10mのL3j6区、標高20.0mほどの台地斜面部に位置している。

重複関係 第56号溝に掘り込まれている。

規模と形状 西部が第56号溝に掘り込まれているため、確認できた規模は長径2.28m、短径2.26mである。円形で、確認面から100cmまでは漏斗状に掘り込み、それ以下は長径1.0m、短径0.9mの円筒状に掘り込んでいる。確認面からの深さは390cmである。

覆土 10層を確認した。各層にわたり粘土ブロックやローム粒子を含み、不規則な堆積状況から、人為堆積である。
遺物出土状況 土師質土器 32点 (皿1、播鉢1、内耳鍋30)、石器1点 (砥石カ)、木製品1点 (蓋カ)、自然遺物1点 (クリ) が出土している。ほかに混入した近世以降の陶器1点が出土している。遺物は、覆土上層である第2～6層からまとめて出土している。7の木製蓋カとクリは、覆土中層から出土している。
所見 時期は、重複関係と出土土器から15世紀後半と考えられる。



第60図 第97号井戸跡・出土遺物実測図

第 25 表 第 97 号井戸跡出土遺物一覧（第 60 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	[10.4]	3.0	[5.6]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部中で屈曲 口縁部下・体部下端やや強いナデ	覆土	5%
2	土師質土器	内耳鍋	-	(7.1)	-	長石・石英・雲母・細礫	明赤褐	普通	3耳カ 口縁部と体部の境に段を持つ 耳断面紐状	覆土上層	5% PL40
3	土師質土器	内耳鍋	-	(8.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰褐	普通	3耳カ 口縁部と体部の境に段を持つ 耳断面紐状	覆土上層	5% PL40
4	土師質土器	内耳鍋	-	(11.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部直線的で体部との段はない 内面小口状の工具によるナデ	覆土	10%
5	土師質土器	内耳鍋	32.0	14.6	[15.4]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	3耳 口縁部と体部の境の段は弱い ほぼ直線的	覆土上層	70% PL40
6	土師質土器	内耳鍋	-	(1.6)	[17.6]	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	底部外面ナデ	覆土上層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
7	蓋カ	18.5	17.8	2.2	-	樹種未確認	柁目材	覆土中層	PL40

第 97 号井戸跡出土植物遺体同定調査

(株) 吉田生物研究所

茨城県に所在する島名本田遺跡で出土した、植物遺体の同定結果を以下に報告する。

1 調査した試料

調査したのは水漬けの植物遺体 1 グループである。

2 調査方法

試料を実体顕微鏡下で観察し、その形態から種の同定を試みた。その際、石川（1994 年）、大井（1978 年）、北村・村田（1979 年）、中山・井之口・南谷（2000 年）を参照した。

3 結果

木本 1 種の種実類が認められた。写真を示し、同定結果を表 1 に記す。和名の順位、学名は北村・村田（1979 年）によった。



参考文献

- 石川茂雄（1994 年）『原色日本植物種子写真図鑑』、石川茂雄図鑑刊行委員会
- 大井次三郎（1978 年）『改訂増補新版日本植物誌 顕花編』、至文堂
- 北村四郎・村田 源（1964 年）『原色日本植物図鑑 草本編』上、中、下保育社
- 北村四郎・村田 源（1979 年）『原色日本植物図鑑 木本編』I、II 保育社
- 中山至大・井之口希秀・南谷忠志（2000 年）『日本植物種子図鑑』、東北大学出版会
- 牧野富太郎（1989 年）『改訂増補牧野新日本植物図鑑』、北隆館

No.	調査地区	試料番号	個数	和名	科名	学名	種類	部位
-	220-387-30	SE97 中層 No.29	1	クリ	ブナ科	<i>Castanea crenata Sieb. et Zucc.</i>	木本	堅果

第 104 号井戸跡（第 61 図 PL17・41）

位置 第 1 号区画南東部で、第 43 号掘立柱建物跡の北東約 7 m の L 3 h5 区、標高 20.0 m ほどの低地部に位置している。

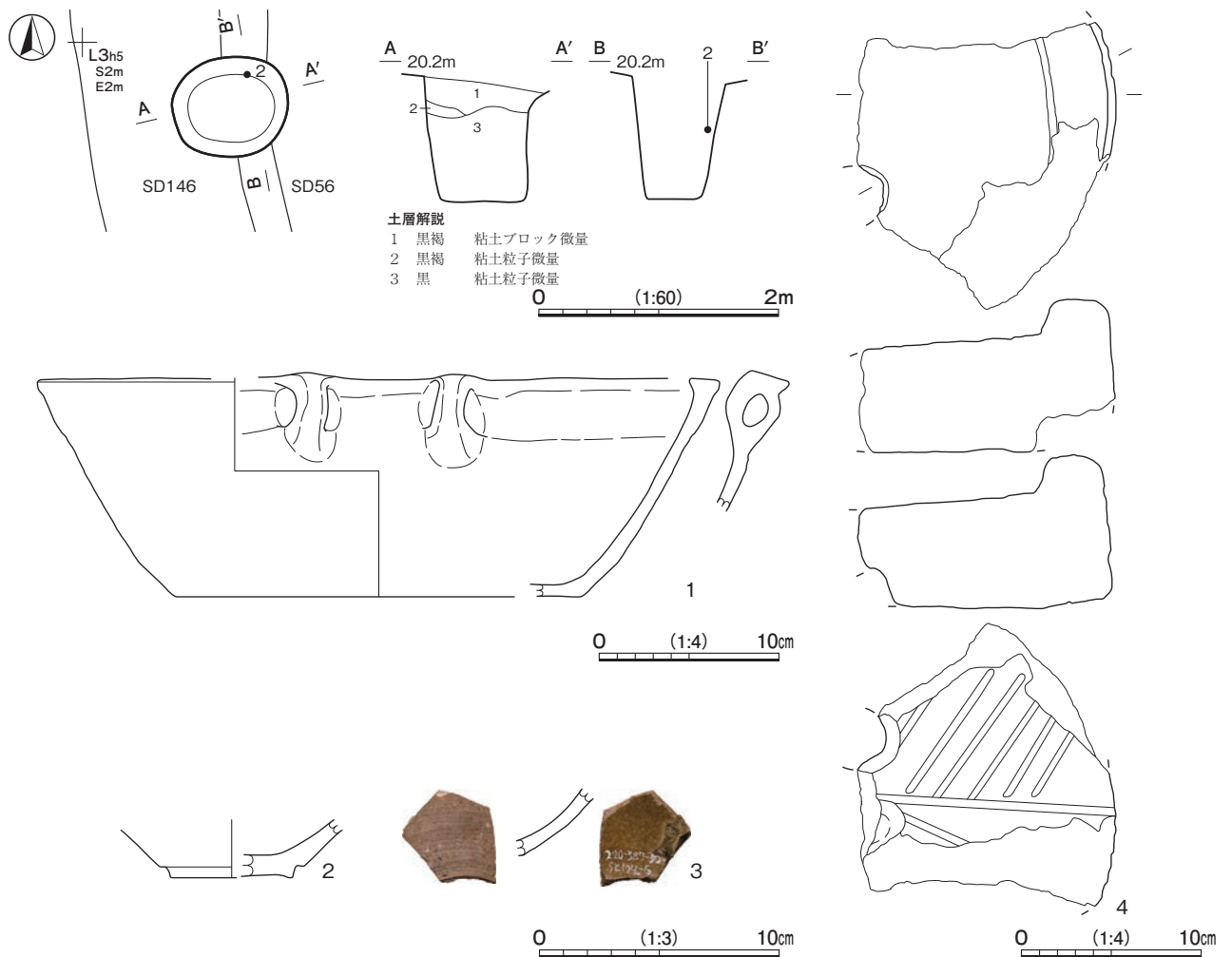
重複関係 第 56・146 号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 0.98 m、短径 0.84 m の楕円形で、長径方向は N - 78° - E である。確認面から円筒状に掘り込んでいる。確認面からの深さは 103cm である。

覆土 3 層を確認した。粘土粒子・粘土ブロックをわずかに含み、不規則な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器 13 点（内耳鍋）、陶器 2 点（平碗）、石器 3 点（石臼、砥石 2）が出土している。ほかに混入した土師器片 5 点（坏 2、甕 3）が出土している。2・3 は古瀬戸後期の平碗で、2 は覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土遺物から 16 世紀代と考えられる。



第 61 図 第 104 号井戸跡・出土遺物実測図

第 26 表 第 104 号井戸跡出土遺物一覧 (第 61 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考		
1	土師質土器	内耳鍋	[37.8]	12.6	[22.5]	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	3耳 口縁部と体部の境の段は弱い 耳断面紐状	覆土上層	20% PL41		
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	釉薬	産地	出土位置	備考	
2	陶器	平碗	-	(2.4)	[5.0]	長石	外: 灰黄 内: オリーブ灰	削り出し高台	古瀬戸後期	灰釉	瀬戸	覆土中層	20% PL41
3	陶器	平碗	-	(2.9)	-	長石	灰白	内面に釉垂	古瀬戸後期	灰釉	瀬戸	覆土上層	5%
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考				
4	石臼	(15.9)	(14.4)	8.5	(1751.0)	安山岩	上白 正面に中心孔 裏面に軸穴あり	覆土中層	PL41				

第 116 号井戸跡 (第 62 図 PL17・41)

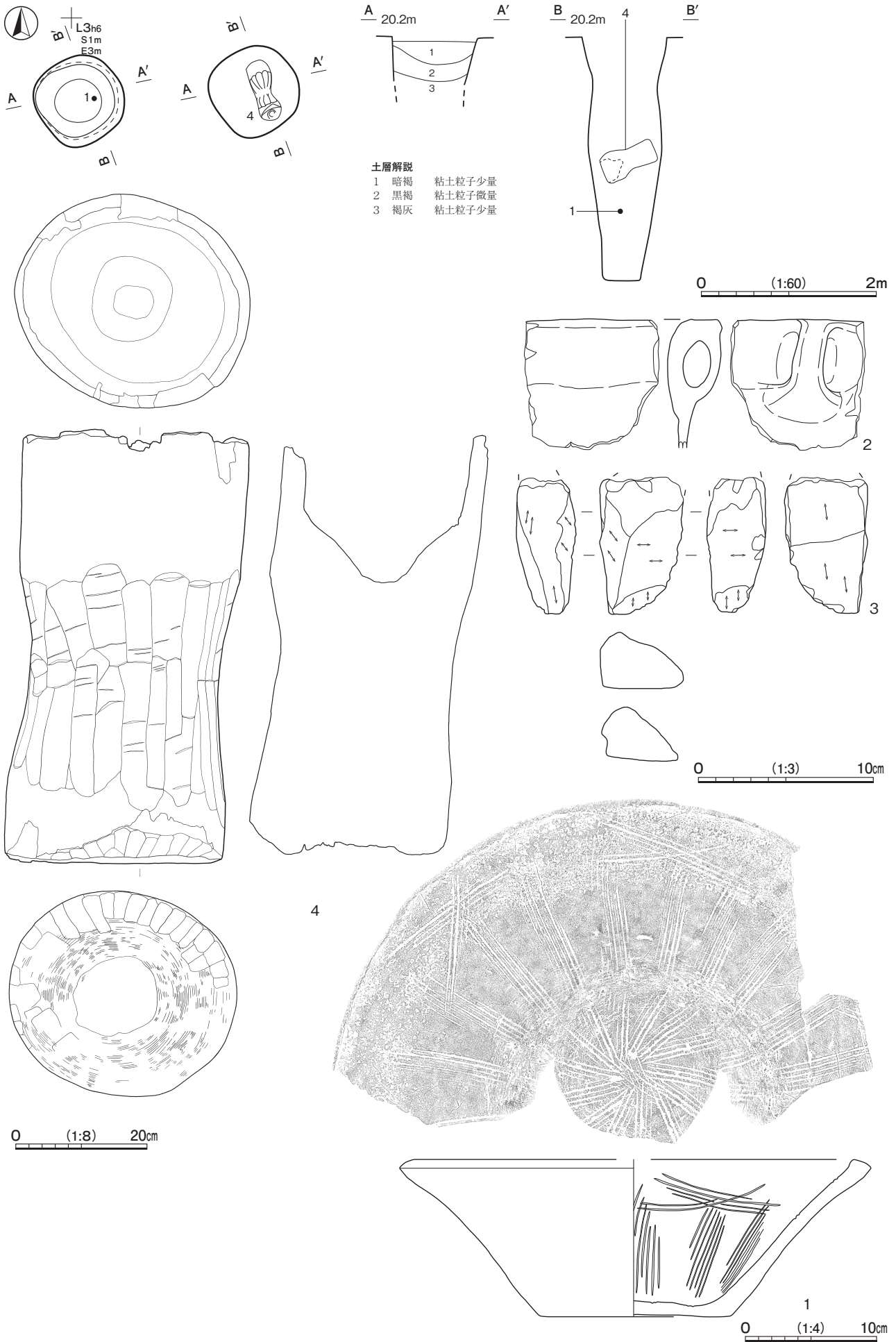
位置 第 1 号区画と第 2 号区画に挟まれた通路状部分の L 3 h6 区、標高 20.0 m ほどの低地部分に位置する。

規模と形状 径 1.0 m の円形で、確認面からの深さは 278cm である。円筒状に掘り込み、確認面から下に 1.2 m の辺りでオーバーハングしている。

覆土 3 層を確認した。粘土粒子を含む褐色土主体の層がレンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

遺物出土状況 土師質土器 2 点 (播鉢、内耳鍋)、陶器 1 点 (甕)、石器 1 点 (砥石)、木製品 1 点 (臼) が出土している。ほかに混入した土師器片 4 点 (坏 1、甕 3) が出土している。1 は覆土下層から、4 は横位で覆土中層から、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から 16 世紀中葉と考えられる。



第 62 図 第 116 号井戸跡・出土遺物実測図

第 27 表 第 116 号井戸跡出土遺物一覧 (第 62 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	播鉢	[33.5]	12.0	14.9	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐	普通	7条1単位の播目	覆土下層	50% PL41
2	土師質土器	内耳鍋	-	(7.5)	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口縁部と体部の境の段は弱い 耳断面紐状	覆土	5% 外面煤付着

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
3	砥石	(7.8)	4.8	3.5	(127.41)	凝灰岩	砥面4面 表面は古い剥離の上を研磨	覆土	PL41

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
4	白	65.9	37.2	36.3	-	マツ科マツ属	芯持材 堅白 胴部上下から削り 底面周辺削り	覆土中層	PL41

第 116 号井戸跡出土植物遺体同定調査

(株) 吉田生物研究所

茨城県に所在する島名本田遺跡で出土した、植物遺体の同定結果を以下に報告する。

1 試料

試料は第 116 号井戸跡から出土した農具 1 点である。

2 観察方法

剃刀で木口(横断面)、柁目(放射断面)、板目(接線断面)の各切片を採取し、永久プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

3 結果

樹種同定結果の表と顕微鏡写真を示し、以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

マツ科マツ属 [二葉松類] (Pinus sp.)

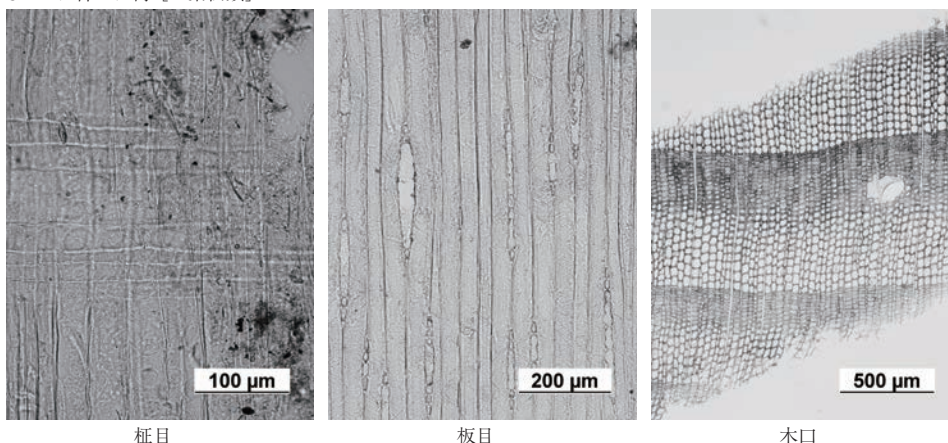
木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は急であった。大型の垂直樹脂道が細胞間隙としてみられる。柁目では放射組織の放射柔細胞の分野壁孔は窓型である。上下両端の放射仮道管内は内腔に向かって鋸歯状に著しくかつ不規則に突出している。板目では放射組織は単列で 1 ~ 15 細胞高のもの、水平樹脂道を含んだ紡錘形のものがある。マツ属 [二葉松類] はクロマツ、アカマツがあり、北海道南部、本州、四国、九州に分布する。

参考文献

- 林 昭三「日本産木材顕微鏡写真集」京都大学木質科学研究所 (1991)
 - 伊東隆夫「日本産広葉樹材の解剖学的記載 I ~ V」京都大学木質科学研究所 (1999)
 - 島地 謙・伊東隆夫「日本の遺跡出土木製品総覧」雄山閣出版 (1988)
 - 北村四郎・村田 源「原色日本植物図鑑木本編 I・II」保育社 (1979)
 - 奈良国立文化財研究所「奈良国立文化財研究所 史料第 27 冊 木器集成図録 近畿古代篇」(1985)
 - 奈良国立文化財研究所「奈良国立文化財研究所 史料第 36 冊 木器集成図録 近畿原始篇」(1993)
- 使用顕微鏡 Nikon DS-F11

No.	試料番号	品名	学名	木取
4	SE116 No.2	白	マツ科マツ属 [二葉松類]	芯持材

No.28 マツ科マツ属 [二葉松類]



第 222 号井戸跡 (第 63 図 PL18・42)

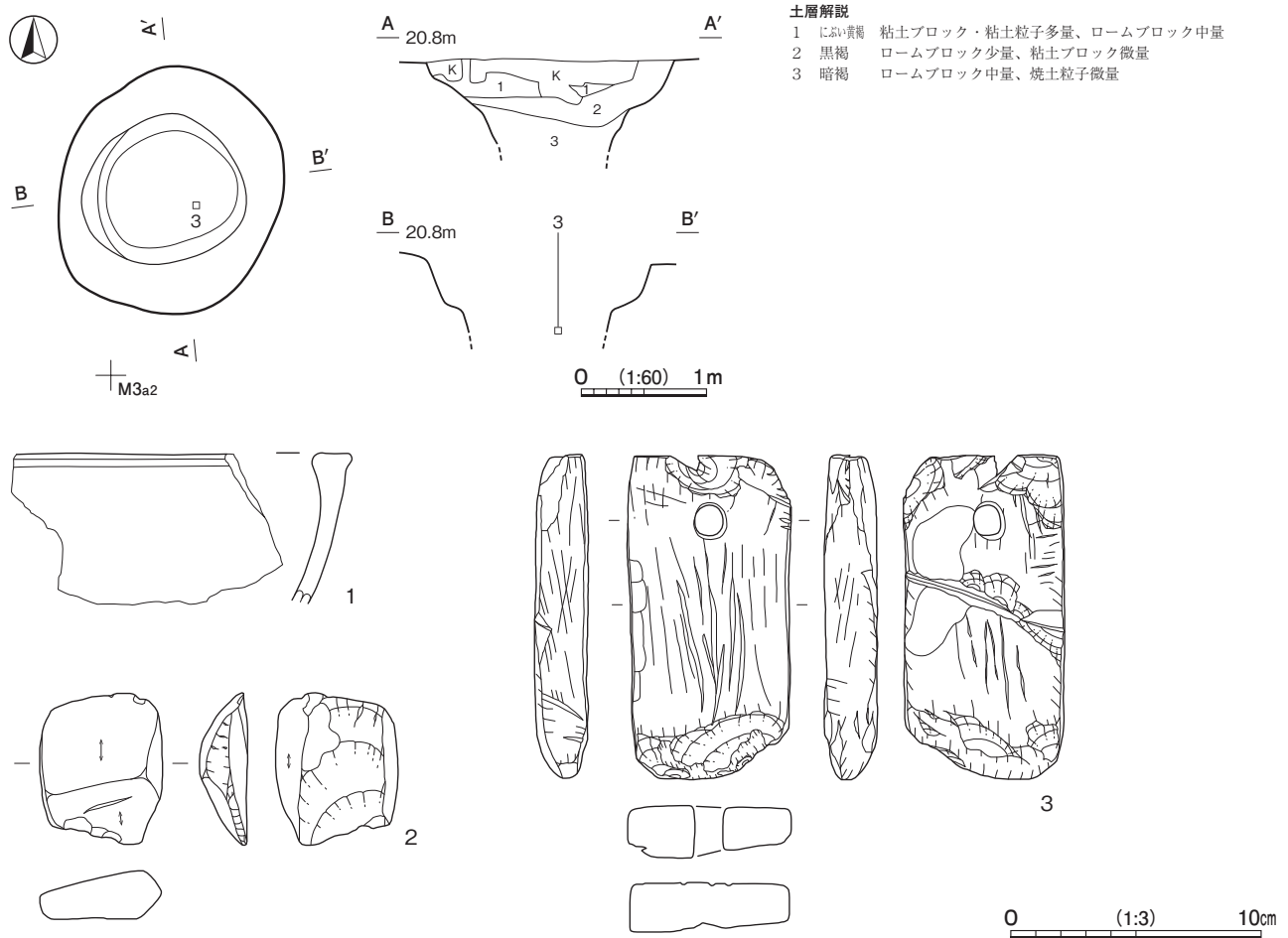
位置 第 1 号区画南部の L 3j2 区、標高 21.0 m ほどの台地斜面部に位置している。

規模と形状 長径 1.97 m、短径 1.75 m の楕円形で、長径方向は N - 14° - E である。確認面から 40cm までは漏斗状に掘り込み、段を有している。それ以下は円筒状に掘り込んでいる。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から深さ 60cm までの調査とした。

覆土 3 層を確認した。各層にわたりロームブロックを多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器 6 点 (内耳鍋 5、甕類 1)、石器 1 点 (砥石)、石製品 1 点 (温石) が出土している。1・2 は覆土中から、3 は第 3 層から、それぞれ出土している。

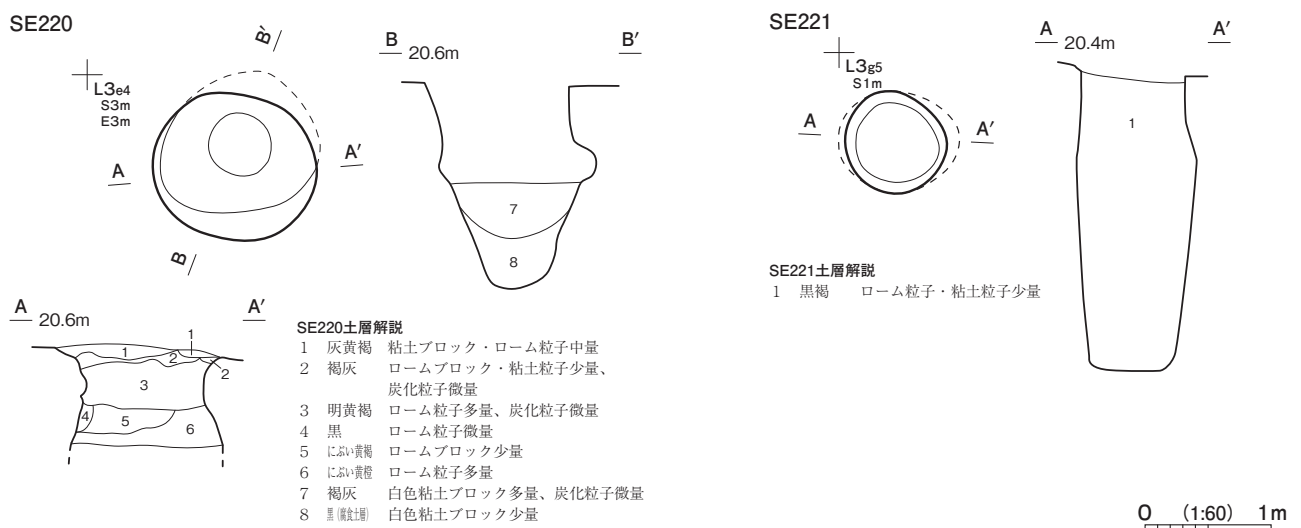
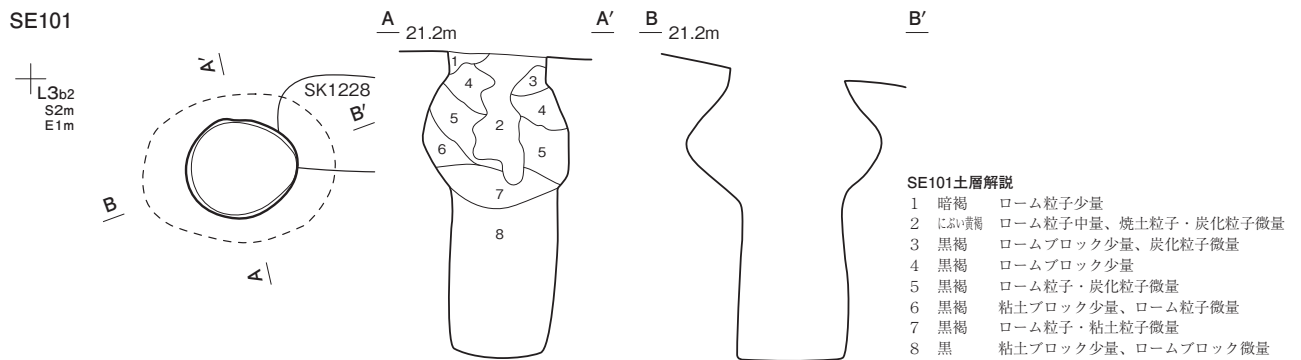
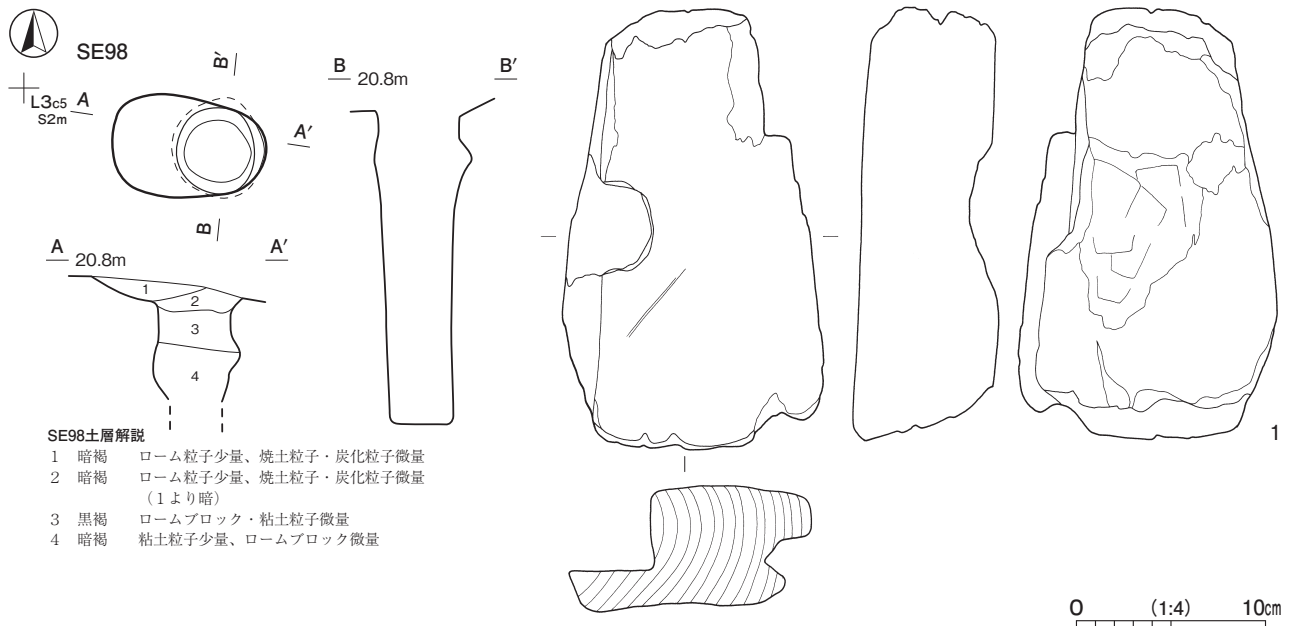
所見 時期は、出土土器から 16 世紀前半と考えられる。



第 63 図 第 222 号井戸跡・出土遺物実測図

第 28 表 第 222 号井戸跡出土遺物一覧 (第 63 図)

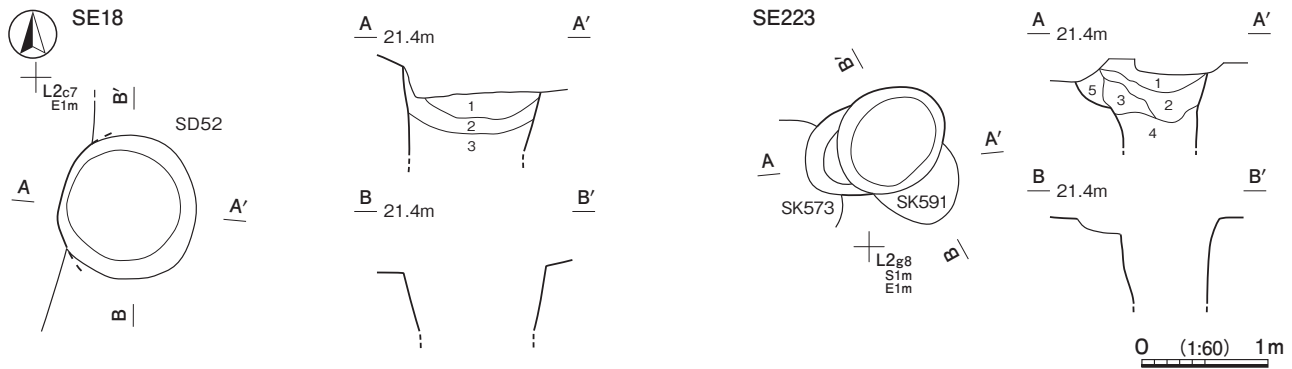
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	内耳鍋	-	(6.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	口縁部緩やかな立ち上がり	覆土	5%
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
2	砥石	6.1	4.8	2.1	57.35	凝灰岩	砥面 3 面 裏面に荒割剥離痕		覆土		
3	温石	13.0	6.5	2.1	352.79	滑石	両側から穿孔 荒割後に研磨		覆土下層	PL42	



第 64 図 第 98・101・220・221 号井戸跡・出土遺物実測図

第 29 表 第 98 号井戸跡出土遺物一覧 (第 64 図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1	部材	22.9	14.9	7.6	-	樹種未確認	柁目材 正面に抉り穴 裏面中央部に鑿状工具によるハツリ痕	覆土中層	PL40



SE18土層解説

- 1 黒褐 ローム粒子多量、ロームブロック少量
- 2 黒褐 ロームブロック中量、ローム粒子少量
- 3 暗褐 ロームブロック・ローム粒子中量

SE223土層解説

- 1 暗褐 ロームブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐 粘土ブロック中量、ロームブロック・ローム粒子少量
- 3 黒褐 ロームブロック・ローム粒子中量
- 4 暗褐 ロームブロック・ローム粒子中量
- 5 褐 ロームブロック・ローム粒子多量

第 65 図 第 18・223 号井戸跡実測図

第 30 表 第 1 号区画とその周辺の井戸跡一覧

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
15	L 2 j 0	-	円形	1.75 × 1.66	(76)	漏斗状	-	人為	内耳鍋 砥石	
16	L 2 b 7	N - 85° - W	楕円形	5.12 × 4.44	(160)	漏斗状	-	人為	播鉢 内耳鍋 砥石	SD52・297 → 本跡
18	L 2 c 7	-	円形	(1.14) × (1.09)	(33)	円筒状	-	-	-	本跡 → SD52 PL14
95	L 3 j 5	-	円形	(1.40) × (1.30)	335	漏斗状	平坦	人為	加工礫	本跡 → SD56
97	L 3 j 6	-	円形	2.28 × [2.26]	390	漏斗状	平坦	人為	蓋カ 皿 播鉢 内耳鍋 砥石カ	本跡 → SD56
98	L 3 c 5	N - 72° - W	楕円形	1.24 × 0.81	247	円筒状	平坦	自然	部材	PL16
101	L 3 b 2	N - 74° - E	楕円形	0.90 × 0.80	240	円筒状	平坦	人為	甕	SK1228 と重複
104	L 3 h 5	N - 78° - E	楕円形	0.98 × 0.84	103	円筒状	平坦	人為	平碗 内耳鍋 石白 砥石	SD56・146 → 本跡
116	L 3 h 6	-	円形	1.00 × 1.00	278	円筒状	平坦	自然	播鉢 内耳鍋 甕 白 砥石	旧 SK1181
220	L 3 e 5	N - 63° - W	楕円形	1.32 × 1.16	164	円筒状	皿状	人為	-	旧 SK1211
221	L 3 g 5	-	円形	0.82 × 0.80	240	円筒状	平坦	人為	縄文土器	旧 SK1212
222	L 3 j 2	N - 14° - E	楕円形	1.97 × 1.75	(60)	漏斗状	-	人為	内耳鍋 砥石 温石	
223	L 2 g 8	N - 66° - E	楕円形	(1.20) × (0.82)	(70)	漏斗状	-	-	-	本跡 → SK573・591

カ 土坑

第 1 号区画とその周辺では、136 基の土坑を確認した。北部には、長軸方向が 4 m ほどの長方形土坑が、軸方向をほぼ揃えて位置している（第 1180・1208・1222 号土坑）。また、これらより規模の小さい、長方形及び隅丸長方形の土坑が、主軸方向を南北（第 1173・1176～1178・1203・1204 号土坑）、あるいは、それらと直行する東西（第 1174・1175・1179・1202・1228 号土坑）に揃えて位置している。第 1202 号土坑は、やや不整形で浅い土坑で、底面から焼土跡と炭化物が確認されている。第 1 号区画と第 2 号区画に挟まれた通路状部分にも、第 1115・1121・1124・1125・1172・1205 号土坑など、主軸方向がほぼ同一の長方形土坑が位置している。南部では、第 56 号溝と主軸方向をほぼ同じくする長楕円形の第 1142・2924 号土坑、楕円形の第 1116・2925・2926 号土坑が位置している。通路状部分より北部の第 1152 号土坑は、長径 1.9 m、短径 1.72 m、深さが 66cm ほどの楕円形で、底面が皿状の土坑である。遺物は確認できなかった。以下、特徴的な土坑について記述し、それ以外については実測図と一覧で記載する。

第 594 号土坑 (第 66 図 PL19)

位置 第 1 号区画西部の L 2 f6 区、標高 21.5 m ほどの台地斜面部に位置している。

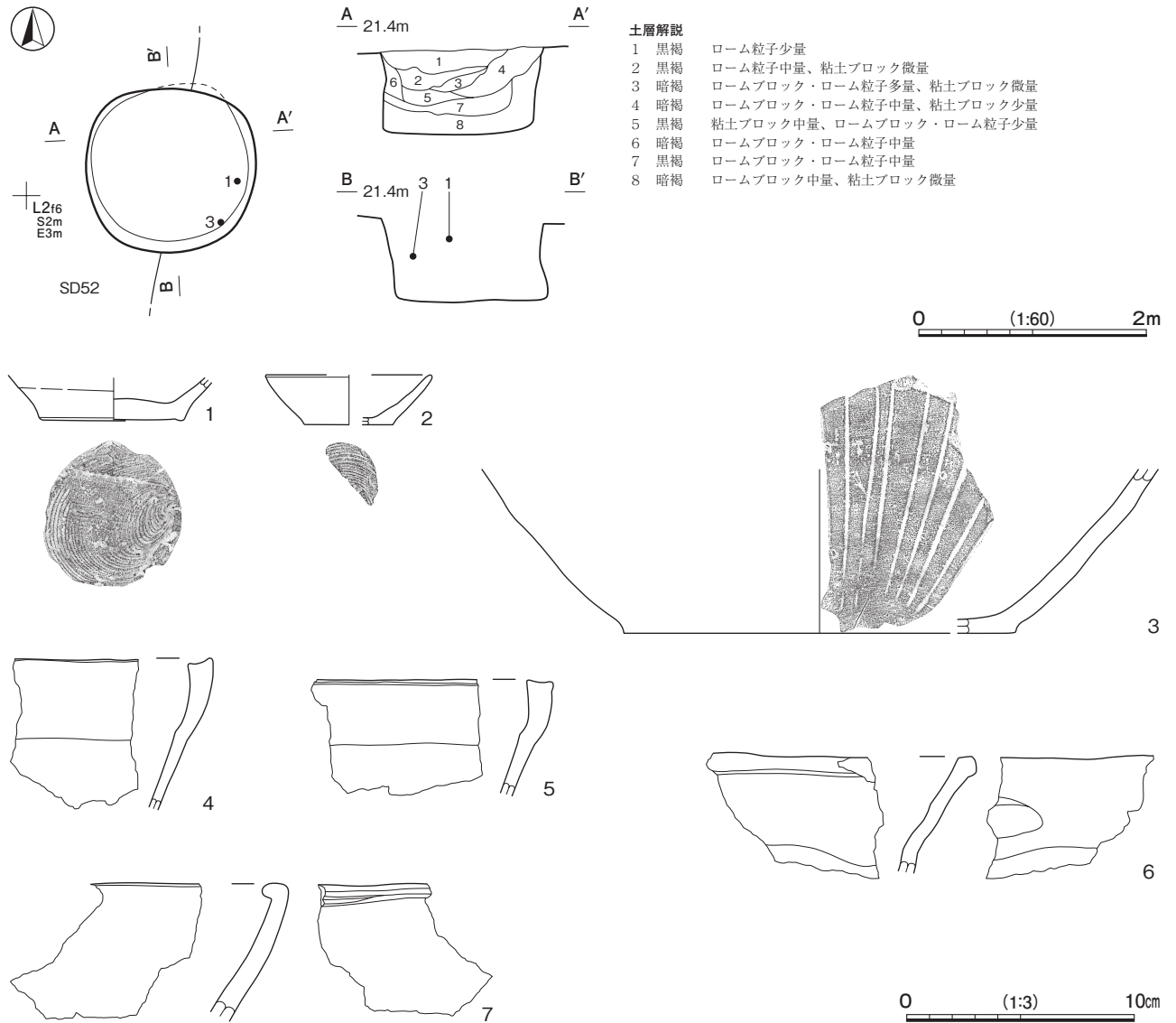
重複関係 第 52 号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.47 m、短径 1.44 m の円形で、深さは 74 cm である。底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

覆土 8 層に分層できる。各層にわたりロームブロックや粘土ブロックを多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器 33 点 (皿 2、播鉢 3、内耳鍋 25、甕類 3)、陶器 2 点 (甕類) が出土している。1・3 は覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から 16 世紀前半と考えられる。



第 66 図 第 594 号土坑・出土遺物実測図

第 31 表 第 594 号土坑出土遺物一覧 (第 66 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	-	(2.0)	6.1	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部緩やかな立ち上がり 底部回転糸切り	覆土上層	50%
2	土師質土器	皿	[7.2]	2.2	[3.9]	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部直線的な立ち上がり 底部回転糸切り	覆土	40% 煤附着
3	土師質土器	播鉢	-	(7.2)	[17.2]	長石・石英・雲母	赤褐	普通	体部緩やかな立ち上がり 単沈線による播目	覆土上層	5% 体部下半及び底部煤附着
4	土師質土器	内耳鍋	-	(5.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部直線的な立ち上がり 口縁部わずかに内湾	覆土	5% 外面煤附着
5	土師質土器	内耳鍋	-	(5.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部直線的な立ち上がり 口縁部わずかに内湾	覆土	5% 外面煤附着
6	土師質土器	内耳鍋	-	(5.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部屈折して外傾 内面に内耳付近のくぼみ	覆土	5% 外面煤附着
7	土師質土器	内耳鍋	-	(6.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部緩やかな立ち上がり	覆土	5% 外面煤附着

第 604 号土坑 (第 67 図 PL19)

位置 第 1 号区画北西部の L 2 f8 区、標高 21.5 m ほどの台地斜面部に位置している。

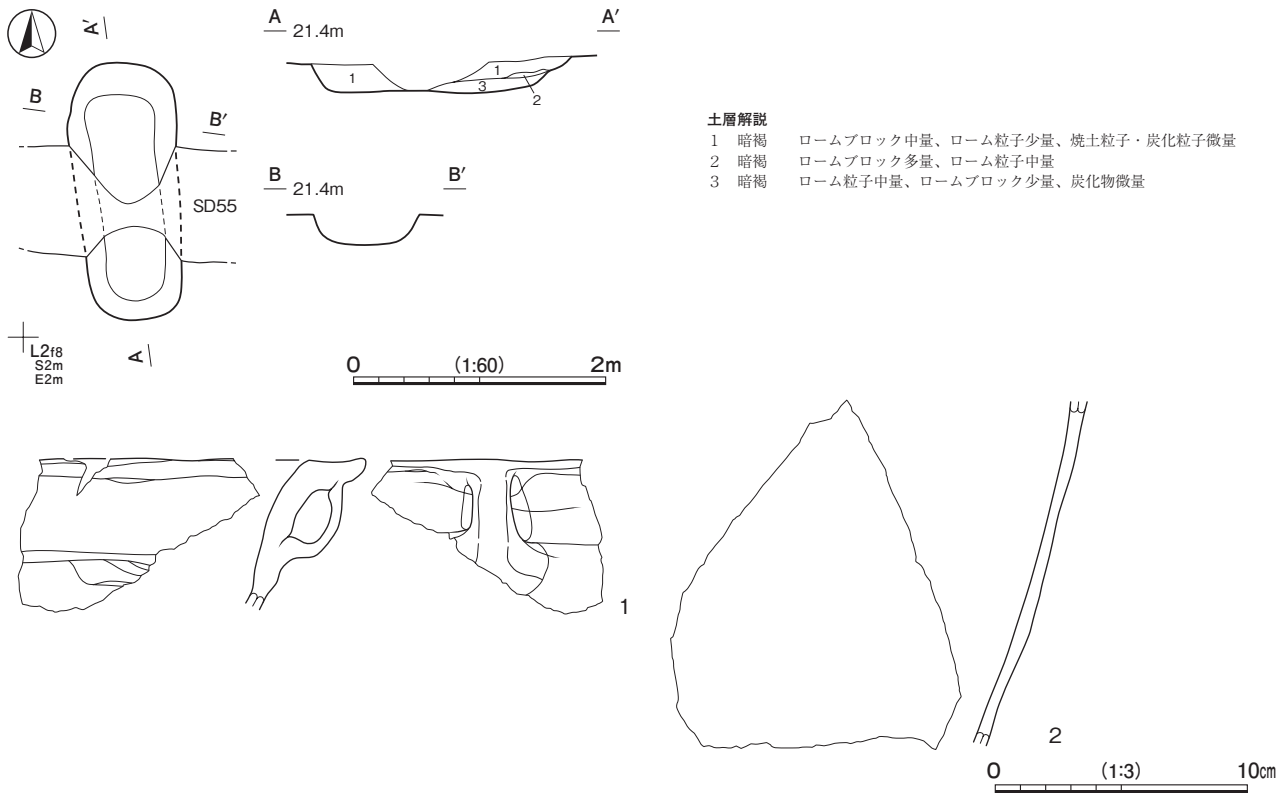
重複関係 第 55 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長径 2.04 m、短径 0.90 m の楕円形で、長径方向は N - 4° - W である。深さは 25cm で、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がる。

覆土 3 層に分層できる。各層にわたりロームブロックを多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器 3 点 (内耳鍋 2、甕類 1) が出土している。1・2 は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から 16 世紀前半と考えられる。



第 67 図 第 604 号土坑・出土遺物実測図

第 32 表 第 604 号土坑出土遺物一覧 (第 67 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	内耳鍋	-	(6.3)	-	長石・石英・雲母	褐	普通	口縁部屈折して内湾 耳断面紐状	覆土	5% 外面煤付着
2	土師質土器	内耳鍋	-	(13.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部緩やかな立ち上がり	覆土	5% 外面煤付着

第 629 号土坑 (第 68 図 PL20・42)

位置 第 1 号区画北西部の L 2 d7 区、標高 21.5 m ほどの台地斜面部に位置している。

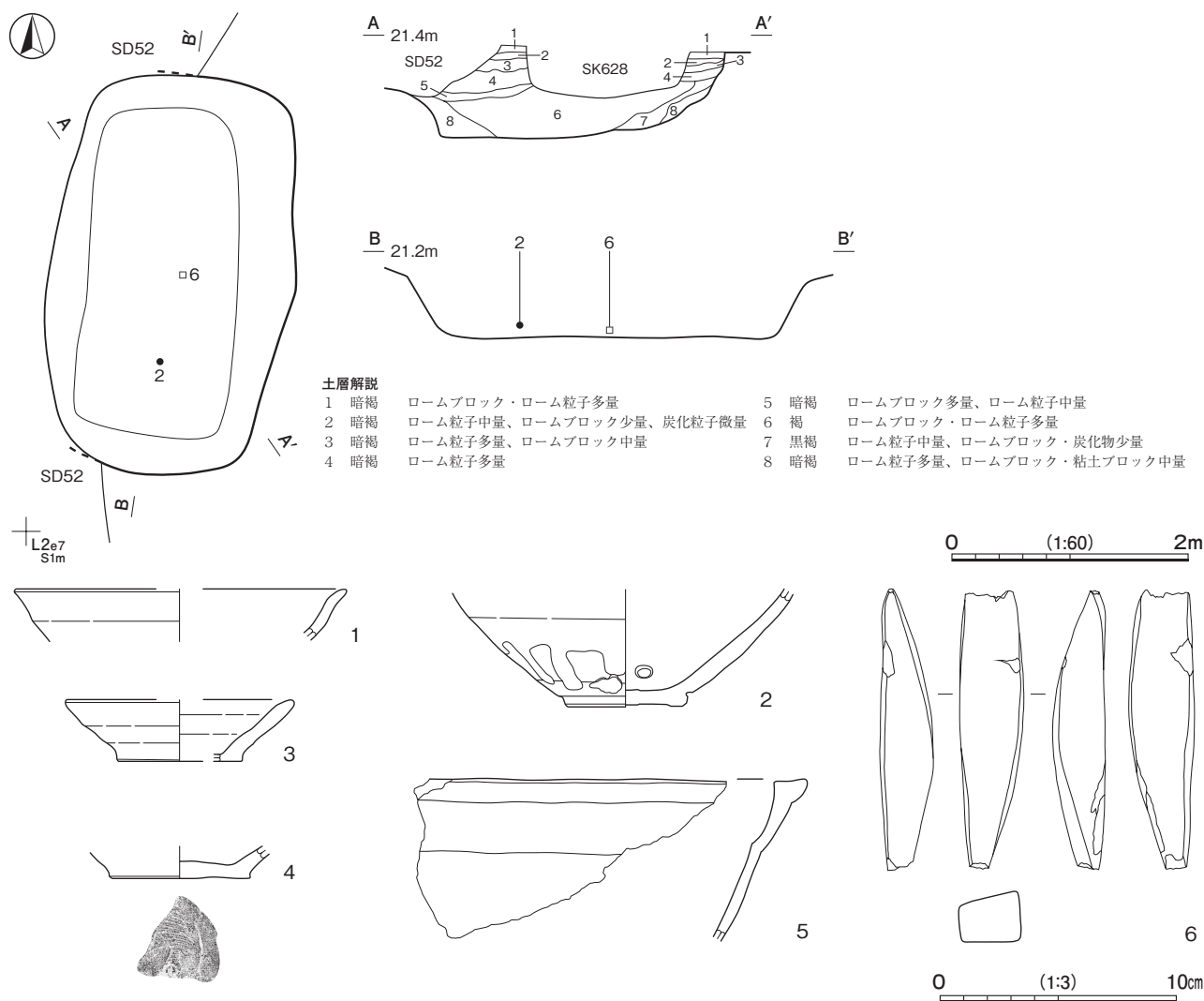
重複関係 第 52 号溝、第 628 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 3.37 m、短軸 2.08 m の隅丸長方形で、主軸方向は N - 10° - E である。深さは 55cm で、壁は外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

覆土 8 層に分層できる。各層にわたりロームブロックを多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 陶器 2 点 (端反皿、平碗)、土師質土器 24 点 (皿 2、内耳鍋 22)、石器 1 点 (砥石) が出土している。2 は覆土下層から、6 は底面から、それぞれ出土している。他の掲載遺物は細片であり、本跡を掘り込んで第 52 号溝、第 628 号土坑に属する可能性がある。

所見 時期は、出土土器から 15 世紀前半と考えられる。



第 68 図 第 629 号土坑・出土遺物実測図

第 33 表 第 629 号土坑出土遺物一覧 (第 68 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
1	陶器	端反皿	[14.0]	(2.1)	-	緻密	にぶい黄橙	口縁部わずかに外反 大窯期	灰釉	瀬戸	覆土	5% PL42
2	陶器	平碗	-	(5.0)	4.9	長石	灰白	体部緩やかな立ち上がり 底部露胎 トチン痕跡 断面の一部研磨 古瀬戸後期	灰釉	瀬戸	覆土下層	30% PL42
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考	
3	土師質土器	皿	[9.5]	2.6	[5.2]	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部直線的な立ち上がり	覆土	20%	
4	土師質土器	皿	-	(1.4)	[5.9]	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	覆土	20%	
5	土師質土器	内耳鍋	-	(6.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	口縁部屈折して内湾	覆土	5% 外面煤付着	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考			
6	砥石	11.9	2.8	2.4	90.08	凝灰岩	砥面 4 面	底面	PL42			

第 632 号土坑 (第 69 図 PL42)

位置 第 1 号区画北西部の M2b8 区、標高 21.5 m ほどの台地斜面部に位置している。

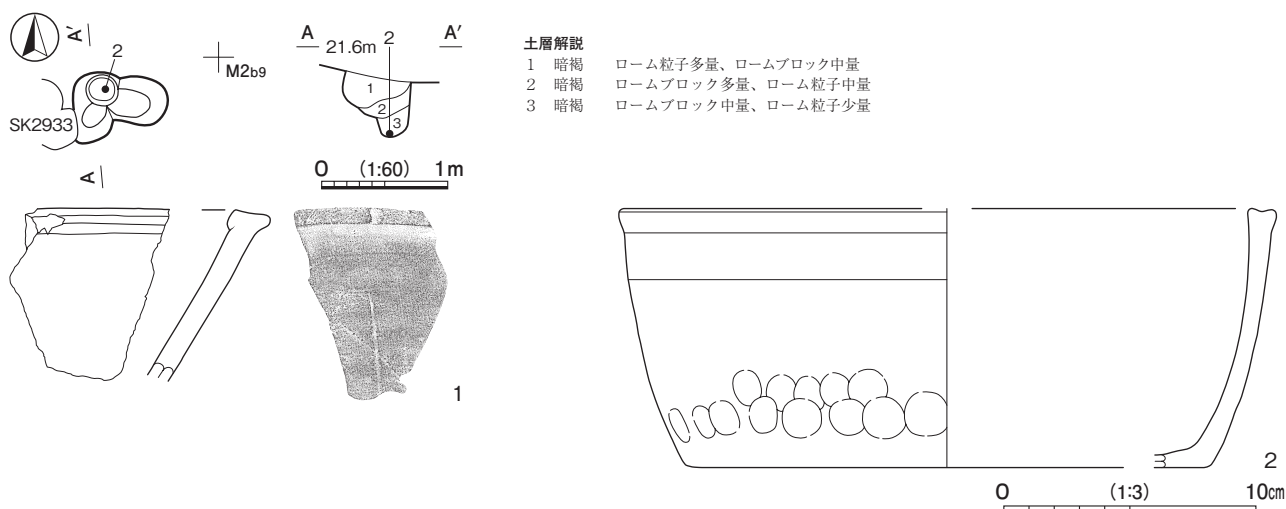
重複関係 重複している第 2933 号土坑との関係は不明である。

規模と形状 平面形から 3 基のピットが重複しているような形状である。覆土の状況から同一の遺構と判断した。長径 0.76 m、短径 0.54 m の不定形で、長径方向は N-98°-E である。深さは 50cm で、壁は 2 か所で段を有し、外傾して立ち上がる。

覆土 3 層に分層できる。各層にわたりロームブロックを多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器4点（播鉢1、内耳鍋3）が出土している。2は底面から出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀前半と考えられる。



第69図 第632号土坑・出土遺物実測図

第34表 第632号土坑出土遺物一覧（第69図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	播鉢	-	(6.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部直線的な立ち上がり 単沈線による播り目	覆土	5%
2	土師質土器	内耳鍋	[25.6]	10.3	[20.8]	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部緩やかな立ち上がり 体部外面下半指頭痕	底面	20% PL42 外面煤付着

第646号土坑（第70図 PL42）

位置 第1号区画西部のL2i7区、標高21.5mほどの台地斜面部に位置している。

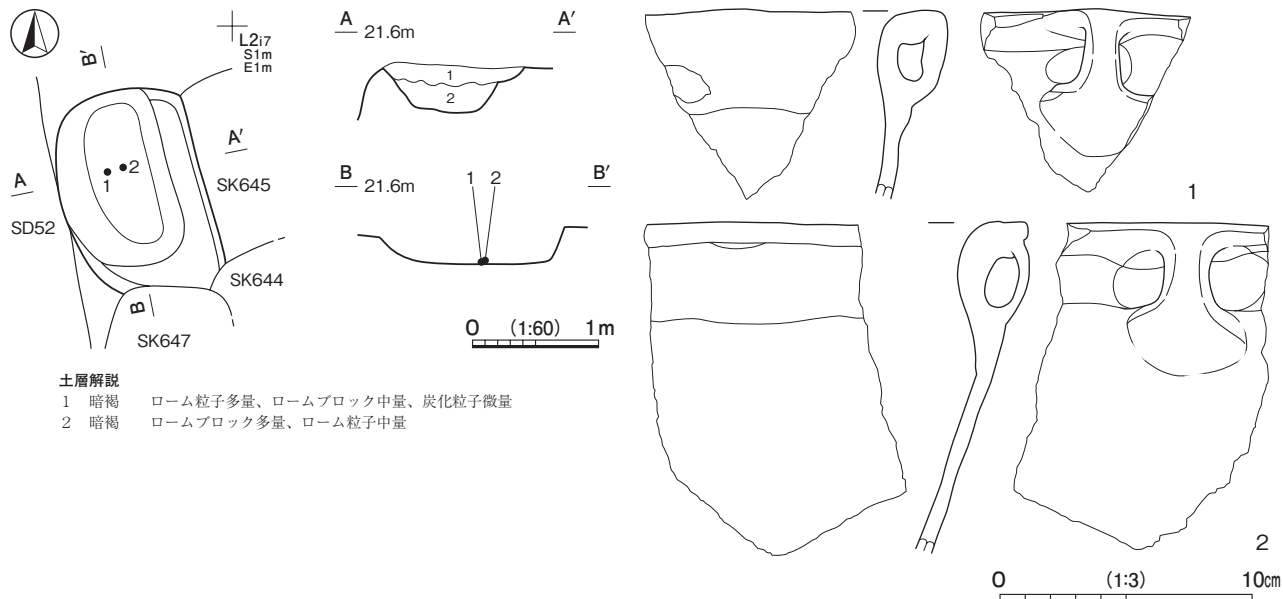
重複関係 第645号土坑を掘り込んでいる。重複している第52号溝跡、第644・647号土坑との関係は不明である。

規模と形状 重複のため、確認できた規模は長径1.64m、短径1.12mである。平面形は楕円形と推定され、長径方向はN-14°-Wである。底面はほぼ平坦で、深さは26cmである。東側から南側の壁面に段を有し、西壁と北壁は外傾して立ち上がる。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックを多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器8点（内耳鍋）が出土している。1・2は底面から出土している。

所見 時期は、出土土器から、15世紀後半から16世紀前半と考えられる。



第70図 第646号土坑・出土遺物実測図

第 35 表 第 646 号土坑出土遺物一覧 (第 70 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	内耳鍋	-	(7.5)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部わずかに内湾 耳断面紐状	底面	5% 外面煤附着
2	土師質土器	内耳鍋	-	(13.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部直線的な立ち上がり 口縁部わずかに内湾 耳断面紐状	底面	10% PL42 外面煤附着

第 664 号土坑 (第 71 図 PL20・42)

位置 第 1 号区画西部の L 2 h7 区、標高 21.5 m ほどの台地斜面部に位置している。

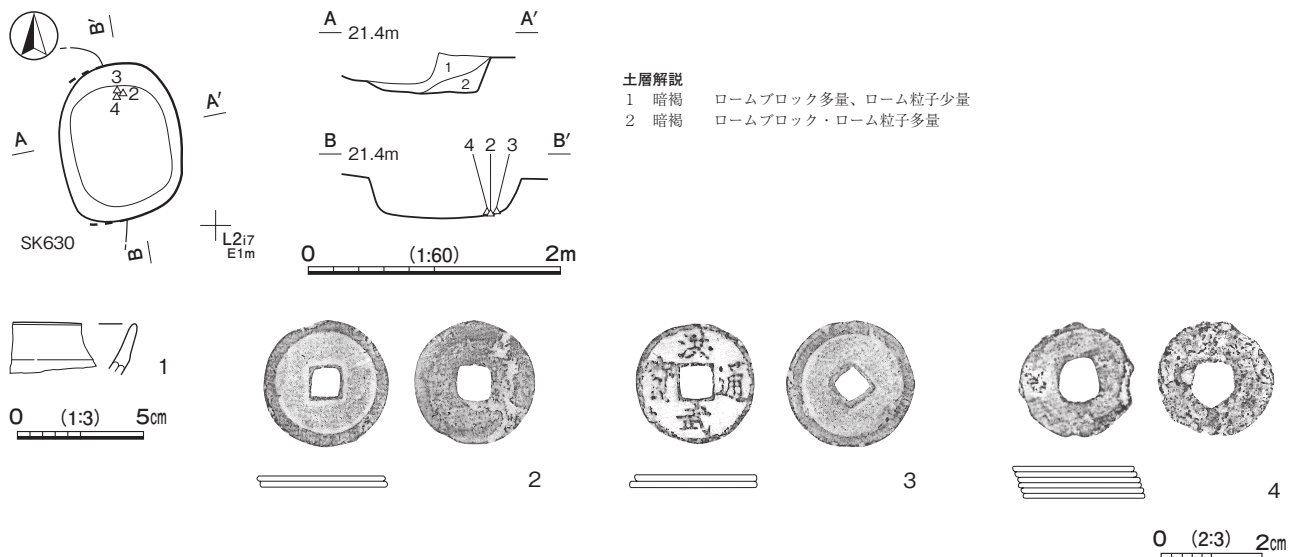
重複関係 第 630 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径 1.24 m、短径 0.96 m の楕円形で、長径方向は N - 3° - W である。深さ 32 cm で、壁は外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

覆土 2 層に分層できる。ロームブロックを多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 陶器 1 点 (平碗)、土師質土器 1 点 (内耳鍋)、銭貨 10 点 (洪武通寶 1、不明 9) が出土している。2~4 は底面から出土している。

所見 時期は、出土遺物から、15 世紀後半から 16 世紀前半と考えられる。



第 71 図 第 664 号土坑・出土遺物実測図

第 36 表 第 664 号土坑出土遺物一覧 (第 71 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
1	陶器	平碗	-	(2.0)	-	緻密	灰白	口縁部緩やかな立ち上がり 古瀬戸後期	灰釉	瀬戸	覆土	5%

番号	銭種	径	孔幅	厚さ	重量	材質	初鑄年	特徴	出土位置	備考
2	不明	2.5	0.5	0.1×2	(4.06)	銅	不明	2 枚附着	底面	PL42
3	洪武通寶	2.4	0.6	0.1×2	(4.13)	銅	1368 年	2 枚附着 明銭	底面	PL42
4	不明	2.5	破損	0.1×6	(14.57)	銅	不明	6 枚附着	底面	PL42

第 1385 号土坑 (第 72・73 図 PL 5・23・43)

位置 第 1 号区画中央東部の L 3 g5 区、標高 20.0 m ほどの低地部に位置する。

重複関係 第 52・56 号溝跡と主軸方向が直行するように重複している。第 52 号溝跡を掘り込んでいる。

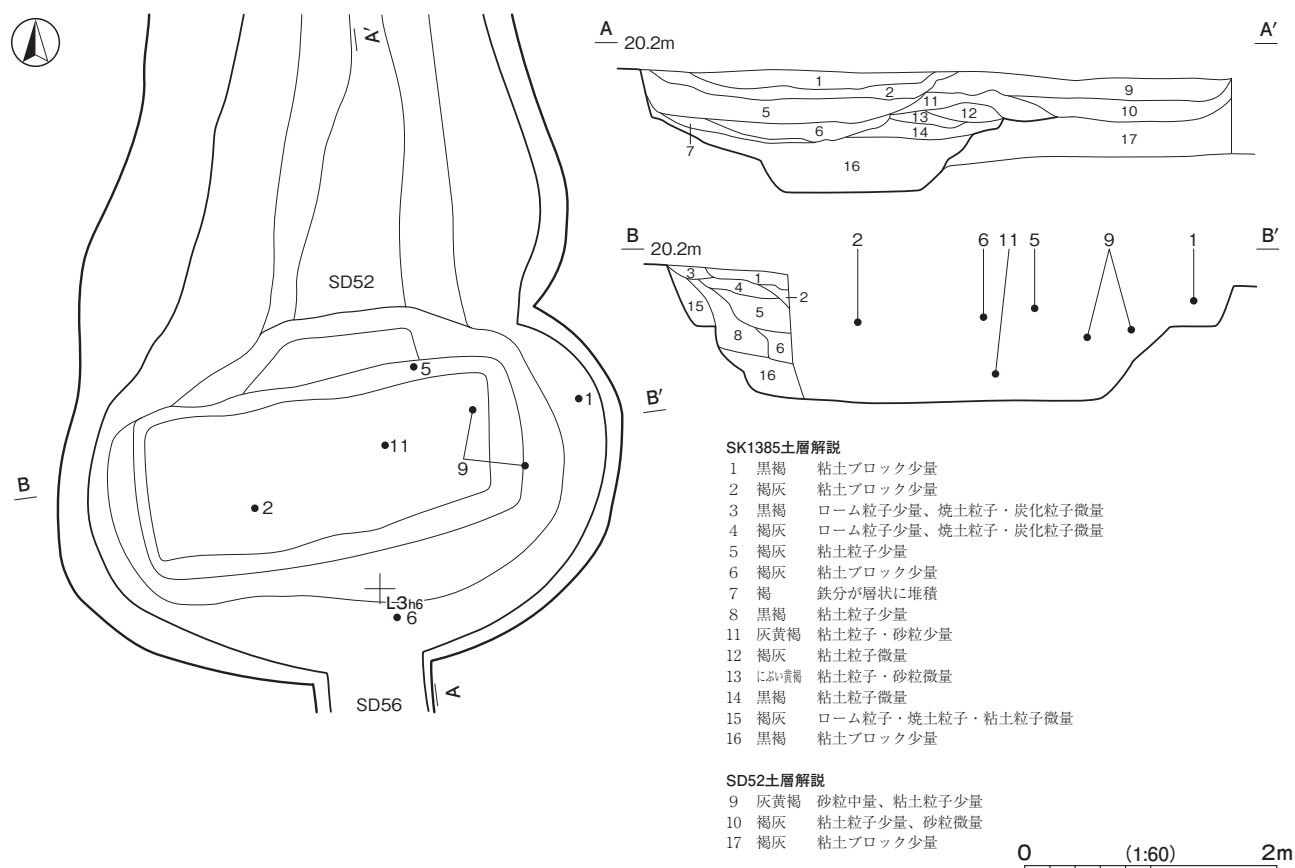
規模と形状 上端は長径 4.56 m、短径 2.82 m の楕円形である。確認面から 70 cm 以下は長軸 3.1 m、短軸 1.45 m の長方形に掘り込んでいる。主軸方向は N - 82° - E で、確認面からの深さは 97 cm である。壁は深さ 70 cm のところで段

を有している。

覆土 第1～8・11～16層の14層に分層できる。第9・10・17層は第52号溝に帰属し、第17層が堆積した段階で、本跡が掘り込まれ、その後に第11～16層が堆積している。さらに、第9・10層が堆積した後、掘り返し行為に伴って、第1～8層がレンズ状に堆積している。いずれも自然堆積である。

遺物出土状況 土師質土器65点（皿7、播鉢2、内耳鍋54、甕2）、陶器2点（片口鉢、甕）、石器4点（砥石2、礎石カ2）、焼成粘土塊2点が出土している。ほかに混入した土師器片1点が出土している。土師質土器内耳鍋（9）や皿（1・2・5・6）が、掘り返し部分の下層付近から、11の常滑の片口鉢が底面付近から、それぞれ出土している。

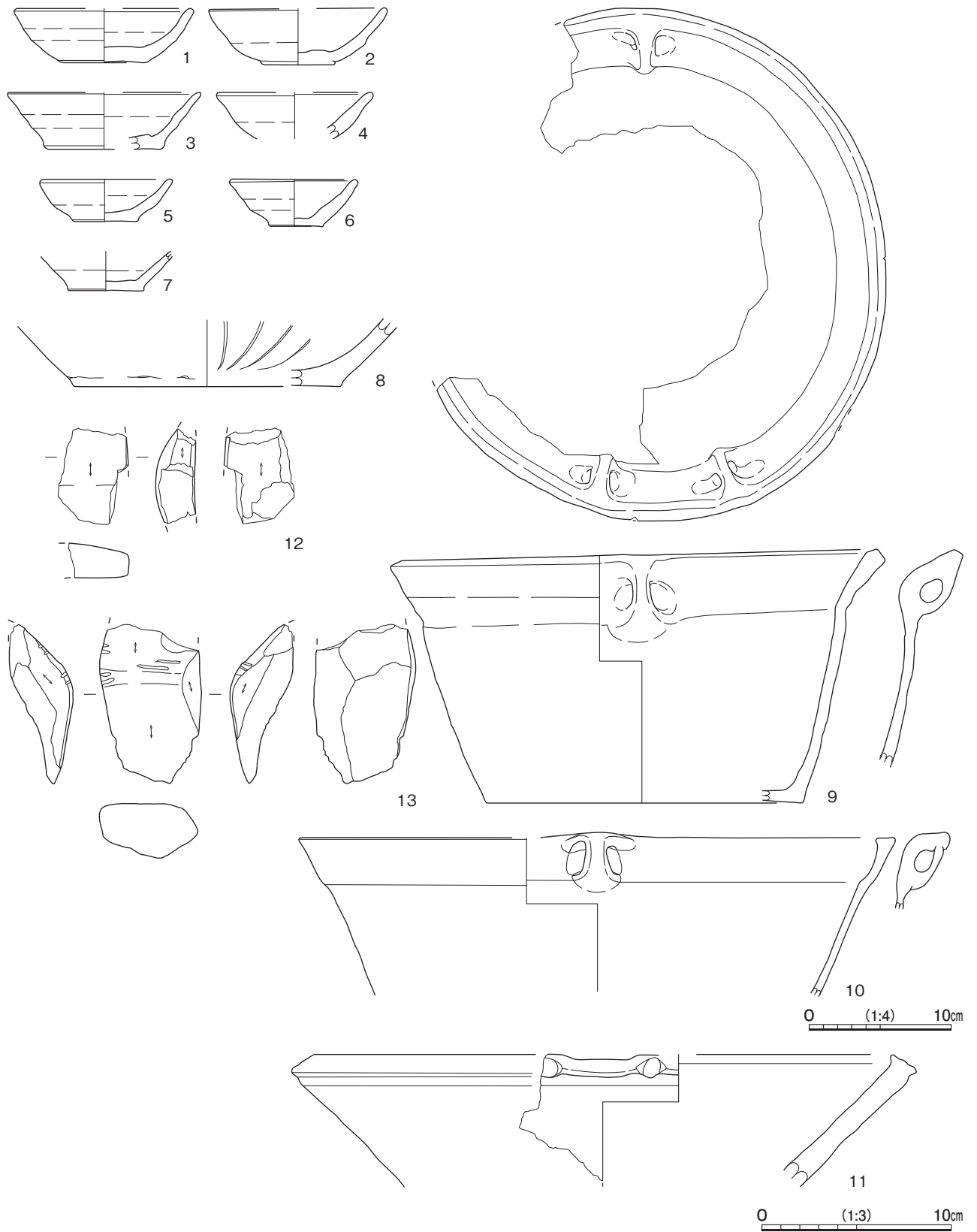
所見 時期は、出土土器から、15世紀後半から16世紀前半と考えられる。溝を分断するように配置された大型の土坑で、この土坑を境に溝の掘方が大きく異なっている。堆積状況から、第52号溝との重複関係を判断したが、第52号溝に付属するもので、雨水や湧水の貯水施設としての機能が考えられる。



第72図 第1385号土坑実測図

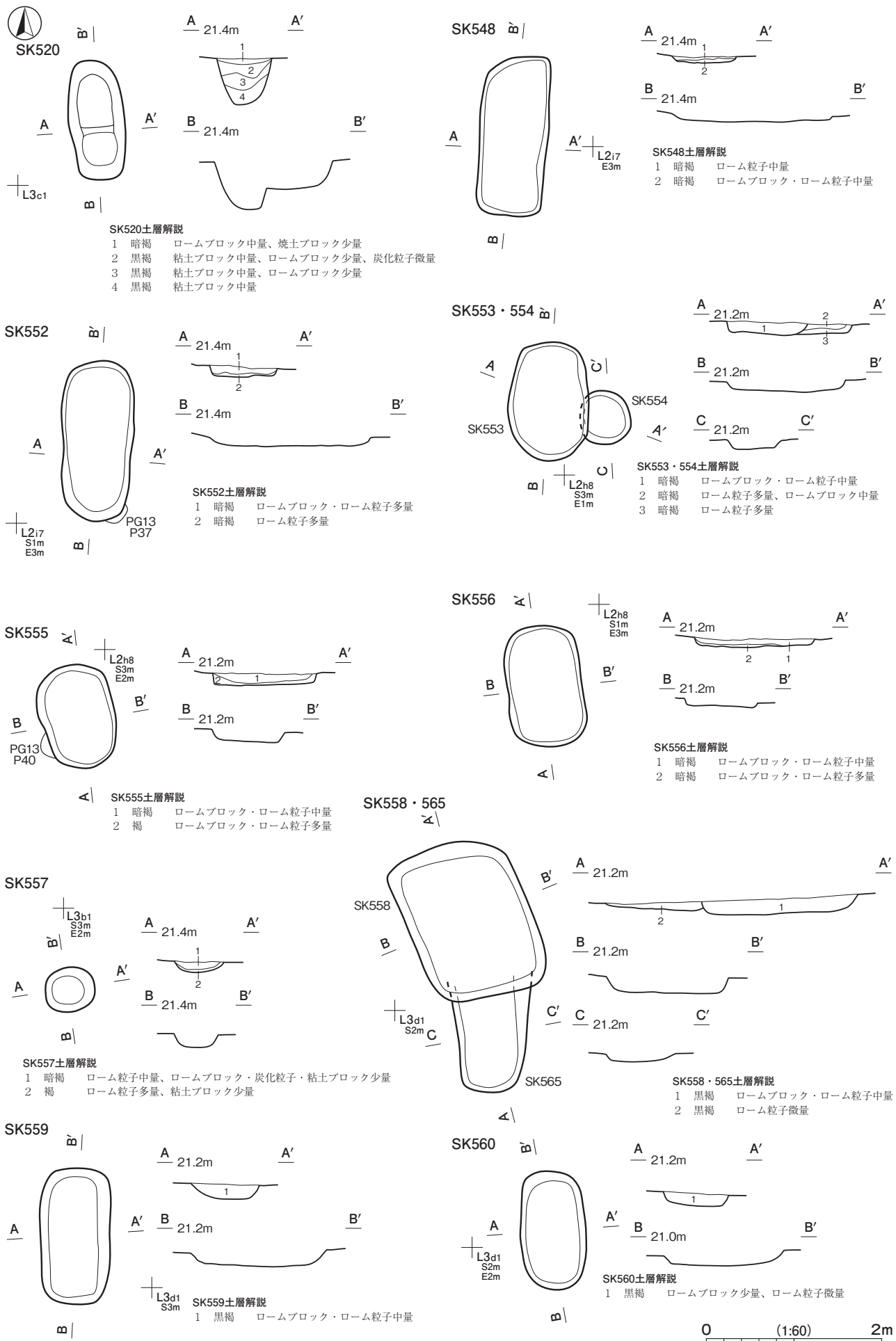
第37表 第1385号土坑出土遺物一覧（第73図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	[9.2]	2.9	4.4	長石・石英・雲母	橙	普通	体部中位に弱い段 底部回転糸切り	覆土上層	70%
2	土師質土器	皿	[9.2]	3.0	3.8	長石・雲母	灰黄褐	普通	体部滑らかな立ち上がり 底部回転糸切り	覆土上層	50%
3	土師質土器	皿	[10.0]	3.0	[6.0]	長石・石英	灰白	普通	体部直線的な立ち上がり 底部回転糸切り	覆土上層	20%
4	土師質土器	皿	[8.2]	(2.5)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部下半に緩やかな段	覆土上層	10%
5	土師質土器	皿	6.9	2.3	3.4	長石・石英・雲母	橙	普通	体部中位に段 底部回転糸切り	覆土上層	90% PL43
6	土師質土器	皿	6.5	2.5	2.8	長石・石英・雲母	黒褐	普通	体部下半に段 底部回転糸切り	覆土上層	80% PL43
7	土師質土器	皿	-	(2.1)	4.0	長石・石英	にぶい褐	普通	体部直線的な立ち上がり 底部回転糸切り	覆土上層	30%
8	土師質土器	播鉢	-	(3.7)	[14.0]	長石・雲母	黒褐	普通	単沈線による播目	覆土上層	5%
9	土師質土器	内耳鍋	33.6	17.9	[22.2]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	3耳 口縁部強いナデ 外反 耳部断面紐状	覆土中層	50% PL43
10	土師質土器	内耳鍋	[42.0]	(11.5)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部内面強いナデにより外湾 耳断面紐状	覆土上層	10% PL43

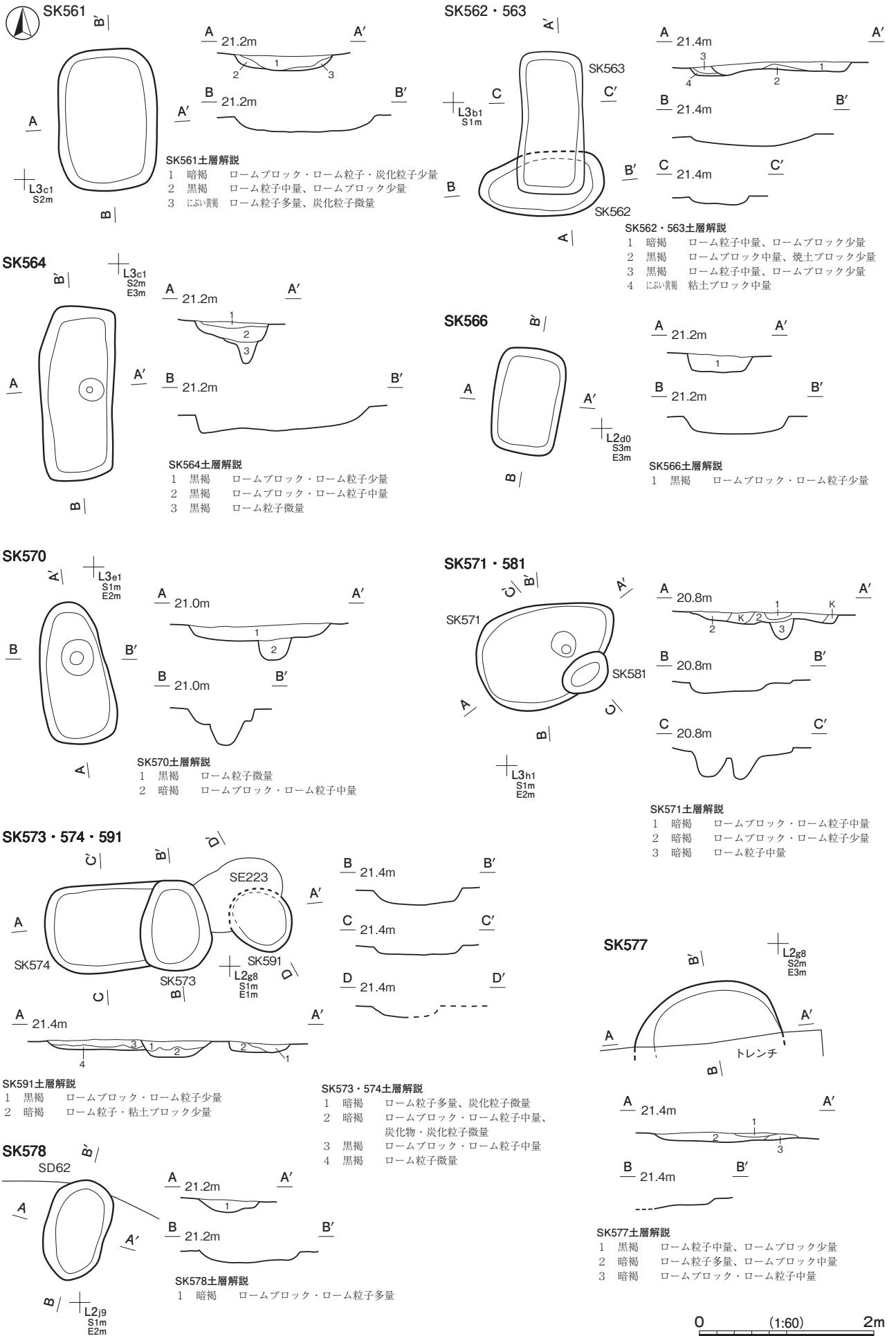


第73図 第1385号土坑出土遺物実測図

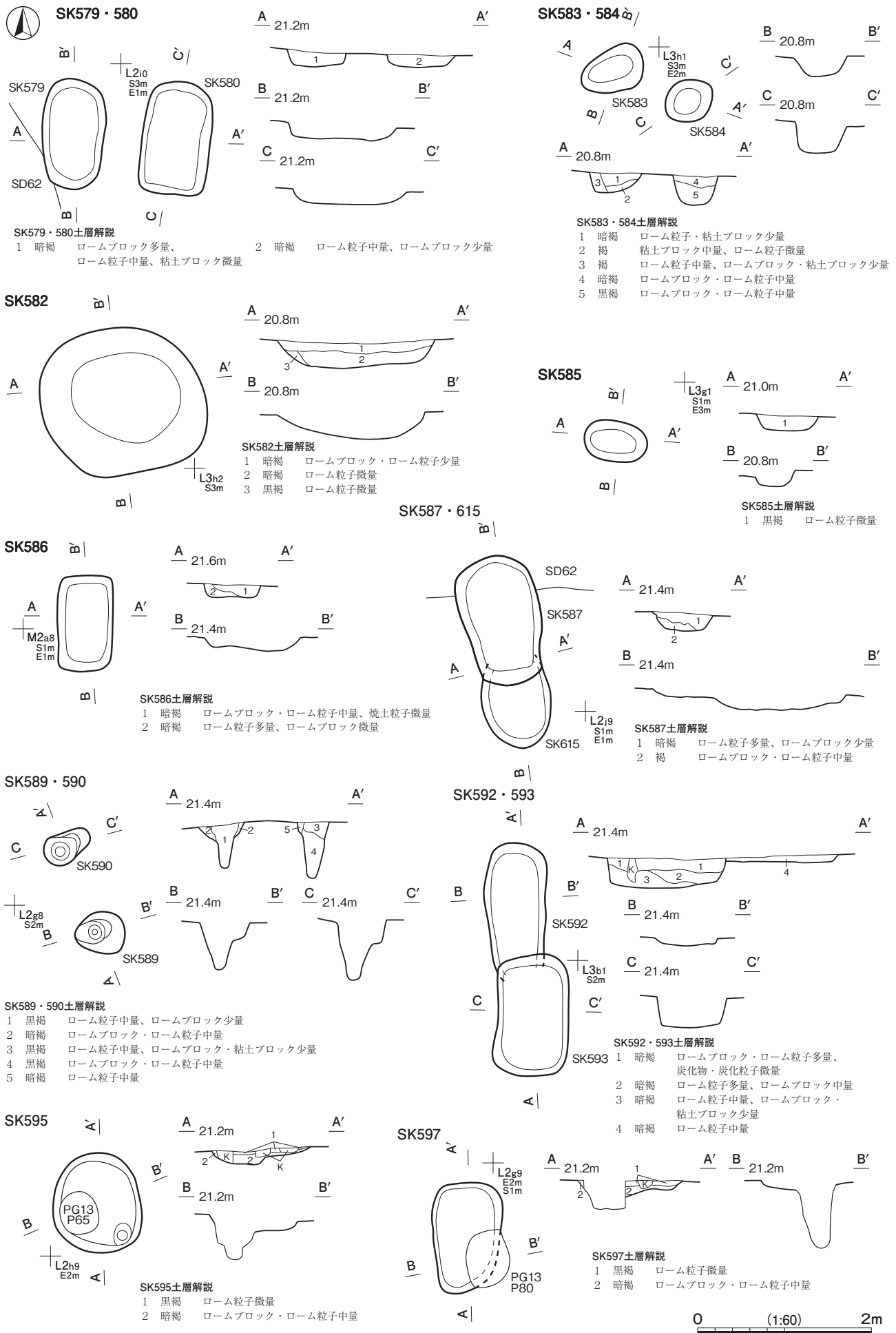
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
11	陶器	片口鉢	[30.4]	(7.0)	-	長石・石英・細礫	赤褐	片口部の両端に押圧	無釉	常滑	覆土下層	15% PL43
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考	
12	砥石	(3.7)	(5.0)	2.1	(42.06)	凝灰岩	砥面3面			覆土		
13	砥石	(8.4)	5.4	3.4	(114.42)	凝灰岩	砥面4面			覆土	PL43	



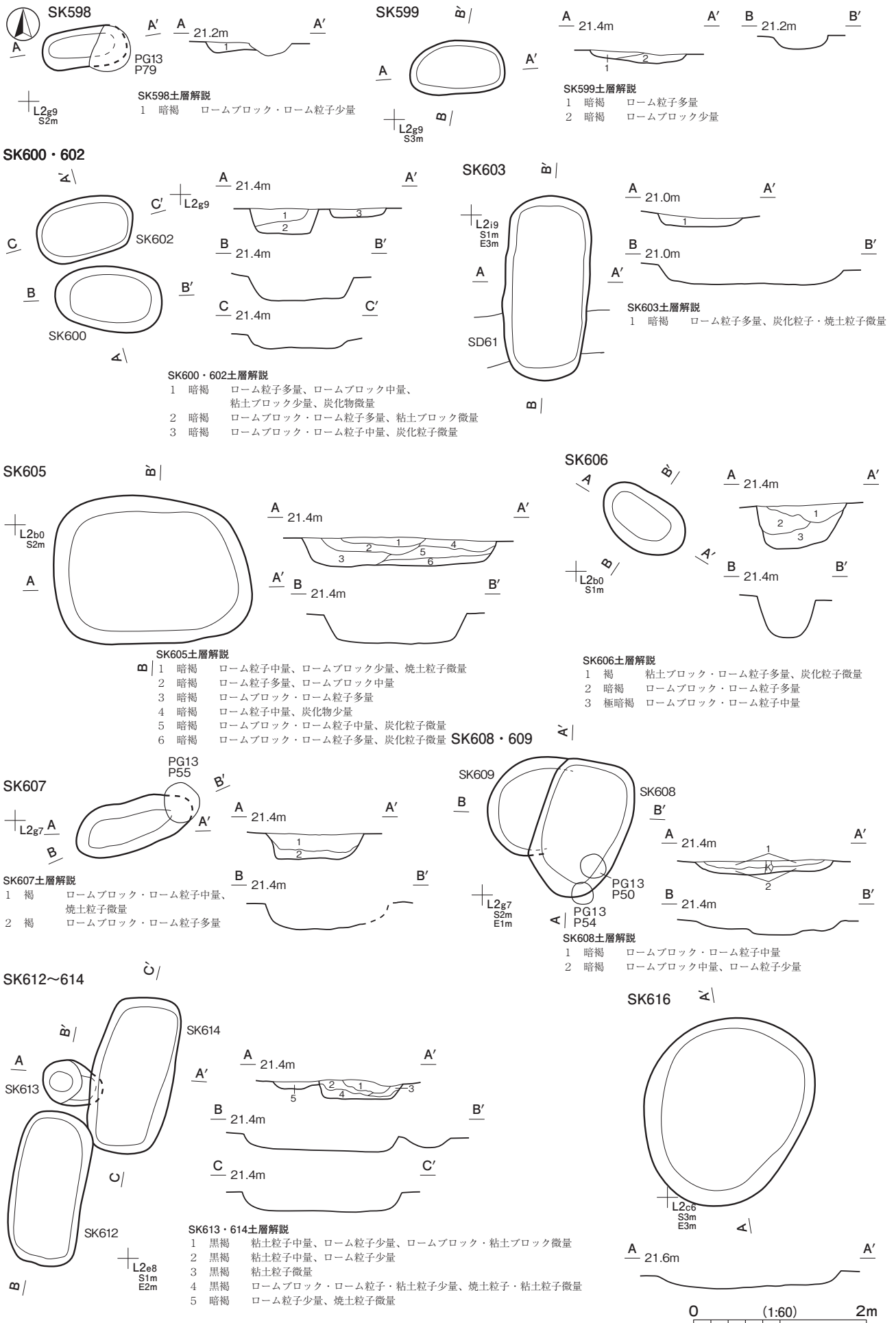
第74図 第1号区画とその周辺の土坑実測図(1)



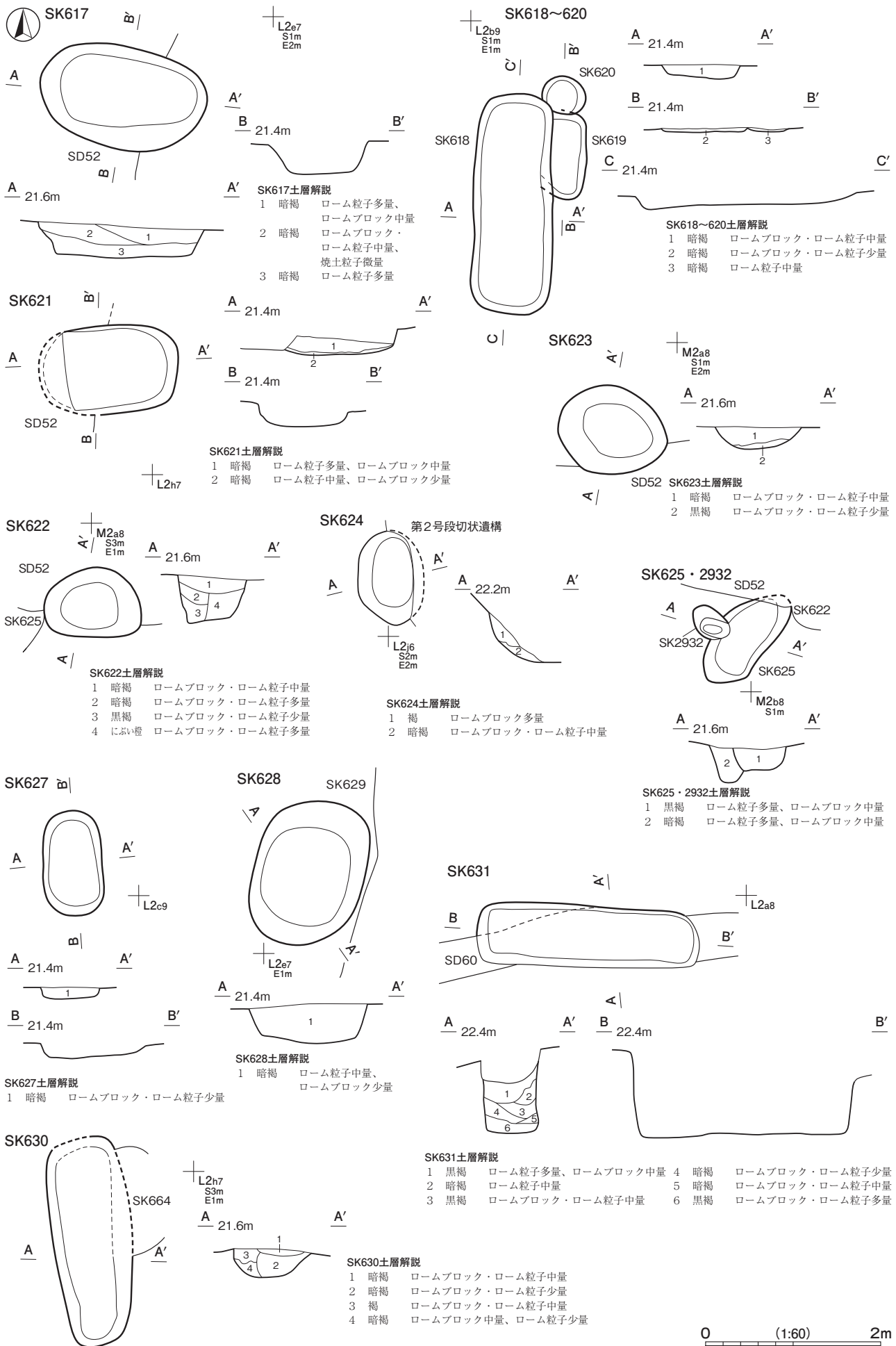
第75図 第1号区画とその周辺の土坑実測図(2)



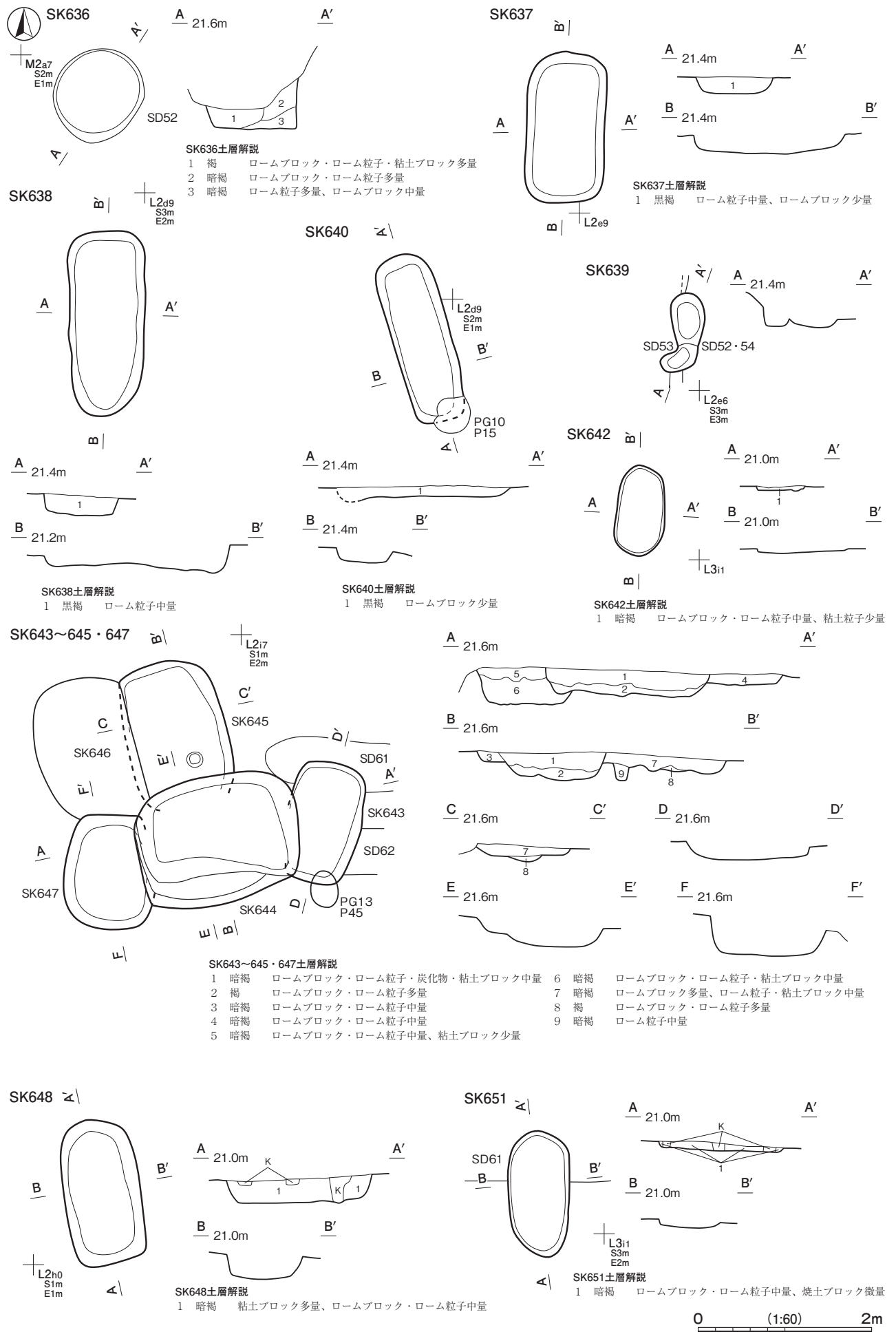
第76図 第1号区画とその周辺の土坑実測図(3)



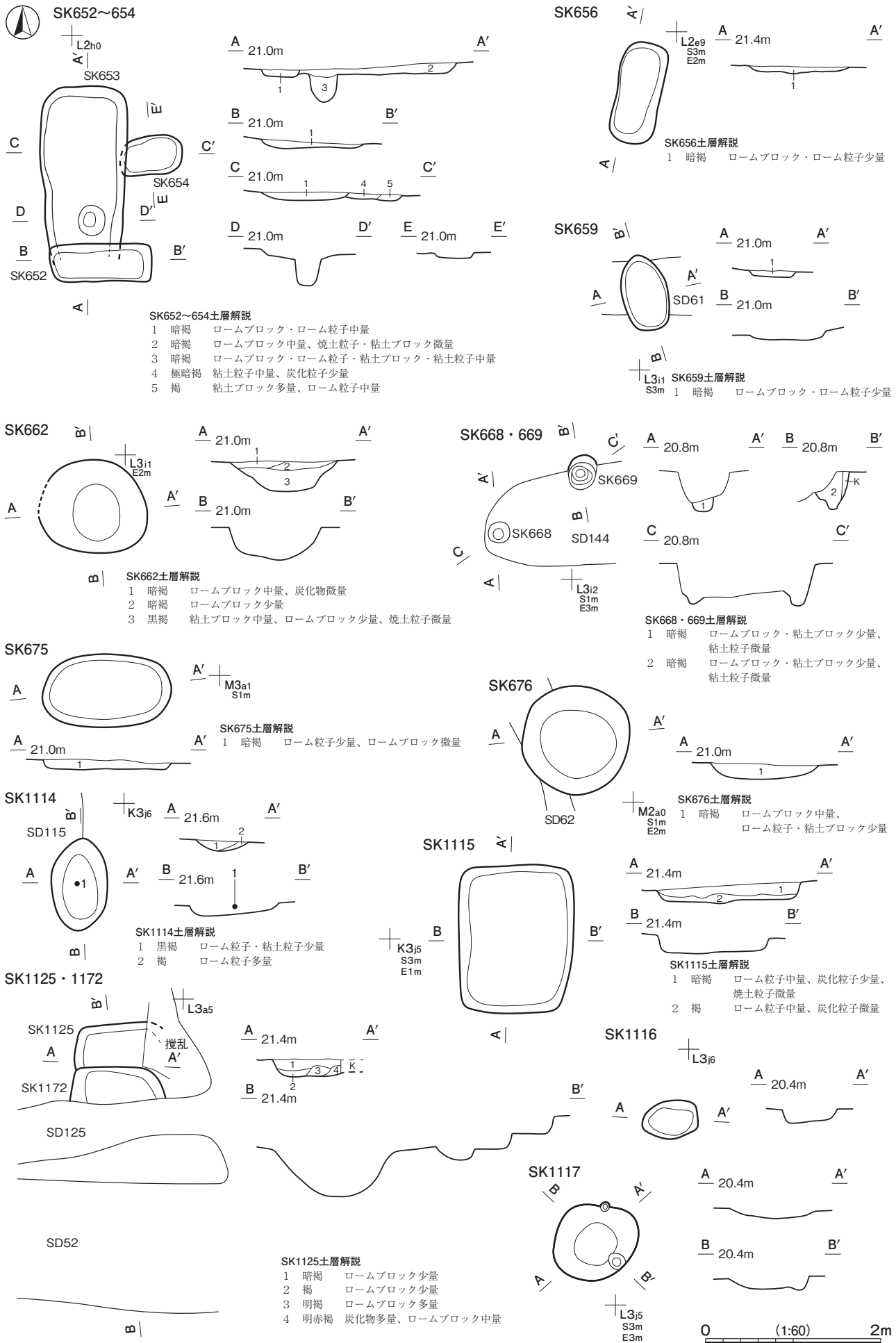
第 77 図 第 1 号区画とその周辺の土坑実測図(4)



第78図 第1号区画とその周辺の土坑実測図(5)

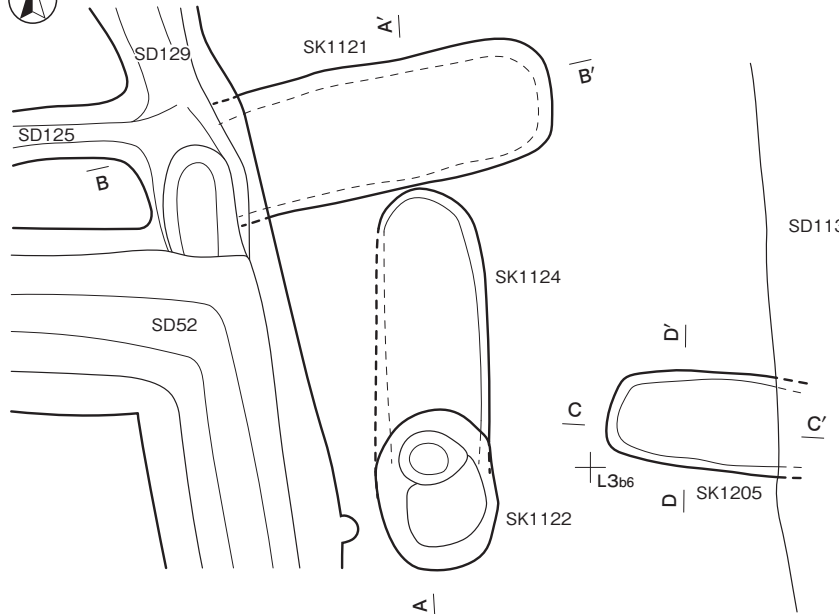


第 79 図 第 1 号区画とその周辺の土坑実測図(6)

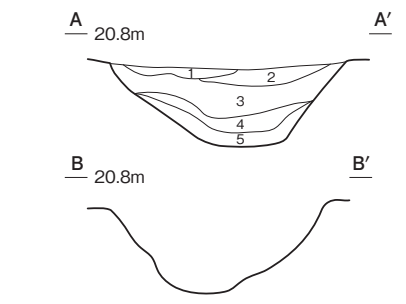
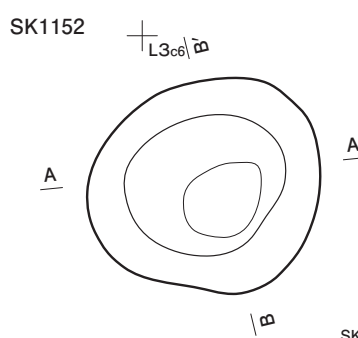
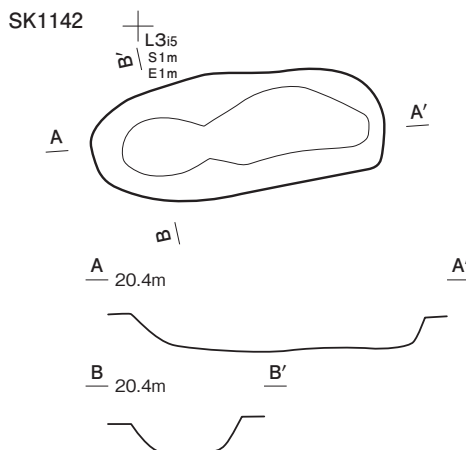
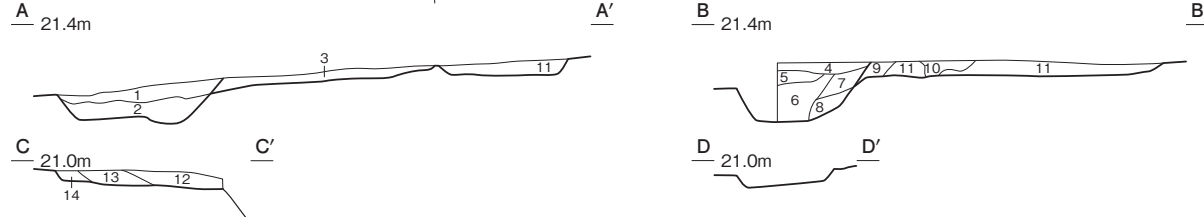


第80図 第1号区画とその周辺の土坑実測図(7)

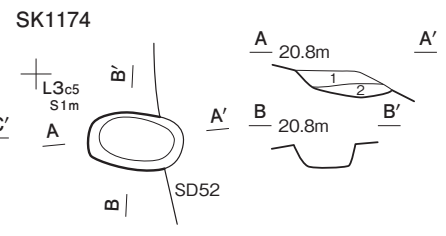
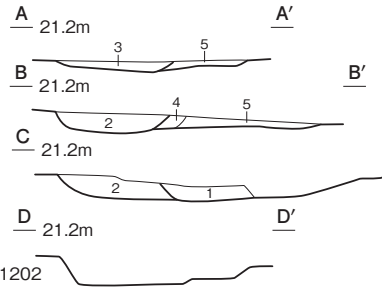
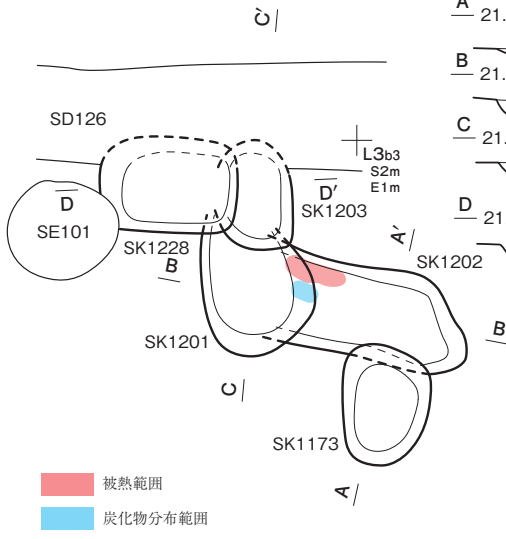
SK1121・1122・1124・1205



- SD113 SK1121・1122・1124・1205、SD129土層解説
- 1 黒褐 ロームブロック・粘土ブロック少量
 - 2 褐 ロームブロック少量
 - 3 暗褐 粘土ブロック・ローム粒子少量
 - 4 黒褐 ローム粒子少量(5より暗)
 - 5 黒褐 ローム粒子少量
 - 6 暗褐 ロームブロック少量
 - 7 褐 ローム粒子中量
 - 8 褐 ローム粒子少量、炭化粒子微量
 - 9 黒褐 ローム粒子・炭化粒子少量
 - 10 黒褐 ロームブロック少量
 - 11 暗褐 ロームブロック・粘土ブロック少量
 - 12 暗褐 ロームブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量
 - 13 暗褐 ロームブロック中量
 - 14 黒褐 ローム粒子少量、ロームブロック微量

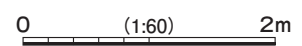


SK1173・1201~1203・1228

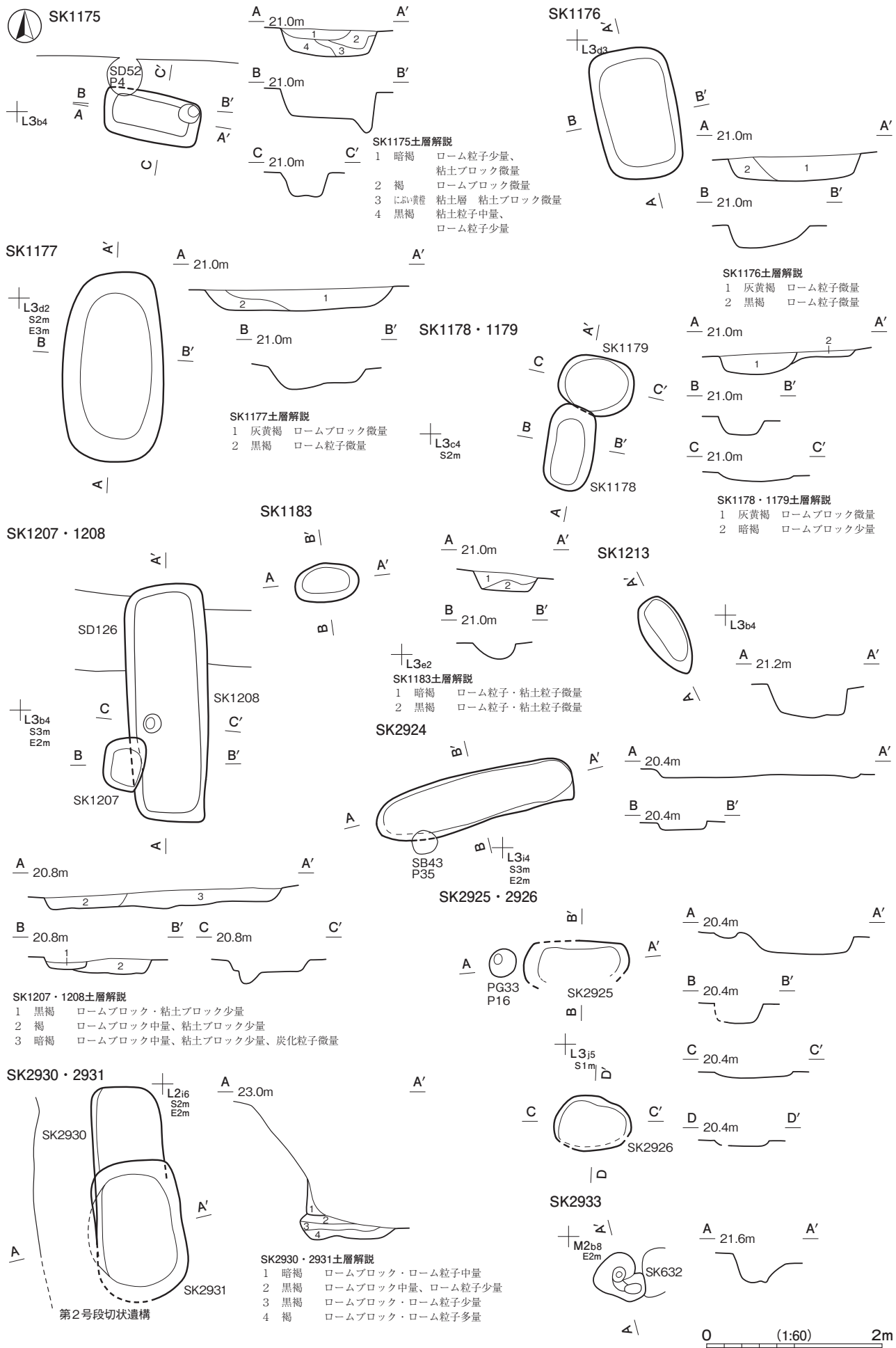


- SK1174土層解説
- 1 黒褐 ローム粒子・粘土粒子少量
 - 2 暗褐 粘土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量

- SK1173・1201~1203土層解説
- 1 暗褐 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
 - 2 黒褐 粘土ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
 - 3 黒褐 炭化材中量、ロームブロック少量、焼土ブロック微量
 - 4 褐 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量
 - 5 赤褐 炭化物・焼土粒子中量、ローム粒子少量

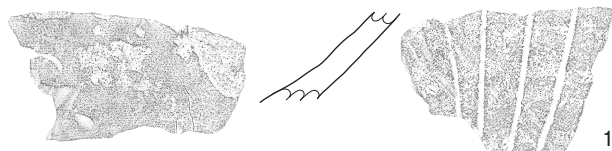


第 81 図 第 1 号区画とその周辺の土坑実測図(8)

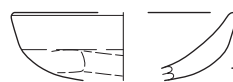


第 82 図 第 1 号区画とその周辺の土坑実測図(9)

SK1114



SK1122



0 (1:3) 5cm

第 83 図 第 1 号区画とその周辺の土坑出土遺物実測図

第 38 表 第 1 号区画とその周辺の土坑出土遺物一覧 (第 83 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1114-1	土師質土器	播鉢	-	(3.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	単沈線による播り目	覆土上層	5%
1122-1	土師質土器	皿	[8.8]	(2.7)	-	長石・石英・赤色粒子	赤	普通	非口クロ整形	覆土	5%

第 39 表 第 1 号区画とその周辺の土坑一覧

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
520	L 3 b1	N - 4° - W	楕円形	1.35 × 0.64	52	外傾	有段	人為	-	
548	L 2 h7	N - 7° - E	隅丸長方形	1.82 × 0.78	7	外傾	平坦	人為	-	
552	L 2 h7	N - 5° - E	楕円形	1.83 × 0.83	14	外傾	平坦	人為	-	PG13 P 37 → 本跡
553	L 2 h8	N - 5° - E	楕円形	1.35 × 0.92	14	外傾	平坦	人為	-	SK554、PG13 P 51 → 本跡
554	L 2 h8	-	円形	0.62 × (0.60)	11	外傾	平坦	人為	-	本跡 → SK553
555	L 2 h8	N - 15° - W	楕円形	1.20 × 0.85	14	外傾	平坦	人為	-	PG13 P 40 → 本跡
556	L 2 h8	N - 7° - W	楕円形	1.40 × 0.85	9	外傾	平坦	人為	-	
557	L 3 b1	N - 9° - W	楕円形	0.59 × 0.51	14	外傾	皿状	人為	-	
558	L 3 d1	N - 23° - W	隅丸長方形	1.84 × 1.39	18	外傾	平坦	人為	-	SK565 → 本跡 PL18
559	L 2 d0	N - 1° - E	隅丸長方形	1.56 × 0.80	18	外傾	平坦	人為	-	PL18
560	L 3 d1	N - 2° - W	楕円形	1.35 × 0.75	15	外傾	平坦	人為	-	
561	L 3 c1	N - 1° - W	隅丸長方形	1.62 × 1.12	17	外傾	平坦	人為	-	
562	L 3 b1	N - 94° - W	[楕円形]	1.44 × [0.73]	13	外傾	平坦	人為	-	本跡 → SK563
563	L 3 b1	N - 0°	長方形	(1.63) × 0.75	11	外傾	平坦	人為	-	SK562 → 本跡
564	L 3 c1	N - 0°	隅丸長方形	1.99 × 0.86	23	外傾	平坦	人為	-	ピット 1 基
565	L 3 d1	N - 1° - W	[隅丸長方形]	(1.10) × 0.87	10	外傾	平坦	-	-	本跡 → SK558 PL18
566	L 2 d0	N - 10° - E	隅丸長方形	1.22 × 0.80	20	外傾	平坦	人為	-	PL18
570	L 3 e1	N - 8° - W	楕円形	1.64 × 0.85	18	外傾	平坦	人為	-	ピット 1 基 PL19
571	L 3 g1	N - 58° - E	楕円形	1.69 × 1.20	13	外傾	平坦	人為	-	SK581 と重複 ピット 1 基
573	L 2 g8	N - 4° - E	楕円形	1.03 × 0.80	17	外傾	皿状	人為	-	SE223、SK574 → 本跡
574	L 2 g7	N - 89° - E	[隅丸長方形]	(1.20) × 1.00	11	外傾	平坦	人為	-	本跡 → SK573
577	L 2 g8	N - 6° - E	[楕円形]	1.70 × (6.90)	11	外傾	平坦	人為	-	
578	L 2 j9	N - 15° - E	楕円形	1.17 × 0.71	14	外傾	平坦	人為	-	SD62 → 本跡
579	L 2 i0	N - 1° - E	楕円形	1.25 × 0.74	16	外傾	平坦	人為	-	SD62 → 本跡 PL19
580	L 2 i0	N - 8° - E	楕円形	1.30 × 0.78	16	外傾	平坦	人為	-	
581	L 3 g1	N - 51° - E	楕円形	0.60 × 0.41	25	外傾	U字状	人為	-	SK571 と重複
582	L 3 h1	N - 55° - W	楕円形	1.98 × 1.79	28	外傾	皿状	人為	-	
583	L 3 h1	N - 65° - E	楕円形	0.76 × 0.51	23	外傾	皿状	人為	-	
584	L 3 h1	N - 55° - E	楕円形	0.60 × 0.49	32	外傾	皿状	人為	-	
585	L 3 g1	N - 82° - W	楕円形	0.73 × 0.48	15	外傾	平坦	人為	-	
586	M 2 a8	N - 2° - E	隅丸長方形	1.11 × 0.64	16	外傾	平坦	人為	-	
587	L 2 i9	N - 8° - W	楕円形	1.50 × 0.91	20	外傾	平坦	人為	-	SD62 → 本跡 SK615 と重複
589	L 2 g8	N - 79° - E	楕円形	0.58 × 0.48	52	外傾	有段	人為	-	

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
590	L 2 g8	N - 67° - E	楕円形	0.58 × 0.35	65	外傾	有段	人為	-	
591	L 2 g8	N - 50° - W	楕円形	0.78 × 0.65	10	外傾	平坦	人為	-	SE223 → 本跡
592	L 2 b0	N - 1° - W	[楕円形]	(1.32) × 0.71	10	外傾	平坦	人為	-	本跡 → SK593
593	L 2 b0	N - 3° - E	隅丸長方形	1.39 × 0.85	35	外傾	平坦	人為	-	SK592 → 本跡
594	L 2 f6	-	円形	1.47 × 1.44	74	垂直	平坦	人為	皿 播鉢 内耳鍋	SD52 → 本跡
595	L 2 g9	N - 0°	楕円形	1.15 × 1.02	13	外傾	平坦	人為	-	PG13 P 65 と重複 ビット1基
597	L 2 g9	N - 0°	楕円形	1.27 × 0.85	10	外傾	平坦	人為	-	本跡 → PG13 P 80
598	L 2 g9	N - 82° - E	[楕円形]	(0.60) × 0.45	15	外傾	平坦	人為	-	本跡 → PG13 P 79
599	L 2 g9	N - 85° - E	楕円形	1.10 × 0.62	15	外傾	平坦	人為	-	
600	L 2 g8	N - 82° - W	楕円形	1.25 × 0.75	30	外傾	平坦	人為	-	PG13 P 78 → 本跡
602	L 2 g8	N - 73° - E	楕円形	1.15 × 0.70	13	外傾	平坦	人為	-	PL19
603	L 2 i9	N - 2° - E	楕円形	2.13 × 0.98	20	外傾	平坦	人為	-	SD61 → 本跡
604	L 2 f8	N - 4° - W	楕円形	2.04 × 0.90	25	外傾	平坦	人為	内耳鍋 甕	本跡 → SD55
605	L 2 b0	N - 90° - W	楕円形	2.29 × 1.71	35	外傾	平坦	人為	-	
606	L 2 b0	N - 45° - W	楕円形	1.07 × 0.65	50	外傾	皿状	人為	-	
607	L 2 g7	N - 67° - E	[楕円形]	[1.40] × 0.59	27	外傾	平坦	人為	-	PG13 P 55 と重複
608	L 2 g7	N - 22° - E	楕円形	1.63 × (1.07)	16	外傾	皿状	人為	-	SK609、PG13 P 50・ 54 と重複
609	L 2 g7	N - 27° - E	[楕円形]	1.20 × (0.60)	10	外傾	平坦	人為	-	SK608 と重複
612	L 2 e8	N - 8° - E	隅丸長方形	1.79 × 0.84	17	外傾	平坦	-	-	SK614 → 本跡 PL19
613	L 2 d8	N - 78° - W	[楕円形]	(0.55) × 0.52	11	外傾	皿状	人為	-	本跡 → SK614 PL19
614	L 2 d8	N - 2° - E	隅丸長方形	1.84 × 0.95	22	外傾	平坦	人為	-	SK613 → 本跡 → SK612 PL19
615	L 2 j9	N - 8° - W	[楕円形]	0.78 × (0.74)	7	外傾	平坦	人為	-	SK587 と重複
616	L 2 c6	N - 25° - E	楕円形	2.24 × 1.84	15	外傾	平坦	-	-	
617	L 2 e7	N - 83° - W	楕円形	1.93 × 1.16	35	外傾	平坦	人為	-	SD52 → 本跡 PL19
618	L 2 b9	N - 3° - E	隅丸長方形	2.50 × 0.91	16	外傾	平坦	人為	-	SK619・620 と重複 PL19
619	L 2 b9	N - 2° - E	[楕円形]	(0.98) × (0.40)	4	外傾	平坦	人為	-	SK618・620 と重複 PL19
620	L 2 b9	N - 74° - W	楕円形	0.50 × (0.41)	3	外傾	平坦	人為	-	SK618・619 と重複 PL19
621	L 2 g6	N - 87° - E	[楕円形]	(1.30) × 1.01	20	外傾	平坦	人為	-	本跡 → SD52
622	M 2 a8	N - 83° - W	楕円形	1.10 × 0.80	55	外傾	平坦	人為	-	SD52 → 本跡 SK625 と重複
623	M 2 a8	N - 73° - W	楕円形	1.20 × 1.03	24	外傾	皿状	人為	-	SD52 → 本跡
624	L 2 j6	N - 4° - W	[楕円形]	1.07 × [0.75]	56	外傾	皿状	人為	-	第2号段切状遺構と 重複
625	M 2 b7	N - 69° - W	[楕円形]	(1.10) × 0.62	25	外傾	平坦	人為	-	SK2932 → 本跡 → SD52 SK622 と重複
627	L 2 b8	N - 4° - W	楕円形	1.20 × 0.68	16	外傾	平坦	人為	-	
628	L 2 d7	N - 12° - E	楕円形	1.68 × 1.26	45	外傾	平坦	人為	-	SD52、SK629 → 本跡
629	L 2 d7	N - 10° - E	隅丸長方形	3.37 × (2.08)	55	外傾	平坦	人為	端反皿 平碗 皿 内耳鍋 砥石	本跡 → SD52、SK628
630	L 2 i6	N - 4° - W	楕円形	2.42 × 0.86	33	外傾	皿状	人為	-	SK664 → 本跡
631	L 2 a7	N - 86° - W	[隅丸 長方形]	(2.55) × (0.71)	95	垂直	平坦	人為	-	本跡 → SD60
632	M 2 b8	N - 98° - E	不定形	0.76 × 0.54	50	垂直	皿状	人為	播鉢 内耳鍋	SK2933 と重複
636	M 2 a7	-	[円形]	(1.08) × (0.99)	60	垂直	平坦	人為	-	本跡 → SD52 PL20
637	L 2 d8	N - 2° - E	隅丸長方形	1.75 × 0.90	22	外傾	平坦	人為	-	
638	L 2 e9	N - 1° - E	隅丸長方形	2.13 × 0.82	14 ~ 30	外傾	平坦	人為	-	PL20
639	L 2 e6	N - 19° - E	不定形	0.93 × 0.36	22	外傾	凹凸	人為	-	SD52・54 → 本跡 SD53 と重複
640	L 2 d9	N - 12° - W	隅丸長方形	2.00 × 0.67	16	外傾	平坦	人為	-	PG10 P 15 → 本跡
642	L 2 h0	N - 5° - E	楕円形	1.03 × 0.56	5	外傾	平坦	人為	-	
643	L 2 i7	N - 16° - E	隅丸長方形	1.41 × 0.87	18	外傾	平坦	人為	-	SD61・62 → 本跡 → SK644 PG13 P 45 と重複
644	L 2 i7	N - 79° - W	[楕円形]	(1.90) × 1.48	30	外傾	平坦	人為	-	SK643・645・647 → 本跡 SK646 と重複
645	L 2 i7	N - 10° - W	[楕円形]	(1.40) × (1.13)	22	外傾	皿状	人為	-	本跡 → SK644・646 ビット1基
646	L 2 i7	N - 14° - W	[楕円形]	(1.64) × 1.12	26	外傾	平坦	人為	内耳鍋	SK645 → 本跡 SD52、SK644・647 と重複
647	L 2 i7	N - 1° - E	楕円形	1.32 × (1.00)	41	外傾	平坦	人為	-	本跡 → SK644 SK646 と重複
648	L 2 h0	N - 10° - W	楕円形	1.66 × 0.88	25	外傾	平坦	人為	-	

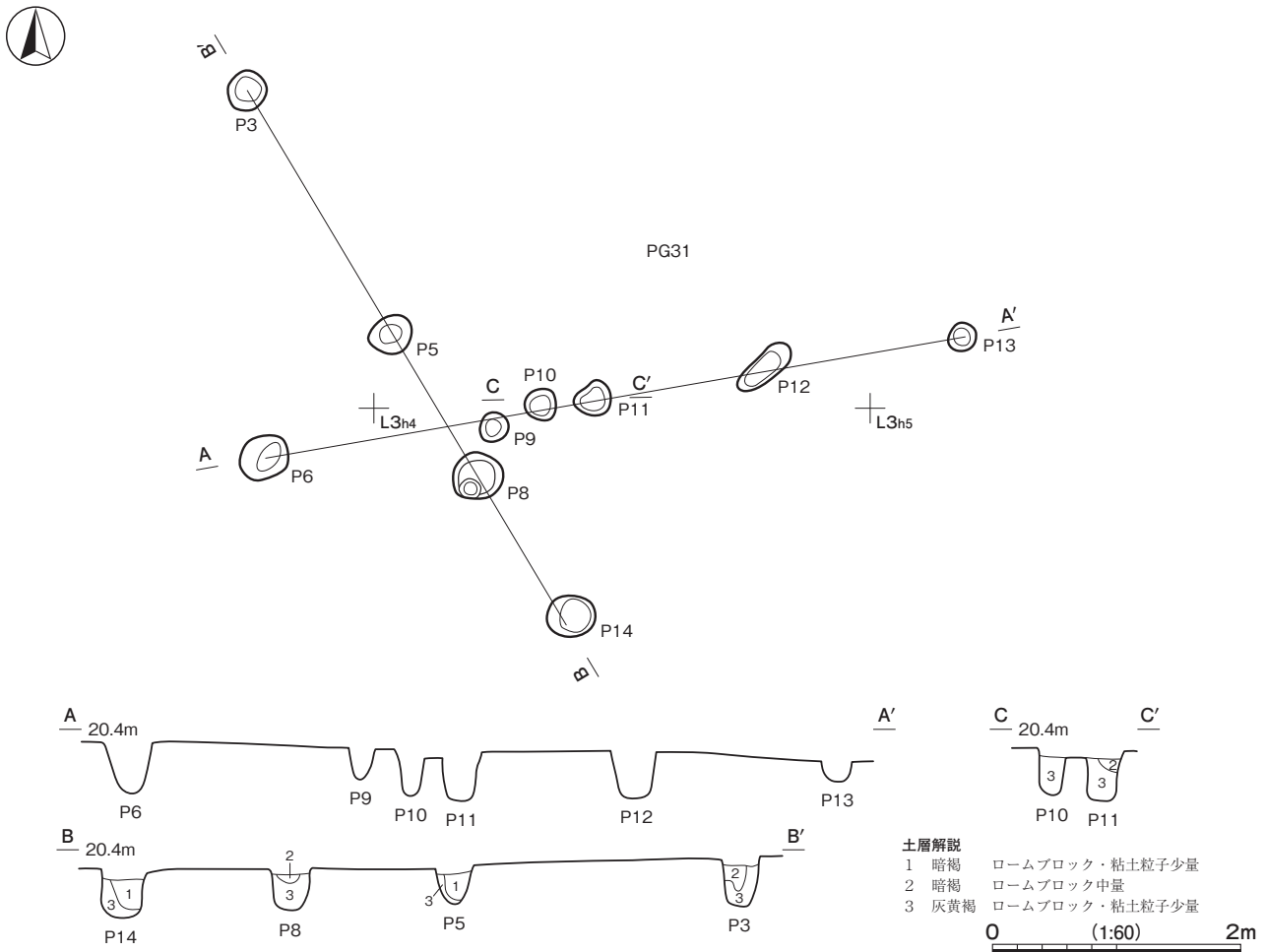
番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
651	L 3 i1	N - 15° - W	楕円形	1.45 × 0.71	9	外傾	平坦	人為	-	SD61 → 本跡
652	L 2 h0	N - 1° - E	隅丸長方形	1.17 × 0.43	9	外傾	平坦	人為	-	SK653 → 本跡
653	L 2 h0	N - 1° - W	隅丸長方形	(1.80) × 0.94	8	外傾	皿状	人為	-	SK654 → 本跡 → SK652 ピット1基
654	L 2 h0	N - 84° - E	[楕円形]	[0.74] × 0.44	6	外傾	平坦	人為	-	本跡 → SK653
656	L 2 e9	N - 11° - E	楕円形	1.15 × 0.49	6	外傾	平坦	人為	-	
659	L 3 i1	N - 46° - W	楕円形	0.88 × 0.51	7	外傾	平坦	人為	-	SD61 → 本跡
662	L 3 i1	N - 84° - W	楕円形	1.24 × 1.06	35	外傾	皿状	人為	-	
664	L 2 h7	N - 3° - W	楕円形	1.24 × (0.96)	32	外傾	平坦	人為	平碗 内耳鍋 銭貨 (洪武通寶)	本跡 → SK630
668	L 3 i2	-	[円形]	(0.24) × (0.24)	9	外傾	平坦	人為	-	本跡 → SD144
669	L 3 h2	N - 16° - E	[楕円形]	(0.41) × 0.31	46	外傾	U字状	人為	-	本跡 → SD144
675	M 2 a0	N - 89° - E	楕円形	1.47 × 0.83	11	外傾	平坦	人為	-	
676	M 2 a0	-	円形	1.26 × 1.24	17	外傾	平坦	人為	-	SD62 → 本跡
1114	K 3 j5	N - 3° - E	楕円形	1.05 × 0.64	13	外傾	平坦	人為	播鉢	SD115 → 本跡
1115	K 3 j5	N - 0°	長方形	1.70 × 1.32	20	外傾	平坦	自然	-	PL20
1116	L 3 j5	N - 79° - E	楕円形	0.64 × 0.42	14	外傾	平坦	-	内耳鍋 甕	
1117	L 3 j5	-	円形	0.98 × 0.90	9	外傾	皿状	-	-	ピット2基
1121	L 3 a5	N - 77° - E	[隅丸長方形]	(2.46) × 1.04	14	外傾	平坦	自然	内耳鍋	本跡 → SD125・129
1122	L 3 b5	N - 4° - W	楕円形	1.27 × 0.92	30	外傾	凹凸	自然	皿	SK1124 → 本跡
1124	L 3 a5	N - 4° - W	[隅丸長方形]	(1.74) × 0.80	10	外傾	平坦	自然	-	本跡 → SK1122
1125	L 3 a4	N - 84° - E	[隅丸長方形]	(0.98) × (0.50)	20	外傾	平坦	人為	-	SK1172 と重複
1142	L 3 i5	N - 79° - E	長楕円形	2.30 × 0.98	29	外傾	平坦	-	碗	
1152	L 3 c6	N - 70° - E	楕円形	1.90 × 1.72	66	外傾	皿状	人為	-	PL21
1172	L 3 a4	N - 90° - E	[隅丸長方形]	1.10 × (0.40)	38	外傾	平坦	-	-	SK1125、SD125 と重複
1173	L 3 c3	N - 0°	隅丸長方形	0.96 × 0.70	8	外傾	平坦	人為	-	SK1202 → 本跡
1174	L 3 c5	N - 84° - W	楕円形	(0.76) × 0.45	20	外傾	皿状	自然	-	本跡 → SD52
1175	L 3 b4	N - 81° - W	長方形	1.10 × 0.55	29	外傾	平坦	人為	-	SD52 P 4 と重複 ピット1基
1176	L 3 d3	N - 8° - W	長方形	1.50 × 0.95	28	外傾	平坦	自然	播鉢 内耳鍋	PL22
1177	L 3 d3	N - 3° - E	隅丸長方形	2.16 × 1.15	25	外傾	平坦	自然	内耳鍋	PL22
1178	L 3 c4	N - 10° - E	隅丸長方形	0.98 × 0.54	23	外傾	平坦	自然	内耳鍋	SK1179 → 本跡 PL13
1179	L 3 c4	N - 78° - W	隅丸長方形	0.85 × 0.65	10	外傾	平坦	自然	-	本跡 → SK1178 PL13
1180	L 3 c4	N - 0°	隅丸長方形	3.96 × 1.12	10	外傾	平坦	自然	内耳鍋 甕	第56図 HT9 → 本跡 PG30 P 76・84 と重複 PL13
1182	L 3 c3	-	円形	0.95 × 0.95	6	外傾	平坦	自然	-	第56図
1183	L 3 d1	N - 84° - E	楕円形	0.73 × 0.45	20	外傾	皿状	自然	-	
1200	L 3 c2	N - 33° - W	楕円形	0.68 × 0.60	15	外傾	平坦	自然	-	第28図
1201	L 3 b3	N - 0°	[楕円形]	(0.95) × 0.88	17	外傾	平坦	自然	-	SK1202 → 本跡 → SK1203 SK1228 と重複
1202	L 3 b3	N - 80° - W	[隅丸長方形]	(1.34) × 0.71	10	外傾	平坦	人為	焼土 炭化物	本跡 → SK1173・1201 底面被熱
1203	L 3 b3	N - 0°	[隅丸長方形]	(0.62) × (0.45)	13	外傾	平坦	自然	-	SK1201 → 本跡 → SD126 SK1228 と重複
1204	L 3 b1	N - 0°	長方形	1.74 × 1.22	30	外傾	平坦	-	坏 内耳鍋 甕	第29図 SK1209 → 本跡 → SD141 PG30 P 80 と重複
1205	L 3 a6	N - 87° - W	[隅丸長方形]	(1.38) × 0.80	13	外傾	平坦	自然	-	本跡 → SD113 PL22
1207	L 3 b4	N - 6° - E	隅丸長方形	0.60 × 0.45	10	外傾	平坦	自然	-	SK1208 → 本跡 PL22
1208	L 3 b4	N - 0°	長方形	2.71 × 0.93	20	外傾	平坦	人為	-	本跡 → SK1207 ピット1基 PL22
1210	L 3 d2	-	円形	0.60 × 0.60	20	外傾	平坦	自然	内耳鍋	第28図
1213	L 3 b3	N - 25° - W	楕円形	0.94 × 0.46	33	外傾	平坦	-	-	
1222	L 3 c2	N - 0°	隅丸長方形	3.08 × 1.22	56	外傾	凹凸	自然	-	第28図 SI 111、 SK1185 → 本跡 → SD141 ピット2基
1228	L 3 b2	N - 86° - W	[隅丸長方形]	1.08 × [0.76]	23	外傾	平坦	-	-	本跡 → SD126 SK1201・1203、SE101 と重複
1385	L 3 g5	N - 82° - E	楕円形	4.56 × (2.82)	97	外傾	平坦	自然	皿 内耳鍋 片口鉢 甕 砥石 礎石カ 焼成粘土塊	SD52 → 本跡 SD56 と重複 掘り返しあり
2924	L 3 i4	N - 75° - E	長楕円形	2.32 × 0.57	10	外傾	平坦	-	-	SB43 P 35 と重複
2925	L 3 j5	N - 85° - E	[楕円形]	1.22 × (0.38)	20	外傾	平坦	-	-	

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
2926	L 3 j5	N - 90°	楕円形	0.88 × 0.64	8	外傾	平坦	-	-	
2930	L 2 j6	N - 5° - W	[隅丸長方形]	(1.70) × 0.80	40	外傾	平坦	人為	-	SK2931 → 本跡第2号段切状遺構と重複
2931	L 2 j6	N - 5° - W	隅丸長方形	1.62 × 1.00	30	内傾	平坦	人為	-	本跡 → SK2930第2号段切状遺構と重複
2932	M 2 b7	N - 85° - W	楕円形	0.48 × 0.30	40	外傾	U字状	人為	-	本跡 → SK625SD52と重複
2933	M 2 b8	N - 60° - W	不整楕円形	0.60 × 0.50	34	外傾	U字状	人為	-	SK632と重複

キ 柱穴列

第1号区画南東部のL 3 h4区で、第31号ピット群のうち、径及び深さとも類似するピットが列状に並ぶ部分について、整理段階で柱穴列と判断した。出土遺物がないため、詳細な時期は不明である。A - A'ラインは、区画溝の第56号溝や内部を区画するように位置している第144号溝と、軸方向をほぼ同じくすることから、中・近世の遺構と判断した。以下、実測図と一覧で記載する。

第30号柱穴列 (第84図)



第84図 第30号柱穴列実測図

第40表 第30号柱穴列ピット一覧

番号	位置	平面形	規模 (cm)		番号	位置	平面形	規模 (cm)		番号	位置	平面形	規模 (cm)	
			長径(軸) × 短径(軸)	深さ				長径(軸) × 短径(軸)	深さ				長径(軸) × 短径(軸)	深さ
3	L 3 g3	円形	32 × 30	42	9	L 3 h4	楕円形	25 × 22	25	13	L 3 g5	楕円形	25 × 22	16
5	L 3 g4	楕円形	36 × 30	34	10	L 3 g4	円形	26 × 25	38	14	L 3 h4	楕円形	40 × 33	40
6	L 3 h3	楕円形	40 × 34	41	11	L 3 g4	楕円形	30 × 27	40					
8	L 3 h4	円形	40 × 38	34	12	L 3 g4	楕円形	53 × 20	37					

ク ピット群

第1号画内には、第10・13・30・31・33号ピット群が、第1号区画と第2号区画に挟まれた通路状部分には、第29号ピット群が存在している。整理段階で、径や深さ、覆土などを検討し、掘立柱建物跡や柱穴列としたもの以外について、実測図（第85～87図）と一覽で記載する。なお、土層断面について、煩雑になるため平面図にセクションポイントを入れていないが、南ないし西を基準に測図している。また、以下の一覽には、整理段階で掘立柱建物跡などの柱穴としたものも、番号を振り替えずに記載している。

第10号ピット群（第12図）

位置 第1号区画西部のL2d9区からL3e1区で、標高21.0mほどの台地斜面部に位置している。

所見 出土遺物がないため、詳細な時期は不明であるが、分布状況から、15世紀後半から16世紀代を中心に、江戸時代のものも含んでいると考えられる。

第41表 第10号ピット群ピット一覽

番号	位置	平面形	規 模 (cm)		番号	位置	平面形	規 模 (cm)		番号	位置	平面形	規 模 (cm)	
			長径(軸) × 短径(軸)	深さ				長径(軸) × 短径(軸)	深さ				長径(軸) × 短径(軸)	深さ
1	L3e1	楕円形	32 × 25	32	7	L2f0	楕円形	35 × 31	16	13	L2e9	楕円形	39 × 31	26
2	L3e1	楕円形	24 × 21	10	8	L2e0	楕円形	28 × 24	9	14	L2e9	円形	33 × 32	19
3	L3e1	円形	25 × 24	19	9	L2e0	楕円形	31 × 27	7	15	L2d9	円形	46 × 44	35
4	L2e0	楕円形	33 × 28	17	10	L2e0	楕円形	33 × 30	34	16	L2e9	楕円形	80 × 50	69
5	L2e0	楕円形	40 × 36	19	11	L2e9	円形	40 × 39	23					
6	L2e0	楕円形	29 × 24	21	12	L2e9	円形	39 × 37	26					

第13号ピット群（第11・12・15・16図）

位置 第1号区画西部のL2f7区からL3i1区で、標高21.0mほどの台地斜面部に位置している。

所見 出土遺物がないため、詳細な時期は不明であるが、分布状況から、15世紀後半から16世紀代を中心に、江戸時代のものも含んでいると考えられる。

第42表 第13号ピット群ピット一覽

番号	位置	平面形	規 模 (cm)		番号	位置	平面形	規 模 (cm)		番号	位置	平面形	規 模 (cm)	
			長径(軸) × 短径(軸)	深さ				長径(軸) × 短径(軸)	深さ				長径(軸) × 短径(軸)	深さ
1	L2i0	円形	36 × 36	51	24	L2j9	楕円形	34 × 30	46	47	L2h7	円形	25 × 24	25
2	L2i0	楕円形	25 × 19	35	25	L2j8	楕円形	35 × 30	33	48	L2h7	円形	31 × 29	31
3	L2i0	楕円形	26 × 23	27	26	L2j8	円形	24 × 22	28	49	L2g7	円形	35 × 32	36
4	L2i0	楕円形	25 × 21	63	27	L2j7	円形	29 × 28	39	50	L2g7	楕円形	31 × 28	63
5	L2i9	円形	26 × 24	39	28	L2j7	円形	36 × 33	54	51	L2h8	楕円形	42 × 34	46
6	L2h0	円形	20 × 20	16	29	L2j7	円形	31 × 31	51	52	L2h7	楕円形	37 × 31	52
7	L2h9	円形	32 × 31	28	30	L2j7	円形	23 × 23	16	53	L2h7	楕円形	43 × 34	44
8	L2h9	円形	20 × 19	22	31	L2h7	楕円形	29 × 25	25	54	L2g7	円形	25 × 25	57
9	L2h9	楕円形	38 × 30	28	32	L2h7	楕円形	38 × 32	30	55	L2f7	楕円形	44 × 35	62
10	L2h9	楕円形	27 × 23	15	33	L2h7	楕円形	35 × 28	45	56	L2f7	楕円形	36 × 30	36
11	L2i9	楕円形	29 × 26	25	34	L2h7	円形	27 × 26	30	57	L2g7	円形	27 × 25	44
12	L2h9	楕円形	32 × 23	4	35	L2h7	楕円形	32 × 29	32	58	L2g7	円形	27 × 25	40
13	L2i9	楕円形	34 × 26	34	36	L2h7	円形	28 × 26	37	59	L2g8	円形	30 × 30	19
14	L2h9	楕円形	26 × 23	42	37	L2i8	[円形]	29 × [29]	24	60	L2h7	円形	25 × 23	35
15	L2i9	円形	23 × 21	37	38	L2i7	楕円形	22 × 20	20	61	L2h9	円形	46 × 45	56
16	L2i9	円形	25 × 23	29	39	L2i8	円形	25 × 23	28	62	L2j7	楕円形	28 × 25	43
17	L2i9	楕円形	30 × 24	38	40	L2i8	円形	33 × 32	24	63	L2j7	円形	20 × 20	50
18	L2i9	楕円形	30 × 22	32	41	L2i8	円形	25 × 25	25	64	L2h9	楕円形	29 × 23	47
19	L2h0	楕円形	47 × 34	45	42	L2i9	円形	34 × 32	35	65	L2g9	楕円形	52 × 46	50
20	L2h0	楕円形	28 × 24	37	43	L2i8	楕円形	42 × 33	40	66	L2h9	円形	42 × 42	48
21	L2h0	楕円形	26 × 20	39	44	L2i8	円形	28 × 26	20	67	L2h8	円形	42 × 42	49
22	L2h0	楕円形	33 × 28	33	45	L2i7	楕円形	42 × 32	45	68	L2g8	円形	45 × 43	56
23	L2j9	円形	33 × 31	56	46	L2i7	楕円形	45 × 35	30	69	L2h9	楕円形	37 × 32	39

番号	位置	平面形	規模 (cm)		番号	位置	平面形	規模 (cm)		番号	位置	平面形	規模 (cm)	
			長径 (軸) × 短径 (軸)	深さ				長径 (軸) × 短径 (軸)	深さ				長径 (軸) × 短径 (軸)	深さ
70	L 2 i9	円形	36 × 35	32	75	L 2 g9	楕円形	63 × 57	34	80	L 2 g9	[楕円形]	(60) × (53)	31
71	L 2 i9	円形	35 × 35	50	76	L 2 g9	楕円形	63 × (55)	70	81	L 3 i1	円形	26 × 26	24
72	L 2 h9	円形	40 × 37	49	77	L 2 g9	楕円形	63 × (40)	24	82	L 2 h0	楕円形	49 × 42	35
73	L 2 f8	楕円形	58 × 52	24	78	L 2 g8	楕円形	40 × 35	47	83	L 2 h0	楕円形	37 × 33	13
74	L 2 g8	楕円形	44 × 37	44	79	L 2 g9	楕円形	53 × (41)	15	84	L 2 i0	円形	32 × 30	49

第 29 号ピット群 (第 14 図 PL12)

位置 第 1 号区画と第 2 号区画に挟まれた通路状部分、L 3 b6 区から L 3 g6 区で、標高 21.0 m ほどの低地部分に位置している。

所見 出土遺物がないため、詳細な時期は不明であるが、分布状況から、15 世紀後半から 16 世紀代を中心に、江戸時代のものも含んでいると考えられる。

第 43 表 第 29 号ピット群ピット一覧

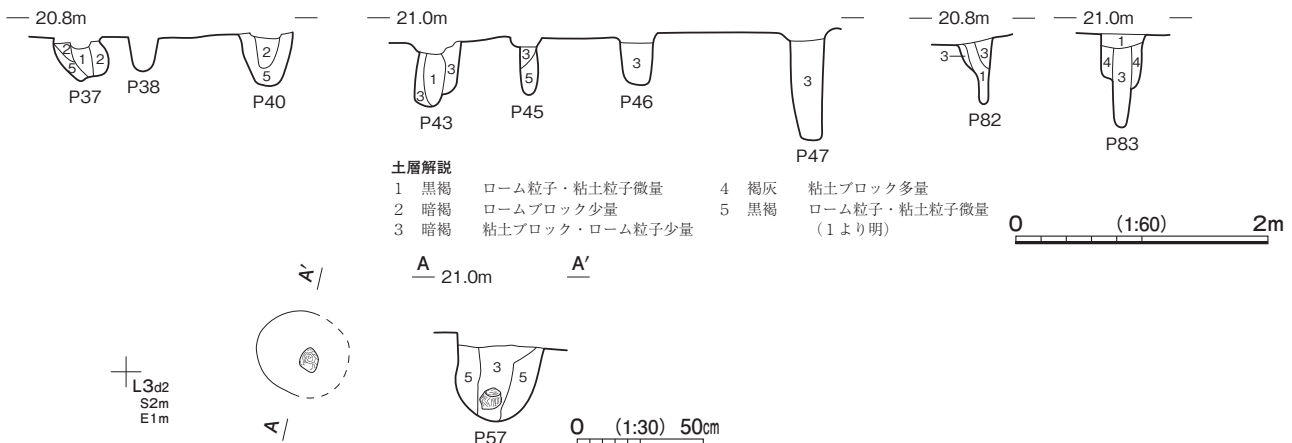
番号	位置	平面形	規模 (cm)		番号	位置	平面形	規模 (cm)		番号	位置	平面形	規模 (cm)	
			長径 (軸) × 短径 (軸)	深さ				長径 (軸) × 短径 (軸)	深さ				長径 (軸) × 短径 (軸)	深さ
1	L 3 b6	楕円形	50 × 40	25	8	L 3 e6	円形	35 × 33	15	15	L 3 f6	円形	20 × 20	45
2	L 3 b6	円形	32 × 30	16	9	L 3 e6	円形	36 × 35	44	17	L 3 e6	楕円形	24 × 20	55
3	L 3 c6	楕円形	55 × (50)	48	10	L 3 e6	楕円形	45 × 32	32	18	L 3 e6	円形	32 × 32	34
4	L 3 d6	楕円形	38 × 28	15	11	L 3 e6	円形	45 × 42	33	19	L 3 f6	楕円形	30 × 24	35
5	L 3 d6	円形	28 × 28	11	12	L 3 f6	円形	30 × 28	7	20	L 3 f6	楕円形	82 × 55	32
6	L 3 d6	楕円形	32 × 28	46	13	L 3 f6	楕円形	30 × 25	17	21	L 3 g6	円形	21 × 20	5
7	L 3 d6	円形	35 × 35	21	14	L 3 g6	楕円形	34 × 30	32	22	L 3 c6	[楕円形]	43 × (35)	35

第 30 号ピット群 (第 12・13・85 図)

位置 第 1 号区画北部、L 3 b1 区から L 3 f5 区の第 143 号溝までの間で、標高 21.0 m ほどの台地斜面部から低地部分に位置している。このうち、P 23・P 24・P 44・P 47・P 48・P 54・P 77・P 86 については、第 41 号掘立柱建物跡の柱穴で、P 1・P 2・P 10・P 18・P 28・P 32・P 34・P 68・P 70・P 74・P 75 については、整理段階で第 42 号掘立柱建物跡の柱穴とした。

遺物出土状況 P 3・P 5・P 23・P 70 から土師質土器内耳鍋が、P 29・P 44・P 45・P 52・P 83 から土師質土器皿が、それぞれ出土している。また、P 57 の底部から、柱材の一部と考えられる炭化材が出土している。

所見 時期は、出土土器から、15 世紀後半から 16 世紀代を中心とするが、一部に江戸時代のものも含んでいると考えられる。



第 85 図 第 30 号ピット群実測図

第44表 第30号ピット群ピット一覧

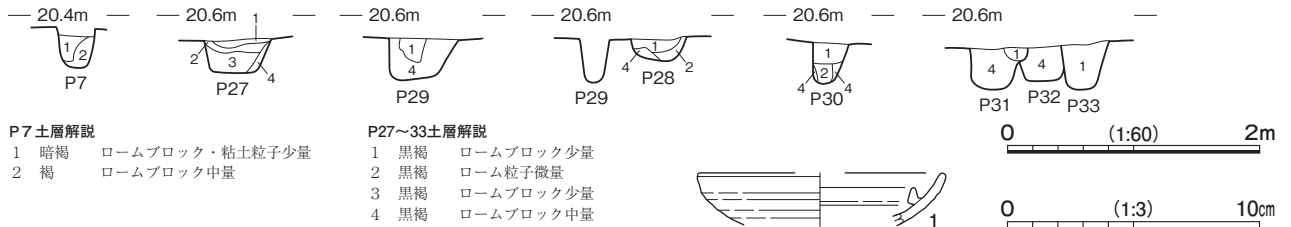
番号	位置	平面形	規 模 (cm)		番号	位置	平面形	規 模 (cm)		番号	位置	平面形	規 模 (cm)	
			長径(軸) × 短径(軸)	深さ				長径(軸) × 短径(軸)	深さ				長径(軸) × 短径(軸)	深さ
1	L 3 e5	楕円形	37 × 33	69	31	L 3 e3	円形	35 × 33	55	60	L 3 e2	円形	40 × 40	23
2	L 3 d5	円形	35 × 32	60	32	L 3 e3	楕円形	70 × 42	61	61	L 3 e2	円形	40 × 40	25
3	L 3 d5	楕円形	50 × 26	18	33	L 3 e3	円形	30 × 28	44	62	L 3 e2	楕円形	45 × 40	41
4	L 3 c5	円形	30 × 30	31	34	L 3 e3	円形	35 × 35	54	63	L 3 f2	円形	50 × 48	31
5	L 3 c4	楕円形	32 × 29	19	35	L 3 f3	円形	34 × 31	28	64	L 3 f2	楕円形	33 × 30	35
6	L 3 c4	円形	26 × 26	21	36	L 3 e3	円形	36 × 34	40	65	L 3 f2	楕円形	32 × 28	46
7	L 3 c4	円形	30 × 30	58	37	L 3 e3	円形	40 × 40	30	66	L 3 f3	円形	44 × 42	40
8	L 3 d4	楕円形	33 × 26	37	38	L 3 e3	楕円形	28 × 25	22	67	L 3 f3	楕円形	30 × 27	24
9	L 3 d4	楕円形	32 × 26	49	39	L 3 e3	楕円形	40 × 35	41	68	L 3 f3	楕円形	39 × 35	43
10	L 3 d4	楕円形	40 × 35	56	40	L 3 e3	円形	43 × 40	42	69	L 3 f4	円形	35 × 35	46
11	L 3 e5	円形	36 × 36	69	41	L 3 e3	楕円形	32 × 28	43	70	L 3 f4	円形	30 × 30	40
12	L 3 e5	円形	38 × 36	69	42	L 3 d3	円形	30 × 28	36	71	L 3 f4	楕円形	32 × 27	34
13	L 3 e5	円形	37 × 35	67	43	L 3 c3	楕円形	40 × 32	47	72	L 3 f4	楕円形	26 × 18	41
14	L 3 e4	楕円形	40 × 36	49	44	L 3 d3	楕円形	37 × 33	57	73	L 3 f4	円形	30 × 30	40
15	L 3 e4	楕円形	44 × 40	65	45	L 3 c3	楕円形	27 × 24	47	74	L 3 f4	楕円形	33 × 28	60
16	L 3 e4	楕円形	55 × 37	55	46	L 3 c3	円形	26 × 26	34	75	L 3 f5	円形	40 × 37	64
17	L 3 d4	楕円形	30 × 24	18	47	L 3 c3	円形	35 × 34	88	76	L 3 c4	円形	27 × 26	38
18	L 3 d4	円形	35 × 33	50	48	L 3 c2	円形	35 × 33	58	77	L 3 c3	楕円形	31 × 25	48
19	L 3 d4	円形	23 × 22	31	49	L 3 c3	円形	35 × 35	57	78	L 3 c3	楕円形	37 × 30	44
21	L 3 d3	楕円形	28 × 25	45	50	L 3 c3	楕円形	30 × 27	17	80	L 3 b2	楕円形	44 × 34	53
22	L 3 d4	楕円形	38 × 31	17	51	L 3 c3	円形	27 × 25	32	81	L 3 b2	楕円形	28 × 23	29
23	L 3 d4	楕円形	45 × 40	44	52	L 3 c2	円形	36 × 35	-	82	L 3 c2	楕円形	33 × 22	48
24	L 3 d3	楕円形	50 × 45	45	53	L 3 c2	楕円形	30 × 21	-	83	L 3 b1	円形	36 × 35	74
25	L 3 d4	楕円形	42 × 30	46	54	L 3 d2	円形	29 × 28	37	84	L 3 c4	楕円形	48 × 34	74
26	L 3 d3	楕円形	47 × 42	43	55	L 3 d3	円形	31 × 29	25	85	L 3 d3	楕円形	30 × 25	31
27	L 3 d3	円形	30 × 28	26	56	L 3 d3	楕円形	29 × 26	23	86	L 3 c4	楕円形	34 × 27	44
28	L 3 d3	円形	38 × 35	41	57	L 3 d2	楕円形	37 × [33]	35	87	L 3 e4	円形	26 × 24	42
29	L 3 e3	円形	30 × 30	48	58	L 3 d2	楕円形	33 × 27	49	91	L 3 f5	楕円形	35 × 28	22
30	L 3 e3	円形	35 × 33	55	59	L 3 e2	楕円形	22 × 20	20					

第31号ピット群 (第13・17・18・86図)

位置 第1号区画南部、L 3 g3区からL 3 i6区の第140・141号溝の間で、標高20.5mほどの低地部分に位置している。このうち、P 3・P 5・P 6・P 8～P 14については、整理段階で第30号柱穴列のピットとした。

遺物出土状況 P 21から陶器の灯明皿、碗、土師質土器の甕が、P 25から土師質土器皿1点、P 29・P 31から土師質土器内耳鍋が、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から、15世紀後半から16世紀代を中心とするが、P 21のように17世紀末以降のものも含まれていると考えられる。



第86図 第31号ピット群・出土遺物実測図

第45表 第31号ピット群出土遺物一覧 (第86図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
1	陶器	灯明皿	[9.8]	(2.1)	-	緻密	にぶい赤褐	外面底部付近無釉	柿釉	瀬戸・美濃	P 21	5%

第46表 第31号ピット群ピット一覧

番号	位置	平面形	規模 (cm)		番号	位置	平面形	規模 (cm)		番号	位置	平面形	規模 (cm)	
			長径 (軸) × 短径 (軸)	深さ				長径 (軸) × 短径 (軸)	深さ				長径 (軸) × 短径 (軸)	深さ
1	L 3 g4	円形	22 × 21	19	15	L 3 h4	楕円形	25 × 20	8	29	L 3 j3	不整楕円形	68 × (52)	31
2	L 3 g4	楕円形	47 × 39	38	16	L 3 h4	円形	25 × 24	13	30	L 3 j3	楕円形	34 × 30	33
3	L 3 g3	円形	32 × 30	42	17	L 3 h4	楕円形	44 × 36	28	31	M 3 a3	楕円形	55 × (43)	32
4	L 3 g3	楕円形	54 × 44	28	18	L 3 h5	楕円形	34 × 27	36	32	M 3 a3	楕円形	57 × 38	27
5	L 3 g4	楕円形	36 × 30	34	19	L 3 h5	円形	36 × 35	33	33	M 3 a3	楕円形	40 × (32)	35
6	L 3 h3	楕円形	40 × 34	41	20	L 3 h5	楕円形	20 × 17	33	34	L 3 h4	楕円形	23 × 20	48
7	L 3 h3	楕円形	35 × 30	32	21	L 3 g3	円形	20 × 20	20	35	L 3 i4	円形	22 × 21	19
8	L 3 h4	円形	40 × 38	34	22	L 3 g3	楕円形	18 × 13	14	36	L 3 i4	円形	34 × 32	17
9	L 3 h4	楕円形	25 × 22	25	23	L 3 i7	楕円形	55 × 34	34	37	L 3 i4	円形	24 × 22	11
10	L 3 g4	円形	26 × 25	38	24	L 3 i6	楕円形	27 × 22	35	38	L 3 i5	楕円形	62 × 45	22
11	L 3 g4	楕円形	30 × 27	40	25	L 3 i6	円形	30 × 30	49	39	L 3 i4	楕円形	33 × 30	19
12	L 3 g4	楕円形	53 × 20	37	26	L 3 j3	楕円形	49 × 17	8	40	L 3 g4	円形	20 × 20	29
13	L 3 g5	楕円形	25 × 22	16	27	L 3 j3	楕円形	53 × 45	27	41	L 3 i6	楕円形	37 × 26	29
14	L 3 h4	楕円形	40 × 33	40	28	L 3 j3	楕円形	46 × 32	20	42	L 3 i6	円形	26 × 25	37

第33号ピット群 (第17・87図)

位置 第1号区画南部のL 3 i4区からL 3 j6区の第55・56号溝の間で、標高20.5mほどの台地斜面部から低地部分に位置している。このうち、P 2～P 4・P 8・P 10・P 12・P 13・P 33・P 35については、整理段階で第43号掘立柱建物跡の柱穴とした。



第87図 第33号ピット群実測図

遺物出土状況 P 21から陶器鉢1点、P 25・P 30から土師質土器内耳鍋1点が、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から、15世紀後半から16世紀代を中心に、江戸時代のものも含んでいると考えられる。

第47表 第33号ピット群ピット一覧

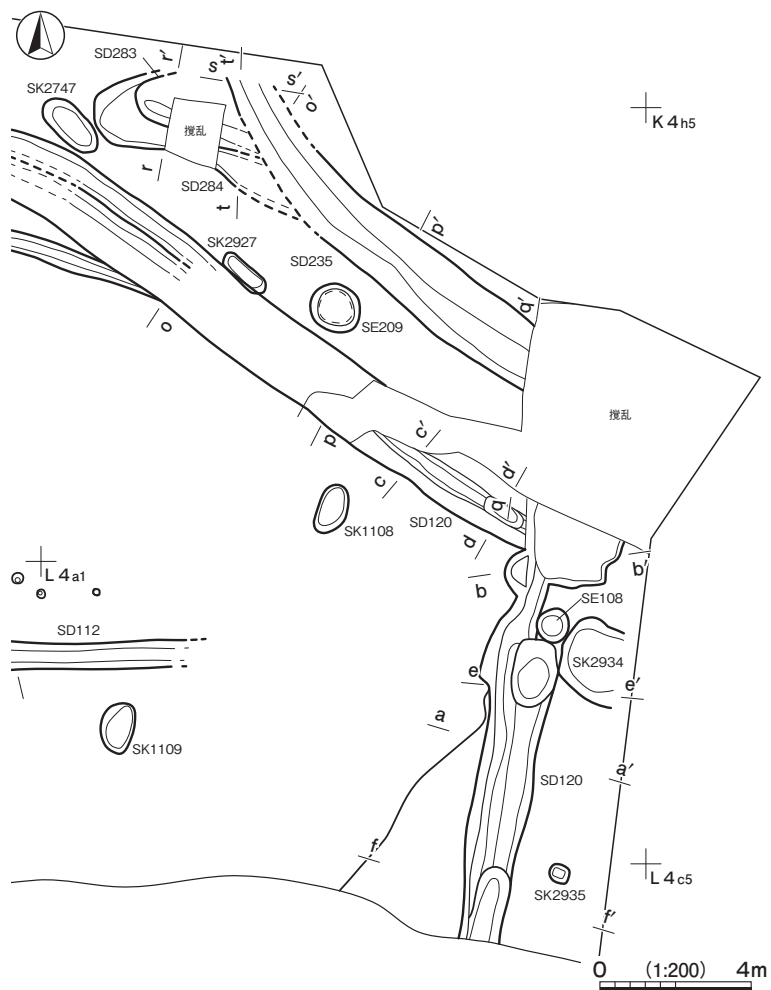
番号	位置	平面形	規模 (cm)		番号	位置	平面形	規模 (cm)		番号	位置	平面形	規模 (cm)	
			長径 (軸) × 短径 (軸)	深さ				長径 (軸) × 短径 (軸)	深さ				長径 (軸) × 短径 (軸)	深さ
1	L 3 j4	楕円形	33 × 27	40	13	L 3 j5	円形	32 × 30	19	25	L 3 j5	楕円形	32 × 24	30
2	L 3 j4	楕円形	32 × 29	22	14	L 3 i5	楕円形	27 × 21	17	26	L 3 j4	楕円形	40 × 30	30
3	L 3 i5	円形	36 × 35	27	15	L 3 i5	楕円形	22 × 18	21	27	L 3 j4	楕円形	26 × 22	25
4	L 3 j5	不整楕円形	68 × (52)	14	16	L 3 j4	楕円形	33 × 30	24	28	L 3 j4	楕円形	24 × 18	15
5	L 3 j5	楕円形	44 × 30	56	17	L 3 i5	楕円形	30 × 26	7	29	L 3 i4	円形	22 × 22	10
6	L 3 j6	円形	50 × 48	25	18	L 3 j5	楕円形	40 × 32	4	30	L 3 j5	円形	24 × 24	24
7	L 3 j5	円形	14 × 14	28	19	L 3 j5	[円形]	28 × (20)	13	31	L 3 j4	楕円形	20 × 18	28
8	L 3 j5	楕円形	30 × 22	20	20	L 3 j5	[円形]	26 × (16)	12	32	L 3 i4	円形	32 × 32	3
9	L 3 i4	円形	24 × 22	16	21	L 3 j4	[円形]	28 × (16)	12	33	L 3 j4	楕円形	75 × 45	5
10	L 3 i4	楕円形	40 × 30	10	22	L 3 j5	円形	26 × 24	48	34	L 3 j4	楕円形	65 × 45	9
11	L 3 i4	楕円形	29 × 20	25	23	L 3 j4	円形	24 × 22	23	35	L 3 i4	円形	29 × 27	18
12	L 3 i5	楕円形	72 × 36	16	24	L 3 j4	楕円形	32 × 24	30					

第48表 第1号区画のピット群一覧

番号	位置	柱穴				主な出土遺物	備考	
		柱穴数	平面形	長径 (cm)	短径 (cm)			深さ (cm)
10	L 2 d9 ~ L 3 e1	16	円形・楕円形	24 ~ 80	21 ~ 50	7 ~ 69	-	本跡→SK640
13	L 2 f7 ~ L 3 i1	84	円形・楕円形	20 ~ 63	19 ~ 57	4 ~ 70	-	SK597・598→本跡→SK552・553・555・600 SD61・62、SK595・607・608・643と重複
29	L 3 b6 ~ L 3 g6	21	円形・楕円形	20 ~ 82	20 ~ 55	5 ~ 55	-	HT 8、SD126と重複
30	L 3 b1 ~ L 3 f5	86	円形・楕円形	22 ~ 70	18 ~ 48	17 ~ 88	皿 内耳鍋	SK1180・1204と重複
31	L 3 g3 ~ L 3 i6	42	円形・楕円形	18 ~ 68	13 ~ 52	8 ~ 49	碗 皿 灯明皿 内耳鍋	
33	L 3 i4 ~ L 3 j6	35	円形・楕円形	14 ~ 75	14 ~ 52	3 ~ 56	鉢 内耳鍋	SD56、SK2924と重複



第88図 第2号区画（北）とその周辺の遺構全体図(1)



第89図 第2号区画（北）とその周辺の遺構全体図(2)

(2) 第2号区画（北）とその周辺の遺構と遺物

ア 溝跡

第2号区画（北）には、西側の第113・139号溝、第139号溝と南部で重複して、北側で緩やかに東にカーブする第140・165号溝、北東部から東を区画している第120号溝がある。第120・165号溝は、出土遺物や重複関係から近世以降と考えられ、第165号溝は第6号柱穴列を伴っている。第1号区画と第2号区画に挟まれた通路状部分には、第113号溝と軸を同じくする第115号溝があり、北部で90°東に屈曲している。第115号溝の南部は、K3j4付近で途切れており、長さの短い溝であるが、第2号区画の西限と考えられる。北側は第118号溝によって区画している。第118号溝は幅広で、南壁が低く、周囲の平坦面と高低差がない。南側には第118号溝と軸方向を揃えて、第28・29号掘立柱建物が位置している。また、方形竪穴遺構や土坑もこの付近に集中し、それぞれの遺構の軸方向はほぼ揃っている。このことから、第118号溝は、台地斜面部を段切した段切状遺構の一部と考えられ、整地後に各遺構を掘り込んだ可能性がある。また、第118号溝と第113号溝の間には、東西2m、南北3mの範囲に厚さ10cm程度の整地層が存在し、第113・118号溝はこの整地層を掘り込んでいる。さらに、北部に第120号溝と併行するように南東方向に伸びる第235号溝が位置している。また、現況道路とほぼ軸を同じくして第271号溝と第280～282号溝が、2.5mほどの間隔で東西に伸びている。これらは、道路の側溝の可能性もある。区画内部には、第113号溝と軸方向を同じくする第114・117・150号溝があり、第117号溝は重複するすべての遺構を掘り込んでいる。以下、第2号区画の第113・118号溝を中心に記述し、それ以外については実測図と一覧で記載する。

第113号溝跡（第90～95図 PL7・30～32）

位置 第2号区画（北）の西部を区画している溝で、K3i6～L3d6区、標高21.0mほどの台地斜面部から低地部に位置している。

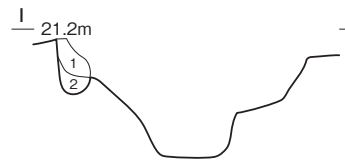
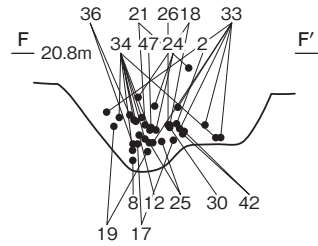
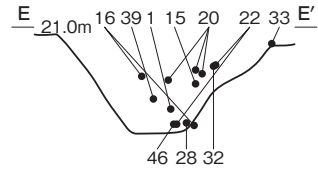
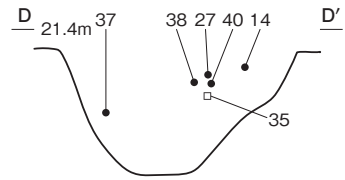
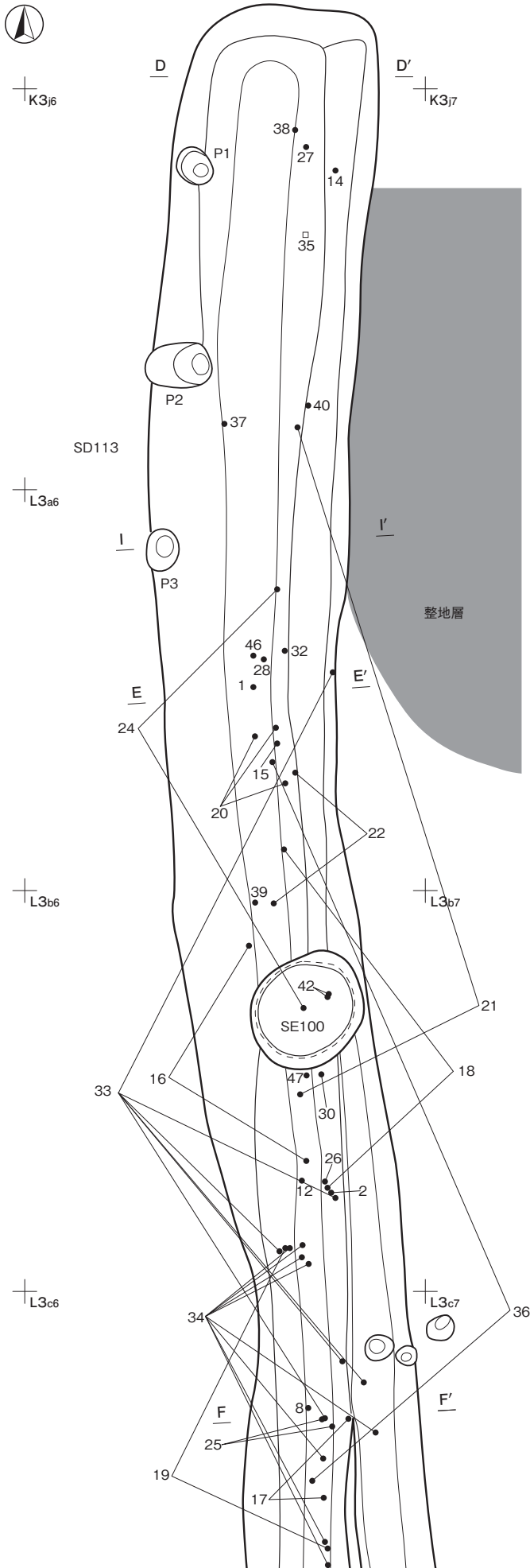
重複関係 第139号溝跡、第1205号土坑、整地層を掘り込み、第126・150号溝に掘り込まれている。重複している第100号井戸跡、第1355・1358・1359号土坑との関係は不明である。

規模と形状 第115号溝の南部東側のK3i6区から南（N-174°-E）に19.7mほど伸びている。また、L3b6区付近から南側で第139号溝を掘り込むような形状となる。上幅100～204cm、下幅26～56cm、深さ70～90cmで、南に行くほど幅が狭い。断面形状は逆台形で、壁は外傾して立ち上がっている。整理段階で、第139号溝との関係性を精査した結果、本跡は第139号溝の掘り返し部分であると判断した。また、北部東壁の段も、第139号溝の壁の一部と考えられる。北部の両壁際には、約2m間隔でピットが存在しており、第29号柱穴列として、本跡に伴う柵列や橋脚状の施設と考えられる。

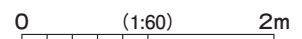
覆土 A-A'ラインで12層に、B-B'ラインで11層に分層できる。A・B両ラインの第9～12、19・21層が第139号溝跡に、第1～8、13～18・20層が本跡に帰属する。C-C'ラインでは、第1～3層が第113・139・150号溝跡、第96号井戸跡など遺構群全体の覆土、第4～7層が第96号井戸跡に、第8～11層がピットに、第12～15層が第150号溝跡に、第16～19層が第113号溝跡に帰属すると考えられる。

遺物出土状況 土師質土器423点（皿27、播鉢36、壺2、内耳鍋337、甕20、羽釜1）、陶器9点（碗2、皿1、片口鉢1、甕5）、石器5点（敲石1、石臼2、茶臼1、砥石1）が出土している。ほかに混入した土師器片12点（坏1、高台付坏3、高坏1、甕7）、須恵器片5点（瓶類1、甕4）、鉄滓22点（2293.95g）が出土している。14・27・31・32・37・38・40・44・48は覆土上層から、それ以外は主に覆土中層から下層にかけて出土している。土師質土器は15世紀中頃から後半のものが主体であり、7・14が14世紀後半でやや古い。陶器類は古瀬戸のほか、10型式の常滑産の甕が出土している。33は第28号掘立柱建物跡の柱穴及び第99号井戸跡から出土した破片と接合したものである。34は第96号井戸跡の出土遺物と接合した。また、馬歯が覆土中層からまとまって出土しているが、遺存状態が悪く、詳細は不明である。

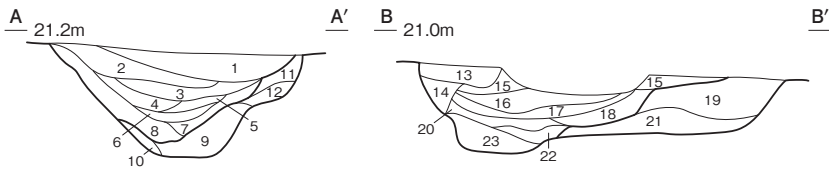
所見 時期は、14世紀後半から15世紀前半と考えられる7・8・14が含まれているが、主体の出土遺物から、15世紀後半から16世紀前半と考えられる。また、本跡と第139号溝跡は一連のもので、掘り返しや補修を加えながら機能していたと考えられる。



- 土層解説**
- | | |
|------|---------------------|
| 1 黒褐 | ローム粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 褐 | ローム粒子中量 |

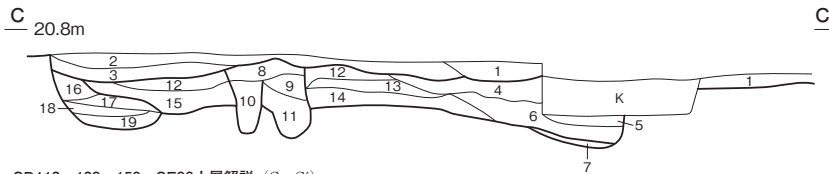


第90図 第113号溝跡遺物出土状況実測図



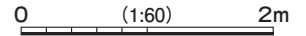
SD113・139土層解説 (A-A' B-B')

- | | | | |
|---------|------------------------------|---------|--------------------------|
| 1 暗褐 | ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 13 暗褐 | 粘土ブロック中量、ロームブロック少量 |
| 2 暗褐 | ロームブロック中量、粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 14 黒褐 | 粘土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐 | 粘土ブロック・炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量 | 15 暗褐 | ローム粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 4 褐 | ローム粒子中量、粘土ブロック微量 | 16 暗褐 | ローム粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 5 にい貴腐 | 粘土粒子中量、ローム粒子少量 | 17 灰黄褐 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 6 褐 | ロームブロック・粘土粒子少量 | 18 にい貴腐 | 粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 7 にい貴腐 | 粘土ブロック多量 | 19 黒褐 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 8 褐 | ローム粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量 | 20 褐灰 | ロームブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 9 にい貴腐 | ロームブロック・粘土ブロック・砂粒少量 | 21 褐 | ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 10 にい貴腐 | 粘土粒子中量 | 22 褐灰 | 粘土粒子少量 |
| 11 にい貴腐 | ロームブロック・粘土ブロック少量 | 23 明黄褐 | 粘土層 |
| 12 暗褐 | ロームブロック少量、炭化粒子・粘土粒子微量 | | |

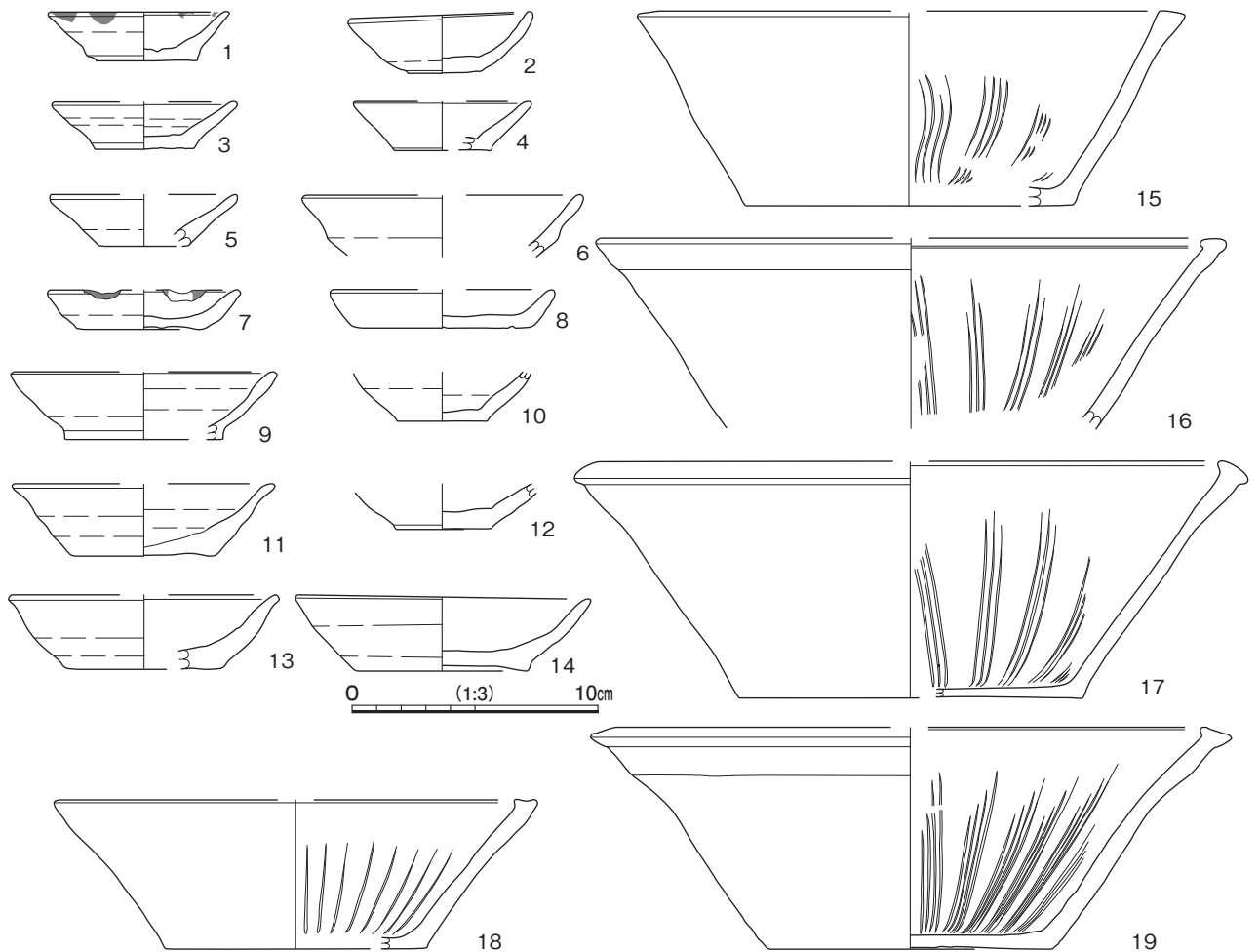


SD113・139・150、SE96土層解説 (C-C')

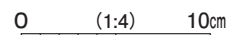
- | | | | |
|--------|-------------------------------|---------|--------------------------|
| 1 暗褐 | ローム粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量 | 11 褐灰 | 粘土ブロック少量 (ビット覆土) |
| 2 暗褐 | 粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 12 褐灰 | 粘土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 にい貴腐 | ローム粒子・粘土粒子少量 | 13 褐灰 | 粘土ブロック少量 |
| 4 黒褐 | 粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 14 灰黄褐 | 粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 5 にい貴腐 | 粘土ブロック中量 | 15 灰黄褐 | ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 6 灰黄褐 | 粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 16 黒褐 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 7 にい貴腐 | 粘土粒子少量 (SE96覆土) | 17 にい貴腐 | 粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 8 褐灰 | 粘土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量 (ビット覆土) | 18 褐灰 | ロームブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 9 褐灰 | ローム粒子・炭化粒子微量 (ビット覆土) | 19 褐 | ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 10 褐灰 | 粘土粒子少量 (ビット覆土) | | |

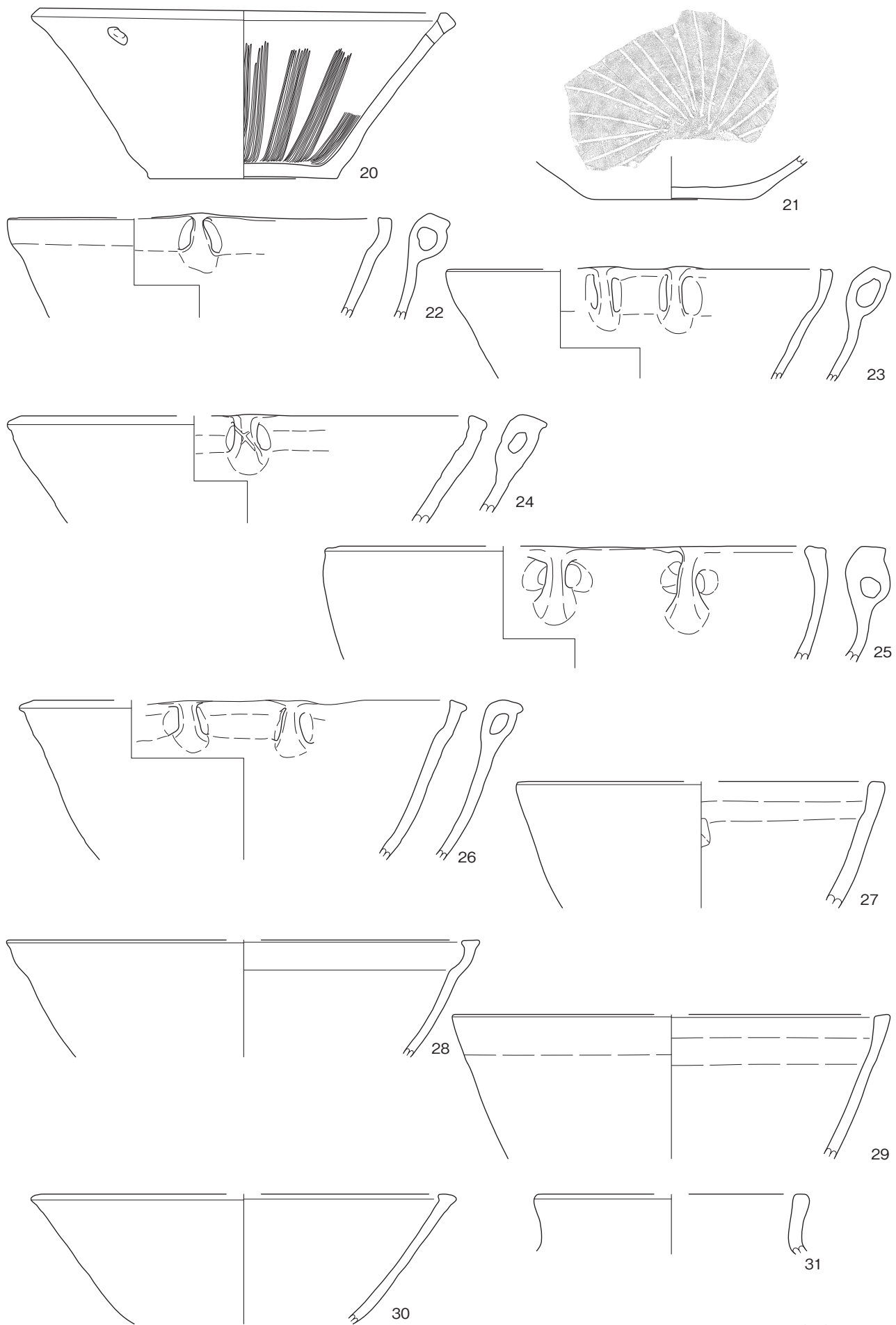


第91図 第113・139・150号溝跡実測図

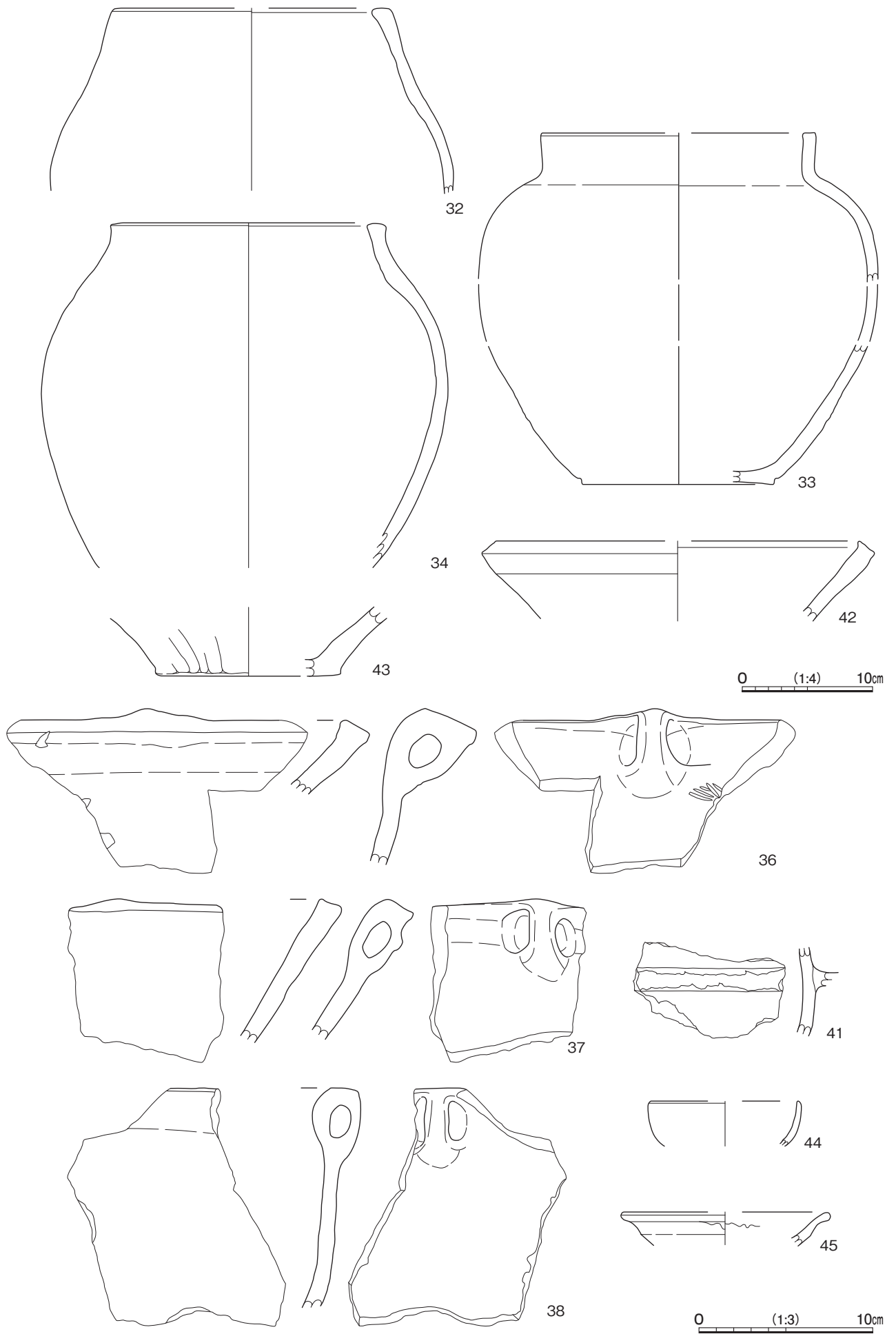


第92図 第113号溝跡出土遺物実測図(1)





第93图 第113号沟迹出土遺物実測図(2)



第94图 第113号沟迹出土遗物实测图(3)



第95図 第113号溝跡出土遺物実測図(4)

第49表 第113号溝跡出土遺物一覧(第92～95図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	7.3	2.0	4.0	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	直線的な立ち上がり 底部回転糸切り	覆土下層	100% PL30 口縁部油煙付着
2	土師質土器	皿	7.3	2.5	3.0	長石・石英・雲母	橙	普通	底部回転糸切り後ナデ	覆土中層	100% PL30
3	土師質土器	皿	[7.4]	1.9	[4.0]	長石・石英・雲母	橙	普通	直線的な立ち上がり 底部回転糸切り	覆土中層	30%
4	土師質土器	皿	[7.0]	2.0	3.9	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部直線的な立ち上がり 底部回転糸切り	底面	30%
5	土師質土器	皿	[7.6]	2.1	[3.6]	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部直線的な立ち上がり 底部回転糸切り	覆土中層	25%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
6	土師質土器	皿	[11.2]	(2.5)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部下にやや強いナデ	覆土中層	5%
7	土師質土器	皿	7.6	1.6	4.6	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部短く立ち上がる 底部回転糸切り	覆土中層	50% PL30 口縁部油漣付着
8	土師質土器	皿	[9.0]	1.6	[7.2]	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部短く立ち上がる	底面付近	20%
9	土師質土器	皿	[10.6]	2.7	[6.4]	長石・石英・雲母	赤橙	普通	体部下端に強いナデ 底部回転糸切り	覆土中層	20%
10	土師質土器	皿	-	(2.1)	[3.6]	長石・石英・雲母	橙	普通	体部下端弱いナデ 底部回転糸切り	覆土中層	20%
11	土師質土器	皿	[10.6]	2.9	[6.0]	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部下やや強いナデ 底部回転糸切り	覆土中層	30%
12	土師質土器	皿	-	(1.9)	3.7	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部下端やや強いナデ 底部回転糸切り 摩滅著しい	覆土中層	60%
13	土師質土器	皿	[10.7]	3.0	[6.4]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部下やや強いナデ 底部回転糸切り	覆土中層	40%
14	土師質土器	皿	11.8	3.1	7.0	長石・石英・雲母	橙	普通	体部下端にやや強いナデ 底部回転糸切り	覆土上層	70% PL30
15	土師質土器	播鉢	[29.7]	10.5	[17.7]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	4条1単位の播目	覆土中層	20%
16	土師質土器	播鉢	[34.2]	(10.4)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	3条1単位の播目	覆土中層+下層	10% PL31
17	土師質土器	播鉢	[33.8]	12.8	[18.6]	長石・石英・雲母	橙	普通	3条1単位の播目	覆土中層	25% PL30
18	土師質土器	播鉢	[26.2]	8.1	[14.2]	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	単沈線による播目	覆土上層+中層	30% PL30
19	土師質土器	播鉢	[31.7]	12.0	15.4	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	4条1単位の播目	覆土上層+下層	25% PL30
20	土師質土器	播鉢	31.0	13.0	14.2	長石・石英・雲母	黒褐	普通	8条1単位の播目 口縁部に貫通孔1か所	覆土中層	80% PL30
21	土師質土器	播鉢	-	(3.3)	[12.0]	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	単沈線による播目	覆土上層+下層	10%
22	土師質土器	内耳鍋	[29.0]	(8.0)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	口縁部内面強いナデにより内彎 耳部懸垂の摩滅により上部抉れ	覆土上層+下層	10%
23	土師質土器	内耳鍋	[29.0]	(8.7)	-	長石・石英・雲母	明褐	普通	3耳 口縁部内面やや強いナデ 耳断面紐状	覆土中層	15% PL31
24	土師質土器	内耳鍋	[34.0]	(8.3)	-	長石・石英・雲母	褐	普通	口縁部内面弱いナデ 耳部断面紐状 線刻「×」	覆土下層	5% PL31
25	土師質土器	内耳鍋	[36.5]	(8.7)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	3耳 口縁部内弯して立ち上がる 耳断面棒状	覆土下層	10% PL31
26	土師質土器	内耳鍋	[32.5]	(12.2)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	3耳 口縁部内面強いナデ	覆土中層	10% PL31
27	土師質土器	内耳鍋	[28.0]	(9.7)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内面やや強いナデ	覆土上層	10%
28	土師質土器	内耳鍋	[36.0]	(8.9)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部内面強いナデ	底面付近	5%
29	土師質土器	内耳鍋	[33.3]	(11.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部直線的な立ち上がり	覆土中層	5%
30	土師質土器	内耳鍋	[30.8]	(9.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部直線的な立ち上がり	覆土下層	15%
31	土師質土器	壺	[20.4]	(4.6)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部短く直線的な立ち上がり	覆土上層	5%
32	土師質土器	甕	[20.5]	(14.2)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部内傾した立ち上がり	覆土上層	10% PL30
33	土師質土器	壺	[21.0]	[26.8]	[14.8]	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部短く直線的な立ち上がり	覆土中層	20% PL30
34	土師質土器	甕	21.2	(26.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部短く直線的な立ち上がり	覆土中層+下層	80% PL30 SE96出土遺物接合
36	土師質土器	内耳鍋	-	(9.5)	-	長石・石英	褐灰	普通	口縁部外反 口縁部内面弱いナデ 櫛歯状工具による施文あり	覆土上層+中層	5% PL31
37	土師質土器	内耳鍋	-	(9.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部直線的な立ち上がり 口縁部内面弱いナデ	覆土上層	5%
38	土師質土器	内耳鍋	-	(13.7)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	口縁部垂直に近い角度で立ち上がる 耳断面棒状	覆土上層	5%
39	土師質土器	内耳鍋	-	(8.5)	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口唇部幅広く外削ぎ状 外反	覆土下層	5%
40	土師質土器	内耳鍋	-	(11.5)	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口縁部内面弱いナデ	覆土上層	5%
41	土師質土器	羽釜	-	(5.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	タガ部分剥離	覆土下層	5% PL32

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
42	陶器	片口鉢	[27.8]	(6.2)	-	長石・石英	明赤褐	外面粗いナデ 内面一部研磨	無釉	常滑	覆土中層	5%
43	陶器	甕	-	(5.3)	[14.2]	長石・石英・雲母	赤褐	外面体部下端削りに近いナデ 内面ヘラナデ 底部砂離れ	無釉	常滑	覆土中層	5%
44	陶器	碗	[8.4]	(2.6)	-	雲母	にぶい黄橙	口縁部内彎	灰釉	瀬戸・美濃	覆土上層	10% 近世
45	陶器	縁軸皿	[11.6]	(2.0)	-	長石	灰白	漬け掛け 内面に重ね焼きの痕跡あり 吉瀬戸後期	灰釉	瀬戸	覆土中層	5%
46	陶器	甕	-	(8.3)	-	長石・石英・細礫	にぶい赤褐	10型式	無釉	常滑	底面付近	5% PL32
47	陶器	甕	-	(12.4)	-	長石・石英	黄灰	10型式	無釉	常滑	底面付近	5% PL32
48	陶器	甕	-	(8.8)	-	長石	にぶい赤褐	内外面ナデ	無釉	常滑	覆土上層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
35	砥石	(8.5)	4.5	4.1	(160.36)	凝灰岩	砥面4面	覆土中層	PL32
49	石臼	(12.2)	(12.2)	7.1	(1408.9)	安山岩	下臼 裏面は敲打による整形	覆土下層	
50	茶臼	(14.8)	(8.2)	4.1	(488.41)	安山岩	下臼 受皿部緩やかな立ち上がり	覆土中層	PL32

第 118 号溝 (第 96 図 PL32)

位置 第 2 号区画 (北) 北部を区画している溝で、K 3h8 ~ L 3a7 区、標高 21.0 m ほどの台地斜面部に位置している。

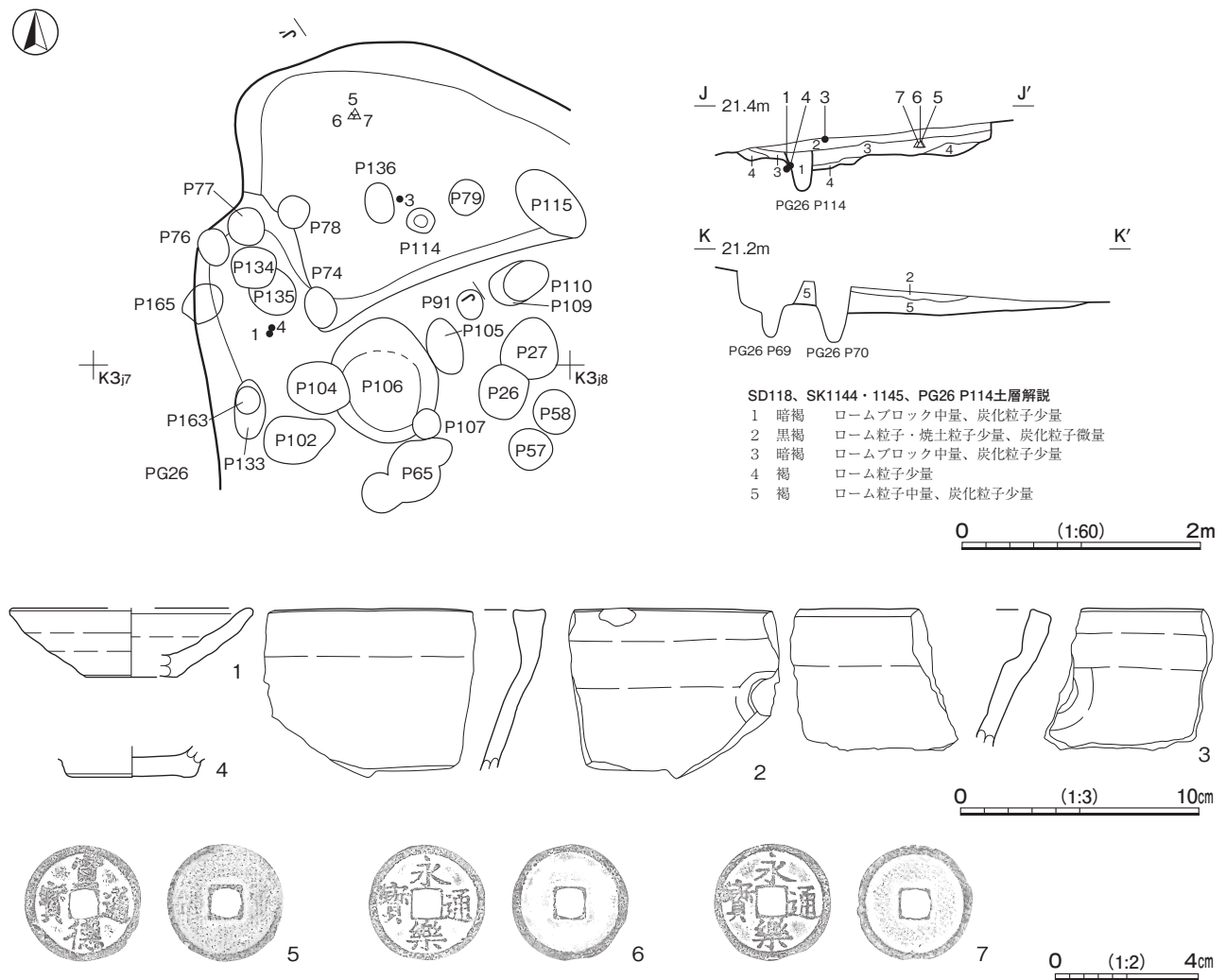
重複関係 第 113 号溝との間に位置している整地層を掘り込み、第 117 号溝に掘り込まれている。南壁側が第 28・29 号掘立柱建物跡の柱穴と重複している。

規模と形状 K 3h8 区から南 (N - 90° - E) に 2.5 m ほど延び、K 3i8 区で西に 90° 屈曲して 4.5 m ほどで、さらに南に 90° 屈曲して 9 m ほど延びている。上幅 74 ~ 238cm、下幅 42 ~ 190cm、深さ 20 ~ 25cm で、K 3i7・i8 区では幅が広がり、南壁はわずかに確認できる高さとなっている。K 3i7 区より南では、東壁が確認できなかった。断面形状は皿状で、底面は平坦である。

覆土 3 層に分層できる。ローム粒子を少量含む褐色土主体の層がレンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

遺物出土状況 土師質土器 58 点 (皿 4、播鉢 8、内耳鍋 46)、陶器 2 点 (平碗、甕)、銭貨 3 点 (宣徳通寶 1・永樂通寶 2) が出土している。ほかに混入した須恵器 1 点 (坏)、土製品 1 点 (羽口)、鉄滓 12 点 (1243.33 g) が出土している。4 は古瀬戸後期の平碗である。

所見 時期は、出土遺物から、15 世紀後半から 16 世紀前半と考えられる。本跡は、幅広で傾斜地側の壁がほとんど確認できないこと、第 28・29 号掘立柱建物跡の柱穴が本跡に沿うように位置すること、その他の方形竪穴遺構や土坑などが本跡の範囲内に存在し、軸方向を揃えていることから、段切状遺構と同様に、台地斜面部を掘削して平坦面を造成し、第 28・29 号掘立柱建物跡などを区画していると考えられる。



第 96 図 第 118 号溝跡遺物出土状況・出土遺物実測図

第 50 表 第 118 号溝跡出土遺物一覧 (第 96 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	[10.0]	2.9	[3.8]	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	口縁部下・体部下端がやや強いナデ 底部回転糸切り	底面付近	30%
2	土師質土器	内耳鍋	-	(7.1)	-	長石・石英・雲母	赤褐	普通	口縁部内面強いナデ	覆土	5%
3	土師質土器	内耳鍋	-	(6.0)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内面弱いナデ	覆土上層	5%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
4	陶器	平碗	-	(1.3)	[5.0]	長石	灰白	低い削り出し高台 古瀬戸後期	灰釉	瀬戸	底面付近	10%

番号	銭種	径	孔幅	厚さ	重量	材質	初鋳年	特徴	出土位置	備考
5	宣徳通寶	3.0	0.6	0.10	2.56	銅	1433年	明銭	覆土中層	PL32
6	永樂通寶	3.0	0.6	0.11	2.83	銅	1408年	明銭	覆土中層	PL32
7	永樂通寶	3.0	0.6	0.12	3.28	銅	1408年	明銭	覆土中層	PL32

第 139 号溝 (第 90・97・98 図 PL35)

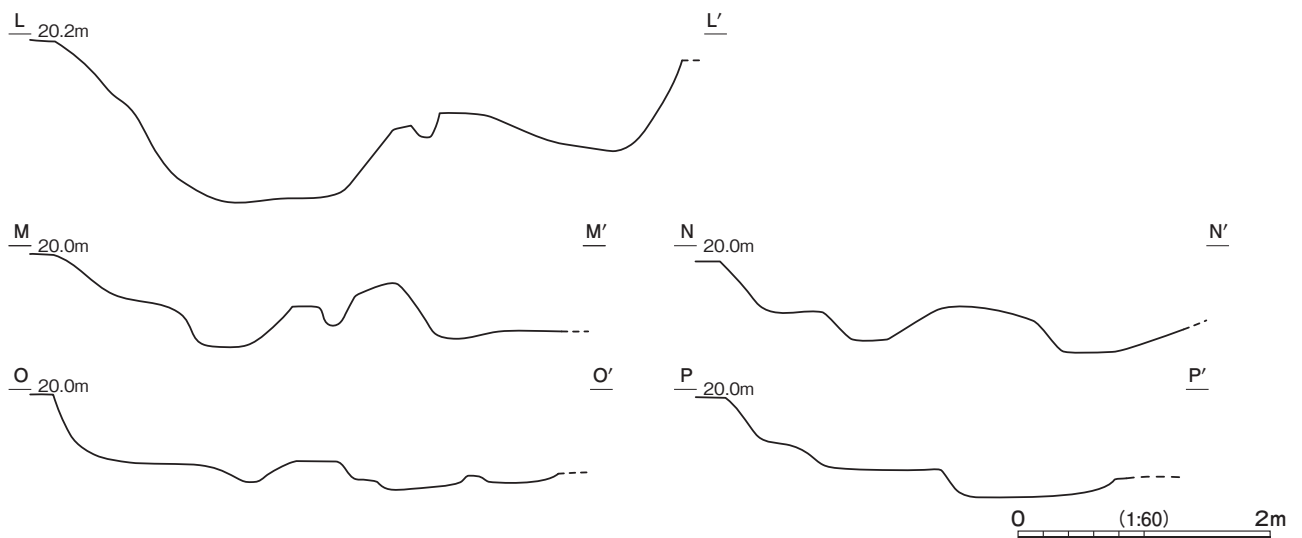
位置 第 2 号区画 (北) 西部を区画している溝で、L 3b6 ~ L 3j7 区、標高 20.0 m ほどの低地部に位置している。

重複関係 第 113・126・140・150・165 号溝に掘り込まれている。重複している第 109 号井戸跡、第 1286 号土坑との関係は不明である。L 3j7 区の攪乱部分より南について、第 123 号溝跡として調査したが、位置的には一連の遺構と考えられる。

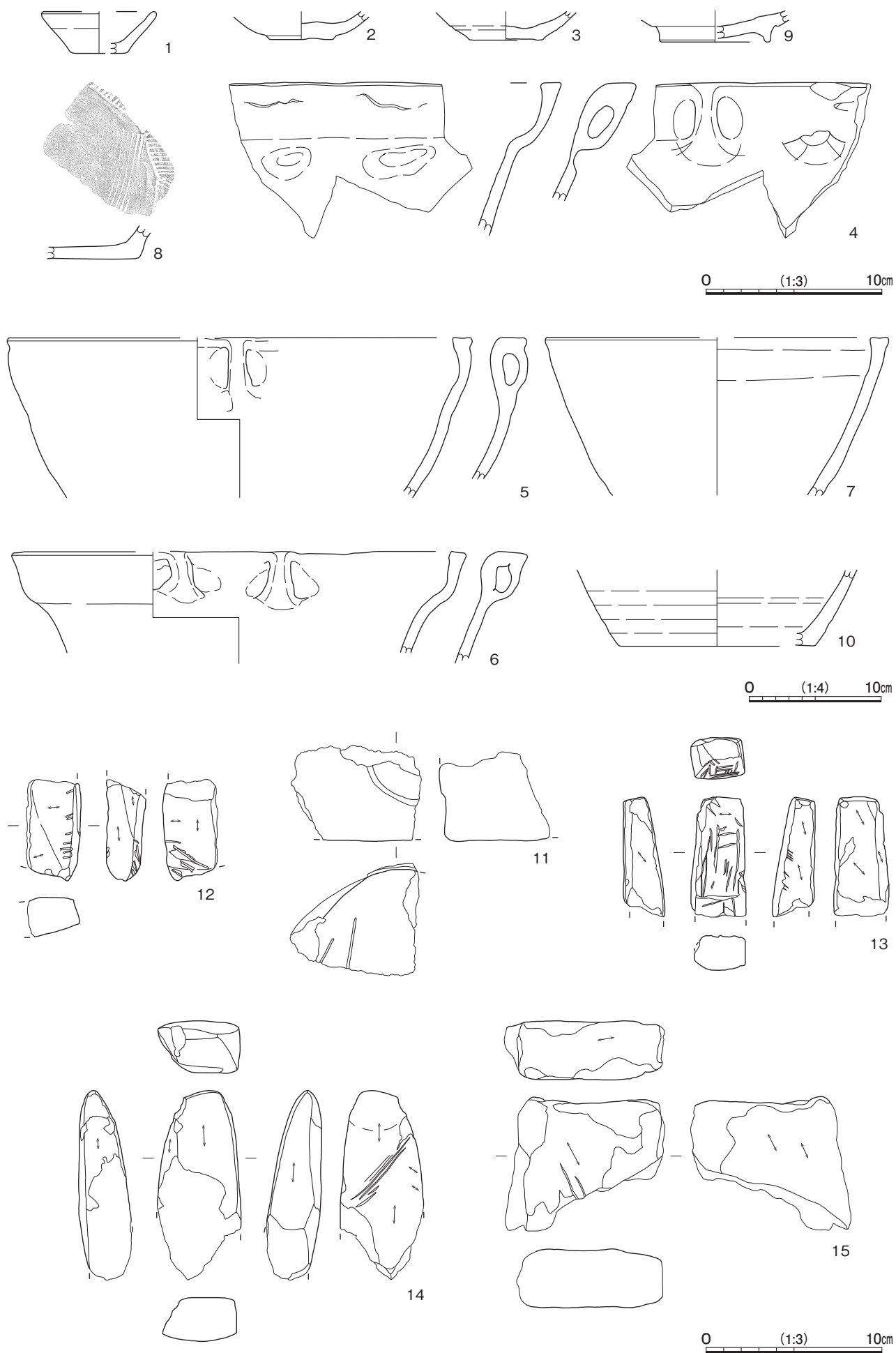
規模と形状 L 3b6 区から南 (N - 174° - E) に 30 m ほど延び、L 3j7 区の攪乱部分に至る。L 3b6 区付近から北では第 113 号溝に掘り込まれ、一体となるような形状である。上幅 84 ~ 190 cm、下幅 20 ~ 45 cm、深さ 60 ~ 72 cm で、本跡南端付近では幅狭く、それより南では西壁が段を有し、上幅が広がる。形状から、東側に掘り返されているものと考えられる。

遺物出土状況 土師質土器 85 点 (皿 11、播鉢 3、内耳鍋 71)、瓦質土器 5 点 (播鉢)、陶器 3 点 (碗、皿、甕)、石器 7 点 (石臼 1、砥石 6) が出土している。ほかに混入した土師器 7 点 (高台付坏 1、甕 6)、須恵器 3 点 (甕) が出土している。また、9 は瀬戸・美濃系の皿で 17 世紀代のものである。本来は第 140・150・165 号溝に伴うものと推測できる。

所見 時期は、出土遺物から、15 世紀後半から 16 世紀前半と考えられる。第 113 号溝、第 123 号溝跡と一連の遺構と考えられ、長期にわたる使用が想定される。



第 97 図 第 139・140・165 号溝跡実測図



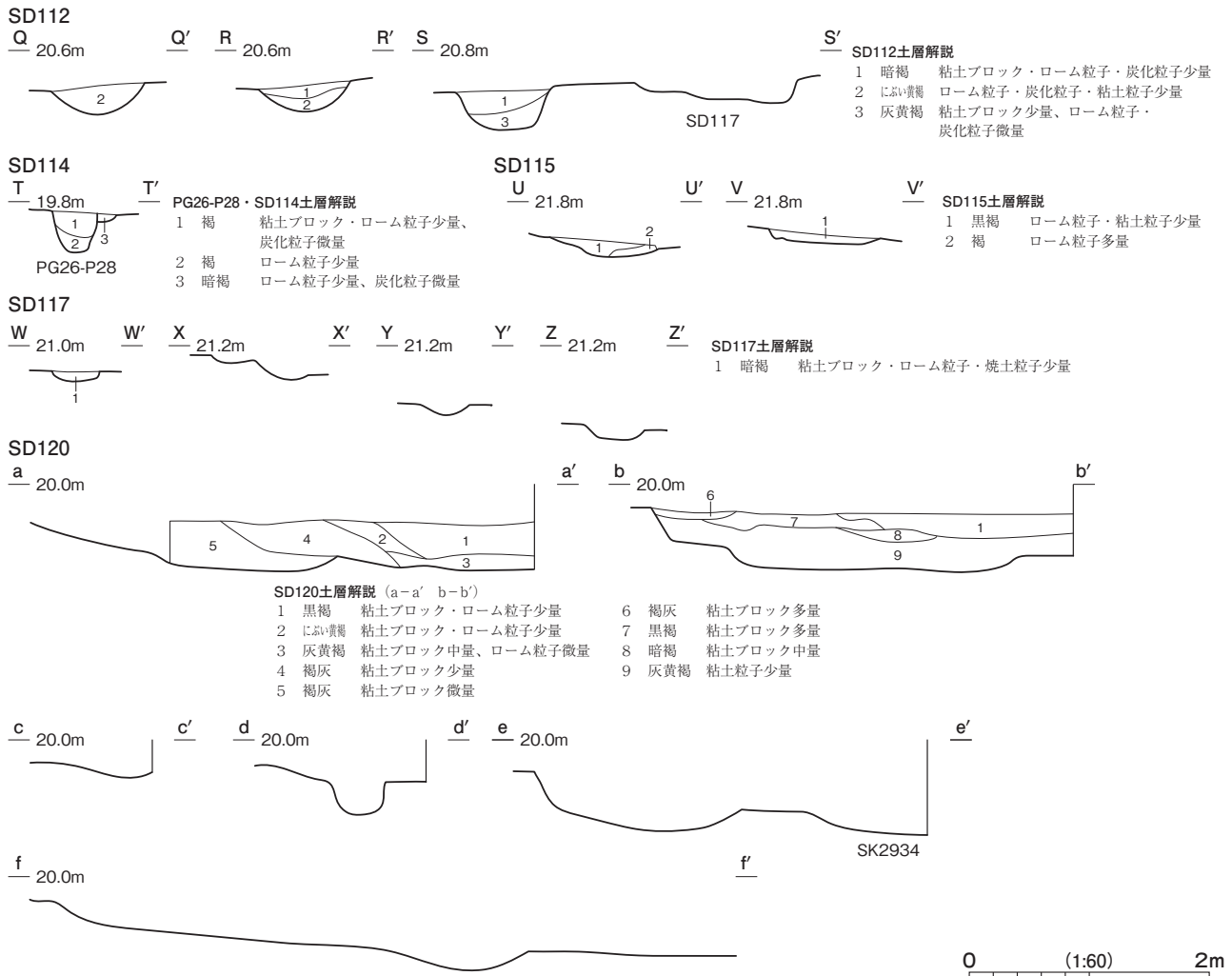
第98图 第139号沟迹出土遺物実測図

第51表 第139号溝跡出土遺物一覧 (第98図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	[6.3]	2.4	[3.2]	長石・石英・雲母	橙	普通	底部回転糸切り	覆土上層	20%
2	土師質土器	皿	-	(1.6)	[3.6]	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り	覆土上層	30%
3	土師質土器	皿	-	(1.6)	4.1	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り 板目圧痕	覆土上層	30%
4	土師質土器	内耳鍋	-	(8.8)	-	長石・石英・雲母	褐	普通	3耳 口縁部内面強いナデ	覆土	5%
5	土師質土器	内耳鍋	[34.9]	(12.1)	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口縁部内面弱いナデ	覆土中層	5%
6	土師質土器	内耳鍋	[32.4]	(8.5)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	3耳 口縁部内面強いナデ	覆土中層	5% PL35
7	土師質土器	内耳鍋	[26.0]	(12.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部内面やや強いナデ	覆土上層	10%
8	瓦質土器	播鉢	-	(1.9)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	10条1単位の播り目	覆土上層	5%

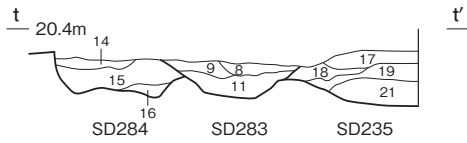
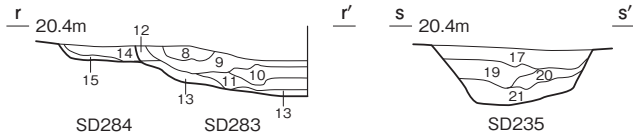
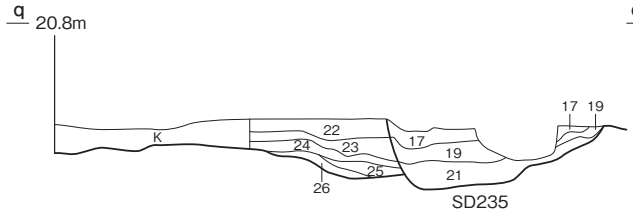
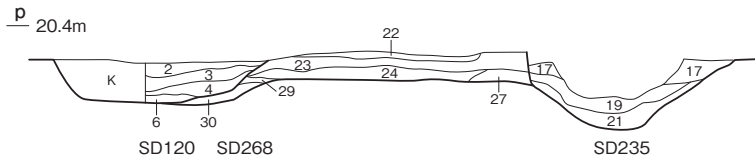
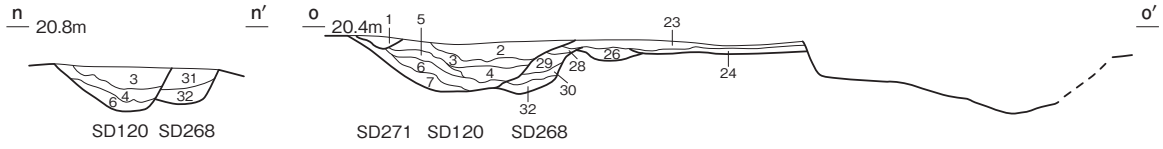
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
9	陶器	皿	-	(1.8)	[6.2]	長石・石英	灰黄	露胎 登窯期	灰釉	瀬戸・美濃	覆土中層	20%
10	陶器	甕	-	(5.8)	[14.8]	長石・石英・雲母	灰褐	流し掛けカ	柿釉	常滑	覆土上層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
11	石臼	(6.3)	(7.4)	(5.5)	(220.46)	安山岩	側面に削り出し部分あり	覆土上層	
12	砥石	(5.8)	3.2	2.2	(52.35)	凝灰岩	砥面4面 金属痕あり	覆土上層	PL35
13	砥石	(6.8)	3.2	2.0	(64.24)	凝灰岩	砥面4面 金属痕あり	覆土中層	PL35
14	砥石	(10.7)	4.8	3.0	(160.41)	凝灰岩	砥面4面 金属痕あり	覆土上層	PL35
15	砥石	7.6	9.1	3.3	320.15	雲母片岩	砥面3面	覆土上層	PL35



第99図 第112・114・115・117・120号溝跡実測図

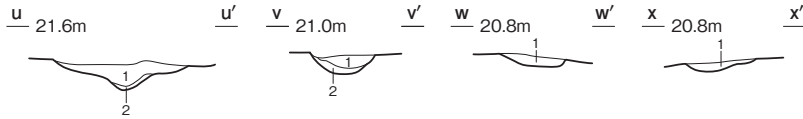
SD120・235・268・271・283・284



SD120・235・268・271・283・284土層解説

- | | | |
|----|--------|----------------------------|
| 1 | 黒褐 | ローム粒子・粘土粒子微量 |
| 2 | 褐 | ローム粒子中量、焼土粒子少量、粘土粒子微量 |
| 3 | 褐 | ローム粒子・焼土粒子中量 |
| 4 | 暗褐 | ロームブロック・焼土粒子少量、粘土粒子微量 |
| 5 | にぶい黄褐色 | ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 6 | にぶい黄褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 7 | にぶい黄褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 8 | にぶい黄褐色 | ローム粒子微量 |
| 9 | 黒褐 | ローム粒子微量 |
| 10 | にぶい黄褐色 | ローム粒子微量 |
| 11 | 黒褐 | ローム粒子少量 |
| 12 | にぶい黄褐色 | ローム粒子少量 |
| 13 | にぶい黄褐色 | ローム粒子微量 |
| 14 | 黒褐 | ロームブロック微量 |
| 15 | にぶい黄褐色 | ローム粒子微量 |
| 16 | 黒褐 | ローム粒子微量 |
| 17 | 暗褐 | ローム粒子少量 |
| 18 | にぶい黄褐色 | 粘土ブロック中量、ロームブロック少量 |
| 19 | 暗褐 | ロームブロック少量 |
| 20 | 暗褐 | 粘質土 ローム粒子少量 |
| 21 | 暗褐 | 粘土粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 22 | 暗褐 | ローム粒子少量、焼土粒子・白色粒子微量 |
| 23 | 暗褐 | ローム粒子少量、焼土ブロック・白色粒子微量 |
| 24 | 暗褐 | 焼土粒子・粘土粒子少量、ロームブロック・白色粒子微量 |
| 25 | にぶい黄褐色 | 粘質土 ローム粒子微量 |
| 26 | 黄褐 | 粘質土 ローム粒子極微量 |
| 27 | にぶい黄褐色 | 粘質土 |
| 28 | 暗褐 | ロームブロック・粘土ブロック微量 |
| 29 | にぶい黄褐色 | 粘質土 ローム粒子少量 |
| 30 | 褐 | ロームブロック多量 |
| 31 | 黄褐 | 粘質土 ローム粒子極微量 |
| 32 | 黒褐 | ローム粒子微量 |

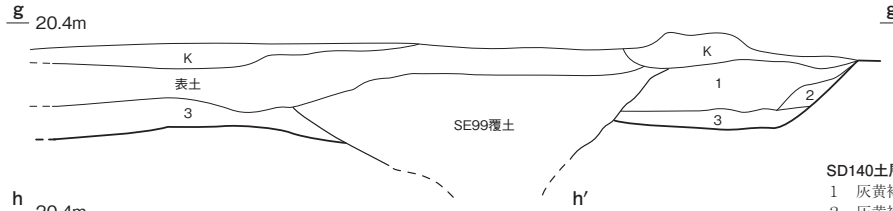
SD271



SD271土層解説

- | | | |
|---|----|------------------|
| 1 | 黒褐 | ローム粒子・粘土粒子微量 |
| 2 | 黒褐 | ロームブロック・粘土ブロック少量 |

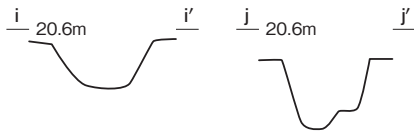
SD140



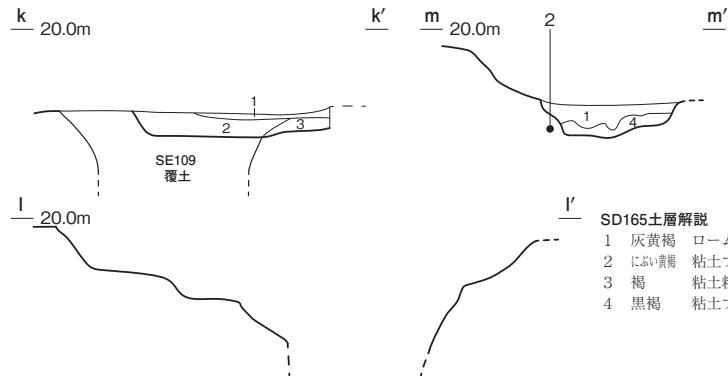
SD140土層解説

- | | | |
|---|--------|---------------------|
| 1 | 灰黄褐 | ローム粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 | 灰黄褐 | 粘土ブロック少量、ローム粒子微量 |
| 3 | 褐灰 | 粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 | にぶい黄褐色 | 白色粘土粒子多量 |

SD150

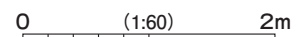


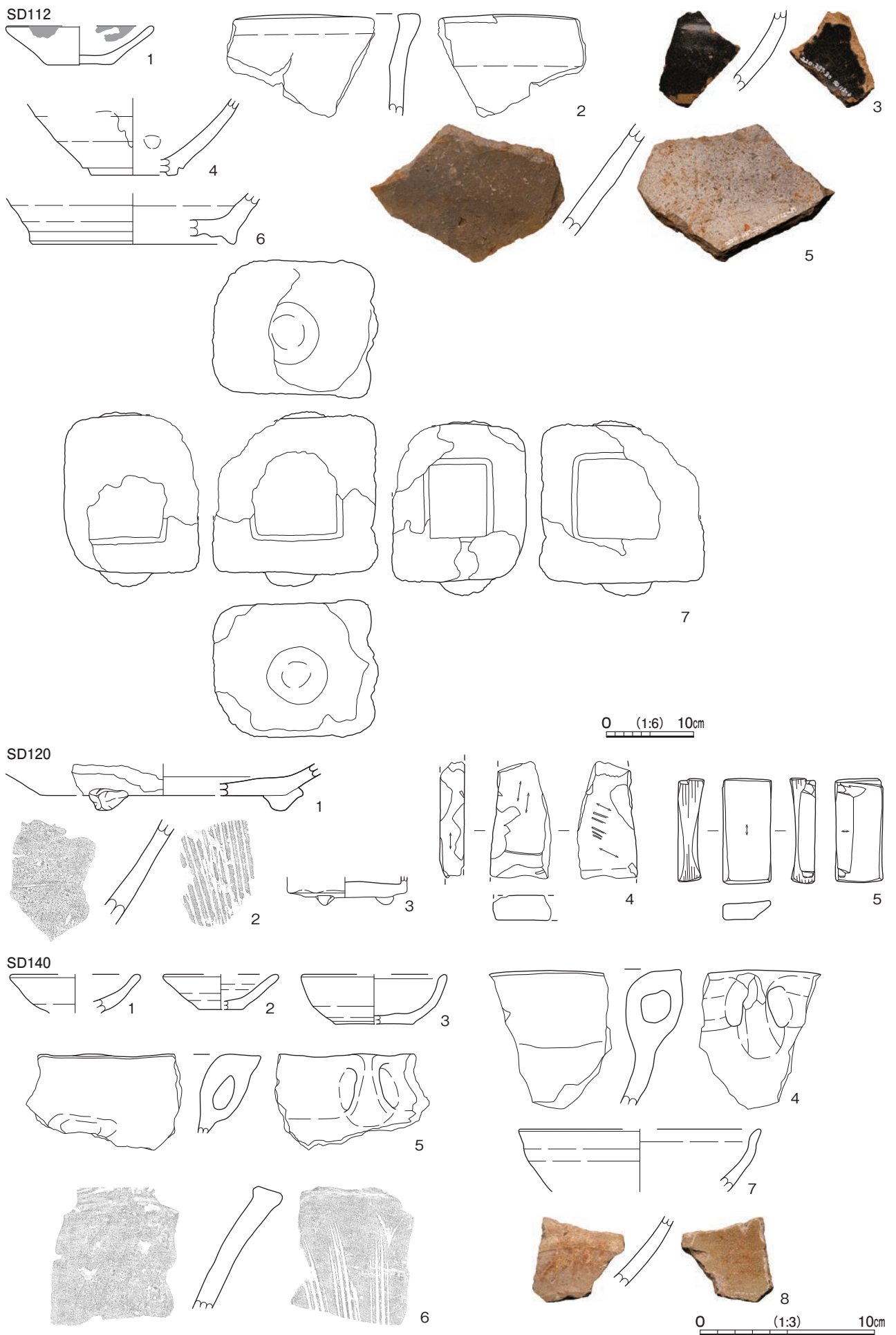
SD165



SD165土層解説

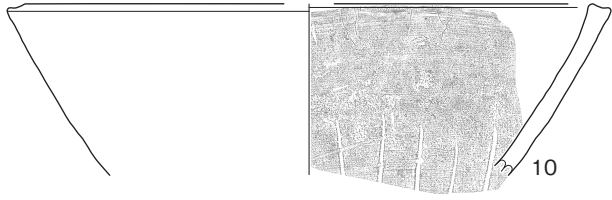
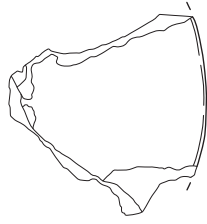
- | | | |
|---|--------|----------|
| 1 | 灰黄褐 | ローム粒子微量 |
| 2 | にぶい黄褐色 | 粘土ブロック少量 |
| 3 | 褐 | 粘土粒子微量 |
| 4 | 黒褐 | 粘土ブロック中量 |



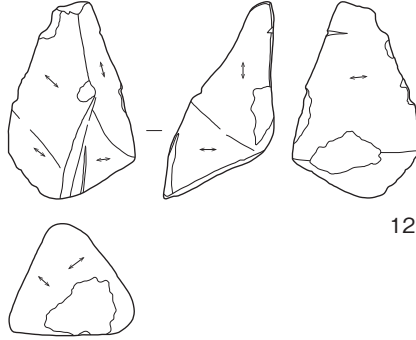


第 101 图 第 112 · 120 · 140 号沟迹出土遗物实测图

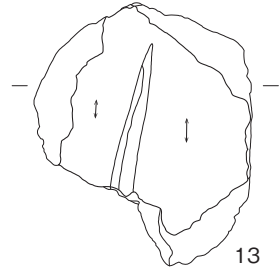
SD140



0 (1:4) 10cm

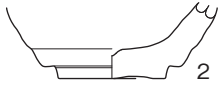
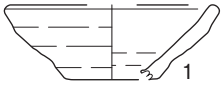


12

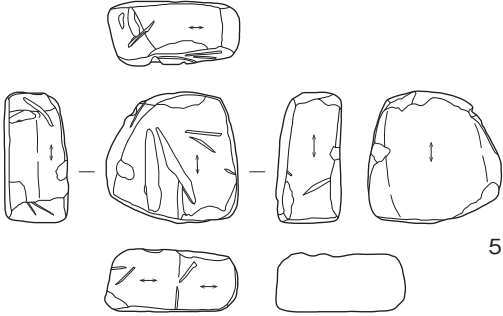
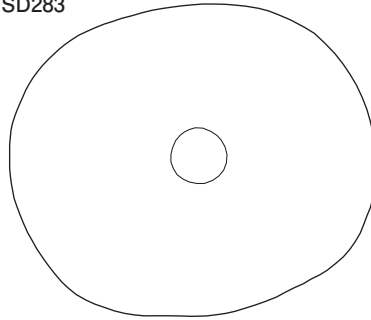


13

SD165

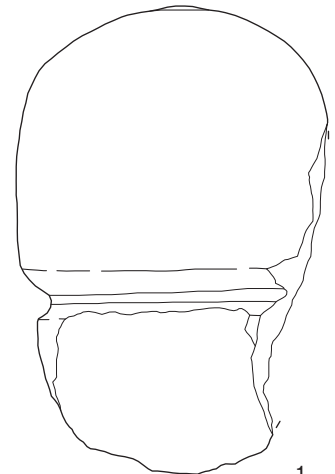
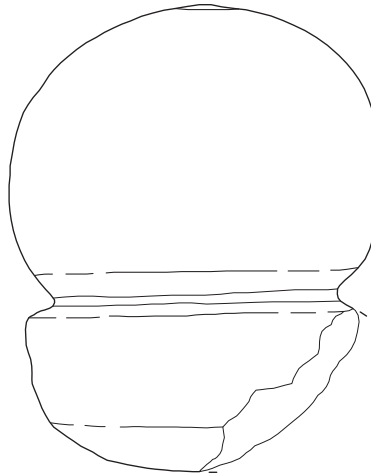
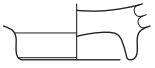


SD283



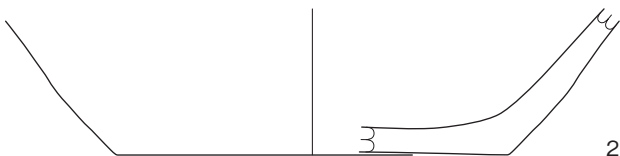
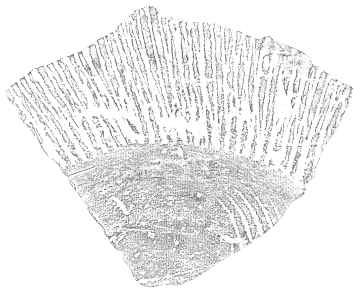
5

SD235



1

0 (1:4) 10cm



2

0 (1:3) 10cm

第102図 第140・165・235・283号溝跡出土遺物実測図

第52表 第2号区画(北)とその周辺の溝跡出土遺物一覧(第101・102図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
112-1	土師質土器	皿	[8.4]	2.2	3.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	直線的な立ち上がり 底部回転糸切り	覆土上層	60% 口縁部油煙付着
112-2	土師質土器	内耳鍋	-	(5.9)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部内面やや強いナデ	覆土上層	5%
140-1	土師質土器	皿	[7.4]	(2.2)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端に稜	覆土	20%
140-2	土師質土器	皿	[6.5]	2.0	[2.6]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	直線的な立ち上がり 底部回転糸切り	覆土上層	30%
140-3	土師質土器	皿	[8.4]	2.9	[4.6]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部下端にやや強いナデ 底部回転糸切り	覆土上層	25%
140-4	土師質土器	内耳鍋	-	(8.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部内面やや強いナデ	覆土	5%
140-5	土師質土器	内耳鍋	-	(5.5)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内面弱いナデ	覆土	5%
140-6	土師質土器	播鉢	-	(7.0)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	4条1単位の播り目	覆土	5%
140-9	土師質土器	蓋カ	[26.9]	(3.0)	[22.0]	長石・石英・雲母	明褐	普通	上面摩耗	覆土	20% PL35
140-10	土師質土器	播鉢	[30.0]	(9.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	単沈線による播り目	覆土	10%
165-1	土師質土器	皿	[8.3]	3.0	[3.3]	長石・石英	橙	普通	体部下端に強いナデ	覆土	30%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
112-3	陶器	天目茶碗	-	(4.6)	-	長石	黒褐	大窯期	鉄釉	瀬戸	覆土上層	10%
112-4	陶器	平碗	-	(4.3)	[4.9]	長石・雲母	灰	削り出し高台 古瀬戸後期	灰釉	瀬戸	覆土上層	10%
112-5	陶器	鉢	-	(6.4)	-	長石・石英	褐灰	内面研磨	無釉	常滑	覆土下層	5%
112-6	陶器	壺カ	-	(3.0)	[11.6]	長石・石英	黄灰	削り出し高台	無釉	瀬戸・美濃	覆土上層	5%
120-1	陶器	折縁深皿	-	(2.8)	[14.0]	長石・石英	にぶい黄橙	底部回転ヘラ削り 三足 露胎	無釉	瀬戸	覆土	5% PL32
120-2	陶器	播鉢	-	(5.9)	-	長石	灰赤赤灰	櫛による播目	無釉	堺・明石	覆土	5%
120-3	陶器	香炉	-	(1.1)	[6.7]	長石	にぶい黄橙	底部回転ヘラ削り 三足 露胎	灰釉	瀬戸・美濃	覆土	5%
140-7	陶器	天目茶碗	[13.9]	(3.6)	-	長石・石英	黒褐	口縁部外反	鉄釉	瀬戸・美濃	覆土	10%
140-8	陶器	平碗	-	(4.0)	-	長石・石英	にぶい黄橙	大窯期	灰釉	瀬戸	覆土	5%
165-2	陶器	天目茶碗	-	(3.0)	[4.3]	長石	黒	低い削り出し高台 露胎 登窯期	鉄釉	瀬戸	覆土下層	20% PL35
165-3	磁器	碗	-	(3.8)	-	長石	灰白	染付	透明釉	肥前系	覆土	10% 18 C以降か
165-4	磁器	碗	-	(2.2)	2.8	長石	明青灰	染付	透明釉	肥前系	覆土	50% 18 C以降か
235-1	陶器	碗	-	(2.2)	4.7	緻密	にぶい黄	呉器手碗 高台畳目4か所目跡	灰釉	肥前系	覆土中層	15%
235-2	陶器	播鉢	-	(5.9)	[15.6]	長石・石英	にぶい赤褐	9条1単位の播り目	鉄釉	明石系	覆土中層	10% PL35
235-3	陶器	香炉	-	(2.4)	[8.6]	緻密	にぶい黄橙	三足 底面露胎	灰釉	瀬戸・美濃	覆土上層	15% PL35

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
112-7	宝篋印塔	(20.2)	(19.1)	15.4	(8196.7)	花崗岩	塔身部	底面	PL30
120-4	砥石	(6.7)	(3.5)	1.5	(47.67)	凝灰岩	砥面3面	覆土	PL32
120-5	砥石	6.1	2.9	1.5	39.76	凝灰岩	砥面2面	覆土	PL32
140-11	砥石	(9.2)	3.9	1.8	(87.34)	凝灰岩	砥面4面 金属痕あり	覆土	PL35
140-12	砥石	7.8	5.0	4.4	101.19	凝灰岩	砥面5面 金属痕あり	覆土	PL35
140-13	砥石	10.4	8.7	4.8	499.02	雲母片岩	砥面1面 金属痕あり	覆土	PL35
165-5	砥石	5.3	5.2	2.2	104.82	砂岩	砥面6面 金属痕あり	覆土	被熱
283-1	五輪塔	24.8	19.5	17.6	(10.2kg)	花崗岩	空風輪	覆土下層	PL36

第53表 第2号区画(北)とその周辺の溝跡一覧

番号	位置	方向	平面形	規模				断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	上幅(cm)	下幅(cm)	深さ(cm)					
112	L 3 b8~L 4 a1	N-73°-90°-E	直線状	14.80	100	40	12~32	皿状	外傾	自然	皿 内耳鍋 天目茶碗 平碗 播鉢 壺カ 宝篋印塔	本跡→SE85 PL30
113	K 3 i6~L 3 d6	N-174°-E	直線状	19.70	100~204	26~56	70~90	逆台形	外傾	人為	皿 播鉢 壺 瓶類 内耳鍋 甕 羽釜 鉄滓 敲石 石臼 茶臼 砥石	SD139、SK1205 →本跡→SD126・150 SE100、SK1355・ 1358・1359と重複 ビット3基 整地層を一部掘り込む
114	L 3 a7~L 3 b7	N-0°	直線状	3.65	40	20	8	皿状	外傾	自然	-	本跡→PG26 P 28 SB30と重複
115	K 3 i5~K 3 i6 K 3 i5~K 3 i5	N-90°-E N-180°-E	L字状	6.90	40~100	30~80	15	皿状	外傾	自然	内耳鍋	本跡→SK1114
117	K 3 h8~L 3 a8	N-186°-E	直線状	12.60	40~50	12~28	8~15	皿状	外傾	自然	内耳鍋	SD118、SE84→本跡 PG26 P 89・90・139~141と重複
118	K 3 h8 K 3 i8 K 3 i8~K 3 i7 K 3 i7 L 3 a7	N-0° N-90°-W N-180°-E	屈曲	16.00	74~235	42~190	20~25	皿状	外傾	自然	平碗 皿 播鉢 内耳鍋 甕 羽口 銭貨(宣徳通寶 永樂通寶) 鉄滓	本跡→SD117 SB28~30、PG26と重複 段切りの一部の可能性 整地層を一部掘り込む

番号	位置	方向	平面形	規模				断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	上幅(cm)	下幅(cm)	深さ(cm)					
120	K 3 g8 ~ K 4 j4 K 4 j4 ~ L 4 c4	N - 115° - E N - 170° - W	L字状	33.80	51 ~ 200	15 ~ 48	43	逆台形	外傾	自然	折縁深皿 播鉢 香炉 砥石	SD268、SE108 →本跡→SD271 SK2934と重複 PL 8・32
139	L 3 b6 ~ L 3 i7	N - 174° - E	直線状	30.00	84 ~ 115	20 ~ 45	60 ~ 72	逆台形	外傾	-	高台付坏 碗 皿 播鉢 内耳鍋 甕 石臼 砥石	本跡→SD113・126・140・165 SD150、SE109、 SK1286と重複 SD123と接続する
140	L 3 c8 ~ L 3 i7	N - 30° - E N - 180° - E	曲線	23.40	(300)	(200)	55	逆台形	外傾	自然	平碗 天目茶碗 皿 播鉢 内耳鍋 砥石	SD139・150→本跡→SE99 SD165と重複 底面に溝1条あり、これも本跡 に付属するものとする PL35
150	L 3 c6 ~ L 3 d7	N - 90° - E N - 180° - E	屈曲	27.00	66 ~ 150	12 ~ 105	38	逆台形	外傾	-	-	SK1195から変更 SD113・139→本跡 →SD140、SE96
165	L 3 e7 ~ L 3 i7	N - 180° - E	直線状	16.50	(135 ~ 140)	(40 ~ 130)	20 ~ 30	逆台形	外傾	自然	碗 天目茶碗 皿 内耳鍋 瓦	SD158から変更 SD139、SE109 →本跡→SA 6 SD140と重複 PL35
235	K 4 g2 ~ K 4 i4	N - 51° - W	直線状	10.50	103 ~ 178	27 ~ 99	57	逆台形	外傾	自然	碗 皿 壺 内耳鍋 甕	本跡→SD283 SD284と重複 PL10・35
268	K 3 g8 ~ K 4 i3	N-50~74°-W	[直線状]	(19.64)	30 ~ 66	10 ~ 32	38	逆台形	外傾	人為	-	本跡→SD120
271	K 3 g2 ~ K 4 i1	N - 85° - W	直線状	35.10	50 ~ 125	8 ~ 91	6 ~ 17	逆台形	外傾	自然	-	SD120、SK2502・ 2503→本跡 PL11
283	K 4 g1 ~ K 4 h2	N - 68° - W	[直線状]	(3.52)	94 ~ 100	25 ~ 38	40	逆台形	外傾	自然	砥石 五輪塔	SD235・284→本跡 PL10・36
284	K 4 g1 ~ K 4 h2	N - 75° - W	[直線状]	(4.46)	196 ~ 245	180 ~ 228	33	逆台形	外傾	自然	-	本跡→SD283 SD235と重複 PL10

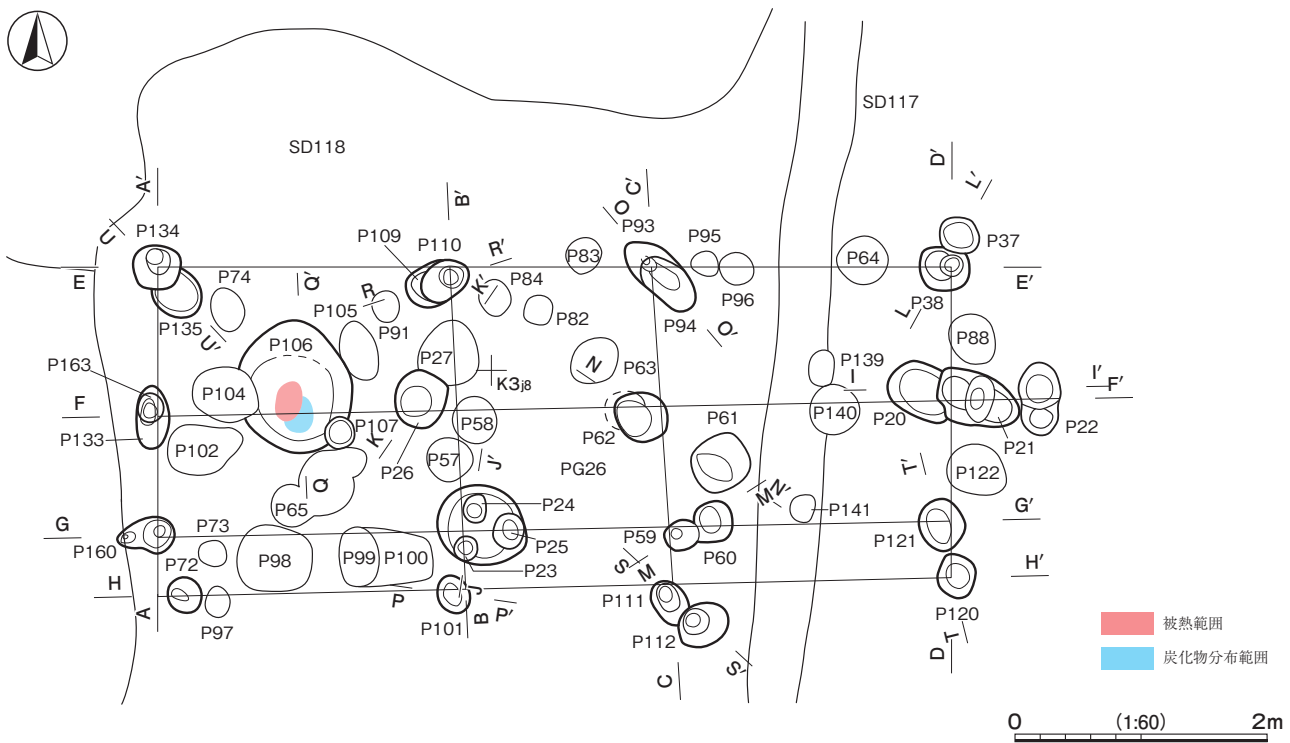
イ 掘立柱建物跡

第28号掘立柱建物跡 (第103~105図)

位置 第2号区画(北)北部のK 3 j8区、標高21.0mほどの台地斜面部に位置する。

重複関係 北側に約50cmずれた位置で、ほぼ同一主軸方向の第29号掘立柱建物跡と重複している。また、建物範囲内に第117・118号溝跡が位置している。第118号溝跡の幅は不均一で、南壁西側の立ち上がりがなくなり、段切状になっている。西側は、第28・29号掘立柱建物跡の西妻に沿うように屈曲している。

規模と形状 第26号ピット群として調査した。桁行3間、梁行2間の総柱建物跡で、南側に庇を有する。規模は桁行6.35m、梁行2.15mで、N-89°-Eの東西棟である。南桁から庇までの距離は0.5m前後で、庇を含めた梁行は2.7mである。柱間寸法は桁行が西から2.4m、1.6m、2.4mで、中間が狭い。梁行は北から1.2m、1.0mである。柱間・



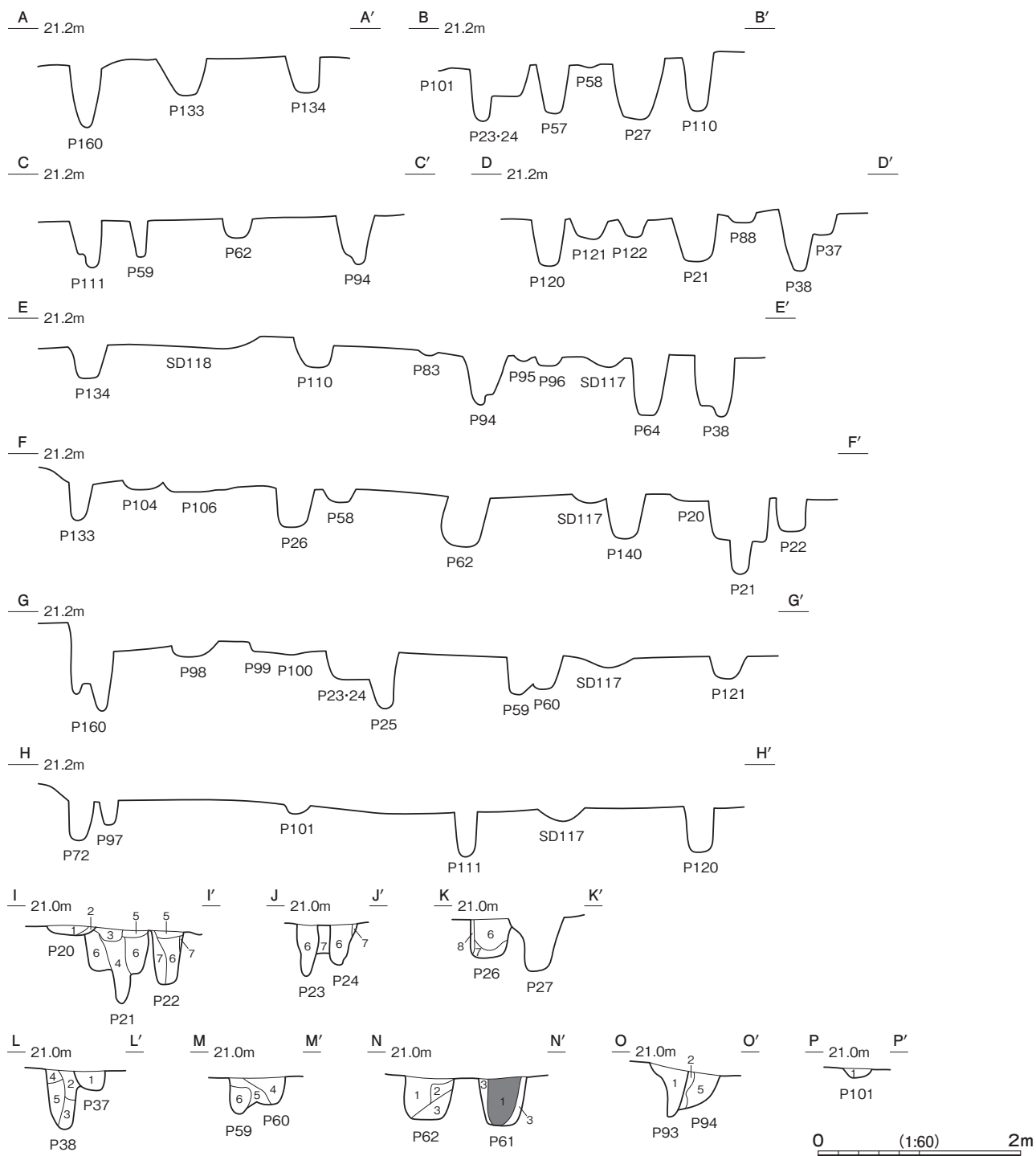
第103図 第28号掘立柱建物跡実測図(1)

柱筋ともおおよそ揃っている。

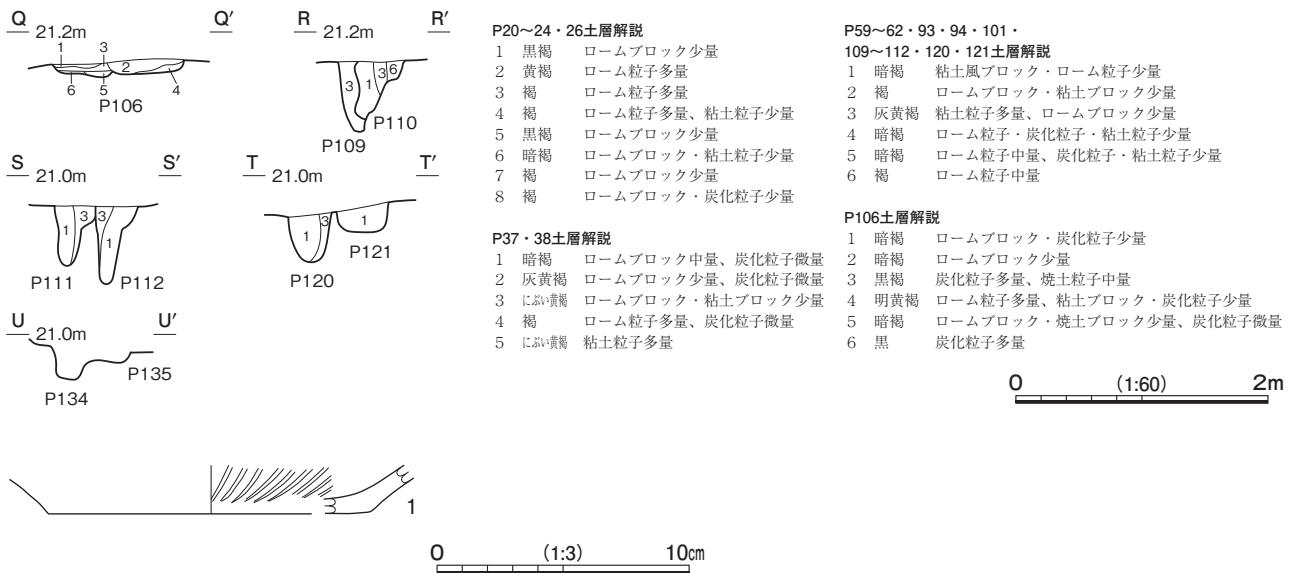
柱穴 26か所。一部を除き2基のピットが重複しており、建て替えが想定される。平面形は円形と楕円形で、長径20～50cm、短径15～50cmである。深さは40～75cmと、ややばらつきがある。覆土は単層のものが多く、柱痕跡が確認できたものもある。西側中央部に位置しているP106は、深さが10cmほどで、径1.1m×1.0mの円形を呈している。底面が被熱により硬化し、炭化物の集中が確認できた。

遺物出土状況 P106から土師質土器播鉢が出土している。P94の覆土上層から出土した土師質土器甕片は、第99号井戸跡及び第113号溝跡から出土した甕(SD113-34)と接合している。また、本跡付近から鉄滓が多く出土している。

所見 時期は、出土土器と主軸方向から、15世紀後半から16世紀前半と考えられる。P106は、本跡に伴う火処などの可能性がある。



第104図 第28号掘立柱建物跡実測図(2)



P20~24・26土層解説

- 1 黒褐 ロームブロック少量
- 2 黄褐 ローム粒子多量
- 3 褐 ローム粒子多量
- 4 褐 ローム粒子多量、粘土粒子少量
- 5 黒褐 ロームブロック少量
- 6 暗褐 ロームブロック・粘土粒子少量
- 7 褐 ロームブロック少量
- 8 褐 ロームブロック・炭化粒子少量

P37・38土層解説

- 1 暗褐 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 2 灰黄褐 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 にい黄褐 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 4 褐 ローム粒子多量、炭化粒子微量
- 5 にい黄褐 粘土粒子多量

P59~62・93・94・101・

109~112・120・121土層解説

- 1 暗褐 粘土風ブロック・ローム粒子少量
- 2 褐 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 3 灰黄褐 粘土粒子多量、ロームブロック少量
- 4 暗褐 ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
- 5 暗褐 ローム粒子中量、炭化粒子・粘土粒子少量
- 6 褐 ローム粒子中量

P106土層解説

- 1 暗褐 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 暗褐 ロームブロック少量
- 3 黒褐 炭化粒子多量、焼土粒子中量
- 4 明黄褐 ローム粒子多量、粘土ブロック・炭化粒子少量
- 5 暗褐 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量
- 6 黒 炭化粒子多量

第105図 第28号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第54表 第28号掘立柱建物跡出土遺物一覧(第105図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	播鉢	-	(1.9)	[12.8]	長石・石英・雲母	にい赤褐	普通	3条1単位の播り目	P 106	5%

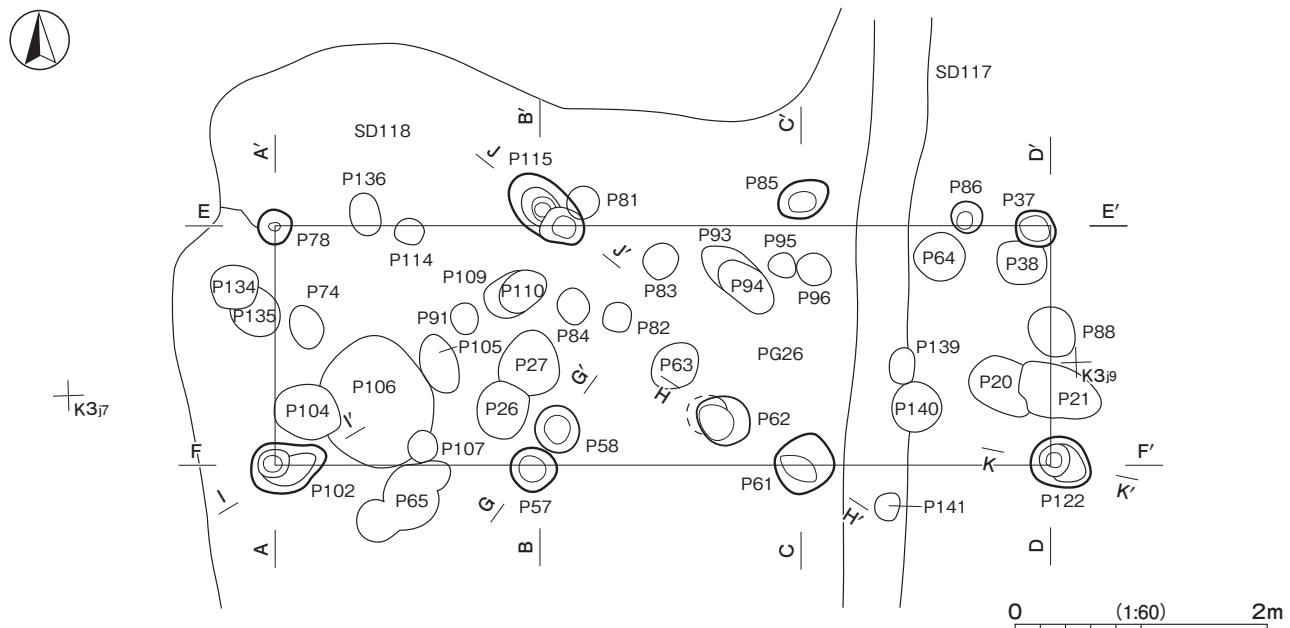
第29号掘立柱建物跡(第106・107図)

位置 第2号区画(北)北部のK3j8区、標高21.0mほどの台地斜面部に位置している。

重複関係 南側に約50cmずれた位置で、ほぼ同一主軸方向の第28号掘立柱建物跡と重複している。また、建物の範囲内に第117・118号溝跡が位置している。第118号溝跡の幅は不均一で、南壁西側の立ち上がりがなく、段切状になっている。西側は、第28・29号掘立柱建物跡の西妻に沿うように屈曲している。

規模と形状 第26号ピット群として調査した。桁行3間、梁行1間の側柱建物跡で、N-89°-Wの東西棟である。規模は桁行6.1m、梁行1.9mである。柱間寸法は桁行2.1m、梁行1.9mで、柱間・柱筋ともほぼ揃っている。

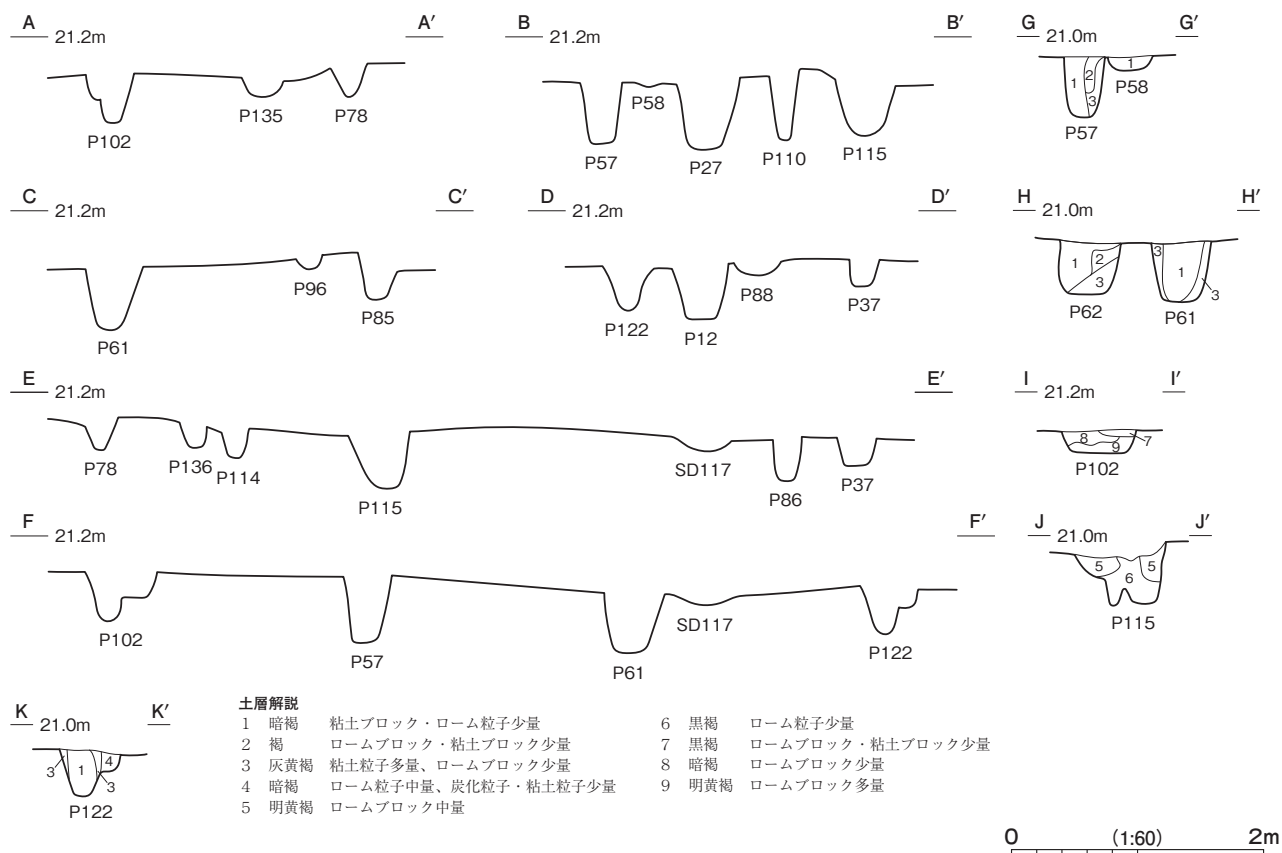
柱穴 8か所。平面形は円形や楕円形で、長径25~70cm、短径25~40cmである。深さは30~60cmで、規模・



第106図 第29号掘立柱建物跡実測図

形状ともややばらつきがある。P 88・P 135 は、やや柱筋がずれることや梁間の間隔が狭くなることから、本跡に伴う柱穴ではないと判断した。

所見 時期は、主軸方向から、15 世紀後半から 16 世紀前半と推定される。



第 107 図 第 29 号掘立柱建物跡実測図

第 30 号掘立柱建物跡 (第 108 図)

位置 第 2 号区画 (北) 北部の K 3j7 区、標高 21.0 m ほどの台地斜面部に位置する。

重複関係 建物の範囲内に第 114・118 号溝跡、第 1144・1145・1355・1358・1359 号土坑が位置している。建物の西側から第 113 号溝跡までの長さ約 3.0 m、幅約 1.0 m の範囲は、ロームブロックや粘土ブロックを含む硬化した整地層があり、柱穴は、これを掘り込んでいる。第 1355・1358・1359 号土坑は、整地層の下から確認したため、本跡の構築以前の遺構である。

規模と形状 第 26 号ピット群として調査した。桁行 2 間、梁間 2 間の側柱建物跡で、N - 14° - E の南北棟である。規模は桁行 3.8 m、梁行 3.4 m である。柱間寸法は桁行が 1.8 ~ 2.0 m、梁行が 1.6 ~ 1.8 m で、柱間・柱筋ともやや不揃いである。

柱穴 8 か所。東側が第 118 号溝により段切状に削平されているため、確認面は、東に行くほど緩やかに下がっている。P 66 と P 123 が柱筋からややずれている。平面形は円形と楕円形で、規模は長径 20 ~ 90cm、短径 20 ~ 60cm、深さは 30 ~ 85cm とややばらつきがある。P 55・P 56 のように柱痕跡が確認できたものもあるが、P 66 のように柱の抜き取り後の堆積状況を示しているものが多い。

遺物出土状況 土師質土器皿 1 点が P 6 から、1 の五輪塔の風輪部と土師質土器内耳鍋 1 点が P 66 の覆土上層から、土師質土器皿 1 点と内耳鍋 3 点が P 146 から、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器と主軸方向から、15 世紀後半から 16 世紀前半と考えられる。整地層及び本跡と、段切状となっている第 118 号溝跡との関連性が指摘できる。また、本跡と第 28・29 号掘立柱建物跡は近接していることから、時間差があると考えられる。

第 55 表 第 30 号掘立柱建物跡出土遺物一覧 (第 108 図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1	五輪塔	(9.0)	(10.0)	(9.4)	(862.06)	花崗岩	上面は割れ 風輪の一部	P 66 覆土上層	

第 56 表 第 2 号区画 (北) の掘立柱建物跡一覧

番号	位置	桁行方向	柱間数 桁×梁(間)	規模 桁×梁(m)	面積 (㎡)	柱間寸法		柱 穴			主な出土遺物	時期	備考	
						桁間 (m)	梁間 (m)	構造	柱穴数	平面形				深さ (cm)
28	K 3j8	N - 89° - E	3 × 2	6.35 × 2.15	13.65	1.6 ~ 2.4	1.0 ~ 1.2	総柱	26	円形・ 楕円形	40 ~ 75	播鉢 甕 鉄滓	16 C 代	SD117・118、 SE29、PG26と重複
29	K 3j8	N - 89° - W	3 × 1	6.10 × 1.90	11.59	2.1	1.9	側柱	8	円形・ 楕円形	30 ~ 60	-	16 C 代	SD117・118、 SE28、PG26と重複
30	K 3j7	N - 14° - E	2 × 2	3.80 × 3.40	12.92	1.8 ~ 2.0	1.6 ~ 1.8	側柱	8	円形・ 楕円形	30 ~ 85	皿 内耳鍋 五輪塔	16 C 代	SK1355・1358・ 1359 → 本跡 SD114・118、SK1144・ 1145、PG26と重複 整地層を一部掘り込む

ウ 方形竪穴遺構

第 7 号方形竪穴遺構 (第 109 図 PL13・37)

位置 第 2 号区画 (北) 北東部の K 3j9 区、標高 21.0 m ほどの台地斜面部に位置している。

重複関係 第 93 号井戸跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸 1.90 m、短軸 1.55 m の隅丸方形で、壁は 22 ~ 30 cm で外傾している。主軸方向は N - 3° - E である。

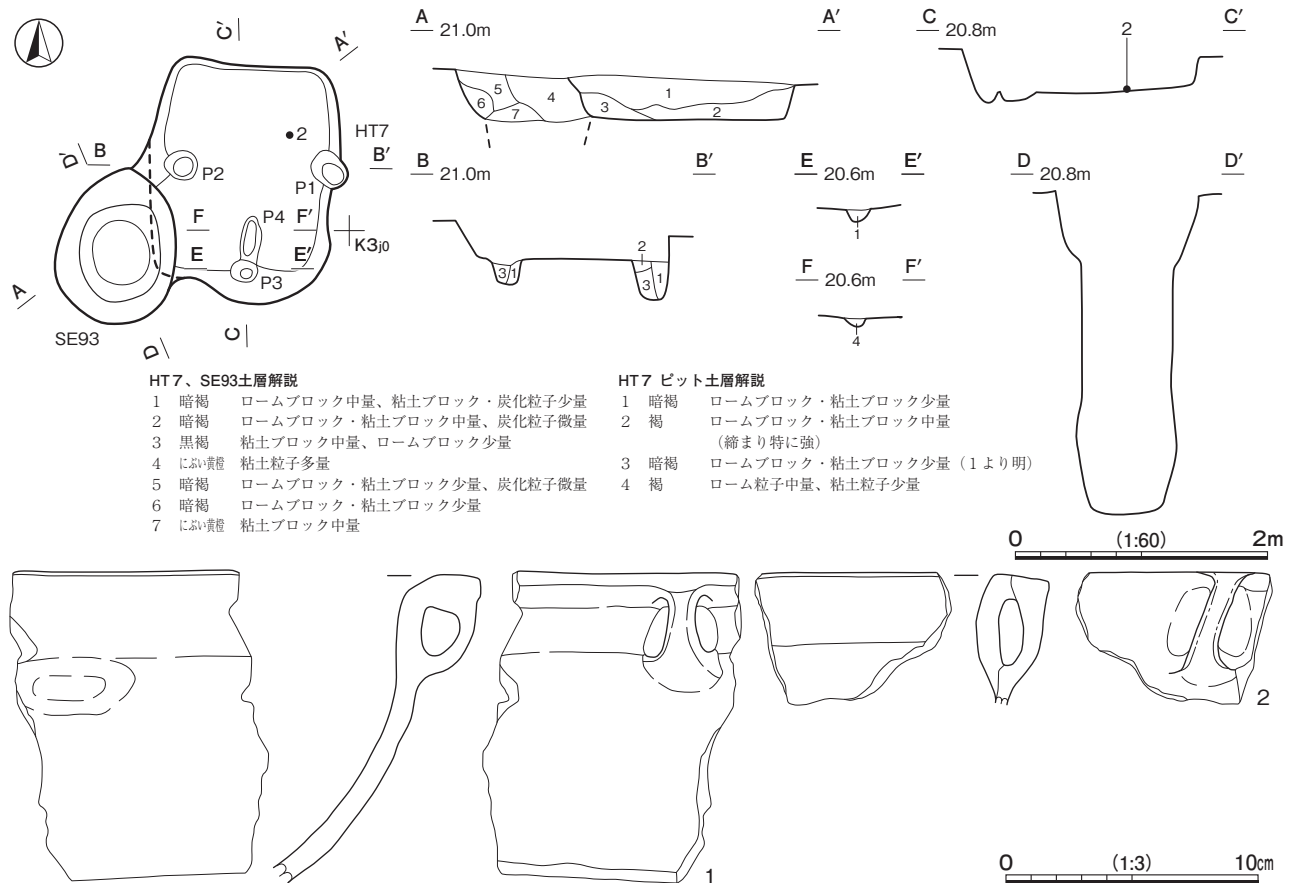
床面 おおむね平坦で、南側に向かって緩やかに下がる。

ピット 4 か所。P 1・P 2 は、東西壁際中央部に位置し、深さはそれぞれ 35 cm、20 cm である。P 3・P 4 は、南壁際中央部に位置し、深さはいずれも 10 cm ほどと浅い。位置から出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 3 層に分層できる。ロームブロックや粘土ブロックをやや多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器 15 点 (皿 4、内耳鍋 11) が出土している。ほかに混入した土師器 5 点 (甕)、須恵器 4 点 (坏 3、甕 1)、土玉 1 点 が出土している。

所見 時期は、出土土器から 16 世紀代と考えられる。



第 109 図 第 7 号方形竪穴遺構、第 93 号井戸跡・出土遺物実測図

第 57 表 第 7 号方形竪穴遺構出土遺物一覧 (第 109 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	内耳鍋	-	(12.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部緩やかな立ち上がり 耳断面紐状	覆土	10% PL37
2	土師質土器	内耳鍋	-	(5.3)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部緩やかな立ち上がり 耳断面丸形	床面	5%

エ 井戸跡

第 2 号区画 (北) には、北部に第 84・85・93 号井戸、西を区画している第 113・139・140 号溝などと重複する第 99・100・109 号井戸、北東を区画している第 120 号溝付近に第 108・208・209 号井戸が位置している。第 84・85 号井戸は、大型の漏斗状の掘方を有しているものである。第 96・99・109 号井戸は、区画溝と重複し、上端の形状が不整楕円形の特異な形状である。第 108 号井戸は、低地の湧水部分に位置している。以下、特徴的なものについて記述し、それ以外については実測図と一覽で記載する。

第 84 号井戸跡 (第 110・111 図 PL15)

位置 第 2 号区画 (北) 北西部の L 3 a8 区、標高 21.0 m ほどの台地斜面部に位置している。

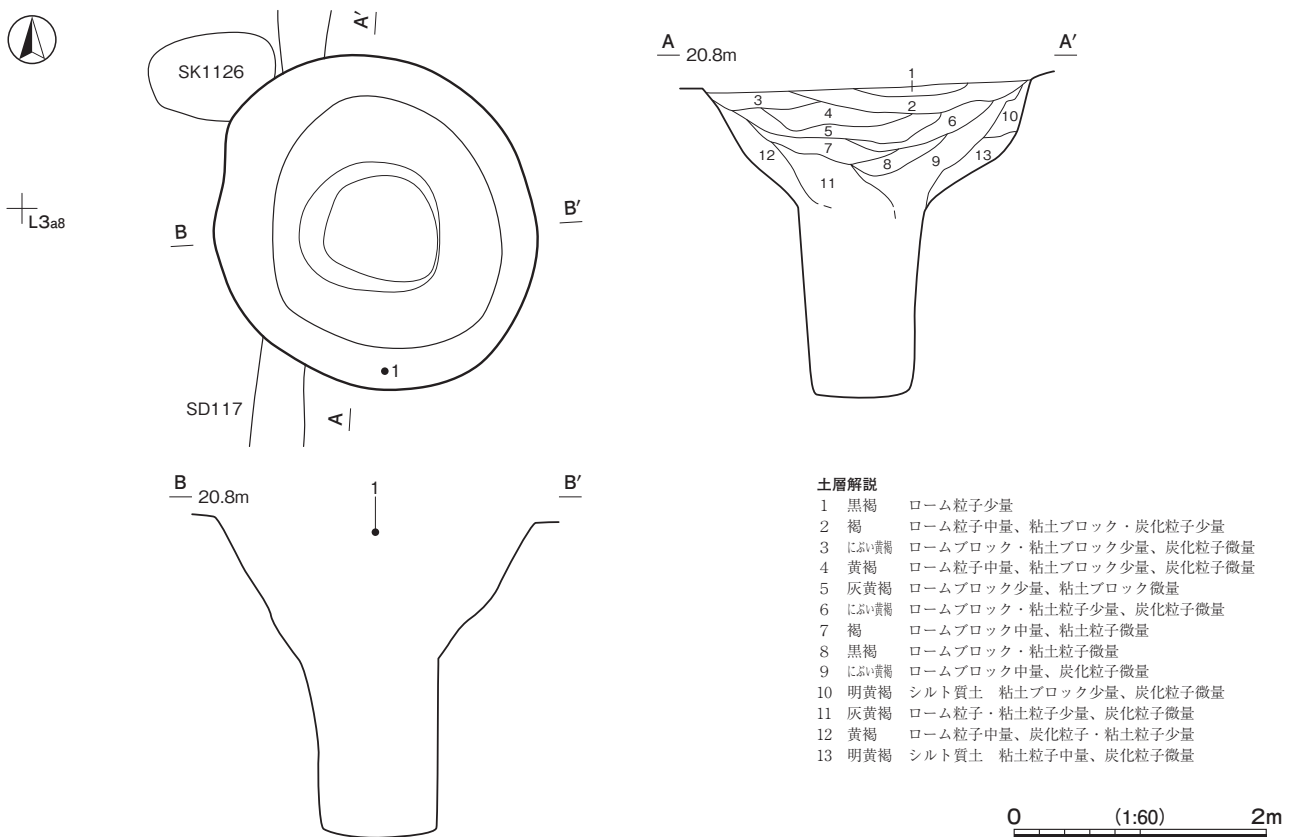
重複関係 第 117 号溝に掘り込まれている。重複している第 1126 号土坑との関係は不明である。

規模と形状 長径 2.79 m、短径 2.52 m の円形である。確認面から 110cm までは漏斗状に掘り込み、それ以下は径 1.0 m の円筒状に掘り込んでいる。確認面からの深さは 250cm である。

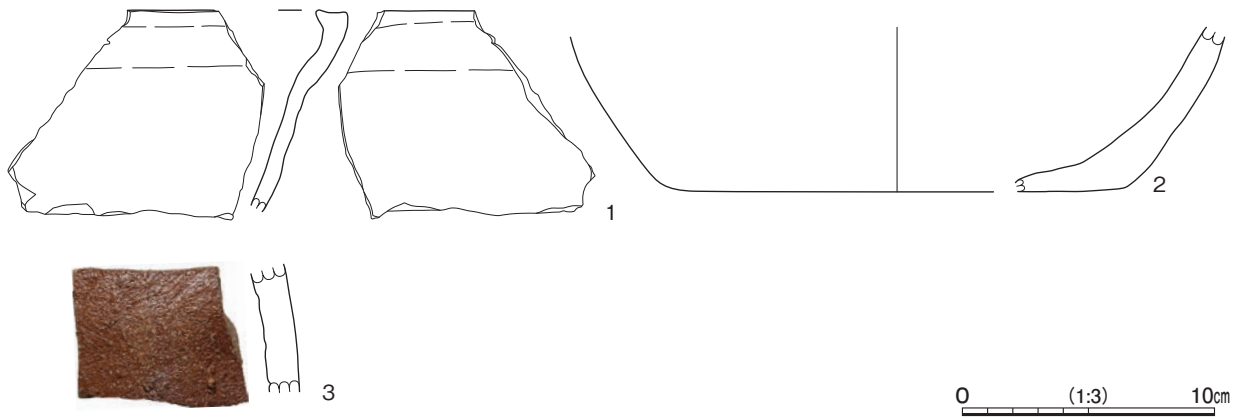
覆土 13 層を確認した。ロームブロックや粘土ブロックを含む褐色土と黄褐色土が交互に堆積していることから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器 17 点 (皿 1、播鉢 2、内耳鍋 14)、陶器 3 点 (碗 1、甕 2) が出土している。ほかに混入した土師器 3 点 (甕)、須恵器 1 点 (鉢)、磁器 1 点 (碗) が出土している。1 の土師質土器内耳鍋は、確認した覆土の上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から 16 世紀代と考えられる。



第 110 図 第 84 号井戸跡実測図



第 111 図 第 84 号井戸跡出土遺物実測図

第 58 表 第 84 号井戸跡出土遺物一覧 (第 111 図)

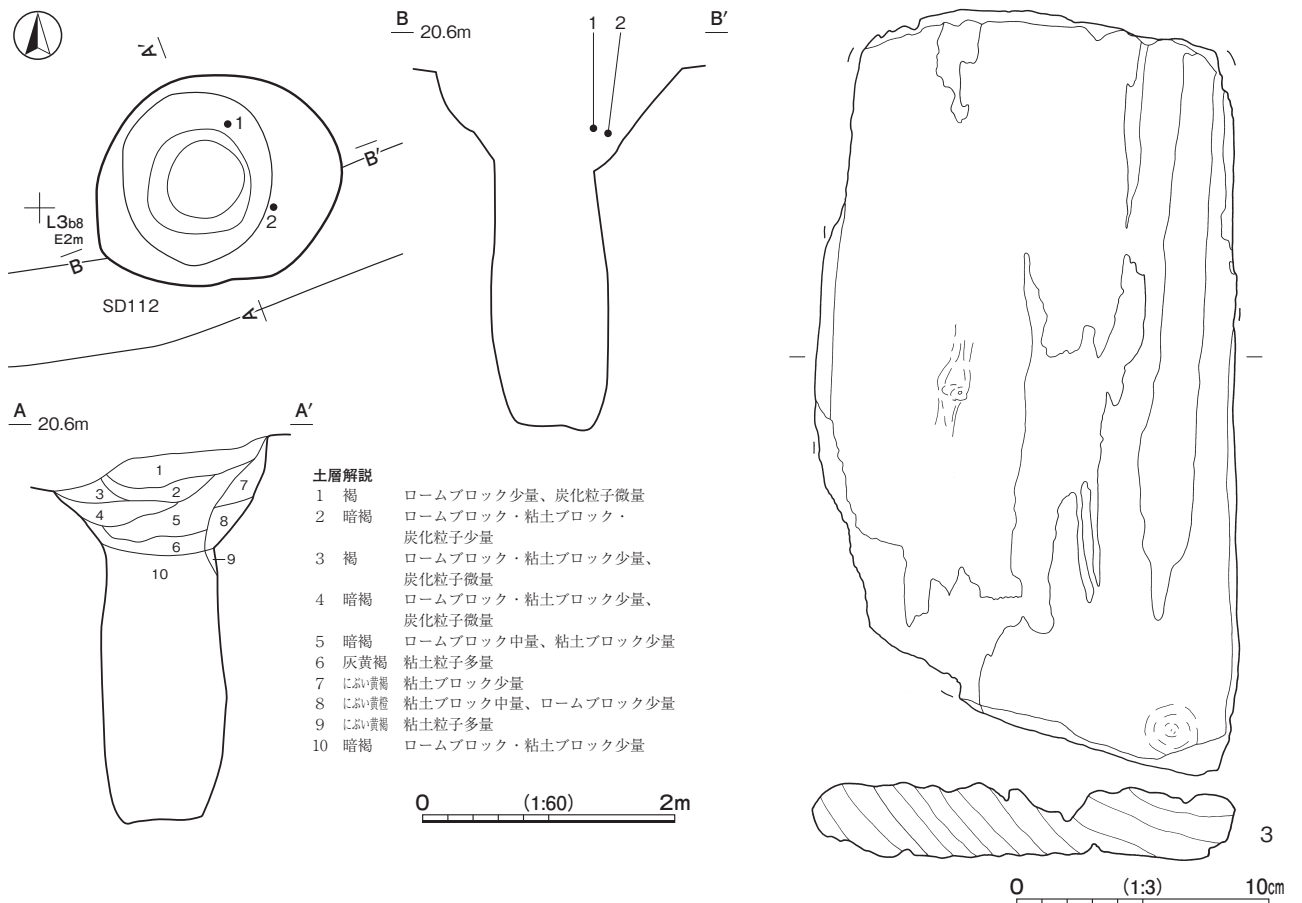
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	内耳鍋	-	(8.0)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部緩やかに外彎	覆土上層	5%
2	土師質土器	内耳鍋	-	(6.5)	[18.4]	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	体部緩やかな立ち上がり	覆土上層	5%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
3	陶器	甕	-	(5.1)	-	緻密	灰白	外面に自然釉	無釉	常滑	覆土上層	5%

第 85 号井戸跡 (第 112・113 図 PL15・38)

位置 第 2 号区画 (北) 北西部の L 3 a 8 区、標高 20.5 m ほどの台地斜面部から低地部に位置している。

重複関係 第 112 号溝跡を掘り込んでいる。



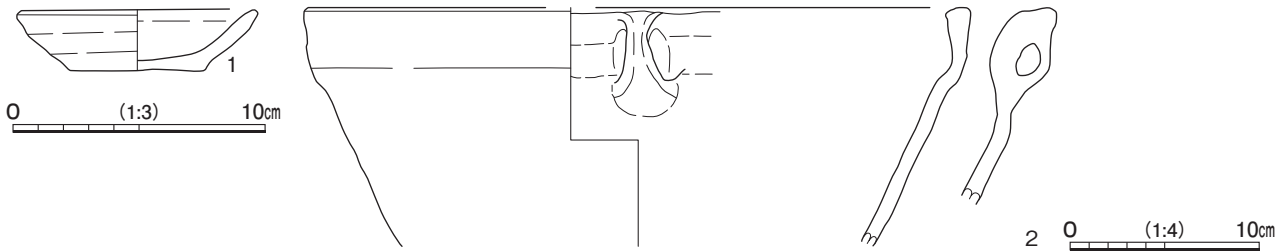
第 112 図 第 85 号井戸跡・出土遺物実測図

規模と形状 長径 2.00 m、短径 1.70 m の楕円形で、長軸方向は N - 70° - E である。確認面から 85cm までは漏斗状に掘り込み、それ以下は径 80cm の円筒状に掘り込んでいる。確認面からの深さは 302cm である。

覆土 10 層を確認した。第 10 層以下は、覆土の観察ができず、詳細は不明である。ロームブロック・粘土ブロックを含む褐色土と暗褐色土、黄褐色土が交互に堆積していることから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器 3 点（皿 1、内耳鍋 2）、木製品 2 点（桶底板カ、加工材）が出土している。1・2 は確認した覆土の上層から、3 は底面付近から、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土遺物から 16 世紀代と考えられる。



第 113 図 第 85 号井戸跡出土遺物実測図

第 59 表 第 85 号井戸跡出土遺物一覧（第 112・113 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	9.0	2.3	5.4	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部直線的な立ち上がり 肥厚	覆土上層	95% PL38
2	土師質土器	内耳鍋	[34.8]	(12.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	3 耳 口縁部直線的な立ち上がり 口縁部内面のナデや強い 耳断面紐状	覆土上層	5% PL38
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
3	桶	30.4	17.0	2.9	-	スギ科スギ属スギ	柁目材	底板カ	上・下・両側面部分的に欠損	底面付近	PL38

第 85 号井戸跡出土植物遺体同定調査

(株) 吉田生物研究所

茨城県に所在する島名本田遺跡で出土した、植物遺体の同定結果を以下に報告する。

1 試料

試料は第 85 号井戸跡から出土した桶 1 点である。

2 観察方法

剃刀で木口（横断面）、柁目（放射断面）、板目（接線断面）の各切片を採取し、永久プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

3 結果

樹種同定結果の表と顕微鏡写真を示し、以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

スギ科スギ属スギ (*Cryptomeria japonica* D.Don)

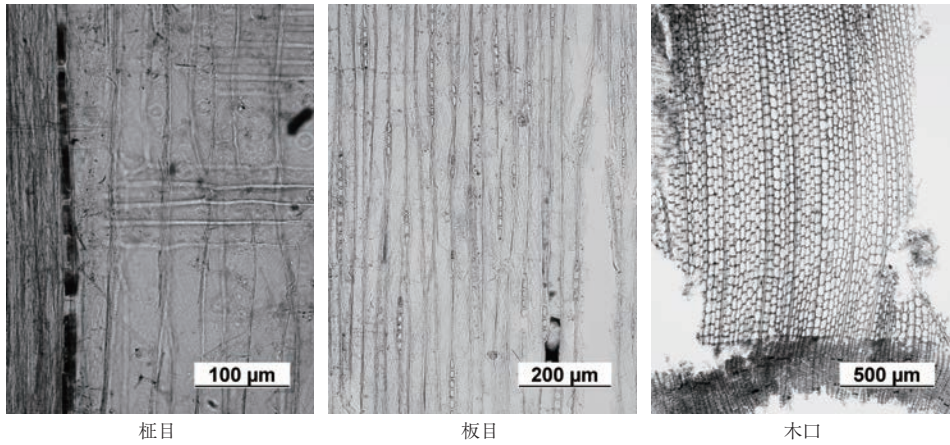
木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行はやや急であった。樹脂細胞は晩材部で接線方向に並んでいた。柁目では放射組織の分野壁孔は典型的なスギ型で 1 分野に 1～3 個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。樹脂細胞の末端壁はおおむね偏平である。スギは本州、四国、九州の主として太平洋側に分布する。

参考文献

林 昭三「日本産木材顕微鏡写真集」京都大学木質科学研究所（1991）
 伊東隆夫「日本産広葉樹材の解剖学的記載 I～V」京都大学木質科学研究所（1999）
 島地 謙・伊東隆夫「日本の遺跡出土木製品総覧」雄山閣出版（1988）
 北村四郎・村田 源「原色日本植物図鑑木本編 I・II」保育社（1979）
 奈良国立文化財研究所「奈良国立文化財研究所 史料第 27 冊 木器集成図録 近畿古代篇」（1985）
 奈良国立文化財研究所「奈良国立文化財研究所 史料第 36 冊 木器集成図録 近畿原始篇」（1993）

No.	試料番号	品名	学名	木取
3	SE85 No.5	桶 (底板)	スギ科スギ属スギ	柾目

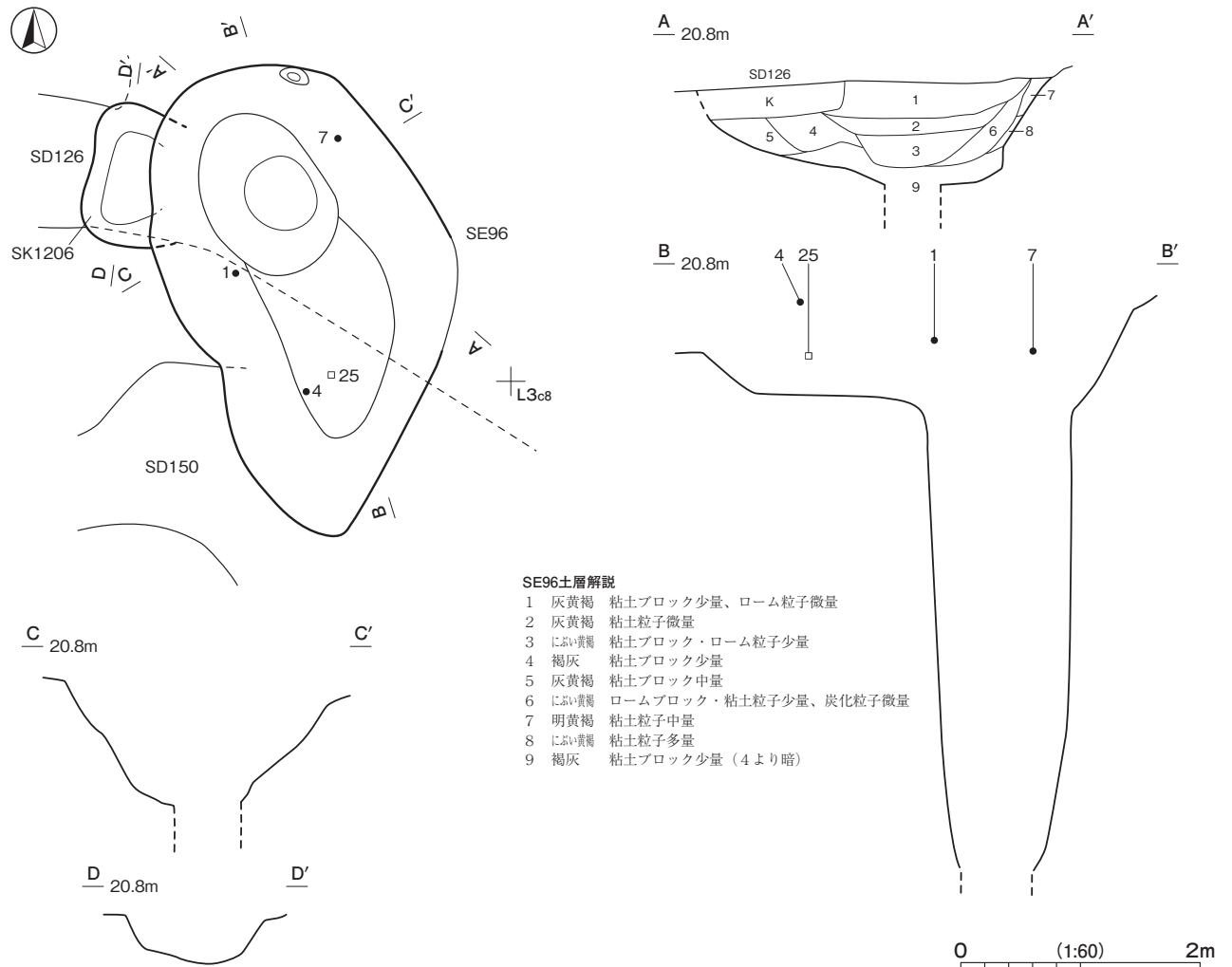
No27 スギ科スギ属スギ



第 96 号井戸跡 (第 114 ~ 116 図 PL16・39・40)

位置 第 2 号区画 (北) 西部の L 3 b7 区、標高 21.0 m ほどの台地斜面部から低地部に位置している。

重複関係 第 126 号溝に掘り込まれている。重複している第 150 号溝跡、第 1206 号土坑との関係は不明である。



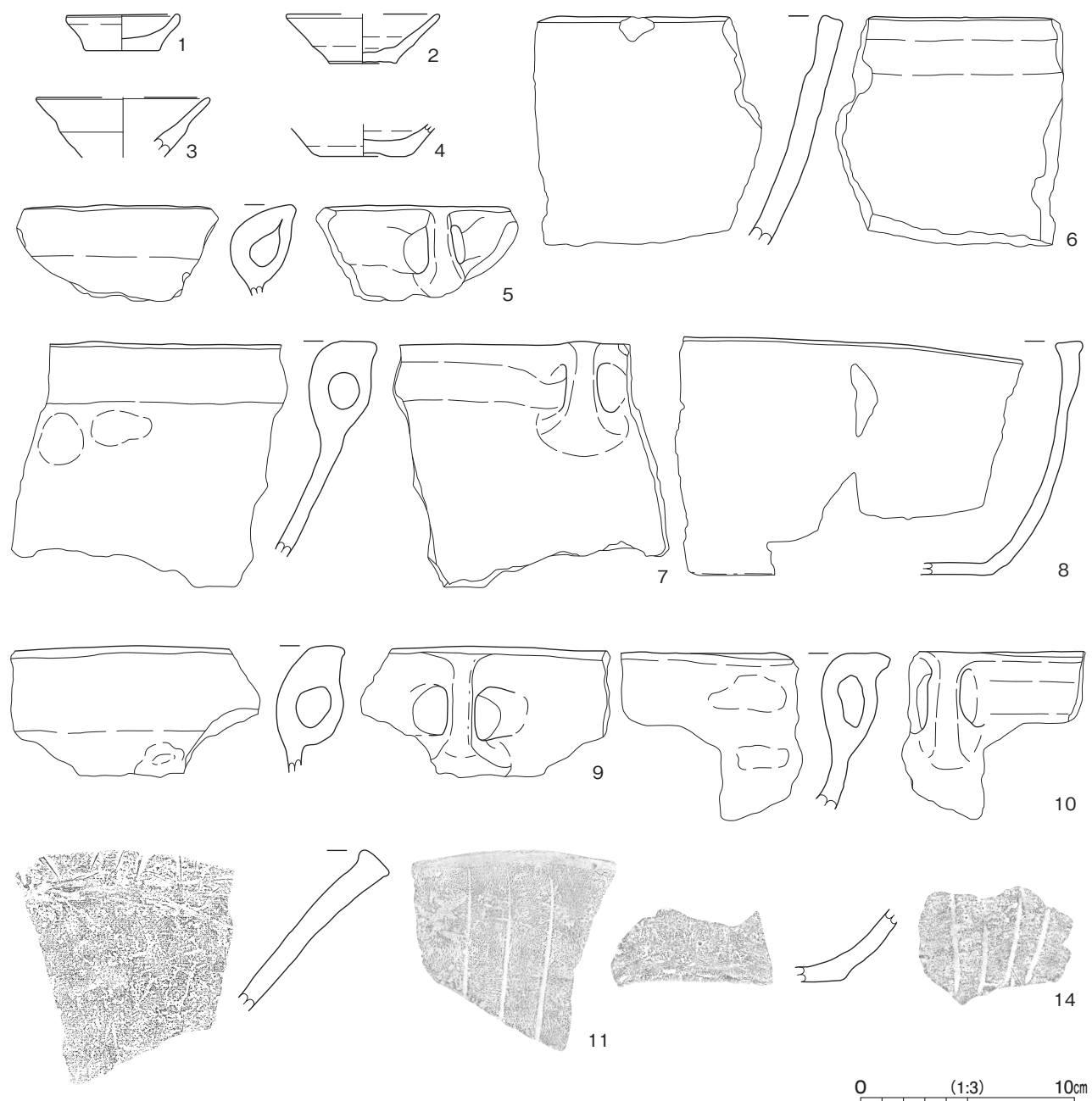
第 114 図 第 96 号井戸跡、第 1206 号土坑実測図

規模と形状 長径 3.98 m、短径 2.38 mの不整楕円形で、長軸方向はN - 18° - Wである。確認面から 100cmまでは漏斗状に掘り込み、それ以下は長径 1.5 m、短径 1.0 mの円筒状に掘り込んでいる。確認面からの深さは 500cm以上である。井戸の南東側は、深さ 80 ~ 95cmのテラス状の平場となっている。

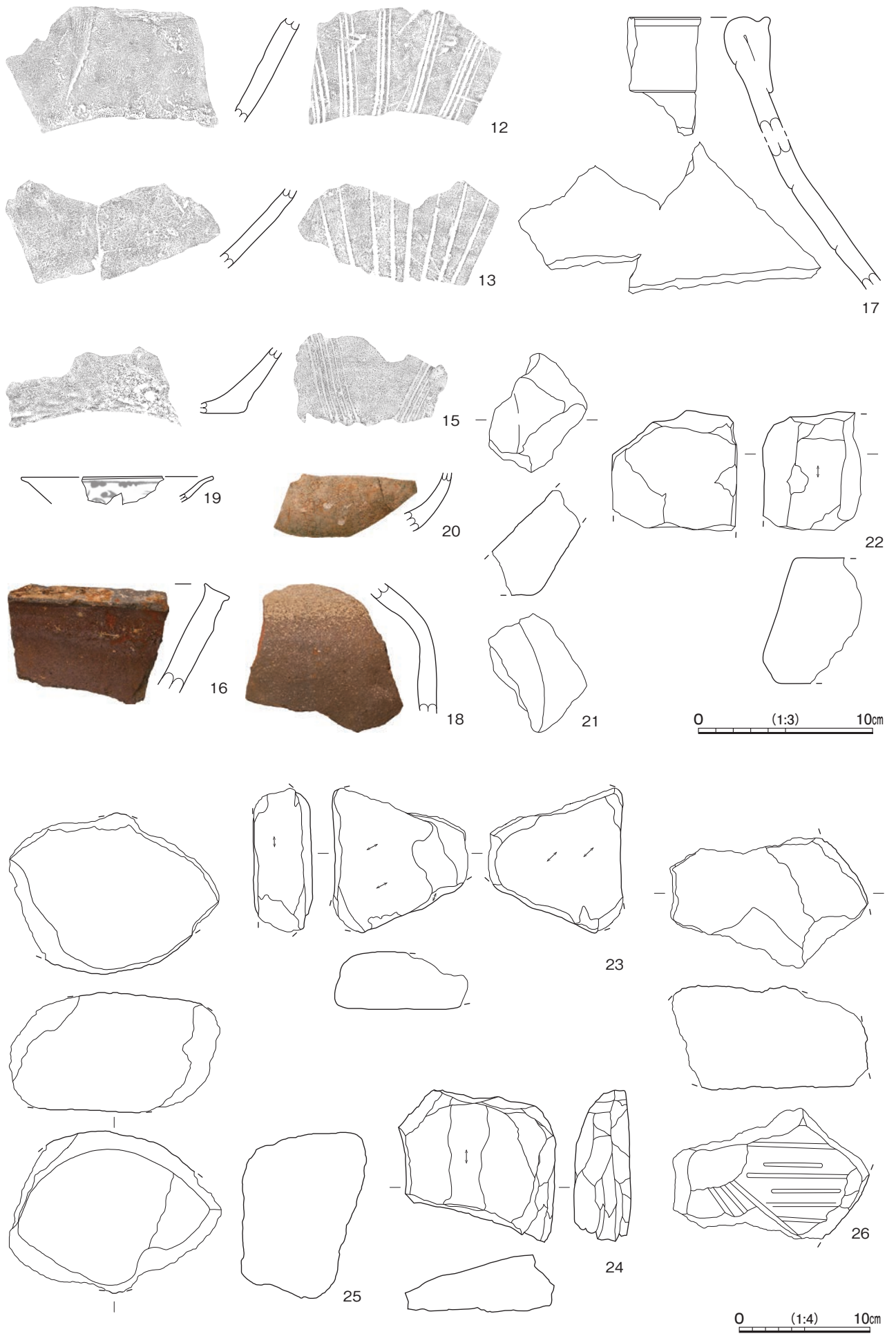
覆土 9層を確認した。第9層以下は、覆土の観察ができず、詳細は不明である。粘土ブロックを含む黄褐色土などが不規則に堆積していることから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器 295 点 (皿 197、播鉢 10、内耳鍋 88)、陶器 6 点 (皿 1、鉢 1、甕 4)、磁器 1 点 (中国産皿)、青磁 1 点 (碗)、石器・石製品 6 点 (石臼 1、石鍋カ 1、砥石カ 3、五輪塔 1)、瓦 3 点が出土している。ほかに混入した土師器 5 点 (坏 3、鉢 1、甕 1)、須恵器 1 点 (甕)、土製品 1 点 (支脚)、鉄滓及び炉壁材が出土している。上部の不整楕円形の掘り込み部分から、多くの遺物が出土している。1 ~ 4の土師質土器皿と、6 ~ 9の内耳鍋は、覆土の上層から出土している。25は五輪塔の水輪部である。また、覆土中から中国産皿 (19)、龍泉窯産青磁碗 (20) が出土している。

所見 時期は、出土遺物から、15世紀後半から16世紀前半と考えられる。不整楕円形の掘り込みとテラス状の平場を有する点では特異である。また、低地部に位置していることも特徴的である。



第 115 図 第 96 号井戸跡出土遺物実測図(1)



第116図 第96号井戸跡出土遺物実測図(2)

第 60 表 第 96 号井戸跡出土遺物一覧（第 115・116 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	5.2	1.7	3.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	直線的な立ち上がり 底部回転糸切り	覆土上層	90% PL39
2	土師質土器	皿	[7.2]	2.3	3.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部直線的な立ち上がり 体部下端やや強いナデ 底部回転糸切り	覆土上層	40% PL39
3	土師質土器	皿	[8.1]	(2.8)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部に弱い稜	覆土上層	20%
4	土師質土器	皿	-	(1.5)	4.1	長石・石英	橙	普通	体部直線的な立ち上がり 底部回転糸切り	覆土上層	40%
5	土師質土器	内耳鍋	-	(4.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部緩やかな立ち上がり 耳断面紐状	覆土	5%
6	土師質土器	内耳鍋	-	(10.8)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部直線的な立ち上がり 口縁部内面のナデ弱い	覆土上層	5%
7	土師質土器	内耳鍋	-	(11.5)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	口縁部内彎して立ち上がり 口縁部内面強いナデ 耳断面紐状	覆土上層	5% PL39
8	土師質土器	内耳鍋	-	11.0	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部緩やかに内彎して立ち上がり 内面口縁部弱いナデ 内面小口状の工具によるナデ	覆土上層	20% PL39
9	土師質土器	内耳鍋	-	(6.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	内面口縁部弱いナデ 耳断面紐状	覆土上層	5%
10	土師質土器	内耳鍋	-	(7.4)	-	長石・石英	橙	普通	内面口縁部やや強いナデ 耳断面紐状	覆土	5%
11	土師質土器	播鉢	-	(7.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	単沈線による播目	覆土上層	5%
12	土師質土器	播鉢	-	(5.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	4条1単位の櫛歯状工具による播目	覆土	5% PL39
13	土師質土器	播鉢	-	(4.5)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	単沈線による播目	覆土上層	5% PL39
14	土師質土器	播鉢	-	(3.2)	-	長石・石英・雲母・細礫	橙	普通	単沈線による播目	覆土上層	5%
15	土師質土器	播鉢	-	(3.8)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	6条1単位の櫛歯状工具による播目	覆土上層	5%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
16	陶器	鉢	-	(6.3)	-	長石・石英	灰赤	口縁部に僅かな段	無釉	常滑	覆土上層	5% PL39
17	陶器	甕	-	(15.6)	-	長石	黄灰	10型式	無釉	常滑	覆土上層	5% PL39
18	陶器	甕	-	(7.5)	-	長石・石英	褐	上半に自然釉	無釉	常滑	覆土	5% PL40
19	磁器	皿	[11.0]	(1.5)	-	緻密	灰白	雲文 小野編年染付皿B1群	染付	中国	覆土	5% PL40
20	青磁	碗	-	(3.5)	-	緻密	緑灰	文様は不明	青磁釉	龍泉窯	覆土	5% PL40

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
21	石鍋カ	(6.8)	(5.6)	(6.0)	(115.90)	安山岩	平坦面から直線的に立ち上がるような形状	覆土上層	
22	砥石カ	(6.9)	(5.6)	7.3	(372.83)	凝灰岩	砥面1面	覆土上層	被熱
23	砥石カ	(11.1)	(10.4)	4.5	(747.79)	雲母片岩	砥面4面	覆土上層	被熱
24	砥石カ	(12.1)	(11.7)	(4.4)	(733.26)	雲母片岩	研磨面1面あり 砥石の一部の可能性あり	覆土上層	
25	五輪塔	(16.0)	(12.4)	9.1	(2064.8)	花崗岩	水輪の一部	覆土上層	
26	石臼	(15.1)	(10.1)	7.9	(889.7)	安山岩	上臼	覆土上層	

第 99 号井戸跡（第 117 図 PL16・40）

位置 第 2 号区画（北）西部中央の L 3 d7 区、標高 20.5 m ほどの低地部に位置している。

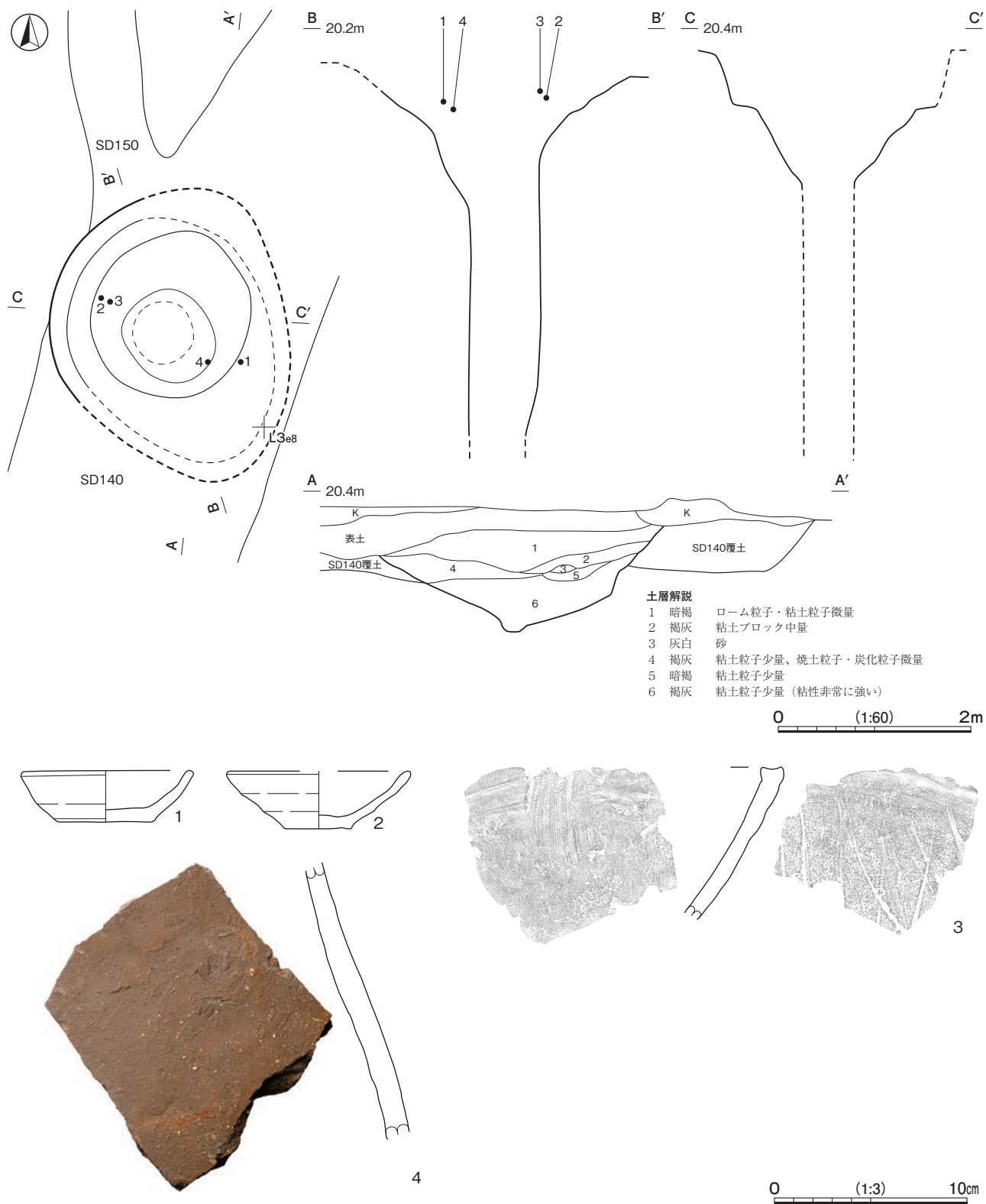
重複関係 第 140・150 号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 第 140 号溝跡の調査中に確認したため、確認できた規模は長径 2.80 m、短径 2.50 m である。不整楕円形で、長軸方向は N - 34° - W である。確認面から 80cm までは漏斗状に掘り込み、それ以下は長径 1.1 m、短径 0.9 m の円筒状に掘り込んでいる。確認面からの深さは 390cm 以上である。

覆土 6 層を確認した。第 6 層以下は、覆土の観察ができず、詳細は不明である。粘土ブロック主体の第 2 層や砂主体の第 3 層を含んでいるが、レンズ状の堆積状況から、自然堆積である。第 6 層以下は非常に粘性の強い褐灰土である。

遺物出土状況 土師質土器 9 点（皿 2、播鉢 2、内耳鍋 3、甕 2）、陶器 1 点（甕）が出土している。確認した覆土の中層から多くの遺物が出土している。このうち土師質土器甕の 2 点は、第 113 号溝跡と第 96 号井戸跡から出土したもの（第 113 号溝 34）と接合している。

所見 時期は、出土遺物から、15 世紀後半から 16 世紀前半と考えられる。不整楕円形の掘り込みを有することや低地部に位置していることも第 96 号井戸跡と同様に特異である。



第 117 図 第 99 号井戸跡・出土遺物実測図

第 61 表 第 99 号井戸跡出土遺物一覧（第 117 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	8.8	2.7	5.0	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部・体部下端がやや強いナデ 底部回転糸切り	覆土中層	100% PL40
2	土師質土器	皿	[9.4]	3.0	3.4	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	やや強いロクロナデ 底部回転糸切り	覆土中層	40%
3	土師質土器	播鉢	-	(7.9)	-	長石・石英・雲母	明褐	普通	口縁部押圧 単沈線による播目	覆土中層	5%
4	陶器	甕	-	(14.8)	-	長石・石英	灰褐		内外面ナデ	覆土中層	5%

第 109 号井戸跡 (第 118・119 図 PL17・41)

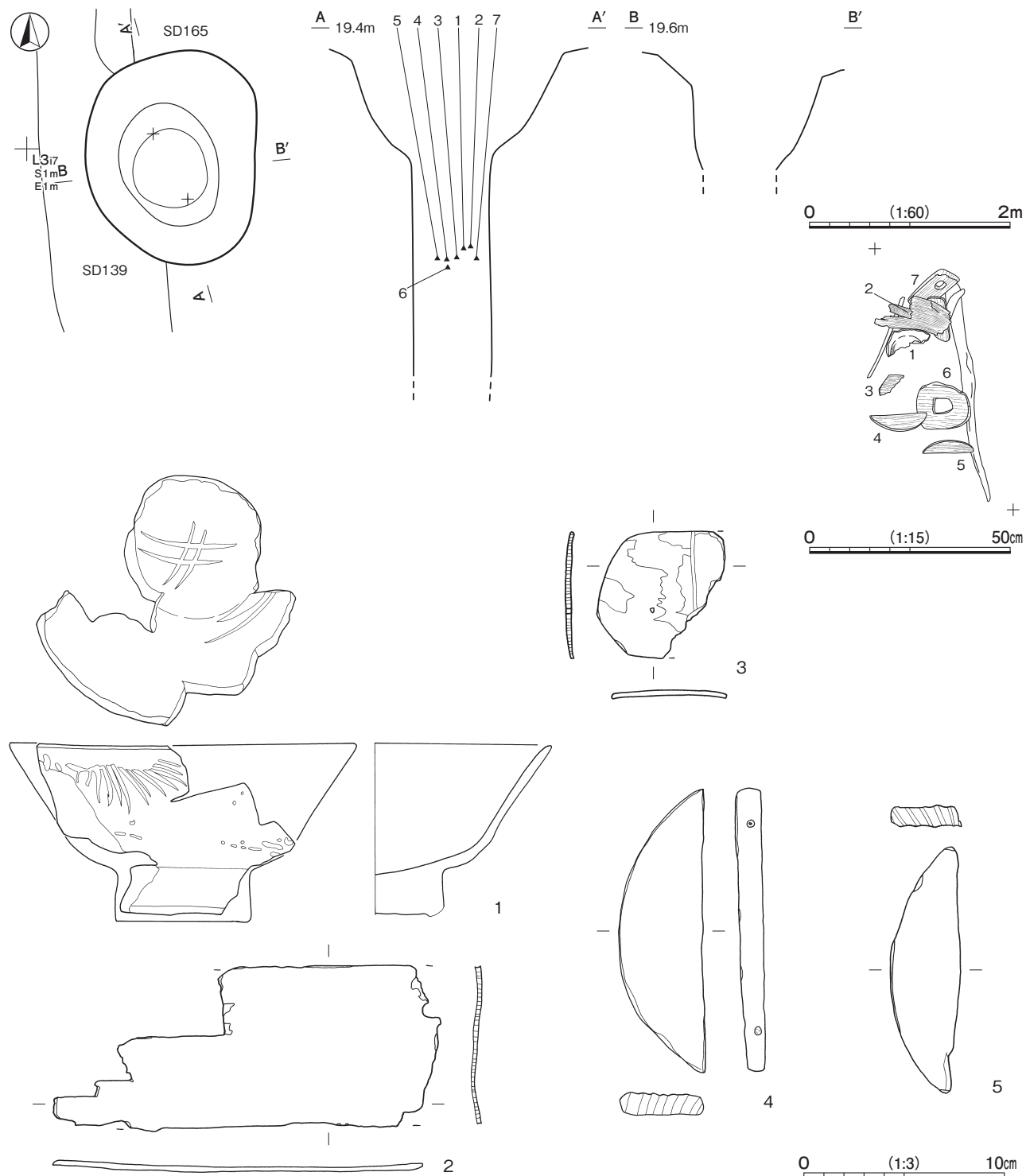
位置 第 2 号区画 (北) 西部南の L 3 i 7 区、標高 195 m ほどの低地部に位置している。

重複関係 第 165 号溝とそれに伴うと考えられる第 6 号柱穴列に掘り込まれている。重複している第 139 号溝跡との関係は不明である。

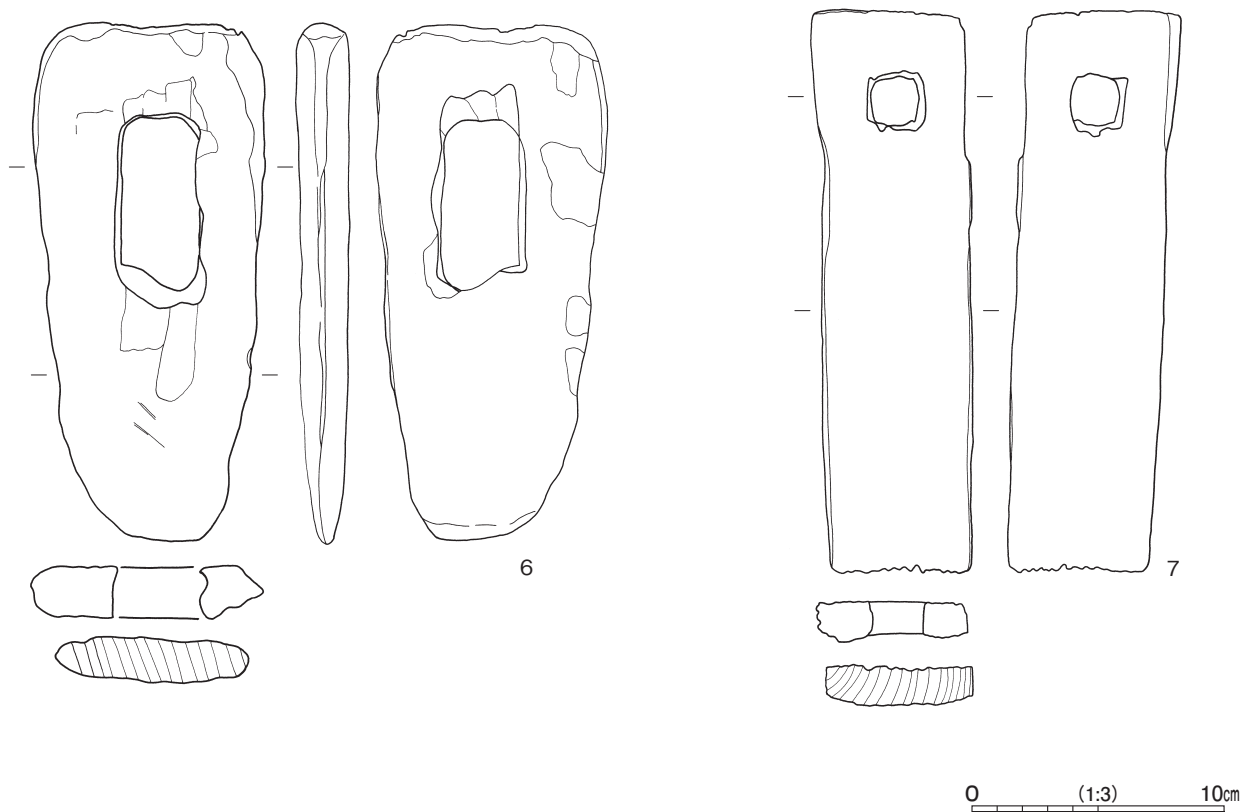
規模と形状 長径 2.08 m、短径 1.85 m の楕円形で、長軸方向は N - 18° - W である。確認面から 110 cm までは漏斗状に掘り込み、それ以下は長径 1.2 m、短径 1.0 m の円筒状に掘り込んでいる。確認面からの深さは 320 cm 以上である。

遺物出土状況 確認面から 1.98 ~ 2.18 m の深さの覆土中から、木器や木製品が出土している。1 は漆器碗で、内外面に朱描きの文様がある。2・3 は曲物の側板、4・5 は桶の蓋か底板で、4 の側面には木釘が残存している。7 はほぞ穴のある井戸杵の部材、6 は鍬である。

所見 時期は、位置と形状、重複関係から中・近世と考えられるが、詳細は不明である。



第 118 図 第 109 号井戸跡・出土遺物実測図



第 119 図 第 109 号井戸跡出土遺物実測図

第 62 表 第 109 号井戸跡出土遺物一覧 (第 118・119 図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1	漆器椀	口径 [17.3]	器高 (8.5)	底径 [6.7]	-	-	黒漆地の内外面に赤漆で竹の文様を描く 低い高台付	覆土	PL41
2	曲物	(19.2)	8.3	0.25	-	-	側板	覆土	PL41
3	曲物	(6.5)	6.4	0.25	-	-	側板 煤付着	覆土	PL41
4	桶	14.2	4.3	1.4	-	-	柁目材 蓋あるいは底板 側面に木釘残存	覆土	PL41
5	桶	12.2	3.5	1.1	-	-	柁目材 蓋あるいは底板	覆土	PL41
6	鍬	27.5	12.13	2.9	-	ブナ科クリ属クリ	柁目材 鍬身	覆土	PL41
7	井戸枠	22.3	6.1	1.1	-	-	柁目材 上部にはぞ穴	覆土	PL41

第 109 号井戸跡出土植物遺体同定調査

(株) 吉田生物研究所

茨城県に所在する島名本田遺跡で出土した、植物遺体の同定結果を以下に報告する。

1 試料

試料は第 109 号井戸跡から出土した農具 1 点である。

2 観察方法

剃刀で木口(横断面)、柁目(放射断面)、板目(接線断面)の各切片を採取し、永久プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

3 結果

樹種同定結果の表と顕微鏡写真を示し、以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

ブナ科クリ属クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.)

環孔材である。木口では円形ないし楕円形で大体単独の大道管(〜500 μ m)が年輪にそって幅のかなり広い孔圏部を形成している。孔圏外は急に大きさを減じ薄壁で角張った小道管が単独あるいは2〜3個集まって火炎状に配列している。柁目では道管は単穿孔と多数の有縁壁孔を有する。放射組織は大体において平伏細胞からなり

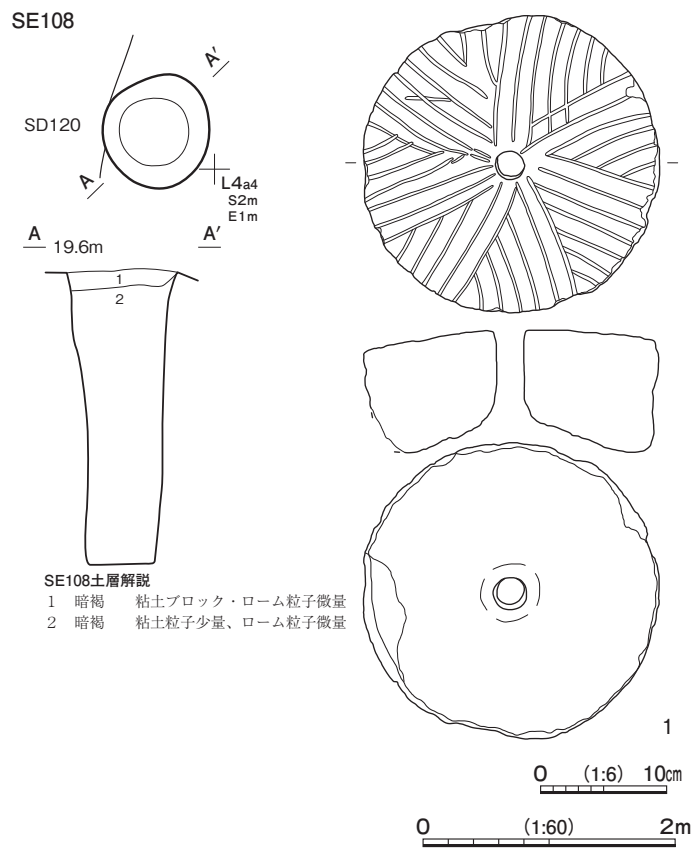
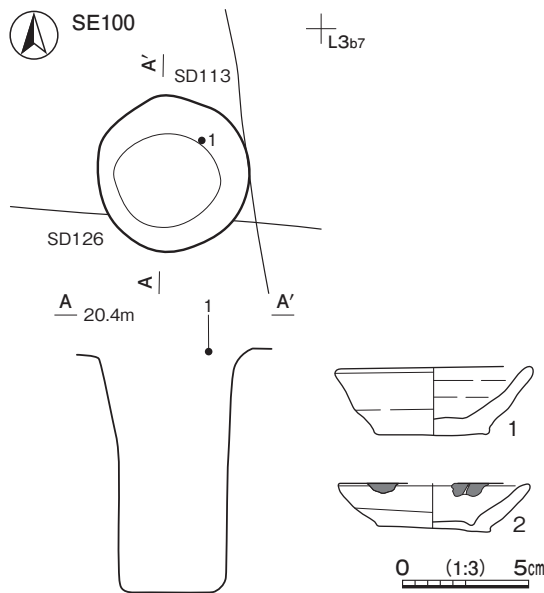
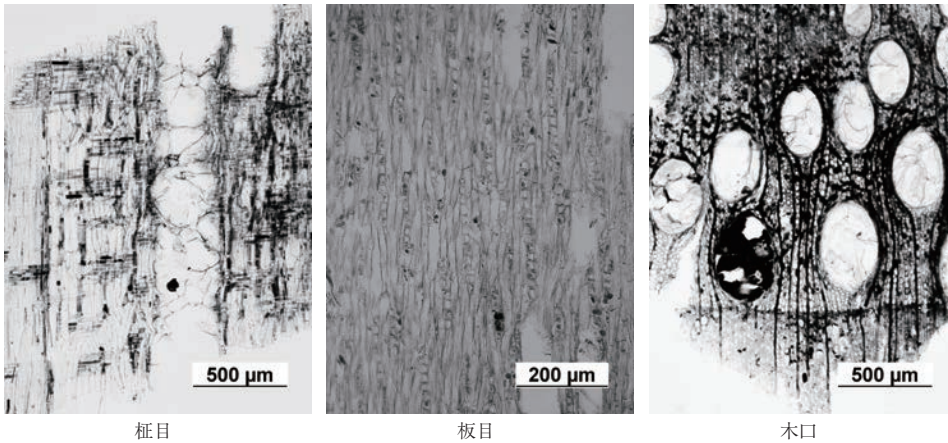
同性である。板目では多数の単列放射組織が見られ、軸方向要素として道管、それを取り囲む短冊型柔細胞の連なり（ストランド）、軸方向要素の大部分を占める木繊維が見られる。クリは北海道（西南部）、本州、四国、九州に分布する。

参考文献

林 昭三「日本産木材顕微鏡写真集」京都大学木質科学研究所（1991）
 伊東隆夫「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ～Ⅴ」京都大学木質科学研究所（1999）
 島地 謙・伊東隆夫「日本の遺跡出土木製品総覧」雄山閣出版（1988）
 北村四郎・村田 源「原色日本植物図鑑木本編Ⅰ・Ⅱ」保育社（1979）
 奈良国立文化財研究所「奈良国立文化財研究所 史料第27冊 木器集成図録 近畿古代篇」（1985）
 奈良国立文化財研究所「奈良国立文化財研究所 史料第36冊 木器集成図録 近畿原始篇」（1993）
 使用顕微鏡 Nikon DS-Fi1

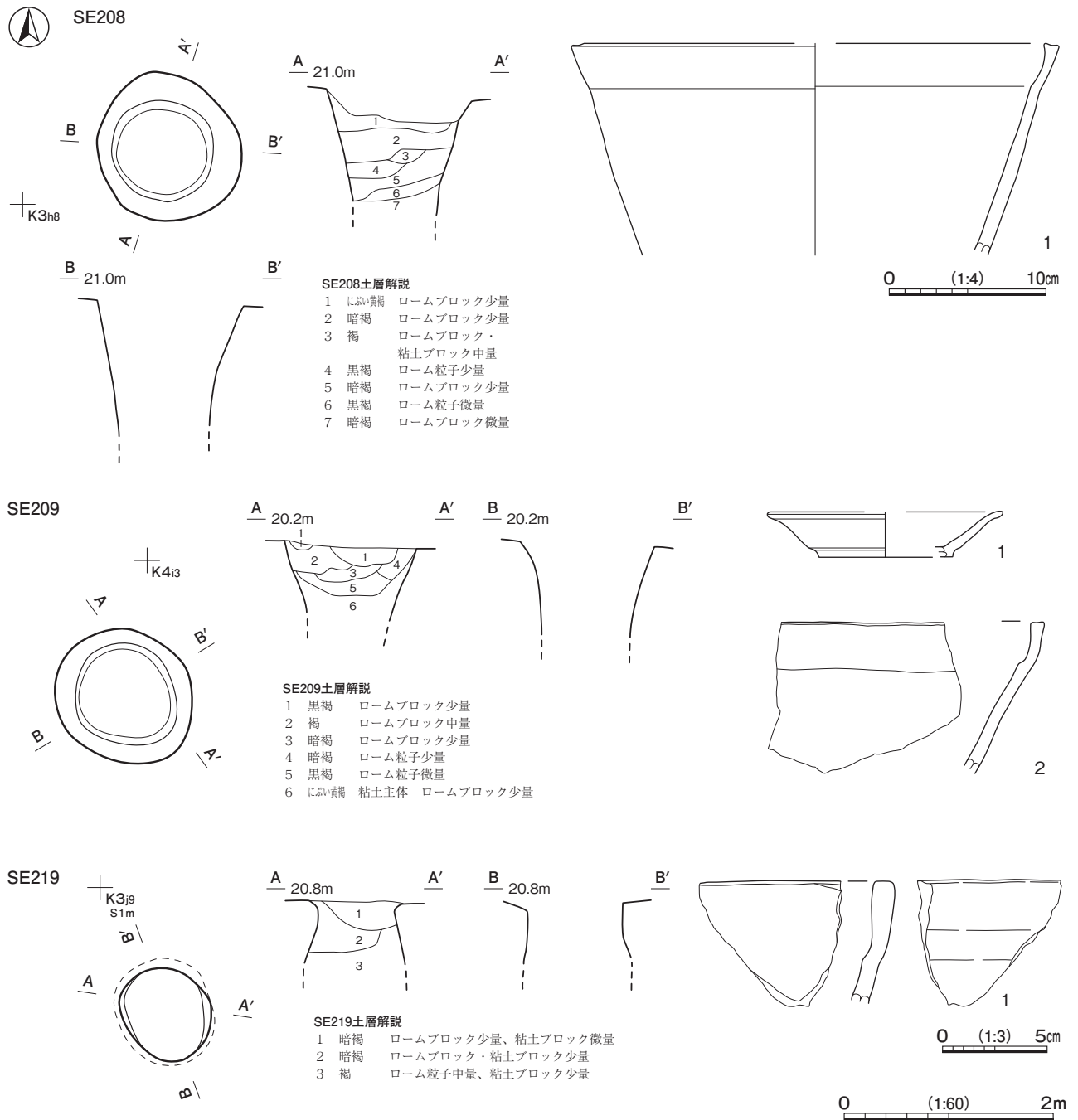
No.	試料番号	品名	学名	木取
6	SE109 No.13	楡	ブナ科クリ属クリ	柾目

No.29 ブナ科クリ属クリ



SE108土層解説
 1 暗褐色 粘土ブロック・ローム粒子微量
 2 暗褐色 粘土粒子少量、ローム粒子微量

第120図 第2号区画（北）とその周辺の井戸跡・出土遺物実測図(1)



第 121 図 第 2 号区画 (北) とその周辺の井戸跡・出土遺物実測図(2)

第 63 表 第 2 号区画 (北) とその周辺の井戸跡出土遺物一覧 (第 120・121 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
100-1	土師質土器	皿	7.6	2.8	4.3	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部・体部下端がやや強いナデ 底部回転糸切り	覆土上層	100% PL40
100-2	土師質土器	皿	[7.5]	1.9	4.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	器高低い 底部回転糸切り 板目圧痕	覆土	60% 口縁部煤付着
208-1	土師質土器	内耳鍋	[31.0]	(13.6)	-	長石・石英・雲母・細礫	灰褐色	普通	口縁部直線的な立ち上がり	覆土	5% PL41
209-1	土師質土器	皿	[11.2]	2.2	[6.4]	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	口縁部わずかに外反	覆土	20%
209-2	土師質土器	内耳鍋	-	(7.3)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	口縁部直線的な立ち上がり	覆土	5%
219-1	土師質土器	内耳鍋	-	(6.0)	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	口縁部内面にやや強いナデ	覆土	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
108-1	石臼	径 23.5	孔径 2.3	7.3~9.7	6850.5	安山岩	下白 側面・裏面敲打による整形	覆土	PL41

第 64 表 第 2 号区画（北）とその周辺の井戸跡一覧

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	主 な 出 土 遺 物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
84	L 3 a8	-	円形	2.79 × 2.52	250	漏斗状	平坦	人為	碗 皿 鉢 播鉢 内耳鍋 甕	本跡→SD117 SK1126と重複
85	L 3 a8	N - 70° - E	楕円形	2.00 × 1.70	302	漏斗状	平坦	人為	皿 内耳鍋 桶 加工材	SD112→本跡
93	K 3 j9	N - 8° - E	楕円形	1.22 × 0.95	255	漏斗状	皿状	人為	-	第 109 図 本跡→HT 7 PL13
96	L 3 b7	N - 18° - W	不整楕円形	3.98 × 2.38	(500)	漏斗状	-	人為	坏 碗 皿 鉢 播鉢 内耳鍋 甕 支脚 石臼 石鍋カ 砥石カ 五輪塔 鉄滓	本跡→SD126 SD150、SK1206と重複 平場状の平坦面有する
99	L 3 d7	N - 34° - W	不整楕円形	(2.80) × (2.27)	(390)	漏斗状	-	自然	皿 播鉢 内耳鍋 甕	SD140・150→本跡
100	L 3 b6	-	円形	1.23 × 1.22	193	円筒状	平坦	-	皿 内耳鍋	SD113・126と重複 PL16・40
108	L 4 a4	-	円形	0.88 × 0.86	234	円筒状	平坦	自然	石臼	本跡→SD120 PL17・41
109	L 3 i7	N - 18° - W	楕円形	2.08 × 1.85	(320)	漏斗状	-	-	漆器碗 曲物 桶 欵 井戸枠	本跡→SD165、SA 6 SD139と重複
208	K 3 g8	-	円形	1.45 × 1.34	(126)	円筒状	-	自然	内耳鍋	PL17・41
209	K 4 i2	N - 37° - W	楕円形	1.39 × 1.26	(86)	外傾 直立	-	人為	皿 内耳鍋	PL17
219	K 3 j9	N - 20° - W	楕円形	0.92 × 0.73	(60)	-	-	-	内耳鍋	

オ 土坑

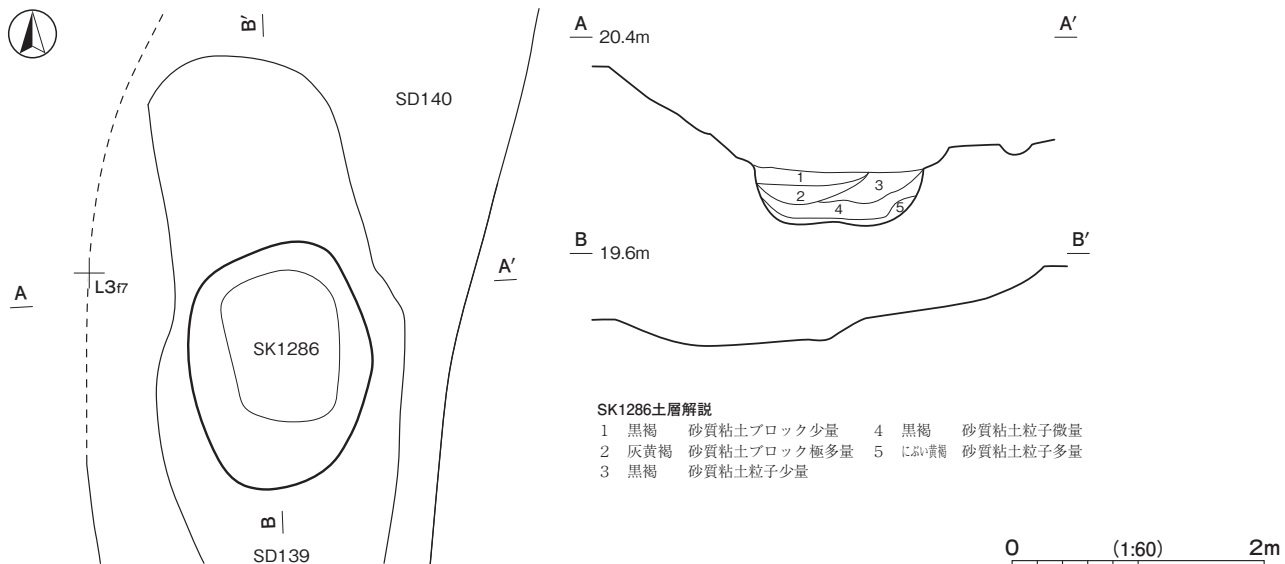
第 2 号区画（北）では、24 基の土坑を確認した。中央部から南側にかけて、大きく攪乱されているため、土坑の分布はほぼ北側に限定されている。第 28・30 号掘立柱建物の周囲に、長方形の第 1144・1145・1355 号土坑、楕円形の第 1106・1107・1110・1112・1141 号土坑が、軸方向をほぼ揃えて位置している。第 113 号溝と重複している第 1355・1358・1359 号土坑、その南側の第 1354 号土坑は、第 113 号溝と第 118 号溝の間で確認した厚さ 15cm 前後の整地層下で確認したもので、前述の土坑群とは時期差がある。北部の第 271・281 号溝付近からは、大型の第 2929 号土坑や長楕円形の第 2747・2927 号土坑などがまばらに分布している。また、東部の台地斜面部から低地部にかけては、第 1108・1109 号土坑のほか、第 120 号溝と重複して第 2934 号土坑が位置している。第 1286 号土坑は、重複している第 139 号溝との関係は不明である。なお、第 139 号溝も第 1286 号土坑との重複地点で、長楕円形の土坑状に一段深く掘り込んでいる。この点は第 1 号区画の第 1385 号土坑と類似している。以下、特徴的な土坑について記述し、それ以外については実測図と一覧で記載する。

第 1286 号土坑（第 122・123 図）

位置 第 2 号区画（北）西部南の L 3 f7 区、標高 20.0 m ほどの低地部に位置している。

重複関係 重複している第 139 号溝跡との関係は不明である。

規模と形状 重複している第 139 号溝跡は、本跡を取り囲むように長楕円形の土坑状に一段深く掘り込んでいる。そ



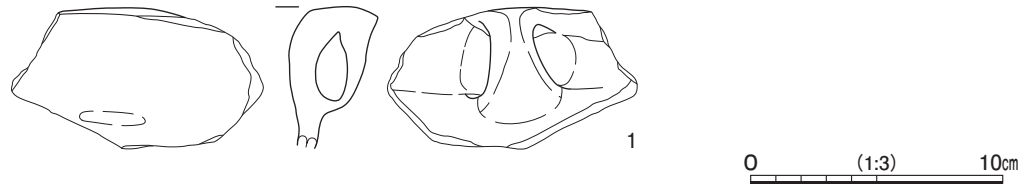
第 122 図 第 1286 号土坑実測図

の規模は長径 9.0 m、短径 3.4 m で、深さ 40cm ほどである。本跡の確認できた規模は、長径 1.98 m、短径 1.45 m の楕円形で、深さ 41cm である。長径方向は N-0° である。

覆土 5層に分層できる。第2層は砂質粘土層で、第1・2層は人為堆積である。

遺物出土状況 覆土上層から土師質土器 4 点（内耳鍋）、炭化種子 1 点（種不明）が出土している。ほかに混入した須恵器片 1 点が出土している。

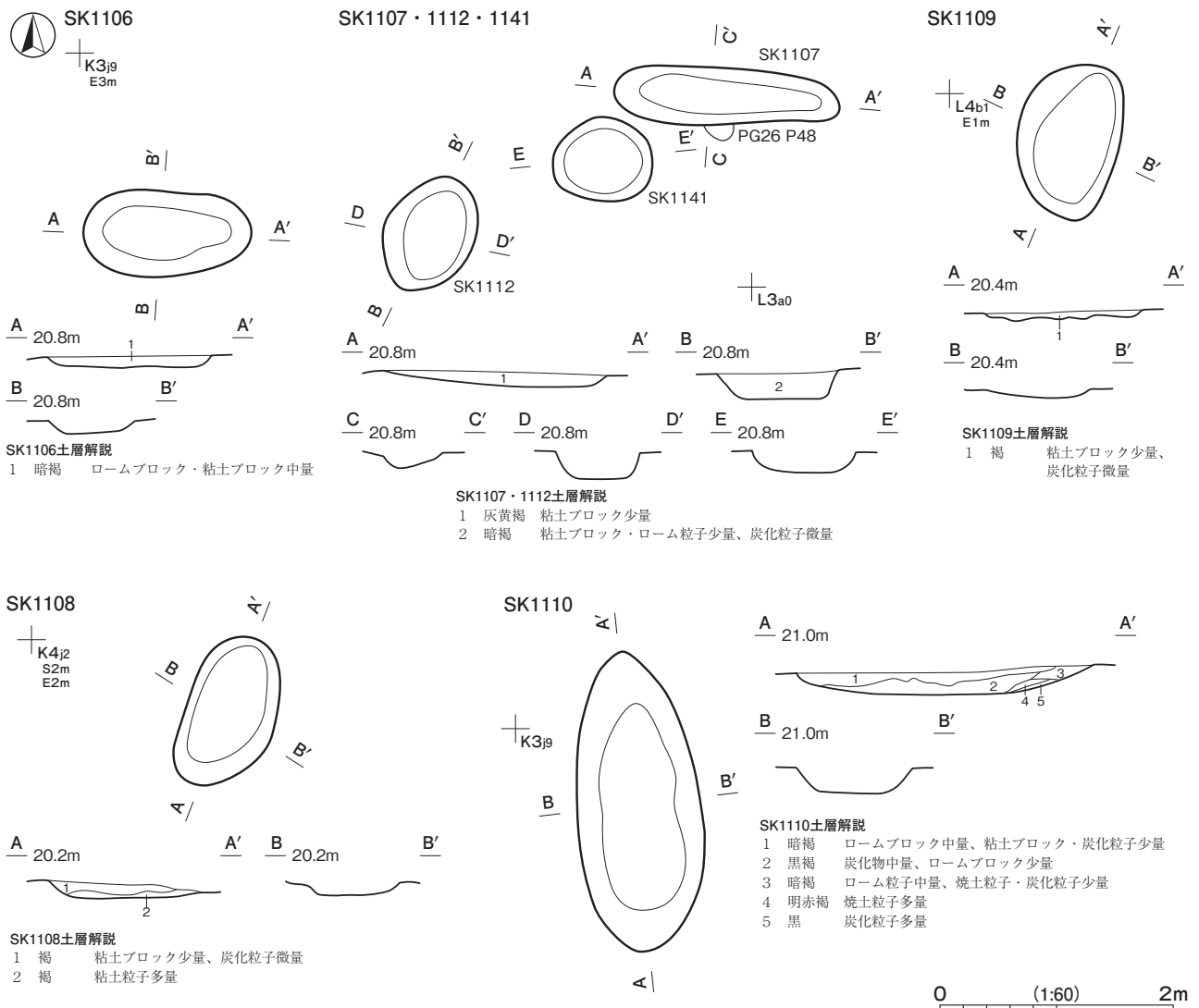
所見 時期は、出土土器から 16 世紀代と考えられる。本跡は、第 139 号溝跡の底面で確認した大型の土坑で、第 1 号区画の第 1385 号土坑と類似している。この特徴から、第 139 号溝跡とは一連のもので、雨水や湧水の貯水施設としての機能が考えられる。



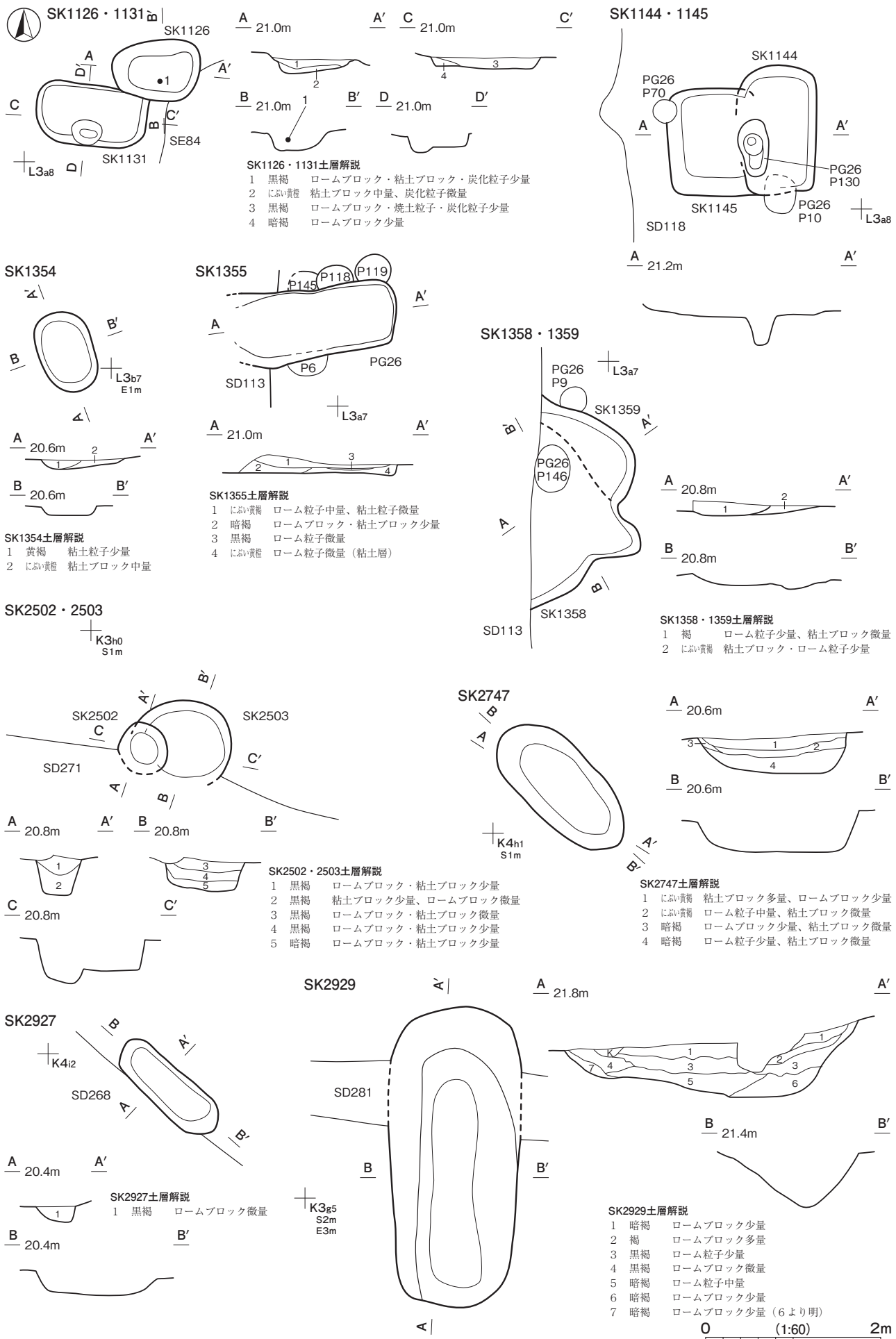
第 123 図 第 1286 号土坑出土遺物実測図

第 65 表 第 1286 号土坑出土遺物一覧（第 123 図）

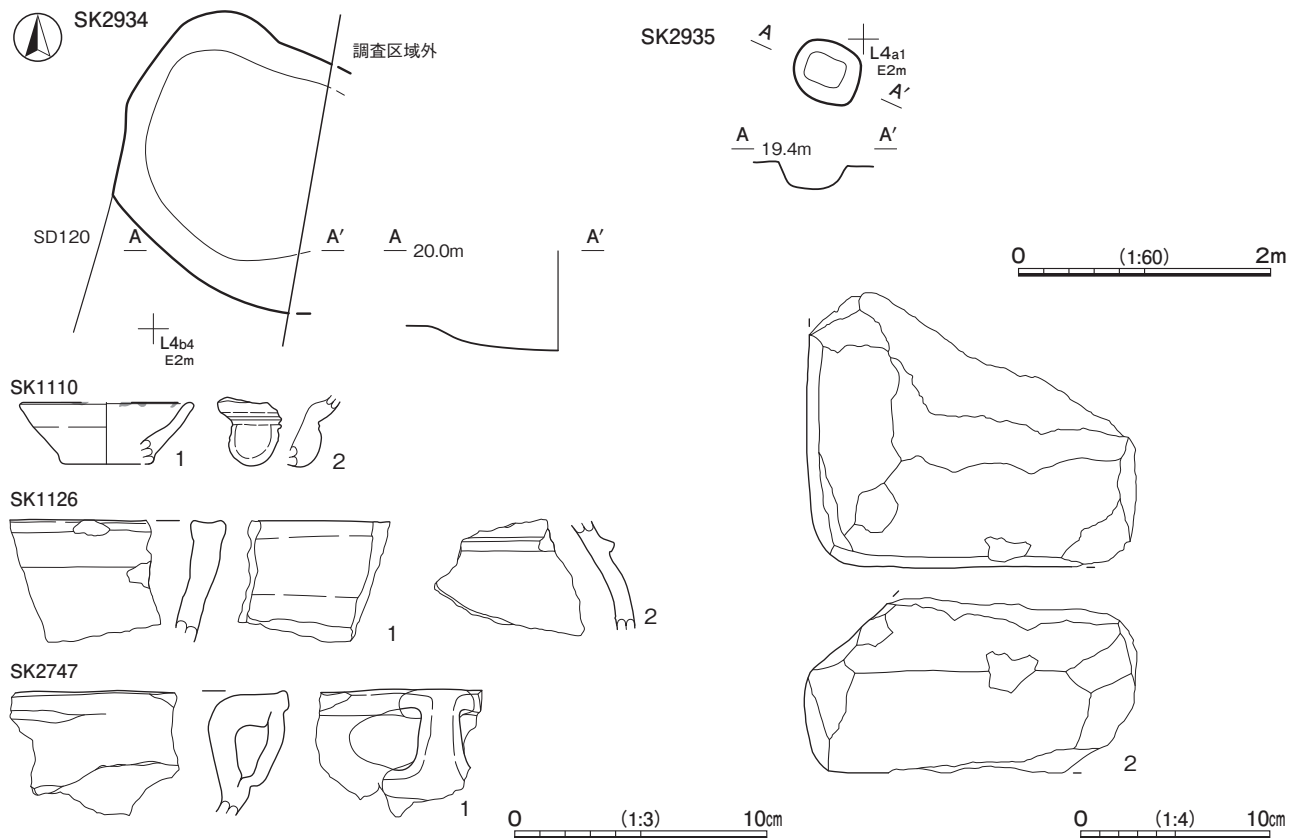
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	内耳鍋	-	(5.6)	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	耳断面紐状	覆土上層	5%



第 124 図 第 2 号区画（北）とその周辺の土坑実測図(1)



第125図 第2号区画（北）とその周辺の土坑実測図(2)



第 126 図 第 2 号区画（北）とその周辺の土坑・出土遺物実測図

第 66 表 第 2 号区画（北）とその周辺の土坑出土遺物一覧（第 126 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1110-1	土師質土器	皿	[6.7]	2.5	[3.7]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部下・体部下端がやや強いナデ	覆土	10% 口縁部油煙付着
1110-2	土師質土器	不明	-	(2.7)	-	長石	にぶい黄橙	普通	裏面は剥離 先端部は乳頭状に整形 香炉等の脚部の可能性	覆土	5%
1126-1	土師質土器	内耳鍋	-	(4.8)	-	長石・石英・雲母	赤褐	普通	口縁部内面弱いナデ	覆土中層	5%
1126-2	土師質土器	茶釜	-	(4.6)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	外面に一条のタガ	覆土	5%
2747-1	土師質土器	内耳鍋	-	(5.0)	-	長石・石英・雲母	赤褐	普通	耳断面紐状	覆土	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
2747-2	五輪塔	(14.6)	(17.6)	(9.3)	(2,500)	花崗岩	火輪	覆土	PL43

第 67 表 第 2 号区画（北）とその周辺の土坑一覧

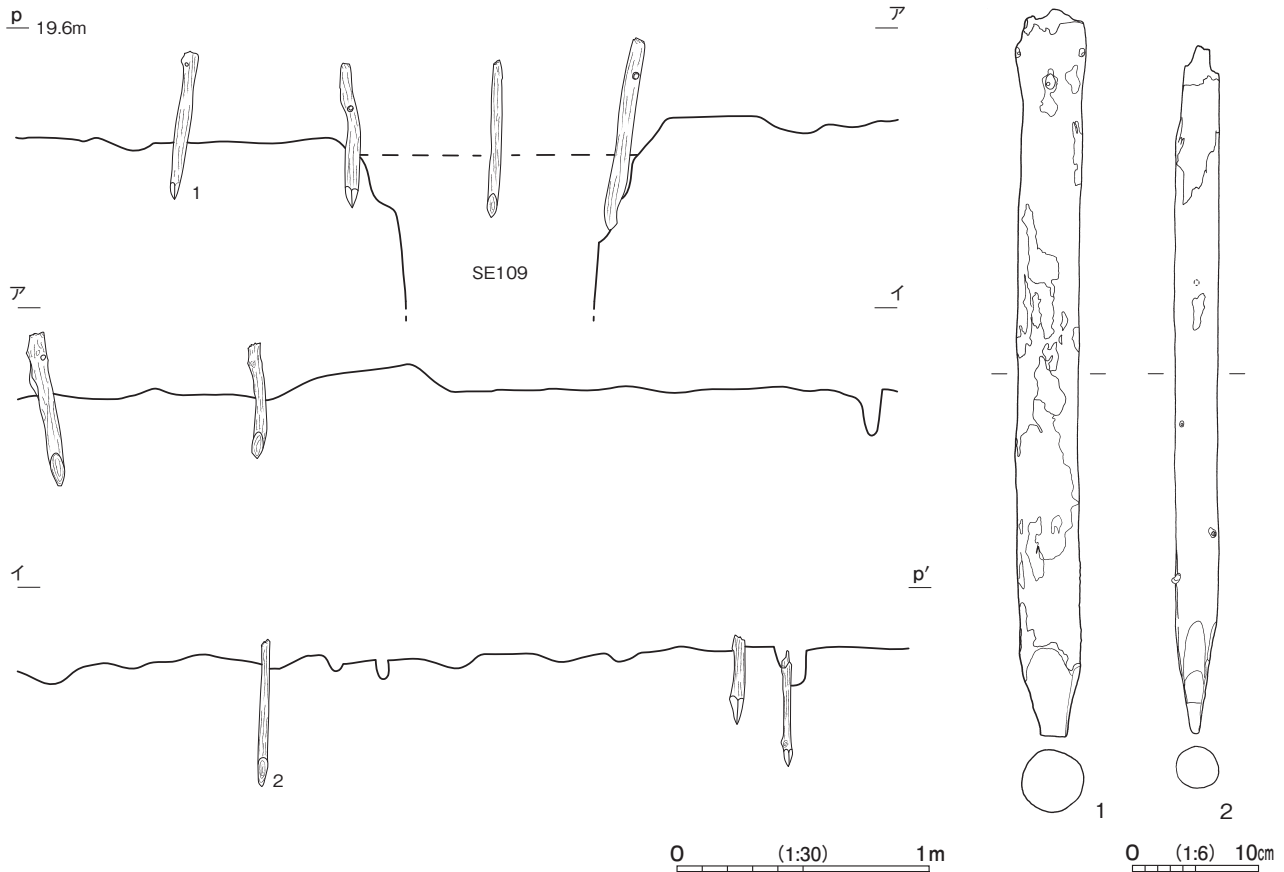
番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
1106	K 3 j 9	N - 88° - W	長楕円形	1.45 × 0.72	10	外傾	平坦	自然	内耳鍋	
1107	K 3 j 9	N - 85° - W	長楕円形	1.92 × 0.50	12	外傾	皿状	自然	-	PG26 P 48 と重複
1108	K 4 j 2	N - 20° - E	楕円形	1.35 × 0.77	14	外傾	皿状	自然	-	
1109	L 4 b 1	N - 22° - E	楕円形	1.34 × 0.92	6	外傾	皿状	自然	-	
1110	K 3 j 9	N - 6° - W	長楕円形	2.59 × 1.05	20	外傾	皿状	人為	皿 内耳鍋 不明土製品	底面に焼土・炭化物が遺存 PL20
1112	K 3 j 9	N - 25° - E	楕円形	1.02 × 0.77	22	外傾	平坦	自然	皿	
1126	K 3 j 8	N - 85° - W	楕円形	1.02 × 0.72	23	外傾	平坦	自然	皿 内耳鍋 茶釜	SE84、SK1131 と重複
1131	K 3 j 8	N - 82° - W	隅丸長方形	1.28 × 0.70	14	外傾	平坦	自然	-	SK1126 と重複 ビット 1 基
1141	K 3 j 9	N - 83° - E	楕円形	0.85 × 0.70	18	外傾	皿状	-	-	
1144	K 3 j 7	N - 0°	長方形	1.40 × 0.88	7	外傾	平坦	-	-	SD118 (段切面) で確認 PG26 P 10・130、 SK1145 と重複
1145	K 3 j 7	N - 0°	長方形	1.23 × (1.00)	9	外傾	平坦	-	-	SD118 (段切面) で確認 本跡→PG26 P 70 PG26 P 10・130、 SK1144 と重複
1206	L 3 b 7	N - 8° - E	[楕円形]	1.18 × (0.60)	40	外傾	皿状	-	内耳鍋	第 114 図 SE96、SD126 と重複

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
1286	L 3 f7	N - 0°	楕円形	1.98 × 1.45	41	外傾	平坦	人為	坏 内耳鍋 炭化種子	SD139 底面で確認
1354	L 3 a7	N - 21° - W	楕円形	0.95 × 0.62	12	外傾	傾斜	自然	-	整地層下
1355	K 3 j6	N - 82° - E	[隅丸長方形]	(1.80) × 0.88	20	外傾	平坦	人為	-	整地層下 SD113、PG26 P 6・118・119・145と重複
1358	L 3 a6	N - 31° - W	[不整形]	(2.05) × (1.60)	16	外傾	皿状	自然	-	整地層下 本跡→SK1358 SD113、PG26 P 146と重複
1359	L 3 a6	N - 69° - W	[楕円形]	(1.38) × (0.70)	8	外傾	皿状	自然	-	整地層下 本跡→SK1358 SD113、PG26 P 9と重複
2502	K 3 h0	-	[円形]	0.58 × (0.55)	50	外傾	平坦	自然	-	SK2503 → 本跡 → SD271
2503	K 3 h0	N - 85° - E	[円形・楕円形]	1.17 × (0.90)	35	外傾	平坦	自然	-	本跡→SK2502 → SD271
2747	K 4 h1	N - 48° - W	長楕円形	1.82 × 0.82	42	外傾	平坦	人為	内耳鍋 五輪塔	PL43
2927	K 4 i2	N - 45° - W	長楕円形	1.42 × 0.50	23	外傾	平坦	自然	-	SD268 と重複
2929	K 3 g6	N - 2° - W	長楕円形	3.42 × 1.45	67	外傾	U字状	人為	-	本跡→SD281 PL23
2934	L 4 a4	N - 64° - W	[隅丸長方形]	1.87 × (1.64)	20	外傾	平坦	-	-	SD120 と重複
2935	L 4 c1	N - 65° - W	楕円形	0.55 × 0.48	21	外傾	皿状	-	-	

カ 柱穴列

第2号区画(北)の南部、第165号溝の西壁に沿うように、芯持材の第6号柱穴列(杭列)を確認した。打ち込み杭で、約1m間隔で南北10mにわたっている。護岸施設の可能性がある。また、第2号区画(北)北部、第113号溝の東西壁に沿うように、約2m間隔でピット群が存在している。これらについて、整理段階で第29号柱穴列とした。橋脚や護岸施設の可能性がある。以下、実測図と一覧で記載する。

第6号柱穴列 (第88・127図 PL12・37)



第127図 第6号柱穴列(杭列)・出土遺物実測図

第 68 表 第 6 号柱穴列出土遺物一覧 (第 127 図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1	杭	57.7	-	径5.0	-	マツ科マツ属	打ち込み杭 芯持材 先端部削り出し	-	PL37
2	杭	54.8	-	径3.2	-	スギ科スギ属スギ	打ち込み杭 芯持材 先端部削り出し	-	PL37

第 6 号柱穴列出土植物遺体同定調査

(株) 吉田生物研究所

茨城県に所在する島名本田遺跡で出土した、植物遺体の同定結果を以下に報告する。

1 試料

試料は第 6 号柱穴列から出土した杭 2 点である。

2 観察方法

剃刀で木口 (横断面)、柁目 (放射断面)、板目 (接線断面) の各切片を採取し、永久プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

3 結果

樹種同定結果 (針葉樹 2 種) の表と顕微鏡写真を示し、以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

1) マツ科マツ属 [二葉松類] (Pinus sp.) (遺物 No. 22) (写真 No. 22)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は急であった。大型の垂直樹脂道が細胞間隙としてみられる。柁目では放射組織の放射柔細胞の分野壁孔は窓型である。上下両端の放射仮道管内は内腔に向かって鋸歯状に著しくかつ不規則に突出している。板目では放射組織は単列で 1 ~ 15 細胞高のものと、水平樹脂道を含んだ紡錘形のものがある。マツ属 [二葉松類] はクロマツ、アカマツがあり、北海道南部、本州、四国、九州に分布する。

2) スギ科スギ属スギ (Cryptomeria japonica D. Don) (遺物 No. 23) (写真 No. 23)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行はやや急であった。樹脂細胞は晩材部で接線方向に並んでいた。柁目では放射組織の分野壁孔は典型的なスギ型で 1 分野に 1 ~ 3 個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。

樹脂細胞の末端壁はおおむね扁平である。スギは本州、四国、九州の主として太平洋側に分布する。

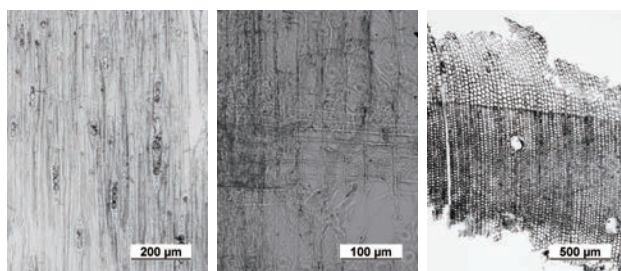
参考文献

- 林 昭三「日本産木材顕微鏡写真集」京都大学木質科学研究所 (1991)
- 伊東隆夫「日本産広葉樹材の解剖学的記載 I ~ V」京都大学木質科学研究所 (1999)
- 島地 謙・伊東隆夫「日本の遺跡出土木製品総覧」雄山閣出版 (1988)
- 北村四郎・村田 源「原色日本植物図鑑木本編 I・II」保育社 (1979)
- 奈良国立文化財研究所「奈良国立文化財研究所 史料第 27 冊 木器集成図録 近畿古代篇」(1985)
- 奈良国立文化財研究所「奈良国立文化財研究所 史料第 36 冊 木器集成図録 近畿原始篇」(1993)

使用顕微鏡 Nikon DS-Fi1

No.	試料番号	品名	学名	木取
1	SA6 No. 2	杭	マツ科マツ属 [二葉松類]	芯持材
2	SA6 No. 8	杭	スギ科スギ属スギ	芯持材

No.22 マツ科マツ属

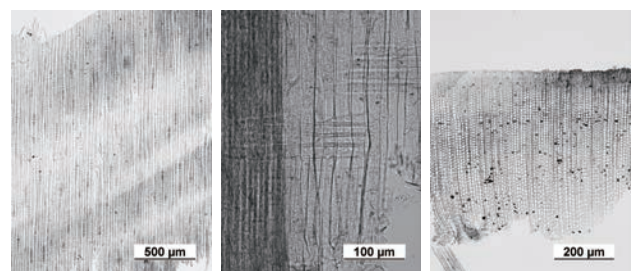


板目

柁目

木口

No.23 スギ科スギ属スギ



板目

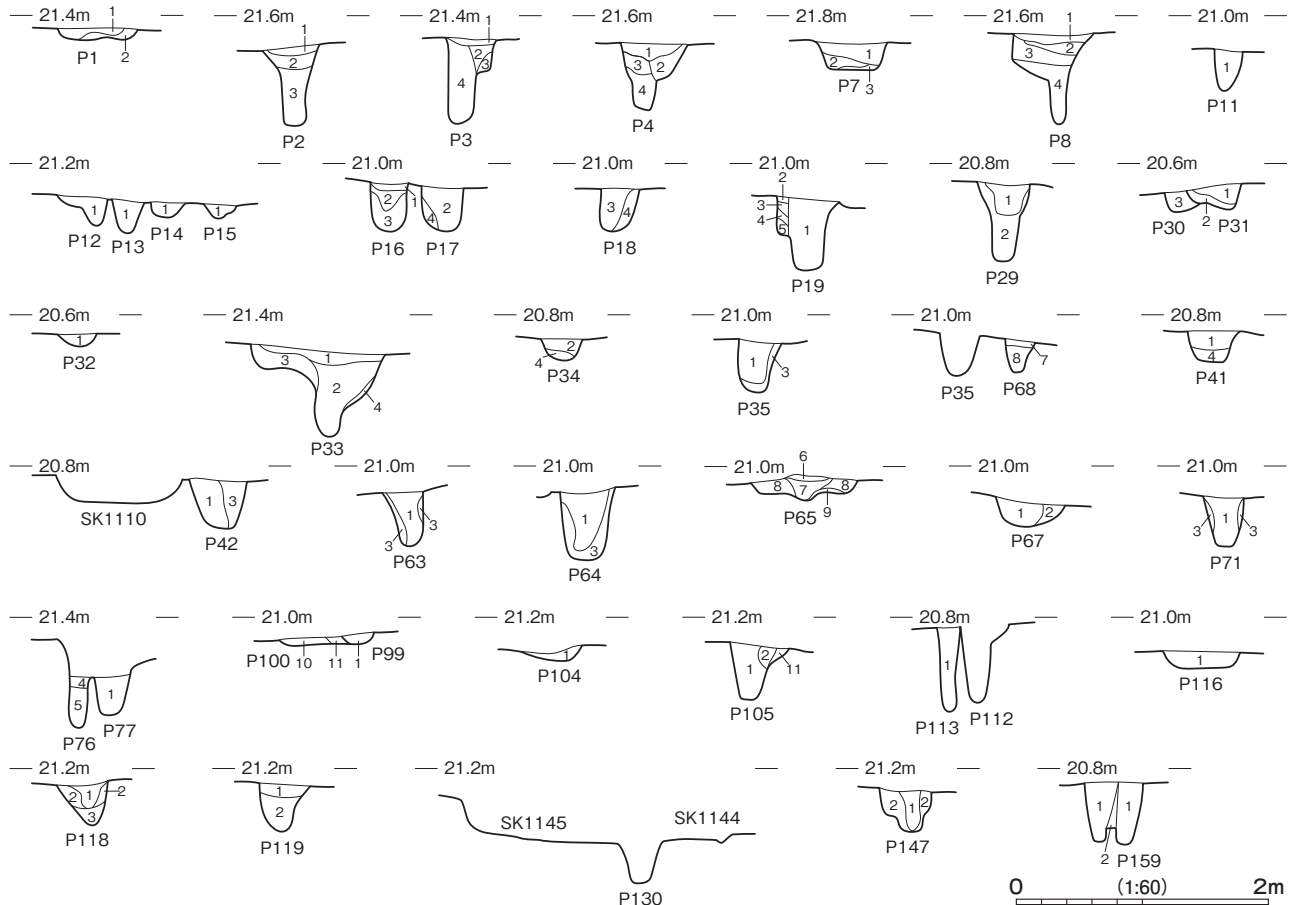
柁目

木口

キ ピット群

第2号区画（北）には、北部の第118号溝の南部を中心に、第26号ピット群が存在している。一部のピットについては、規模や覆土の状況、配置などから、第28～30号掘立柱建物の柱穴と判断した。それ以外にも、柱穴と考えられるものが多数存在している。これらについては、第26号ピット群とした。ピット群の時期は、掘立柱建物や土坑群などとほぼ同様に、15世紀後半から16世紀前半と考えられる。以下、実測図と一覧で記載する。なお、土層断面について、平面図が煩雑になるためにセクションポイントを入れていないが、南ないし西を基準に測量している。また、以下の一覧には、掘立柱建物に帰属したものも、番号を振り替えずに記載している。

第26号ピット群（第8～10・14・129図 PL12）



P1土層解説

- 1 黒褐 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 2 明黄褐 ローム粒子多量

P2土層解説

- 1 暗褐 ロームブロック中量、粘土ブロック少量
- 2 褐 ローム粒子多量、粘土ブロック少量
- 3 明黄褐 ローム粒子多量、粘土ブロック少量

P3土層解説

- 1 黒褐 ロームブロック少量
- 2 褐 ローム粒子多量
- 3 褐 ローム粒子多量（2より明）
- 4 暗褐 ローム粒子多量、粘土粒子少量

P4・8土層解説

- 1 暗褐 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 褐 ローム粒子多量、粘土粒子微量
- 3 暗褐 ローム粒子多量、粘土粒子微量
- 4 褐 ロームブロック多量、粘土粒子少量

P7土層解説

- 1 黒褐 ロームブロック中量
- 2 黒褐 ローム粒子少量
- 3 褐 ローム粒子多量

P11土層解説

- 1 暗褐 ロームブロック・粘土ブロック少量

P12～15土層解説

- 1 黒褐 ロームブロック少量

P16～18土層解説

- 1 暗褐 ロームブロック中量、粘土ブロック少量
- 2 褐 ローム粒子多量、粘土ブロック少量
- 3 暗褐 ロームブロック中量、粘土粒子少量
- 4 灰黄褐 粘土粒子多量

P19土層解説

- 1 褐 ロームブロック・粘土ブロック中量、炭化粒子微量
- 2 暗褐 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐 ローム粒子・粘土粒子少量
- 4 褐 ロームブロック多量
- 5 褐 ロームブロック少量

P29土層解説

- 1 褐 粘土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 褐 ローム粒子少量

P30～32土層解説

- 1 黒褐 粘土ブロック少量
- 2 黒褐 粘土ブロック中量
- 3 暗褐 粘土粒子微量

P33土層解説

- 1 黒褐 ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐 ローム粒子多量、粘土ブロック・炭化粒子微量
- 3 褐 ローム粒子多量、粘土ブロック微量
- 4 灰黄褐 粘土ブロック中量、ローム粒子少量

P34・35・41・42土層解説

- 1 暗褐 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 2 灰黄褐 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 褐 ローム粒子多量、炭化粒子微量
- 4 におい黄褐 粘土粒子多量

P63～65・67・68・71・76・77・99・100・104・105・113・116・119土層解説

- 1 暗褐 粘土ブロック・ローム粒子少量
- 2 褐 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 3 灰黄褐 粘土粒子多量、ロームブロック少量
- 4 暗褐 ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
- 5 灰黄褐 粘土粒子多量
- 6 黒褐 ローム粒子・焼土粒子少量
- 7 黒褐 ロームブロック少量
- 8 暗褐 ロームブロック少量
- 9 明黄褐 粘土粒子多量
- 10 暗褐 ローム粒子中量、炭化粒子・粘土粒子少量
- 11 褐 ローム粒子中量

P118土層解説

- 1 暗褐 粘土ブロック・ローム粒子少量
- 2 褐 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 3 灰黄褐 粘土粒子多量、ロームブロック少量

P147土層解説

- 1 黒褐 ローム粒子・粘土粒子少量
- 2 褐 ロームブロック中量、粘土ブロック少量

P159土層解説

- 1 暗褐 粘土ブロック・ローム粒子少量
- 2 におい黄褐 黄褐色粘土層主体 白色粘土ブロック少量

第129図 第26号ピット群実測図

第71表 第26号ピット群ピット一覧

番号	位置	平面形	規 模 (cm)		番号	位置	平面形	規 模 (cm)		番号	位置	平面形	規 模 (cm)	
			長径(軸) × 短径(軸)	深さ				長径(軸) × 短径(軸)	深さ				長径(軸) × 短径(軸)	深さ
1	K 3 i7	楕円形	70 × 30	10	54	L 3 a4	楕円形	52 × 33	55	111	K 3 j8	[楕円形]	(36) × 26	46
2	K 3 i7	不整円形	48 × 42	63	55	K 3 j7	楕円形	32 × 27	55	112	K 3 j8	楕円形	44 × 34	60
3	K 3 i7	楕円形	42 × 34	68	56	K 3 j8	円形	30 × 29	47	113	K 3 j8	楕円形	17 × 15	15
4	K 3 i6	楕円形	67 × 57	52	57	K 3 j7	円形	37 × 35	47	114	K 3 i7	円形	25 × 23	32
5	K 3 i6	楕円形	33 × 28	40	58	K 3 j7	円形	37 × 35	10	115	K 3 i7	楕円形	72 × 40	45
6	K 3 j6	楕円形	50 × 40	60	59	K 3 j8	楕円形	28 × 25	35	116	K 3 j8	円形	62 × 62	74
7	K 3 h5	楕円形	58 × 50	74	60	K 3 j8	円形	32 × 30	30	118	K 3 j7	円形	43 × 40	35
8	K 3 i6	楕円形	78 × 58	70	61	K 3 j8	楕円形	50 × 45	46	119	K 3 j7	円形	42 × 39	37
9	L 3 a6	円形	32 × 30	51	62	K 3 j8	円形	45 × 40	50	120	K 3 j8	楕円形	36 × 30	45
10	K 3 j7	楕円形	44 × 36	47	63	K 3 i8	楕円形	44 × 36	42	121	K 3 j8	楕円形	42 × 37	22
11	L 3 a7	楕円形	30 × 26	32	64	K 3 i8	円形	40 × 38	59	122	K 3 j8	楕円形	50 × 40	37
12	K 3 i8	不整円形	46 × 37	23	65	K 3 j7	楕円形	85 × 47	18	123	K 3 j7	[楕円形]	(60) × 40	83
13	K 3 i8	楕円形	32 × 28	26	66	L 3 a7	楕円形	88 × 58	54	124	K 3 j7	[楕円形]	(53) × 31	26
14	K 3 h8	楕円形	28 × 24	12	67	L 3 b7	楕円形	55 × 45	18	125	L 3 b7	楕円形	45 × 40	13
15	K 3 h8	円形	36 × 33	14	68	L 3 a7	楕円形	52 × 23	27	126	K 3 j7	楕円形	32 × 24	43
16	K 3 i8	円形	30 × 30	36	69	K 3 j7	楕円形	43 × 34	50	127	K 3 j7	円形	26 × 26	23
17	K 3 i9	円形	37 × 37	33	70	K 3 j7	円形	28 × 27	48	129	K 3 j7	円形	26 × 25	47
18	K 3 i9	円形	28 × 28	33	71	K 3 j7	楕円形	33 × 28	38	130	K 3 j7	楕円形	66 × 35	37
19	K 3 i9	楕円形	50 × 45	56	72	K 3 j7	円形	29 × 27	40	131	K 3 j8	楕円形	30 × 25	-
20	K 3 j8	[楕円形]	(55) × 42	10	73	K 3 j7	円形	23 × 23	53	132	K 3 j7	楕円形	33 × 22	33
21	K 3 j8	楕円形	70 × 44	73	74	K 3 i7	楕円形	35 × 25	63	133	K 3 j7	楕円形	50 × 25	35
22	K 3 j9	楕円形	58 × 33	53	76	K 3 i7	楕円形	32 × 25	67	134	K 3 i7	円形	40 × 38	35
23	K 3 j7	円形	20 × 19	50	77	K 3 i7	楕円形	33 × 30	45	135	K 3 i7	[楕円形]	(40) × 35	10
24	K 3 j7	楕円形	23 × 18	40	78	K 3 i7	円形	28 × 28	26	136	K 3 i7	楕円形	33 × 24	33
25	K 3 j8	楕円形	28 × 23	53	79	K 3 i7	円形	30 × 30	8	138	K 3 i8	楕円形	24 × 20	20
26	K 3 j7	円形	46 × 45	40	81	K 3 i8	円形	25 × 25	4	139	K 3 j8	楕円形	30 × 20	11
27	K 3 i7	円形	52 × 50	57	82	K 3 i8	円形	25 × 23	7	140	K 3 j8	円形	40 × 38	40
28	L 3 a7	楕円形	42 × 30	34	83	K 3 i8	円形	28 × 28	8	141	K 3 j8	楕円形	23 × 20	17
29	L 3 a7	楕円形	45 × 34	60	84	K 3 i8	円形	30 × 28	29	143	K 3 i8	円形	26 × 26	38
30	L 3 b8	楕円形	26 × 22	15	85	K 3 i8	楕円形	43 × 30	35	144	K 3 i8	楕円形	33 × 30	68
31	L 3 b7	楕円形	36 × 26	20	86	K 3 i8	円形	24 × 24	37	145	K 3 j6	[円形]	40 × (35)	60
32	L 3 b7	楕円形	34 × 30	10	88	K 3 i8	楕円形	42 × 35	11	146	L 3 a6	楕円形	55 × 38	58
33	L 3 a6	楕円形	133 × 48	66	89	K 3 i8	楕円形	50 × 34	32	147	L 3 a5	楕円形	42 × 31	32
34	L 3 b7	楕円形	38 × 25	18	90	K 3 i8	円形	20 × 19	47	148	L 3 a6	楕円形	46 × 40	50
35	L 3 a7	円形	38 × 36	40	91	K 3 i7	円形	24 × 22	11	149	L 3 a6	楕円形	40 × 30	25
36	K 3 i9	楕円形	36 × 32	42	93	K 3 i8	[楕円形]	(40) × 30	50	150	L 3 a6	楕円形	22 × 15	29
37	K 3 i8	楕円形	34 × 30	20	94	K 3 i8	楕円形	53 × 28	55	151	K 3 i6	円形	53 × 50	75
38	K 3 i8	[楕円形]	42 × (34)	58	95	K 3 i8	不整円形	22 × 22	4	152	L 3 b7	楕円形	33 × 20	-
40	L 3 b8	楕円形	28 × 22	21	96	K 3 i8	円形	28 × 26	9	153	L 3 a4	楕円形	30 × 27	20
41	K 3 j9	楕円形	48 × 40	25	97	K 3 j7	楕円形	25 × 20	20	154	K 3 j4	楕円形	50 × (35)	60
42	K 3 j9	楕円形	52 × 40	38	98	K 3 j7	楕円形	60 × 54	65	155	L 3 a6	円形	27 × 25	14
43	L 3 a0	円形	30 × 28	22	99	K 3 j7	楕円形	47 × 32	7	156	K 3 j6	円形	29 × 28	30
44	L 3 a0	楕円形	22 × 20	20	100	K 3 j7	[楕円形]	(55) × 47	6	157	K 3 j7	円形	40 × 38	48
45	L 4 a1	円形	18 × 17	30	101	K 3 j7	楕円形	30 × 25	10	158	K 3 j6	円形	28 × 27	19
46	K 3 j0	円形	32 × 30	24	102	K 3 j7	楕円形	62 × 42	40	159	K 3 j7	楕円形	45 × 40	50
47	K 3 j0	円形	20 × 20	31	104	K 3 j7	楕円形	55 × 44	18	160	K 3 j7	楕円形	45 × 30	57
48	K 3 j9	[円形]	25 × (15)	15	105	K 3 i7	楕円形	48 × 30	45	161	K 3 j7	楕円形	45 × 30	37
49	L 3 a5	円形	28 × 26	6	106	K 3 i7	[楕円形]	106 × 90	12	162	K 3 j7	円形	26 × 25	20
50	L 3 a5	円形	22 × 21	28	107	K 3 j7	円形	25 × 25	10	163	K 3 j7	円形	24 × 22	35
51	K 3 j5	円形	24 × 22	4	108	L 3 a6	[円形]	32 × (30)	38	164	K 3 i7	楕円形	18 × 16	47
52	K 3 j4	楕円形	54 × 45	72	109	K 3 i7	[楕円形]	(30) × 34	55	165	K 3 i7	楕円形	35 × 31	55
53	K 3 j4	楕円形	32 × 20	67	110	K 3 i7	楕円形	50 × 35	56					



第 130 図 第 2 号区画（南）とその周辺の遺構全体図

(3) 第2号区画(南)とその周辺の遺構と遺物

ア 溝跡

第2号区画(南)には、西側の第123号溝とM3f9区付近で約90°に屈曲し、南側を東西に延びる第122号溝がある。調査段階では、形状の違いから、両者を別の遺構としたが、明らかな重複関係を捉えることができなかったため、一連の遺構と判断した。また、第123号溝の北側は、第139号溝として調査したが、位置的には一連の遺構と考えられる。第122号溝の断面は逆台形で、壁際と底面付近に多数のピットを伴っている。これらのピットについては、第28号柱穴列として後述する。第123号溝と直交して第132号溝が位置している。第133号溝は区画内を南北に延びる溝で、第123号溝と同一軸方向である。第130号溝の軸方向は、第123・133号溝とほぼ同様である。以下、第2号区画(南)の第122・123号溝について記述し、それ以外については実測図と一覧で記載する。

第122号溝跡(第131～134図 PL 8・9・33)

位置 第2号区画(南)の南部を区画している溝で、M3e9～M4d4区、標高20.0mほどの台地斜面部から低地部に位置している。

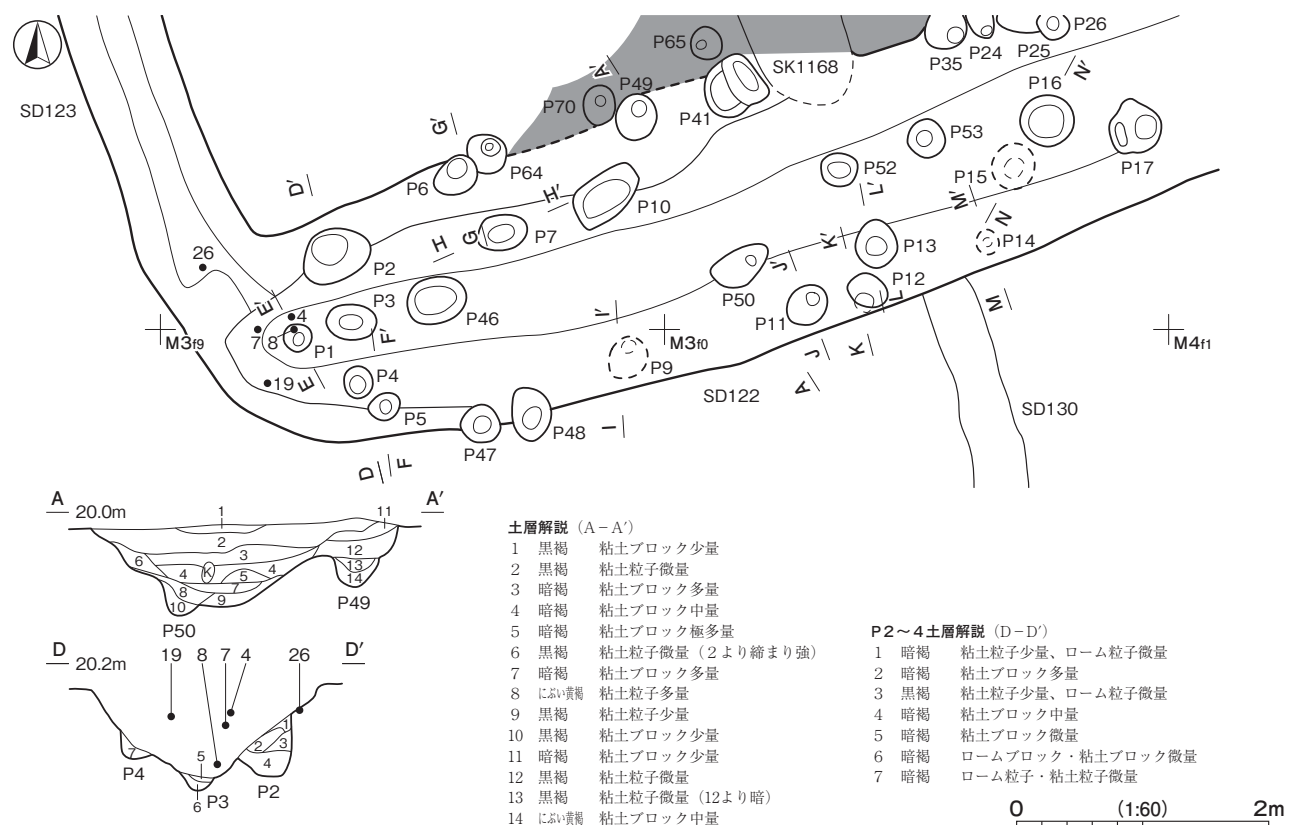
重複関係 第86号井戸跡、第1168号土坑を掘り込んでいる。また、本跡西部の北側に位置している、粘土混じりの黄褐色土からなる整地層も掘り込んでいる。重複している第123・130号溝跡との関係は不明である。

規模と形状 M3f9区付近で第123号溝跡から約90°に屈曲して、東(N-67°-E)に22.5mほど延びている。上幅180～220cm、下幅40～60cm、深さ50～90cmで、断面は逆台形である。底面は平坦であるが、東側の第86号井戸跡と重複している辺りから、底面が1段下がっている。壁際と底面中央付近から、多数のピットが確認されている。

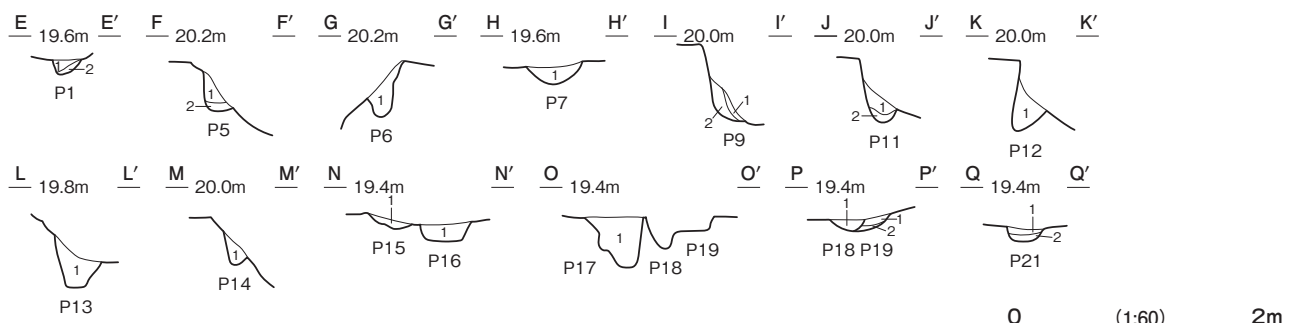
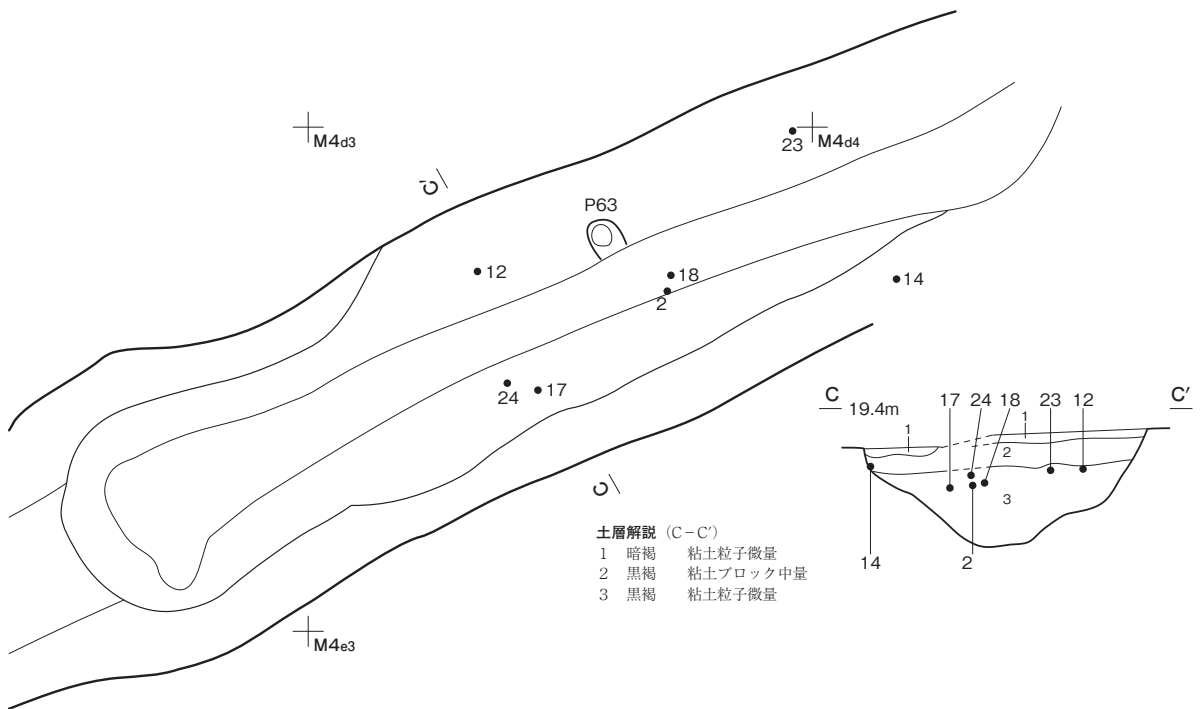
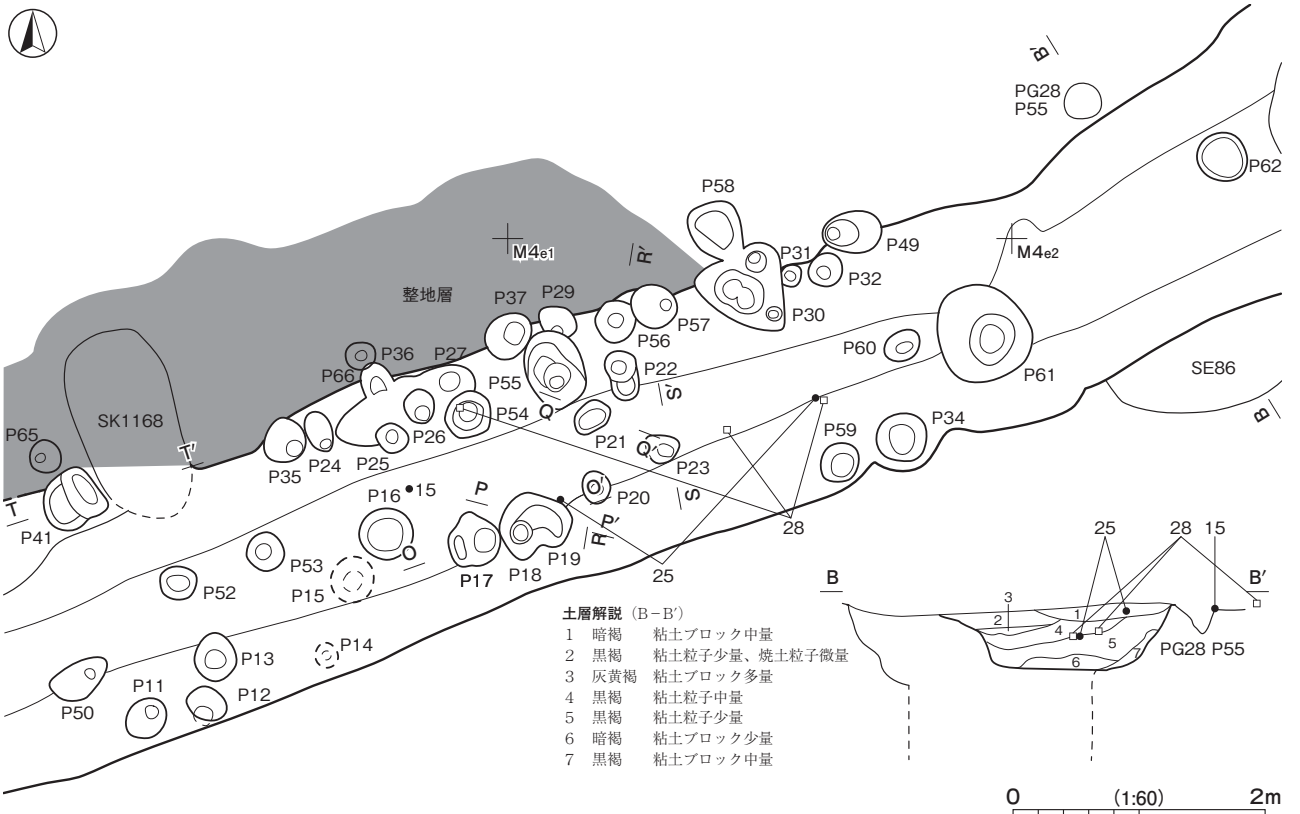
覆土 10層に分層できる。白色粘土ブロックを多く含む暗褐色土が堆積していることから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器273点(皿19、播鉢10、壺7、内耳鍋237)、陶器6点(縁釉皿1、皿1、甕4)、石器6点(石臼3、砥石3)が出土している。ほかに混入した土師器26点(坏2、高坏1、鉢1、甕22)、須恵器25点(坏5、蓋1、鉢5、甕13、甑1)が出土している。多くの遺物は、覆土上層から中層にかけて出土している。11の土師質土器皿には、2か所に宝珠文が墨書されている。

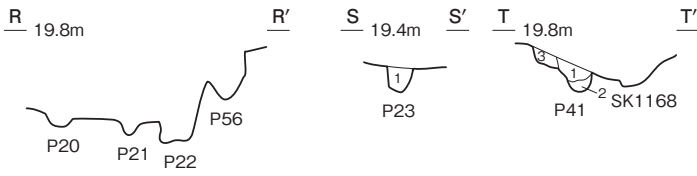
所見 時期は、出土遺物から、15世紀後半から16世紀前半と考えられる。出土土器は、複数の時期のものが出土していることから、長期にわたり補修等を加えながら機能していたと考えられる。



第131図 第122号溝跡実測図(1)



第132図 第122号溝跡実測図(2)



P1 土層解説

- 1 暗褐 粘土ブロック微量
- 2 暗褐 ロームブロック・粘土ブロック微量

P5 土層解説

- 1 暗褐 ローム粒子・粘土粒子微量
- 2 暗褐 粘土ブロック多量、ロームブロック微量

P6 土層解説

- 1 暗褐 ローム粒子・粘土粒子少量

P7 土層解説

- 1 暗褐 ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土粒子微量

P9 土層解説

- 1 黒褐 粘土ブロック・ローム粒子微量
- 2 黒褐 粘土ブロック多量

P11 土層解説

- 1 黒褐 ローム粒子少量、粘土ブロック微量
- 2 黒褐 粘土ブロック少量

P12 土層解説

- 1 暗褐 ロームブロック・粘土ブロック少量

P13 土層解説

- 1 暗褐 粘土ブロック少量、ローム粒子微量

P14 土層解説

- 1 黒褐 粘土ブロック少量、ロームブロック微量

P15 土層解説

- 1 暗褐 粘土ブロック中量

P16 土層解説

- 1 黒褐 ローム粒子・粘土粒子微量

P17 土層解説

- 1 暗褐 ロームブロック少量、粘土粒子微量

P18 土層解説

- 1 黒褐 ロームブロック・粘土粒子少量

P19 土層解説

- 1 黒褐 粘土ブロック多量、ローム粒子少量
- 2 黒褐 粘土ブロック多量

P21 土層解説

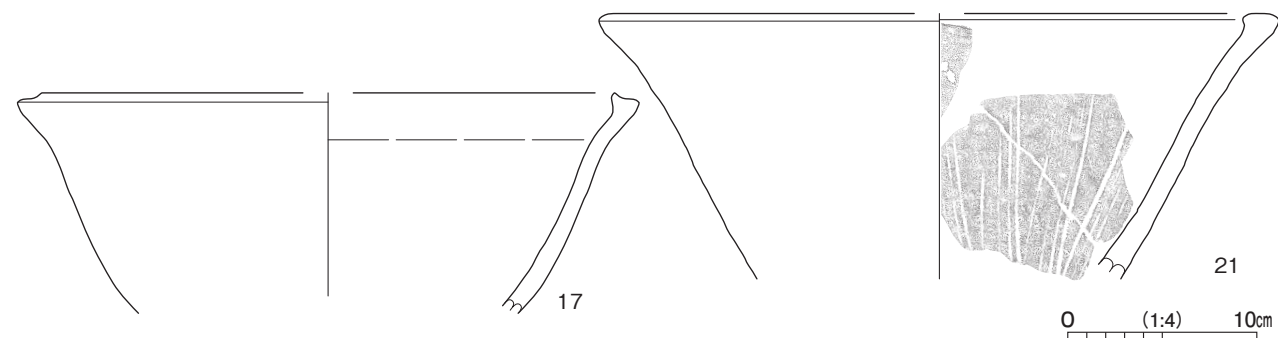
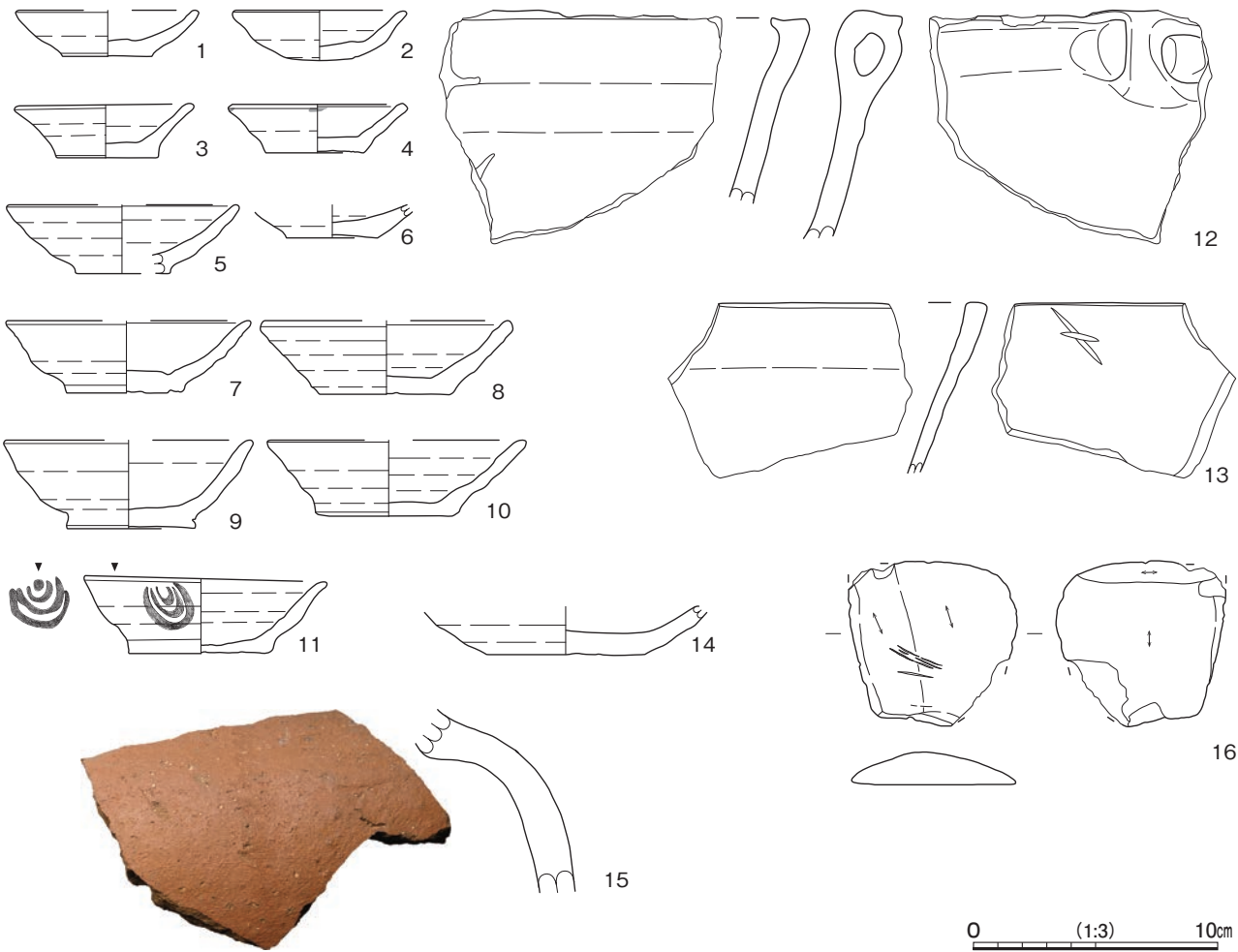
- 1 黒褐 粘土ブロック少量、ロームブロック微量
- 2 暗褐 ローム粒子少量、粘土ブロック微量

23 土層解説

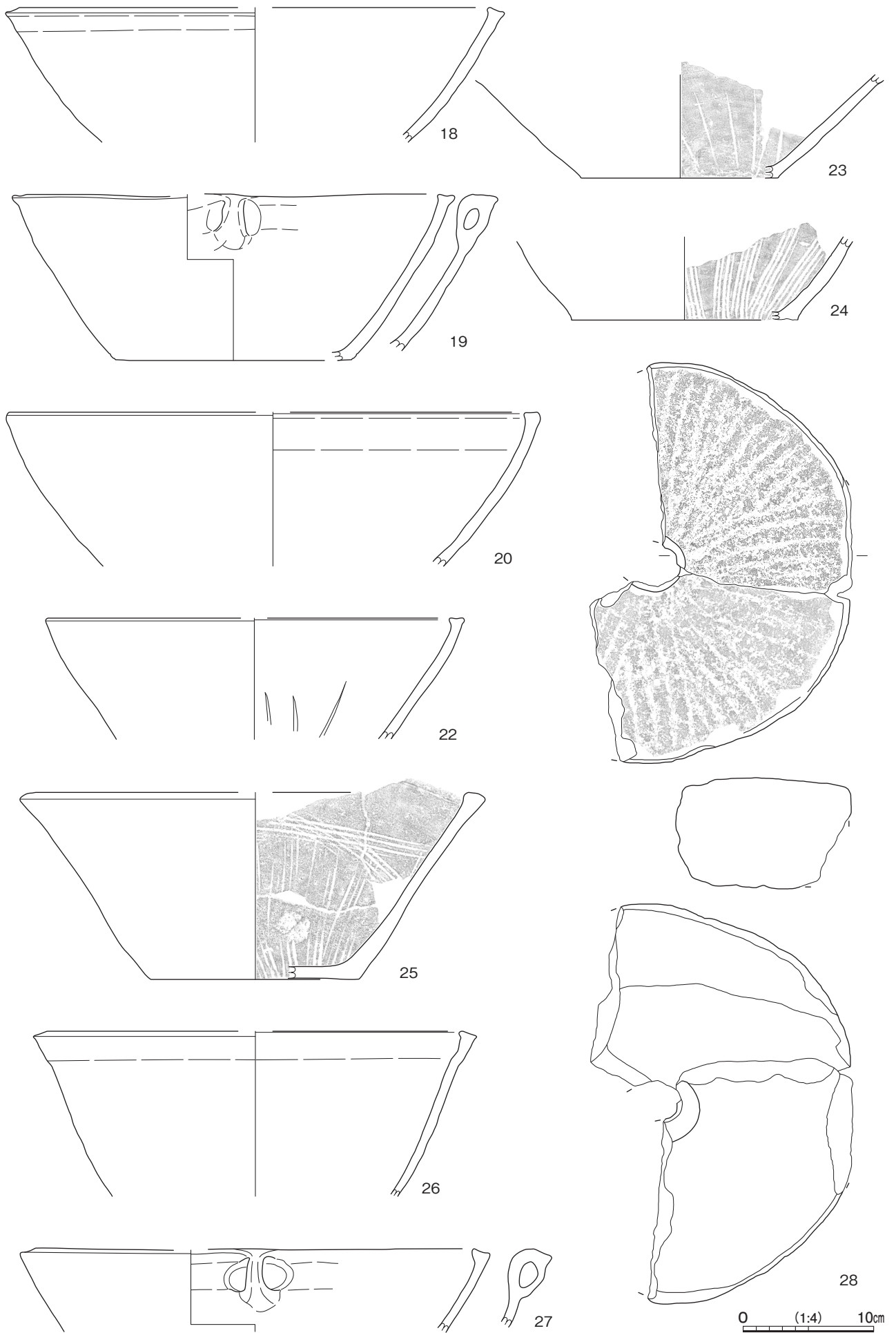
- 1 黒褐 ローム粒子・粘土粒子少量

P41 土層解説

- 1 暗褐 粘土ブロック中量
- 2 灰黄褐 粘土粒子中量
- 3 褐 粘土ブロック中量



第133図 第122号溝跡・出土遺物実測図



第 134 图 第 122 号溝跡出土遺物実測図

第72表 第122号溝跡出土遺物一覧（第133・134図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	[7.4]	1.9	3.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	覆土上層	40%
2	土師質土器	皿	6.8	2.1	3.0	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部下や強いナデ 底部回転糸切り	覆土中層	80%
3	土師質土器	皿	7.2	2.2	4.1	長石・石英・雲母	橙	普通	直線的な立ち上がり 底部回転糸切り	覆土上層	60% PL33
4	土師質土器	皿	7.0	2.0	4.0	長石・雲母	橙	普通	体部下端やや強いナデ 底部回転糸切り	覆土上層	100% PL33 口縁部油煙2か所
5	土師質土器	皿	[9.2]	2.8	[4.0]	長石・石英	にぶい赤褐	普通	全体的にやや強いナデ 下端部に顕著 底部回転糸切り	覆土中層	20%
6	土師質土器	皿	-	(1.4)	3.8	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り	覆土上層	20%
7	土師質土器	皿	[9.8]	2.9	4.9	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部下端強いナデ 底部回転糸切り	覆土中層	30%
8	土師質土器	皿	[10.0]	3.0	5.5	長石・石英・雲母	橙	普通	体部下端やや強いナデ 底部回転糸切り	覆土上層	50%
9	土師質土器	皿	[10.1]	3.6	5.2	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	内彎気味の立ち上がり 口縁部下・体部下端やや強いナデ 底部回転糸切り	覆土上層	40%
10	土師質土器	皿	[10.4]	3.1	6.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部下端強いナデ 底部回転糸切り	覆土上層	70% PL33
11	土師質土器	皿	10.0	3.2	5.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部下・体部下端やや強いナデ 外面2か所に宝珠文 底部回転糸切り	覆土上層	70% PL33
12	土師質土器	内耳鍋	-	(9.4)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐灰	普通	口縁部内面緩やかなナデ	覆土中層	5%
13	土師質土器	内耳鍋	-	(7.2)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	内面口縁部に刻文「×」	覆土上層	5%
17	土師質土器	内耳鍋	[33.0]	(12.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部緩やかに外反	覆土中層	5%
18	土師質土器	内耳鍋	[38.3]	(10.5)	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口縁部直線的な立ち上がり	覆土中層	5%
19	土師質土器	内耳鍋	[34.0]	12.8	[18.0]	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口縁部直線的な立ち上がり 口縁部内面弱いナデ	覆土上層	10% PL33
20	土師質土器	内耳鍋	[40.8]	(11.8)	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口縁部内彎気味な立ち上がり 口縁部内面弱いナデ	覆土上層	10%
21	土師質土器	播鉢	[34.8]	(14.1)	-	長石・石英・雲母	明褐	普通	5条1単位の播り目	覆土上層	10%
22	土師質土器	播鉢	[31.6]	(9.2)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	単沈線による播り目	覆土中層	10% PL33
23	土師質土器	播鉢	-	(7.9)	[15.0]	長石・石英・雲母	黒褐	普通	単沈線による播り目	覆土中層	10% PL33
24	土師質土器	播鉢	-	(6.4)	[17.2]	長石・石英・雲母	明褐	普通	4条1単位の播り目	覆土中層	10% PL33
25	土師質土器	播鉢	[35.7]	14.3	16.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	4条1単位の播り目	覆土上層	40% PL33
26	土師質土器	内耳鍋	[31.8]	(12.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内面やや強いナデ	覆土上層	20% PL33
27	土師質土器	内耳鍋	[36.0]	(6.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部内面弱いナデ	覆土上層	10%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
14	陶器	緑釉皿	-	(1.9)	[3.2]	長石・黒色粒子	灰白	見込み部分無釉 底部回転糸切り 古瀬戸後期	灰釉	瀬戸	覆土上層	5%
15	陶器	甕	-	(9.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	内外面ナデ	無釉	常滑	覆土中層	5% PL33

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
16	砥石	6.8	7.0	1.4	(74.04)	凝灰岩	砥面4面	覆土上層	
28	石臼	(30.7)	(20.1)	8.6	(7244.5)	安山岩	下白 裏面は敲打による整形	覆土中層	

第123号溝跡（第135～137図 PL9・34）

位置 第2号区画（南）の西部を区画している溝で、L3j7～M3e9区、標高20.0mほどの台地斜面部に位置している。

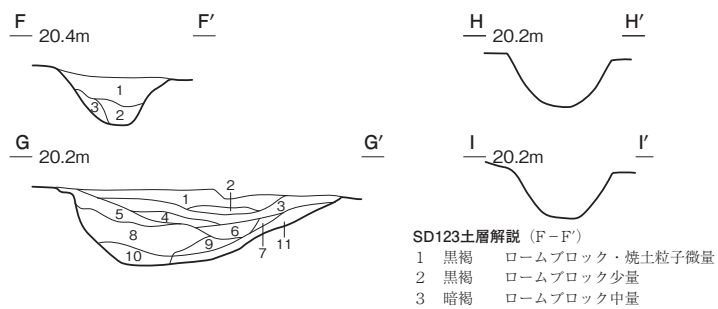
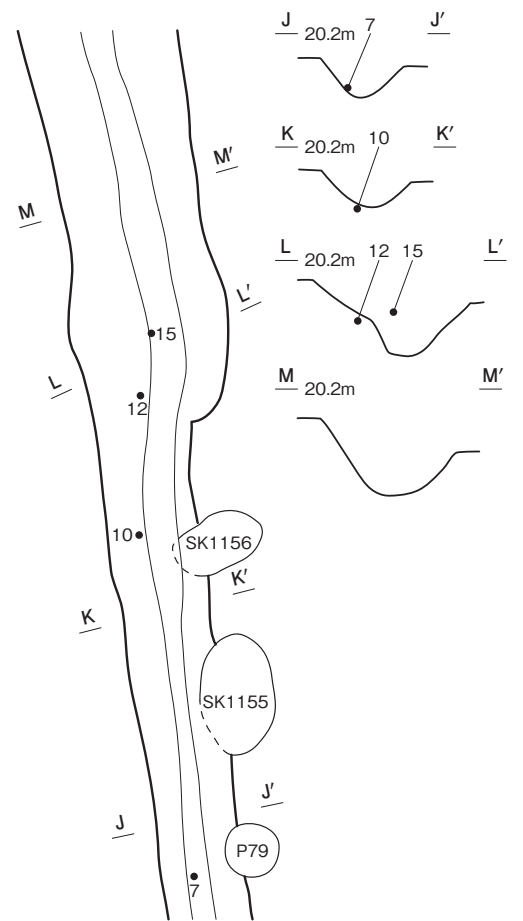
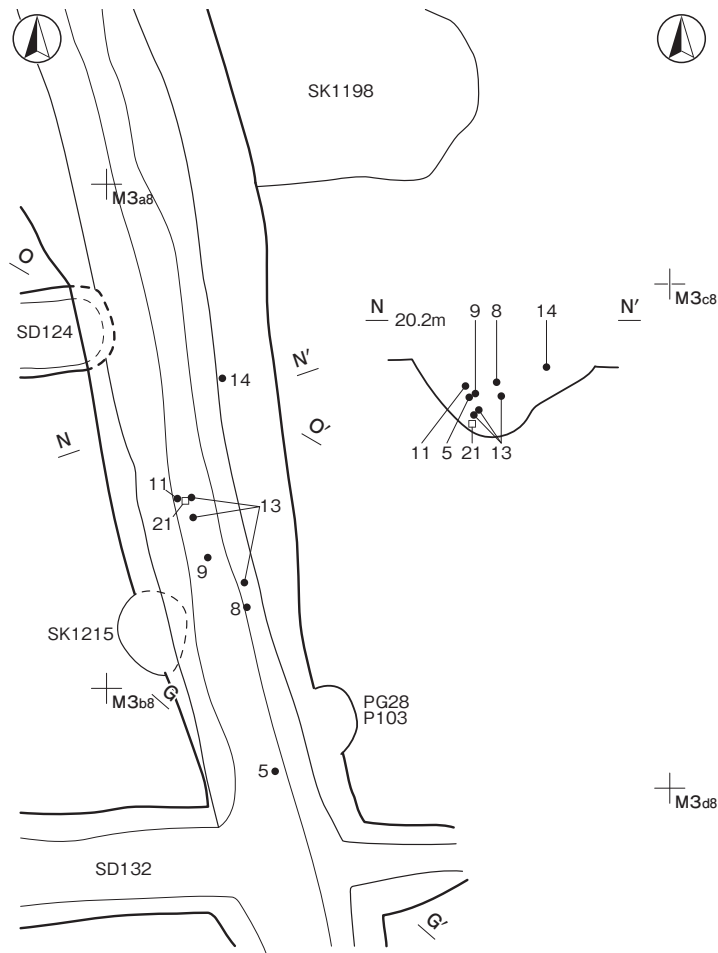
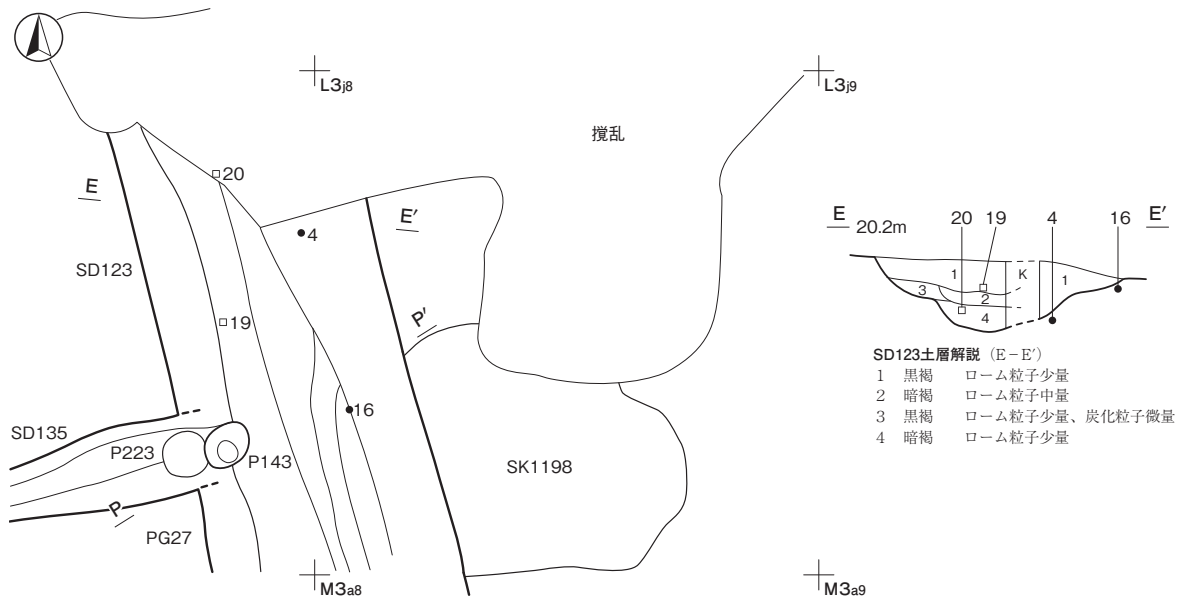
重複関係 第124・132号溝跡、第1198号土坑を掘り込み、第135号溝、第1150号土坑に掘り込まれている。重複している第122・130・136号溝跡、第1155・1156・1215号土坑との関係は不明である。

規模と形状 第139・140号溝跡が攪乱されているL3j7区付近から南（N-170°-E）に25.0mほど延びている。上幅65～185cm、下幅20～30cm、深さ30～60cmで、第132号溝跡と重複している地点から、南に3.5mほどから幅が狭まっている。断面は逆台形で、底面はほぼ平坦である。

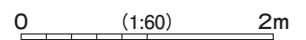
覆土 9層に分層できる。ロームブロックや粘土ブロック・粘土粒子を含む黒褐色土と、暗褐色土や黄褐色土が、交互に堆積していることから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器128点（皿6、播鉢3、内耳鍋114、壺3、火鉢1、茶釜1）、陶器3点（皿2、甕1）、瓦質土器1点（鍋）、石器6点（石臼2、砥石4）が出土している。ほかに混入した土師器17点（坏4、高台付坏3、甕9、高坏1）、須恵器7点（甕5、鉢1、瓶類1）が出土している。4・10の土師質土器皿と7の内耳鍋が底面付近から、20の石臼が覆土下層から、それぞれ出土している。

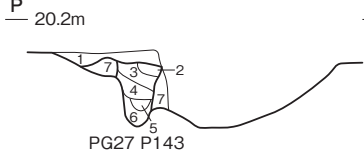
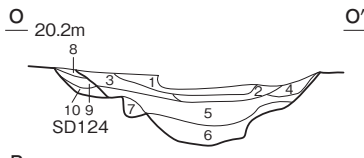
所見 時期は、出土遺物から16世紀前半と考えられる。



- SD123・132土層解説 (G-G')
- | | | |
|----|-------|-------------------------|
| 1 | 黒褐 | ロームブロック少量 |
| 2 | 暗褐 | ローム粒子・粘土粒子少量、焼土粒子微量 |
| 3 | 黒褐 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 4 | 暗褐 | 粘土粒子中量 |
| 5 | 黒褐 | 粘土粒子少量、ローム粒子微量 |
| 6 | 黒褐 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 (3より締め強) |
| 7 | にひい黄褐 | 粘土粒子多量、ローム粒子微量 |
| 8 | 黒褐 | 粘土ブロック中量 |
| 9 | にひい黄褐 | 粘土粒子中量 |
| 10 | 黒褐 | 粘土ブロック少量 |
| 11 | 褐 | 粘土ブロック多量 |
- ※9・11層がSD132の可能性あり



第135図 第123号溝跡実測図



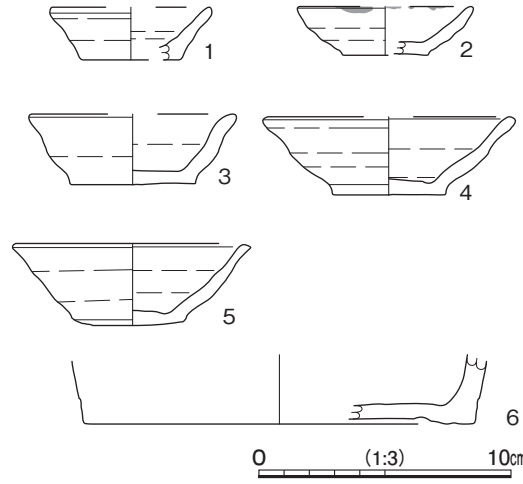
SD123・124土層解説 (O-O')

- 1 黒褐 ローム粒子少量
- 2 暗褐 ローム粒子中量
- 3 黒褐 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 4 暗褐 ローム粒子少量
- 5 黒褐 ローム粒子微量
- 6 黒褐 ロームブロック少量
- 7 黒褐 粘土ブロック少量
- 8 暗褐 ローム粒子少量
- 9 黒褐 ローム粒子微量
- 10 黒褐 ローム粒子微量 (9より暗)

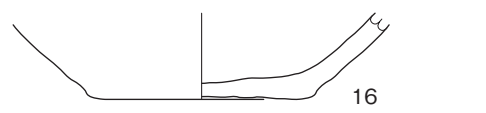
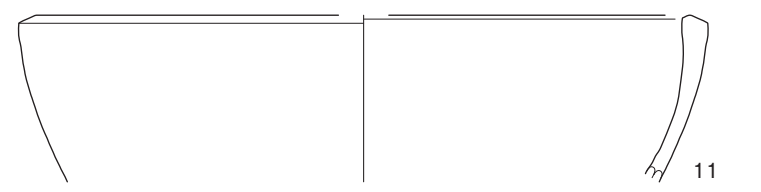
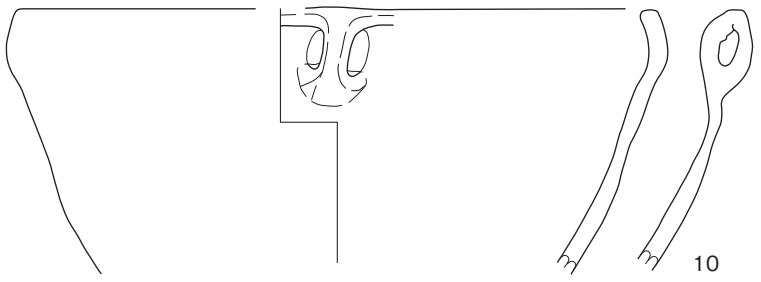
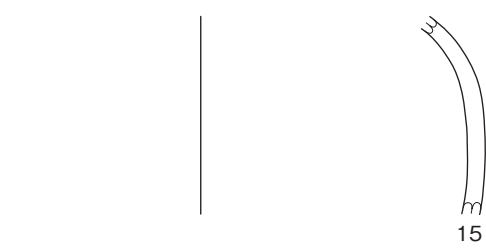
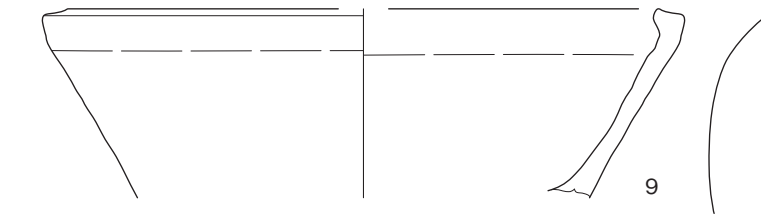
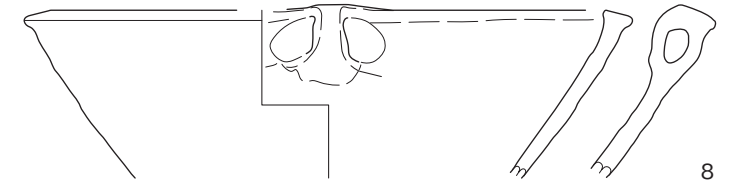
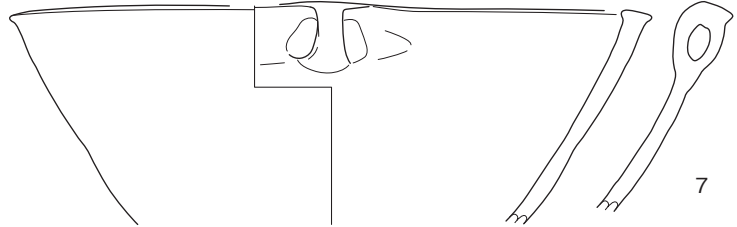
SD123・135、PG27 P143土層解説 (P-P')

- 1 暗褐 ロームブロック少量
- 2 黒褐 ローム粒子微量 (PG27-P143覆土)
- 3 黒褐 粘土ブロック中量 (PG27-P143覆土)
- 4 黒褐 粘土粒子中量 (PG27-P143覆土)
- 5 黒褐 粘土粒子微量 (PG27-P143覆土)
- 6 黒褐 粘土ブロック中量 (PG27-P143覆土)
- 7 黒褐 粘土ブロック中量

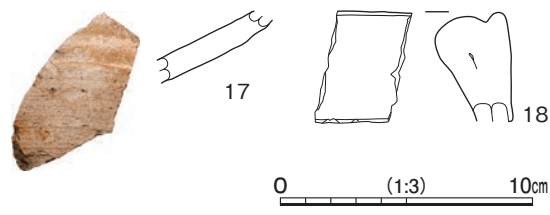
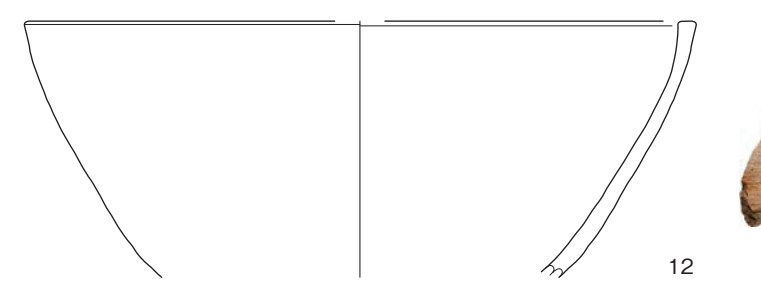
0 (1:60) 2m



0 (1:3) 10cm

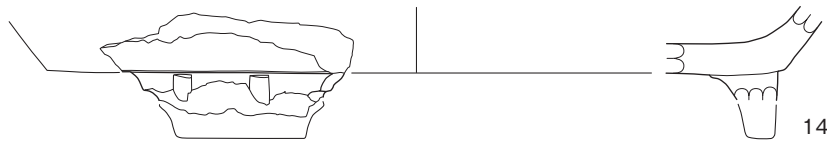
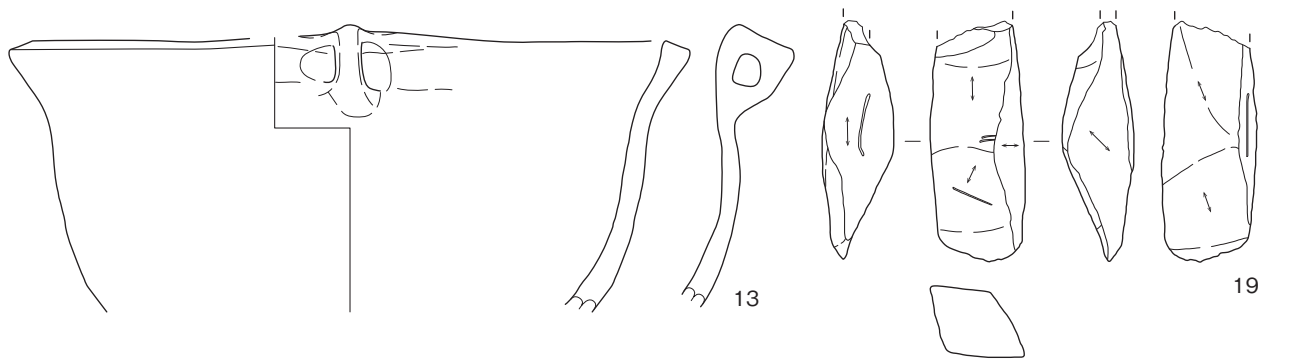


0 (1:4) 10cm

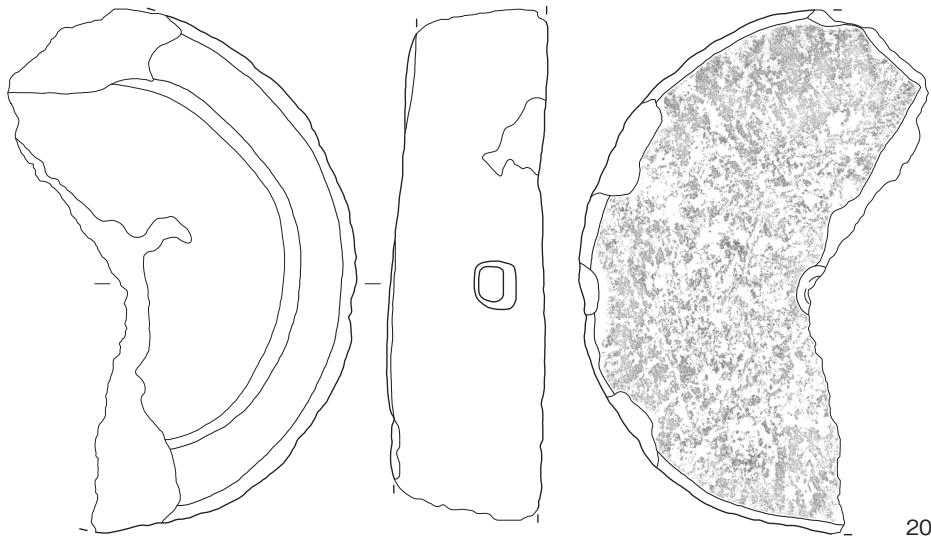


0 (1:3) 10cm

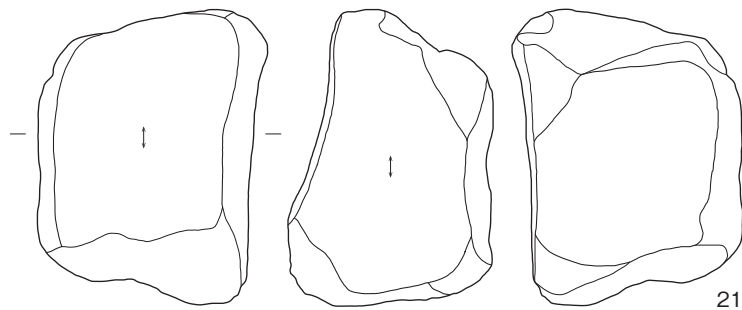
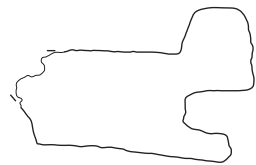
第136図 第123号溝跡・出土遺物実測図



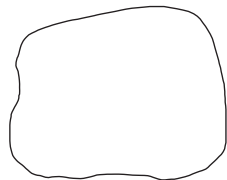
0 (1:3) 10cm



20



21



0 (1:4) 10cm

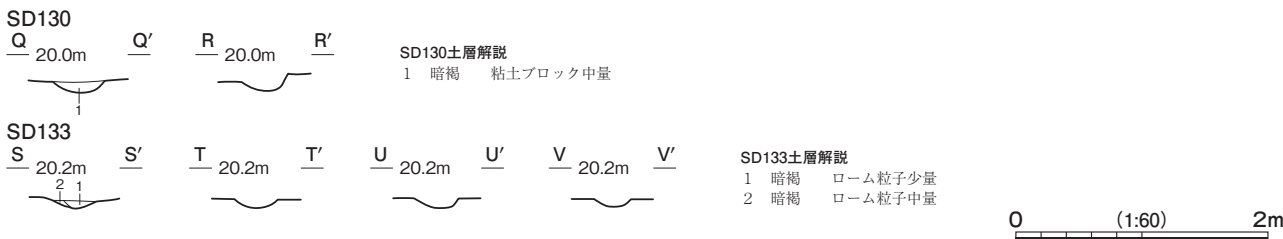
第137图 第123号沟迹出土遗物实测图

第73表 第123号溝跡出土遺物一覧（第136・137図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	[6.2]	2.1	[4.0]	長石・石英	褐灰	普通	小型 口縁部下・体部下端強いナデ	覆土上層	10%
2	土師質土器	皿	[6.8]	2.0	[3.4]	長石・石英・雲母	橙	普通	小型 やや強い口クロナデ 底部回転糸切り	覆土上層	50% 口縁部油煙付着
3	土師質土器	皿	[8.0]	2.9	5.0	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部下・体部下端強いナデ 底部回転糸切り	覆土上層	20%
4	土師質土器	皿	[10.0]	3.1	[5.0]	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	口縁部下・体部下端強いナデ 底部回転糸切り 板目圧痕	底面付近	30%
5	土師質土器	皿	9.6	3.3	4.4	長石・石英	橙	普通	体部下端やや強いナデ 底部ヘラ削り	覆土下層	80% PL34
6	瓦質土器	鍋	-	(2.8)	[15.4]	長石・石英・雲母	黒	普通	内外面ナデ	覆土中層	10%
7	土師質土器	内耳鍋	[34.0]	(11.8)	-	長石・石英・雲母	赤褐	普通	口縁部直線的な立ち上がり 口縁部内面弱いナデ	底面付近	20% PL34
8	土師質土器	内耳鍋	[32.3]	(9.2)	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口縁部直線的な立ち上がり 口縁部内面弱いナデ	覆土上層	10% PL34
9	土師質土器	内耳鍋	[34.0]	(10.9)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部直線的な立ち上がり 口縁部内面やや強いナデ	覆土中層	15% PL34
10	土師質土器	内耳鍋	[34.0]	(14.0)	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口縁部緩やかな立ち上がり 口縁部内面弱いナデ	底面付近	10% PL34
11	土師質土器	内耳鍋	[34.4]	(8.7)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	口縁部内彎気味な立ち上がり 口縁部内面弱いナデ	覆土上層	10%
12	土師質土器	内耳鍋	[34.9]	(13.6)	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口縁部内彎気味な立ち上がり 口縁部内面弱いナデ	覆土中層	10%
13	土師質土器	内耳鍋	[36.0]	(15.2)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部外反 口縁部内面やや強いナデ	覆土下層	30% PL34
14	土師質土器	火鉢	-	(4.9)	[39.0]	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	獸脚部貼り付け	覆土上層	5% PL34
15	土師質土器	茶釜	-	(11.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	内外面ナデ	覆土中層	10%
16	土師質土器	挿鉢	-	(4.6)	[9.8]	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	単沈線による挿り目	覆土上層	5%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
17	陶器	大皿	-	(2.9)	-	長石・石英	にぶい黄橙	外面漬け掛け 3・4段階カ 内面施釉一部のみ 古瀬戸第	灰釉	瀬戸	覆土上層	5%
18	陶器	甕	-	(4.4)	-	長石・石英	灰褐	10型式	無釉	常滑	覆土上層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
19	砥石	(9.5)	3.8	2.8	(96.97)	凝灰岩	砥面4面	覆土上層	PL34
20	石臼	(27.1)	(18.5)	8.2	(3354.0)	安山岩	上臼 挿り目は摩耗	覆土下層	PL34
21	砥石	15.7	12.2	10.9	2770.8	砂岩	砥面2面	底面付近	被熱



第138図 第130・133号溝跡実測図

第74表 第2号区画（南）の溝跡一覧

番号	位置	方向	平面形	規模				断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	上幅(cm)	下幅(cm)	深さ(cm)					
122	M 3 e9 ~ M 4 d4	N - 67° - E	直線状	(22.50)	180 ~ 220	40 ~ 60	50 ~ 90	逆台形	外傾	人為	坏 蓋 皿 高坏 鉢 挿鉢 壺 内耳鍋 甕 瓶 石臼 砥石	SE86・SK1168 → 本跡 SD123・130と重複 ビット多数
123	L 3 j7 ~ M 3 e9	N - 170° - E	直線状	25.00	65 ~ 185	20 ~ 30	30 ~ 60	逆台形	外傾	人為	坏 高台付坏 皿 高坏 鉢 挿鉢 火鉢 壺 瓶類 鍋 内耳鍋 甕 石臼 砥石	SD124・132・SK1198 → 本跡 → SD135・SK1150 SD122・130・136・ SK1155・1156・1215と重複
130	M 3 f0	N - 168° - E	直線状	2.40	42	8	15	皿状	外傾	自然	-	SD122と重複
133	M 3 c9 ~ M 3 d9	N - 175° - E	直線状	8.10	25 ~ 40	15 ~ 20	10	皿状	外傾	自然	-	本跡 → SK1158・ 1186・1187 ビット1基

イ 掘立柱建物跡

第44号掘立柱建物跡（第139・140図 PL11・37）

位置 第2号区画（南）のM3c9区、標高20.0mほどの台地斜面部に位置している。

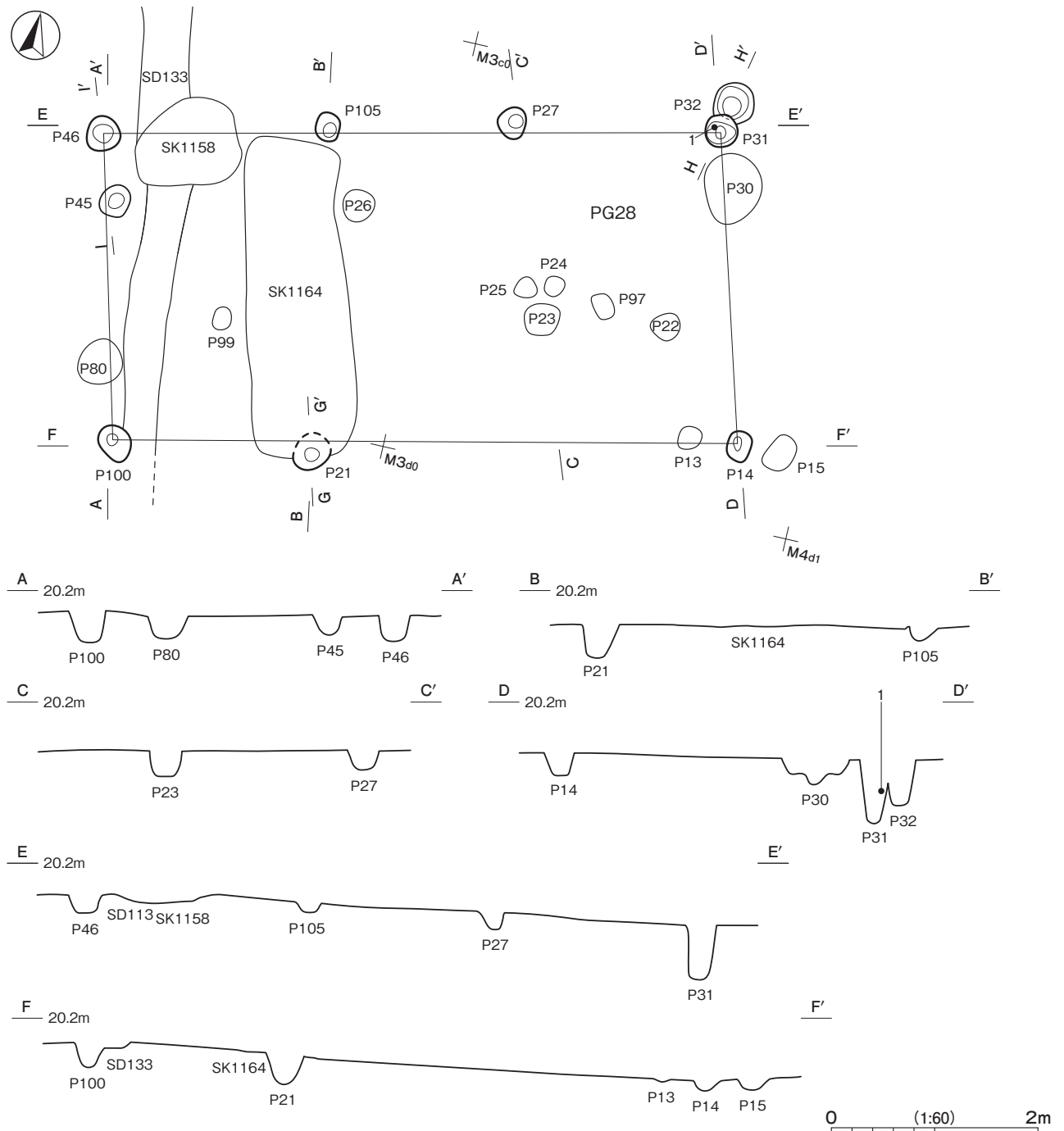
重複関係 建物の範囲内に第1158・1164号土坑、第133号溝跡が位置している。P21は第1164号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 第28号ピット群として調査した。規模や形状、配置などから、整理段階で掘立柱建物跡と判断した。桁行3間、梁行1間の側柱建物跡で、規模は桁行6.10m、梁行3.0mである。N-75°-Eの東西棟で、南北・東西軸とも区画溝の第122・123号溝跡とほぼ軸を揃えている。柱間寸法は桁行の北側が西からP46-P105間が2.2m、P105-P27間が1.9m、P27-P31間が2.0m、南側がP100-P21間が1.9m、P21-P14間が4.2mである。梁行は西側のP46-P100間が3.0m、東側のP31-P14間が3.0mであり、柱間・柱筋ともややばらつきがある。

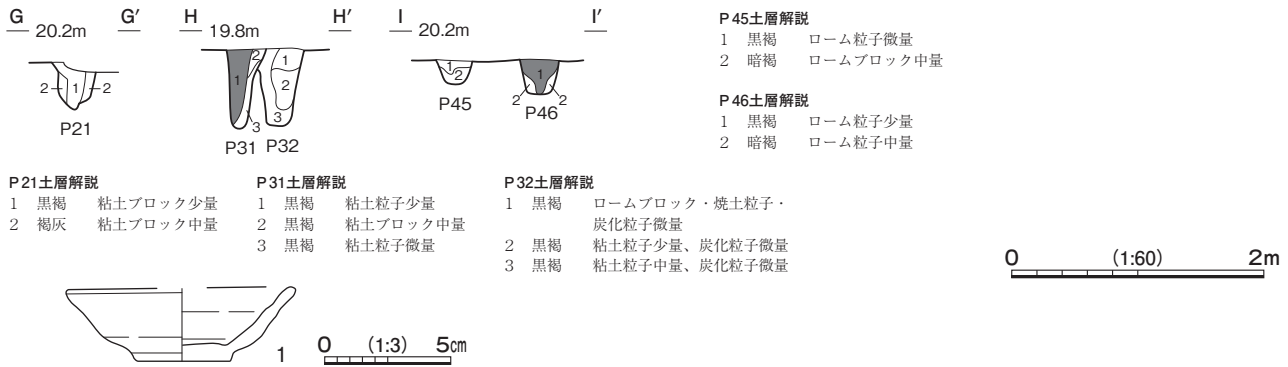
柱穴 7か所。平面形は円形と楕円形で、長径25~35cm、短径20~30cmである。深さは15~60cmで、ややばらつきがある。覆土は、抜き取り後の堆積状況を示しているものが多い中、P31・P46のように、柱痕跡が確認できたものもある。

遺物出土状況 1はP31の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器と主軸方向から、15世紀後半から16世紀前半と考えられる。



第139図 第44号掘立柱建物跡実測図



第140図 第44号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第75表 第44号掘立柱建物跡出土遺物一覧（第140図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	9.1	2.8	3.3	長石・石英・雲母	橙	普通	体部下端に強いナデ	P 31	80% PL37

ウ 井戸跡

第2号区画（南）には、西部と南部の溝と重複や隣接している第86・89・90～92号井戸がある。第86・89・91号井戸は、上径が2mを越える大型のもので、第86号井戸は第122号溝に掘り込まれている。第90・92号井戸は、上径が1mほどの円筒形の掘方を有しているものである。以下、特徴的なものについて記述し、それ以外については実測図と一覧で記載する。

第86号井戸跡（第141・142図 PL15・38）

位置 第2号区画（南）のM4e2区、標高21.5mほどの台地斜面部に位置している。

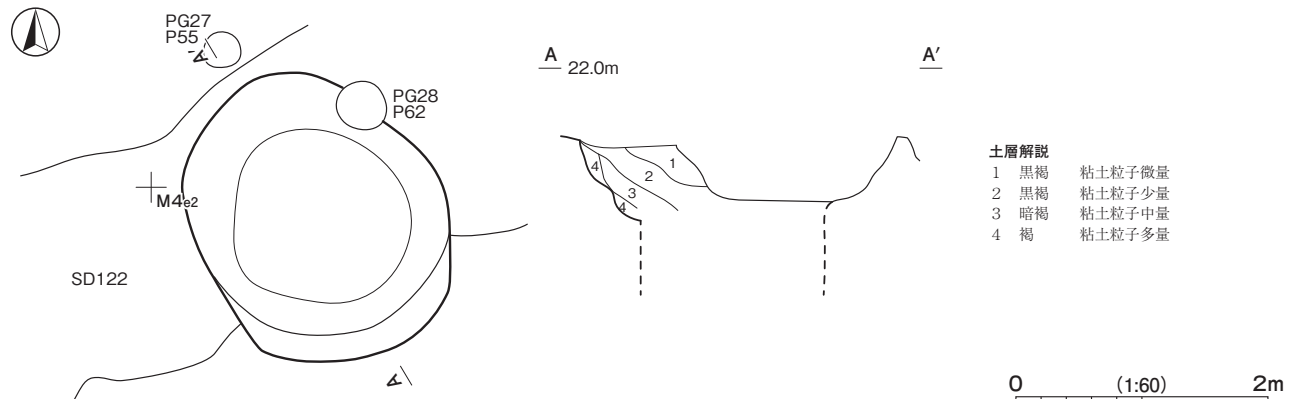
重複関係 第122号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長径2.16m、短径1.85mの楕円形で、長径方向はN-31°-Wである。確認面から60cmまでは漏斗状に掘り込み、それ以下は径140cmの円筒状に掘り込んでいる。確認面から深さ150cmまでの調査とした。

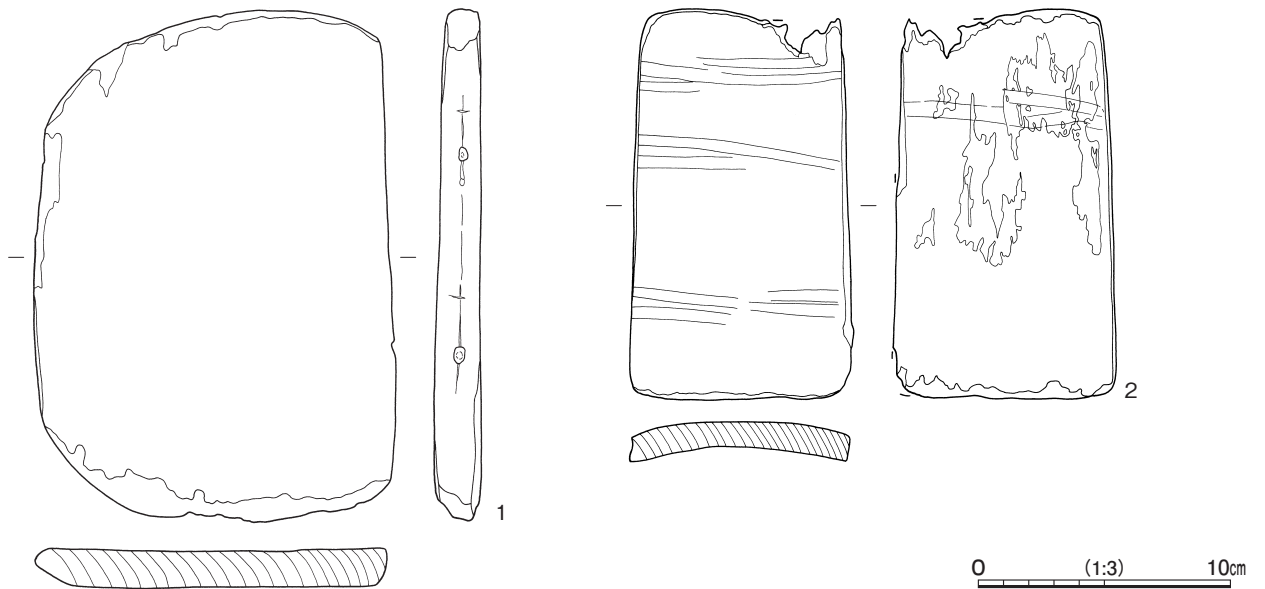
覆土 4層を確認した。粘土粒子を含む黒褐色土や褐色土がレンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

遺物出土状況 土師質土器10点（播鉢2、内耳鍋8）が出土している。ほかに混入した木製品2点（桶の蓋・底板、側板カ）が出土している。

所見 時期は、重複関係と出土土器から15世紀後半と考えられる。



第141図 第86号井戸跡実測図



第 142 図 第 86 号井戸跡出土遺物実測図

第 76 表 第 86 号井戸跡出土遺物一覧 (第 142 図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1	桶	20.3	14.4	1.9	-	-	蓋あるいは底板カ 柁目材 一側面に木釘残る	覆土	PL38
2	桶	15.5	8.9	1.5	-	-	側板カ 柁目材 表裏に緊迫による紐状の圧痕あり	覆土	PL38

第 89 号井戸跡 (第 143・144 図 PL15・39)

位置 第 2 号区画 (南) の M3b8 区、標高 20.0 m ほどの台地斜面部に位置している。

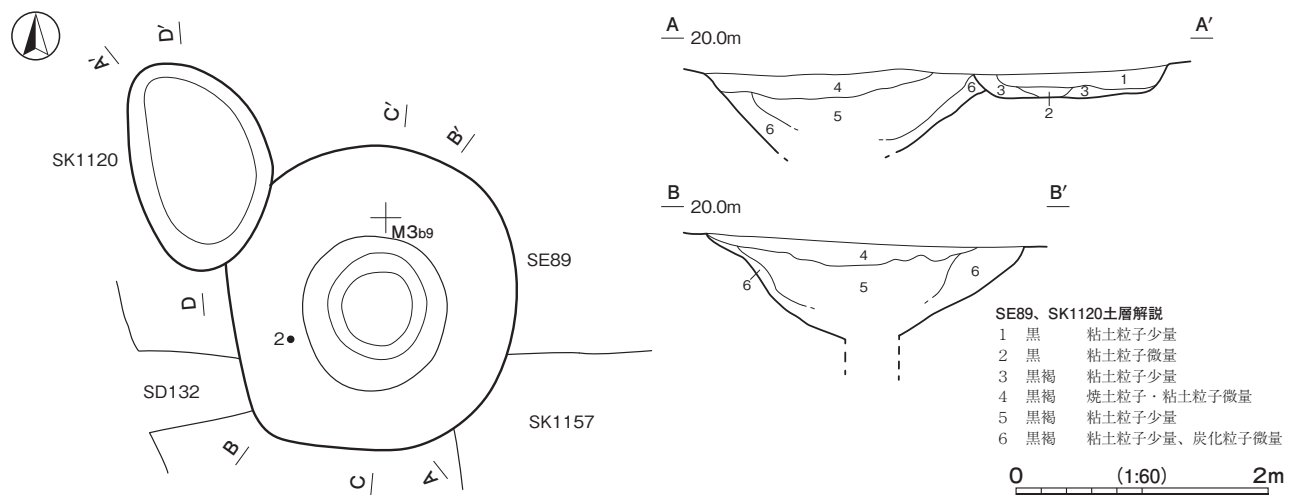
重複関係 第 1120 号土坑に掘り込まれている。重複している第 132 号溝跡、第 1157 号土坑との関係は不明である。

規模と形状 長径 2.42 m、短径 2.3 m の円形である。確認面から 90cm までは漏斗状に掘り込み、それ以下は径 80cm の円筒状に掘り込んでいる。確認面からの深さは 436cm である。

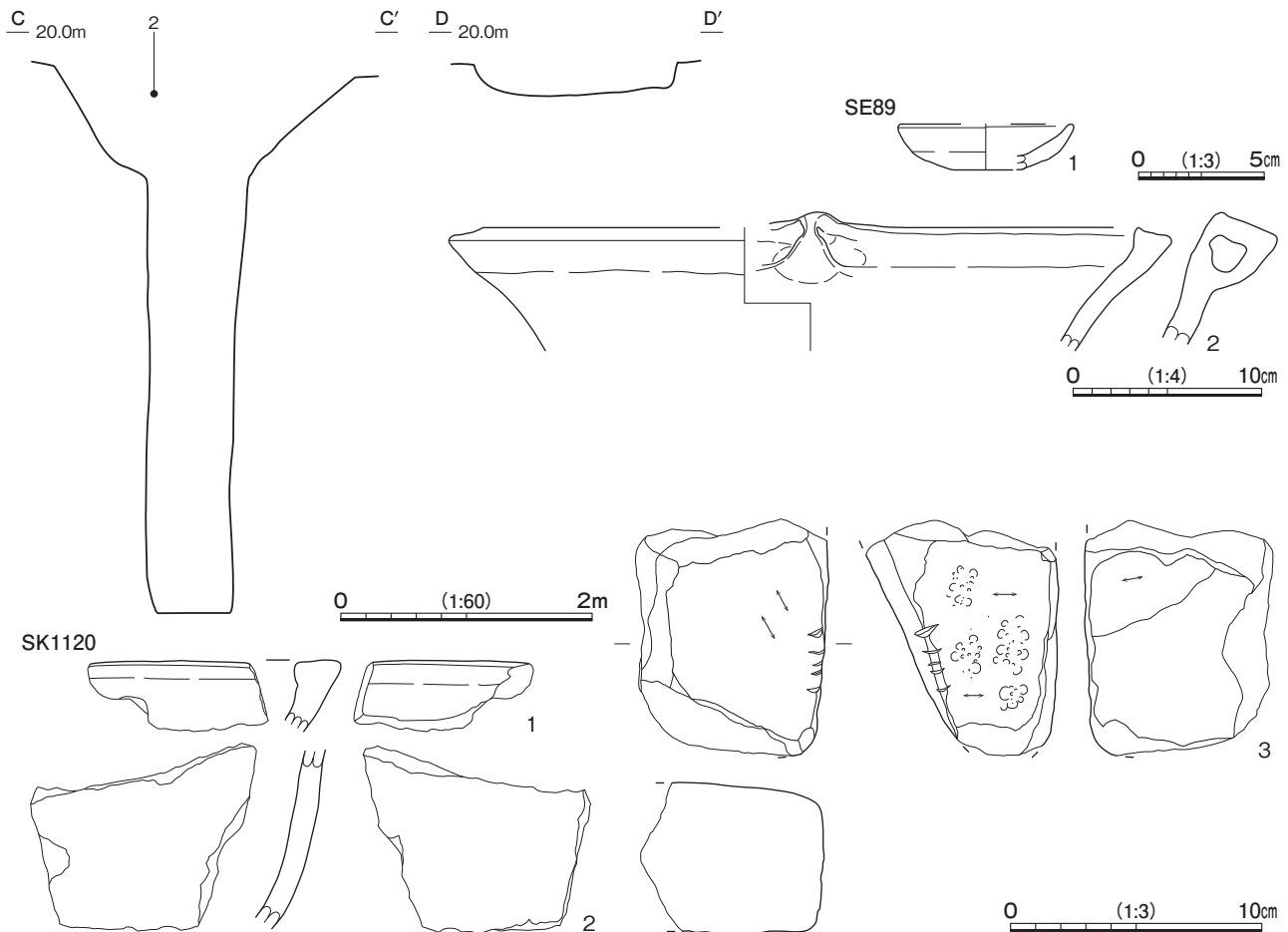
覆土 3 層を確認した。粘土粒子などを少量含む黒褐色土がレンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

遺物出土状況 土師質土器 16 点 (皿 2、内耳鍋 14)、磁器 1 点 (碗) が出土している。土師質土器皿の 1 と内耳鍋の 2 は、覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から 16 世紀前半と考えられる。



第 143 図 第 89 号井戸跡、第 1120 号土坑実測図



第144図 第89号井戸跡、第1120号土坑・出土遺物実測図

第77表 第89号井戸跡出土遺物一覧 (第144図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	[6.8]	(1.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部下端やや強いナデ	覆土上層	10%
2	土師質土器	内耳鍋	[34.7]	(7.4)	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口縁部内面やや弱いナデ 耳部懸垂による紐擦れ	覆土上層	10% PL39

第78表 第1120号土坑出土遺物一覧 (第144図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	内耳鍋	-	(2.9)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部内面弱いナデ	覆土	5%
2	土師質土器	内耳鍋	-	(8.4)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	内面横ナデ	覆土	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
3	砥石	(9.4)	(7.6)	6.0	(727.77)	安山岩	砥面3面 金属痕あり	覆土上層	被熱

第91号井戸跡 (第145図 PL39)

位置 第2号区画 (南) のM3e9区、標高20.0mほどの台地斜面部に位置している。

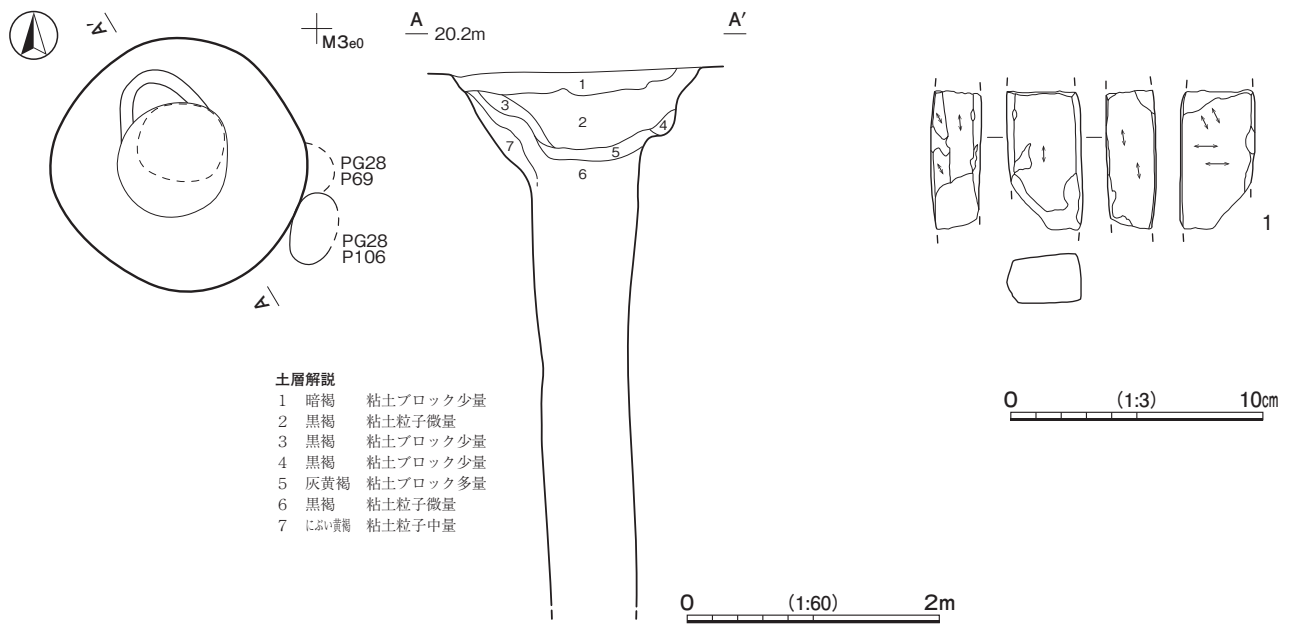
重複関係 整地層を掘り込んでいる。重複している第28号ピット群のP69との関係は不明である。

規模と形状 長径1.94m、短径1.92mの円形である。確認面から100cmまでは漏斗状に掘り込み、それ以下は径90cmの円筒状に掘り込んでいる。確認面からの深さは420cm以上である。

覆土 7層を確認した。粘土粒子などを少量含む黒褐色土などがレンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

遺物出土状況 土師質土器2点(内耳鍋)、砥石1点が出土している。ほかに混入した須恵器1点(鉢)が出土している。

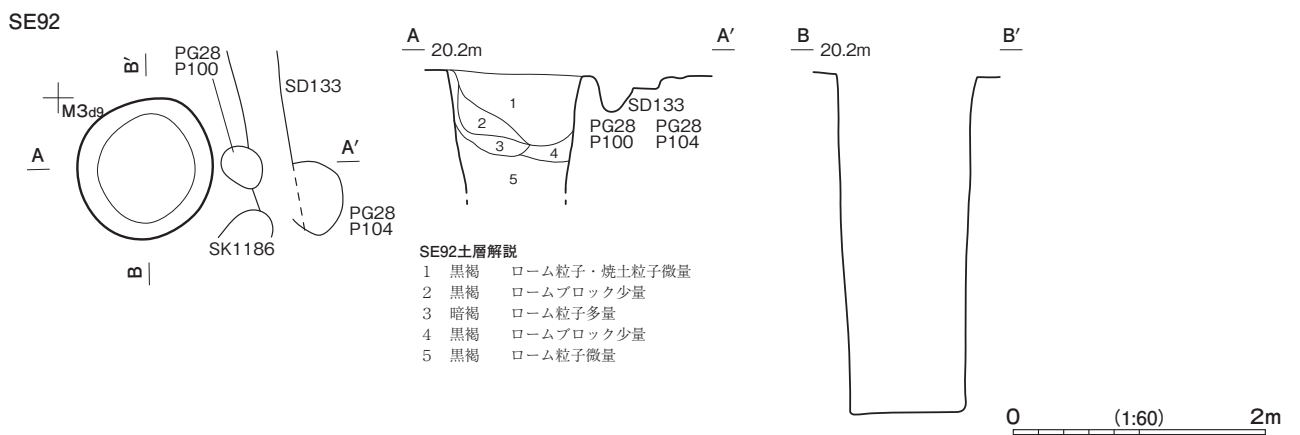
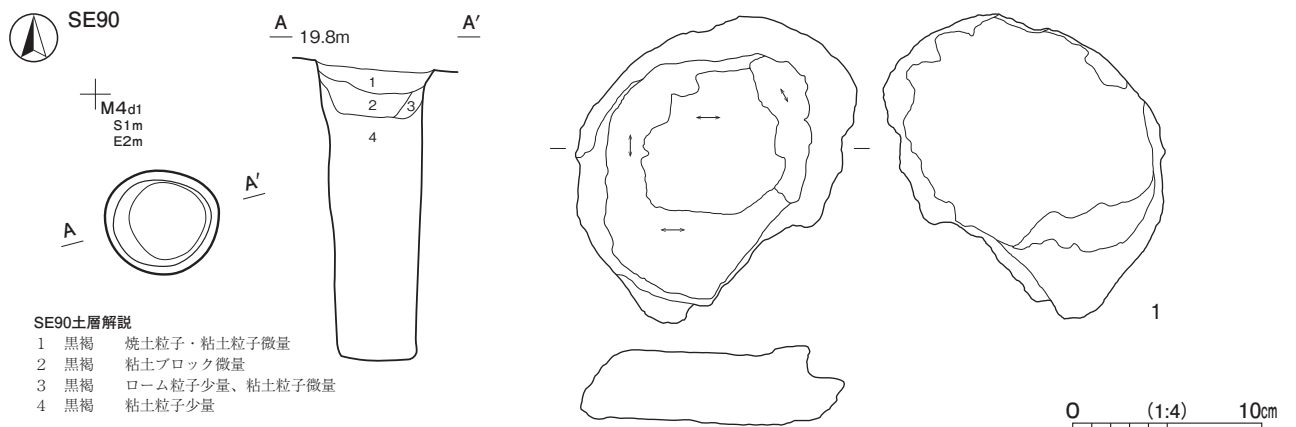
所見 時期は、出土土器から16世紀代と考えられる。



第 145 図 第 91 号井戸跡・出土遺物実測図

第 79 表 第 91 号井戸跡出土遺物一覧 (第 145 図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1	砥石	(5.5)	3.0	2.0	(53.22)	凝灰岩	砥面 4 面	覆土上層	PL39 被熱



第 146 図 第 90・92 号井戸跡・出土遺物実測図

第 80 表 第 90 号井戸跡出土遺物一覧 (第 146 図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1	砥石カ	16.2	14.9	4.2	1202.3	雲母片岩	砥面 1 面のみ 正面剥離後研磨 裏面剥離のまま	覆土	被熱

第 81 表 第 2 号区画（南）の井戸跡一覧

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
86	M 4 e2	N - 31° - W	楕円形	2.16 × 1.85	(150)	漏斗状	-	自然	播鉢 内耳鍋 桶	本跡→SD122
89	M 3 b8	-	円形	2.42 × 2.30	436	漏斗状	平坦	自然	皿 碗 内耳鍋	本跡→SK1120 SD132、SK1157と重複
90	M 4 d1	-	円形	0.90 × 0.84	236	円筒状	平坦	自然	砥石カ	
91	M 3 e9	-	円形	1.94 × 1.92	(420)	漏斗状	-	自然	鉢 内耳鍋 砥石	PG28 P 69 と重複
92	M 3 d9	-	円形	1.10 × 1.09	268	円筒状	平坦	自然	皿 壺カ 内耳鍋 甕	PL15

エ 土坑

第 2 号区画（南）では、25 基の土坑を確認した。土坑は、長径 1 m 弱の楕円形や不整隅丸方形のものが多く、区画の西寄りの第 123 号溝付近や、第 123 号溝と重複しているものが多い。主軸方向は第 123 号溝とほぼ同じで、南北方向に長軸を有するものが多い。このうち第 1150 号土坑は、側壁を抉り込んでおり、その部分から 2 点の土師質土器皿が重なり合って出土している。また、その南側の底面には赤漆塗膜片が残存していたことから、漆器碗なども存在していた可能性がある。第 1159・1160・1164 号土坑は、長方形や隅丸長方形の土坑である。第 1143・1157 号土坑の形状は不整形である。これらも第 122・123 号溝と軸方向をほぼ揃えている。第 1216・1217 号土坑は、東西方向が長軸となる隅丸長方形の大型土坑で、第 1216 号土坑の底面はほぼ円形に、第 1217 号土坑の底面は隅丸長方形に深く掘り込んでいる。雨水や湧水の貯水施設としての機能が考えられる。以下、特徴的な土坑について記述し、それ以外については実測図と一覧で記載する。

第 1150 号土坑（第 147 図 PL21・43）

位置 第 2 号区画（南）の M 3 d8 区、標高 20.0 m ほどの台地斜面部に位置している。

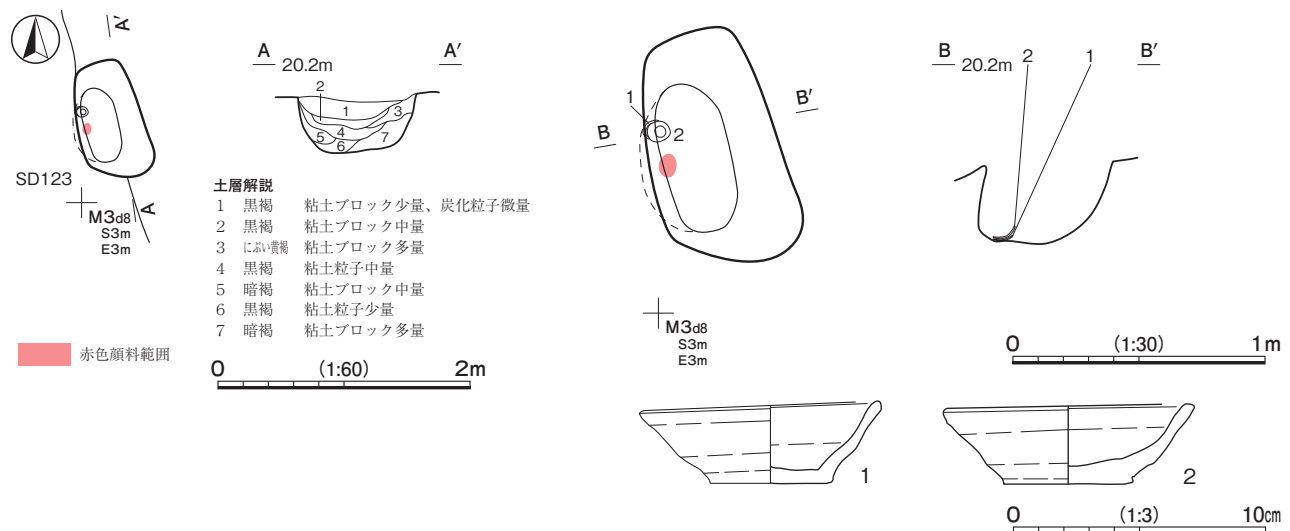
重複関係 第 123 号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 0.96 m、短径 0.54 m の楕円形で、長径方向は N - 7° - W である。深さ 65 cm で、東壁は外傾し、西壁は抉り込んでいる。

覆土 7 層に分層できる。粘土ブロックを多く含む黒褐色土と暗褐色土が堆積していることから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器 2 点（皿）が出土している。1・2 は、抉り込んだ西壁の底面付近で、重なるように出土している。その南側の底面には、赤漆塗膜片が残存していたことから、漆器碗なども存在していた可能性がある。

所見 形状や覆土の状況、遺物の出土状況などから、墓坑や埋納施設と考えられる。時期は、出土土器から 15 世紀後半と考えられる。



第 147 図 第 1150 号土坑・出土遺物実測図

第 82 表 第 1150 号土坑出土遺物一覧 (第 147 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	9.5	3.2	4.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部下・体部下端やや強いナデ 底部回転糸切り	底面	100% PL43
2	土師質土器	皿	10.0	3.1	5.1	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部・体部下端やや強いナデ 底部回転糸切り	底面	95% PL43

第 1161 号土坑 (第 148 図 PL21・22・43)

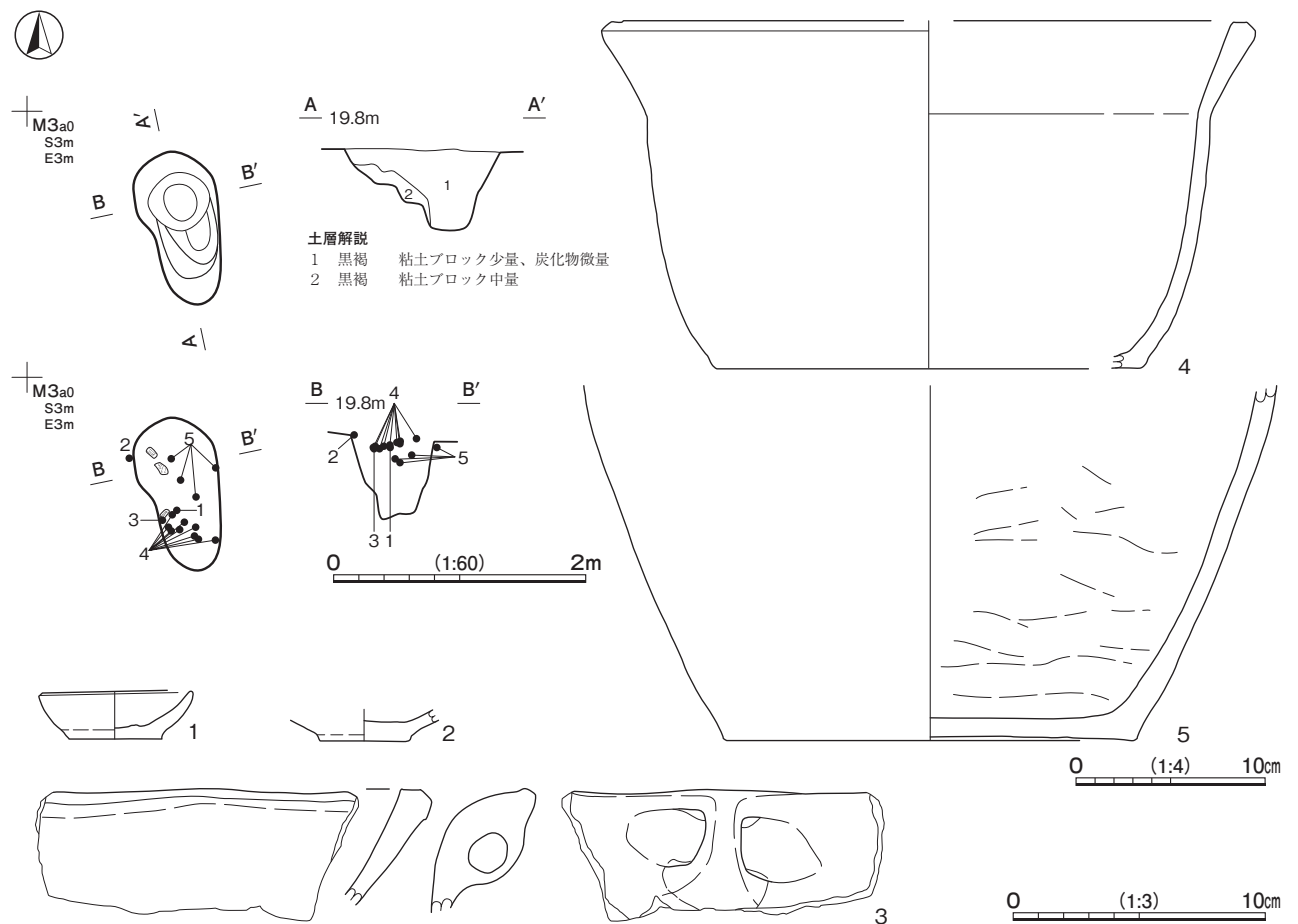
位置 第 2 号区画 (南) の M4a1 区、標高 200 m ほどの低地部に位置している。

規模と形状 長径 1.25 m、短径 0.66 m の楕円形で、長径方向は N - 12° - W である。深さ 67cm で、南壁が階段状、北部が柱穴状である。

覆土 2 層に分層できる。ほぼ第 1 層の単一層であることから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器 23 点 (皿 3、内耳鍋 19、甕 1) が出土している。1 ~ 5 は、覆土上層のほぼ同じ高さから、炭化材を伴って出土している。

所見 形状は、柱穴の抜き取り痕と類似しているが、性格は不明である。時期は、出土土器から 16 世紀前半と考えられる。



第 148 図 第 1161 号土坑・出土遺物実測図

第 83 表 第 1161 号土坑出土遺物一覧 (第 148 図)

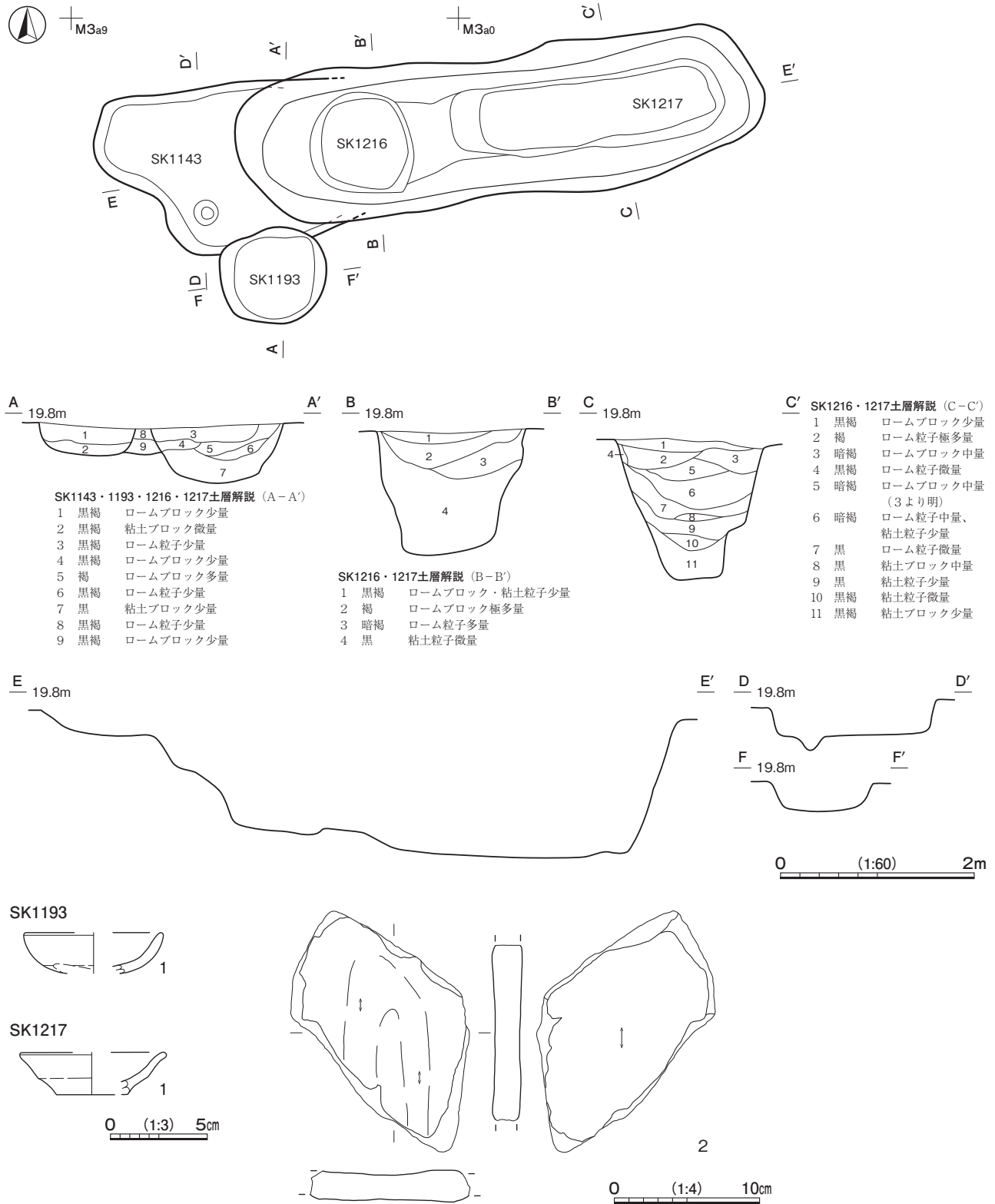
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	6.6	1.9	3.7	長石・石英・雲母	淡黄	普通	底部回転糸切り	覆土上層	80% PL43
2	土師質土器	皿	-	(1.3)	3.5	長石・石英・雲母	橙	普通	体部下端やや強いナデ	覆土上層	20%
3	土師質土器	内耳鍋	-	(5.2)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内面弱いナデ	覆土上層	5% PL43
4	土師質土器	内耳鍋	[33.6]	18.4	[22.5]	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	耳部欠損 口縁部外反	覆土上層	30% PL43
5	土師質土器	甕	-	(18.8)	[21.5]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	内外面ナデ	覆土上層	15%

第 1216・1217 号土坑 (第 149 図 PL22・23・43)

位置 第 2 号区画 (南) の M3a9 区、標高 20.0 m ほどの低地部に位置している。

重複関係 第 1143 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 整理段階で、第 1216 号土坑と第 1217 号土坑の重複関係が不明であることや、類似している土坑の例などから、一つの土坑と判断した。長径 5.40 m、短径 1.60 m の隅丸長方形で、長径方向は N - 80° - E である。壁は外傾して立ち上がり、西側底面は径 1.05 m のほぼ円形に、東側底面は 2.8 m × 0.75 m の隅丸長方形に掘り込んでいる。深さは西側で 125cm、東側で 145cm である。



第 149 図 第 1143・1193・1216・1217 号土坑・出土遺物実測図

覆土 11層に分層できる。第2～5層はロームブロックを多く含む暗褐色土など、第7層以下は粘土ブロックが混じる黒色土などを主体に堆積していることから、人為堆積である。

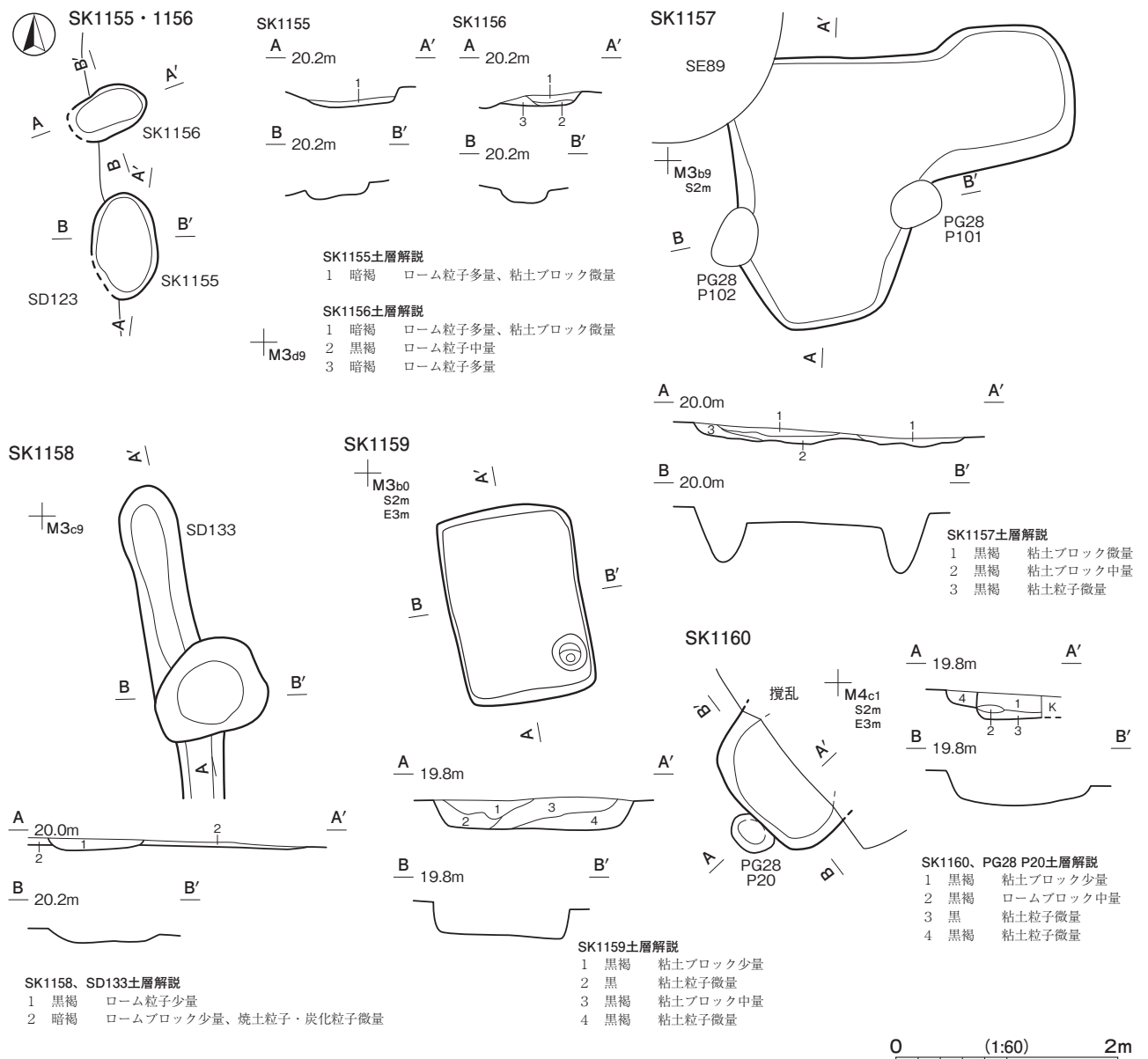
遺物出土状況 土師質土器1点（皿）、陶器1点（甕）、瓦質土器1点（甕カ）、石器1点（砥石）が出土している。ほかに混入した土師器28点（坏1、甕26、高坏1）、須恵器12点（高台付坏1、蓋1、盤1、甕9）、土製品1点（支脚）が出土している。

所見 第1号区画の第1385号土坑や、第2号区画（北）の第1286号土坑などに類似していることから、それらと同様に、雨水や湧水の貯水施設としての機能が考えられる。時期は、出土土器から16世紀前半と考えられる。

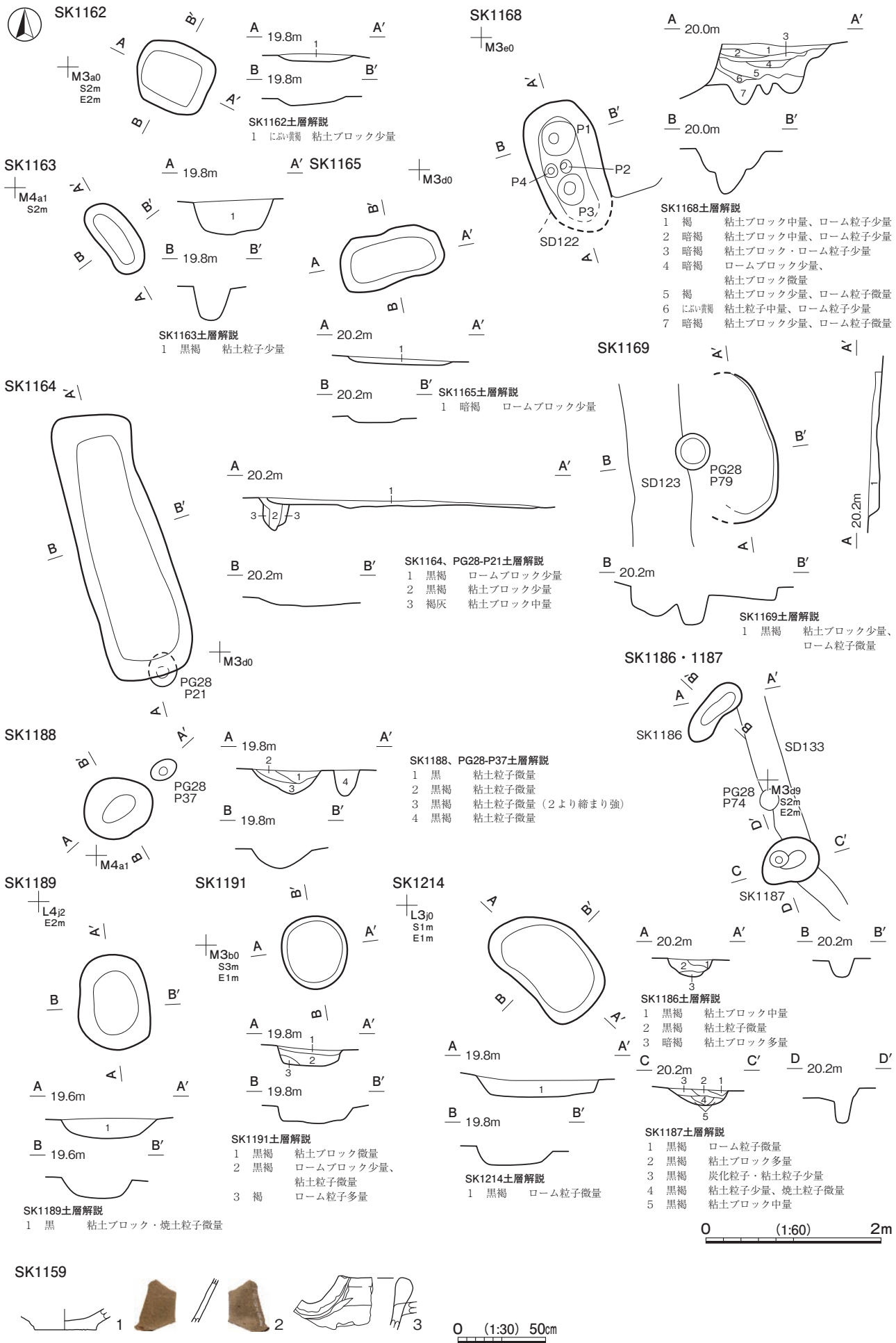
第84表 第1193・1217号土坑出土遺物一覧（第149図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1193-1	土師質土器	皿	[7.0]	(2.1)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部横位のナデ 体部ヘラナデ 非ロクロ	覆土	10%
1217-1	土師質土器	皿	[7.4]	2.2	[3.8]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部・体部下端やや強いナデ 底部回転糸切り	覆土上層	15%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1217-2	砥石	(16.6)	(12.4)	2.0	(589.33)	雲母片岩	砥面2面	覆土上層	PL43



第150図 第2号区画（南）の土坑実測図



第151図 第2号区画(南)の土坑・出土遺物実測図

第 85 表 第 2 号区画（南）の土坑出土遺物一覧（第 151 図）

番号	種 別	器 種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考	
1159-1	土師質土器	皿	-	(1.1)	3.7	長石・石英・雲母	橙	普通	体部下端やや強いナデ 底部回転糸切り後板目状圧痕	覆土	20%	
番号	種 別	器 種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	特 徴	釉薬	産地	出土位置	備 考
1159-2	陶器	碗カ	-	(2.5)	-	長石	黄灰	両面施釉	灰釉	瀬戸・美濃	覆土	5%
1159-3	陶器	片口鉢	-	(2.2)	-	長石	灰オリーブ	口部	灰釉	瀬戸・美濃	覆土	5%

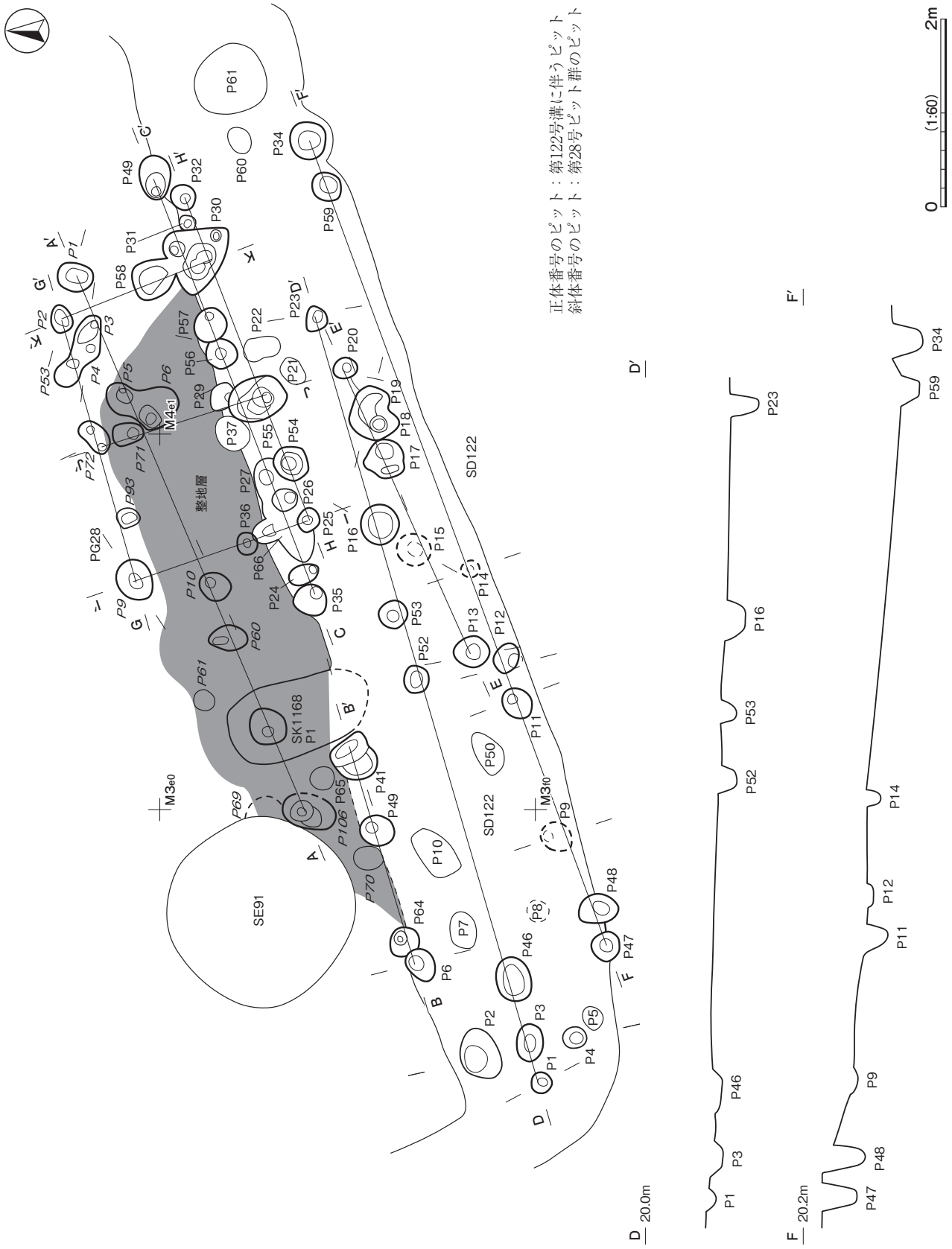
第 86 表 第 2 号区画（南）の土坑一覧

番号	位 置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	主 な 出 土 遺 物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
1120	M 3 a8	N - 6° - W	楕円形	1.62 × 1.11	20	外傾	平坦	自然	内耳鍋	第 143 図 SE89 → 本跡 PL20
1143	M 3 a9	N - 82° - W	不整形	(1.80) × 1.70	25	外傾	平坦	自然	-	第 149 図 本跡 → SK1193・1216・1217 ビット 1 基
1150	M 3 d8	N - 7° - W	楕円形	0.96 × 0.54	65	外傾 内彎	皿状	人為	皿	SD123 → 本跡 墓坑カ
1155	M 3 c8	N - 2° - W	楕円形	0.96 × 0.60	7	外傾	皿状	自然	-	SD123 と重複
1156	M 3 c8	N - 70° - E	楕円形	(0.65) × 0.43	10	外傾	皿状	自然	-	SD123 と重複
1157	M 3 b9	N - 7° - W	不整形	(1.50) × 1.52	14	外傾	平坦	自然	-	SE89、PG28 P 101・102 と重複
1158	M 3 c9	N - 59° - E	楕円形	1.02 × 0.88	13	外傾	平坦	自然	-	SD133 → 本跡
1159	M 4 b1	N - 10° - W	長方形	1.77 × 1.20	30	外傾	平坦	自然	碗カ 皿 片口鉢	ビット 1 基 PL21
1160	M 4 c1	N - 37° - W	〔隅丸長方形〕	1.35 × (0.63)	30	外傾	皿状	自然	-	PG28 P 20 → 本跡 PL21
1161	M 4 a1	N - 12° - W	楕円形	1.25 × 0.66	67	直立	皿状	人為	皿 内耳鍋 炭化材	
1162	M 3 a0	N - 63° - W	隅丸長方形	0.89 × 0.75	8	外傾	皿状	自然	-	
1163	M 4 a1	N - 30° - W	楕円形	0.90 × 0.44	40	外傾	皿状	自然	皿 内耳鍋	
1164	M 3 c9	N - 15° - W	隅丸長方形	3.11 × 1.02	8	外傾	平坦	自然	内耳鍋	PG28 P 21 → 本跡
1165	M 3 d9	N - 80° - E	楕円形	1.21 × 0.60	8	外傾	平坦	自然	-	
1168	M 3 e0	N - 18° - W	楕円形	(1.30) × 0.82	47	外傾	凹凸	人為	-	本跡 → SD122 ビット 4 基
1169	M 3 d8	N - 7° - W	〔楕円形〕	(1.74) × (0.48)	14	外傾	平坦	自然	-	
1186	M 3 d9	N - 38° - E	楕円形	0.82 × 0.34	21	外傾	皿状	自然	-	SD133 → 本跡
1187	M 3 d9	N - 60° - E	楕円形	0.68 × 0.54	16	外傾	皿状	人為	-	SD133 → 本跡 ビット 1 基
1188	L 4 j1	N - 59° - E	楕円形	0.80 × 0.69	26	外傾	皿状	自然	-	
1189	L 4 j2	N - 6° - W	楕円形	1.09 × 0.80	23	外傾	平坦	自然	内耳鍋	
1191	M 3 b0	N - 10° - W	楕円形	0.84 × 0.75	20	外傾	凹凸	自然	-	
1193	M 3 a9	-	円形	1.08 × 1.00	29	外傾	平坦	自然	皿	第 149 図 SK1143 → 本跡
1214	L 3 j0	N - 47° - W	楕円形	1.38 × 0.86	23	外傾	平坦	自然	-	
1216 1217	M 3 a9	N - 80° - E	隅丸長方形	5.40 × 1.60	125 145	外傾 直立	皿状 平坦	人為	坏 高台付坏 蓋 皿 盤 高坏 甕 支脚 砥石	SK1143 → 本跡

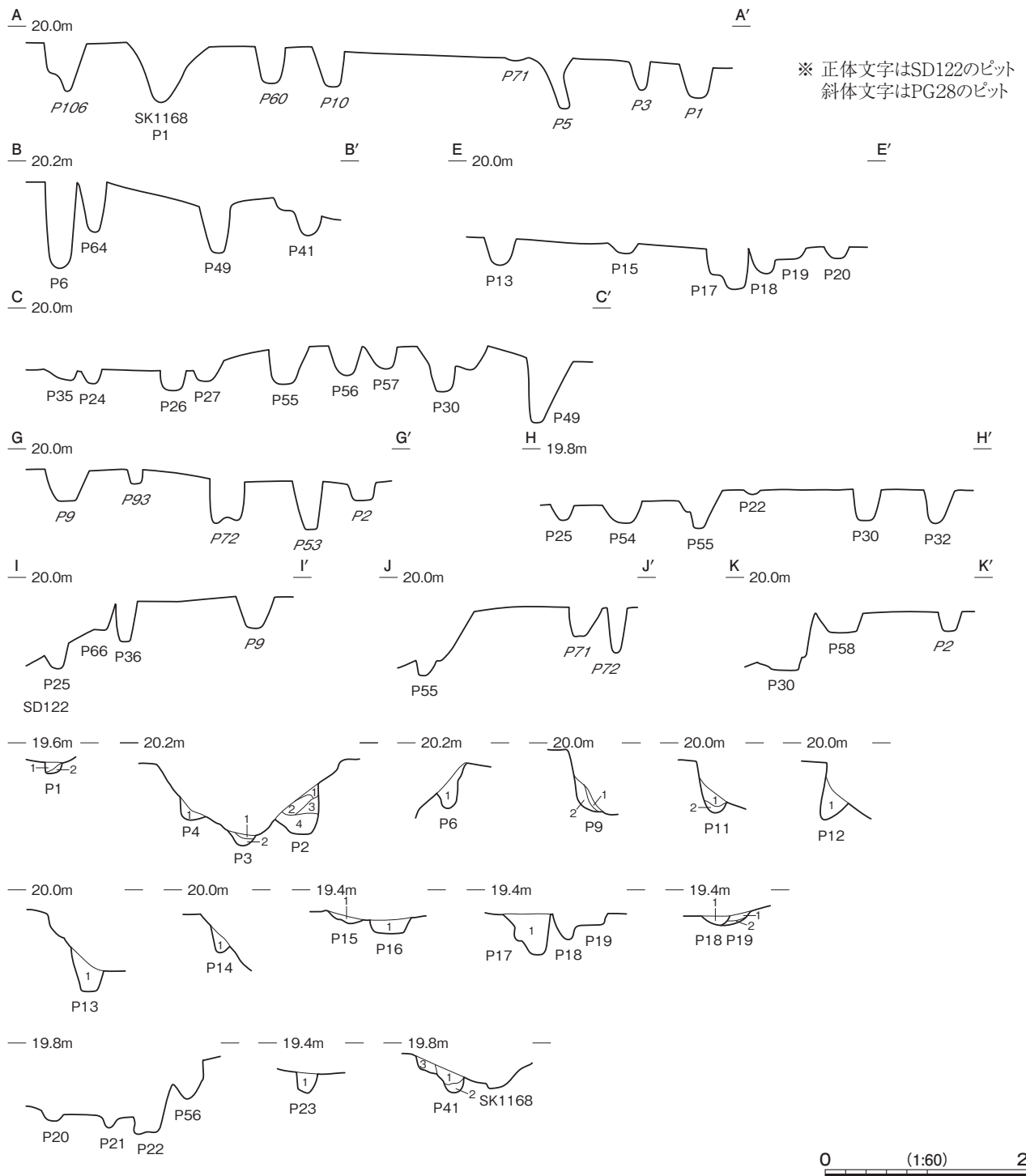
オ 柱穴列

第 2 号区画（南）の南部、第 122 号溝の壁際に複数のピットを確認した。これらについては、調査段階では第 122 号溝に伴うピットと判断した。整理段階では第 122 号溝に伴うピットと第 28 号ピット群のピットの中で、径や深さ、覆土が同様の特徴を有しているものを、第 28 号柱穴列とした。第 122 号溝の橋脚や護岸施設の可能性がある。以下、実測図と一覧で記載する。

第 28 号柱穴列 (第 152・153 図)



第 152 図 第 28 号柱穴列実測図(1)



P1 土層解説

- 1 暗褐色 粘土ブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量

P2 土層解説

- 1 暗褐色 粘土粒子少量、ローム粒子微量
- 2 暗褐色 粘土ブロック多量
- 3 黒褐色 粘土粒子少量、ローム粒子微量
- 4 暗褐色 粘土ブロック中量

P3 土層解説

- 1 暗褐色 粘土粒子微量
- 2 暗褐色 粘土ブロック多量

P4 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子微量

P6 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子少量

P9 土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック・ローム粒子微量
- 2 黒褐色 粘土ブロック多量

P11 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、粘土ブロック微量
- 2 黒褐色 粘土ブロック少量

P12 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量

P13 土層解説

- 1 暗褐色 粘土ブロック少量、ローム粒子微量

P14 土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック少量、ロームブロック微量

P15 土層解説

- 1 暗褐色 粘土ブロック中量

P16 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子微量

P17 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、粘土粒子微量

P18 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・粘土粒子少量

P19 土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック多量、ローム粒子少量
- 2 黒褐色 粘土ブロック多量

P23 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子少量

P41 土層解説

- 1 暗褐色 粘土ブロック中量
- 2 灰黄褐色 粘土粒子中量
- 3 褐色 粘土ブロック中量

第 153 図 第 28 号柱穴列実測図(2)

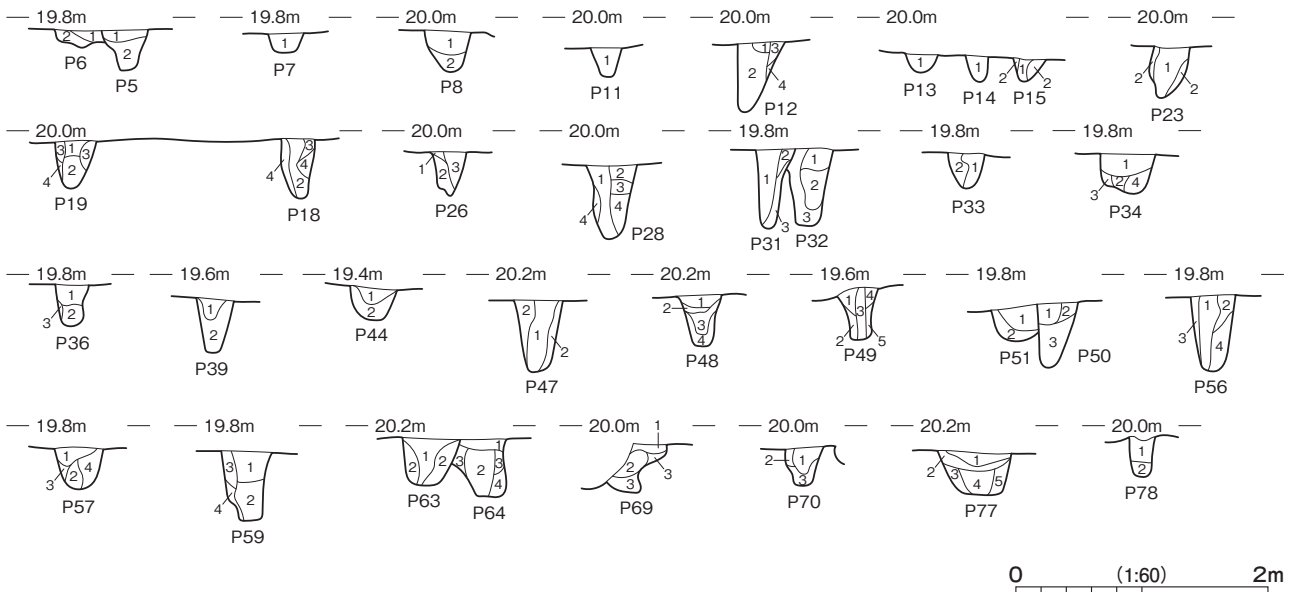
第 87 表 第 122 号溝ピット一覧

番号	位置	平面形	規模 (cm)			番号	位置	平面形	規模 (cm)			番号	位置	平面形	規模 (cm)		
			長径 (軸)	短径 (軸)	深さ				長径 (軸)	短径 (軸)	深さ				長径 (軸)	短径 (軸)	深さ
1	M 3 f9	円形	23	23	11	20	M 4 e1	楕円形	26	22	8	49	M 3 e9	楕円形	38	32	59
2	M 3 e9	楕円形	55	40	50	21	M 4 e1	楕円形	30	22	10	50	M 3 e0	楕円形	50	30	14
3	M 3 e9	楕円形	40	28	20	22	M 4 e1	楕円形	40	24	48	52	M 3 e0	円形	30	28	4
4	M 3 f9	円形	25	25	20	23	M 4 e1	不整形円形	26	24	20	53	M 3 e0	円形	30	30	7
5	M 3 f9	楕円形	30	24	30	24	M 3 e0	楕円形	30	20	46	54	M 3 e0	円形	40	37	64
6	M 3 e9	楕円形	37	27	44	25	M 3 e0	楕円形	25	25	62	55	M 4 e1	楕円形	60	48	69
7	M 3 e9	楕円形	42	28	18	26	M 3 e0	楕円形	28	22	56	56	M 4 e1	円形	33	31	36
8	M 3 f9	[円形]	[24]	[23]	35	27	M 3 e0	[楕円形]	(40)	(25)	41	57	M 4 e1	円形	37	35	30
9	M 3 f9	[楕円形]	[35]	[30]	33	29	M 4 e1	[楕円形]	33	[22]	26	58	M 4 d1	[楕円形]	[50]	43	25
10	M 3 e9	楕円形	57	34	22	30	M 4 e1	不整形楕円形	75	65	53	59	M 4 e1	楕円形	35	30	38
11	M 3 e0	楕円形	35	30	37	31	M 4 e1	円形	18	17	46	60	M 4 e1	楕円形	30	23	22
12	M 3 e0	楕円形	32	25	50	32	M 4 e1	円形	26	26	64	61	M 4 e1	円形	80	73	113
13	M 3 e0	楕円形	38	34	42	34	M 4 e1	円形	40	40	36	62	M 4 d2	円形	40	38	28
14	M 3 e0	[円形]	[20]	[20]	26	35	M 3 e0	円形	35	33	42	63	M 4 d3	[楕円形]	(30)	25	59
15	M 3 e0	[円形]	[37]	[37]	10	36	M 3 e0	円形	25	25	36	64	M 3 e9	楕円形	35	30	38
16	M 3 e0	円形	42	42	15	37	M 4 e1	楕円形	42	33	34	65	M 3 e0	楕円形	30	26	70
17	M 3 e0	不整形円形	43	40	40	46	M 3 e9	楕円形	48	36	9	66	M 3 e0	[楕円形]	25	(24)	24
18	M 4 e1	[不整形楕円形]	[40]	[25]	23	47	M 3 f9	円形	30	30	35						
19	M 4 e1	[不整形楕円形]	[50]	[30]	12	48	M 3 f9	楕円形	42	30	44						

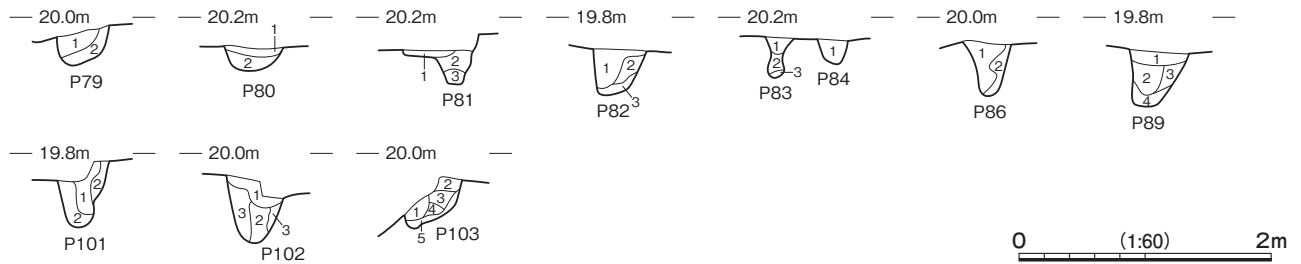
カ ピット群

第 2 号区画 (南) の南西コーナー部周辺を中心に、多数のピットが存在している。一部のピットについては、規模や覆土の状況、配置などから、第 44 号掘立柱建物の柱穴と判断した。それ以外にも、柱穴と考えられるものが多数存在している。これらについては、第 28 号ピット群とした。遺物は P 69 から、常滑産の甕が出土している。時期は掘立柱建物や土坑群などとはほぼ同様に、15 世紀後半から 16 世紀代と考えられる。以下、実測図と一覧で記載する。なお、土層断面について、平面図が煩雑になるためにセクションポイントを入れていないが、南ないし西を基準として測量している。また、以下の一覧には、掘立柱建物に帰属したのも、番号を振り替えずに記載している。

第 28 号ピット群 (第 18・19・23・154・155 図)



第 154 図 第 28 号ピット群実測図



P 5 土層解説

- 1 黒褐 粘土粒子微量
- 2 黒褐 粘土粒子中量

P 6 土層解説

- 1 黒褐 粘土ブロック少量
- 2 黒褐 粘土粒子中量

P 7 土層解説

- 1 黒褐 粘土粒子中量

P 8 土層解説

- 1 黒褐 粘土ブロック少量
- 2 黒褐 粘土粒子少量

P 11 土層解説

- 1 黒褐 ローム粒子少量

P 12 土層解説

- 1 暗褐 ローム粒子微量
- 2 黒褐 ローム粒子中量、粘土ブロック微量
- 3 におい黴 粘土ブロック極多量
- 4 黒褐 ローム粒子少量

P 13~15 土層解説

- 1 黒褐 粘土粒子微量
- 2 暗褐 ローム粒子少量

P 18・19 土層解説

- 1 黒褐 粘土粒子微量
- 2 黒褐 粘土ブロック少量
- 3 灰黄褐 粘土ブロック中量
- 4 黒褐 粘土粒子中量

P 23 土層解説

- 1 黒褐 粘土ブロック少量
- 2 黒褐 粘土粒子微量

P 26 土層解説

- 1 黒褐 粘土粒子微量
- 2 黒褐 粘土粒子少量
- 3 褐灰 粘土粒子中量

P 28 土層解説

- 1 黒褐 ロームブロック中量、粘土粒子微量
- 2 褐 ロームブロック多量
- 3 褐 粘土粒子微量
- 4 暗褐 ロームブロック中量、粘土粒子微量

P 31 土層解説

- 1 黒褐 粘土粒子少量
- 2 黒褐 粘土ブロック中量
- 3 黒褐 粘土粒子微量

P 32 土層解説

- 1 黒褐 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐 粘土粒子少量、炭化粒子微量
- 3 黒褐 粘土粒子中量、炭化粒子微量

P 33 土層解説

- 1 黒褐 粘土粒子微量
- 2 黒褐 粘土粒子中量

P 34 土層解説

- 1 黒褐 粘土ブロック少量
- 2 黒褐 粘土粒子少量
- 3 黒褐 粘土ブロック少量 (1より暗)
- 4 暗褐 粘土ブロック中量、焼土粒子微量

P 36 土層解説

- 1 黒褐 粘土粒子少量
- 2 黒褐 粘土ブロック少量
- 3 黒褐 粘土粒子少量 (1より明)

P 39 土層解説

- 1 黒褐 ロームブロック中量
- 2 黒褐 ロームブロック少量

P 44 土層解説

- 1 黒褐 ロームブロック微量
- 2 黒褐 ローム粒子微量

P 47 土層解説

- 1 暗褐 ロームブロック・粘土粒子少量
- 2 黒褐 粘土ブロック・ローム粒子少量

P 48 土層解説

- 1 黒褐 ローム粒子微量
- 2 暗褐 ローム粒子中量
- 3 黒褐 ローム粒子少量
- 4 暗褐 ロームブロック中量

P 49 土層解説

- 1 褐 ロームブロック中量、粘土粒子少量
- 2 暗褐 ロームブロック少量
- 3 黒褐 ロームブロック少量
- 4 黄褐 ロームブロック・焼土ブロック少量
- 5 褐 ローム粒子・粘土粒子少量

P 50 土層解説

- 1 黒褐 ローム粒子・焼土粒子少量
- 2 黄褐 粘土粒子中量、ロームブロック・焼土粒子少量
- 3 暗褐 ロームブロック少量

P 51 土層解説

- 1 暗褐 ロームブロック・粘土粒子少量
- 2 褐 ロームブロック中量

P 56 土層解説

- 1 黒褐 粘土ブロック微量
- 2 黒褐 粘土ブロック中量
- 3 黒褐 粘土粒子少量
- 4 黒褐 粘土粒子微量

P 57 土層解説

- 1 暗褐 ローム粒子少量
- 2 黒褐 ローム粒子微量
- 3 黒褐 ローム粒子中量
- 4 黒褐 ローム粒子微量 (2より明)

P 59 土層解説

- 1 黒褐 ロームブロック少量、粘土ブロック微量
- 2 暗褐 粘土ブロック微量
- 3 黒褐 ローム粒子・粘土粒子微量
- 4 暗褐 粘土ブロック中量

P 63 土層解説

- 1 褐 ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量
- 2 褐 ロームブロック・粘土粒子微量

P 64 土層解説

- 1 暗褐 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
- 2 褐 ロームブロック・焼土粒子微量
- 3 褐 ロームブロック微量
- 4 暗褐 ロームブロック中量、焼土粒子微量

P 69 土層解説

- 1 暗褐 粘土ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐 粘土ブロック・ローム粒子微量
- 3 暗褐 粘土ブロック少量、ローム粒子微量

P 70 土層解説

- 1 暗褐 粘土ブロック・ローム粒子微量
- 2 暗褐 粘土ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐 粘土ブロック・ローム粒子微量 (1より明)

P 77 土層解説

- 1 暗褐 ローム粒子・炭化粒子少量、粘土ブロック微量
- 2 暗褐 粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐 粘土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐 粘土ブロック少量、炭化粒子・粘土粒子微量
- 5 暗褐 粘土ブロック中量、炭化粒子微量

P 78 土層解説

- 1 暗褐 粘土ブロック微量
- 2 褐 粘土ブロック少量

P 79 土層解説

- 1 暗褐 粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 褐 粘土粒子少量、ローム粒子微量

P 80 土層解説

- 1 暗褐 粘土ブロック少量
- 2 褐 粘土ブロック中量

P 81 土層解説

- 1 暗褐 粘土粒子少量
- 2 暗褐 粘土ブロック少量
- 3 暗褐 粘土ブロック中量

P 82 土層解説

- 1 黒褐 粘土粒子微量
- 2 暗褐 粘土ブロック中量
- 3 暗褐 粘土ブロック多量

P 83 土層解説

- 1 暗褐 粘土ブロック中量、ローム粒子少量
- 2 暗褐 粘土ブロック少量、ローム粒子微量
- 3 暗褐 粘土ブロック中量、炭化粒子微量

P 84 土層解説

- 1 暗褐 ローム粒子少量、粘土ブロック微量

P 86 土層解説

- 1 黒褐 ローム粒子微量
- 2 暗褐 ローム粒子中量

P 89 土層解説

- 1 黒褐 ローム粒子少量
- 2 黒褐 粘土粒子・焼土粒子微量
- 3 黒褐 ローム粒子・粘土粒子微量
- 4 黒褐 粘土ブロック少量

P 101 土層解説

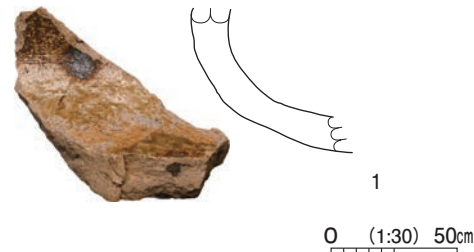
- 1 暗褐 ローム粒子少量
- 2 黒褐 ロームブロック少量

P 102 土層解説

- 1 黒褐 ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 2 黒褐 粘土粒子少量、ローム粒子微量
- 3 暗褐 粘土ブロック中量

P 103 土層解説

- 1 黒褐 ローム粒子微量
- 2 黒褐 ローム粒子少量
- 3 暗褐 粘土ブロック中量
- 4 灰黄褐 粘土ブロック少量、ローム粒子微量
- 5 におい黴 粘土ブロック多量



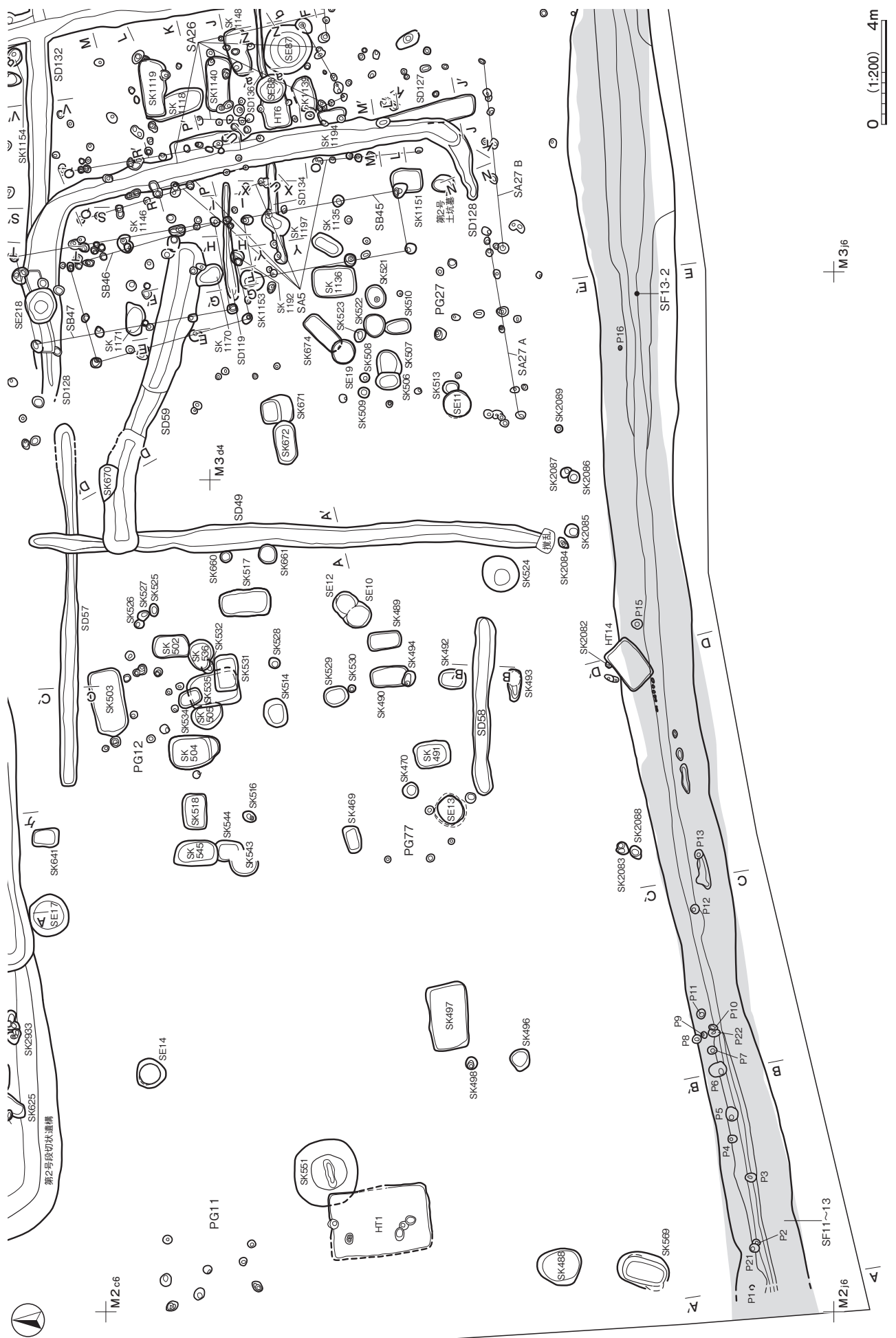
第 155 図 第 28 号ピット群・出土遺物実測図

第 88 表 第 28 号ピット群出土遺物一覧 (第 155 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
1	陶器	甕	-	(5.5)	-	長石	におい黄褐	内外面ナデ	無釉	常滑	P 69	5%

第89表 第28号ピット群ピット一覧

番号	位置	平面形	規 模 (cm)		番号	位置	平面形	規 模 (cm)		番号	位置	平面形	規 模 (cm)	
			長径 (軸) × 短径 (軸)	深さ				長径 (軸) × 短径 (軸)	深さ				長径 (軸) × 短径 (軸)	深さ
1	M 4 d1	楕円形	38 × 28	30	36	M 3 b9	楕円形	34 × 26	32	72	M 4 d0	楕円形	40 × 22	45
2	M 4 d1	楕円形	30 × 23	15	37	L 4 j1	楕円形	32 × 23	30	73	M 3 d9	楕円形	30 × 18	36
3	M 4 d1	[楕円形]	(40) × 22	25	38	L 4 j1	円形	42 × 39	27	74	M 3 d9	楕円形	25 × 20	48
4	M 4 d1	[円形]	(30) × 28	48	39	L 4 j1	円形	38 × 35	42	75	M 3 d9	円形	25 × 23	25
5	M 4 d1	[楕円形]	(40) × 32	49	40	L 4 j2	円形	33 × 31	26	76	M 3 e9	楕円形	24 × 18	24
6	M 4 d1	[楕円形]	48 × (40)	85	41	L 4 j2	楕円形	30 × 26	9	77	M 3 c8	楕円形	60 × 42	33
7	M 4 d1	円形	30 × 28	15	42	M 4 a2	円形	22 × 21	20	78	M 3 c8	円形	23 × 23	31
8	M 3 d0	円形	36 × 36	33	43	M 4 a2	円形	35 × 35	28	79	M 3 d8	楕円形	48 × 40	33
9	M 3 d0	楕円形	45 × 36	30	44	M 4 a2	円形	40 × 38	27	80	M 3 c9	楕円形	45 × 40	19
10	M 3 e0	楕円形	35 × 28	33	45	M 3 c9	楕円形	32 × 27	18	81	M 3 d8	楕円形	35 × 30	28
11	M 3 d0	楕円形	28 × 25	22	46	M 3 c9	円形	32 × 32	26	82	M 4 c1	楕円形	43 × 34	36
12	M 3 d0	楕円形	53 × 42	55	47	M 3 c9	楕円形	35 × 26	56	83	M 3 d9	[円形]	(23) × (23)	32
13	M 3 c0	楕円形	24 × 20	14	48	M 3 c9	楕円形	44 × 32	41	84	M 3 d9	[円形]	(25) × (25)	20
14	M 3 c0	楕円形	30 × 24	20	49	M 4 d1	楕円形	47 × 34	42	85	M 3 e8	円形	30 × 29	24
15	M 3 c0	楕円形	35 × 25	18	50	M 4 d1	楕円形	32 × 22	50	86	M 3 b8	円形	39 × 39	42
16	M 3 b0	楕円形	38 × 30	18	51	M 4 d1	楕円形	40 × 25	26	88	L 3 j9	楕円形	55 × 43	24
17	M 3 b0	楕円形	38 × 25	56	52	M 4 d1	楕円形	22 × 18	24	89	L 3 j0	楕円形	46 × 37	44
18	M 3 d9	円形	33 × 32	48	53	M 4 d1	[楕円形]	(35) × 25	49	90	M 3 e0	円形	18 × 17	16
19	M 3 d0	円形	36 × 33	37	55	M 4 d2	円形	30 × 30	29	91	M 3 d0	円形	19 × 19	17
20	M 4 d1	[楕円形]	40 × [30]	14	56	M 3 c0	楕円形	40 × 32	60	92	M 3 e0	楕円形	20 × 17	24
21	M 3 d9	楕円形	38 × 32	37	57	M 3 b0	楕円形	43 × 36	35	93	M 3 d0	楕円形	25 × 20	22
22	M 3 c0	円形	29 × 28	45	58	M 3 b0	楕円形	35 × 30	21	94	M 3 d9	円形	20 × 20	19
23	M 3 c0	楕円形	30 × 26	40	59	M 3 a0	楕円形	40 × 33	54	95	M 3 d9	楕円形	37 × 26	35
24	M 3 c0	円形	18 × 18	23	60	M 3 e0	楕円形	42 × 28	52	96	M 3 d9	楕円形	52 × 30	21
25	M 3 c0	円形	22 × 21	17	61	M 3 e0	円形	24 × 22	8	97	M 3 c0	楕円形	26 × 20	17
26	M 3 c9	円形	30 × 30	35	62	M 3 d9	楕円形	30 × 25	23	98	M 3 c8	楕円形	21 × 18	25
27	M 3 c0	円形	29 × 27	13	63	M 3 e9	円形	40 × 37	37	99	M 3 c9	楕円形	23 × 15	29
28	M 3 c0	楕円形	49 × 40	56	64	M 3 d9	楕円形	47 × 32	47	100	M 3 d9	楕円形	38 × 28	29
29	M 3 b0	楕円形	42 × 34	27	65	M 3 e9	円形	25 × 23	6	101	M 3 b9	楕円形	52 × 34	54
30	M 3 c0	楕円形	68 × 56	19	66	M 3 e9	円形	22 × 22	11	102	M 3 b9	不整楕円形	53 × 45	55
31	M 3 c0	楕円形	33 × 28	63	67	M 3 e9	円形	30 × 28	8	103	M 3 b8	[円形]	55 × (45)	40
32	M 3 c0	円形	40 × 40	62	68	M 3 e9	楕円形	26 × 22	7	104	M 3 d9	[楕円形]	60 × (40)	28
33	M 3 c0	円形	32 × 30	26	69	M 3 e9	[円形]	(40) × (36)	40	105	M 3 c9	楕円形	28 × 22	16
34	M 3 c0	楕円形	43 × 34	30	70	M 3 e9	楕円形	31 × 25	31	106	M 3 e9	[楕円形]	57 × (35)	47
35	M 3 b0	楕円形	36 × 30	27	71	M 4 d1	楕円形	32 × 23	28					



第156図 第3号区画とその周辺の遺構全体図

(4) 第3号区画とその周辺の遺構と遺物

ア 溝跡

第3号区画の東側には、南北に延びる第128号溝が位置している。第2号区画(南)の西を区画している第123号溝とは、ほぼ軸方向を同じくし、両者の間隔は約5mで通路状部分となっている。第128号溝は、北部で第132号溝と重複している地点で約90°西に屈曲し、7mほど延びたところで途絶える。その延長線上には、第57号溝が位置している。第128号溝の南側も約90°西に屈曲し、2.5mほど延びている。延長上には第57号溝と並行している第58号溝がやや軸方向を変えて位置している。区画内には、第128号溝と軸方向が同一の第119・134号溝が東西に延び、区画を細分するように位置している。また、第128号溝の東部で、第134号溝の延長上に第136号溝が位置し、第2号区画(南)の第123号溝と接している。第128号溝の北東隅部からは、第132号溝が東に延びて、第123号溝と交差している。この第132号溝は、第1号区画の南東隅部から東に延びている第124号溝とほぼ並行しており、この間も通路状部分となっている。このほか、区画中央部には、区画を構成している溝とは軸方向を違え、蛇行している第59号溝が位置している。第49号溝は、区画西部で第57号溝にほぼ直行し、その東側の約4.0m幅の範囲は、遺構の密度が著しく低い。以下、第3号区画の第128号溝について記述し、それ以外については実測図と一覽で記載する。

第128号溝跡(第156～158図 PL 9)

位置 第3号区画の東部を区画している溝で、M3b4～M3f6区の標高20.5mほどの台地斜面部に位置している。

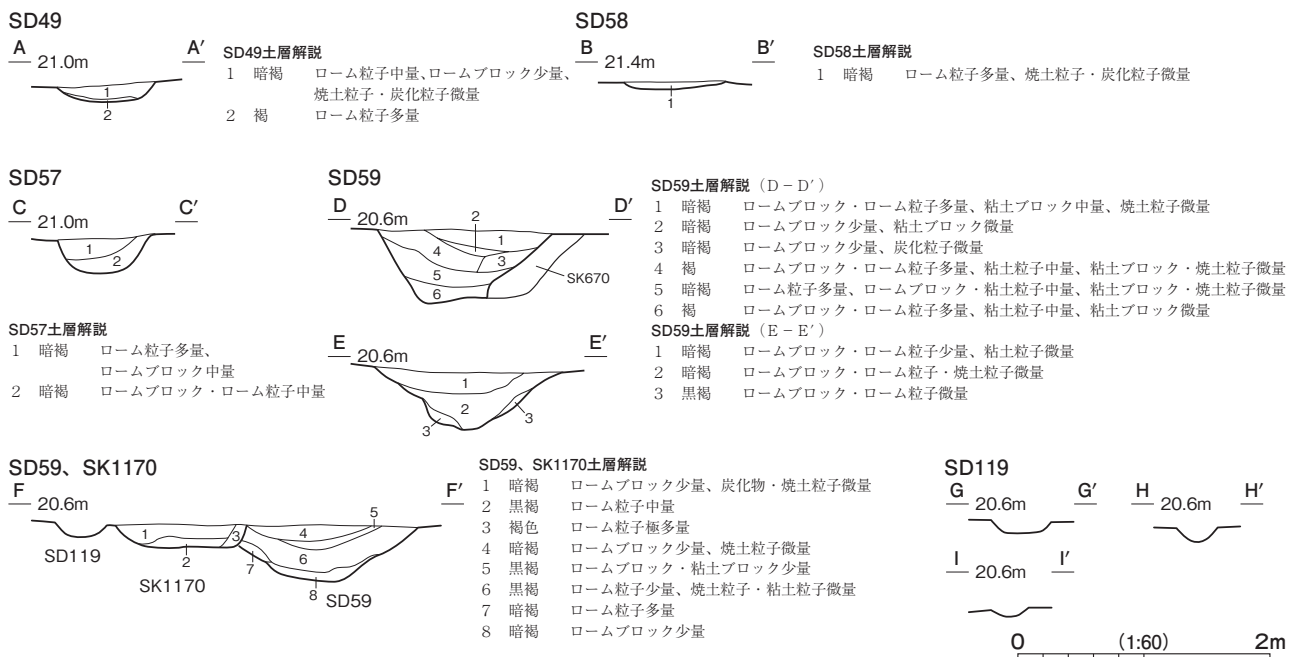
重複関係 第132・134号溝跡、第27号ピット群P35を掘り込み、第127号溝、第218号井戸、第1147号土坑に掘り込まれている。溝の上端に沿うように第5・26号柱穴列が位置しており、橋脚や護岸施設としての機能が考えられる。

規模と形状 M3b4区から東(N-83°-E)へ7mほど延び、第132号溝と接して約90°南に屈曲して(N-170°-E)16mほど直線的に延びている。M3f7区で約90°西に屈曲して(N-260°-E)2.5mほど延びている。全体的にはコの字状を呈している。上幅38～143cm、下幅20～95cm、深さ10～40cmで、断面は逆台形である。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。南部で接している第127号溝は、位置などから本跡と同一のもので、掘り返しなどと考えられる。

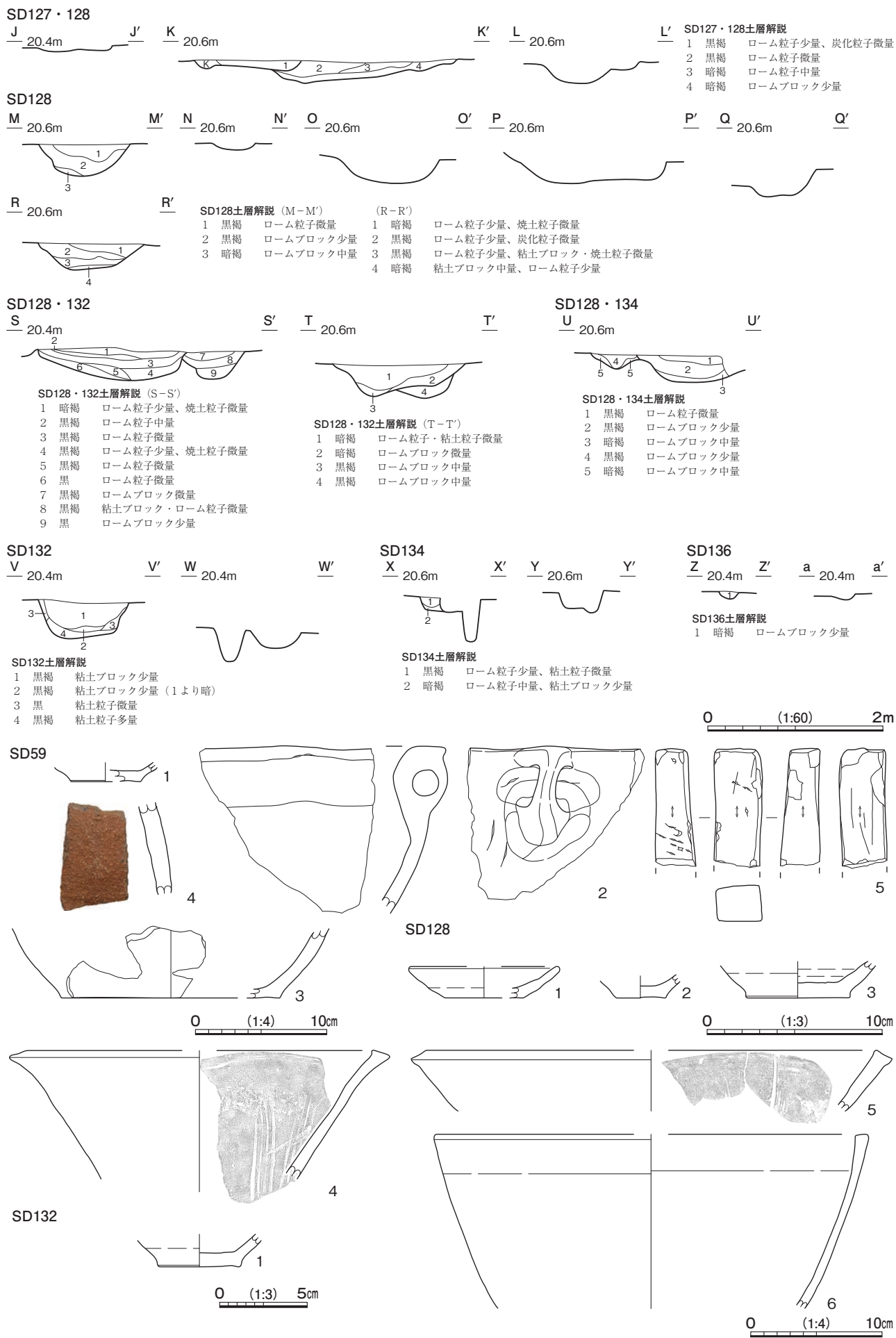
覆土 6層に分層できる。ローム粒子を含む黒褐色土などが、レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

遺物出土状況 土師質土器16点(皿4、挿鉢2、壺カ1、内耳鍋9)が、覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土遺物から、15世紀後半から16世紀前半と考えられる。



第157図 第3号区画とその周辺の溝跡実測図



第158図 第3号区画とその周辺の溝跡・出土遺物実測図

第90表 第3号区画とその周辺の溝跡出土遺物一覧（第158図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
59-1	土師質土器	皿	-	(1.1)	[4.0]	長石・石英	にぶい褐	普通	底部回転糸切り	覆土下層	20%
59-2	土師質土器	内耳鍋	-	(9.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部やや内彎気味の立ち上がり	覆土下層	10% PL29
59-3	土師質土器	内耳鍋	-	(5.5)	[16.7]	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	内外面ナデ	覆土下層	5%
128-1	土師質土器	皿	[8.2]	1.8	[4.4]	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部直線的な立ち上がり	覆土上層	15%
128-2	土師質土器	皿	-	(1.4)	2.9	長石・石英・雲母	橙	普通	底部回転糸切り	覆土上層	20%
128-3	土師質土器	皿	-	(2.1)	[6.0]	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	体部下端やや強いナデ 底部回転糸切り	覆土上層	20%
128-4	土師質土器	播鉢	[29.0]	(9.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	4条1単位の播り目	覆土上層	10%
128-5	土師質土器	播鉢	[36.5]	(4.6)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	3条1単位の播り目	覆土上層	5%
128-6	土師質土器	内耳鍋	[33.0]	(13.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	口縁部やや内彎気味の立ち上がり	覆土上層	10%
132-1	土師質土器	皿	-	(1.9)	[4.6]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	覆土中層	20%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
59-4	陶器	甕	-	(5.3)	-	長石・石英	にぶい褐	内外面ナデ	無釉	常滑	覆土下層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
59-5	砥石	(6.7)	2.8	2.4	(69.18)	凝灰岩	砥面4面	覆土	PL29

第91表 第3号区画とその周辺の溝跡一覧

番号	位置	方向	平面形	規模				断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	上幅(cm)	下幅(cm)	深さ(cm)					
49	M3b3~M3g3	N-0°	直線状	19.74	50~103	19~60	13	皿状	外傾	人為	-	SD57→本跡→SD59 SK660・661と重複 PL4
57	M3b1~M3b4	N-90°-W	直線状	13.96	40~70	22~40	28	U字状	外傾	人為	-	本跡→SD49 PL6
58	M3f1~M3f2	N-90°-W	直線状	6.86	53~82	35~50	6	皿状	外傾	人為	-	PL4
59	M3c3~M3c6	N-78°-W	直線状	12.36	84~140	28~60	45~56	逆台形	外傾	自然 人為	皿 内耳鍋 甕 砥石	SK670→本跡→SK1170 SB47と重複 PL6・7・29
119	M3d5~M3d6	N-89°-E	直線状	[4.60]	24~49	10~38	12	逆台形	外傾	自然	-	本跡→SK1192 SE46と重複 PL8
127	M3e7~M3f7	N-167°-E	直線状	3.90	86	70	13	皿状	外傾	自然	内耳鍋 甕	SD128→本跡 PL9
128	M3b4~M3f6	N-83°-E N-170°-E N-260°-E	コの字	26.80	38~143	20~95	10~40	逆台形	外傾	自然	皿 播鉢 壺カ 内耳鍋	SD132・134、PG27 P35 →本跡→SD127、SE218、SK1147 SA5・26と重複 PL9
132	M3b6~M3b8	N-90°-E	直線状	9.30	48~104	24~60	8~40	逆台形	外傾	自然	皿 播鉢 内耳鍋	本跡→SD123・128 SE89と重複 PL10
134	M3d6	N-82°-E	直線状	3.60	30~45	18~20	16	皿状	外傾	自然	-	本跡→SK1197、SD128、PG27 P144 PL8
136	M3d7~M3d8	N-87°-E	直線状	2.73	18~28	10~15	10	皿状	外傾	自然	-	SE88、SD123と重複

イ 掘立柱建物跡

第45号掘立柱建物跡（第159図）

位置 第3号区画東部のM3e6区、標高20.5mほどの台地斜面部に位置している。

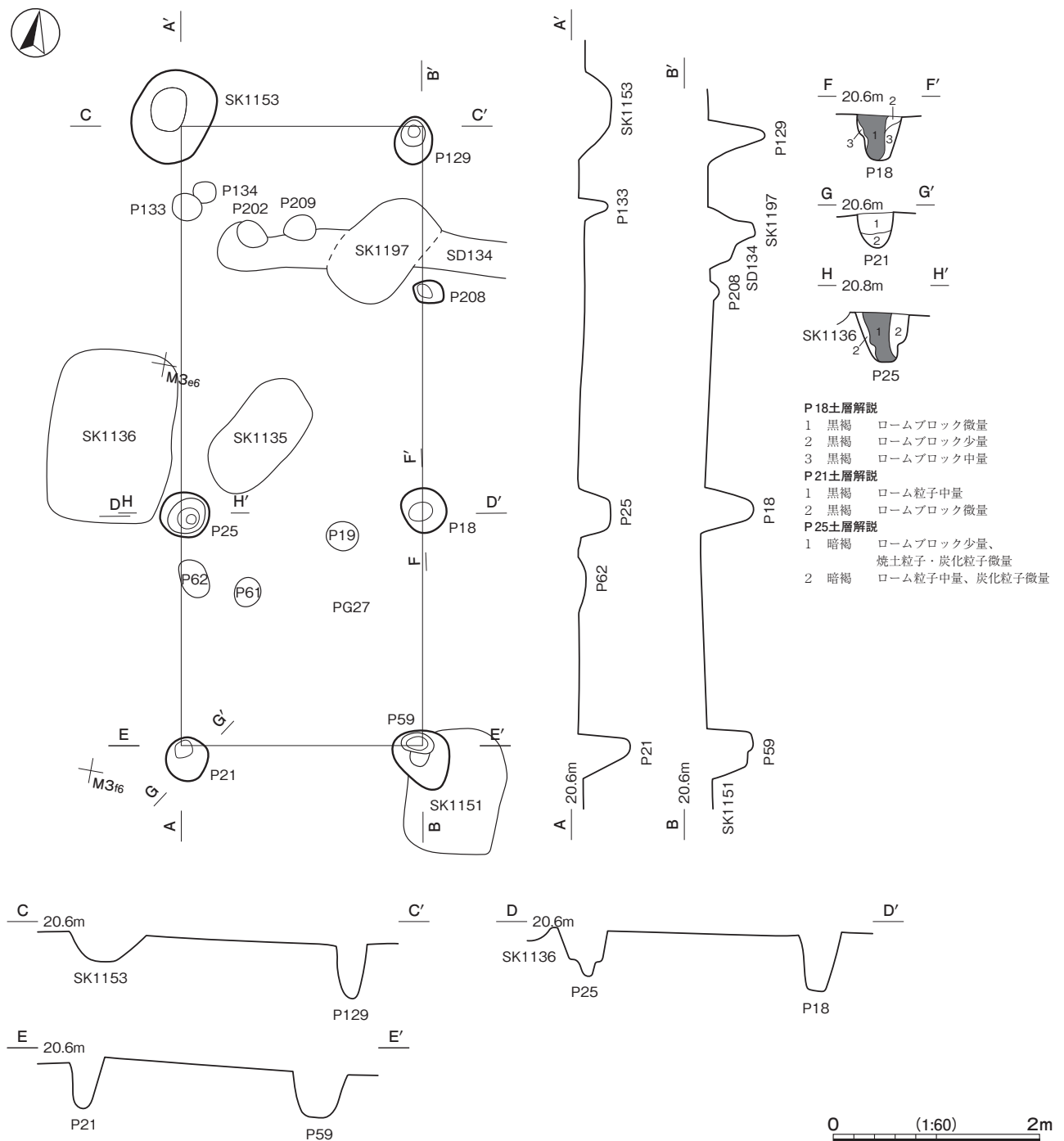
重複関係 建物の範囲内に第1135・1136・1151・1153・1197号土坑、第134号溝跡が位置し、重複しているP59と第1151号土坑との関係は不明である。

規模と形状 第27号ピット群として調査した。柱穴の配置や深さ、覆土などの検討から、整理段階で掘立柱建物跡と判断した。桁行3間、梁行1間の側柱建物跡である。規模は桁行6.0m、梁行2.35mで、N-10°-Wの南北棟である。第128号溝の長軸方向を参考にしながら本跡を想定したが、北西隅の柱穴とP208に対応する西列の柱穴が確認できなかった。P129に対応する位置には第1153号土坑があり、規模に違いはあるものの、本跡の柱穴となる可能性もある。柱間寸法は桁行がP21-P25及びP59-P18、P18-P208が2.2mと揃っているが、それ以外はP25-SK1153が3.8m、P208-P129が1.6mと不揃いである。また梁行はP21-P59及びP129-SK1153が2.35mである。

柱穴 7か所。平面形は円形と楕円形で、長径25~60cm、短径21~50cmである。深さは8~60cmで、ばらつきがある。

覆土は単層のものが多く、P 18 や P 25 のように柱痕跡が確認できたものもある。

所見 位置と形状から、中・近世の遺構と判断した。詳細な時期は不明である。



第 159 図 第 45 号掘立柱建物跡実測図

第 46 号掘立柱建物跡 (第 160・161 図)

位置 第 3 号区画北東部の M 3 c6 区、標高 20.5 m ほどの台地斜面部に位置している。

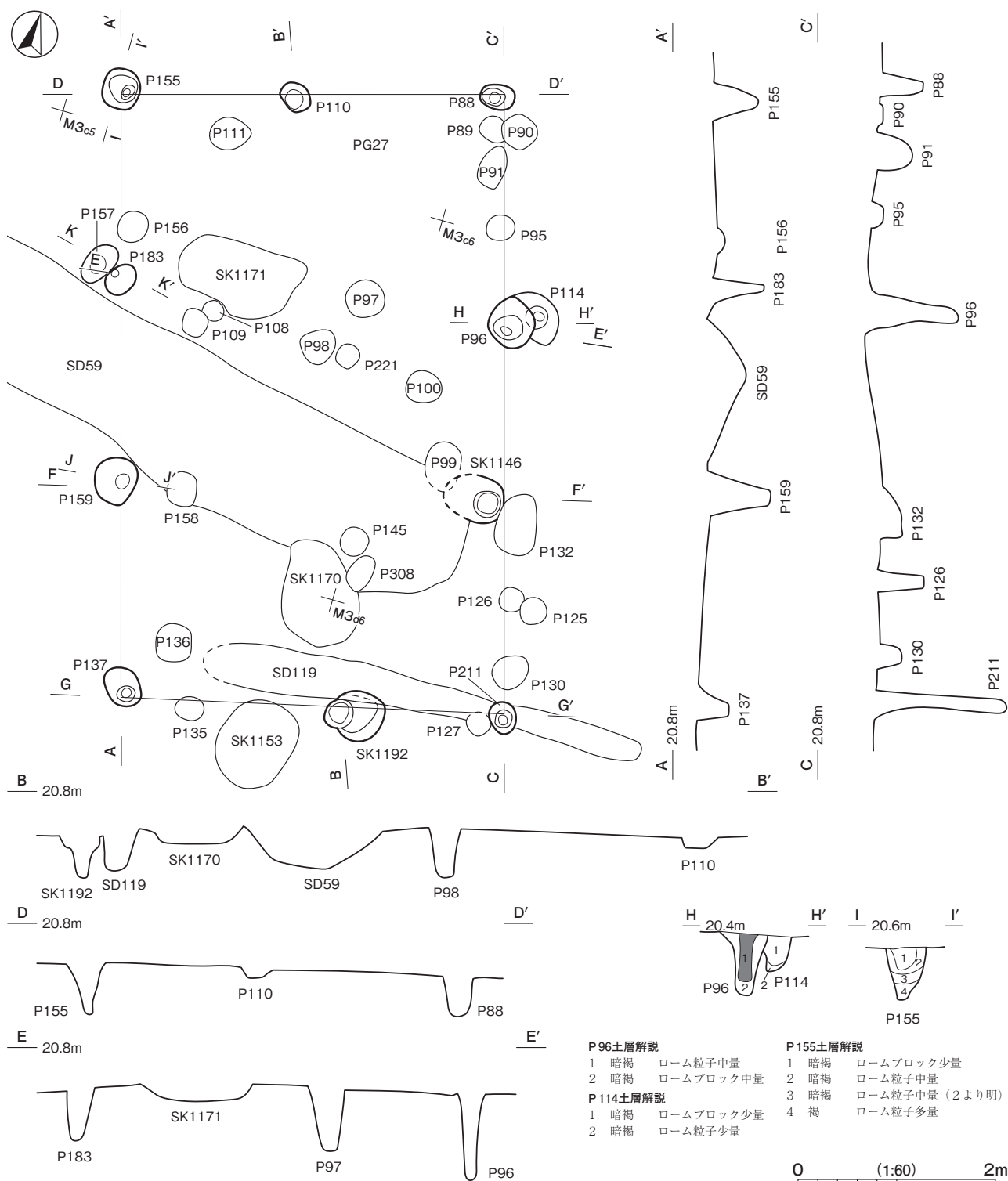
重複関係 建物の範囲内に第 47 号掘立柱建物跡、第 1146・1153・1170・1171・1192 号土坑、第 59・119 号溝跡が位置している。P 96 は第 47 号掘立柱建物跡の P 114 を掘り込んでいる。重複している P 211 と第 119 号溝跡との関係は不明である。

規模と形状 第 27 号ピット群として調査した。整理段階で柱穴の配置や深さ、覆土などの検討と、第 128 号溝の長軸方向を参考にしながら掘立柱建物跡と判断した。桁行 3 間、梁行 2 間の側柱建物跡で、第 1146・1192 号土坑は、

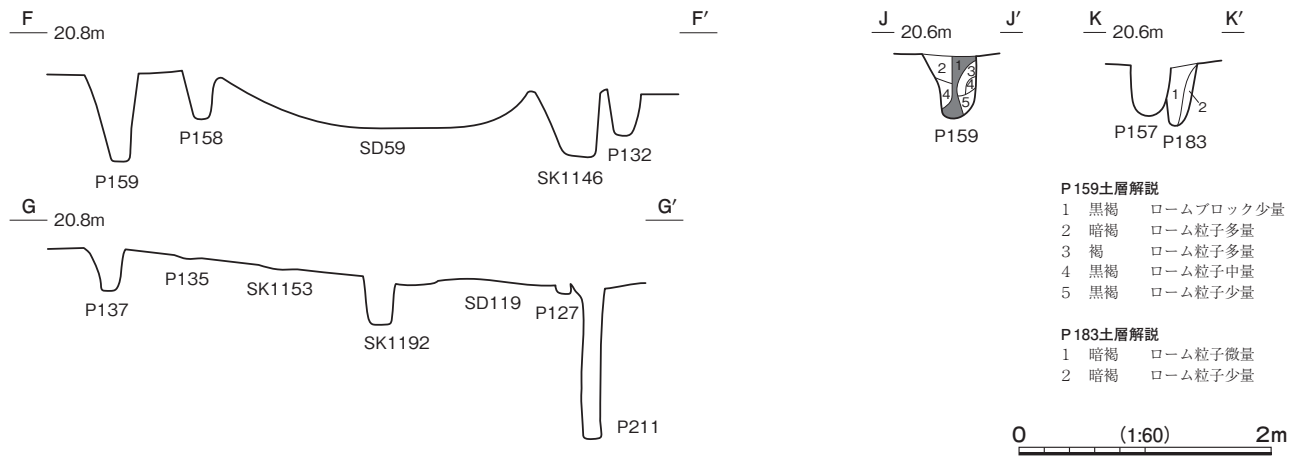
位置と形状から本跡の柱穴と判断した。規模は桁行 6.2 m、梁行 3.9 m で、N - 18° - W の南北棟である。柱間寸法は桁行が P 137 - P 159 が 2.1 m、P 159 - P 183 が 2.1 m、P 183 - P 155 が 1.9 m、P 211 - SK1146 が 2.1 m、SK1146 - P 96 が 1.7 m、P 96 - P 88 が 2.4 m、梁行が P 137 - SK1192 が 2.25 m、SK1192 - P 211 が 1.65 m、P 155 - P 110 が 1.75 m、P 110 - P 88 が 2.1 m で、柱筋はほぼ揃っているものの、柱間寸法にはややばらつきがある。

柱穴 10 か所。平面形は円形と楕円形で、長径 30 ~ 55 cm、短径 25 ~ 50 cm である。深さは P 110 が 10 cm と浅く、他も 10 ~ 130 cm で、ばらつきがある。覆土は単層のものが多く、P 96 や P 159 は柱痕跡が確認できた。

所見 位置と形状から、中・近世の遺構と判断した。詳細な時期は不明である。



第 160 図 第 46 号掘立柱建物跡実測図(1)

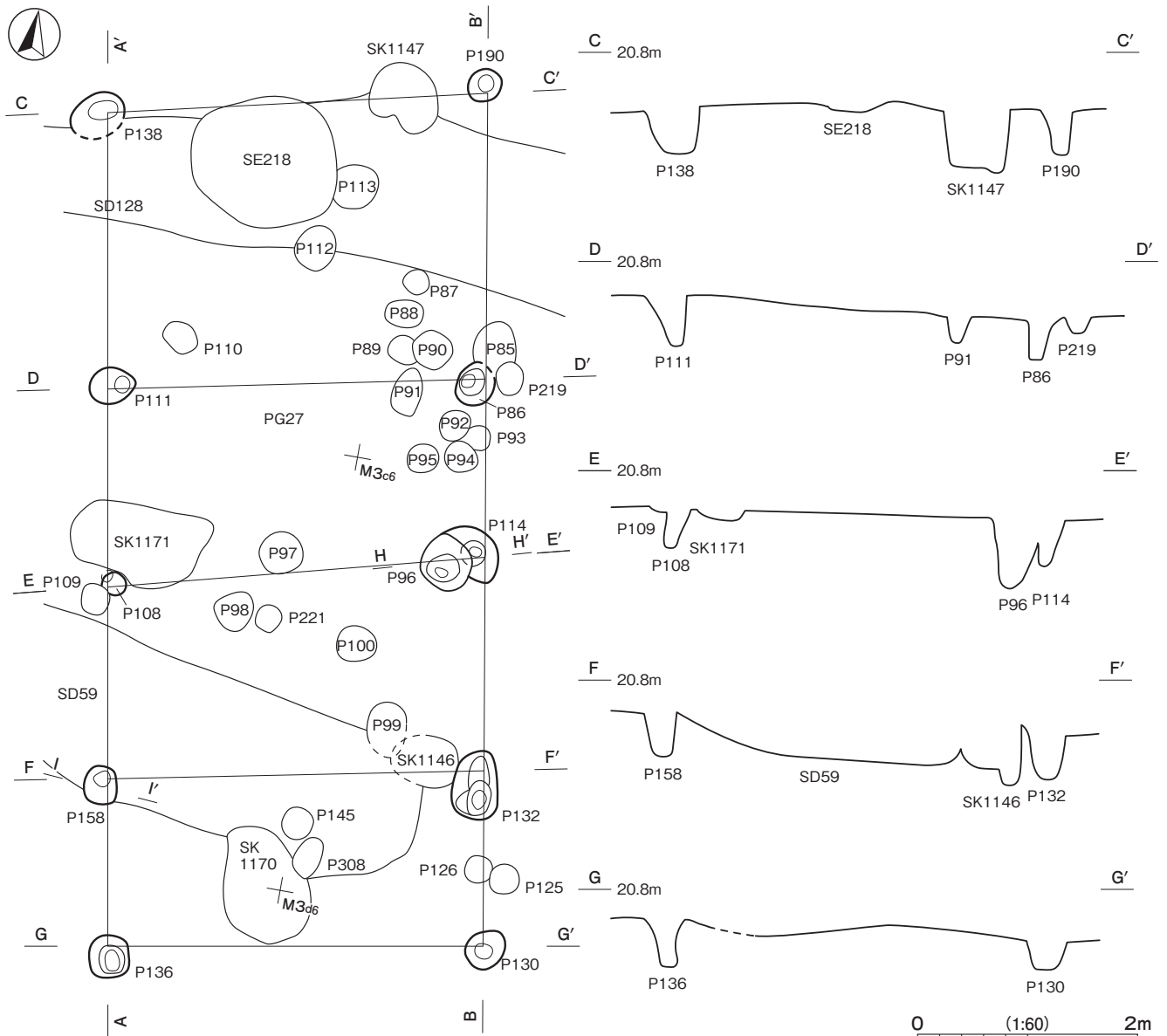


第 161 図 第 46 号掘立柱建物跡実測図(2)

第 47 号掘立柱建物跡 (第 162・163 図)

位置 第 3 号区画北東部の M3b5 区、標高 20.5 m ほどの台地斜面部に位置している。

重複関係 建物の範囲内に第 46 号掘立柱建物跡、第 1146・1147・1170・1171 号土坑、第 218 号井戸跡、第 59・



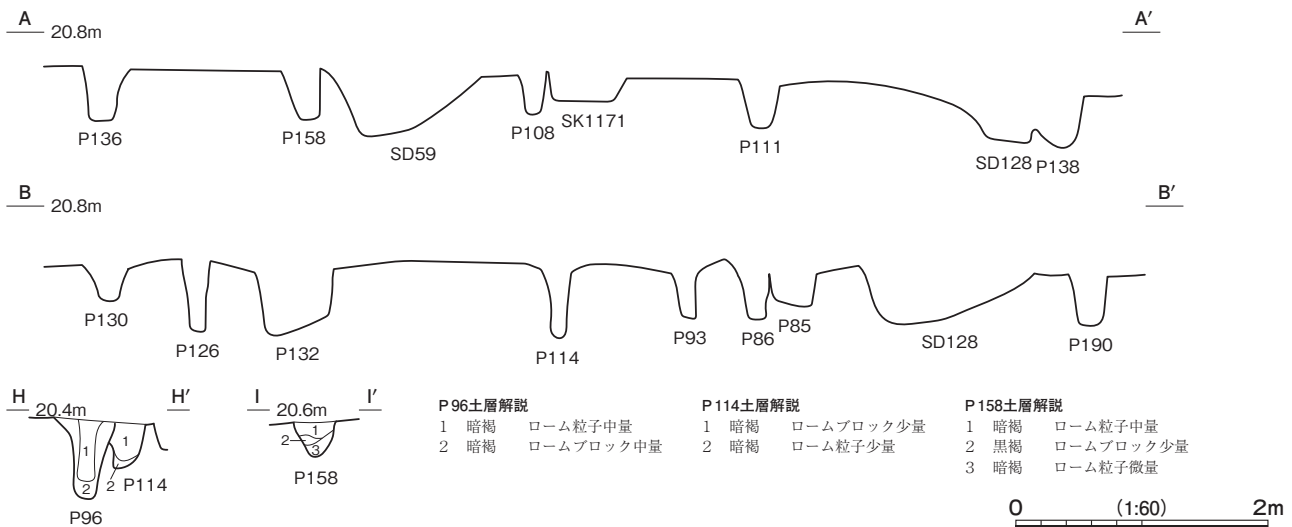
第 162 図 第 47 号掘立柱建物跡実測図(1)

128号溝跡が位置している。P 114は第46号掘立柱建物跡のP 96に掘り込まれている。重複しているP 158と第59号溝跡、P 132と第1146号土坑との関係は不明である。

規模と形状 第27号ピット群として調査した。整理段階で柱穴の配置や深さ、覆土などの検討と、第128号溝の長軸方向を参考にしながら、掘立柱建物跡と判断した。桁行4間、梁行1間の側柱建物跡である。規模は桁行7.8m、梁行3.4mで、N-12°-Wの南北棟である。柱間寸法は桁行がP 136-P 158が1.6m、P 158-P 108が1.8m、P 108-P 111が1.9m、P 111-P 138が2.5m、P 130-P 132が1.6m、P 132-P 114が1.9m、P 114-P 86が1.7m、P 86-P 190が2.6m、梁行はP 136-P 130が3.4m、P 138-P 190が3.4mで、柱筋はほぼ揃っているものの、柱間寸法にはややばらつきがある。P 138-P 190は、柱筋が揃っていることから、本跡の柱穴と判断した。第3号区画の第128号溝を越えて位置している。

柱穴 10か所。平面形は円形と楕円形で、長径20~60cm、短径20~60cmである。深さは30~60cmで、ややばらつきがある。覆土は単層のものが多く。

所見 位置と形状から、中・近世の遺構と判断した。詳細な時期は不明である。



第163図 第47号掘立柱建物跡実測図(2)

第92表 第3号区画の掘立柱建物跡一覧

番号	位置	桁行方向	柱間数 桁×梁(間)	規模 桁×梁(m)	面積 (㎡)	柱間寸法		柱穴			主な出土遺物	時期	備考	
						桁間(m)	梁間(m)	構造	柱穴数	平面形				深さ(cm)
45	M 3 e6	N-10°-W	3×1	6.0×2.35	14.10	1.6~3.8	2.35	側柱	7	円形・楕円形	8~60	-	中・近世	
46	M 3 c5	N-18°-W	3×2	6.2×3.9	24.18	1.7~2.4	1.65~2.25	側柱	10	円形・楕円形	10~130	-	中・近世	
47	M 3 b5	N-12°-W	4×1	7.8×3.4	26.52	1.6~2.6	3.45	側柱	10	円形・楕円形	30~60	-	中・近世	

ウ 方形竪穴遺構

第6号方形竪穴遺構(第164図 PL13)

位置 第2号区画(南)と第3号区画の間のM 3 d7区、標高20.5mほどの台地斜面部に位置している。

重複関係 第88号井戸に掘り込まれている。

規模と形状 東部を第88号井戸に掘り込まれているため、確認できた短軸(南北軸)は1.2mで、長軸(東西軸)は1.3mである。隅丸長方形で、壁は10cmで外傾している。長軸方向はN-80°-Eである。

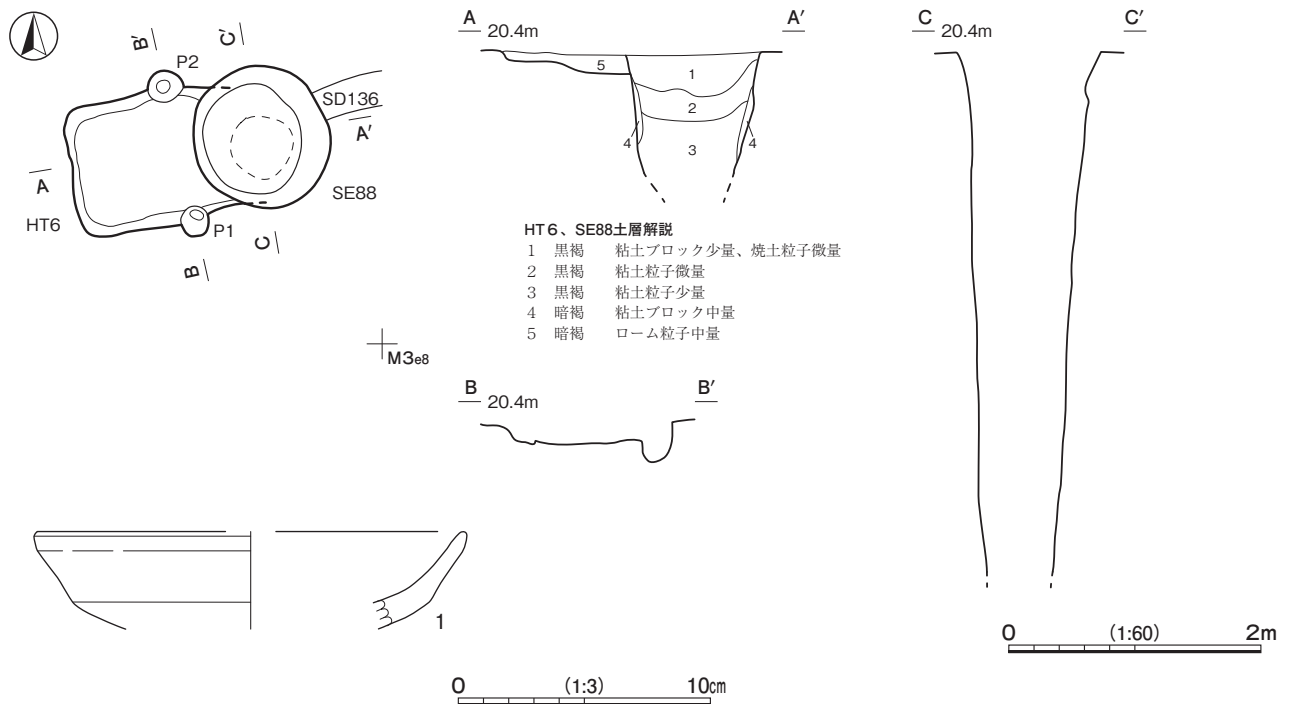
床面 東側に向かって緩やかに下がっているものの、おおむね平坦である。

ピット 2か所。P 1・P 2は、南北壁際中央部に位置し、深さはそれぞれ5cm・15cmである。

覆土 単層。ローム粒子をやや多く含む暗褐色土である。

遺物出土状況 土師質土器2点（皿、内耳鍋）、陶器1点（甕）が出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀代と考えられる。



第164図 第6号方形竪穴遺構、第88号井戸跡・出土遺物実測図

第93表 第6号方形竪穴遺構出土遺物一覧（第164図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	[17.6]	(3.8)	-	長石・石英	橙	普通	体部下半に稜	覆土	5%

エ 井戸跡

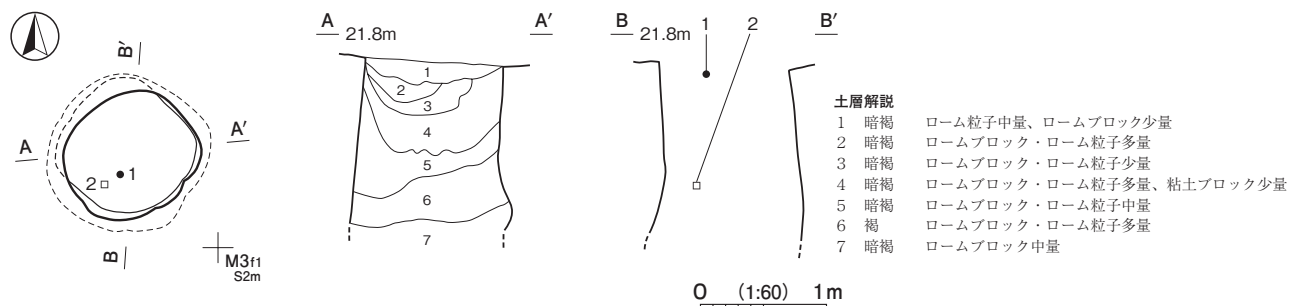
第3号区画には、第128号溝の北東コーナー部付近に、第218号井戸が位置している。また、第2号区画（南）の第123号溝と本区画の第128号溝との間に、第87・88号井戸がある。第87号井戸は、上径が2m弱の大型のものである。以下、それぞれについて記述する。

第13号井戸跡（第165・166図 PL14・37）

位置 第3号区画南西部のM2f0区、標高22.0mほどの台地斜面部に位置している。

規模と形状 長径1.09m、短軸0.99mの楕円形で、長径方向はN-62°-Eである。確認面から円筒状に掘り込んでいる。崩落の恐れがあったため、確認面からの深さ134cmまでの調査とした。

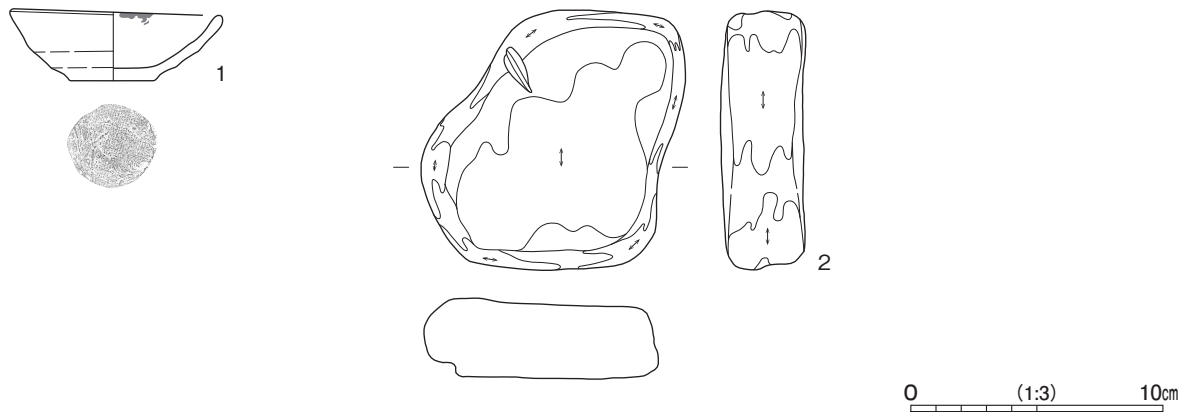
覆土 7層を確認した。各層にわたりロームブロックを多く含むことから、人為堆積である。



第165図 第13号井戸跡実測図

遺物出土状況 土師質土器3点(皿2、内耳鍋1)、石器1点(砥石)が出土している。ほかに混入した土師器1点(甕)、須恵器2点(甕)が出土している。1は覆土上層、2は覆土下層から出土している。

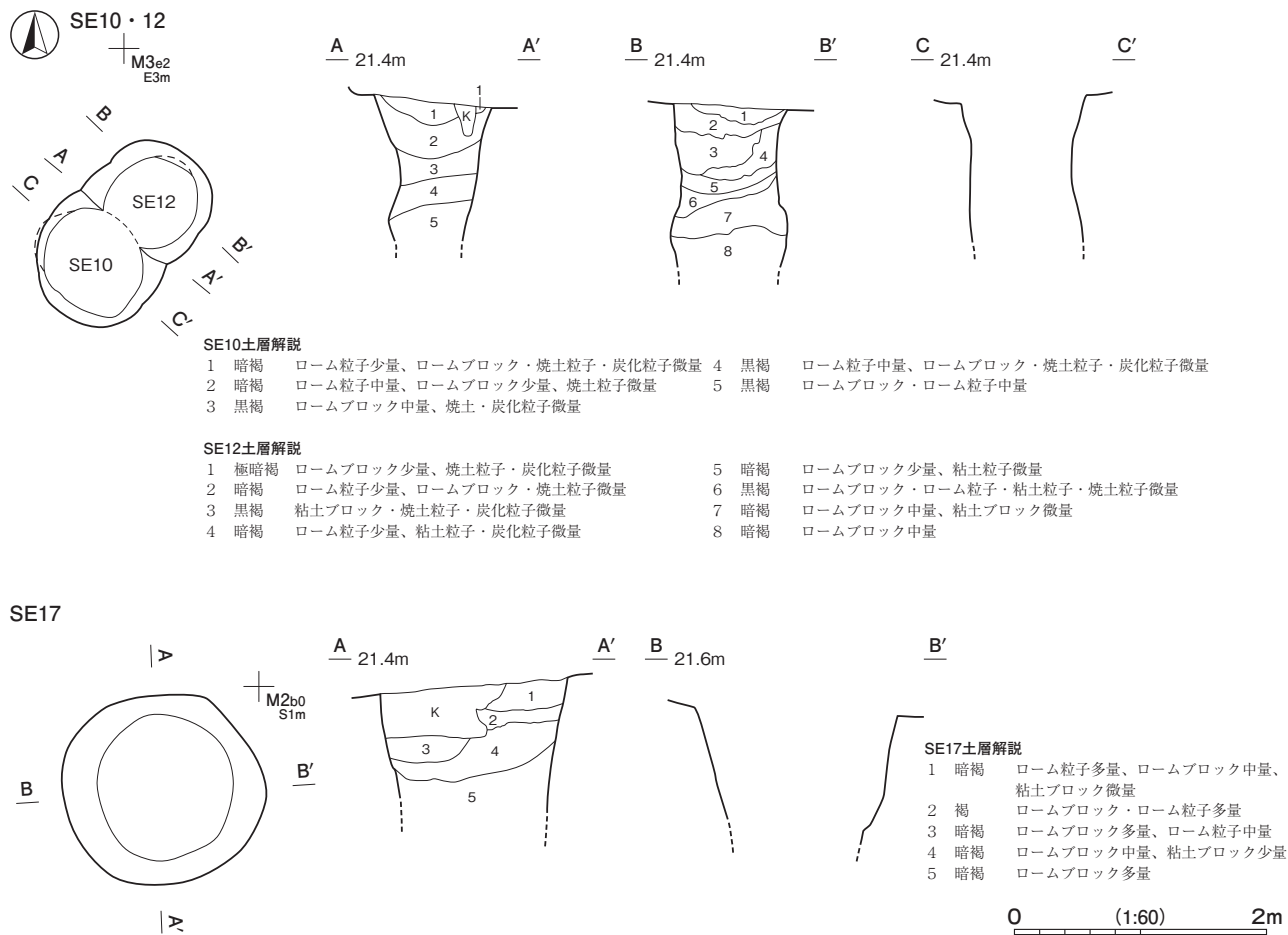
所見 時期は、出土土器から16世紀前半と考えられる。



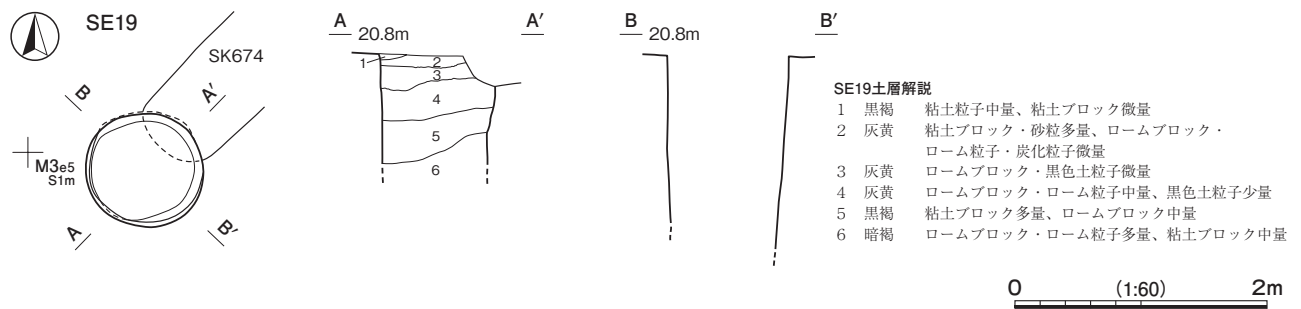
第166図 第13号井戸跡出土遺物実測図

第94表 第13号井戸跡出土遺物一覧(第166図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	8.2	2.9	3.5	長石・石英	橙	普通	口縁部わずかに内湾 底部回転糸切り	覆土上層	100% PL37 口縁部油煙付着
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
2	砥石	10.3	10.5	3.3	58.37	結晶片岩	砥面(表面・外周縁)			覆土下層	PL37



第167図 第10・12・17号井戸跡実測図



第 168 図 第 19 号井戸跡実測図

第 87 号井戸跡 (第 169・170 図 PL15・38)

位置 第 2 号区画 (南) と第 3 号区画の間の通路状部分の M 3 d8 区、標高 20.5 m ほどの台地斜面部に位置している。

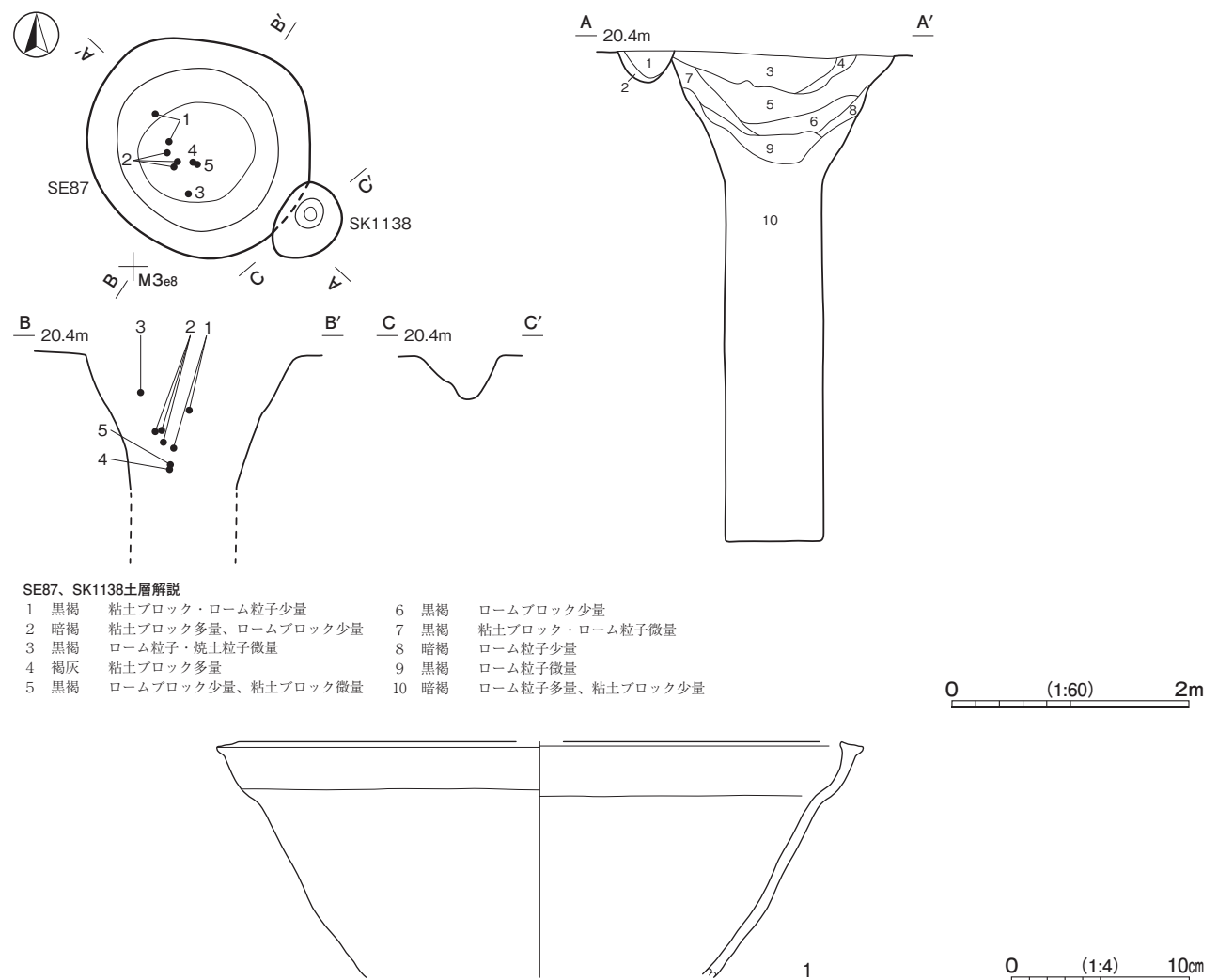
重複関係 第 1138 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 径 1.82 m の円形である。確認面から 100cm までは漏斗状に掘り込み、それ以下は径 90cm の円筒状に掘り込んでいる。確認面からの深さは 410cm である。

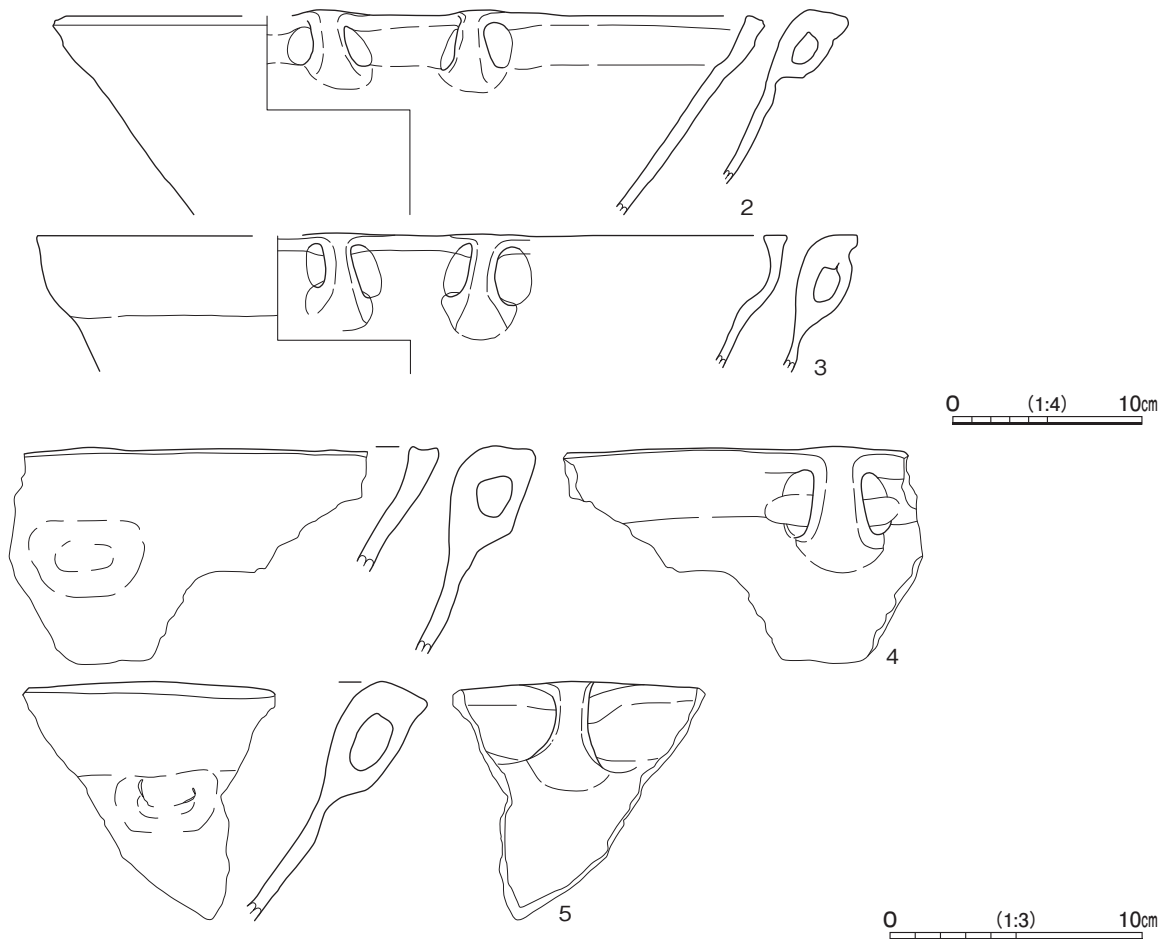
覆土 10 層に分層できる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積である。

遺物出土状況 土師質土器 18 点 (内耳鍋 17、甕 1) が出土している。1～5 は、漏斗状の掘り込みの覆土中層から下層にかけて出土している。

所見 時期は、出土土器から 16 世紀前半と考えられる。



第 169 図 第 87 号井戸跡、第 1138 号土坑・出土遺物実測図



第170図 第87号井戸跡出土遺物実測図

第95表 第87号井戸跡出土遺物一覧（第169・170図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	内耳鍋	[34.0]	(13.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部内彎 内面強いナデ	覆土中層 ～下層	15% PL38
2	土師質土器	内耳鍋	[36.2]	(10.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部内彎 内面強いナデ	覆土中層 ～下層	10% PL38
3	土師質土器	内耳鍋	[39.6]	(7.3)	-	長石・石英・雲母	暗褐	普通	口縁部内彎 内面強いナデ	覆土中層 ～下層	5% PL38
4	土師質土器	内耳鍋	-	(8.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	口縁部内面弱いナデ	覆土中層 ～下層	5%
5	土師質土器	内耳鍋	-	(9.5)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部内面やや強いナデ	覆土中層 ～下層	5%

第88号井戸跡（第164図 PL13・15）

位置 第2号区画（南）と第3号区画の間の通路状部分のM3d7区、標高20.5mほどの台地斜面部に位置している。

重複関係 第6号方形竪穴遺構を掘り込んでいる。重複している第136号溝跡との関係は不明である。

規模と形状 長径1.13m、短径1.09mの円形で、円筒状に掘り込んでいる。確認面からの深さは400cm以上である。

覆土 4層を確認した。レンズ状の堆積状況から、自然堆積である。

遺物出土状況 土師質土器1点（内耳鍋）、陶器1点（甕）が出土している。

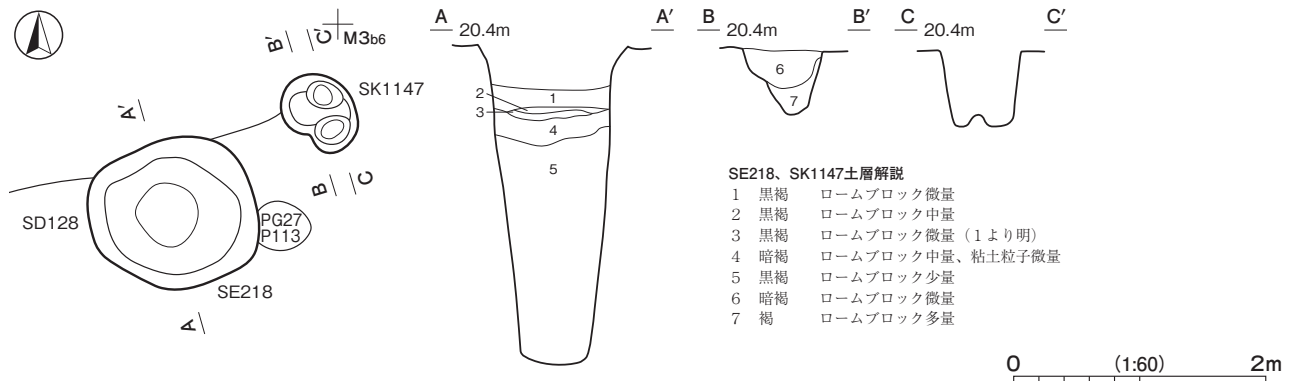
所見 位置と形状から、中・近世の遺構と判断した。詳細な時期は不明である。

第218号井戸跡（第171図 PL17）

位置 第3号区画北東コーナー部付近のM3b5区、標高20.5mほどの台地斜面部に位置している。

重複関係 第128号溝跡を掘り込んでいる。重複している第27号ピット群P113との関係は不明である。

規模と形状 長径 1.40 m、短径 1.22 m の楕円形で、円筒状に掘り込んでいる。確認面からの深さは 255cm である。
覆土 5 層に分層できる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積である。
遺物出土状況 土師質土器 1 点（播鉢）が出土している。
所見 位置と形状から、中・近世の遺構と判断した。詳細な時期は不明である。



第 171 図 第 218 号井戸跡、第 1147 号土坑実測図

第 96 表 第 3 号区画とその周辺の井戸跡一覧

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
10	M 3 e2	N - 49° - E	[楕円形]	1.02 × (0.85)	(115)	円筒状	-	人為	-	本跡→SE12 PL14
12	M 3 e2	N - 49° - E	[楕円形]	0.95 × (0.75)	(132)	円筒状	-	人為	-	SE10→本跡 PL14
13	M 2 f0	N - 62° - E	楕円形	1.09 × 0.99	(134)	円筒状	-	人為	皿 内耳鍋 砥石	
17	M 2 b9	-	円形	1.63 × 1.50	(98)	円筒状	-	人為	-	PL14
19	M 3 e5	-	円形	0.96 × 0.94	(140)	円筒状	-	人為	-	本跡→SK674 PL15
87	M 3 d8	-	円形	1.82 × 1.82	410	漏斗状	平坦	自然	内耳鍋 甕	本跡→SK1138
88	M 3 d7	-	円形	1.13 × 1.09	(400)	円筒状	-	自然	内耳鍋 甕	HT 6→本跡 SD136と重複
218	M 3 b5	N - 58° - W	楕円形	1.40 × 1.22	255	円筒状	平坦	自然	播鉢	SD128→本跡 PG27 P 113と重複

オ 土坑墓

第 2 号土坑墓 (第 172 図)

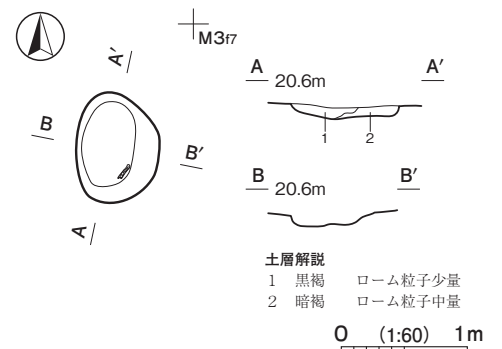
位置 第 3 号区画南西コーナー部の M 3 f6 区、標高 20.5 m ほどの台地斜面部に位置している。

規模と形状 長径 0.88 m、短径 0.65 m の楕円形で、長径方向は N - 4° - E である。深さ 10cm で、壁はなだらかに立ち上がっている。底面はやや凹凸がある。

覆土 2 層に分層できる。ローム粒子をやや多く含む土であることから、人為堆積である。

遺物出土状況 底面から人骨片が出土している。遺存状態が悪く、詳細は不明である。

所見 底面から人骨片が出土していることから、中・近世の土坑墓と判断した。詳細な時期は不明である。

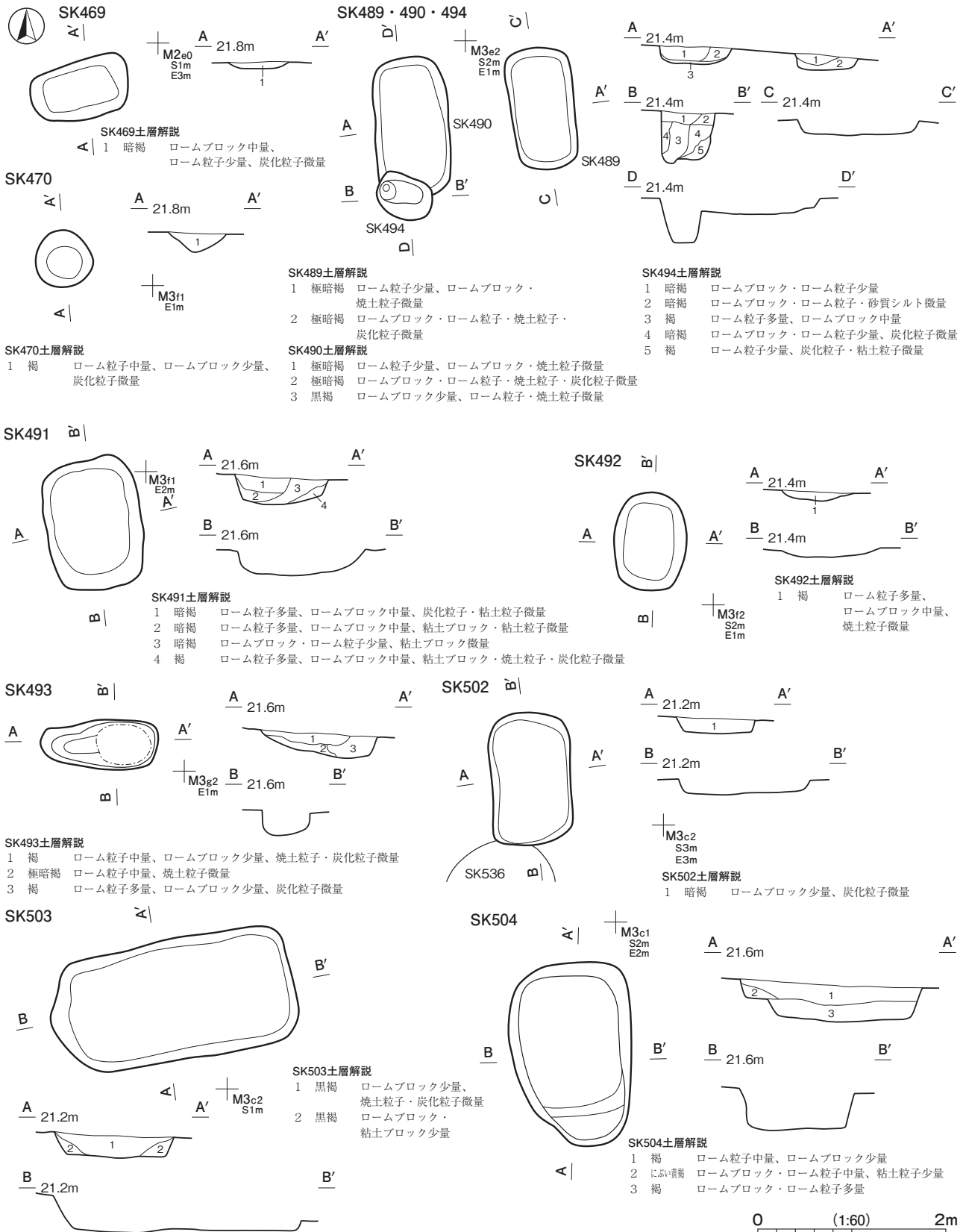


第 172 図 第 2 号土坑墓実測図

カ 土坑

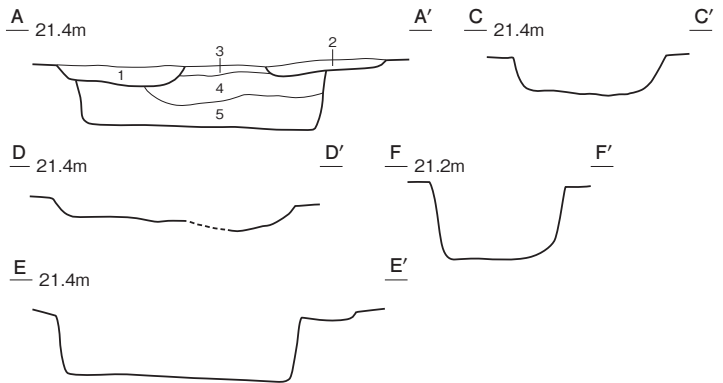
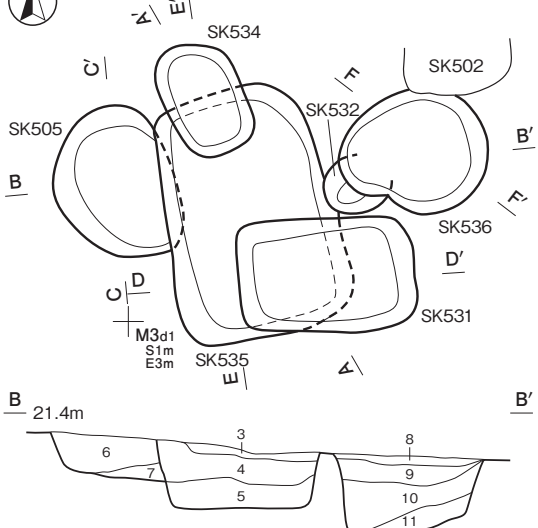
第 3 号区画と第 3 号区画周辺では、67 基の土坑を確認した。区画内には、2 か所の土坑集中地点がある。一つは東側を区画している第 128 号溝を挟んだ東西約 10 m の範囲に、長軸 2.0 m、短軸 1.0 m ほどの隅丸長方形の土坑が、

区画と同一軸方向や直交して位置している。M3d7区付近の第128号溝の東壁は、長方形に張り出しているため、長方形の土坑が重複している可能性が高い。もう一つは第49号溝の西側、第57・58号溝に囲まれた部分で、長軸1.5mほどの長方形の土坑が、溝と軸方向を合わせるように12基ほどが存在している。このほかにも、長径1.0～1.2mほどの楕円形の土坑があり、これらは第2号区画（南）の第1150号土坑や本区画の第2号土坑墓にも形状が類似している。以下、実測図と一覧で記載する。



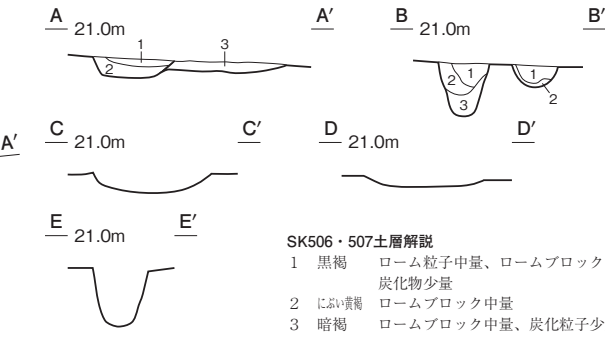
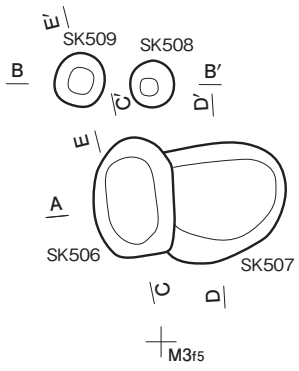
第173図 第3号区画とその周辺の土坑実測図(1)

SK505・531・532・534~536



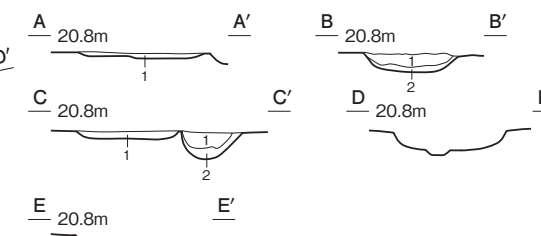
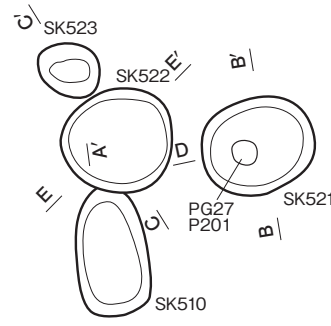
- SK505・531・534~536土層解説
- | | | | |
|------|-------------------|-------|-------------------|
| 1 黒褐 | ローム粒子多量、ロームブロック少量 | 7 暗褐 | ローム粒子多量、ロームブロック中量 |
| 2 暗褐 | ロームブロック・ローム粒子中量 | 8 暗褐 | ローム粒子少量 |
| 3 黒褐 | ローム粒子多量、ロームブロック中量 | 9 暗褐 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 4 暗褐 | ロームブロック・ローム粒子多量 | 10 暗褐 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 5 暗褐 | ローム粒子・ロームブロック中量 | 11 暗褐 | ロームブロック中量 |
| 6 黒褐 | ロームブロック・ローム粒子中量 | | |

SK506~509



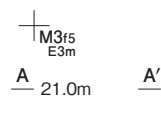
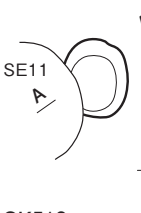
- SK508土層解説
- | | |
|------|-----------------|
| 1 黒褐 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐 | ロームブロック・ローム粒子中量 |
- SK509土層解説
- | | |
|------|------------------------|
| 1 暗褐 | ローム粒子中量、ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐 | ロームブロック多量 |
| 3 暗褐 | ローム粒子中量 |
- SK506・507土層解説
- | | |
|---------|-----------------------|
| 1 黒褐 | ローム粒子中量、ロームブロック・炭化物少量 |
| 2 におい黄褐 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 |

SK510・521~523



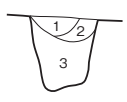
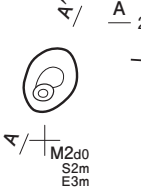
- SK510土層解説
- | | |
|------|-------------------|
| 1 暗褐 | ローム粒子中量、ロームブロック少量 |
|------|-------------------|
- SK521土層解説
- | | |
|------|-------------------|
| 1 暗褐 | ローム粒子中量、ロームブロック少量 |
| 2 黒褐 | ロームブロック中量 |
- SK522土層解説
- | | |
|---------|--------------------------|
| 1 におい黄褐 | ロームブロック・ローム粒子中量、焼土ブロック少量 |
|---------|--------------------------|
- SK523土層解説
- | | |
|------|-------------------|
| 1 暗褐 | ロームブロック多量、炭化粒子少量 |
| 2 暗褐 | ローム粒子中量、ロームブロック少量 |

SK513



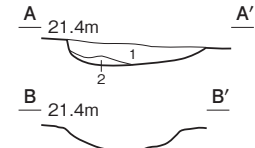
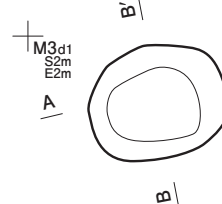
- SK513土層解説
- | | |
|------|---------|
| 1 暗褐 | ローム粒子微量 |
|------|---------|

SK516



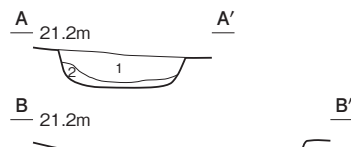
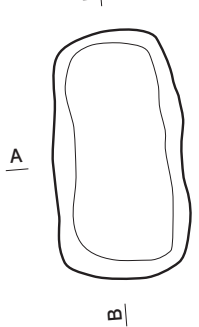
- SK516土層解説
- | | |
|------|-------------------------|
| 1 暗褐 | ロームブロック少量 |
| 2 褐 | ロームブロック中量 |
| 3 黒褐 | ロームブロック少量、焼土粒子・粘土ブロック微量 |

SK514

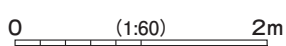


- SK514土層解説
- | | |
|------|-------------------------|
| 1 暗褐 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐 | ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量 |

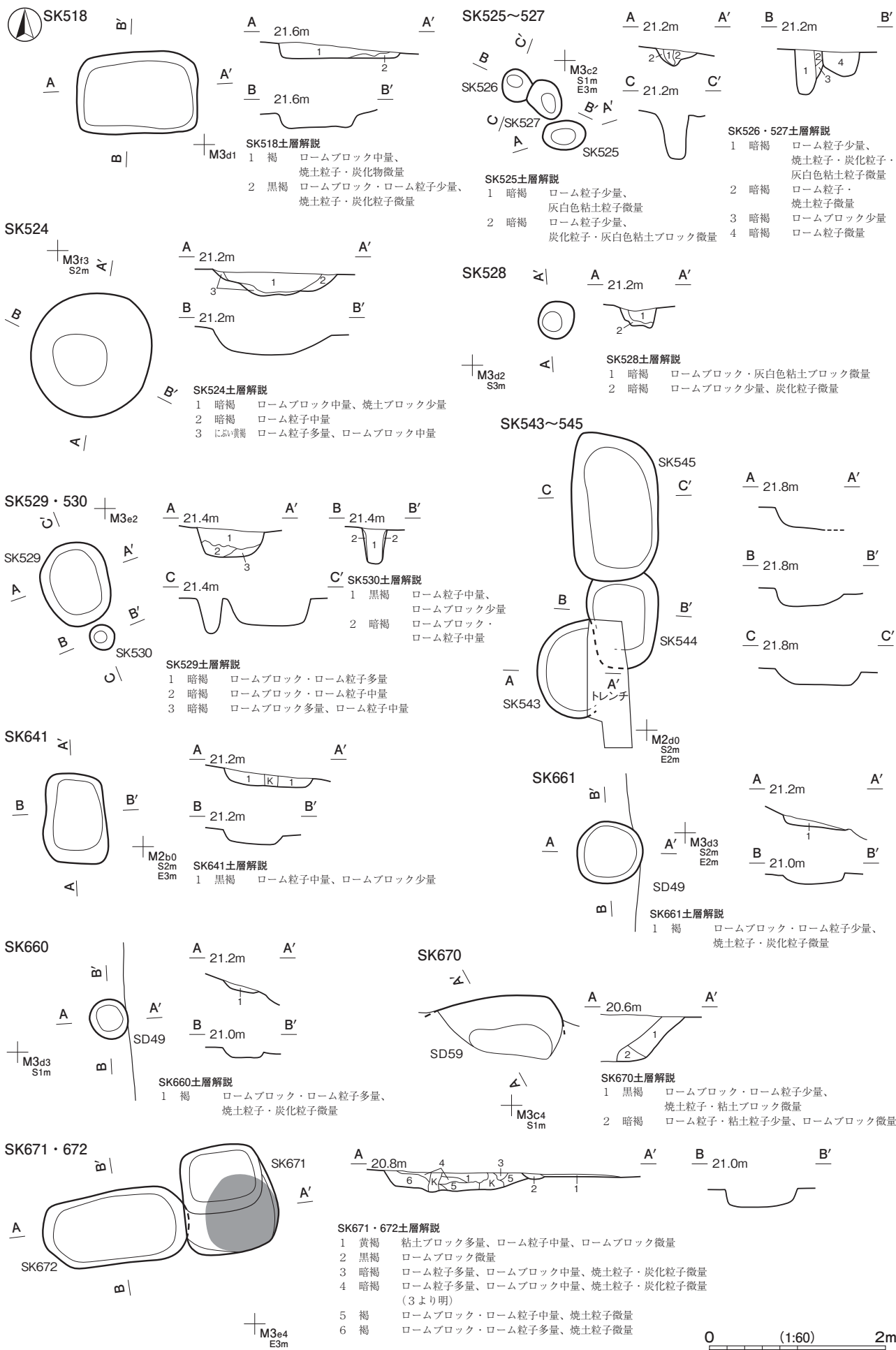
SK517



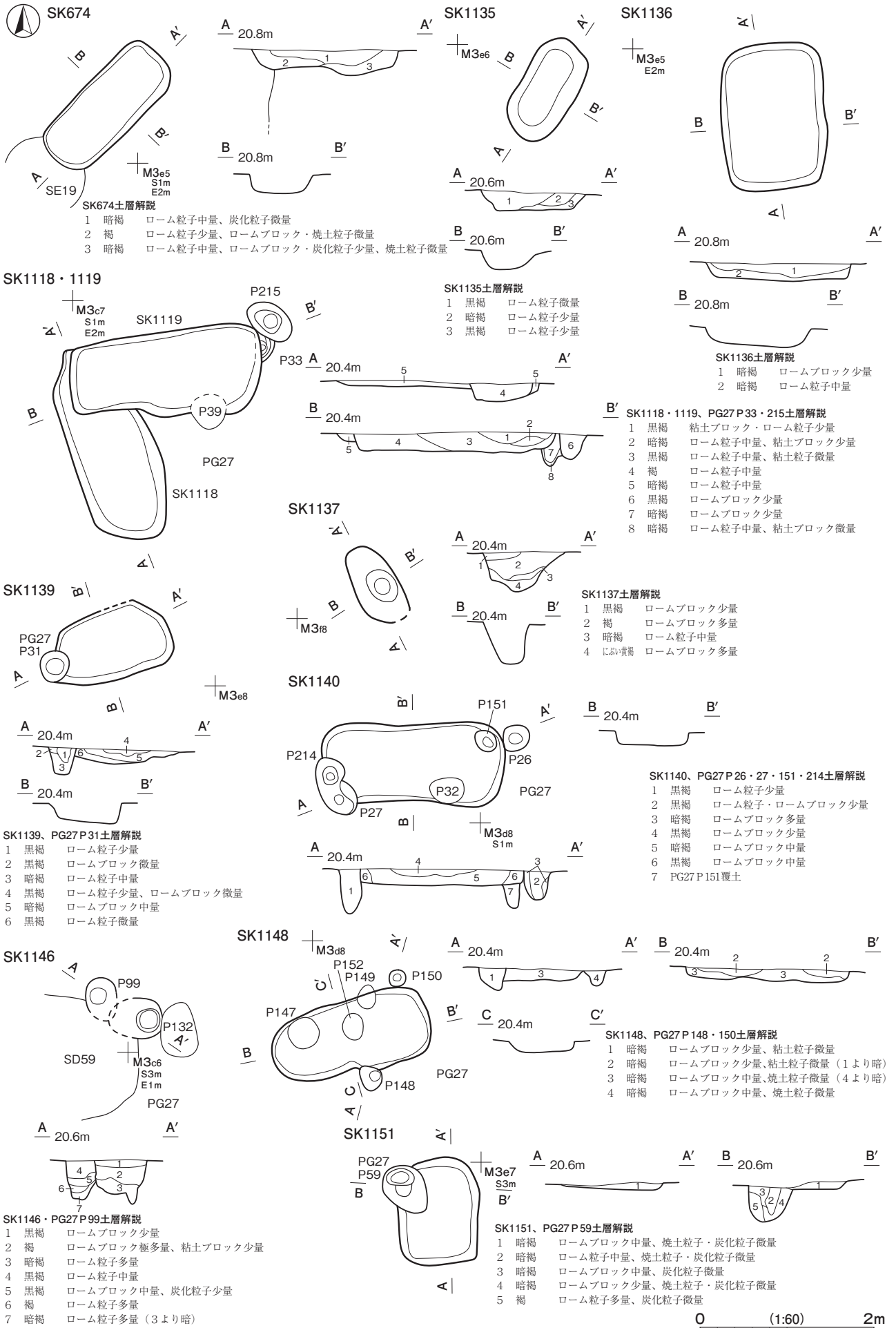
- SK517土層解説
- | | |
|------|-------------------------|
| 1 暗褐 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐 | ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量 |



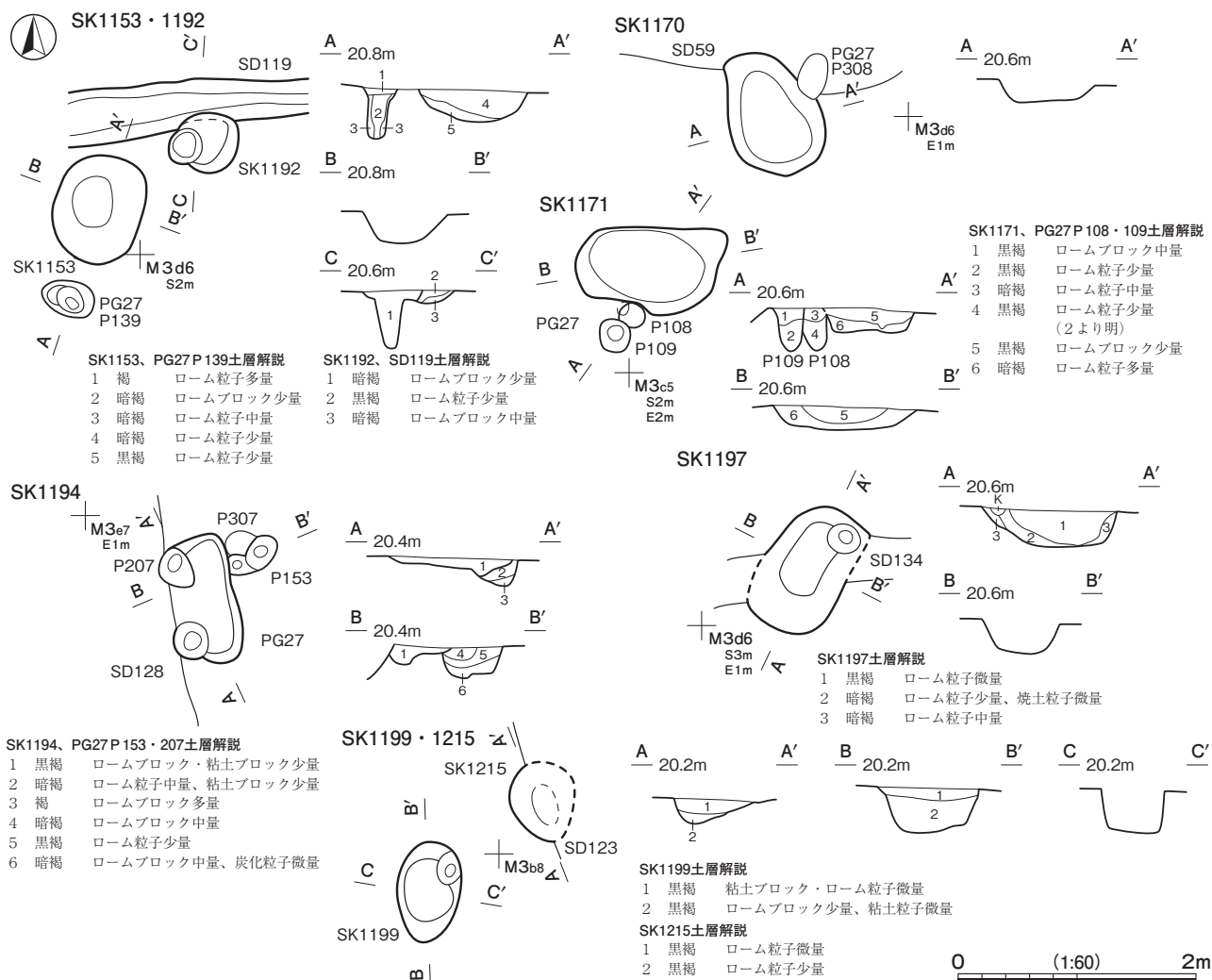
第 174 図 第 3 号区画とその周辺の土坑実測図(2)



第175図 第3号区画とその周辺の土坑実測図(3)



第176図 第3号区画とその周辺の土坑実測図(4)



第177図 第3号区画とその周辺の土坑実測図(5)

第97表 第3号区画とその周辺の土坑一覧

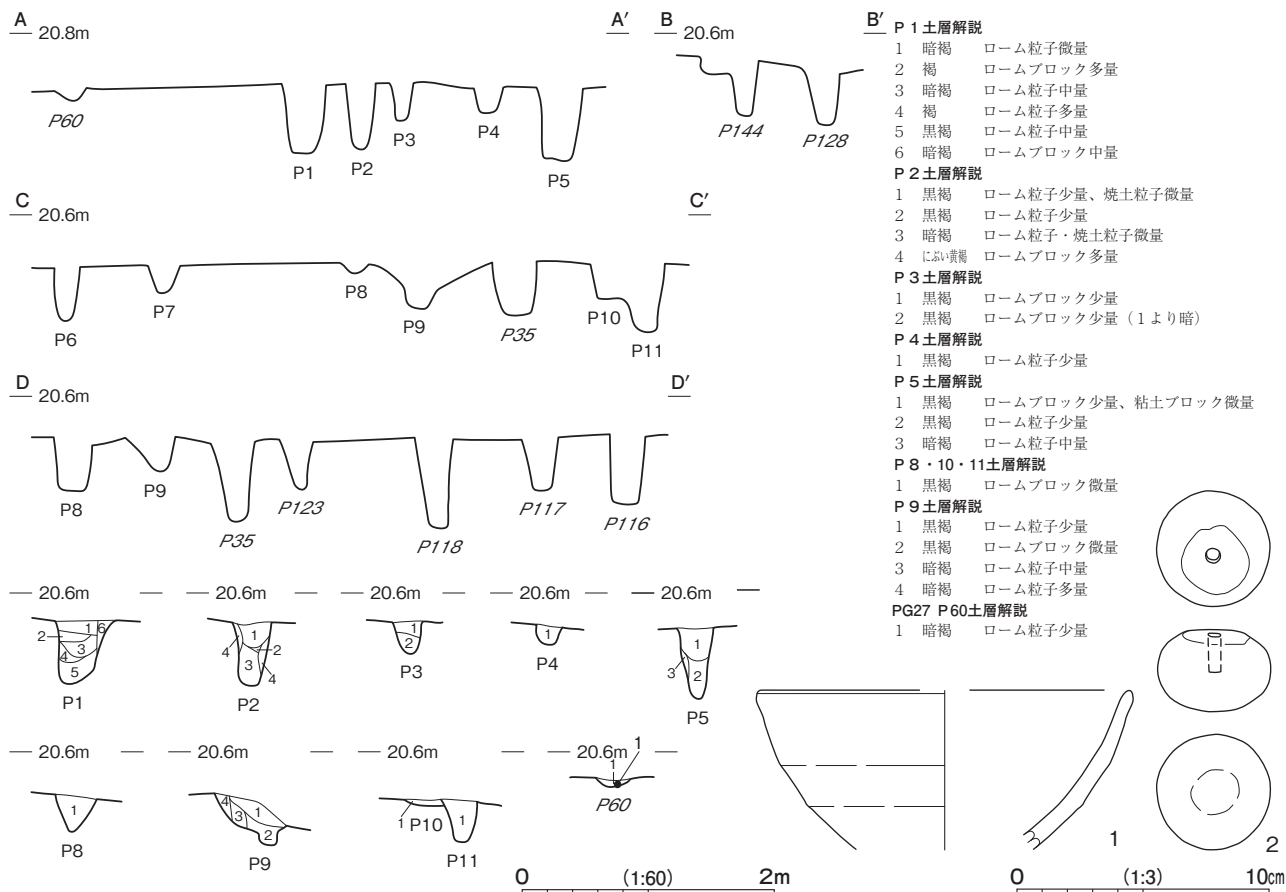
番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
469	M 2 e0	N - 72° - E	隅丸長方形	1.06 × 0.62	7	外傾	平坦	自然	-	
470	M 3 e1	-	円形	0.61 × 0.60	20	外傾	U字状	自然	-	
489	M 3 e2	N - 8° - W	隅丸長方形	1.30 × 0.67	17	外傾	平坦	自然	-	
490	M 3 e2	N - 5° - W	隅丸長方形	1.45 × 0.80	18	外傾	平坦	自然	-	SK494と重複
491	M 3 f1	N - 5° - W	隅丸長方形	1.38 × 1.02	29	外傾	平坦	自然	-	PL18
492	M 3 f2	N - 2° - E	楕円形	1.05 × 0.77	9	外傾	平坦	自然	-	
493	M 3 f2	N - 1° - E	楕円形	1.25 × 0.50	25	外傾	平坦	自然	-	
494	M 3 e2	N - 1° - E	楕円形	0.59 × 0.45	54	垂直	平坦	自然	-	SK490と重複
502	M 3 c2	N - 2° - W	隅丸長方形	1.41 × 0.87	17	外傾	平坦	自然	-	SK536→本跡
503	M 3 c1	N - 80° - E	隅丸長方形	2.63 × 1.30	35	外傾	平坦	自然	-	PL18
504	M 3 c1	N - 4° - W	不整隅丸長方形	1.95 × 1.30	45	外傾	平坦	自然	-	
505	M 3 c1	N - 25° - W	[楕円形]	1.25 × (0.80)	32	外傾	平坦	自然	-	本跡→SK535 PL18
506	M 3 e4	N - 8° - W	楕円形	0.94 × 0.67	15	外傾	平坦	自然	-	SK507→本跡
507	M 3 e5	N - 85° - E	[楕円形]	0.95 × (0.87)	8	外傾	平坦	自然	-	本跡→SK506
508	M 3 e4	-	円形	0.37 × 0.35	17	外傾	U字状	自然	-	
509	M 3 e4	-	円形	0.43 × 0.42	46	外傾	U字状	自然	-	
510	M 3 e5	N - 8° - W	楕円形	1.01 × 0.56	4	外傾	平坦	自然	-	SK522と重複
513	M 3 f4	N - 30° - W	楕円形	0.60 × (0.42)	10	外傾	平坦	自然	-	本跡→SE11
514	M 3 d1	N - 77° - W	楕円形	1.11 × 0.90	17	外傾	平坦	自然	-	

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
516	M 2 d0	N - 23° - E	楕円形	0.54 × 0.40	58	外傾	U字状	自然	-	
517	M 3 d2	N - 4° - W	隅丸長方形	1.96 × 1.03	27	外傾	平坦	自然	-	PL18
518	M 2 c0	N - 87° - E	長方形	1.37 × 0.92	18	外傾	平坦	自然	-	
521	M 3 e5	N - 80° - E	楕円形	0.90 × 0.76	15	外傾	平坦	自然	-	PG27 P 201 と重複
522	M 3 e5	-	円形	0.90 × 0.82	8	外傾	平坦	自然	-	SK510 と重複
523	M 3 e5	N - 67° - W	楕円形	0.51 × 0.42	21	外傾	U字状	自然	-	
524	M 3 f3	-	円形	1.40 × 1.36	26	外傾	平坦	自然	-	
525	M 3 c2	N - 85° - E	楕円形	0.48 × 0.33	18	外傾	U字状	自然	-	
526	M 3 c2	N - 19° - W	楕円形	0.38 × 0.34	50	垂直	U字状	自然	-	本跡→SK527
527	M 3 e2	N - 23° - W	楕円形	0.47 × 0.37	27	垂直	U字状	自然	-	SK526 →本跡
528	M 3 d2	N - 38° - E	楕円形	0.45 × 0.39	20	外傾	平坦	自然	-	
529	M 3 e1	N - 19° - W	楕円形	0.95 × 0.76	31	外傾	平坦	自然	-	
530	M 3 e1	-	円形	0.30 × 0.28	40	垂直	U字状	自然	-	
531	M 3 d2	N - 83° - E	[隅丸長方形]	[1.41] × 0.90	21	外傾	平坦	自然	-	SK535 →本跡 PL18
532	M 3 c2	-	[円形]	0.46 × (0.23)	20	外傾	平坦	自然	-	本跡→SK536 SK535 と重複 PL18
534	M 3 c1	N - 25° - W	楕円形	0.95 × 0.64	6	外傾	平坦	自然	-	SK535 →本跡 PL18
535	M 3 c1	N - 14° - W	隅丸長方形	1.97 × 1.35	50	外傾	平坦	自然	-	SK505 →本跡→SK531・534 SK532 と重複 PL18
536	M 3 e2	-	円形	1.10 × 1.04	60	外傾	平坦	自然	-	SK532 →本跡→SK502 PL18
543	M 2 d0	-	[円形・楕円形]	1.11 × (0.58)	24	外傾	平坦	自然	-	SK544 と重複
544	M 2 d0	N - 5° - W	楕円形	(1.00) × 0.80	18	外傾	平坦	自然	-	本跡→SK545 SK543 と重複
545	M 2 c0	N - 5° - W	楕円形	1.66 × 0.97	14	外傾	平坦	自然	-	SK544 →本跡
641	M 2 b0	N - 2° - W	隅丸長方形	1.01 × 0.75	14	外傾	平坦	自然	-	
660	M 3 d3	-	円形	0.45 × 0.42	10	外傾	平坦	自然	-	SD49 と重複
661	M 3 d3	-	円形	0.75 × 0.70	11	外傾	平坦	自然	-	SD49 と重複
670	M 3 c3	N - 85° - E	[楕円形]	(1.42) × (0.70)	50	外傾	平坦	自然	-	本跡→SD59
671	M 3 d4	N - 7° - W	楕円形	1.23 × 1.03	6	外傾	平坦	自然	-	SK672 →本跡
672	M 3 d4	N - 76° - E	楕円形	1.68 × 0.83	21	外傾	平坦	自然	-	本跡→SK671
674	M 3 e5	N - 42° - E	隅丸長方形	1.70 × 0.69	29	外傾	有段	自然	-	SE19 →本跡
1118	M 3 e7	N - 22° - W	楕円形	2.34 × 0.97	7	外傾	平坦	自然	-	本跡→SK1119
1119	M 3 e7	N - 81° - E	不整長方形	2.25 × 1.05	24	外傾	平坦	自然	-	SK1118、PG27 P 33 →本跡 PG27 P 39 と重複
1135	M 3 e6	N - 34° - E	楕円形	1.22 × 0.65	21	外傾	平坦	自然	-	PL21
1136	M 3 e5	N - 2° - W	隅丸長方形	1.68 × 1.20	20	外傾	平坦	自然	内耳鍋	
1137	M 3 e8	N - 27° - W	楕円形	(0.95) × 0.50	46	外傾	皿状	人為	-	ピット1基
1138	M 3 d8	N - 55° - E	楕円形	0.67 × 0.53	36	外傾	皿状	自然	-	第169図 SE87 →本跡
1139	M 3 d7	N - 69° - E	楕円形	1.44 × [0.80]	23	外傾	平坦	自然	-	本跡→PG27 P 31
1140	M 3 d7	N - 90°	隅丸長方形	2.12 × 0.98	18	外傾	平坦	人為	-	PG27 P 32・151 →本跡 →PG27 P 26・27・214
1146	M 3 c6	N - 0°	楕円形	(0.62) × 0.46	51	外傾	平坦	自然	-	PG27 P 99 →本跡 SD59、PG27 P 132 と重複 ピット1基
1147	M 3 b5	N - 30° - W	不整楕円形	0.67 × 0.53	51	外傾	凹凸	自然	-	第171図 SD128 →本跡 ピット2基
1148	M 3 d8	N - 73° - E	楕円形	1.85 × 0.88	15	外傾	平坦	自然	-	本跡→PG27 P 148 PG27 P 147・149・ 150・152 と重複
1151	M 3 e6	N - 0°	隅丸長方形	1.21 × 0.92	9	外傾	平坦	自然	皿	PG27 P 59 と重複
1153	M 3 d5	N - 21° - E	楕円形	0.92 × 0.74	28	外傾	皿状	自然	-	PL21
1170	M 3 d5	N - 25° - W	楕円形	1.10 × 0.79	20	外傾	平坦	自然	-	SD59 →本跡 PG27 P 308 と重複
1171	M 3 e5	N - 78° - E	不整楕円形	1.17 × 0.74	20	外傾	平坦	自然	-	PG27 P 108 →本跡 PL22
1192	M 3 d6	-	円形	0.57 × 0.54	50	外傾	平坦	自然	-	SD119 →本跡 ピット1基
1194	M 3 e7	N - 12° - W	[楕円形]	1.08 × (0.54)	16	外傾	平坦	自然	-	PG27 P 153・207 →本跡 SD128 と重複 ピット1基 PL22
1197	M 3 d6	N - 25° - E	楕円形	1.13 × 0.71	30	外傾	平坦	自然	皿	SD134 →本跡 ピット1基
1199	M 3 b7	N - 0°	楕円形	0.85 × 0.55	37	外傾	平坦	自然	-	ピット1基
1215	M 3 a8	N - 22° - W	[楕円形]	0.70 × [0.57]	22	外傾	皿状	自然	-	SD123 と重複

キ 柱穴列

第3号区画の東部を区画している第128号溝の西側に沿うように、50～60cmの間隔でピットを確認し、第5号柱穴列として調査した。また、調査では第27号ピット群としたが、第128号溝の東側と南部の第128号溝の延長上にも、複数のピットを確認したことから、整理段階で第5・26・27号柱穴列とした。第128号溝の護岸や遮蔽施設の可能性がある。第26号柱穴列のE・Fラインは、通路状部分を区画している可能性がある。以下、実測図と一覽で記載する。

第5号柱穴列 (第178・179図 PL12・37)



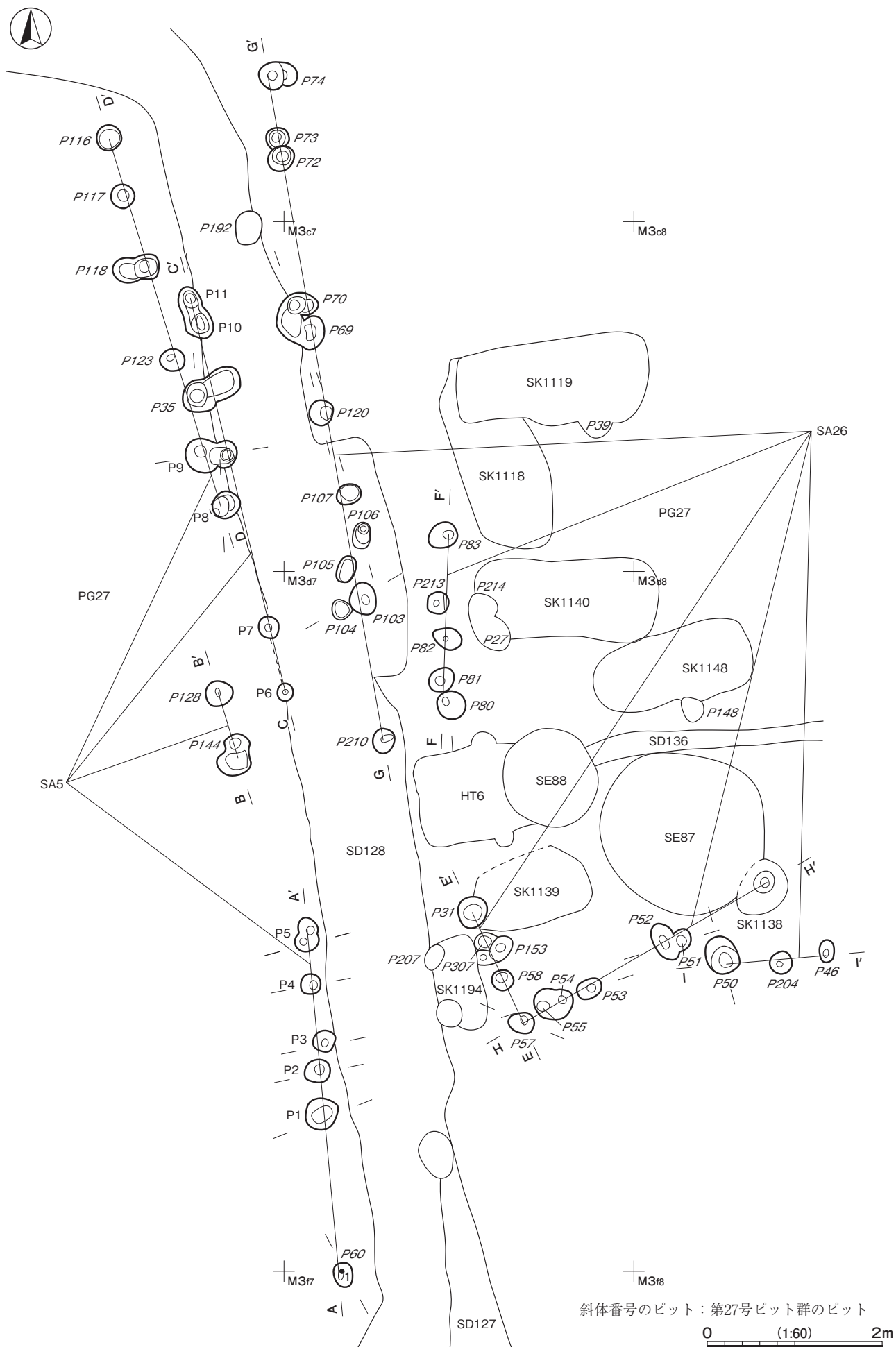
第178図 第5号柱穴列・出土遺物実測図

第98表 第5号柱穴列出土遺物一覽 (第178図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
1	陶器	平碗	[14.6]	(6.4)	-	長石	浅黄	古瀬戸後期	灰釉	瀬戸	P 60	20% PL37
2	不明		4.5	4.5	3.2	82.29	凝灰岩	中央に未貫通孔 側面研磨による整形			P 35	PL37

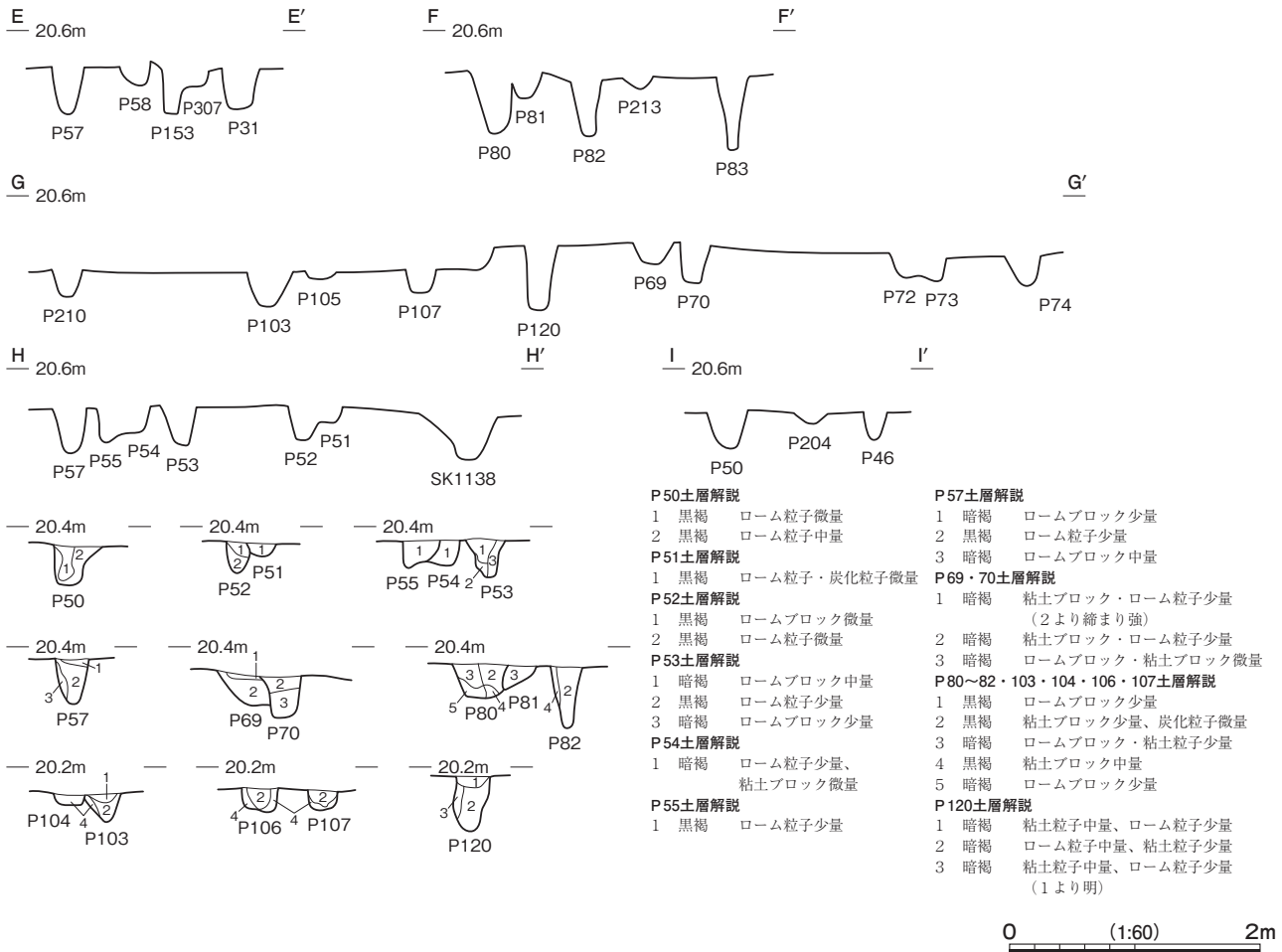
第99表 第5号柱穴列ピット一覽

番号	位置	平面形	規模 (cm)			番号	位置	平面形	規模 (cm)			番号	位置	平面形	規模 (cm)		
			長径(軸) × 短径(軸)	深さ					長径(軸) × 短径(軸)	深さ	長径(軸) × 短径(軸)				深さ		
1	M 3 e7	円形	39 × 36	55	8	M 3 c6	円形	33 × 30	42	117	M 3 b6	円形	28 × 28	40			
2	M 3 e7	楕円形	32 × 26	53	9	M 3 c6	楕円形	60 × 40	36	118	M 3 c6	楕円形	52 × 28	72			
3	M 3 e7	楕円形	28 × 25	30	10	M 3 c6	[楕円形]	(34) × 32	27	123	M 3 c6	楕円形	29 × 26	38			
4	M 3 f7	円形	24 × 23	20	11	M 3 c6	[楕円形]	(30) × 26	54	128	M 3 d6	円形	32 × 30	45			
5	M 3 f7	楕円形	39 × 28	57	35	M 3 c6	楕円形	72 × 40	65	144	M 3 d6	[楕円形]	(48) × 38	44			
6	M 3 d6	円形	18 × 17	53	60	M 3 f7	楕円形	27 × 23	10								
7	M 3 d6	円形	26 × 24	22	116	M 3 b6	円形	30 × 28	54								



第 179 図 第 5・26 号柱穴列実測図

第 26 号柱穴列 (第 179・180 図)

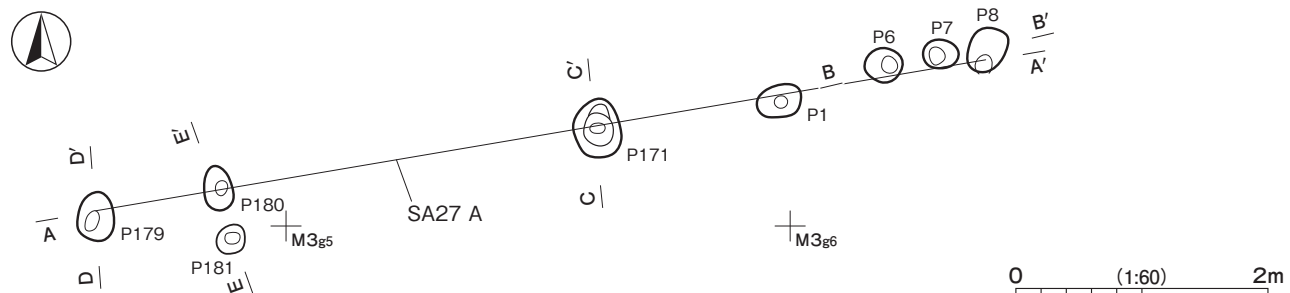


第 180 図 第 26 号柱穴列実測図

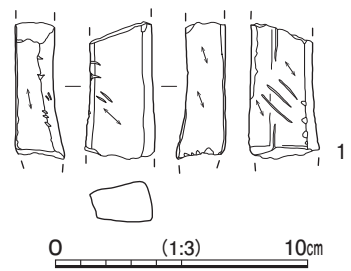
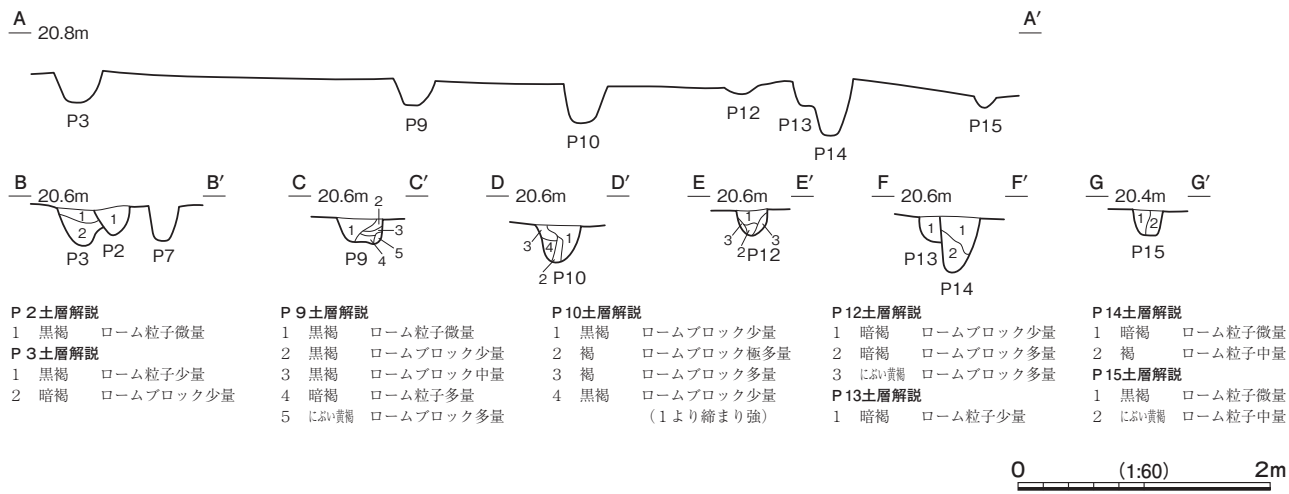
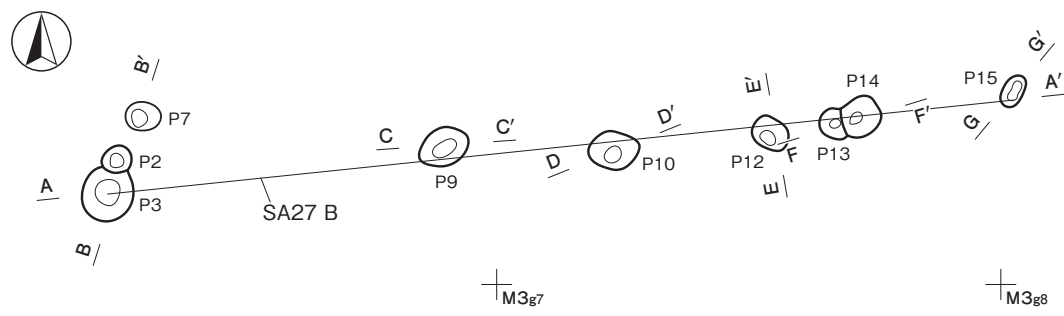
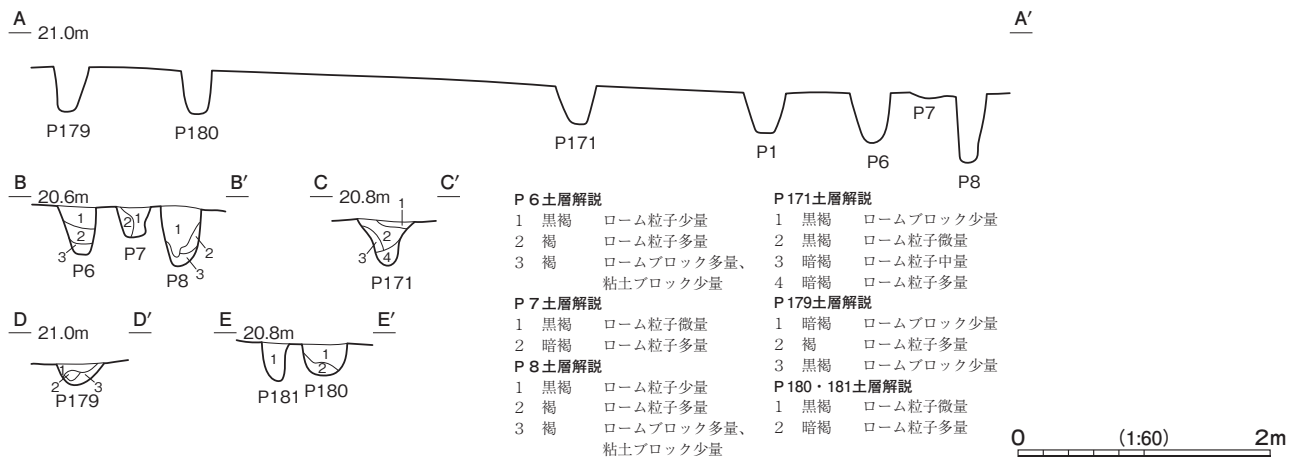
第 100 表 第 26 号柱穴列ピット一覧

番号	位置	平面形	規模 (cm)			番号	位置	平面形	規模 (cm)			番号	位置	平面形	規模 (cm)		
			長径 (軸)	短径 (軸)	深さ				長径 (軸)	短径 (軸)	深さ				長径 (軸)	短径 (軸)	深さ
31	M 3 d7	楕円形	38	32	30	69	M 3 c7	[楕円形]	40	(25)	28	104	M 3 d7	円形	24	22	10
46	M 3 e8	楕円形	26	16	17	70	M 3 c7	不整楕円形	54	33	33	105	M 3 c7	楕円形	30	20	7
50	M 3 e8	楕円形	44	35	32	72	M 3 c6	円形	30	28	18	106	M 3 c7	楕円形	30	20	18
51	M 3 e8	[楕円形]	24	(20)	10	73	M 3 b6	円形	27	25	20	107	M 3 c7	楕円形	30	24	15
52	M 3 e8	楕円形	47	25	25	74	M 3 b6	楕円形	45	30	25	120	M 3 c7	円形	27	26	44
53	M 3 e7	楕円形	30	22	30	80	M 3 b6	円形	32	32	54	153	M 3 e7	[楕円形]	29	(20)	36
54	M 3 e7	[楕円形]	33	(20)	20	81	M 3 d7	楕円形	34	28	27	204	M 3 e8	円形	25	25	12
55	M 3 e7	[楕円形]	34	(25)	25	82	M 3 d7	楕円形	36	26	49	210	M 3 d7	楕円形	29	25	22
57	M 3 e7	楕円形	30	24	36	83	M 3 c7	楕円形	34	28	63	213	M 3 d7	円形	24	24	10
58	M 3 e7	円形	24	24	16	103	M 3 d7	楕円形	39	30	25	307	M 3 e7	[楕円形]	27	(20)	12

第 27 号柱穴列 (第 181・182 図)



第 181 図 第 27 号柱穴列実測図



第 182 図 第 27 号柱穴列・出土遺物実測図

第 101 表 第 27 号柱穴列出土遺物一覧 (第 182 図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1	砥石	(5.4)	2.9	1.6	(37.52)	凝灰岩	砥面 4 面	P 8	

第102表 第27号柱穴列ピット一覧

番号	位置	平面形	規模 (cm)		番号	位置	平面形	規模 (cm)		番号	位置	平面形	規模 (cm)	
			長径 (軸) × 短径 (軸)	深さ				長径 (軸) × 短径 (軸)	深さ				長径 (軸) × 短径 (軸)	深さ
1	M 3 f5	楕円形	40 × 25	33	9	M 3 f6	楕円形	42 × 29	20	171	M 3 f5	楕円形	48 × 36	35
2	M 3 f6	[円形]	22 × (20)	22	10	M 3 f7	楕円形	40 × 30	30	179	M 3 f4	円形	39 × 29	35
3	M 3 f6	[円形]	(40) × 40	28	12	M 3 f7	楕円形	30 × 22	20	180	M 3 f4	楕円形	36 × 23	35
6	M 3 f6	円形	30 × 28	37	13	M 3 f7	[円形]	26 × (22)	22	181	M 3 g4	円形	24 × 22	30
7	M 3 f6	楕円形	27 × 22	24	14	M 3 f7	[楕円形]	30 × (27)	44					
8	M 3 f6	楕円形	36 × 28	48	15	M 3 f8	楕円形	27 × 15	20					

第103表 第3号区画の柱穴列一覧

番号	位置	方向	長さ (m)	柱間 (m)	柱 穴					主な出土遺物	備 考
					柱穴数	平面形	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)		
5	M 3 b6 ~ M 3 b7	N - 5° - W N - 15° - W	13.8	0.3 ~ 1.9	19	円形・楕円形	20 ~ 72	20 ~ 44	8 ~ 75	平碗	
26	M 3 b7 ~ M 3 e8	N - 8° - W N - 60° - E	15.4	0.3 ~ 1.7	30	円形・楕円形	24 ~ 54	19 ~ 33	7 ~ 63	-	
27	M 3 f4 ~ M 3 f7	N - 80° - E N - 84° - E	14.5	0.4 ~ 3.0	20	円形・楕円形	27 ~ 48	15 ~ 40	20 ~ 48	砥石	

ク ピット群 (第16 ~ 18・21 ~ 23・183・184 図)

第3号区画とその周辺に、多数のピットが存在しており、第27号ピット群として調査した。一部については、規模や覆土の状況、配置などから、第45 ~ 47号掘立柱建物、第26・27号柱穴列の柱穴と判断した。時期は掘立柱建物や土坑群などとほぼ同様に、15世紀後半から16世紀代と考えられる。以下、実測図と一覧で記載する。なお、土層断面について、平面図が煩雑になるためにセクションポイントを入れていないが、南ないし西を基準として測量している。また、以下の一覧には、掘立柱建物に帰属したものも、番号を振り替えずに記載している。

第104表 第12号ピット群ピット一覧

番号	位置	平面形	規模 (cm)		番号	位置	平面形	規模 (cm)		番号	位置	平面形	規模 (cm)	
			長径 (軸) × 短径 (軸)	深さ				長径 (軸) × 短径 (軸)	深さ				長径 (軸) × 短径 (軸)	深さ
1	M 3 c2	楕円形	32 × 28	37	6	M 3 c1	円形	27 × 26	28	11	M 3 c1	円形	40 × 40	19
2	M 3 c2	不整楕円形	57 × 40	10 ~ 32	7	M 3 c1	円形	38 × 35	52	12	M 3 c1	楕円形	28 × 24	15
3	M 3 c2	円形	34 × 32	33	8	M 3 c1	楕円形	34 × 30	19	13	M 3 c1	円形	30 × 28	51
4	M 3 c2	楕円形	30 × 26	14	9	M 3 c1	円形	28 × 28	12					
5	M 3 c1	円形	24 × 24	15	10	M 3 c2	円形	36 × 35	18					

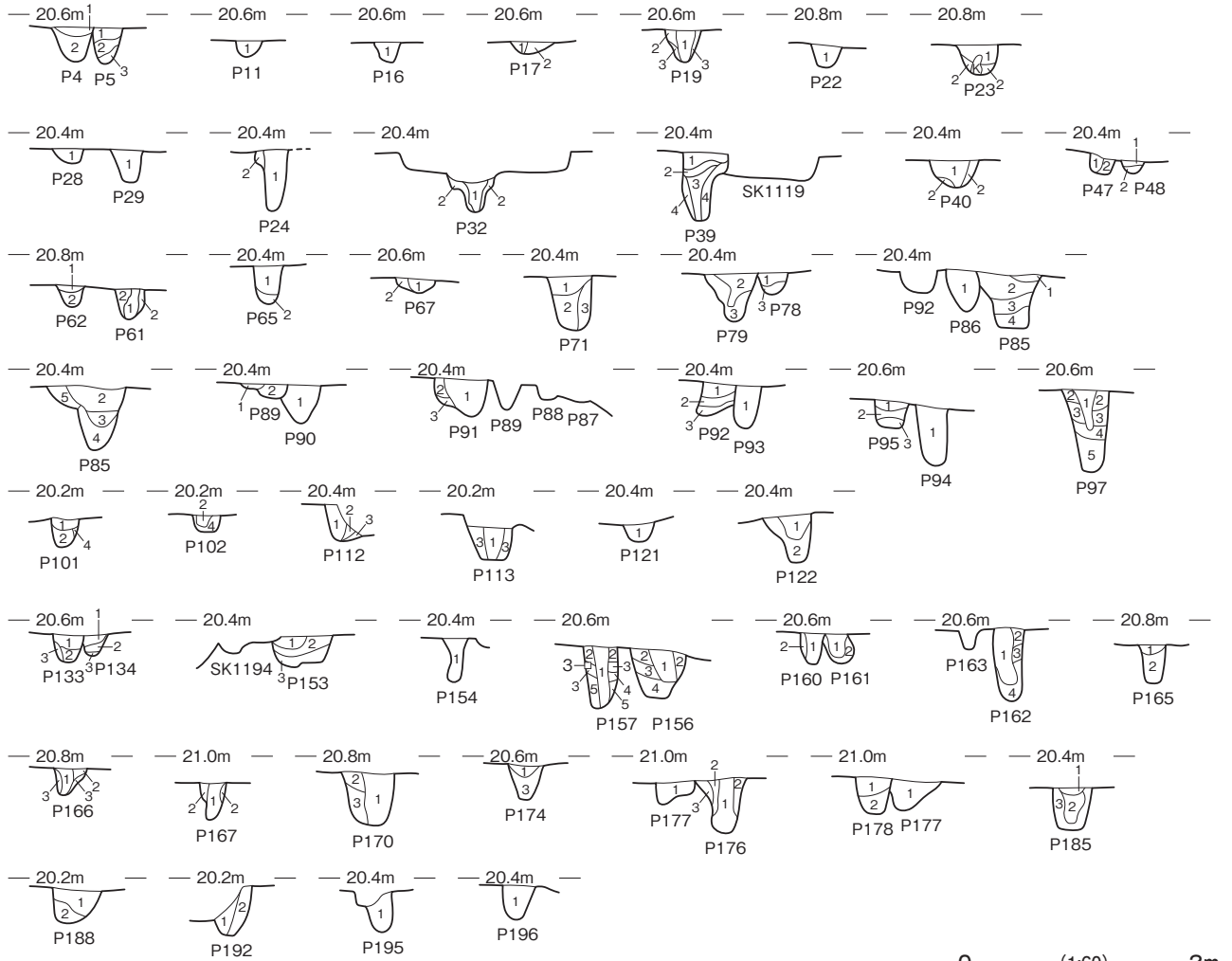
第105表 第77号ピット群ピット一覧

番号	位置	平面形	規模 (cm)		番号	位置	平面形	規模 (cm)		番号	位置	平面形	規模 (cm)	
			長径 (軸) × 短径 (軸)	深さ				長径 (軸) × 短径 (軸)	深さ				長径 (軸) × 短径 (軸)	深さ
1	M 2 e0	円形	24 × 24	24	3	M 2 f0	楕円形	28 × 24	17	5	M 2 f0	円形	41 × 41	9
2	M 2 f0	楕円形	35 × 28	17	4	M 2 f0	楕円形	39 × 34	20					

第106表 第78号ピット群ピット一覧

番号	位置	平面形	規模 (cm)		番号	位置	平面形	規模 (cm)		番号	位置	平面形	規模 (cm)	
			長径 (軸) × 短径 (軸)	深さ				長径 (軸) × 短径 (軸)	深さ				長径 (軸) × 短径 (軸)	深さ
1	M 3 b4	楕円形	43 × 29	30	3	M 3 b4	円形	28 × 28	23	5	M 3 b4	楕円形	46 × 41	37
2	M 3 b4	楕円形	43 × 35	16	4	M 3 b4	円形	38 × 36	37					

第27号ピット群 (第17・18・22・23・183・184 図 PL21)



P 4 土層解説

- 1 褐 ローム粒子多量
- 2 暗褐 ロームブロック中量

P 5 土層解説

- 1 黒褐 ローム粒子微量
- 2 黒褐 ローム粒子・焼土粒子微量
- 3 暗褐 ローム粒子中量

P 11 土層解説

- 1 黒褐 ロームブロック少量

P 16 土層解説

- 1 黒褐 ローム粒子中量

P 17 土層解説

- 1 黒褐 ローム粒子微量
- 2 黒褐 ローム粒子少量

P 19 土層解説

- 1 黒褐 ローム粒子微量
- 2 黒褐 ロームブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐 ローム粒子中量、ロームブロック少量

P 22 土層解説

- 1 黒褐 ロームブロック少量

P 23 土層解説

- 1 黒褐 ローム粒子少量
- 2 黒褐 ロームブロック少量、粘土粒子微量

P 24 土層解説

- 1 黒褐 ロームブロック少量
- 2 暗褐 ロームブロック中量

P 28 土層解説

- 1 黒褐 ロームブロック少量

P 29 土層解説

- 1 黒褐 粘土ブロック・ローム粒子少量

P 32 土層解説

- 1 黒褐 ロームブロック少量
- 2 暗褐 ロームブロック少量

P 39 土層解説

- 1 黒褐 ロームブロック少量
- 2 暗褐 ローム粒子中量、粘土ブロック少量
- 3 黒褐 ロームブロック少量
- 4 暗褐 ローム粒子中量

P 40 土層解説

- 1 暗褐 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 2 暗褐 ローム粒子中量、粘土ブロック少量

P 47 土層解説

- 1 暗褐 ローム粒子少量
- 2 暗褐 ロームブロック中量

P 48 土層解説

- 1 黒褐 ローム粒子少量
- 2 褐 ロームブロック中量

P 61 土層解説

- 1 褐 ロームブロック中量
- 2 暗褐 ローム粒子中量

P 62 土層解説

- 1 暗褐 ロームブロック少量
- 2 暗褐 ローム粒子中量

P 65 土層解説

- 1 暗褐 ローム粒子少量
- 2 黒褐 ロームブロック中量

P 67 土層解説

- 1 暗褐 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐 ローム粒子少量

P 71 土層解説

- 1 暗褐 ローム粒子少量、粘土ブロック微量
- 2 暗褐 ロームブロック・粘土ブロック微量
- 3 暗褐 ローム粒子中量、粘土ブロック微量

P 78・79・101・102 土層解説

- 1 黒褐 ロームブロック少量
- 2 黒褐 粘土ブロック少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐 ロームブロック・粘土粒子少量
- 4 黒褐 粘土ブロック中量

P 85 土層解説

- 1 暗褐 ローム粒子中量
- 2 暗褐 ロームブロック少量
- 3 暗褐 ローム粒子少量
- 4 暗褐 ロームブロック中量
- 5 褐 ロームブロック中量

P 86 土層解説

- 1 暗褐 ロームブロック少量

P 89 土層解説

- 1 暗褐 ロームブロック少量
- 2 暗褐 ロームブロック微量

P 90 土層解説

- 1 暗褐 ローム粒子中量

P 91 土層解説

- 1 暗褐 ロームブロック少量
- 2 暗褐 ローム粒子中量
- 3 暗褐 ローム粒子中量 (2より明)

P 92 土層解説

- 1 暗褐 ローム粒子少量
- 2 暗褐 ロームブロック微量
- 3 褐 ローム粒子微量

P 93 土層解説

- 1 黒褐 ローム粒子中量

P 94 土層解説

- 1 暗褐 ロームブロック少量

P 95 土層解説

- 1 暗褐 ローム粒子中量
- 2 暗褐 ローム粒子少量
- 3 暗褐 ローム粒子微量

P 97・156・157 土層解説

- 1 黒褐 ロームブロック中量
- 2 暗褐 ローム粒子少量
- 3 暗褐 ローム粒子中量
- 4 暗褐 ロームブロック少量
- 5 褐 ローム粒子中量

P 112 土層解説

- 1 黒褐 ローム粒子少量
- 2 黒褐 ローム粒子・粘土粒子少量
- 3 暗褐 ローム粒子中量、粘土ブロック微量

P 113・165~167・170・174 土層解説

- 1 黒褐 ローム粒子少量
- 2 暗褐 ローム粒子中量
- 3 褐 ローム粒子多量

P 121 土層解説

- 1 暗褐 ローム粒子少量、粘土ブロック微量

P 122 土層解説

- 1 暗褐 粘土ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐 ローム粒子・粘土粒子少量

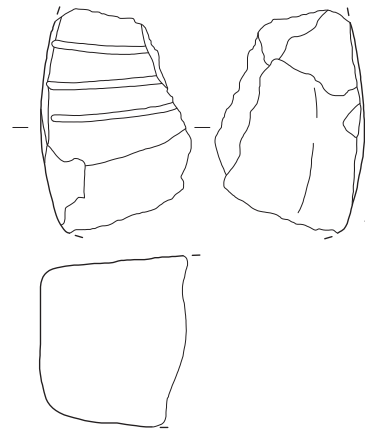
P 133 土層解説

- 1 暗褐 ローム粒子少量
- 2 暗褐 ローム粒子多量
- 3 黒褐 ローム粒子少量

第183 図 第27号ピット群実測図

- P134土層解説**
 1 黒褐 ローム粒子少量
 2 暗褐 ロームブロック少量
 3 暗褐 ローム粒子中量
- P153土層解説**
 1 暗褐 ロームブロック中量
 2 黒褐 ローム粒子少量
 3 暗褐 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- P154土層解説**
 1 暗褐 ローム粒子少量
- P160・161土層解説**
 1 黒褐 ローム粒子少量
 2 暗褐 ローム粒子中量
- P162土層解説**
 1 黒褐 ローム粒子微量
 2 暗褐 ローム粒子多量
 3 黒褐 ローム粒子中量
 4 灰黄褐 粘土ブロック中量、ロームブロック少量
- P176土層解説**
 1 黒褐 ローム粒子微量
 2 暗褐 ローム粒子中量
 3 暗褐 ローム粒子微量

- P177土層解説**
 1 黒褐 ローム粒子少量
- P178土層解説**
 1 黒褐 ローム粒子微量
 2 暗褐 ローム粒子少量、ロームブロック微量
- P185土層解説**
 1 暗褐 ロームブロック・焼土粒子微量
 2 黒褐 ロームブロック少量
 3 黒褐 ロームブロック微量
- P188土層解説**
 1 暗褐 ローム粒子微量
 2 黒褐 ローム粒子少量
- P192土層解説**
 1 黒褐 ローム粒子少量
 2 黒褐 ローム粒子中量
- P195土層解説**
 1 暗褐 ロームブロック少量
- P196土層解説**
 1 黒褐 ロームブロック少量



第184図 第27号ピット群・出土遺物実測図

第107表 第27号ピット群出土遺物一覧 (第184図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1	石臼	(8.9)	(6.0)	(6.8)	(383.35)	安山岩	裏面も研磨	P 156	

第108表 第27号ピット群ピット一覧

番号	位置	平面形	規模 (cm)			番号	位置	平面形	規模 (cm)			番号	位置	平面形	規模 (cm)		
			長径 (軸) × 短径 (軸)	高さ	深さ				長径 (軸) × 短径 (軸)	高さ	深さ				長径 (軸) × 短径 (軸)	高さ	深さ
1	M 3 f5	楕円形	40 × 25		33	38	M 3 c7	楕円形	22 × 20		15	74	M 3 b6	楕円形	45 × 30		25
2	M 3 f6	[円形]	22 × (20)		22	39	M 3 c7	[円形]	[40] × 40		57	75	M 3 b7	楕円形	28 × 25		34
3	M 3 f6	[円形]	(40) × 40		28	40	M 3 c7	楕円形	45 × 34		25	77	M 3 b7	楕円形	30 × 27		33
4	M 3 f6	[楕円形]	(43) × 30		30	41	M 3 b8	楕円形	38 × 28		30	78	M 3 d7	楕円形	30 × 26		19
5	M 3 f6	[楕円形]	(43) × 30		30	42	M 3 b7	楕円形	25 × 22		40	79	M 3 d7	楕円形	45 × 40		40
6	M 3 f6	円形	30 × 28		37	43	M 3 b7	楕円形	24 × 20		32	80	M 3 d7	円形	32 × 32		54
7	M 3 f6	楕円形	27 × 22		24	44	M 3 b7	円形	30 × 28		36	81	M 3 d7	楕円形	34 × 28		27
8	M 3 f6	楕円形	36 × 28		48	45	M 3 b7	楕円形	30 × 25		43	82	M 3 d7	楕円形	36 × 26		49
9	M 3 f6	楕円形	42 × 29		20	46	M 3 e8	楕円形	26 × 16		17	83	M 3 c7	楕円形	34 × 28		63
10	M 3 f7	楕円形	40 × 30		30	47	M 3 e8	円形	24 × 22		18	85	M 3 b6	[楕円形]	(47) × 37		48
11	M 3 f7	円形	25 × 24		14	48	M 3 e8	円形	20 × 20		10	86	M 3 b6	楕円形	38 × 32		35
12	M 3 f7	楕円形	30 × 22		20	49	M 3 e8	楕円形	26 × 22		13	87	M 3 b6	円形	23 × 23		36
13	M 3 f7	[円形]	26 × (22)		22	50	M 3 e8	楕円形	44 × 35		32	88	M 3 b6	楕円形	35 × 25		47
14	M 3 f7	[楕円形]	30 × (27)		44	51	M 3 e8	[楕円形]	24 × (20)		10	89	M 3 b6	[楕円形]	(28) × 25		22
15	M 3 f8	楕円形	27 × 15		20	52	M 3 e8	楕円形	47 × 25		25	90	M 3 b6	楕円形	40 × 35		32
16	M 3 f7	楕円形	25 × 20		17	53	M 3 e7	楕円形	30 × 22		30	91	M 3 b6	楕円形	44 × 25		35
17	M 3 f7	楕円形	40 × 25		10	54	M 3 e7	[楕円形]	33 × (20)		20	92	M 3 b6	楕円形	30 × 27		27
18	M 3 e6	楕円形	44 × 40		45	55	M 3 e7	[楕円形]	34 × (25)		25	93	M 3 b6	[楕円形]	(25) × 22		35
19	M 3 e6	楕円形	30 × 27		25	56	M 3 e7	楕円形	29 × 24		26	94	M 3 b6	円形	28 × 28		52
20	M 3 e5	円形	21 × 20		26	57	M 3 e7	楕円形	30 × 24		36	95	M 3 b6	楕円形	30 × 25		22
21	M 3 e6	円形	42 × 40		48	58	M 3 e7	円形	24 × 24		16	96	M 3 c6	[楕円形]	(52) × (35)		90
22	M 3 f6	楕円形	33 × 28		18	59	M 3 e6	楕円形	62 × 50		40	97	M 3 c5	円形	40 × 40		68
23	M 3 f6	円形	36 × 34		26	60	M 3 f7	楕円形	27 × 23		10	98	M 3 c5	楕円形	37 × 33		54
24	M 3 d7	楕円形	25 × 22		52	61	M 3 e6	楕円形	30 × 25		26	99	M 3 c6	[楕円形]	36 × (35)		45
25	M 3 e6	円形	48 × 45		46	62	M 3 e6	楕円形	38 × 25		20	100	M 3 c6	円形	34 × 34		50
26	M 3 d8	楕円形	35 × 30		32	64	M 3 e8	円形	25 × 23		12	101	M 3 d7	円形	23 × 23		25
27	M 3 d7	[楕円形]	(42) × 30		50	65	M 3 e8	楕円形	34 × 25		32	102	M 3 d7	円形	25 × 25		14
28	M 3 d7	円形	27 × 26		14	66	M 3 e7	楕円形	30 × 20		26	103	M 3 d7	楕円形	39 × 30		25
29	M 3 d7	円形	26 × 26		28	67	M 3 e7	楕円形	40 × 35		14	104	M 3 d7	円形	24 × 22		10
31	M 3 d7	楕円形	38 × 32		30	68	M 3 e7	楕円形	32 × 28		26	105	M 3 c7	楕円形	30 × 20		7
32	M 3 d7	楕円形	40 × 30		48	69	M 3 c7	[楕円形]	40 × (25)		28	106	M 3 c7	楕円形	30 × 20		18
33	M 3 c8	[楕円形]	(40) × (20)		40	70	M 3 c7	不整楕円形	54 × 33		33	107	M 3 c7	楕円形	30 × 24		15
35	M 3 c6	楕円形	72 × 40		65	71	M 3 c7	[楕円形]	30 × (25)		45	108	M 3 c5	[円形]	22 × (20)		36
36	M 3 c7	円形	32 × 30		40	72	M 3 b6	楕円形	30 × 28		18	109	M 3 c5	円形	27 × 26		36
37	M 3 c7	[円形]	(35) × 32		35	73	M 3 b6	円形	27 × 25		20	110	M 3 b5	楕円形	32 × 25		9

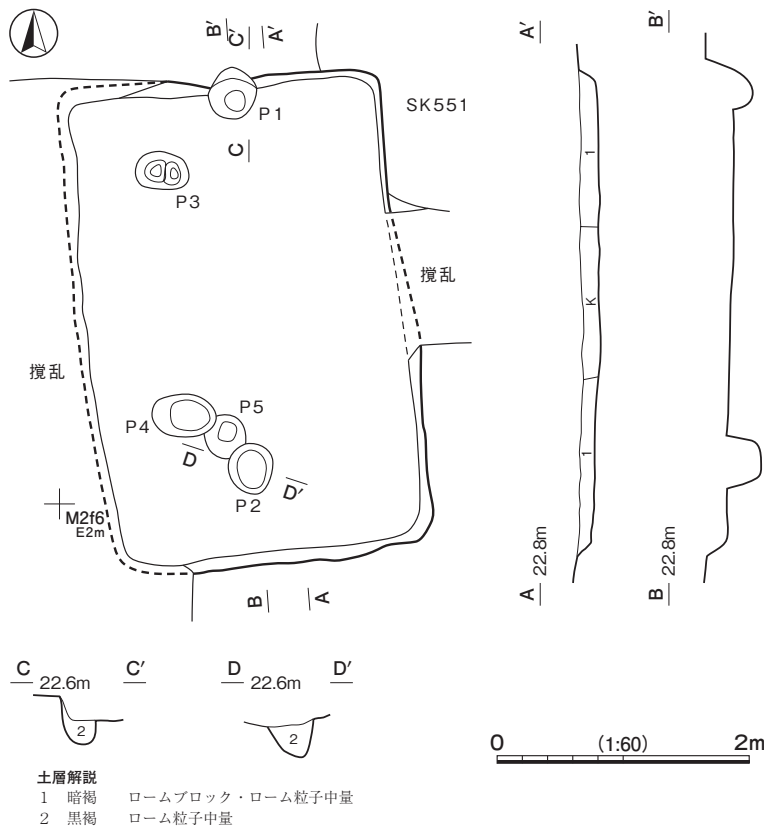
番号	位置	平面形	規 模 (cm)			番号	位置	平面形	規 模 (cm)			番号	位置	平面形	規 模 (cm)		
			長径 (軸) × 短径 (軸)	深さ					長径 (軸) × 短径 (軸)	深さ					長径 (軸) × 短径 (軸)	深さ	
111	M 3 b5	楕円形	42 × 32	45		151	M 3 d8	楕円形	28 × 20	26		187	M 3 a6	円形	30 × 28	23	
112	M 3 b5	楕円形	40 × 35	42		152	M 3 d8	楕円形	30 × 24	78		188	M 3 b6	楕円形	44 × 40	28	
113	M 3 b5	楕円形	45 × 40	38		153	M 3 e7	[楕円形]	29 × (20)	25		189	M 3 a6	楕円形	34 × 30	17	
114	M 3 c6	[楕円形]	55 × (35)	53		154	M 3 d7	楕円形	26 × 20	33		190	M 3 b6	円形	32 × 30	40	
116	M 3 b6	円形	30 × 28	54		155	M 3 b5	楕円形	40 × 36	62		192	M 3 c6	楕円形	40 × 32	40	
117	M 3 b6	円形	28 × 28	40		156	M 3 c5	円形	32 × 30	50		194	M 3 a4	楕円形	35 × 29	-	
118	M 3 c6	楕円形	52 × 28	72		157	M 3 c5	楕円形	46 × 26	40		195	M 3 a4	楕円形	28 × 20	45	
120	M 3 c7	円形	27 × 26	44		158	M 3 c5	楕円形	34 × 30	39		196	M 3 a4	円形	30 × 28	35	
121	M 3 c7	円形	26 × 22	18		159	M 3 c5	楕円形	48 × 43	60		197	M 3 f7	楕円形	24 × 20	42	
122	M 3 c7	楕円形	45 × 30	40		160	M 3 c4	円形	25 × 25	25		198	M 3 f8	楕円形	30 × 27	30	
123	M 3 c6	円形	26 × 26	38		161	M 3 c4	楕円形	35 × 27	25		199	M 3 e7	円形	20 × 20	25	
124	M 3 c6	円形	35 × 34	23		162	M 3 d5	円形	28 × 27	60		200	M 3 e7	円形	20 × 20	23	
125	M 3 c6	円形	27 × 26	33		163	M 3 d4	円形	22 × 22	18		201	M 3 e5	円形	22 × 22	23	
126	M 3 c6	円形	25 × 25	55		164	M 3 d4	楕円形	23 × 20	6		202	M 3 d6	楕円形	30 × 24	46	
127	M 3 d6	円形	25 × 25	20		165	M 3 d5	円形	25 × 25	33		203	M 3 e8	円形	19 × 18	4	
128	M 3 d6	円形	32 × 30	45		166	M 3 e4	円形	32 × 30	28		204	M 3 e8	円形	25 × 25	12	
129	M 3 d6	楕円形	46 × 36	47		167	M 3 e4	円形	27 × 26	30		205	M 3 e7	円形	15 × 14	16	
130	M 3 d6	楕円形	38 × 34	30		168	M 3 f4	楕円形	28 × 22	28		207	M 3 e7	楕円形	28 × 20	20	
131	M 3 b5	楕円形	40 × 30	22		169	M 3 f5	円形	26 × 24	10		208	M 3 d6	楕円形	32 × 25	8	
132	M 3 c6	楕円形	60 × 42	54		170	M 3 f5	円形	48 × 48	137		209	M 3 d6	楕円形	33 × 25	22	
133	M 3 d5	円形	27 × 26	24		171	M 3 f5	楕円形	48 × 36	35		210	M 3 d7	楕円形	29 × 25	22	
134	M 3 d6	円形	30 × 27	17		172	M 3 f5	楕円形	42 × 30	19		211	M 3 d6	楕円形	32 × 25	131	
135	M 3 d5	楕円形	30 × 23	48		173	M 3 f5	楕円形	32 × 25	28		212	M 3 d6	楕円形	25 × 22	38	
136	M 3 d5	円形	39 × 35	40		174	M 3 f5	楕円形	30 × 25	29		213	M 3 d7	円形	24 × 24	10	
137	M 3 d5	楕円形	43 × 33	35		175	M 3 f5	楕円形	30 × 20	55		214	M 3 d7	[円形]	35 × (35)	56	
138	M 3 b5	[楕円形]	53 × (38)	40		176	M 3 f4	楕円形	38 × 32	45		215	M 3 c8	楕円形	56 × 33	30	
139	M 3 d5	楕円形	47 × 28	43		177	M 3 f4	楕円形	50 × 32	26		216	M 3 c7	楕円形	25 × 22	10	
143	L 3 j7	楕円形	40 × 32	50		178	M 3 f4	楕円形	33 × 28	30		217	M 3 c7	楕円形	32 × 21	6	
144	M 3 d6	[楕円形]	(48) × 38	44		179	M 3 f4	楕円形	39 × 29	35		219	M 3 b6	楕円形	30 × 25	23	
145	M 3 c6	円形	30 × 28	27		180	M 3 f4	楕円形	36 × 23	35		221	M 3 c5	円形	25 × 23	6	
146	M 3 b7	円形	32 × 30	49		181	M 3 g4	円形	24 × 22	30		223	L 3 j7	円形	35 × 35	29	
147	M 3 d7	円形	34 × 34	57		183	M 3 c5	楕円形	35 × 26	55		307	M 3 e7	[楕円形]	27 × (20)	12	
148	M 3 d8	楕円形	30 × 25	23		184	M 3 a7	楕円形	32 × 28	43		308	M 3 c6	[楕円形]	(36) × 23	54	
149	M 3 d8	楕円形	30 × 23	22		185	M 3 b7	楕円形	42 × 38	36							
150	M 3 d8	円形	20 × 20	18		186	M 3 a7	円形	38 × 38	36							

第 109 表 第 3 号区画のピット群一覧

番号	位置	柱 穴					主な出土遺物	備 考
		柱穴数	平面形	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)		
12	M 3 c1 ~ M 3 c2	13	円形・楕円形	24 ~ 57	24 ~ 40	9 ~ 52	-	
27	M 3 a3 ~ M 3 j7	208	円形・楕円形	15 ~ 62	14 ~ 50	7 ~ 82	石臼	
77	M 2 e0 ~ M 2 f0	5	円形・楕円形	24 ~ 41	24 ~ 41	9 ~ 24	-	
78	M 3 b4 ~ M 3 b4	5	円形・楕円形	28 ~ 46	28 ~ 41	16 ~ 37	-	

(5) 第1・3号区画西側の遺構と遺物

ア 方形竪穴遺構



第185図 第1号方形竪穴遺構実測図

第1号方形竪穴遺構 (第185図 PL13)

位置 第3号区画の西側のM2e6区、標高23.0mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第551号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 西側が攪乱のため、長軸は3.95mで、短軸は2.68mと推定される。平面形は隅丸長方形で、長軸方向はN-5°-Wである。壁は高さ16cmで、外傾している。

床 ほぼ平坦である。

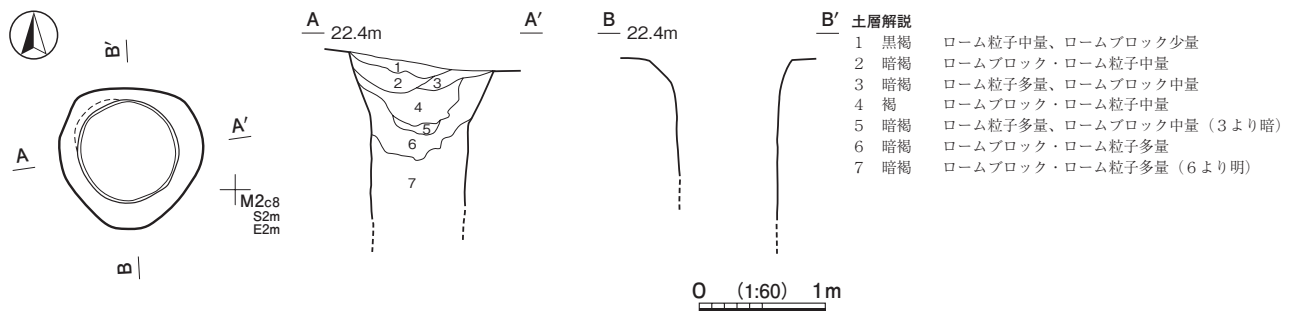
ピット 5か所。P1は短軸である北壁際中央、P2は短軸である南壁寄り中央に位置し、径40cm、深さ16・25cmである。位置から主柱穴と考えられる。P3~5は、位置に規則性はなく、径32~52cm、深さ20~28cmである。

覆土 単一層である。ロームブロックを多く含むことから、人為堆積である。

所見 遺物は出土していない。形状から、中・近世の遺構と判断した。詳細な時期は不明である。

イ 井戸跡

第14号井戸跡 (第186図 PL14)



第186図 第14号井戸跡実測図

ウ 地下式坑

第3号地下式坑 (第187図 PL23・44)

位置 第1号区画の西側のL2c6区、標高22.5mほどの台地斜面部に位置している。

重複関係 第2号段切状遺構に掘り込まれている。

規模と形状 第2号段切状遺構に掘り込まれているため、確認できた軸長は2.27mである。主軸方向はN-82°-Wである。

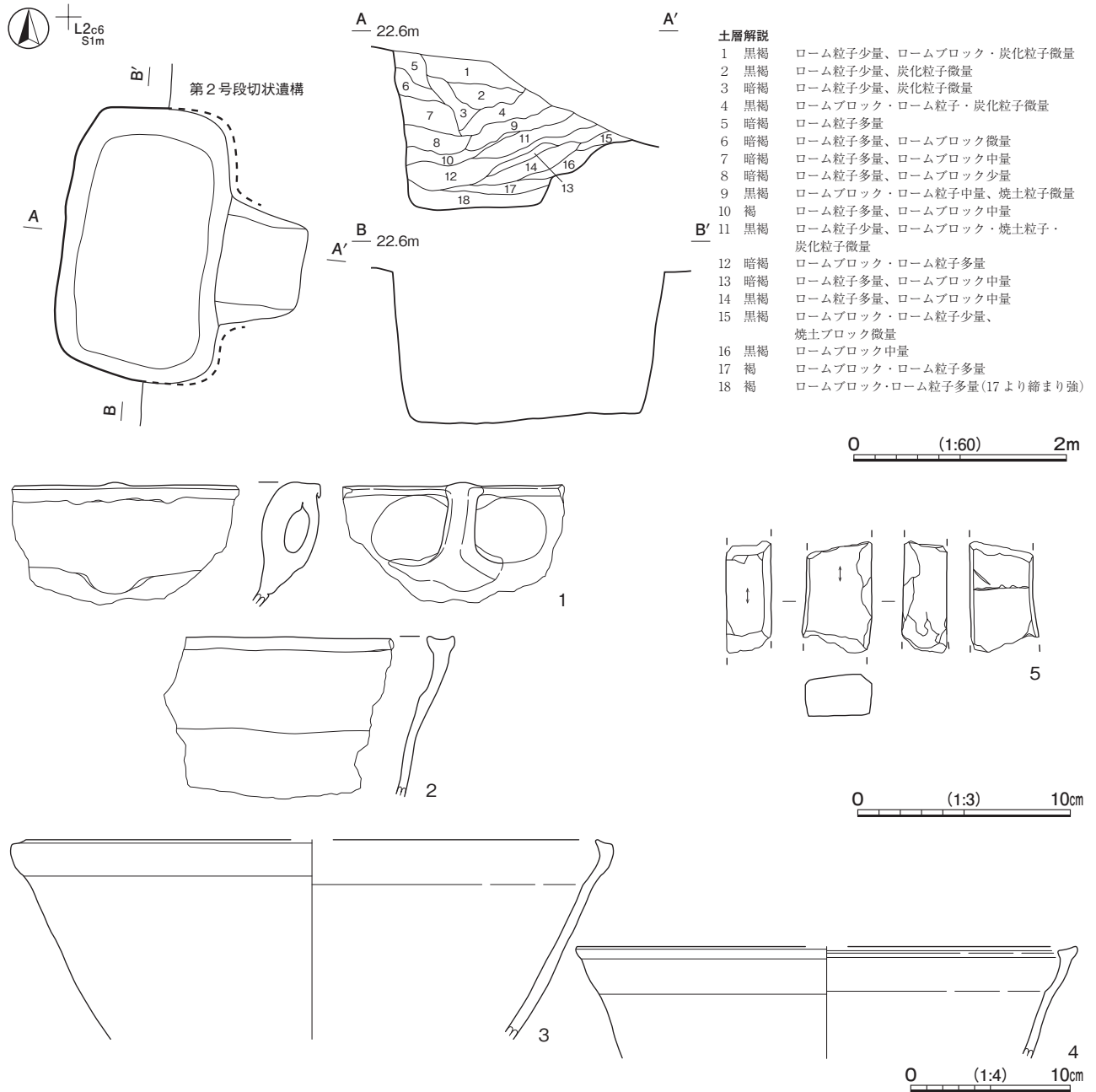
竪坑 主室の東壁中央部に位置し、奥行0.80m、横幅1.00mの台形と推定される。深さは65cmで、底面は主室に向かって傾斜している。

主室 奥行 1.50 m、横幅 2.55 m の横長の隅丸長方形である。深さは 143cm で、壁はほぼ直立している。堅坑と主室の境には段差があり、底面はほぼ平坦である。

覆土 18 層に分層できる。各層にわたりロームブロックを多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器 25 点（内耳鍋 16、甕類 9）、石器 1 点（砥石）が出土している。1～5 は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から 15 世紀後半と考えられる。



第 187 図 第 3 号地下式坑・出土遺物実測図

第 110 表 第 3 号地下式坑出土遺物一覧（第 187 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	内耳鍋	-	(5.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部わずかに内湾 耳断面紐状	覆土	5% 外面煤附着
2	土師質土器	内耳鍋	-	(7.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部わずかに内湾 耳断面紐状	覆土	5% 外面煤附着
3	土師質土器	内耳鍋	[37.6]	(12.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部直線のな立ち上がり 口縁部内湾 耳断面紐状	覆土	10% PL44 外面煤附着
4	土師質土器	内耳鍋	[31.8]	(7.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部直線のな立ち上がり 口縁部内湾 耳断面紐状	覆土	10% 外面煤附着
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
5	砥石	(5.2)	3.3	2.2	(55.26)	凝灰岩	砥面 2 面		覆土	PL44	

第4号地下式坑 (第188図 PL23)

位置 第1号区画の西側のL2d6区、標高22.5mほどの台地斜面部に位置している。

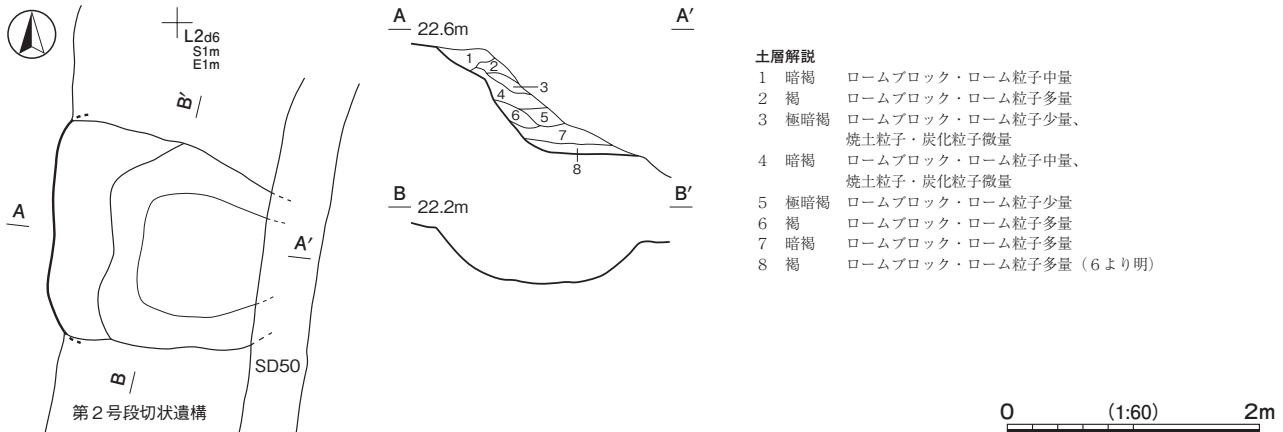
重複関係 第2号段切状遺構に掘り込まれている。重複している第50号溝跡との関係は不明である。

規模と形状 第2号段切状遺構に掘り込まれているため、確認できた軸長は1.65mで、竪坑部の一部を確認した。主軸方向はN-98°-Eである。

竪坑 奥行1.65m、横幅1.65mの隅丸長方形と推定される。深さは83cmで、壁は外傾して立ち上がり、出入口側と考えられる西壁の上部は傾斜が緩やかである。底面はほぼ平坦である。

覆土 8層に分層できる。各層にわたりロームブロックを多く含むことから、人為堆積である。

所見 遺物は出土していない。形状から、中世の遺構と判断した。詳細な時期は不明である。



第188図 第4号地下式坑実測図

第5号地下式坑 (第189図 PL23)

位置 第1号区画の西側のL2e6区、標高22.5mほどの台地斜面部に位置している。

重複関係 第2号段切状遺構、第50号溝に掘り込まれている。

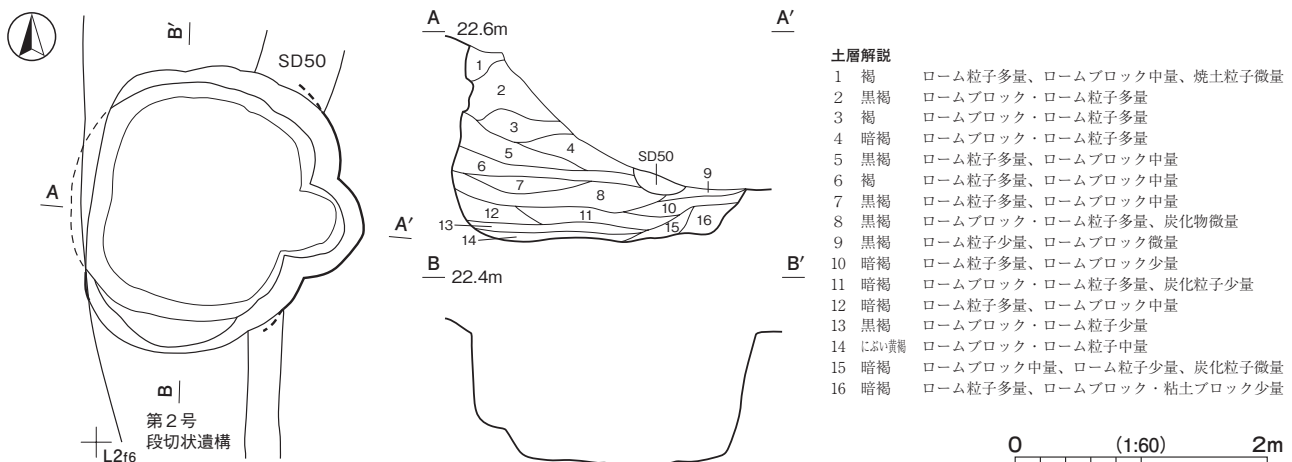
規模と形状 軸長は2.17mで、主軸方向はN-80°-Wである。

竪坑 主室の東壁中央部に位置し、奥行0.56m、横幅0.79mの半円形である。深さは35cmで、底面はほぼ平坦である。

主室 奥行1.61m、横幅2.32mの横長の楕円形である。深さは150cmで、壁はほぼ直立し、底面はほぼ平坦である。

覆土 16層に分層できる。第5~8層は大型のロームブロックを多量に含むことから、壁や天井の崩落土である。第11~16層はロームブロックを多く含むことから、人為堆積である。

所見 遺物は出土していない。形状から、中世の遺構と判断した。詳細な時期は不明である。第3号地下式坑の主軸方向とほぼ一致し、同時期の可能性がある。



第189図 第5号地下式坑実測図

第6号地下式坑（第190図 PL23）

位置 第1号区画の西側のL2i6区、標高22.5mほどの台地斜面部に位置している。

重複関係 第2号段切状遺構に掘り込まれている。重複している第52号溝跡との関係は不明である。

規模と形状 第2号段切状遺構に掘り込まれているため、確認できた軸長は2.03mである。主軸方向はN-92°-Wである。

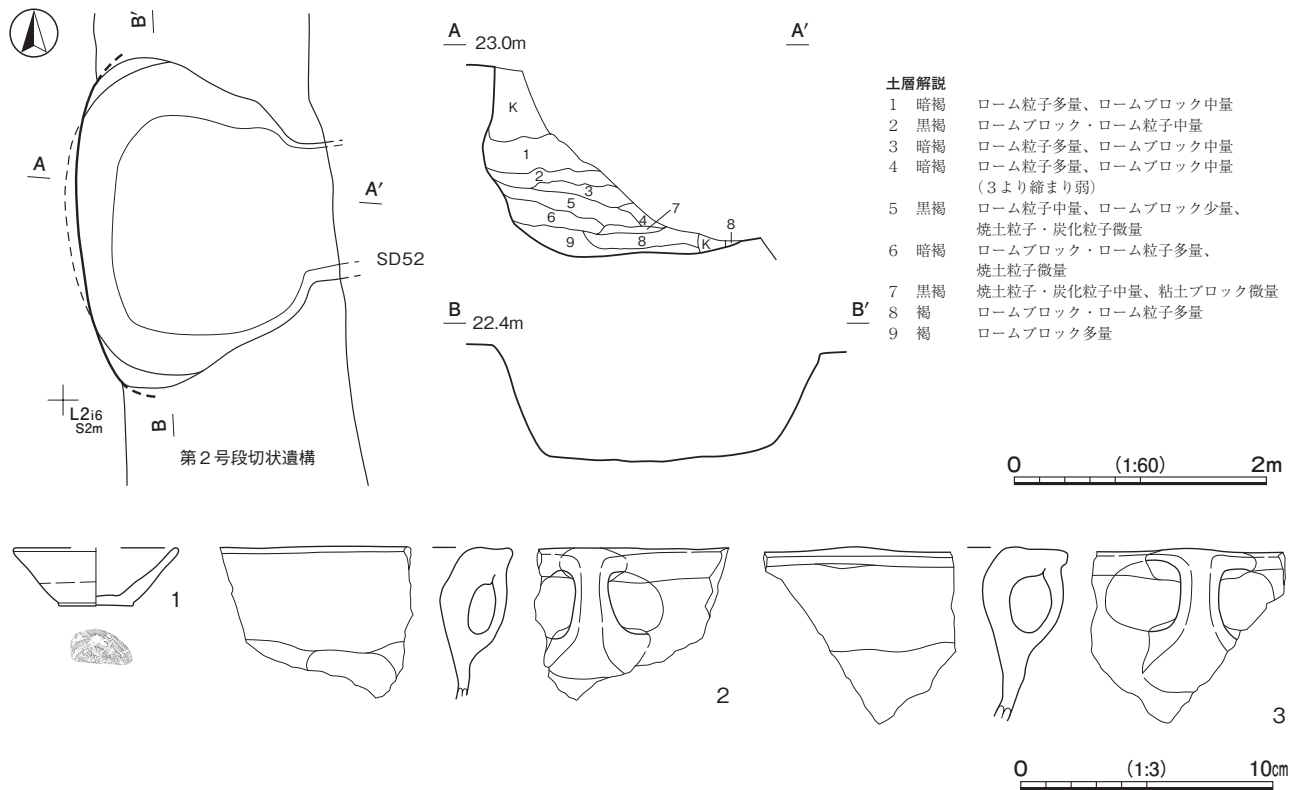
竪坑 主室の東壁ほぼ中央部に位置し、第2号段切状遺構に掘り込まれているため、確認できた規模は奥行0.27m、横幅1.10mである。底面はほぼ平坦である。

主室 奥行1.76m、横幅2.60mの横長の隅丸長方形である。深さは103cmで、壁は崩落により、外傾している。

覆土 9層に分層できる。第1～4層は大型のロームブロックを多量に含むことから、壁や天井の崩落土である。第5・6・8・9層はロームブロックを多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器4点（皿1、内耳鍋3）が出土している。1～3は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から15世紀後半と考えられる。



第190図 第6号地下式坑・出土遺物実測図

第111表 第6号地下式坑出土遺物一覧（第190図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	[6.4]	2.3	[3.0]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部直線的な立ち上がり 底部回転糸切り	覆土	20%
2	土師質土器	内耳鍋	-	(6.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	口縁部わずかに内湾 耳断面紐状	覆土	5% 外面煤付着
3	土師質土器	内耳鍋	-	(7.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	口縁部わずかに内湾 耳断面紐状	覆土	5% 外面煤付着

第7号地下式坑（第191図 PL23）

位置 第1号区画の西側のL2h6区、標高23.0mほどの台地斜面部に位置している。

重複関係 第2号段切状遺構に掘り込まれている。

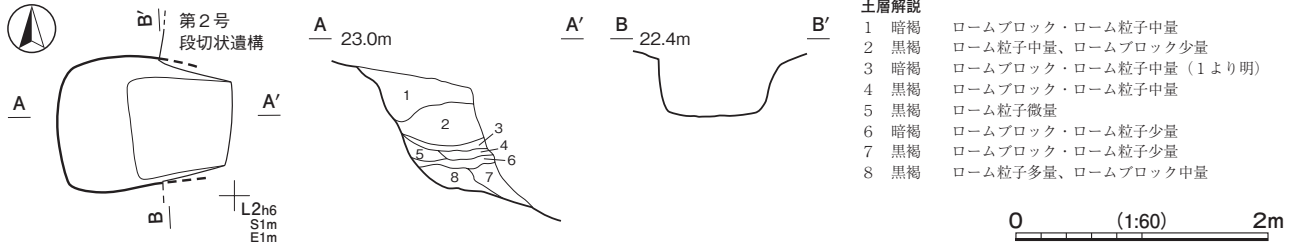
規模と形状 第2号段切状遺構に掘り込まれているため、確認できた軸長は1.40mで、竪坑部の一部を確認した。主軸方向はN-82°-Eである。

竪坑 奥行 1.40 m、横幅 1.03 m の長方形と推定される。深さは 95cm で、壁は外傾して立ち上がり、出入口側と考えられる西壁の上部は傾斜が緩やかである。底面は奥側と考えられる東に向かって緩やかに傾斜している。

覆土 8層に分層できる。各層にわたりロームブロックを多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器 1 点（甕類）が出土している。細片のため図示できない。

所見 形状から、中世の遺構と判断した。詳細な時期は不明である。



第 191 図 第 7 号地下式坑実測図

第 112 表 第 1・3 号区画西側の地下式坑一覧

番号	位置	軸方向	平面形		軸長 (m)	竪坑規模			主室規模			覆土	主な出土遺物	備考
			竪坑	主室		奥行 (m)	横幅 (m)	深さ (cm)	奥行 (m)	横幅 (m)	深さ (cm)			
3	L 2 c6	N - 82° - W	台形	隅丸長方形	2.27	0.80	1.00	65	1.50	2.55	143	人為	内耳鍋 甕類 砥石	本跡→第2号段切状遺構
4	L 2 d6	N - 98° - E	[隅丸長方形]	-	(1.65)	(1.65)	1.65	83	-	-	-	人為	-	本跡→第2号段切状遺構 SD50 と重複
5	L 2 e6	N - 80° - W	半円形	楕円形	2.17	0.56	0.79	35	1.61	2.32	150	人為	-	本跡→第2号段切状遺構、SD50
6	L 2 i6	N - 92° - W	不明	[隅丸長方形]	(2.03)	(0.27)	(1.10)	-	1.76	2.60	103	人為	皿 内耳鍋	本跡→第2号段切状遺構 SD52 と重複
7	L 2 h6	N - 82° - E	[長方形]	-	(1.40)	(1.40)	1.03	95	-	-	-	人為	甕類	本跡→第2号段切状遺構

エ 土坑

第 488 号土坑 (第 192 図 PL42)

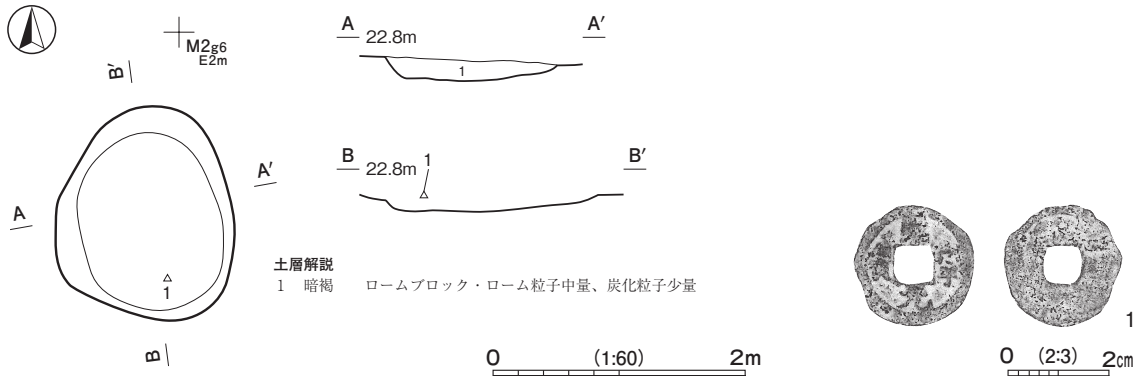
位置 第 3 号区画の西側の M 2 g6 区、標高 23.0 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 1.69 m、短径 1.39 m の楕円形で、長径方向は N - 8° - W である。深さ 16cm で、壁は外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

覆土 単一層である。ロームブロックを多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 銭貨 1 点（熙寧元寶）が出土している。1 は覆土上層から出土している。

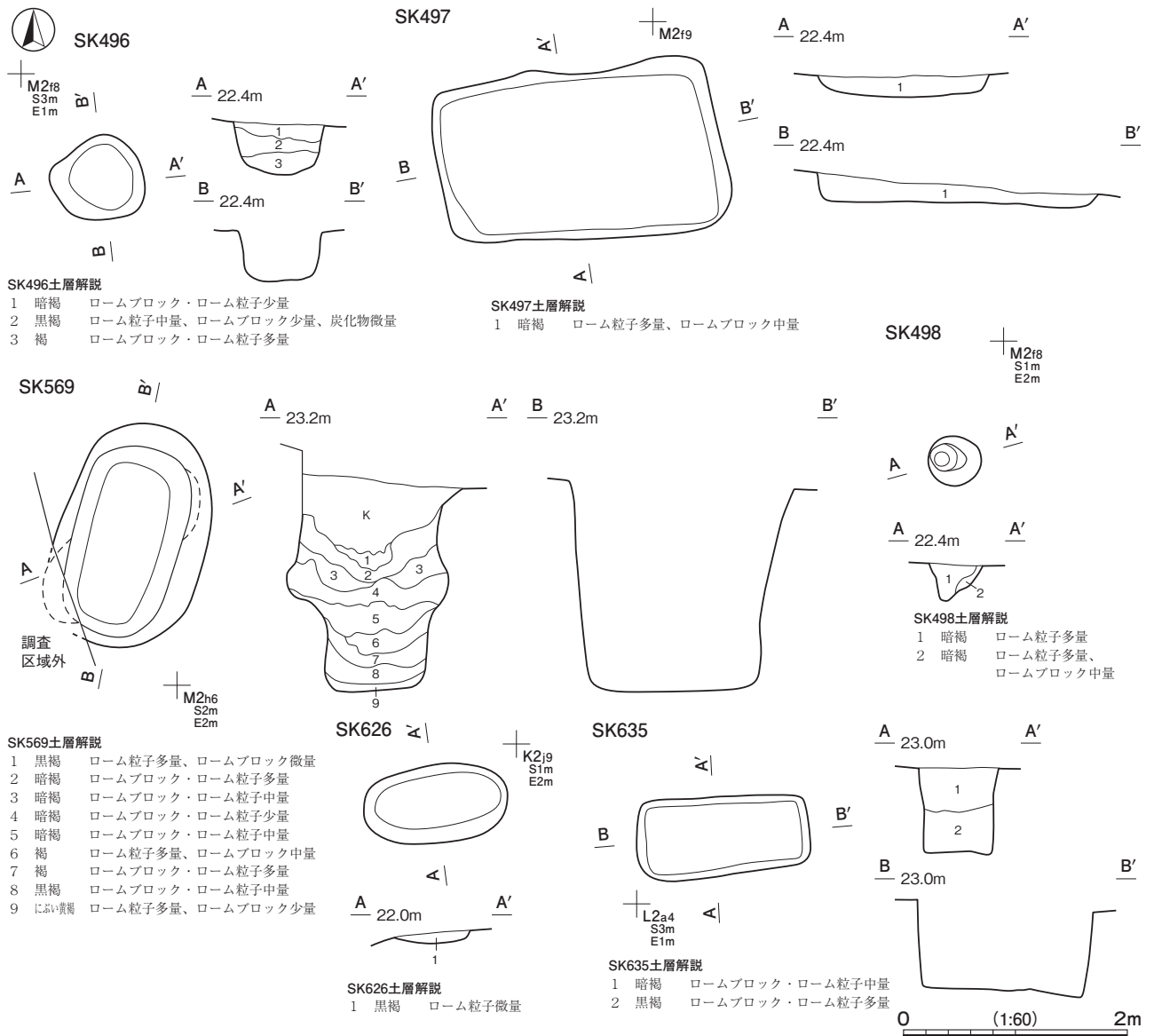
所見 出土遺物から、中世の遺構と判断した。詳細な時期は不明である。



第 192 図 第 488 号土坑・出土遺物実測図

第 113 表 第 488 号土坑出土遺物一覧 (第 192 図)

番号	銭種	径	孔幅	厚さ	重量	材質	初鑄年	特徴	出土位置	備考
1	熙寧元寶	2.5	0.7	1.0	(2.49)	銅	1068 年	北宋銭 真書 無背	覆土下層	PL42



第 193 図 第 1・3号区画西側の土坑実測図

第 114 表 第 1・3号区画西側の土坑一覧

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	主 な 出 土 遺 物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
488	M 2g6	N - 8° - W	楕円形	1.69 × 1.39	16	外傾	平坦	人為	銭貨 (熙寧元寶)	
496	M 2f8	N - 85° - W	楕円形	0.84 × 0.76	40	外傾	平坦	人為	-	
497	M 2f8	N - 78° - E	長方形	2.54 × 1.50	22	外傾	平坦	人為	-	
498	M 2f8	-	円形	0.48 × 0.44	32	外傾	U字状	人為	-	
569	M 2h6	N - 15° - E	楕円形	2.02 × 1.35	184	外傾	平坦	人為	-	
626	K 2j9	N - 88° - E	楕円形	1.28 × 0.67	9	外傾	平坦	人為	-	
635	L 2a4	N - 86° - E	隅丸長方形	1.53 × 0.73	73	垂直	平坦	人為	-	

オ ピット群 (第 15・20 図)

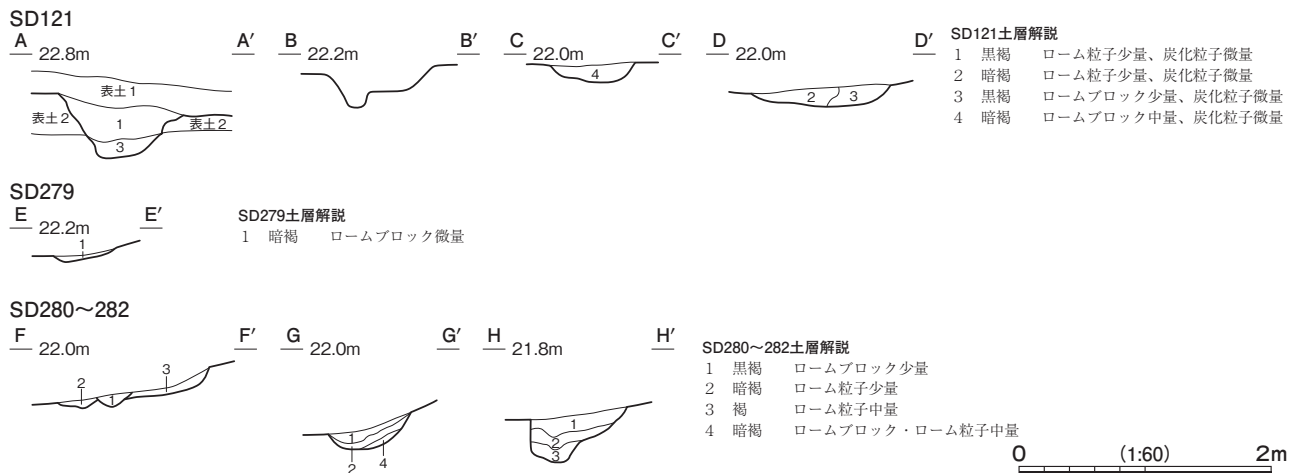
第 115 表 第 11号ピット群ピット一覧

番号	位置	平面形	規 模 (cm)		番号	位置	平面形	規 模 (cm)		番号	位置	平面形	規 模 (cm)	
			長径 (軸) × 短径 (軸)	深さ				長径 (軸) × 短径 (軸)	深さ				長径 (軸) × 短径 (軸)	深さ
1	M 2c6	円形	36 × 33	55	4	M 2c6	楕円形	48 × 38	65	7	M 2d6	楕円形	32 × 29	65
2	M 2c6	楕円形	50 × 42	40	5	M 2c6	円形	34 × 31	54	8	M 2d6	楕円形	48 × 34	48
3	M 2c6	楕円形	50 × 35	22	6	M 2d6	円形	31 × 30	34					

(6) 第1号区画北側の遺構と遺物

ア 溝跡

第1号区画の北側に位置している溝は、第60号溝と直交して南北に延びる第121号溝と、第2号区画(北)の北東を区画しているような第120・235・268・283・284号溝、東西に平行して延びる第271・280～282号溝、第280・281号溝の延長上に位置している第279号溝である。第121号溝は、第2号段切状遺構と第60号溝を掘り込んでいる。第60号溝の南北に延びる部分と同一軸方向のため、第60号溝と同様に、近世以降の区画の可能性が高い。第280～282号溝は、その約3m南に位置している第271号溝と平行して位置しており、道路の可能性が高い。第279号溝は、第280～282号溝の延長上に位置しており、第279号溝の南西約4m付近には、第15～17号柱穴列が並列していることから、第271・280～282号溝と同様に、道路の可能性が高い。以下、実測図と一覧で記載する。



第195図 第121・279～282号溝跡実測図



第196図 第121号溝跡出土遺物実測図

第116表 第121号溝跡出土遺物一覧(第196図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考	
1	土師質土器	皿	[11.4]	(2.5)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部ヘラナデ 非ロクロ成形	覆土	20%	
2	土師質土器	内耳鍋	-	(4.8)	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部内面に刻文「×」	覆土	5%	
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
3	磁器	碗	[9.0]	(4.3)	-	緻密	灰白	染付	透明釉	肥前	覆土	10%

第117表 第1号区画北側の溝跡一覧

番号	位置	方向	平面形	規模				断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	上幅(cm)	下幅(cm)	深さ(cm)					
121	K 2 g0～L 2 a0	N-180°-E	直線状	14.20	40～53	15～20	42	逆台形	外傾	自然	碗 皿 内耳鍋	SD60、第2号段切状遺構→本跡 PL 8
279	K 2 f6～K 2 f9	N-87°-W	直線状	11.60	44～60	16～26	7	逆台形	外傾	自然	-	SK2928→本跡
280	K 3 f1～K 3 f3	N-85°-W	直線状	8.44	73～88	32～45	5	逆台形	外傾	自然	-	本跡→SD282 SD281と重複 PL11
281	K 3 f1～K 3 g8	N-85°-W	直線状	26.50	66～80	11～30	6～35	U字状	外傾	自然	-	SK2929→本跡→SD282 SD280と重複 PL11
282	K 3 f2～K 3 g3	N-87°-W	直線状	6.25	25～37	9～12	10	U字状	外傾	自然	-	SD280・281→本跡 PL11

イ 井戸跡

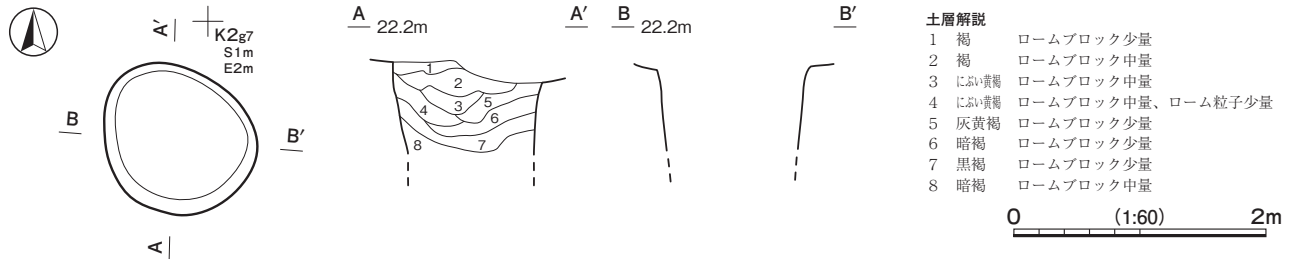
第 207 号井戸跡 (第 197 図)

位置 第 1 号区画北側の K 2g7 区、標高 22.0 m ほどの台地上に位置している。

規模と形状 長径 1.28 m、短径 1.15 m の楕円形で、長径方向は N - 50° - W である。円筒状に掘り込んでいる。湧水のため、確認面からの深さ 65cm までの調査とした。

覆土 8 層を確認した。覆土にロームブロックをやや多く含んでいることから、人為堆積である。

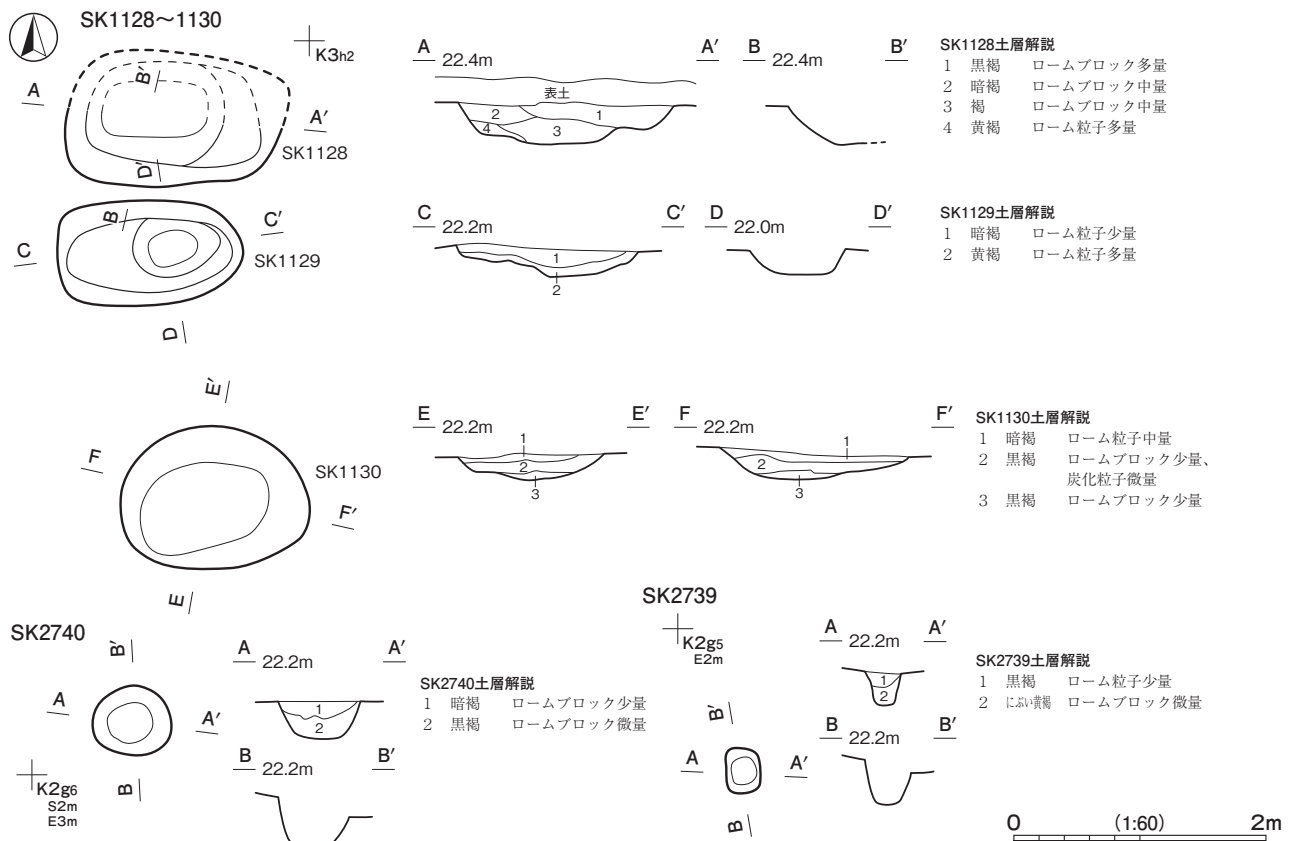
所見 位置と形状から、中・近世の遺構と判断した。詳細な時期は不明である。



第 197 図 第 207 号井戸跡実測図

ウ 土坑

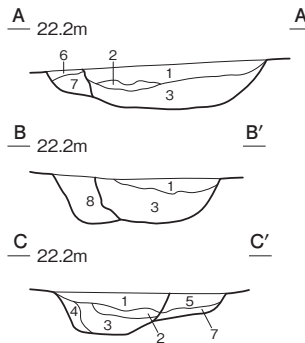
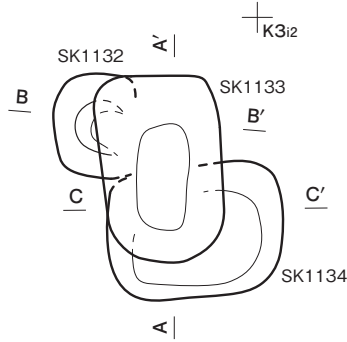
第 1 号区画北側では、16 基の土坑を確認した。第 2928 号土坑は、第 2 号区画 (北) の第 2929 号土坑に類似している大型の隅丸長方形の土坑である。第 1128 ~ 1130・1132 ~ 1134 号土坑は、隅丸長方形や楕円形の土坑で、第 121 号溝と同一軸方向や直交して位置している。第 2739・2740・2742 ~ 2746・2749・2750 号土坑は、径が 20 ~ 40cm 前後で、ピット状である。遺物は、第 1134・2928 号土坑から土師質土器皿、内耳鍋などが出土している。その他、出土遺物がない土坑の時期は不明である。位置と形状、覆土などから、中・近世の遺構と判断した。以下、実測図と一覽で記載する。



第 198 図 第 1 号区画北側の土坑実測図



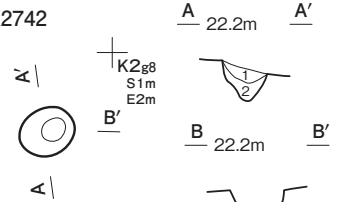
SK1132~1134



SK1132~1134土層解説

- 1 暗褐 ローム粒子少量
- 2 褐 ローム粒子中量
- 3 暗褐 ロームブロック少量
- 4 褐 ローム粒子多量
- 5 黒褐 ローム粒子少量
- 6 明黄褐 ローム粒子多量
- 7 黒褐 ローム粒子微量
- 8 褐 ローム粒子中量

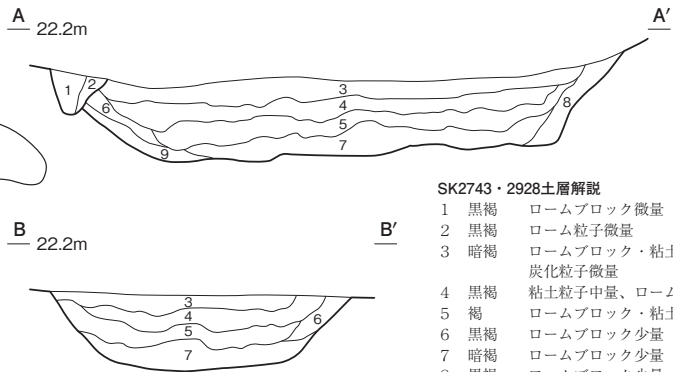
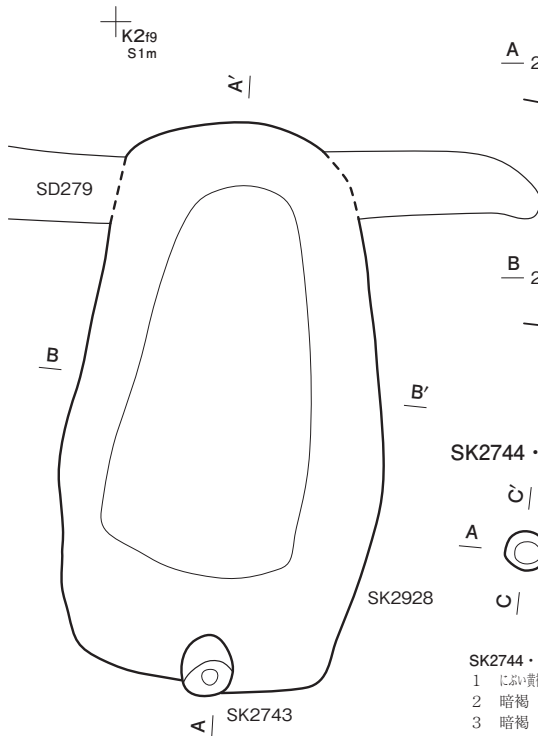
SK2742



SK2742土層解説

- 1 黒褐 ロームブロック少量
- 2 暗褐 ローム粒子少量

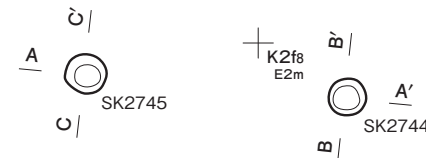
SK2743・2928



SK2743・2928土層解説

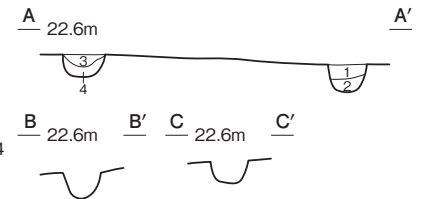
- 1 黒褐 ロームブロック微量
- 2 黒褐 ローム粒子微量
- 3 暗褐 ロームブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量
- 4 黒褐 粘土粒子中量、ロームブロック少量
- 5 褐 ロームブロック・粘土粒子中量
- 6 黒褐 ロームブロック少量
- 7 暗褐 ロームブロック少量
- 8 黒褐 ロームブロック少量
- 9 暗褐 ローム粒子少量

SK2744・2745

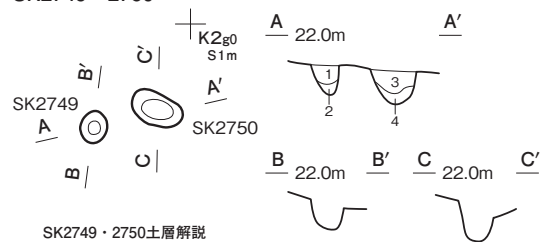


SK2744・2745土層解説

- 1 に近い黄褐 ロームブロック少量
- 2 暗褐 ローム粒子少量
- 3 暗褐 ロームブロック少量
- 4 暗褐 ロームブロック微量



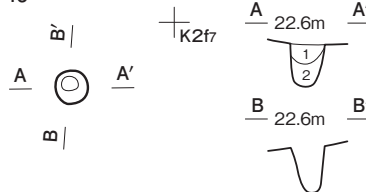
SK2749・2750



SK2749・2750土層解説

- 1 暗褐 ロームブロック微量
- 2 に近い黄褐 ローム粒子少量
- 3 暗褐 ロームブロック少量
- 4 褐 ロームブロック微量

SK2746



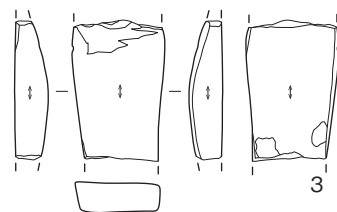
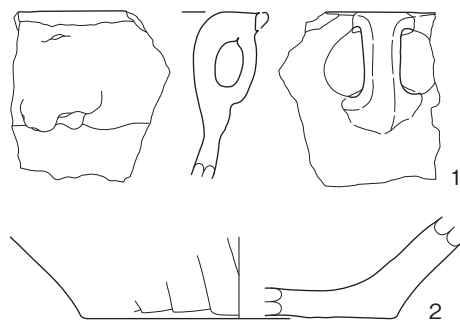
SK2746土層解説

- 1 に近い黄褐 ロームブロック少量
- 2 暗褐 ロームブロック少量

SK1134



SK2928



0 (1:60) 2m

0 (1:3) 10cm

第 199 図 第 1 号区画北側の土坑・出土遺物実測図

第118表 第1号区画北側の土坑出土遺物一覧（第199図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1134-1	土師質土器	皿	-	(1.5)	[6.8]	長石・石英・赤色粒子	浅黄透	普通	ロクロナア 底部回転糸切り	覆土	10%
2928-1	土師質土器	内耳鍋	-	(7.1)	-	長石・石英・雲母・細礫	にぶい赤褐	普通	口縁部外面に耳貼り付け時の押圧痕	覆土	5%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
2928-2	陶器	鉢	-	(3.3)	[12.2]	長石・石英	灰褐	外面ヘラ削り	無釉	常滑	覆土	5%

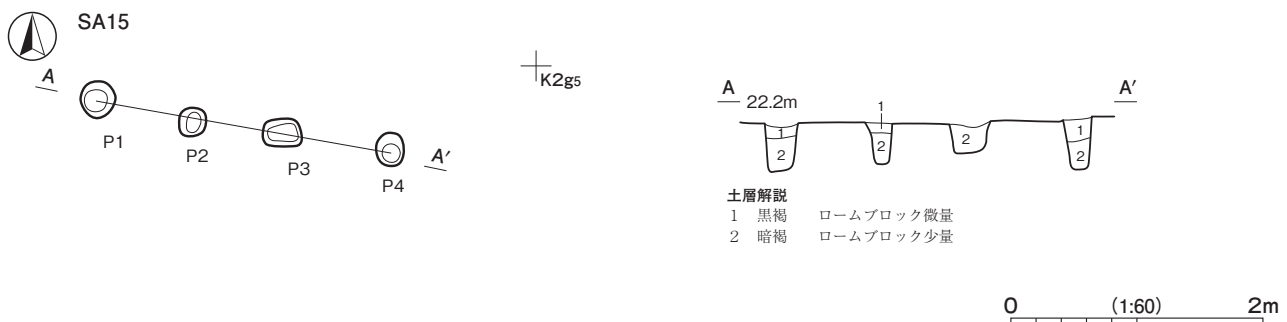
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
2928-3	砥石	(5.7)	3.7	1.4	(39.29)	凝灰岩	砥面4面	覆土	PL43

第119表 第1号区画北側の土坑一覧

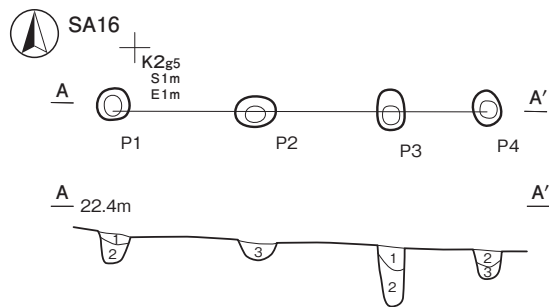
番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
1128	K 3 h1	N - 84° - W	楕円形	1.70 × (0.55)	33	外傾	凹凸	人為	-	PL20
1129	K 3 h1	N - 83° - E	楕円形	1.45 × 0.85	22	外傾	凹凸	人為	-	PL20
1130	K 3 h1	N - 80° - E	楕円形	1.49 × 1.11	22	外傾	皿状	人為	-	
1132	K 3 i1	N - 90°	[隅丸長方形]	0.83 × (0.56)	35	外傾	皿状	人為	-	本跡→SK1133 SK1134と重複
1133	K 3 i1	N - 90°	隅丸長方形	1.16 × 0.77	35	外傾	皿状	自然	-	SK1132・1134→本跡
1134	K 3 i1	N - 90°	隅丸長方形	1.38 × 1.04	20	外傾	皿状	人為	皿 内耳鍋 甕	本跡→SK1133 SK1132と重複
2739	K 2 g5	N - 1° - W	長方形	0.35 × 0.27	30	外傾	平坦	自然	-	
2740	K 2 g6	N - 83° - W	楕円形	0.64 × 0.55	31	外傾	平坦	自然	-	
2742	K 2 g8	N - 65° - E	楕円形	0.45 × 0.37	25	外傾	U字状	自然	-	
2743	K 2 g9	N - 0°	楕円形	0.50 × 0.40	32	外傾	U字状	人為	-	SK2928→本跡
2744	K 2 f8	-	円形	0.30 × 0.30	20	外傾	U字状	自然	-	
2745	K 2 f8	-	円形	0.34 × 0.32	18	外傾	平坦	自然	-	
2746	K 2 f6	-	円形	0.28 × 0.27	37	外傾	U字状	自然	-	
2749	K 2 g9	N - 7° - E	楕円形	0.26 × 0.20	22	外傾	U字状	自然	-	
2750	K 2 g9	N - 62° - W	楕円形	0.42 × 0.25	26	外傾	U字状	自然	-	
2928	K 2 f9	N - 3° - E	隅丸長方形	4.51 × 2.58	66	外傾	皿状	自然	皿 鉢 内耳鍋 砥石	本跡→SD279、SK2743 PL43

エ 柱穴列（第200・201図）

第1号区画北側では、第271号溝の延長上に、第15～17号柱穴列を確認した。それぞれの柱穴列は、径20～40cmほどのピットが約1mの間隔で4か所に位置している。これらが直列に並んで合わせて12mほどの柱穴列となっている。第271号溝は、約3m北に並行して位置している第280～281号溝とその延長上の第279号溝とともに、道路の可能性がある。本跡も道路の関連施設と考えられる。以下、実測図と一覧で記載する。

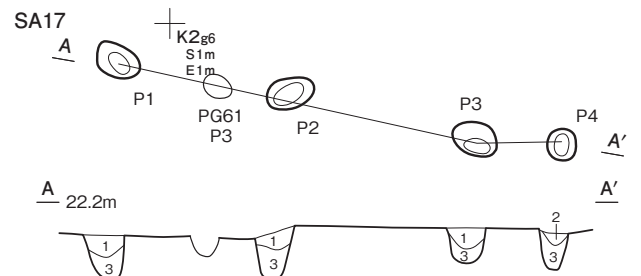


第200図 第15号柱穴列実測図



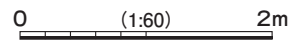
SA16土層解説

- 1 暗褐 ローム粒子少量
- 2 黒褐 ローム粒子少量
- 3 にふい黄褐 ロームブロック少量



SA17土層解説

- 1 黒褐 ロームブロック少量
- 2 暗褐 ロームブロック微量
- 3 にふい黄褐 ロームブロック少量



第201図 第16・17号柱穴列実測図

第120表 第15～17号柱穴列ピット一覧

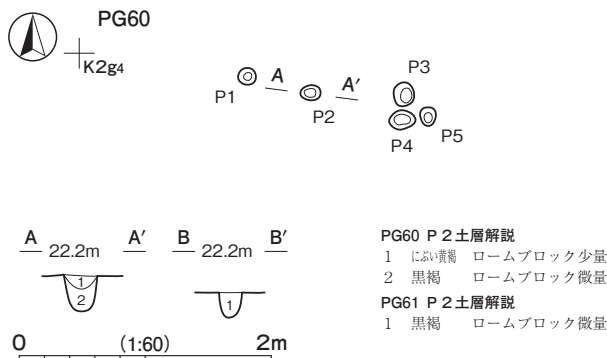
番号	位置	平面形	規模 (cm)		番号	位置	平面形	規模 (cm)		番号	位置	平面形	規模 (cm)	
			長径(軸) × 短径(軸)	深さ				長径(軸) × 短径(軸)	深さ				長径(軸) × 短径(軸)	深さ
15-1	K 2g4	円形	30 × 28	38	16-1	K 2g5	円形	27 × 26	23	17-1	K 2g6	楕円形	38 × 27	35
15-2	K 2g4	円形	23 × 21	32	16-2	K 2g5	楕円形	33 × 24	16	17-2	K 2g6	楕円形	38 × 25	37
15-3	K 2g4	楕円形	31 × 21	23	16-3	K 2g5	楕円形	32 × 21	48	17-3	K 2g6	楕円形	37 × 26	28
15-4	K 2g4	楕円形	28 × 22	40	16-4	K 2g5	楕円形	28 × 22	23	17-4	K 2g6	円形	25 × 23	31

第121表 第1号区画北側の柱穴列一覧

番号	位置	方向	長さ(m)	柱間(m)	柱 穴				主な出土遺物	備考	
					柱穴本数	平面形	長径 (cm)	短径 (cm)			深さ (cm)
15	K 2g4	N - 80° - W	2.37	0.71 ~ 0.86	4	円形・楕円形	23 ~ 31	21 ~ 28	23 ~ 40	-	PL12
16	K 2g5	N - 90°	3.00	0.76 ~ 1.12	4	円形・楕円形	27 ~ 33	21 ~ 26	16 ~ 48	-	
17	K 2g6 ~ K 2g7	N - 78° - W	3.59	0.66 ~ 1.55	4	円形・楕円形	25 ~ 38	23 ~ 27	28 ~ 37	-	

オ ピット群 (第6・202図)

第1号区画北側では、第15～17号柱穴列の周辺に複数のピットが存在しており、第60・61号ピット群として調査した。出土遺物がないため、詳細な時期は不明である。位置などから、中・近世の遺構と判断した。以下、実測図と一覧で記載する。

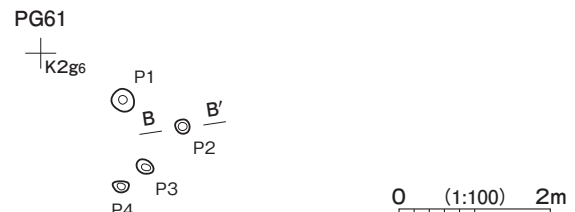


PG60 P 2土層解説

- 1 にふい黄褐 ロームブロック少量
- 2 黒褐 ロームブロック微量

PG61 P 2土層解説

- 1 黒褐 ロームブロック微量



第202図 第60・61号ピット群実測図

第122表 第60・61号ピット群ピット一覧

番号	位置	平面形	規模 (cm)		番号	位置	平面形	規模 (cm)		番号	位置	平面形	規模 (cm)	
			長径(軸) × 短径(軸)	深さ				長径(軸) × 短径(軸)	深さ				長径(軸) × 短径(軸)	深さ
60-1	K 2g4	円形	24 × 22	11	60-4	K 2g5	楕円形	35 × 24	28	61-1	K 2g6	楕円形	31 × 28	21
60-2	K 2g4	楕円形	27 × 20	28	60-5	K 2g5	楕円形	25 × 21	22	61-2	K 2g6	楕円形	20 × 18	20
60-3	K 2g5	楕円形	31 × 26	39						61-3	K 2g6	楕円形	25 × 18	11
										61-4	K 2g6	楕円形	23 × 14	11

第123表 第1号区画北側のピット群一覧

番号	位置	柱 穴					主な出土遺物	備 考
		柱穴数	平面形	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)		
60	K 2g4 ~ K 2g5	5	円形・楕円形	24 ~ 35	20 ~ 26	11 ~ 39	-	
61	K 2g6	4	楕円形	20 ~ 31	14 ~ 28	11 ~ 21	-	

(7) 第2・3号区画南側の遺構と遺物

ア 溝跡、道路跡

第2・3号区画の南側には、第244号溝が位置している。本跡は東部で第122号溝と同一軸方向で、6mほどの間隔をあけて平行している。また、本跡の覆土中で、複数の硬化面を確認したことから、第11～13号道路跡として調査した。本跡が溝として機能していた時期は、出土遺物などから16世紀代と考えられる。以下、第244号溝跡と第11～13号道路跡について記述する。

第244号溝跡、第11～13号道路跡 (第130・156・203・204図 PL10・11・36)

位置 第2・3号区画の南部、M 2i6～M 4e5区の標高19.0～23.5mの台地斜面部から低地部にかけてに位置している。

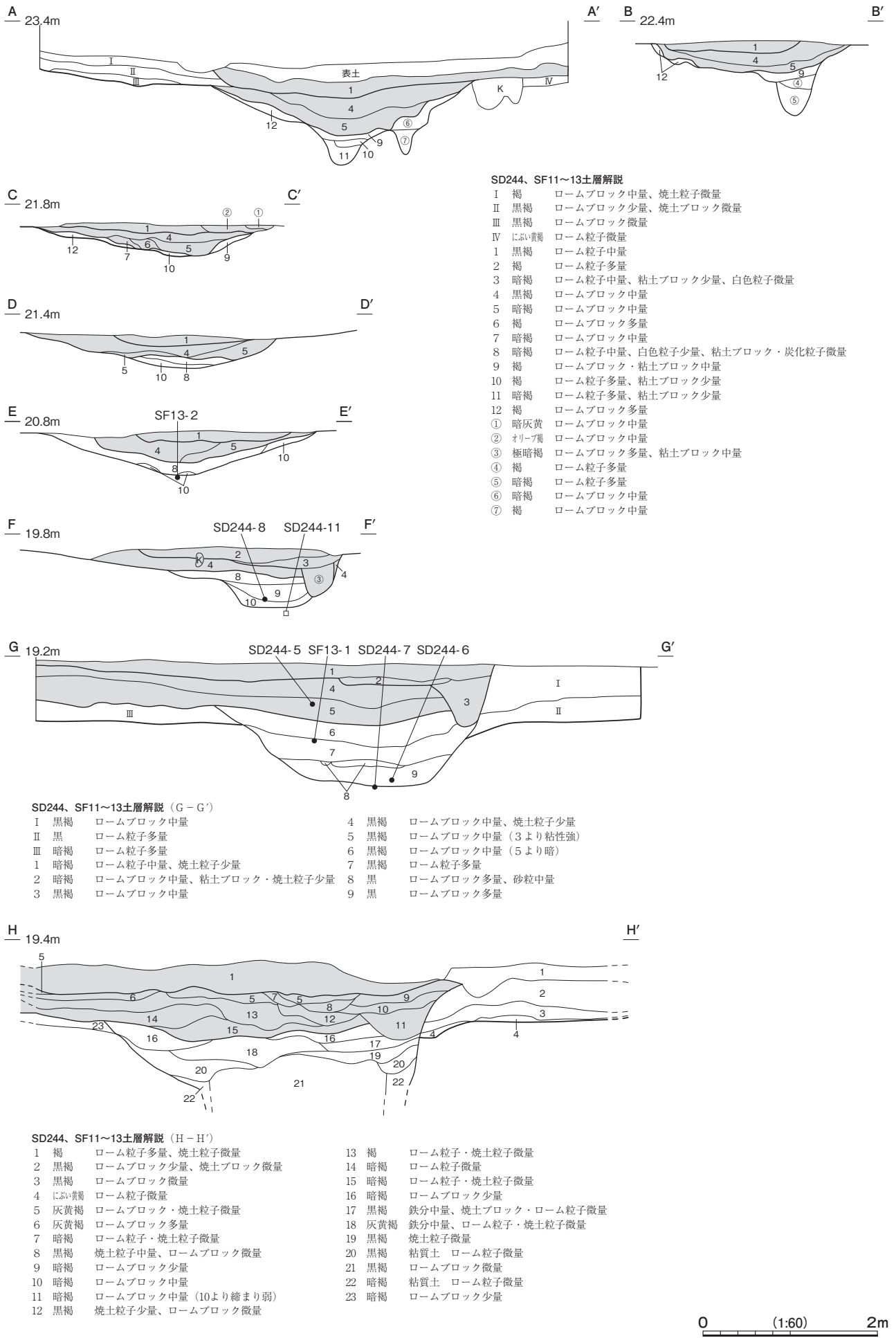
重複関係 第14号方形竪穴遺構を掘り込んでいる。

規模と形状 第244号溝は、調査区南西角から東(N-85°-E)へ50mほど直線的に延び、第2号区画(南)の南西コーナー部を過ぎたあたりから北東に屈曲して(N-77°-E)28mほど直線的に延びている。上幅140～400cm、下幅15～210cm、深さ45～78cmで、断面は逆台形である。底面は、西部で幅60cmほどと狭く、中央部で緩やかな皿状を呈し、東部は平坦となっている。壁は外傾して立ち上がっている。西部の底面付近と中央部から東部の壁際から、22か所のピットを確認した。覆土中に複数の硬化面を確認したことから、上面から第11～13号道路跡として調査した。硬化面は、西部ほど明瞭で、硬化範囲は第11号道路跡が約51.4m、第12号道路跡が約72.0m、第13号道路跡が約82.0mである。

覆土 西部から中央部では9層、東部の調査区壁際では18層に分層できる。本跡は表土下のI層(H-H'ラインでは2層)の黒褐色土を掘り込み、西部から中央部付近ではロームブロックを多く含んだ土が水平に、東部では黒褐色土と暗褐色土が交互に堆積している。すべて人為堆積である。①・②層は第11号道路の補修に伴う層、③層は第12号道路の側溝の可能性があり、④・⑤層は第244号溝のP6の覆土、⑥・⑦層は第244号溝のP1の覆土である。

遺物出土状況 第244号溝跡では、土師質土器130点(皿16、播鉢5、内耳鍋57、壺4、甕47、香炉1)、瓦質土器2点(甕)、陶器44点(碗21、灯明皿2、皿3、鉢2、播鉢4、壺5、銭甕1、甕6)、磁器12点(碗)、石器7点(砥石)、瓦4点が出土している。ほかに混入した土師器片69点、須恵器片86点、土製品1点(羽口)、鉄滓、骨片、木片等が出土している。第11号道路跡からは、土師質土器60点(皿6、植木鉢1、内耳鍋9、甕44)、瓦質土器4点(香炉2、甕2)、陶器41点(碗20、皿3、鉢1、播鉢4、香炉1、壺9、甕3)、磁器35点(碗31、皿4)、石器4点(砥石3、おはじき1)、瓦6点が出土している。ほかに混入した縄文土器3点、土師器片95点、須恵器片53点、鉄滓17点、石器1点(剥片)が出土している。第12号道路跡からは、土師質土器13点(皿1、播鉢1、内耳鍋5、甕6)、瓦質土器1点(甕)、陶器6点(碗3、皿1、鉢1、甕1)、磁器4点(碗3、皿1)、瓦2点が出土している。ほかに混入した土師器片10点、須恵器片9点、石器1点(石鏃)、鉄滓3点が出土している。第13号道路跡からは、土師質土器3点(皿1、内耳鍋2)、陶器4点(碗、鉢、壺、甕)が出土している。ほかに混入した土師器片13点、須恵器片6点、鉄滓2点、粘土塊1点が出土している。

所見 第244号溝は、本来、境界溝として機能していたが、埋め戻した後に道路として使用されたと考えられる。時期は、出土土器から、16世紀前半から溝として機能し、17～18世紀代に道路として使用されたと推定される。

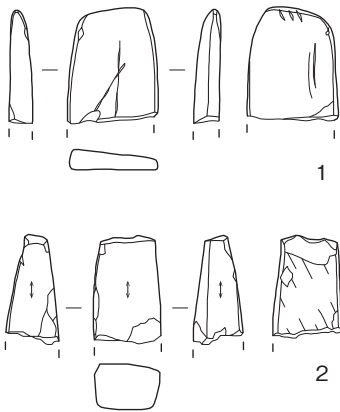


第 203 図 第 244 号溝跡、第 11 ~ 13 号道路跡実測図

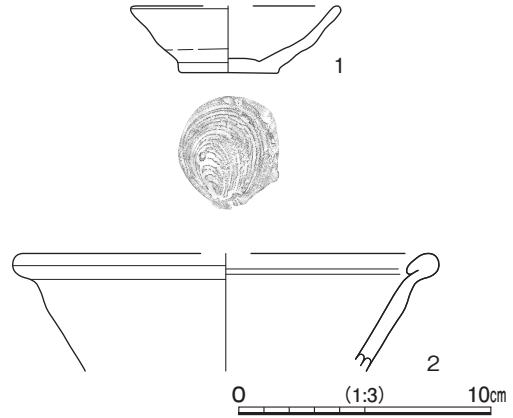
SD244



SF11



SF13



第 204 図 第 244 号溝跡、第 11 ~ 13 号道路跡出土遺物実測図

第 124 表 第 244 号溝跡出土遺物一覧 (第 204 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
1	陶器	碗	-	(2.3)	-	長石・石英	灰白	天目茶碗	鉄釉	瀬戸・美濃	覆土	5% PL36 近世カ
2	陶器	碗	-	(2.3)	[3.3]	長石・石英	にぶい黄橙	削り出し高台	灰釉	瀬戸・美濃	覆土下層	30%
3	陶器	碗	-	(2.8)	-	緻密	灰白	染付 唐草文	透明	瀬戸・美濃	覆土	5% PL36
4	陶器	皿	-	(2.2)	[8.9]	長石	灰白	志野 見込みの花文	鉄釉	瀬戸・美濃	覆土	5% PL36
9	陶器	錢甕	-	(6.1)	-	長石・石英	黒	口縁部に沈線	鉄釉	瀬戸・美濃	覆土下層	10% PL36

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
5	土師質土器	皿	6.9	2.2	3.0	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部に弱い稜 口縁部直線的な立ち上がり	覆土下層	60% PL36 口縁部油煙付着
6	土師質土器	皿	6.8	2.3	3.0	長石・石英・赤色粒子	灰白	普通	体部に弱い稜 口縁部直線的な立ち上がり 底面回転糸切り	覆土下層	70% PL36 口縁部油煙付着
7	土師質土器	皿	7.0	2.4	4.4	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部直線的な立ち上がり	覆土下層	90% PL36 口縁部油煙付着
8	土師質土器	内耳鍋	-	(6.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	耳断面紐状	覆土下層	5%
10	土師質土器	甕	-	(4.8)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部内傾して直線的な立ち上がり	覆土	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
11	砥石	(4.6)	3.4	(1.4)	(25.04)	凝灰岩	砥面3面	覆土下層	PL36
12	砥石	(5.0)	(3.0)	(1.5)	(28.43)	凝灰岩	砥面3面	覆土	PL36
13	砥石	(6.6)	3.1	1.8	(65.14)	凝灰岩	砥面1面	覆土	PL36
14	砥石	(5.6)	2.6	2.2	(36.58)	凝灰岩	砥面4面	覆土	PL36

第125表 第11号道路跡出土遺物一覧（第204図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1	砥石	(4.6)	3.6	1.0	(20.29)	凝灰岩	金属痕カ	覆土	PL36
2	砥石	(4.3)	2.7	2.1	(30.03)	凝灰岩	砥面3面	覆土	PL36
3	砥石	(6.3)	2.8	3.0	(53.19)	凝灰岩	砥面3面	覆土	

第126表 第13号道路跡出土遺物一覧（第204図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	[8.2]	2.7	3.9	長石・石英	にぶい橙	普通	体部下端強いナデ 底部回転糸切り	掘方	50% PL36
2	陶器	鉢	[17.0]	(4.7)	-	長石・石英	黒	煙硝播	釉薬 産地 鉄釉 瀬戸	掘方	5%

第127表 第244号溝跡ピット一覧

番号	位置	平面形	規模 (cm)		番号	位置	平面形	規模 (cm)		番号	位置	平面形	規模 (cm)	
			長径(軸) × 短径(軸)	深さ				長径(軸) × 短径(軸)	深さ				長径(軸) × 短径(軸)	深さ
1	M 2 i 6	[円形]	15 × (10)	56	9	M 2 h 8	楕円形	28 × 22	40	17	M 3 g 0	円形	31 × 30	20
2	M 2 i 6	楕円形	28 × (20)	61	10	M 2 h 8	楕円形	34 × 21	38	18	M 4 g 1	楕円形	42 × 38	12
3	M 2 i 7	楕円形	40 × 32	38	11	M 2 h 8	楕円形	38 × 32	20	19	M 4 f 1	楕円形	36 × 28	36
4	M 2 i 7	楕円形	34 × 28	42	12	M 2 h 9	円形	34 × 32	41	20	M 4 f 2	楕円形	28 × 24	47
5	M 2 i 7	楕円形	54 × 46	82	13	M 2 h 0	楕円形	38 × 32	22	21	M 2 i 6	円形	36 × 34	81
6	M 2 h 8	楕円形	66 × 50	60	14	M 3 g 2	楕円形	60 × 20	38	22	M 2 h 8	楕円形	45 × 24	37
7	M 2 h 8	楕円形	38 × 30	22	15	M 3 h 2	楕円形	42 × 38	60					
8	M 2 h 8	円形	34 × 31	127	16	M 3 g 5	楕円形	16 × 12	8					

第128表 第2・3号区画南側の溝跡一覧

番号	位置	方向	平面形	規模				断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	上幅(cm)	下幅(cm)	深さ(cm)					
244	M 2 i 6 ~ M 4 e 5	N - 77° - E	直線状	80.45	140 ~ 400	15 ~ 210	45 ~ 78	逆台形	外傾	人為	碗 皿 鉢 播鉢 内耳鍋 甕 香炉 砥石	HT14 → 本跡

第129表 第2・3号区画南側の道路跡一覧

番号	位置	方向	平面形	規模			断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	路面幅 (cm)	深さ (cm)					
11	M 2 i 6 ~ M 3 g 9	N - 185° - E	直線状	51.4	80 ~ 240	16	-	外傾	人為	碗 皿 鉢 播鉢 壺 内耳鍋 甕	HT14 → 本跡
12	M 2 i 6 ~ M 4 e 3	N - 67° ~ 83° - E	直線状	72.0	113 ~ 307	10 ~ 36	-	外傾	人為	碗 皿 鉢 播鉢 内耳鍋 甕	HT14 → 本跡
13	M 2 i 6 ~ M 4 d 5	N - 75° - E	直線状	82.0	171 ~ 465	25	-	外傾	人為	碗 皿 鉢 内耳鍋 甕	HT14 → 本跡

イ 方形竪穴遺構

第14号方形竪穴遺構（第205図 PL13）

位置 第3号区画の南部のM 3 g 2区、標高21.5mほどの台地斜面部に位置している。

重複関係 第2082号土坑を掘り込み、第244号溝に掘り込まれている。

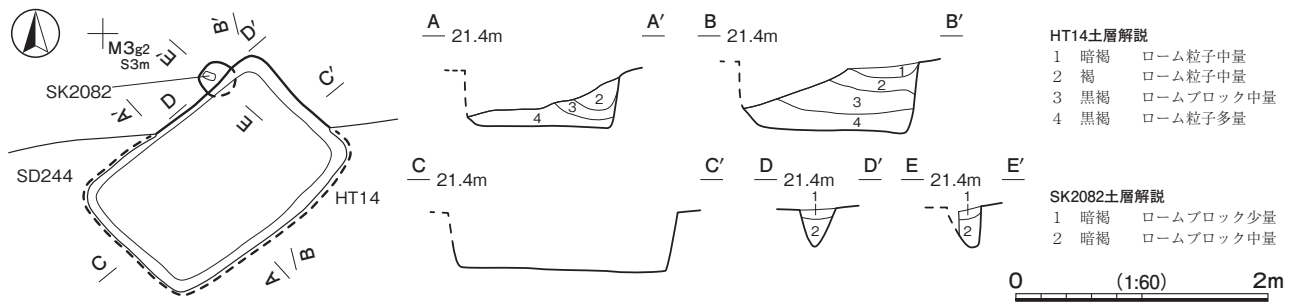
規模と形状 南側が第244号溝に掘り込まれているため、確認できた長軸は1.85mで、短軸は1.22mである。長方形で、長軸方向はN - 50° - Eである。壁は20 ~ 54cmで外傾している。

床面 おおむね平坦である。

覆土 4層に分層できる。ロームブロックやローム粒子を多く含む暗褐色土や黒褐色土が堆積していることから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器2点（内耳鍋）、陶器1点（壺）、炭化材が出土している。ほかに混入した土師器片8点、須恵器片1点が出土している。

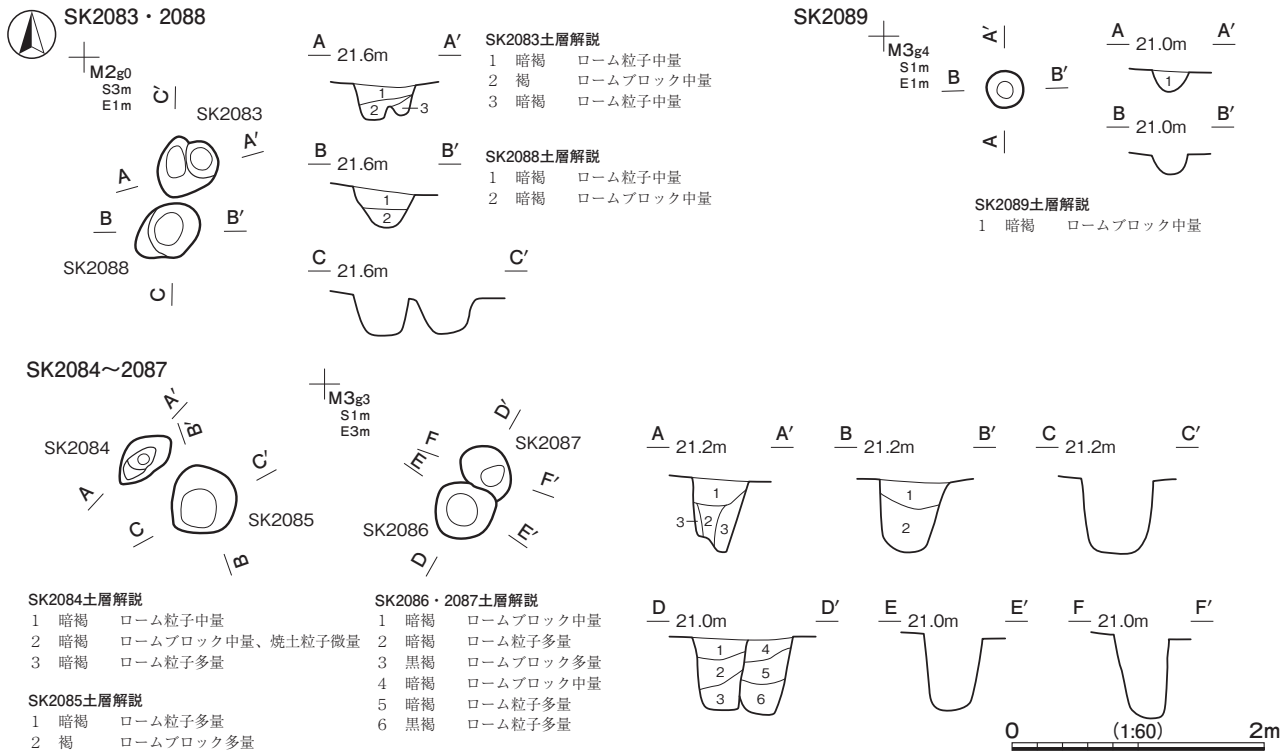
所見 時期は、出土土器から、15世紀から16世紀代と考えられる。



第205図 第14号方形竪穴遺構実測図

ウ 土坑

第2・3号区画の南側では、8基の土坑を確認した。径28～55cmほどの円形で、ピット状である。遺物は、第2084・2085号土坑から土師質土器皿、内耳鍋、陶器や磁器などが出土している。細片のため図示できない。それ以外の土坑は、出土遺物がないため、詳細な時期は不明である。位置や形状、覆土などから、中・近世の遺構と判断した。以下、実測図と一覧で記載する。



第206図 第2・3号区画南側の土坑実測図

第130表 第2・3号区画南側の土坑一覧

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
2082	M 3 g2	N - 43° - E	[円形・楕円形]	0.28 × (0.15)	28	外傾	U字状	自然	-	第205図 本跡→HT14
2083	M 2 g0	N - 57° - E	不整形円形	0.50 × 0.46	28	外傾	凹凸	自然	-	
2084	M 3 g3	N - 48° - E	楕円形	0.53 × 0.29	58	外傾・垂直	有段	人為	内耳鍋	
2085	M 3 g3	-	円形	0.55 × 0.53	58	外傾・垂直	U字状	自然	碗 皿 壺	
2086	M 3 g4	-	円形	0.50 × 0.48	58	外傾・垂直	U字状	自然	-	SK2087 →本跡
2087	M 3 g4	N - 41° - W	楕円形	0.47 × 0.34	64	外傾	U字状	自然	-	本跡 →SK2086
2088	M 2 h0	N - 59° - E	楕円形	0.56 × 0.42	30	外傾	U字状	自然	-	
2089	M 3 g4	-	円形	0.29 × 0.29	15	外傾	U字状	自然	-	

エ ピット群

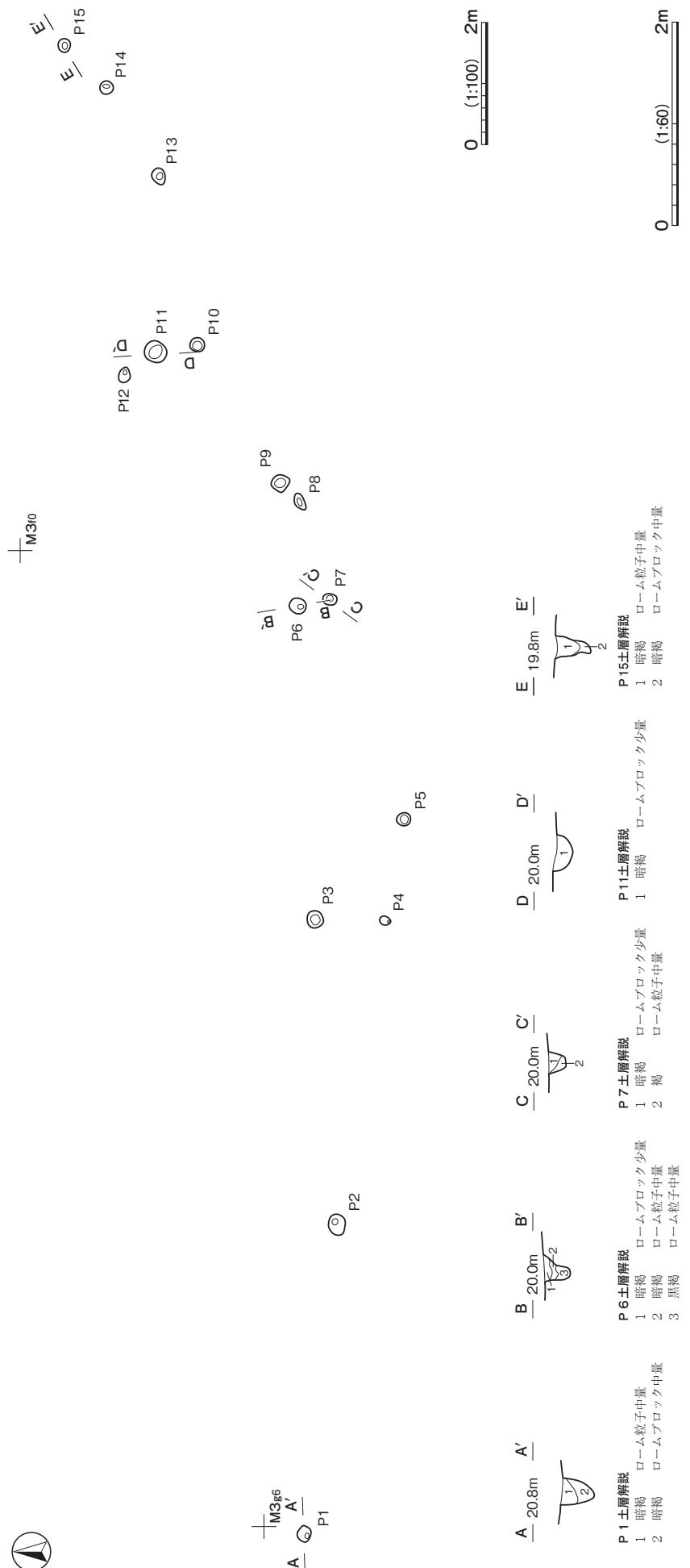
第2・3号区画南側では、東部の台地斜面部から低地部にかけて、複数のピットが存在しており、第51号ピット群として調査した。以下、実測図と一覧で記載する。

第51号ピット群

(第19・22・23・207図 PL13)

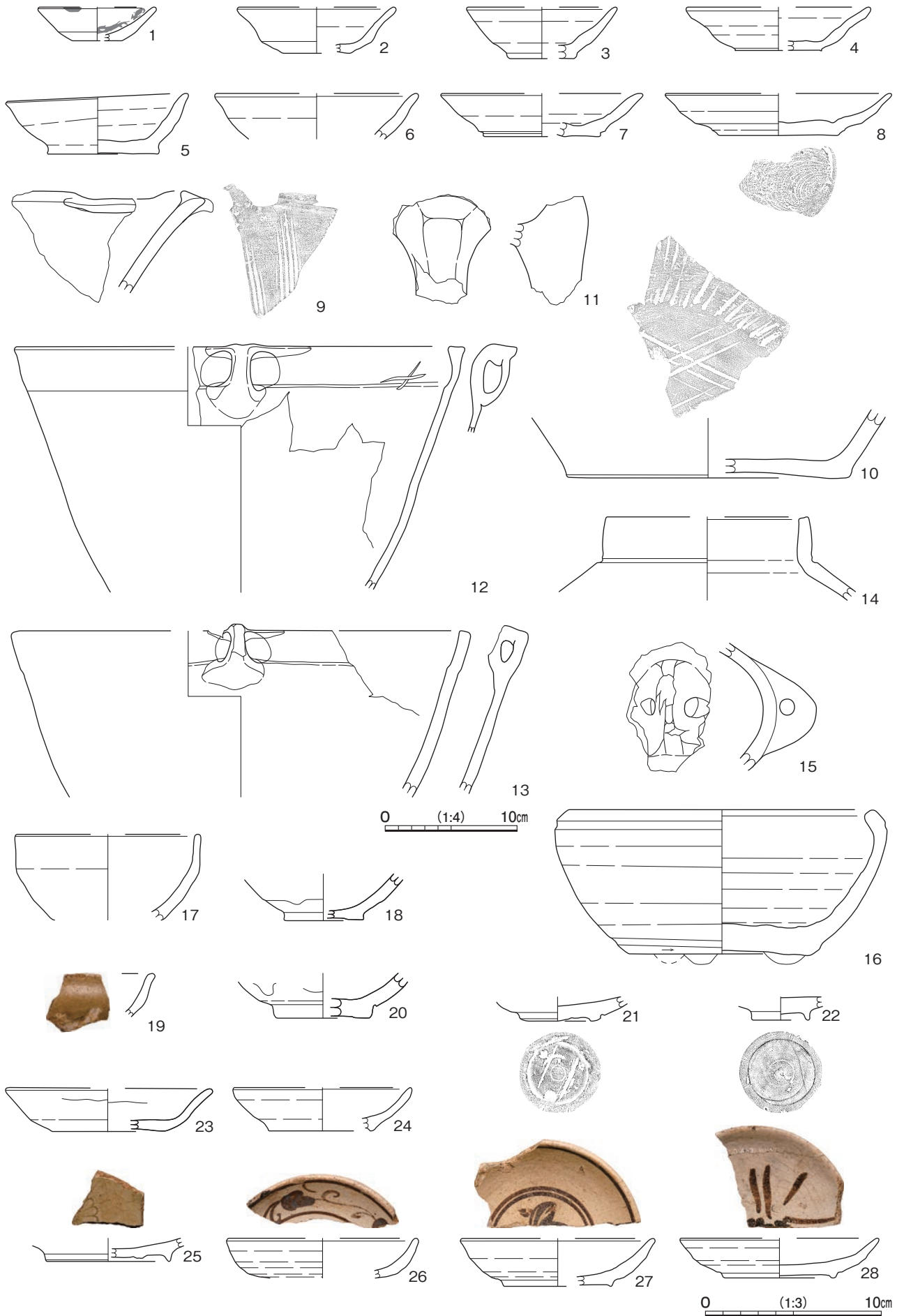
第131表 第51号ピット群ピット一覧

番号	位置	平面形	規模 (cm)	
			長径(軸) × 短径(軸)	深さ
1	M3g5	長方形	25 × 21	32
2	M3g7	楕円形	35 × 30	26
3	M3g8	円形	28 × 27	15
4	M3g8	楕円形	17 × 14	60
5	M3g8	円形	24 × 22	13
6	M3g9	楕円形	28 × 25	26
7	M3g9	楕円形	24 × 19	16
8	M3g0	楕円形	31 × 16	17
9	M3g0	楕円形	33 × 29	12
10	M3f0	円形	25 × 23	9
11	M3f0	円形	37 × 34	18
12	M3f0	楕円形	26 × 19	8
13	M4f1	楕円形	28 × 22	29
14	M4f1	円形	23 × 22	20
15	M4f2	円形	22 × 21	34

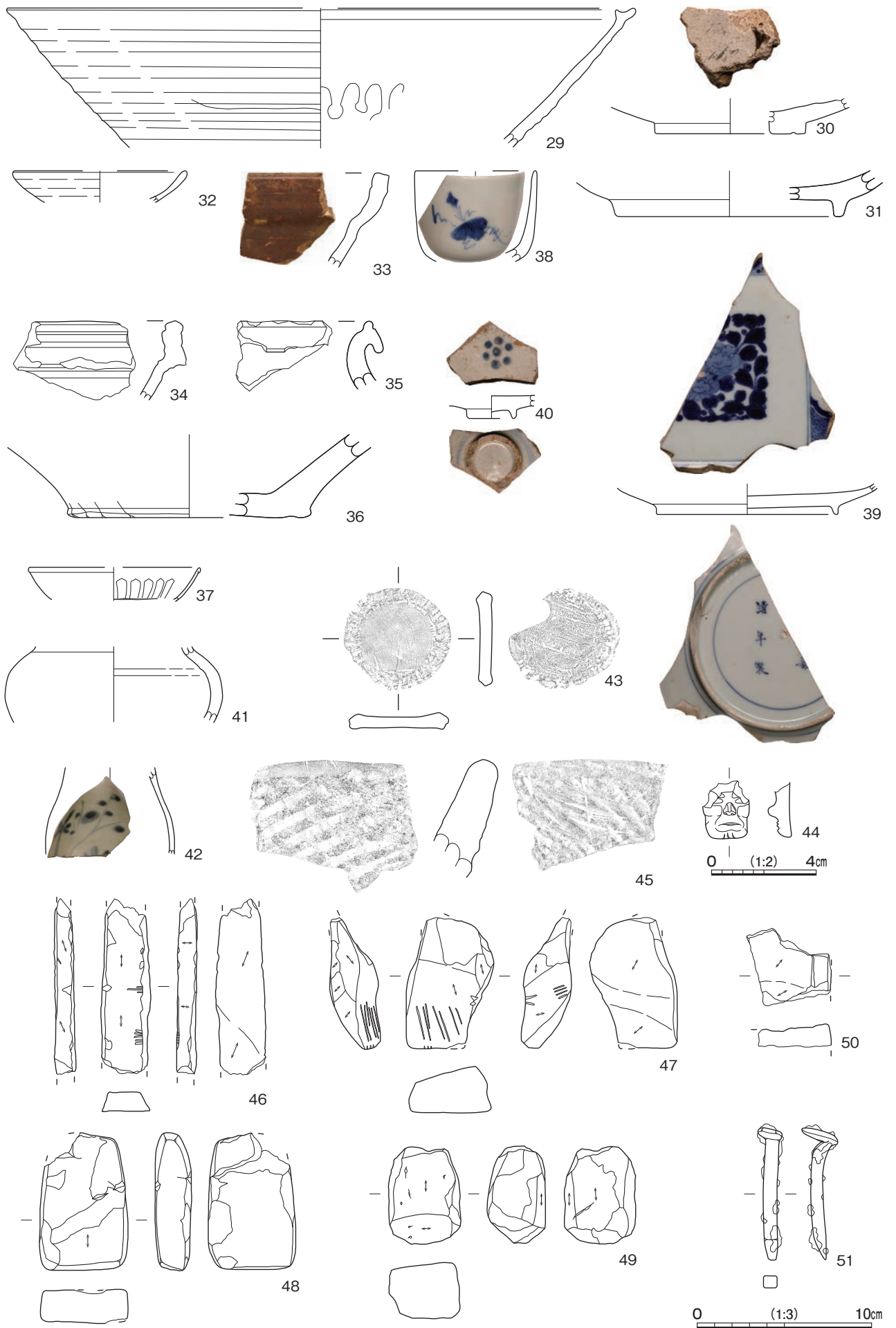


第207図 第51号ピット群実測図

(8) 遺構外出土遺物



第208図 遺構外出土遺物実測図(1)



第 209 図 遺構外出土遺物実測図(2)

第132表 遺構外出土遺物一覧(第208・209図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	[6.4]	2.0	[2.8]	長石・石英	橙	普通	体部下半に稜	表土	30% 油煙
2	土師質土器	皿	[9.0]	2.5	[3.6]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部下半に稜	表土	20%
3	土師質土器	皿	[8.5]	2.9	[3.8]	長石・石英・ 赤色粒子	橙	普通	体部下端に強いナデ 底部回転糸切り	表土	20%
4	土師質土器	皿	[10.4]	2.5	[5.0]	長石	橙	普通	口縁部下・体部下端に強いナデ 底部回転糸切り	表土	20%
5	土師質土器	皿	10.2	3.5	6.2	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部下端に強いナデ 底部回転糸切り	表土	100% PL44
6	土師質土器	皿	[11.4]	(2.8)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部下に弱いナデ	表土	20%
7	土師質土器	皿	[11.3]	2.5	[6.1]	長石・石英	にぶい褐	普通	体部下端にやや強いナデ 底部回転糸切り	表土	20%
8	土師質土器	皿	[12.8]	2.4	[6.6]	長石・石英・ 赤色粒子	浅黄橙	普通	体部に弱い稜 口縁部緩やかな立ち上がり 底部回転糸切り	表土	20%
9	土師質土器	播鉢	-	(7.4)	-	長石・石英・雲母	褐	普通	口縁部直線的な立ち上がり 片口あり 4条1単位の播り目	表土	5%
10	土師質土器	播鉢	-	(3.4)	[16.0]	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	3条1単位の播り目	表土	10%
11	土師質土器	火鉢	-	(6.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	脚部片	表土	5%
12	土師質土器	内耳鍋	[34.0]	(18.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部直線的な立ち上がり 口縁部わずかに内湾 耳断面紐状 口縁部内面に「十」の刻文	表土	40% PL44
13	土師質土器	内耳鍋	[35.0]	(13.3)	-	長石・石英・雲母	暗赤褐	普通	体部直線的な立ち上がり 口縁部直立 耳断面紐状	表土	10%
14	土師質土器	茶窯	[11.6]	(4.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部上位内傾 口縁部直立	表土	5%
15	土師質土器	茶窯	-	(7.1)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外耳部片 体部内湾 外耳孔は片側より穿孔	表土	5% PL44
16	瓦質土器	香炉	17.4	8.8	10.4	長石・石英・雲母	黒褐	普通	三足 ロク口整形 下端部削り	表土	95% PL44

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
17	陶器	天目茶碗	[10.4]	(5.0)	-	長石	灰褐	大窯期	鉄釉	瀬戸・美濃	表土	10% PL44
18	陶器	天目茶碗	-	(2.7)	[4.5]	緻密	黒	削り出し高台 外面高台露胎 大窯期	鉄釉	瀬戸	表土	5%
19	陶器	平碗	-	(2.5)	-	長石	灰オリーブ	腰折皿 大窯期	灰釉	瀬戸	表土	5%
20	陶器	平碗	-	(2.1)	[5.2]	緻密	灰黄	削り出し高台 外面高台露胎 古瀬戸後期	灰釉	瀬戸	表土	10%
21	陶器	平碗	-	(1.0)	4.5	長石	灰黄褐	古瀬戸後期 削り出し高台 底面に圧痕	灰釉	瀬戸	表土	20%
22	陶器	碗	-	(0.7)	4.7	長石	にぶい褐	削り出し高台	灰釉	唐津	表土	20%
23	陶器	縁釉皿	[11.6]	2.5	[6.4]	長石・石英	褐灰	口縁部わずかに外反 底部回転糸切り	鉄釉	瀬戸	表土	20%
24	陶器	丸皿	[10.2]	2.4	[6.0]	長石	灰白	志野 僅かに削り出し高台残る	灰釉	瀬戸・美濃	表土	20%
25	陶器	丸皿	-	(1.3)	[7.0]	長石	浅黄	内底面に菊花の印花文 大窯期	灰釉	瀬戸	表土	5%
26	陶器	丸皿	[10.6]	(2.3)	-	長石	灰白	鉄絵皿	灰釉	瀬戸・美濃	表土	10% PL44
27	陶器	丸皿	[11.0]	2.7	[6.2]	長石	淡黄	鉄絵皿	灰釉	瀬戸・美濃	表土	40% PL44
28	陶器	丸皿	[11.2]	2.2	[6.4]	長石	灰黄	鉄絵皿	灰釉	瀬戸・美濃	表土	30% PL44
29	陶器	折縁深皿	[35.8]	(8.0)	-	長石	にぶい黄橙	古瀬戸後期	灰釉	瀬戸	表土	5% PL44
30	陶器	大皿	-	(1.5)	[8.1]	長石	灰	志野 鉄絵 削り出し高台	灰釉	瀬戸・美濃	表土	5%
31	陶器	皿	-	(2.5)	[13.0]	緻密	にぶい黄褐	削り出し高台 高台の内面及び畳付は露胎	灰釉	瀬戸	表土	5%
32	陶器	灯明皿	[9.8]	(1.8)	-	長石	暗赤褐	ロクロナデ	鉄釉	瀬戸・美濃	表土	5%
33	陶器	播鉢	-	(5.5)	-	長石	暗赤褐	ロクロナデ	無釉	瀬戸・美濃	表土	5%
34	陶器	播鉢	-	(4.5)	-	長石	灰赤	細かい条線状の播り目	無釉	常滑	表土	5%
35	陶器	甕	-	(3.9)	-	長石・石英	灰褐	6a型式	無釉	常滑	表土	5%
36	陶器	甕	-	(4.7)	[14.0]	長石・石英	にぶい赤褐	体部外傾する立ち上がり	無釉	常滑	表土	5%
37	磁器	碗	[9.8]	(1.9)	-	緻密	灰白	口縁部緩やかに内湾 内面陰刻蓮弁文	染付	中国カ	表土	10% PL44
38	磁器	碗	[6.8]	(5.2)	-	緻密	灰白	萬唐草文	染付	肥前	SE84	20%
39	磁器	角皿	-	(1.7)	[10.4]	緻密	明緑灰	内面見込み芙蓉文 底部外面に年款名「□□嘉靖年製」	染付	肥前	表土	20%
40	磁器	皿	-	(1.3)	2.8	長石	にぶい黄橙	染付 内底面に梅花文	透明釉	肥前系	表土	10%
41	磁器	壺	-	(4.7)	-	緻密	明緑灰	体部内湾	緑釉	肥前	表土	5% PL44
42	磁器	徳利	-	(5.0)	-	長石	オリーブ灰	染付	透明釉	肥前系	表土	5%

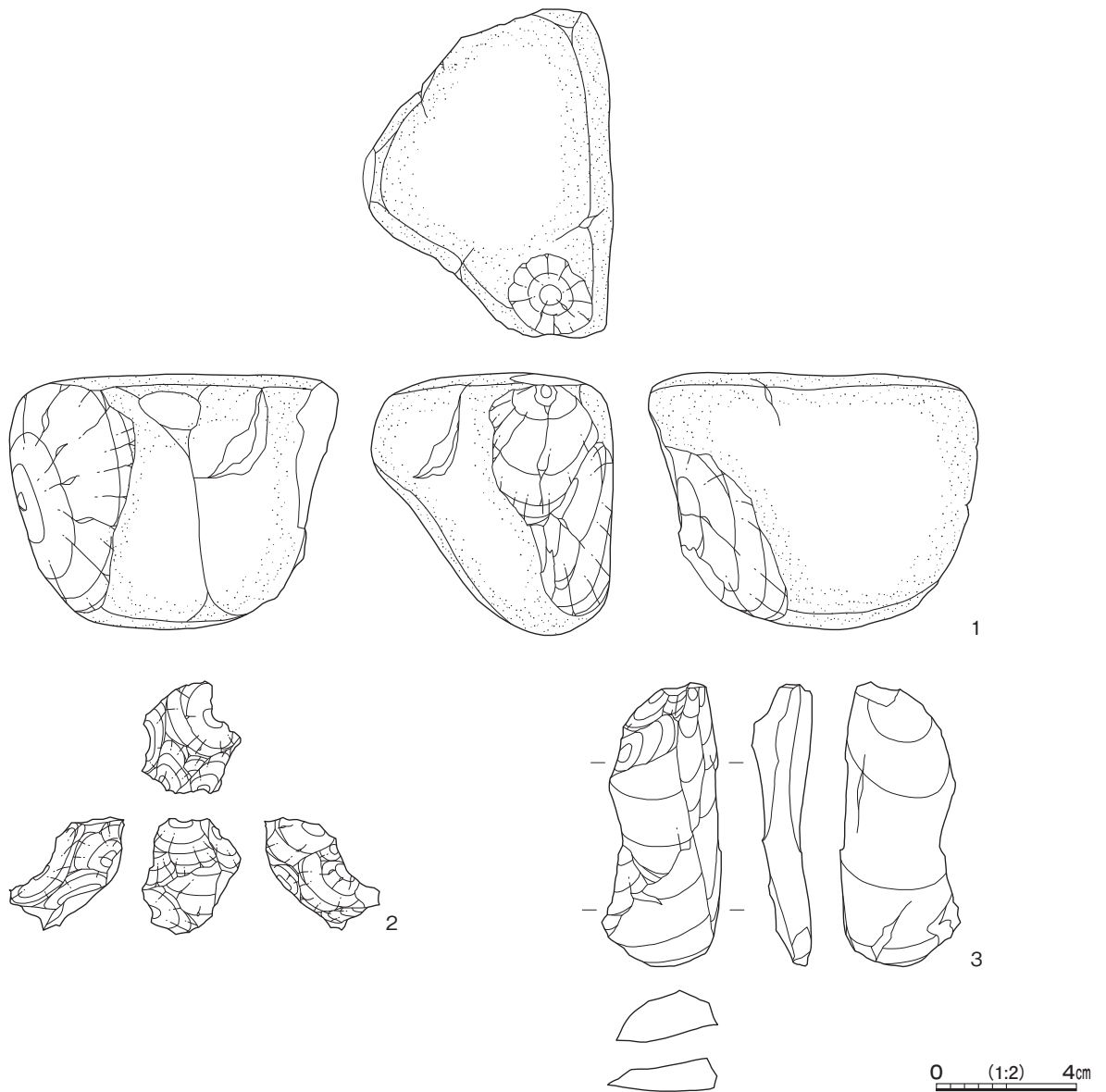
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
43	土製円板	5.4	5.7	0.9	(25.45)	長石・石英	にぶい橙	回転糸切り	表土	90%
44	泥面子	(2.3)	1.8	0.8	(2.22)	緻密	明褐	面形	表土	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
45	石鉢	(6.7)	-	-	(207.35)	凝灰岩	表・裏面に筋状の調整痕 左側面砥面	表土	
46	砥石	(10.1)	2.9	1.0	(44.71)	凝灰岩	砥面4面 金属痕有り	表土	PL44
47	砥石	(7.5)	5.1	3.0	(92.74)	凝灰岩	砥面4面 金属痕有り 上部は剥離後研磨	表土	PL44
48	砥石	8.0	5.2	2.1	(128.44)	凝灰岩	砥面1面	表土	
49	砥石	5.6	4.1	3.4	(108.55)	凝灰岩	砥面4面	表土	
50	硯	(4.4)	(1.3)	(4.9)	(23.52)	粘板岩	浅い海部分	表土	

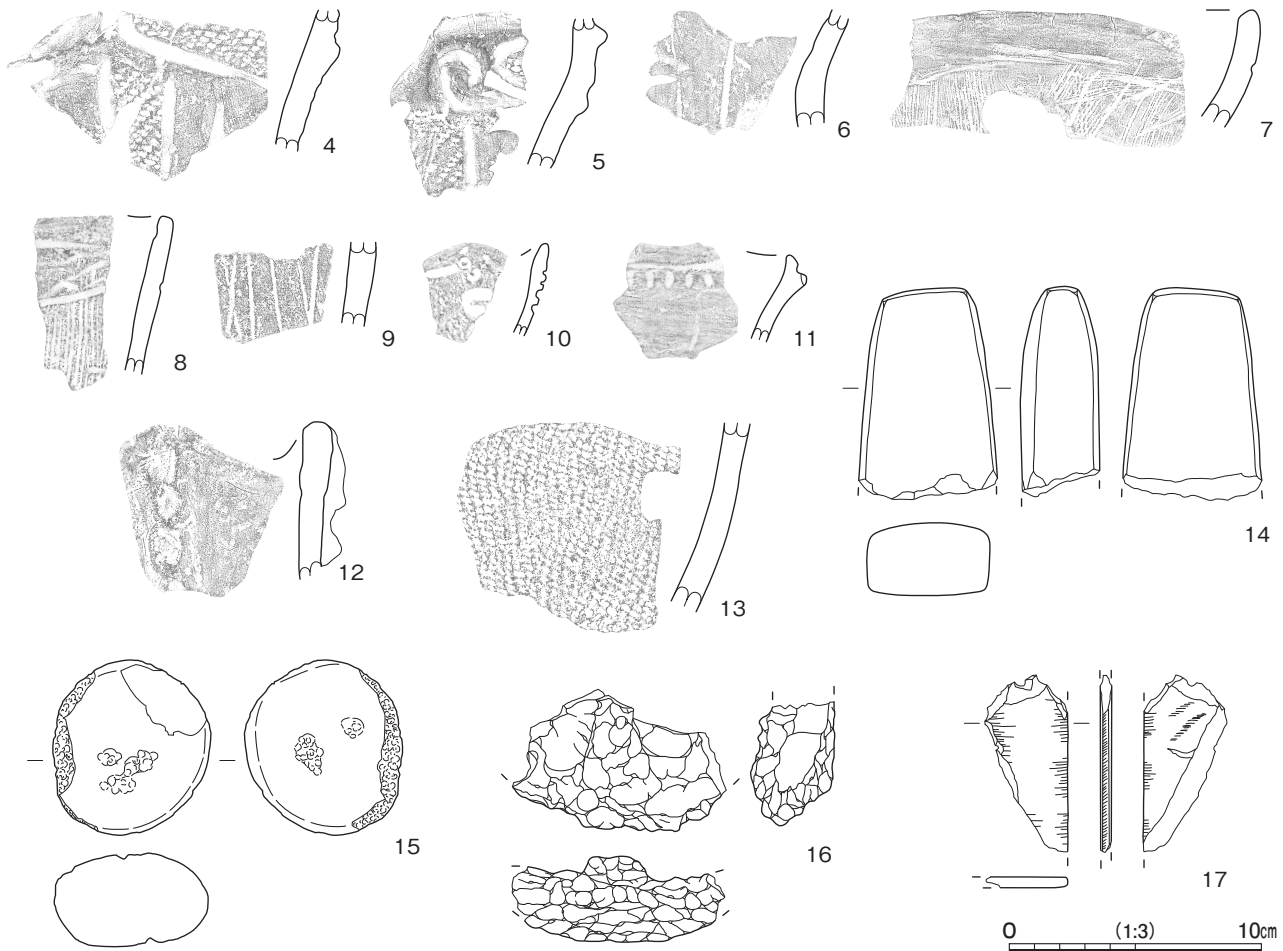
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
51	釘	7.1	1.4	0.8	37.57	鉄	打頭釘 頭部隅丸長方形 断面方形	表土	PL44

4 その他の遺構外出土遺物

旧石器時代、縄文時代、時期不明の遺構外出土遺物について、実測図と遺物一覧で記載する。



第 210 図 その他の遺構外出土遺物実測図(1)



第211図 その他の遺構外出土遺物実測図(2)

第133表 その他の遺構外出土遺物一覧 (第210・211図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1	石核	9.4	6.9	7.3	610.44	チャート	自然礫を素材 原礫面のまま打面を転移して3回のみ剥片剥離 上面打面に1回の打撃痕	表土	PL24
2	石核	3.2	2.8	3.2	16.51	黒曜石	分割礫を素材 打面を転移して剥片剥離	SE10	
3	剥片	8.1	3.4	1.8	38.48	ガラス質デイサイト	縦長剥片	SK503	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
4	縄文土器	深鉢	-	(5.7)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部複節 LRL 胴部 RLR の磨消縄文	表土	5%
5	縄文土器	深鉢	-	(5.9)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部渦巻き状の隆帯文と楕円形の磨消縄文 胴部 RL の磨消縄文	表土	5%
6	縄文土器	深鉢	-	(4.6)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	縦位の沈線文	表土	5%
7	縄文土器	深鉢	-	(4.5)	-	長石・石英	橙	普通	歯状工具による条線文→沈線文	表土	5%
8	縄文土器	深鉢	-	(6.3)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	歯状工具による条線文→沈線文	UP 3	5%
9	縄文土器	深鉢	-	(4.6)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	縦位の沈線文	表土	5%
10	縄文土器	深鉢	-	(3.9)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	波状口縁 無節L縄文→沈線文	SD244	5%
11	縄文土器	深鉢	-	(3.5)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	波状口縁 キザミを有する隆帯文	SK551	5%
12	縄文土器	深鉢	-	(6.3)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	山形状の口縁部に鎖状隆帯文	表土	5%
13	縄文土器	深鉢	-	(7.8)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	LR 縄文	SE16	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
14	磨製石斧	(8.4)	5.5	3.2	(261.03)	蛇紋岩	定角式 刃部側欠損	表土	PL24
15	敲石	9.2	8.4	5.0	(296.84)	安山岩	表・裏面と一側縁に敲打痕	SD113	PL24

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
16	椀形滓	(5.6)	(8.4)	3.4	(181.04)	鉄	破面アリ 気泡多数	表土	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
17	石盤	(7.0)	(3.3)	0.4	(14.47)	粘板岩	表・裏面及び側面研磨	HD	

第4節 総括

1 はじめに

鳥名本田遺跡は、東に隣接する鳥名熊の山遺跡とともに、古墳時代から中世を中心とする遺跡である。当遺跡の調査は平成23年度から令和2年度まで断続的に実施され、当遺跡の南端部に当たる古墳時代から平安時代の遺構が展開する調査区については、当財団埋蔵文化財調査報告第454集¹⁾として報告した。今回の調査区は、その北側で、当遺跡のほぼ中央部に当たる区域である。古墳時代から平安時代の遺構は希薄で、遺構の主体になるのは段切状遺構及び溝によって区画された中世の遺構群である。区画は、複数が集合し、主軸方向と間隔を一定にして造成しており、計画性のある地割になっている。区画からは、在地の土師質土器を主体に、瀬戸・美濃産や常滑産の陶器、中国磁器などが出土している。

本節では、区画とその周辺の遺構の様相、土器類及び木製品の様相を整理するとともに、中世集落の変遷を概観し、若干の考察を加えることで総括としたい。

2 区画とその周辺の遺構の様相

今回の調査区からは、3か所の区画を確認した。第1号区画は、調査区のほぼ中央部に位置し、第2号段切状遺構と第52・56号溝に囲繞された範囲で、東西約41m、南北約45mである。第2号段切状遺構は、区画の西部を段切りして平坦面を造り出している。第52号溝は、区画東部の南半部から区画南部の東半部を除いた範囲をほぼ方形に区画している。第56号溝は、区画東部の南半部から区画南部の東半部までをL字状に区画している。本区画の構成遺構は、掘立柱建物、井戸、土坑、柱穴列、ピット群で、主な遺構は第41～43号掘立柱建物、第16・97号井戸、第1385号土坑である。第1号区画の変遷は、第52号溝と第56号溝が区画南部で主軸方向を若干変えて交差し、第56号溝が第52号溝を掘り込んでいることから、第52号溝が囲繞する段階と第56号溝が囲繞する段階の2時期に大別することができる。前者の段階には、第52号溝の東西軸とほぼ一致する第41・43号掘立柱建物、第15号井戸、第56号溝に掘り込まれている第97号井戸が主軸方向と出土遺物から属すると考えられる。後者の段階には、第56号溝南部の東西軸と一致する第2号段切状遺構、第56号溝東部の南北軸と一致する第42号掘立柱建物、第52号溝を掘り込んでいる第16号井戸と第1385号土坑が主軸方向と出土遺物から属すると考えられる。また、第52号溝東部の南北軸の範囲は、第56号溝東部の南北軸の延長線上にあり、第2号区画の軸線とも一致することから、第129号溝とともに、後者の段階まで存続していたことが想定される。区画内部の構成については、両段階ともに掘立柱建物が本区画の東部に配置され、土坑が主に区画の西部に集中しており、遺構の分布が異なる。本区画の西縁に位置している第3～7号地下式坑は第2号段切状遺構に掘り込まれ、第629号土坑は第52号溝に掘り込まれていることから、これらは第1号区画が成立する以前の遺構と考えられる。

第2号区画は、調査区の東部に位置し、第113号溝、第118号溝、第122・123号溝、第139・140号溝に囲繞された範囲で、東部が調査区外のため、確認できた規模は東西約25m、南北約65mである。ただし、本区画の中央部の様相は、大きな攪乱を受けているため不明である。第113・122・123・139号溝は、明らかな重複関係を捉えることができないため、一連の溝と考えられる。本区画は、第113・123・139号溝の主軸方向が第1号区画の第56号溝東部の南北軸とほぼ一致していることから、第1号区画の第56号溝が囲繞する段階に計画的に構築されたことが推定できる。本区画の構成遺構は、掘立柱建物、方形堅穴遺構、井戸、土坑、柱穴列で、主な遺構は、第28～30・44号掘立柱建物、第96号井戸である。掘立柱建物は、本区画の西部に配列されている。第122号溝に掘り込まれている第86号井戸は、第2号区画が成立する以前の遺構と考えられる。

第3号区画は、調査区の南西部に位置し、第57・58・128号溝で囲繞された範囲で、東西約30m、南北約18mである。第128号溝は、両端が西へ屈曲するコの字状を呈するもので、主軸方向は第2号区画の第123号溝と一致している。第57号溝は、第1号区画の第52号溝南部の東西軸と一致している。このことから、第57号溝と第128号溝には時期差が想定され、第57号溝は第1号区画の第52号溝が囲繞する段階、第128号溝は第1号区画の第56号溝が囲繞する段階と考えられる。当区画の範囲内には、第45～47号掘立柱建物が位置し、それらの主軸

方向は第128号溝の軸方向と近似している。しかし、第47号掘立柱建物が第128号溝を越える位置にあること、第46号掘立柱建物が第47号掘立柱建物を掘り込んでいること、第45～47号掘立柱建物が南北棟で、第1号区画と第2号区画（南）の掘立柱建物が東西棟で異なることから、第3号区画の第128号溝との時期差が想定できる。このことから、第45～47号掘立柱建物は、第2・3号区画間の通路状部分に位置している第87号井戸などと同時期で、第128号溝の廃絶後の遺構群と捉えることができる。本区画の構成遺構は、区画内の井戸、土坑、柱穴列、ピット群と考えられる。

周辺の遺構としては、第2号区画の第123号溝と直交する第124・132号溝、第2・3号区画南側の第244号溝がある。第124号溝と第132号溝は平行し、特に第132号溝は、重複関係から第2・3号区画の成立以前のものである。第124・132号溝は、第1号区画の第52号溝南部の東西軸と一致していることから、第1号区画の第52号溝が囲繞する段階との関連がうかがわれる。第244号溝については、第2号区画の第122号溝と同一の軸方向であることから、第2号区画と同時期と考えられる。

3 土器類の様相

(1) 土器類の分類と特徴

中世の遺構から出土した土器類は、土師質土器、瀬戸・美濃産や常滑産の陶器、中国磁器である。ここでは、先学の研究に基づき、それぞれの特徴を整理する。

土師質土器の主な器種は、皿、内耳鍋、播鉢、甕、壺で、茶釜や香炉がわずかに伴う。

皿については、広瀬季一郎氏の分類²⁾により当遺跡の皿を見てみると、次の分類に該当するものが出土している。

A1類 体部は外傾、内湾し、口縁部で外反する。体部下半と口縁部下をナデることにより、体部中間に丸いふくらみか、稜を持つ。器壁は全体に厚い。(15世紀中葉から16世紀前葉)

A2類 器形はA類と同じで、口径が小さく、器高が低い。(16世紀中葉から17世紀前葉)

F類 器高がやや高く、体部は直線で、外傾ないしやや内湾して立ち上がる。体部全体にロクロ目がやや目立ち、凹凸した印象である。器壁はやや厚い。(15世紀中葉から16世紀初頭)

H類 底径がやや大きく、体部が直線的ないしやや内湾気味に低く立ち上がる。体部は細かいロクロ目がやや目立つ。器壁は厚い。(16世紀前半)

主な遺構の皿の分類別出土状況は、第133表のとおりである。なお、小型のものは除いている。

第134表 皿の分類別出土状況一覧

区画	遺構名	A1類	F類	H類	A2類	供伴遺物
1号区画	SD52	△	○		○	陶器平碗（古瀬戸後期）、中国磁器皿（小野分類B1群）、陶器甕（常滑10型式）
	SD56		○		○	陶器折縁皿（古瀬戸後期）、陶器播鉢（瀬戸大窯期）
2号区画	SD122			○		

※△は少量

第1号区画の第52・56号溝からは、F類とA2類を主体に、第2号区画の第122号溝からは、H類を主体に出土しており、区画により皿の分類別出土状況が異なる。第52号溝出土のA2類は、第56号溝が囲繞する段階まで存続していた第52号溝東部の南北軸の範囲から主に出土している。したがって、時期的には第56号溝が囲繞する段階のものと考えられる。なお、溝からは、複数の時期の遺物が出土している。これは、溝の存続期間が長期にわたること、複数回にわたる補修や埋め戻しが要因と考えられる。

内耳鍋については、越田真太郎氏が常陸南部、常陸西部、下総北西部の3地域における内耳鍋について、次のように分類³⁾している。

1式 横から見た形は逆台形状で、体部はほぼ直立もしくはやや内湾して立ち上がる。口縁部と体部の境目が屈曲して外傾するものもある。器高は高いものから低いものまでである。口縁端部は、おおむね体部よりやや厚く、断面が方形である。耳は紐状で体部の取り付け部分が押されて外側へ歪むことが多い。

2式 横から見た形は逆台形で、体部は直線的に立ち上がる。口縁部と体部の境目に段を持つ。全体に1式よりは厚手で、口縁端部は断面が丸く作られる。耳は1式よりもやや太く、断面が円形で、体部との接合部は歪まない。

3式 横から見た形は箱形。体部は直立もしくはやや内湾して立ち上がる。器高が低く、1式に比べて口径と底形の差が少ない。口縁端部は体部と同じかやや厚く、断面は方形に作られる。耳は紐状で体部の取り付け部分が押されて外側へ歪むことが多い。

内耳鍋を越田氏の分類により見てみると、1式が主体で、2式と3式は客体である。2式は第15号井戸(1)、3式は第52号溝(52・53)、第632号土坑(2)が該当する。また、1式の中には、第104号井戸(1)のように器高が低いもの、第53号溝(1)、第1161号土坑(4)、第1385号土坑(9)のように口縁部と体部の境目が屈曲して外傾するものがある。

播鉢は、口唇部の形状により次のように分類できる。

A類 内外面の両端部をつまみ上げるように突出させ、断面形がT字形のもの。

B類 内面の端部をつまみ上げるように突出させるもの。

C類 端部を突出させず、断面形が方形のもの。

A類は第52号溝(36)、第113号溝(17・19)が、B類は第113号溝(16・18)が、C類は第113号溝(15・20)、第122号溝(25)、第116号井戸(1)が該当する。

甕と壺は、口縁部が内傾する甕と口縁部が短く直立する壺に分けられる。前者は第52号溝(41・42)、第113号溝(32・34)で、後者は第113号溝(31・33)が該当する。

瀬戸・美濃産陶器については、古瀬戸後期⁴⁾のものと大窯期⁵⁾のものに大別できる。古瀬戸後期のものは、平碗(第52号溝3・4、第629号土坑2、第664号土坑1)、折縁深皿(第56号溝1)、縁釉皿(第113号溝45)などが出土している。大窯期のものは、端反皿(第629号土坑1)、播鉢(第56号溝21)で、少量である。

常滑産陶器⁶⁾については、6a型式と10型式のものが出土しており、6a型式の甕(中世遺構外35)や、10型式の甕(第52号溝54、第113号溝46・47、第96号井戸17)がある。

中国磁器は、特定できたものは皿が2点(第52号溝1、第96号井戸19)である。いずれも小野正敏氏の染付皿B1群⁷⁾に該当する。

(2) 土師質土器の変遷

ここでは、広瀬氏による皿の分類と越田氏による内耳鍋の分類に基づき、出土した土師質土器の変遷を概観する。時期は、次の4期に分ける。器種は、出土量の多い皿と内耳鍋、播鉢を対象とする。

1期 (14世紀後半から15世紀前半)

器種は、皿のみである。皿は、体部が外傾し、口縁部が直立すること、底径が大きく、器高が低いことが特徴である。第2号段切状遺構(4)、第113号溝(14)が該当する。いずれも混入したもので、当該期の遺構は確認されていない。

2期 (15世紀後半)

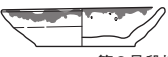


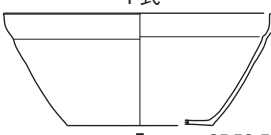
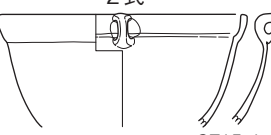
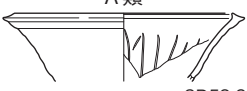

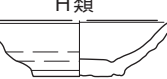
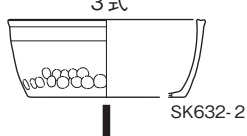
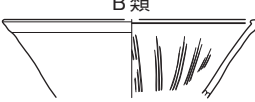

器種は、皿、内耳鍋、播鉢である。皿はA1類とF類で、A1類には第52号溝(21)が、F類には第52号溝(17～20)、第56号溝(4・5)が該当する。内耳鍋は1式と2式で、1式には第52号溝(50・51)などが、2式には第15号井戸(1)が該当する。播鉢はA類で、第52号溝(36)が該当する。

3a期 (16世紀前葉)

器種は、皿、内耳鍋、播鉢である。皿はA2類とH類で、A2類には第52号溝(31・33・34)、第56号溝(9～11)が、H類には第122号溝(5・7)が該当する。内耳鍋には1式に加えて3式が出現する。3式には、第632号土坑(2)、第52号溝(52・53)が該当する。播鉢はB類で、第113号溝(16・18)が該当する。

3b期 (16世紀中葉)

器種は、皿、内耳鍋、播鉢である。皿については、A2類がわずかに含まれる。内耳鍋には1式と3式が存続する。播鉢はC類で、第113号溝(15・20)、第116号井戸(1)などが該当する。

器種 時期	皿	内耳鍋	播鉢
1期	 第2号段切状遺構-4		
2期	A1類  SD52-21 F類  SD52-17	1式  SD52-51 2式  SE15-1	A類  SD52-36
3a期	A2類  SD56-10 H類  SD122-7	3式  SK632-2	B類  SD113-16
3b期			C類  SE116-1
	0 (1:4) 10cm	0 (1:10) 20cm	0 (1:10) 20cm

第212図 土師質土器の変遷図

4 木製品の様相

特筆されるものは、第116号井戸から出土した臼である。芯持材を輪切りにし、胴部は上下から削り内湾させ、凹部は削り出して整形している。樹種はマツ科マツ属で、強度の高い樹種を選定している。中・近世における臼の出土例を見てみると、臼の出土例はなく、杵摺りに用いられた摺臼が希少ながら出土例がある。摺臼については、茨城県内では河和田城跡第28号井戸から出土したもの⁸⁾が唯一のものである。伊東隆夫氏と山田昌久氏によるデータベース⁹⁾によると、富山県において梅原胡摩堂遺跡第9310号溝¹⁰⁾、江尻遺跡第21・456号井戸¹¹⁾、中名I・V遺跡第5101・5223号井戸¹²⁾、下老子笹川遺跡第510号井戸¹³⁾などから出土しており、散見される程度である。また、樹種については、河和田城跡第28号井戸出土のものがマツ属、富山県で出土した摺臼はいずれもブナ属に同定されている。

三輪茂雄氏¹⁴⁾によれば、臼は近世中期まで胴が内湾するくびれ臼と堅杵を使用していたとする見解がある。当遺跡出土の臼は、16世紀代に比定され、三輪氏の見解とも年代的に符号する。形態的な特徴などは今後の課題であり、出土例の増加を待ちたい。

5 当遺跡における中世の集落変遷

中世の集落変遷について、遺構の重複関係と出土遺物から4期に分けて概観する。

I期

区画が成立する以前の段階である。当期には、第629号土坑、第3～7号地下式坑が該当する。いずれも調査区の西部に集中して位置し、特に地下式坑は主軸方向をほぼ一致させて、列状に配置されている。当該期の大半の遺構は、II期以降の第2号段切状遺構などの造成によって削平された可能性がある。

遺物は、第629号土坑から古瀬戸後期の平碗が出土している。時期は、15世紀前半と考えられる。

II期

第52号溝が単独で囲繞して第1号区画が成立する段階である。当該期には、第52号溝のほか、第41・43号掘立柱建物、第15・86・97号井戸、第57・124・132号溝が該当する。第41・43号掘立柱建物は東部に、第15号井戸は南西部に、第97号井戸は南東部に配置される。第41・43号掘立柱建物は、いずれも桁行方向をN-87°-W



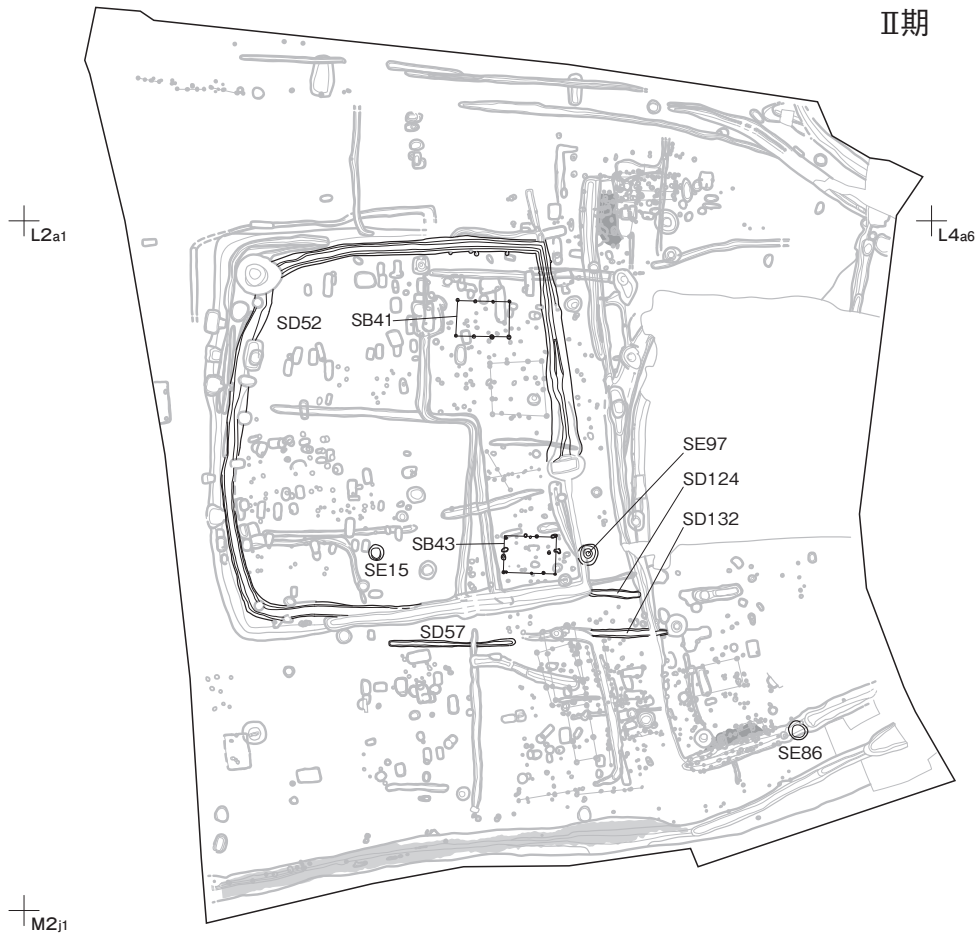
Ⅰ期



0 8m



Ⅱ期

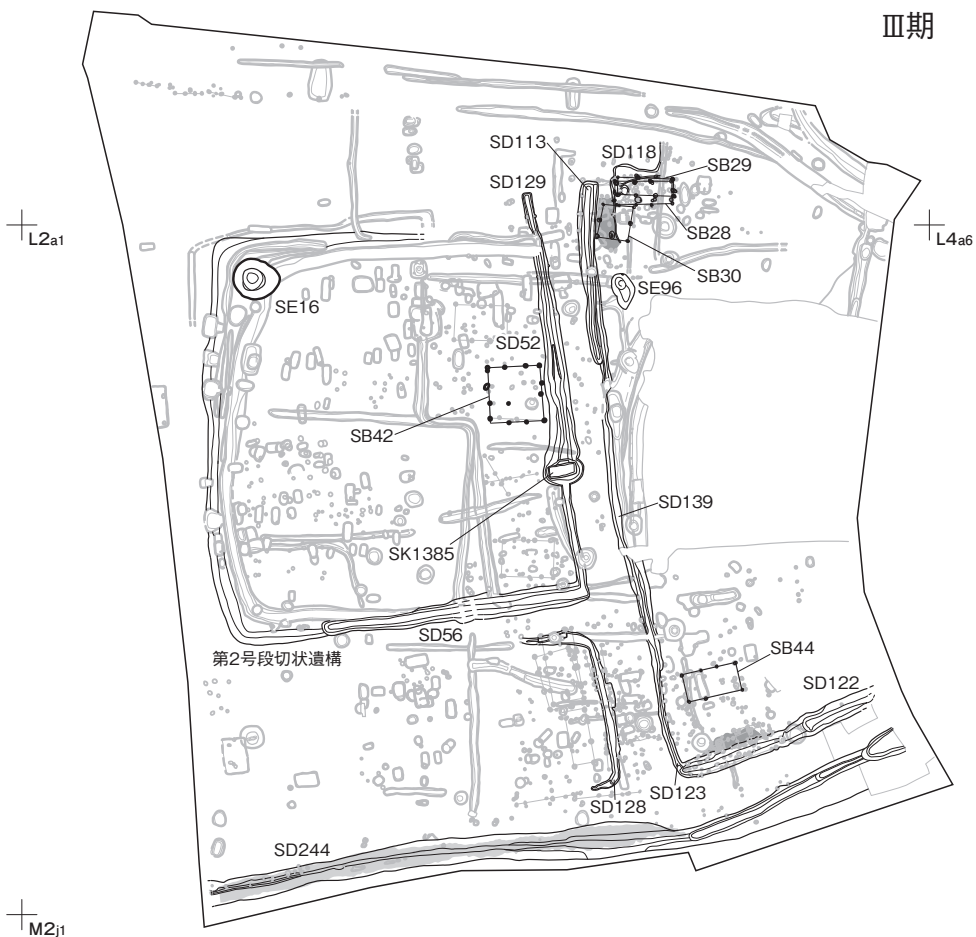


0 8m

第 213 図 中世の島名本田遺跡変遷図(1)



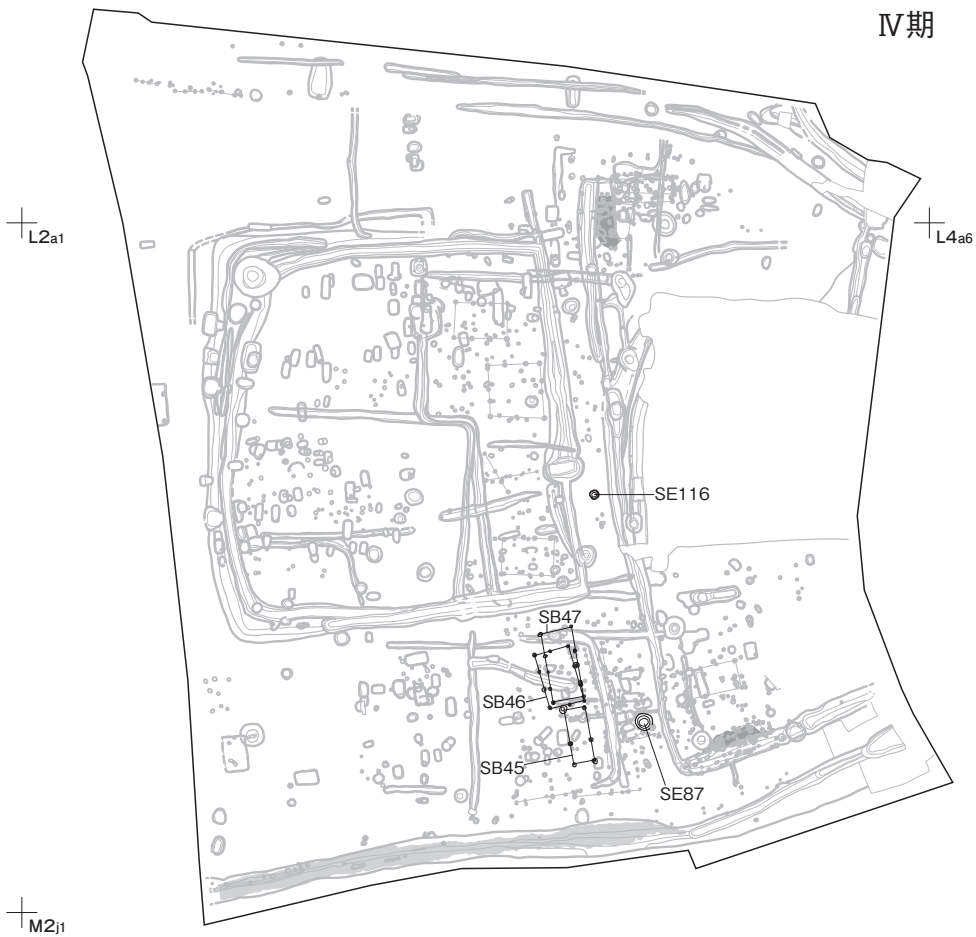
Ⅲ期



0 8m



Ⅳ期



0 8m

第 214 図 中世の島名本田遺跡変遷図(2)

とする東西棟で、主要な建物である。第57・124・132号溝については、第1号区画南部から南東部に位置し、第52号溝南部の東西軸と同一の軸方向で、通路状部分となっている。

第86号井戸は、調査区南東部の区画外に構築されている。

遺物は、土師質土器の2期のものが該当している。時期は、15世紀後半と考えられる。

Ⅲ期

第1号区画が第56号溝などでⅡ期の区画より少し大きく囲繞され、第2・3号区画も形成され、区画群が成立する段階である。第1号区画の第2号段切状遺構、第56号溝、第129号溝、第52号溝東部の南北軸、第42号掘立柱建物、第16号井戸、第1385号土坑、第2号区画の第113・118・122・123・139号溝、第28～30・44号掘立柱建物、第96号井戸、第3号区画の第128号溝、区画外の第244号溝が該当する。

第1号区画は、第2号段切状遺構、第56号溝、第1385号土坑と第52号溝南東部の南北軸、第129号溝で囲繞される。第42号掘立柱建物は区画東部に、第16号井戸は区画の北西隅部に構築されている。

第2号区画は、第118号溝、第113号溝、第139号溝、第123号溝、第122号溝で囲繞されている。第28～30号掘立柱建物は、区画の北西隅で建替えられている。第44号掘立柱建物は、区画の南西隅に配置されている。第96号井戸は、第28～30号掘立柱建物の南側に近接して構築されている。

第3号区画は、第128号溝で囲繞されているが、区画内の遺構は特定することができなかった。

区画外の第244号溝は、区画群の南端部に構築され、外縁部との境界と考えられる。

遺物は、土師質土器の2期と3a期のものが該当している。時期は、15世紀後半から16世紀前葉と考えられる。

Ⅳ期

区画が廃絶した段階である。第45～47号掘立柱建物、第87・116号井戸が該当する。第45～47号掘立柱建物は、調査区南部で建替えられている。第87号井戸は、第45～47号掘立柱建物の南東側に位置し、第116号井戸は、調査区のほぼ中央部に構築される。

遺物は、土師質土器の3b期のものが該当する。時期は、16世紀中葉と考えられる。

6 おわりに

ここまで、当遺跡における中世の集落変遷について、区画が成立する以前の段階、区画が成立する段階、区画群が成立する段階、区画が廃絶した段階の4期に分けられることを説明した。関東地方における中世集落遺跡の消長や構造について検討した永越信吾氏¹⁵⁾によれば、15世紀後半に成立する遺跡が比較的目立ち、この時期に集落の再編があったこと、集落には居館を伴う集落と居館を伴わない集落の二相があったことを指摘している。

当遺跡における中世の集落跡は、今回の調査区の北側にも広がり、また、隣接する島名熊の山遺跡の南西部にも及んでいる。まだ報告されていない周囲の調査区には、今回報告した区画よりも規模の大きい区画があり、そうした区画との関係、特に居館を伴う集落と評価できるかどうかが課題のひとつである。

今回の報告が、当遺跡における中世の集落跡を解明する一助になることを期して擱筆としたい。

註

- 1) 江原美奈子 内堀団 永井敦 天野早苗 『島名本田遺跡 島名・福田坪一体型土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告XXII』茨城県教育財団文化財調査報告第454集 令和3年1月
- 2) 広瀬季一郎 「県南のかわらけ」『茨城県考古学協会シンポジウム 茨城中世考古学の最前線～編年と基礎資料～』茨城県考古学協会 平成23年1月
- 3) 越田真太郎 「県内の在地土器」『茨城県考古学協会シンポジウム 茨城中世考古学の最前線～編年と基礎資料～』茨城県考古学協会 平成23年1月
- 4) 藤澤良祐 「瀬戸古窯跡群Ⅱ－古瀬戸後期様式の編年－」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要』X 瀬戸市歴史民俗資料館 平成3年3月
- 5) 藤澤良祐 「瀬戸・美濃大窯編年の再検討」『瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』第10輯 瀬戸市埋蔵文化財センター 平成14年3月
- 6) 赤羽一郎 中野晴久 「生産地における編年について」『シンポジウム「中世常滑焼をおって」資料集』平成6年1月
- 7) 小野正敏 「15～16世紀の染付碗、皿の分類と年代」『貿易陶磁研究』第2号 昭和57年8月

- 8) 間宮正光 米川暢敬 『河和田城跡(第26・28地点) 共同住宅建築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』 水戸市埋蔵文化財調査報告第71集 平成28年6月
- 9) 伊東隆夫 山田昌久編 『木の考古学 出土木製品用材データベース』 海青社 平成24年10月
- 10) 山本正敏 島田美佐子 横山和美 中川道子 越前慎子 『梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告(遺物編) 東海北陸自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘報告Ⅱ』 富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告第7集 平成8年3月
- 11) 森隆 島田美佐子 金三津道子 新宅茜 中野由紀子 『江尻遺跡・養島遺跡発掘調査報告 能越自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査Ⅳ』 富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告第17集 平成15年3月
- 12) 酒井重洋 森隆 武田健次郎 青山晃 青山裕子 内田亜紀子 野口雅美 『中名Ⅰ・Ⅴ遺跡発掘調査報告 公害防除特別土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘報告』 富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告第18集 平成15年3月
- 13) 宮田進一 伊藤潔 岡本淳一郎 島田美佐子 武田健次郎 中村亮仁 新宅茜 高柳由紀子 細辻真澄 町田賢一 町田尚美 石川日出志 『下老子笹川遺跡発掘調査報告 能越自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査Ⅴ』 富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告第31集 平成18年3月
- 14) 三輪茂雄 『白(うす)』 ものと人間の文化史25 法政大学出版局 昭和53年3月
- 15) 永越信吾 「関東における中世集落の再編 - 15世紀代の画期を中心として -」 『総研大文化科学研究』 第10号 総合研究大学院大学 平成26年3月

写 真 图 版



平成28年度調査区全景（南西から）



平成28年度調査区北部全景（東から）



平成30年度調査区全景（北から）



平成30年度調査区南部全景（南から）



第551号土坑 遺物出土状況



第551号土坑



第109号竖穴建物跡



第111号竖穴建物跡 遺物出土状況(1)



第111号竖穴建物跡 遺物出土状況(2)



第111号竖穴建物跡



第11号井戸跡 遺物出土状況



第102号井戸跡



第1号区画(1)



第1号区画(2)



第2号段切状遺構 土層断面



第49号溝跡



第49・58号溝跡



第52号溝跡 遺物出土状況(1)



第52号溝跡 遺物出土状況(2)



第52号溝跡(1)



第52号沟迹(2)



第52号沟迹(3)



第52号沟迹(4)



第52号沟迹、第1385号土坑



第52·56号沟迹 土层断面



第52·56号沟迹



第52·125号沟迹



第53·54号沟迹

PL6



第55号沟迹



第56号沟迹(1)



第56号沟迹(2)



第56号沟迹(3)



第57号沟迹(1)



第57号沟迹(2)



第59号沟迹(1)



第59号沟迹(2)



第59号溝跡(3)



第60号溝跡



第113号溝跡 土層断面



第113号溝跡 遺物出土状況(1)



第113号溝跡 遺物出土状況(2)



第113号溝跡 遺物出土状況(3)



第113号溝跡(1)



第113号溝跡(2)



第119・134号溝跡



第120号溝跡 遺物出土状況



第120号溝跡(1)



第120号溝跡(2)



第121号溝跡



第122号溝跡 遺物出土状況



第122号溝跡(1)



第122号溝跡(2)



第122号溝跡(3)



第123号溝跡 遺物出土状況



第123号溝跡(1)



第123号溝跡(2)



第126号溝跡



第127・128号溝跡(1)



第127・128号溝跡(2)



第128号溝跡



第132号溝跡 遺物出土状況



第132号溝跡



第55・141号溝跡



第141号溝跡



第235・283・284号溝跡(1)



第235・283・284号溝跡(2)



第244号溝跡 土層断面



第244号溝跡(1)



第244号溝跡(2)



第244号溝跡、第11～13号道路跡 土層断面(1)



第244号溝跡、第11～13号道路跡 土層断面(2)



第244号溝跡、第11～13号道路跡



第11～13号道路跡



第271号溝跡



第280～282号溝跡



第44号掘立柱建物跡 遺物出土状況



第5号柱穴列 遺物出土状況



第6号柱穴列(1)



第6号柱穴列(2)



第15号柱穴列



第26号ピット群(1)



第26号ピット群(2)



第28号掘立柱建物跡、第26号ピット群 P106



第29号ピット群



第51号ピット群



第1号方形豎穴遺構



第6号方形豎穴遺構、第88号井戸跡



第7号方形豎穴遺構、第93号井戸跡



第8号方形豎穴遺構



第9号方形豎穴遺構



第9号方形豎穴遺構、第1178~1180号土坑



第14号方形豎穴遺構



第10号井戸跡



第12号井戸跡



第13号井戸跡



第14号井戸跡



第15号井戸跡 遺物出土状況



第16号井戸跡



第17号井戸跡



第18号井戸跡



第19号井戸跡



第84号井戸跡



第85号井戸跡



第86号井戸跡



第87号井戸跡 遺物出土状況



第87・88号井戸跡



第89号井戸跡



第92号井戸跡



第95号井戸跡



第96号井戸跡 土層断面



第96号井戸跡



第97号井戸跡 遺物出土状況



第98号井戸跡



第99号井戸跡



第100号井戸跡 遺物出土状況



第100号井戸跡



第104号井戸跡



第108号井戸跡



第109号井戸跡、第6号柱穴列 遺物出土状況



第109号井戸跡



第116号井戸跡 遺物出土状況



第208号井戸跡



第209号井戸跡



第218号井戸跡



第222号井戸跡 遺物出土状況(1)



第222号井戸跡 遺物出土状況(2)



第491号土坑



第503号土坑



第505・531・532・534~536号土坑



第517号土坑



第558・565号土坑



第559・566号土坑



第570号土坑



第579号土坑



第594号土坑



第602号土坑



第604号土坑



第612~614号土坑



第617号土坑



第618~620号土坑



第629号土坑 遺物出土狀況



第636号土坑



第638号土坑



第664号土坑 遺物出土狀況



第1110号土坑



第1115号土坑



第1120号土坑



第1128・1129号土坑



第1135号土坑



第1150号土坑 遺物出土状況(1)



第1150号土坑 遺物出土状況(2)



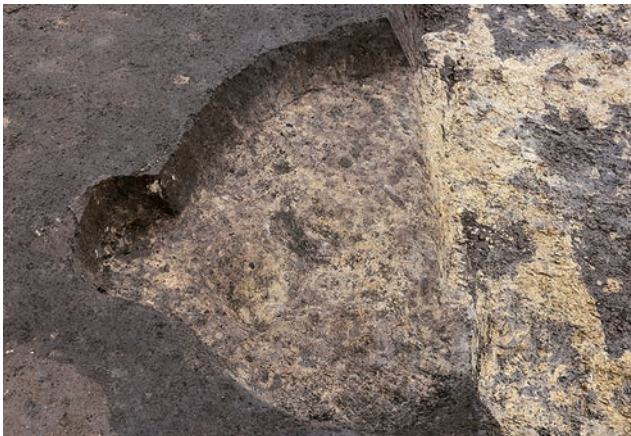
第1152号土坑



第1153号土坑



第1159号土坑



第1160号土坑、第28号ピット群 P20



第1161号土坑 遺物出土状況



第1161号土坑



第1171号土坑



第1176 · 1177号土坑



第1194号土坑



第1205号土坑



第1207 · 1208号土坑



第1216 · 1217号土坑(1)



第1216 · 1217号土坑(2)



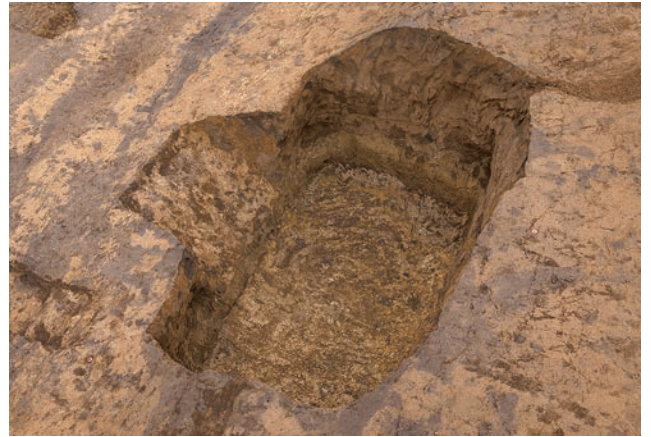
第1217号土坑 土层断面



第1385号土坑



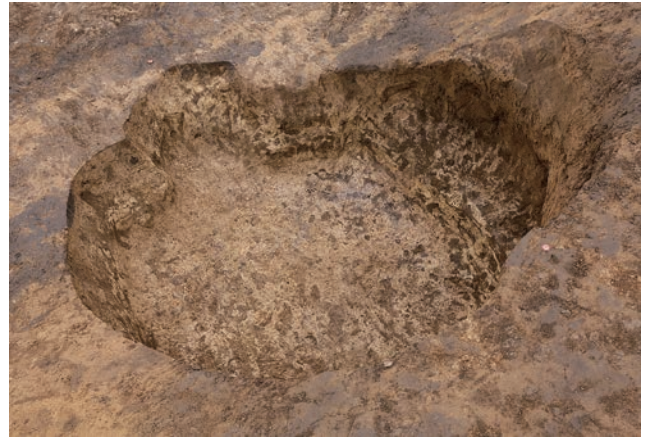
第2929号土坑



第3号地下式坑



第4号地下式坑



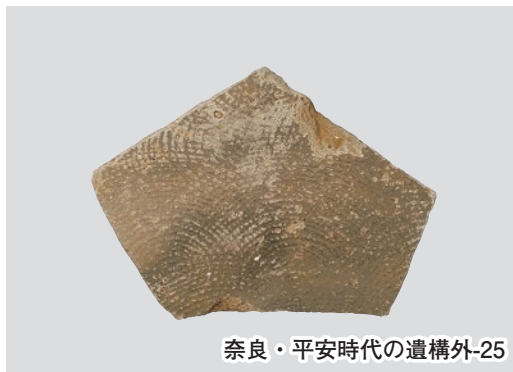
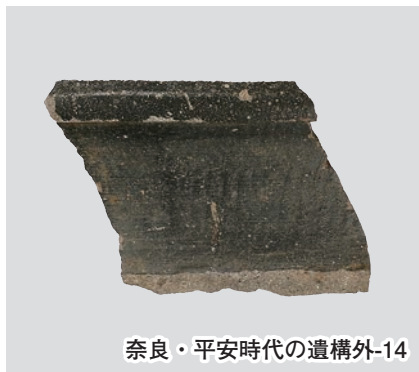
第5号地下式坑



第6号地下式坑



第7号地下式坑





第2号段切状遺構-1



第2号段切状遺構-4



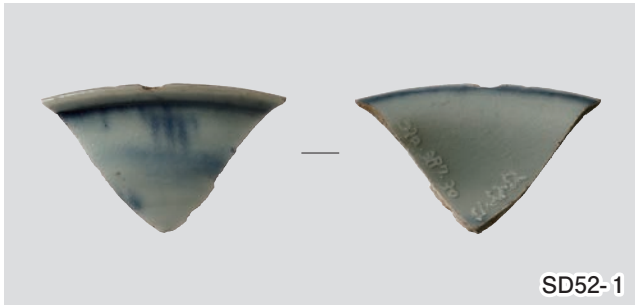
第2号段切状遺構-5



第2号段切状遺構-10



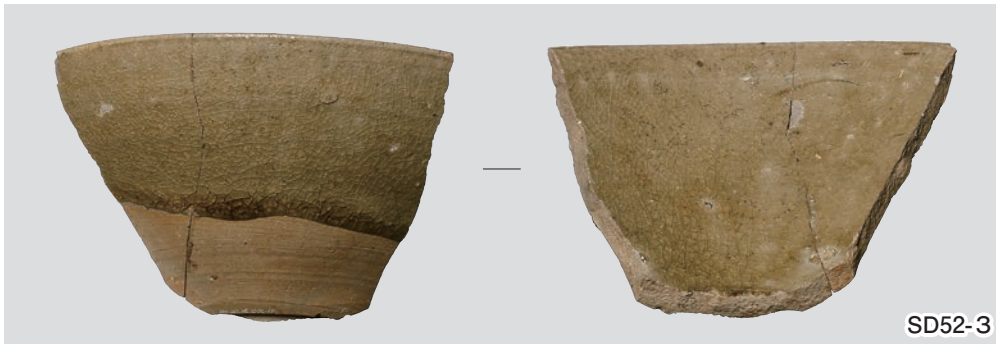
第2号段切状遺構-12



SD52-1



SD52-2



SD52-3



SD52-4



SD52-6



SD52-8



SD52-9



SD52-12



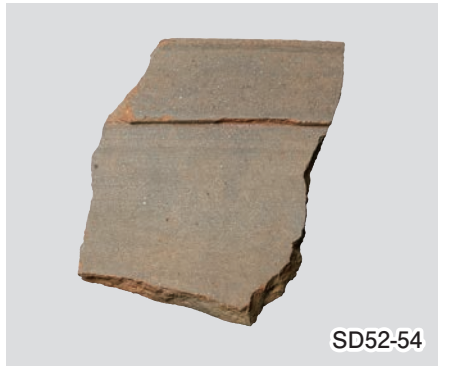
SD52-13



SD52-14

第2号段切状遺構、第52号溝跡出土土器、石器





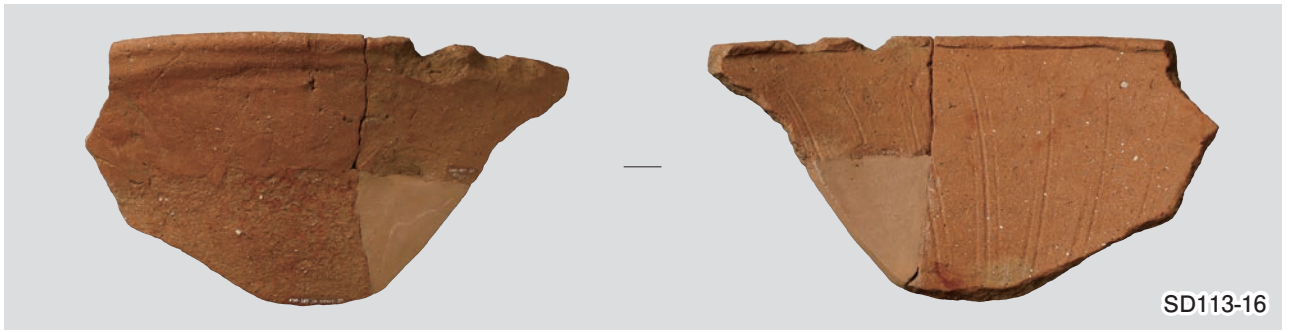
第52号溝跡出土土器、石器





第56·59号溝跡出土土器、石器





第113号溝跡出土土器





SD122-3



SD122-10



SD122-4



SD122-11



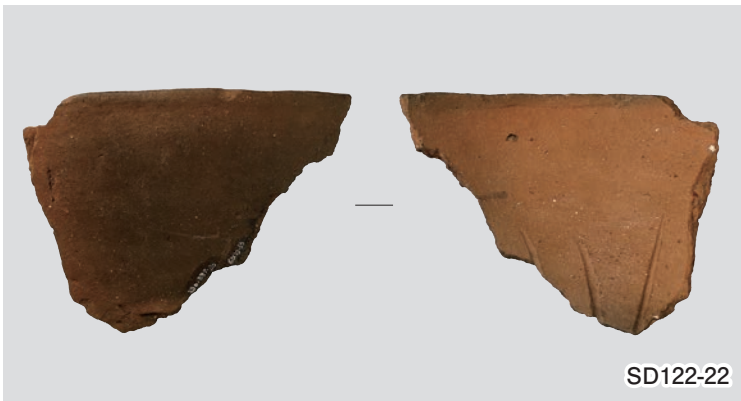
SD122-15



SD122-19



SD122-23



SD122-22



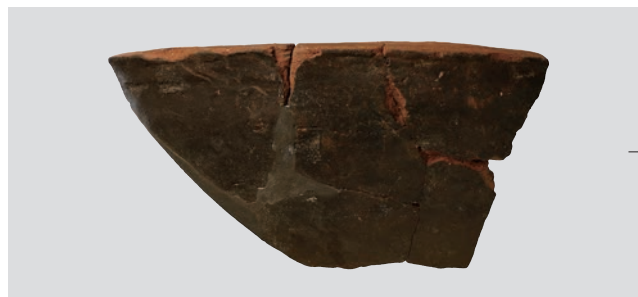
SD122-25



SD122-24



SD122-26





SD139-6



SD139-12



SD139-13



SD139-14



SD140-9



SD140-11



SD139-15



SD140-10



SD140-12



SD140-13



SD165-2



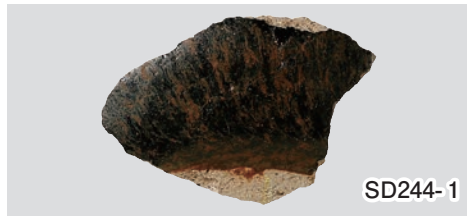
SD235-2



SD235-3



SD244-5



SD244-1



SD244-3



SD244-4



SD244-9



SD244-6



SD244-7



SD244-13



SD244-11



SD244-12



SD244-14



SD283-1



SF11-1



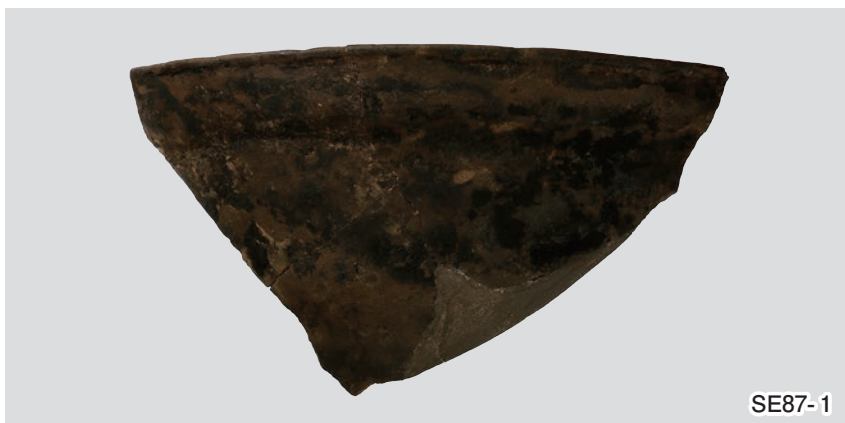
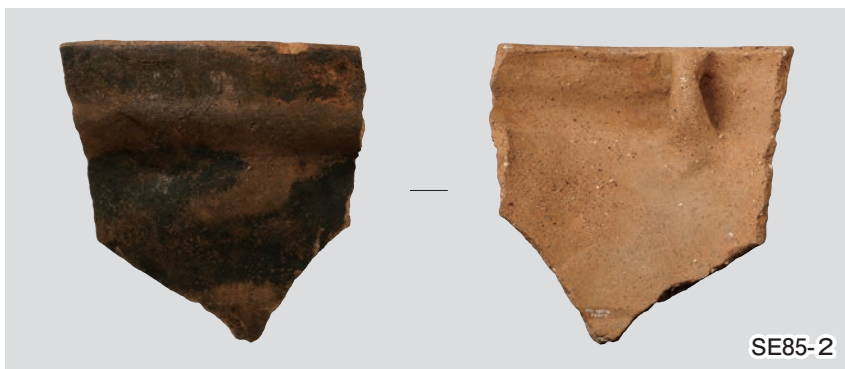
SF11-2



SF13-1

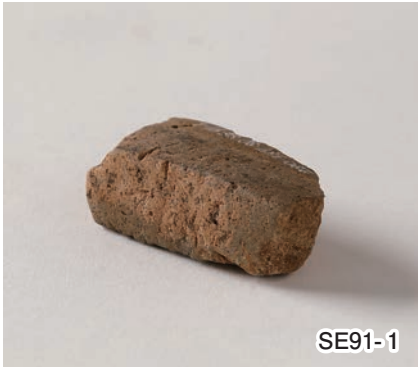


第41・44号掘立柱建物跡、第5・6号柱穴列、第7号方形竪穴遺構、第13・15・16号井戸跡出土土器、石器・石製品、木製品





SE89-2



SE91-1



SE96-1



SE96-2



SE96-7



SE96-8



SE96-12



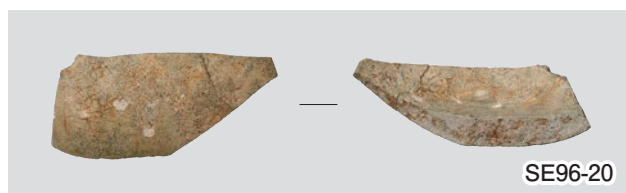
SE96-16



SE96-13



SE96-17





SE104-1



SE104-2



SE104-4



SE108-1



SE109-2



SE109-3



SE109-7



SE109-4



SE109-5



SE109-6



SE109-1



SE208-1



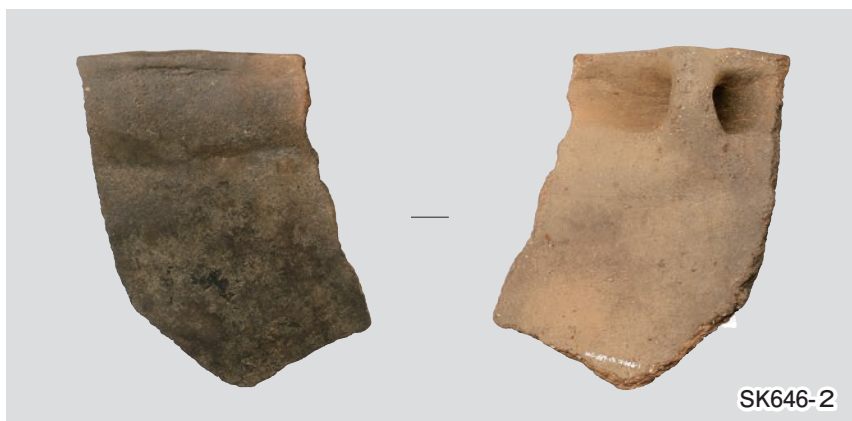
SE116-1

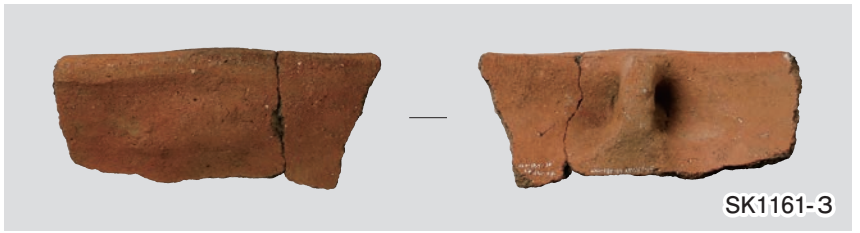


SE116-3

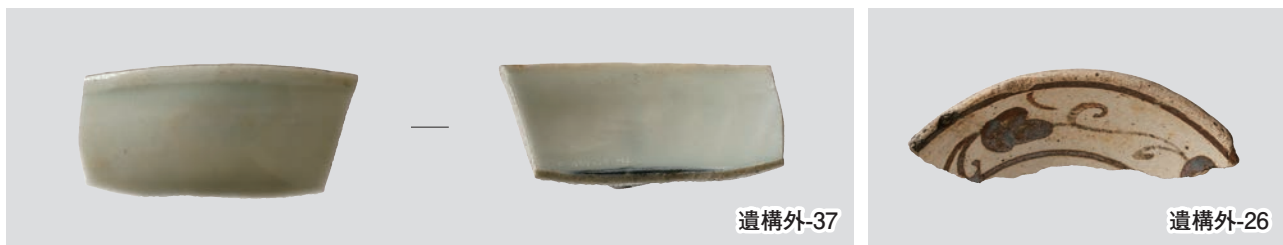


SE116-4





第1150 · 1161 · 1217 · 1385 · 2747 · 2928号土坑出土土器、石器



第3号地下式坑、中・近世の遺構外出土土器、石器、金属製品

抄 録

ふりがな	しまなほんでんいせき2							
書名	島名本田遺跡2							
副書名	島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書XXVII							
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告第468集							
著者名	江原美奈子 吹野富美夫							
編集機関	公益財団法人茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587							
発行日	2023(令和5)年3月17日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
島名本田遺跡	茨城県つくば市 島名字薬師台 1726の2ほか	08220 1 387	36度 3分 48秒	140度 3分 14秒	20 ～ 24m	20160601 ～ 20170331 20180401 ～ 20190331 20190401 ～ 20191130	8,793 m ²	島名・福田坪 一体型特定土 地区画整理事 業に伴う事前 調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
島名本田遺跡	集落跡	古墳	土坑	1基	土師器(坏)、須恵器(長頸瓶)		第52号溝跡 と第96号井 戸跡からは中 国磁器の染付 皿が、第116 号井戸跡から は白が出土し ている。	
		奈良・平安	竪穴建物跡 井戸跡 土坑	2棟 2基 5基	土師器(坏、甕)、須恵器(坏、 鉢、甕)、灰釉陶器(皿、長 頸瓶)			
		中・近世	段切状遺構 溝跡 道路跡 掘立柱建物跡 方形竪穴遺構 井戸跡 土坑 土坑墓 地下式坑 柱穴列 ピット群	1か所 55条 3条 10棟 6棟 39基 283基 1基 5基 10条 16か所	土師質土器(皿、播鉢、壺、 内耳鍋、甕、茶釜、香炉)、 瀬戸・美濃産陶器(平碗、天 目茶碗、緑釉皿、折縁深皿、 端反皿、播鉢)、常滑産陶器 (甕)、中国磁器(染付皿)、 石器・石製品(石臼、砥石、 温石、五輪塔、宝篋印塔)、 木器・木製品(鋏、臼、漆器 碗)、金属製品(釘、銭貨)			
要約	今回の調査区は当遺跡のほぼ中央部に当たり、遺構の主体になるのは、段切状遺構及び溝跡によって区画された中世の遺構群である。区画は、複数の区画が集合し、主軸方向と間隔を一定にして造成しており、計画性のある地割になっている。区画は、掘立柱建物跡、井戸跡、土坑などで構成され、4期の変遷を確認した。							

印刷仕様

編集	OS	Microsoft Windows 10 Pro
	編集	Adobe InDesign 2021
	図版作成	Adobe Illustrator 2021
	写真調整	Adobe Photoshop 2021
	Scanning	EPSON DS-G20000
使用Font	OpenType	リュウミンPro L-KL、太ゴB101 Pro Bold 中ゴシックBBB Pro Medium
写真	線数	カラー210線以上、モノクロ175線以上
印刷		印刷所へは、Adobe InDesign 2021 でデータ入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第468集

つくば市

島名本田遺跡 2

島名・福田坪一体型特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書XXII

令和5（2023）年3月17日 発行

発行 公益財団法人茨城県教育財団
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL 029-225-6587
H P <https://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 富士オフセット印刷株式会社
〒310-0067 水戸市根本3丁目1534-2
TEL 029-231-4241

